

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン オオサカデンキツウシンダイガク 学校法人 大阪電気通信大学								
フリガナ大学の名称	オオサカデンキツウシンダイガク 大阪電気通信大学								
大学本部の位置	大阪府寝屋川市初町18番8号								
大学の目的	本学は、教育基本法および学校教育法に基づき専門の学術を教授研究し、知的ならびに道徳的な完成を期し、更に応用能力を展開させ得る人材の育成を目的とする。								
新設学部等の目的	健康情報学部は、人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基にした、医療科学・工学・スポーツ科学の知識と技術の実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門の人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	健康情報学部	年	人	年次人	人			年 月 第 年次	
	健康情報学科	4	165	3年次 2	664	学士 (工学)	工学関係 保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	令和7年4月 第1年次	大阪府四條畷市 清滝1130-70
	(医療工学専攻)					学士 (理学療法学)	保健衛生学関係 (看護学関係及び リハビリテーション関係を除く)	令和9年4月 第3年次	
	(理学療法学専攻)		(40)		(160)	学士 (スポーツ科学)	体育関係		
計		165	3年次 2	664					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<u>医療健康科学部（廃止）</u> 医療科学科 (△ 80) (3年次編入学定員) (△ 1) 理学療法学科 (△ 40) 健康スポーツ科学科 (△ 70) (3年次編入学定員) (△ 1) ※令和7年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和9年4月学生募集停止) 総合情報学部 デジタルゲーム学科 [定員増] (13) (令和7年4月) ゲーム&メディア学科 [定員増] (12) (令和7年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	健康情報学部 健康情報学科	講義	演習	実験・実習	計				
		125 科目	72 科目	70 科目	267 科目	124 単位			

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)
		教授	准教授	講師	助教	計		
新設	健康情報学部 健康情報学科	13 (14)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	24 (25)	0 (0)	68 (68)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	13 (13)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	23 (23)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (2)		
	小計（a～b）	13 (14)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	24 (25)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	13 (14)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	24 (25)		
	分	計	13 (14)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	24 (25)	0 (0)
既設	工学部 電気電子工学科	8 (8)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	88 (88)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	2 (2)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	5 (5)		
	小計（a～b）	8 (8)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	14 (14)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	8 (8)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	14 (14)		
	既設	工学部 電子機械工学科	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)		
小計（a～b）		7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）		7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)		
既設		工学部 機械工学科	5 (5)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	14 (14)	0 (0)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	11 (11)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	3 (3)		
	小計（a～b）	5 (5)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	14 (14)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	5 (5)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	14 (14)		
	分							

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人

工学部 基礎理工学科	8 (9)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (17)	0 (0)	102 (102)	大学設置基準別 表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 7 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (13)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)			
小計（a～b）	8 (9)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (17)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	8 (9)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	16 (17)			
建築・デザイン学部 建築・デザイン学科	9 (10)	6 (5)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	73 (73)	大学設置基準別 表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 12 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (10)	6 (5)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	9 (10)	6 (5)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	9 (10)	6 (5)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			
情報通信工学部 情報工学科	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	80 (80)	大学設置基準別 表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 9 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
情報通信工学部 通信工学科	4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	95 (95)	大学設置基準別 表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			

総合情報学部 デジタルゲーム学科						10 (10)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	94 (94)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 9 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						9 (9)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	15 (15)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）						1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
小計（a～b）						10 (10)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						10 (10)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			
総合情報学部 ゲーム＆メディア学科						8 (8)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	86 (86)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 8 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						8 (8)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	12 (12)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）						8 (8)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	12 (12)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						8 (8)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	12 (12)			
総合情報学部 情報学科						8 (8)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	72 (72)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 7 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）						1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
小計（a～b）						8 (8)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	12 (12)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）						8 (8)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	12 (12)			
計						75 (77)	45 (44)	15 (15)	0 (0)	135 (136)	0 (0)	255 (255)	
合 計						88 (91)	51 (50)	20 (20)	0 (0)	159 (161)	0 (0)	288 (288)	
職 種						専 属			そ の 他		計		
事 務 職 員						82 (82)			人 44 (44)		人 126 (126)		
技 術 職 員						0 (0)			20 (20)		20 (20)		
図 書 館 職 員						1 (1)			0 (0)		1 (1)		
そ の 他 の 職 員						0 (0)			0 (0)		0 (0)		
指 導 補 助 者						0 (0)			0 (0)		0 (0)		
計						83 (83)			64 (64)		147 (147)		

校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計					
	校 舎 敷 地		291,332.49㎡		0㎡		0㎡		291,332.49㎡					
	そ の 他		0㎡		0㎡		0㎡		0㎡					
	合 計		291,332.49㎡		0㎡		0㎡		291,332.49㎡					
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計					
			74,657.02㎡ (74,657.02㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		74,657.02㎡ (74,657.02㎡)					
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		240室		教 員 研 究 室		24室		大学全体			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕冊		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	図書・学術雑誌 は図書館に登録 がある資料に限 る 大学等全体での 数		
		健康情報学部		69,794 [13,966] (69,794 [13,966])		212 [10] (212 [10])		1,422 [1,089] (1,422 [1,089])		605 [598] (605 [598])			8,124 (8,124)	16 (16)
		計		69,794 [13,966] (69,794 [13,966])		212 [10] (212 [10])		1,422 [1,089] (1,422 [1,089])		605 [598] (605 [598])			8,124 (8,124)	16 (16)
		スポーツ施設等		スポーツ施設 3,343.1㎡		講堂 0㎡		厚生補導施設 89,964.81㎡					大学全体	
経費 の見 積り 及び 維持 方法 の概 要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
		教員1人当り研究費等		588 千円	588 千円	588 千円	588 千円	— 千円	— 千円					
		共同研究費等		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	— 千円	— 千円					
		図 書 購 入 費	2,311 千円	2,311 千円	2,311 千円	2,311 千円	2,311 千円	— 千円	— 千円					
	設 備 購 入 費	2,624 千円	2,624 千円	2,624 千円	2,624 千円	2,624 千円	2,624 千円	— 千円	— 千円					
		学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次						
		1,652 千円	1,602 千円	1,602 千円	1,602 千円	— 千円	— 千円							
		1,782 千円	1,732 千円	1,732 千円	1,732 千円	— 千円	— 千円							
	学生納付金以外の維持方法の概要	1,432 千円	1,382 千円	1,382 千円	1,382 千円	— 千円	— 千円							
		補助金、付随事業・収益事業収入、雑収入												

既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称	大阪電気通信大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度		所 在 地
		年	人	年次人	人		倍			
	工学部								大阪府寝屋川市 初町18番8号	令和6年度入学定員増 (26人、基礎理工学科)
	電気電子工学課	4	80	—	320	学 士 (工 学)	1.16	昭和36年度		
	電子機械工学科	4	80	—	320	学 士 (工 学)	1.24	昭和40年度		
	機械工学科	4	90	—	360	学 士 (工 学)	1.15	昭和50年度		
	基礎理工学科	4	86	—	266	学 士 (工 学)	1.13	平成19年度		
	環境科学科	4	—	—	270	学 士 (工 学)	—	平成23年度		
	建築学科	4	—	—	240	学 士 (工 学)	—	平成30年度	令和6年より 学生募集停止（環境科学科、建築学科）	
	建築・デザイン学部									大阪府寝屋川市 初町18番8号
	建築・デザイン学科	4	150	—	150	学 士 (工 学)	1.17	令和6年度		
	情報通信工学部									大阪府寝屋川市 初町18番8号
	情報工学科	4	160	—	640	学 士 (情報工学)	1.14	平成17年度		
	通信工学科	4	80	—	320	学 士 (工 学)	1.22	平成17年度		
	医療健康科学部								大阪府四條畷市 清滝1130-70	令和6年度編入学定員減 (4人、医療科学科、健康スポーツ科学科)
	医療科学科	4	80	第3年次Ⅰ	326	学 士 (工 学)	1.12	平成16年度		
	理学療法学科	4	40	—	160	学 士 (理学療法学)	1.1	平成18年度		
	健康スポーツ科学科	4	70	第3年次Ⅰ	286	学 士 (健康科学)	0.96	平成20年度		
	総合情報学部								大阪府四條畷市 清滝1130-70	
	デジタルゲーム学科	4	140	第3年次Ⅰ	566	学 士 (情報学)	1.11	平成30年度		
	ゲーム&メディア学科	4	110	—	440	学 士 (情報学)	1.17	平成30年度	令和6年度編入学定員減 (4人、デジタルゲーム学科)	
	情報学科	4	90	—	360	学 士 (情報学)	1.17	平成20年度		

工学研究科 博士後期課程 工学専攻	3	12	—	36	博 士 (工 学)	0.06	令和 2年度	大阪府寝屋川市 初町18番8号
工学研究科 博士前期課程 工学専攻	2	70	—	140	修 士 (工 学)	0.79	令和 2年度	大阪府寝屋川市 初町18番8号
医療福祉工学研究科 博士後期課程 医療福祉工学専攻	3	5	—	15	博 士 (工 学)	0.2	平成 19年度	大阪府四條畷市 清滝1130-70
医療福祉工学研究科 博士前期課程 医療福祉工学専攻	2	10	—	20	修 士 (工 学)	1.2	平成 17年度	大阪府四條畷市 清滝1130-70
総合情報学研究科 博士後期課程 総合情報学専攻	3	5	—	15	博 士 (情報学)	0.27	令和 2年度	大阪府四條畷市 清滝1130-70
総合情報学研究科 博士前期課程 総合情報学専攻	2	30	—	60	修 士 (情報学)	0.53	令和 2年度	大阪府四條畷市 清滝1130-70
附属施設の概要	該当なし							

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人大阪電気通信大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大阪電気通信大学				大阪電気通信大学				
工 学 部				工 学 部				
電気電子工学科	80	-	320	電気電子工学科	80	-	320	
電子機械工学科	80	-	320	電子機械工学科	80	-	320	
機械工学科	90	-	360	機械工学科	90	-	360	
基礎理工学科	86	-	344	基礎理工学科	86	-	344	
建築・デザイン学部				建築・デザイン学部				
建築・デザイン学科	150	-	600	建築・デザイン学科	150	-	600	
情報通信工学部				情報通信工学部				
情報工学科	160	-	640	情報工学科	160	-	640	
通信工学科	80	-	320	通信工学科	80	-	320	
医療健康科学部				健康情報学部				学部の設置（届出）
	3年次				3年次			
医療科学科	80	1	322	健康情報学科	165	2	664	
理学療法学科	40	-	160	（医療工学専攻）				
	3年次			（理学療法専攻）	(40)		(160)	
健康スポーツ科学科	70	1	282	（スポーツ科学専攻）				
総合情報学部				総合情報学部				
	3年次				3年次			
デジタルゲーム学科	140	1	562	デジタルゲーム学科	153	1	614	定員変更(13)
ゲーム&メディア学科	110	-	440	ゲーム&メディア学科	122	-	488	定員変更(12)
情報学科	90	-	360	情報学科	90	-	360	
計	1256	3	5030	計	1256	3	5030	
大阪電気通信大学大学院				大阪電気通信大学大学院				
工学研究科				工学研究科				
工学専攻（M）	70	-	140	工学専攻（M）	70	-	140	
工学専攻（D）	12	-	36	工学専攻（D）	12	-	36	
医療福祉工学研究科				医療福祉工学研究科				
医療福祉工学専攻（M）	10	-	20	医療福祉工学専攻（M）	10	-	20	
医療福祉工学専攻（D）	5	-	15	医療福祉工学専攻（D）	5	-	15	
総合情報学研究科				総合情報学研究科				
総合情報学専攻（M）	30	-	60	総合情報学専攻（M）	30	-	60	
総合情報学専攻（D）	5	-	15	総合情報学専攻（D）	5	-	15	
計	132	-	286	計	132	-	286	

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届 出 時 に お け る 状 況						新 設 学 部 等 の 学 年 進 行 終 了 時 に お け る 状 況						
学部等の名称	授与する学位等		異 動 先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異 動 元	基幹教員		
	学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授		学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授	
						健康情報学部 健康情報学科	学士 (工学) 学士 (理学療法 学) 学士 (スポーツ 科学)	工学関係 保健衛生学 関係（リハ ビリテー ション関 係） 保健衛生学 関係（看護 学関係及び リハビリ テーショ ン関係を 除く。） 体育関係	医療健康科学部医療科学科	8	4	
									医療健康科学部理学療法学科	9	5	
									医療健康科学部健康スポーツ科学科	6	3	
									工学部基礎理工学科	1	1	
									計		24	13
工学部 電気電子工学科	学士 (工学)	工学関係	工学部電気電子工学科	11	5	工学部 電気電子工学科	学士 (工学)	工学関係	工学部電気電子工学科	11	5	
			退職	3	3				工学部基礎理工学科	1	1	
									新規採用	2	2	
			計	14	8				計	14	8	
工学部 電子機械工学科	学士 (工学)	工学関係	工学部電子機械工学科	11	7	工学部 電子機械工学科	学士 (工学)	工学関係	工学部電子機械工学科	11	7	
			計	11	7				計	11	7	
			工学部 機械工学科	学士 (工学)	工学関係				工学部機械工学科	14	5	工学部 機械工学科
退職	1	1										
計	15	6				計	14	5				
工学部 基礎理工学科	学士 (工学)	工学関係				工学部基礎理工学科	16	8	工学部 基礎理工学科	学士 (工学)	工学関係	
			健康情報学部健康情報学科	1	1	新規採用	3	1				
			工学部電気電子工学科	1	1							
			退職	1	1							
			計	19	11	計	19	9				
建築・デザイン学部 建築・デザイン学科	学士 (工学)	工学関係	建築・デザイン学部建築・デザイン学科	13	7	建築・デザイン学部 建築・デザイン学科	学士 (工学)	工学関係	建築・デザイン学部建築・デザイン学科	13	7	
			退職	3	3				新規採用	3	2	
			計	16	10				計	16	9	
			情報通信工学部 情報工学科	学士 (情報工 学)	工学関係				情報通信工学部情報工学科	13	7	情報通信工学部 情報工学科
退職	2	1				新規採用	2	1				
計	15	8				計	15	8				
情報通信工学部 通信工学科	学士 (工学)	工学関係				情報通信工学部通信工学科	8	3	情報通信工学部 通信工学科	学士 (工学)	工学関係	
			退職	1	1	新規採用	1	1				
			計	9	4	計	9	4				

医療健康科学部 医療科学科	学士 (工学)	工学関係	健康情報学部健康情報学科	8	4						
		社会学・社会福祉学関係	その他	1	0						
		保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	退職	2	2						
		体育関係									
		計		11	6						
医療健康科学部 理学療法学科	学士 (理学療法学)	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	健康情報学部健康情報学科	9	5						
		工学関係	その他	1	0						
		社会学・社会福祉学関係									
		計		10	5						
医療健康科学部 健康スポーツ科学科	学士 (健康科学)	体育関係	医療健康科学部健康スポーツ科学科	6	3						
		工学関係	その他	2	0						
		保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	退職	2	1						
		計		10	4						
総合情報学部 デジタルゲーム学科	学士 (情報学)	工学関係	総合情報学部デジタルゲーム学科	12	7	総合情報学部 デジタルゲーム学科	学士 (情報学)	工学関係	総合情報学部デジタルゲーム学科	12	7
			退職	3	2				新規採用	4	3
			計	15	9				計	16	10
総合情報学部 ゲーム&メディア学科	学士 (情報学)	工学関係	総合情報学部ゲーム&メディア学科	10	6	総合情報学部 ゲーム&メディア学科	学士 (情報学)	工学関係	総合情報学部ゲーム&メディア学科	10	6
			退職	1	1				新規採用	2	2
			計	11	7				計	12	8
総合情報学部 情報学科	学士 (情報学)	工学関係	総合情報学部情報学科	10	6	総合情報学部 情報学科	学士 (情報学)	工学関係	総合情報学部情報学科	10	6
			退職	1	1				新規採用	2	2
			計	11	7				計	12	8

基 礎 と な る 学 部 等 の 改 編 状 況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 き の 区 分
昭和36年4月	工学部電子工学科 設置	工学	設置認可（大学）
昭和37年4月	工学部通信工学科 設置	工学	設置認可（学科）
昭和40年4月	工学部電子物性工学科 設置	工学	設置認可（学科）
	工学部電子機械工学科 設置	工学	
	工学部経営工学科 設置	工学	
昭和49年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
昭和50年4月	工学部精密工学科 設置	工学	設置認可（学科）
	工学部応用電子工学科 設置	工学	
昭和55年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部精密工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	
昭和60年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部精密工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	
昭和62年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部精密工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	
平成2年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部精密工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	
平成3年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部精密工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	

平成4年4月	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
平成6年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子物性工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部経営工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部精密工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部応用電子工学科のカリキュラム変更	工学	
平成7年4月	工学部経営工学科 学生募集停止	工学	学生募集停止（学科）
	情報工学部情報工学科 設置	工学	設置認可（学部）
平成8年4月	工学部精密工学科 → 知能機械工学科	工学	名称変更（学科）
平成9年4月	工学部電子物性工学科 → 電子材料工学科	工学	名称変更（学科）
	工学部応用電子工学科 → 光システム工学科	工学	名称変更（学科）
平成11年4月	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	情報工学部情報工学科のカリキュラム変更	工学	
平成12年4月	情報工学部情報工学科 → 総合情報学部情報工学科	工学	名称変更（学部）
	総合情報学部メディア情報文化学科 設置	工学，美術	設置認可（学科）
	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子材料工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部知能機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部光システム工学科のカリキュラム変更	工学	
平成13年4月	工学部医療福祉工学科 設置	工学，社会学・社会福祉学，保健衛生学（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。），体育	設置認可（学科）
平成14年4月	工学部知能機械工学科 → 機械工学科	工学	名称変更（学科）
平成15年4月	総合情報学部デジタルゲーム学科 設置	工学	設置認可（学科）
平成16年4月	工学部医療福祉工学科 廃止	工学，社会学・社会福祉学，保健衛生学（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。），体育	廃止（学科）
	医療福祉工学部医療福祉工学科 設置	工学，社会学・社会福祉学，保健衛生学（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。），体育	設置届出（学部）
平成17年4月	工学部通信工学科 学生募集停止	工学	学生募集停止（学科）
	工学部光システム工学科 学生募集停止	工学	学生募集停止（学科）
	総合情報学部情報工学科 学生募集停止	工学	学生募集停止（学科）
	情報通信工学部通信工学科 設置	工学	設置届出（学部）
	情報通信工学部光システム工学科 設置	工学	設置届出（学部）
	情報通信工学部情報工学科 設置	工学	設置届出（学部）
	総合情報学部メディアコンピュータシステム学科 設置	工学	設置届出（学科）

平成18年4月	工学部電子材料工学科 → 応用化学科	工学	名称変更（学科）
	工学部環境技術学科 設置	工学	設置届出（学科）
	情報通信工学部光システム工学科 → 光・エレクトロニクス学科	工学	名称変更（学科）
	医療福祉工学部理学療法学科 設置	保健衛生学（リハビリテーション関係），工学，社会学・社会福祉学	設置届出（学科）
	総合情報学部メディア情報文化学科 → デジタルアート・アニメーション学科	工学，美術	名称変更（学科）
	工学部電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部情報工学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	医療福祉工学部医療福祉工学科のカリキュラム変更	工学，社会学・社会福祉学，保健衛生学（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。），体育	
	総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科のカリキュラム変更	工学	
	総合情報学部メディアコンピュータシステム学科のカリキュラム変更	工学	
平成19年4月	工学部基礎理工学科 設置	工学	設置届出（学科）
平成20年4月	情報通信工学部光・エレクトロニクス学科 学生募集停止	工学	学生募集停止（学科）
	医療福祉工学部健康スポーツ科学科 設置	体育，工学，保健衛生学（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）	設置届出（学科）
	医療福祉工学部医療福祉工学科のカリキュラム変更	工学，社会学・社会福祉学，保健衛生学（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。），体育	学則変更
	総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科のカリキュラム変更	工学	
	総合情報学部デジタルゲーム学科のカリキュラム変更	工学	
平成21年4月	工学部電子工学科 → 電気電子工学科	工学	名称変更（学科）
	工学部応用化学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部環境技術学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部基礎理工学科のカリキュラム変更	工学	
	総合情報学部メディアコンピュータシステム学科のカリキュラム変更	工学	
平成22年4月	医療福祉工学部理学療法学科のカリキュラム変更	保健衛生学（リハビリテーション関係），工学，社会学・社会福祉学	学則変更
平成23年4月	工学部環境技術学科 学生募集停止	工学	学生募集停止（学科）
	工学部応用化学科 学生募集停止	工学	学生募集停止（学科）
	工学部環境科学科 設置	工学	設置届出（学科）
	工学部電気電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部基礎理工学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部情報工学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科のカリキュラム変更	工学	
	総合情報学部メディアコンピュータシステム学科のカリキュラム変更	工学	

平成24年4月	医療福祉工学部医療福祉工学科のカリキュラム変更	工学，社会学・社会福祉学，保健衛生学（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。），体育	学則変更
	医療福祉工学部理学療法学科のカリキュラム変更	保健衛生学（リハビリテーション関係），工学，社会学・社会福祉学	
	医療福祉工学部健康スポーツ科学科のカリキュラム変更	体育，工学，保健衛生学（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）	
	総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科のカリキュラム変更	工学	
	総合情報学部デジタルゲーム学科のカリキュラム変更	工学	
平成25年4月	総合情報学部メディアコンピュータシステム学科 → 情報学科	工学	名称変更（学科）
平成27年4月	総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科 学生募集停止	工学，美術	学生募集停止（学科）
	工学部電気電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部基礎理工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部環境科学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部情報工学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
平成28年4月	医療福祉工学部医療福祉工学科のカリキュラム変更	工学，社会学・社会福祉学，保健衛生学（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。），体育	学則変更
	医療福祉工学部理学療法学科のカリキュラム変更	保健衛生学（リハビリテーション関係），工学，社会学・社会福祉学	
	医療福祉工学部健康スポーツ科学科のカリキュラム変更	体育，工学，保健衛生学（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）	
平成29年4月	総合情報学部情報学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
平成30年4月	総合情報学部デジタルゲーム学科 学生募集停止	工学	学生募集停止（学科）
	総合情報学部デジタルゲーム学科 設置	工学	設置届出（学科）
	総合情報学部ゲーム&メディア学科 設置	工学	設置届出（学科）
	工学部建築学科 設置	工学	設置届出（学科）
令和2年4月	医療福祉工学部 → 医療健康科学部 医療福祉工学科 → 医療科学科	工学，社会学・社会福祉学，保健衛生学（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。），体育	名称変更（学部・学科）
	工学部電気電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部基礎理工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部環境科学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部情報工学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	総合情報学部情報学科のカリキュラム変更	工学	

令和6年4月	工学部建築学科 学生募集停止	工学	学生募集停止（学科）
	工学部環境科学学科 学生募集停止	工学	学生募集停止（学科）
	建築・デザイン学部建築・デザイン学科 設置	工学	設置届出（学部）
	工学部電気電子工学科のカリキュラム変更	工学	学則変更
	工学部電子機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部機械工学科のカリキュラム変更	工学	
	工学部基礎理工学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部情報工学科のカリキュラム変更	工学	
	情報通信工学部通信工学科のカリキュラム変更	工学	
	総合情報学部デジタルゲーム学科のカリキュラム変更	工学	
	総合情報学部ゲーム&メディア学科のカリキュラム変更	工学	
	総合情報学部情報学科のカリキュラム変更	工学	
令和7年4月	医療健康科学部 学生募集停止	工学，社会学・社会福祉学，保健衛生学（リハビリテーション関係），保健衛生学（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。），体育	学生募集停止（学部）
	健康情報学部 設置	工学，保健衛生学（リハビリテーション関係），保健衛生学（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。），体育	設置届出（学部）

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(健康情報学部健康情報学科 医療工学専攻)																			
科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
共通科目	人文・社会・自然群	大学の学びリテラシー	総合教養	1前			2		○			2					7	オムニバス	
			総合ゼミナール	1前			2			○							1		
			社会生活と法	1前			2		○								1		
			OECU概論1	1前			1		○			1							
			エレクトロニクス入門	1前			2		○			1							
		視野を広げる	異文化の理解	1後			2		○									1	オムニバス
			政治学	1後			2		○									1	
			発達心理学	1後			2		○									1	
			現代社会と青年の心理	1前			2		○			1					1		
			アジアの言語と文化	1後			2		○								1		
			ヨーロッパの言語と文化	1後			2		○								1		
			大阪の文化と歴史	1後			2		○								3		
			高齢者社会と医療福祉	1後			2		○			1							
		社会とつながる	からだの科学	1前			2		○			1							オムニバス
			現代社会を考える	1前			2		○									5	
			歴史学の世界	1前			2		○									1	
			経済学の世界	1前			2		○									1	
			哲学の世界	1前			2		○									1	
			文学の世界	1後			2		○									1	
			日本国憲法	1後			2		○									1	
			教育制度論	1前			2		○									1	
		世界を知る	ジェンダー論	1後			2		○									1	オムニバス
			国際コミュニケーション	1前			2		○			1						1	
			平和学	1前			2		○									3	
			日本の近代史	1後			2		○									1	
			企業社会と労働	1後			2		○									1	
		日本を知る	文字の文化と歴史	1後			2		○			1							オムニバス
	英語		Core English 1	1前			1				○							3	
			Core English 2	1後			1				○							3	
		Core English 3	1前			1				○							2		
		Core English 4	1後			1				○							2		
		Practical English 1	2前			1				○							1		
		Practical English 2	2後			1				○							1		
	日本語	日本語1	2前			1				○	1								
		日本語2	2後			1				○	1								
		日本語3	3前			1				○	1								
		日本語4	3後			1				○	1								
	中国語	中国語1	2前			1				○							1		
		中国語2	2後			1				○							1		
		中国語3	3前			1				○							1		
		中国語4	3後			1				○							1		
	プロジェクトスキ	日本語活用	日本語上達法1	1前			2		○									2	
			日本語上達法2	2前			2		○									2	
			アカデミック・ライティング	1後			2		○				1	1					
		地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動	2後			2			○		1		1					
			グローバル研修	3前			2		○			1							
		スキルアップ	グローバル研修(英語)	3前			2		○									1	
			キャリアデザイン	3後			2		○			1		2					
		社会を知る	キャリア形成論	2通			2			○			1						
	インターンシップ		3通			2				○	3	1							
	情報基	情報	AI・データサイエンス入門	1前			2		○			2					4	オムニバス	
			コンピュータリテラシー1	1前	○	2			○		1								
			コンピュータリテラシー2	1後			2			○		1							
			プログラミング基礎演習	1後			2			○							1		
				小計(54科目)	—	—	2	91			—	10	2	3			27		
専門科目	学科共通科目	健康分野	基礎科学	健康科学基礎1	1前			2		○			1					オムニバス共同	
				健康科学基礎2	1前			2		○			2						
				健康情報学概論	1前			2			○		5	2	1				
				OECU概論2	1前			1		○		1							
			医学	医学概論	1前			2		○					1				
				医療関係法規	1後			1		○					1				
				公衆衛生学	1後			1		○									
				スポーツコンディショニング	2前			2			○		1						
				スポーツリハビリテーション	3前			2			○		1						
		身体機能	解剖生理学1	1前	○	2			○			2							
			解剖生理学2	1後	○	2			○			2							
			基礎運動学	1前			2		○			1							
			コミュニケーション論	1前			2		○								1		
		心身の健康	心理学	1後			2		○									1	
			ヘルスプロモーション論	1後			1		○			1							
			栄養学	2後			2		○			1							
			発育発達学	2後			2		○				1						
			社会福祉概論	3後			2		○			1							

専門科目	スポーツ科学関連科目	スポーツ方法	スポーツ方法実習（器械運動）	1前			1				○								
			スポーツ方法実習（ベースボール型球技）	1前			1			○							1		
			スポーツ方法実習（ネット型球技1）	1後			1				○						1		
			スポーツ方法実習（陸上競技）	1後			1				○						1		
			野外活動	2前			2				○	1					1		
			スポーツ方法実習（ネット型球技2）	2前			1				○						1		
			スポーツ方法実習（武道）	2前			1				○						1		
			スポーツ方法実習（eスポーツ）	2前			1				○						1		
			スポーツ方法実習（水泳・水中運動）	2後			1				○						1		
			体づくり運動と運動遊び	2後			1				○						1		
			スポーツ方法実習（ダンス）	2後			1				○						1		
			スポーツ方法実習（海洋スポーツ）	3前			1				○	1		1					
			スポーツ方法実習（バスケットボール）	3前			1				○		1						
			スポーツ方法実習（ニューススポーツ）	3前			1				○	1							
			スポーツ方法実習（冬季スポーツ）	3後			1				○	2	1	1			2		
			スポーツ方法実習（ゴール型球技）	3後			1				○						1		
			小計（213科目）				—	—	14	381		—		12	6	5		41	
合計（267科目）				—	—	16	472		—		13	6	5		67				
学位又は称号				学士（工学）				学位又は学科の分野				工学関係、保健衛生学関係（リハビリテーション関係）、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）、体育関係							
卒業要件条件及び履修方法												授業期間等							
・ 共通科目 必修科目2単位、 外国語群英語より1単位以上を含み、 選択科目を合わせて20単位から34単位まで ・ 専門科目 必修科目14単位、 プログラミング応用実習、データ処理プログラミング、生体計測装置学実習、医用機器安全管理学実習、 ヒト型ロボット製作実習、ヒト型ロボット制御実習、創造製作実習、生体医工学実習から6単位以上、 健康情報学概論、プレゼミ、ゼミナール、健康情報学演習、医療工学基礎実習、医療工学実習から 6単位以上を含み、 選択科目を合わせて90単位から104単位まで ・ 卒業要件単位 124単位以上 （履修科目の登録の上限：44単位（年間））												1 学年の学期区分				2 学期			
												1 学期の授業期間				13 週			
												1 時限の授業の標準時間				105 分			

教 育 課 程 等 の 概 要																				
(健康情報学部健康情報学科 理学療法専攻)																				
科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
共通科目	人文・社会・自然群	大学の学びリテラシー	総合教養	1前			2		○			2					7	オムニバス		
			総合ゼミナール	1前			2			○							1			
			社会生活と法	1前			2		○										1	
			OECU概論1	1前			1		○			1								
			エレクトロニクス入門	1前			2		○			1								
		視野を広げる	異文化の理解	1後			2		○									1	オムニバス	
			政治学	1後			2		○									1		
			発達心理学	1後			2		○									1		
			現代社会と青年の心理	1前			2		○								1			
			アジアの言語と文化	1後			2		○								1			
			ヨーロッパの言語と文化	1後			2		○								1			
			大阪の文化と歴史	1後			2		○								3			
			高齢者社会と医療福祉	1後			2		○			1								
		社会とつながる	からだの科学	1前			2		○			1							オムニバス	
			現代社会を考える	1前			2		○									5		
			歴史学の世界	1前			2		○									1		
			経済学の世界	1前			2		○									1		
			哲学の世界	1前			2		○									1		
			文学の世界	1後			2		○									1		
			日本国憲法	1後			2		○									1		
			教育制度論	1前			2		○									1		
		世界を知る	ジェンダー論	1後			2		○									1	オムニバス	
			国際コミュニケーション	1前			2		○			1						1		
		日本を知る	平和学	1前			2		○									3		
			日本の近代史	1後			2		○									1		
		英語	企業社会と労働	1後			2		○									1		オムニバス
			文字の文化と歴史	1後			2		○			1								
	Core English 1		1前			1					○						3			
	Core English 2		1後			1					○						3			
	Core English 3		1前			1					○						2			
	Core English 4		1後			1					○						2			
	日本語	Practical English 1	2前			1					○						1			
		Practical English 2	2後			1					○						1			
		日本語1	2前			1					○	1								
		日本語2	2後			1					○	1								
	中国語	日本語3	3前			1					○	1								
		日本語4	3後			1					○	1								
		中国語1	2前			1					○						1			
		中国語2	2後			1					○						1			
	プロジェクトスキ	日本語活用	中国語3	3前			1				○							1		
			中国語4	3後			1					○						1		
		地域プロジェクト活動	日本語上達法1	1前			2		○									2		
			日本語上達法2	2前			2		○									2		
		スキルアップ	アカデミック・ライティング	1後			2		○				1	1						
			地域プロジェクト活動	2後			2			○		1		1						
		社会を知る	グローバル研修	3前			2		○			1								
			グローバル研修(英語)	3前			2		○									1		
		情報基	キャリアデザイン	3後			2		○			1		2						
			キャリア形成論	3通			2			○			1							
	情報	インターンシップ	3通			2			○		3	1								
		AI・データサイエンス入門	1前			2		○				2					4			
		コンピュータリテラシー1	1前	○	2				○		1									
		コンピュータリテラシー2	1後			2			○		1									
				プログラミング基礎演習	1後			2		○							1			
				小計(54科目)	—	—	2	91	0	—		10	2	3			27			
専門科目	学科共通科目	健康分野	基礎科学	健康科学基礎1	1前			2		○			1					オムニバス共同		
				健康科学基礎2	1前			2		○			2							
				健康情報学概論	1前	○	2			○		5	2	1						
				OECU概論2	1前			1		○			1							
			医学	医学概論	1前			2		○					1					
				医療関係法規	1後			1		○					1					
				公衆衛生学	1後			1		○					1					
				スポーツコンディショニング	2前			2			○		1							
				スポーツリハビリテーション	3前			2			○		1							
			身体機能	解剖生理学1	1前	○	2			○			2							
				解剖生理学2	1後	○	2			○			2							
				基礎運動学	1前			2		○			1							
			心身の健康	コミュニケーション論	1前			2		○										1
				心理学	1後			2		○										1
				ヘルスプロモーション論	1後			1		○			1							
				栄養学	2後			2		○			1							
				発達発達学	2後			2		○				1						
				社会福祉概論	3後			2		○			1							

[illegible]

[illegible]

専門科目	スポーツ科学関連科目	スポーツ方法	スポーツ方法実習（器械運動）	1前			1				○							
			スポーツ方法実習（ベースボール型球技）	1前			1				○							1
			スポーツ方法実習（ネット型球技1）	1後			1				○							1
			スポーツ方法実習（陸上競技）	1後			1				○							1
			野外活動	2前			2				○	1						1
			スポーツ方法実習（ネット型球技2）	2前			1				○							1
			スポーツ方法実習（武道）	2前			1				○							1
			スポーツ方法実習（eスポーツ）	2前			1				○							1
			スポーツ方法実習（水泳・水中運動）	2後			1				○							1
			体づくり運動と運動遊び	2後			1				○							1
			スポーツ方法実習（ダンス）	2後			1				○							1
			スポーツ方法実習（海洋スポーツ）	3前			1				○	1		1				
			スポーツ方法実習（バスケットボール）	3前			1				○		1					
			スポーツ方法実習（ニュースポーツ）	3前			1				○	1						
			スポーツ方法実習（冬季スポーツ）	3後			1				○	2	1	1				2
			スポーツ方法実習（ゴール型球技）	3後			1				○							1
			小計（213科目）				—	—	80	315		—		12	6	5		
合計（267科目）				—	—	82	406		—		13	6	5			67		
学位又は称号		学士（理学療法学）			学位又は学科の分野			工学関係、保健衛生学関係（リハビリテーション関係）、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）、体育関係										
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等								
・ 共通科目 必修科目2単位、 外国語群英語より1単位以上を含み、 選択科目を合わせて20単位から24単位まで ・ 専門科目 必修80単位、 神経系理学療法学演習A、内部障害系理学療法学演習A、小児系理学療法学演習、 運動系理学療法学演習A、神経系理学療法学演習B、内部障害系理学療法学演習B、 老年系理学療法学演習、運動系理学療法学演習B、神経系理学療法学演習C、 予防理学療法学演習、運動系理学療法学基礎演習、運動系理学療法学発展演習、 神経系理学療法学基礎演習、神経系理学療法学発展演習、スポーツ理学療法特修A、 スポーツ理学療法特修B、臨床理学療法学探究から20単位以上24単位までを含み、 選択科目を合わせて100単位から104単位まで ・ 卒業要件単位 124単位以上 （履修科目の登録の上限：44単位（年間）） ・ 国家試験出願条件 専攻に3年以上在籍し、卒業見込みであること										1 学年の学期区分			2 学期					
										1 学期の授業期間			13 週					
										1 時限の授業の標準時間			105 分					

教 育 課 程 等 の 概 要																				
(健康情報学部健康情報学科 スポーツ科学専攻)																				
科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)			
共通科目	人文・社会・自然群	大学の学びリテラシー	総合教養	1前			2		○			2					7	オムニバス		
			総合ゼミナール	1前			2			○							1			
			社会生活と法	1前			2		○								1			
			OECU概論Ⅰ	1前			1		○			1								
			エレクトロニクス入門	1前			2		○			1								
		視野を広げる	異文化の理解	1後			2		○									1	オムニバス	
			政治学	1後			2		○									1		
			発達心理学	1後			2		○									1		
			現代社会と青年の心理	1前			2		○								1			
			アジアの言語と文化	1後			2		○								1			
			ヨーロッパの言語と文化	1後			2		○								1			
			大阪の文化と歴史	1後			2		○								3			
			高齢者社会と医療福祉	1後			2		○			1								
			からだの科学	1前			2		○			1								
		社会とつながる	現代社会を考える	1前			2		○									5	オムニバス	
			歴史学の世界	1前			2		○									1		
			経済学の世界	1前			2		○									1		
			哲学の世界	1前			2		○									1		
			文学の世界	1後			2		○									1		
			日本国憲法	1後			2		○									1		
			教育制度論	1前			2		○									1		
			ジェンダー論	1後			2		○									1		
		世界を知る	国際コミュニケーション	1前			2		○									1	オムニバス	
			平和学	1前			2		○									3		
		日本を知る	日本の近代史	1後			2		○										1	オムニバス
			企業社会と労働	1後			2		○										1	
				文字の文化と歴史	1後			2		○			1							
	外国語群	英語	Core English 1	1前			1					○						3	オムニバス	
			Core English 2	1後			1					○						3		
			Core English 3	1前			1					○						2		
			Core English 4	1後			1					○						2		
			Practical English 1	2前			1					○						1		
			Practical English 2	2後			1					○						1		
		日本語	日本語Ⅰ	2前			1					○	1						オムニバス	
			日本語Ⅱ	2後			1					○	1							
			日本語Ⅲ	3前			1					○	1							
			日本語Ⅳ	3後			1					○	1							
		中国語	中国語Ⅰ	2前			1					○						1	オムニバス	
			中国語Ⅱ	2後			1					○						1		
			中国語Ⅲ	3前			1					○						1		
			中国語Ⅳ	3後			1					○						1		
		プロジェクトスキ	日本語活用	日本語上達法Ⅰ	1前			2		○									2	オムニバス
				日本語上達法Ⅱ	2前			2		○									2	
			地域プロジェクト活動	アカデミック・ライティング	1後	○	2			○				1	1	1				
				地域プロジェクト活動	2後			2			○		1		1					
	スキルアップ		グローバル研修	3前			2		○			1								
			グローバル研修(英語)	3前			2		○									1		
	社会を知る	キャリアデザイン	3後	○	2			○			1			2						
		キャリア形成論	3通			2			○			1								
	情報基	情報	インターンシップ	3通			2				○	3	1							
			AI・データサイエンス入門	1前			2		○				2					4		
			コンピュータリテラシーⅠ	1前	○	2				○		1								
			コンピュータリテラシーⅡ	1後	○	2				○		1								
			プログラミング基礎演習	1後			2			○							1			
			小計(54科目)	—	—	8	85	0		—		10	2	3			27			
専門科目	学科共通科目	健康分野	基礎科学	健康科学基礎Ⅰ	1前			2		○			1					オムニバス共同		
				健康科学基礎Ⅱ	1前			2		○			2							
				健康情報学概論	1前			2			○		5	2	1					
				OECU概論Ⅱ	1前			1		○			1							
			医学	医学概論	1前			2		○					1					
				医療関係法規	1後			1		○					1					
				公衆衛生学	1後			1		○					1					
				スポーツコンディショニング	2前			2			○		1							
				スポーツリハビリテーション	3前			2			○		1							
		身体機能	解剖生理学Ⅰ	1前			2		○			2								
			解剖生理学Ⅱ	1後			2		○			2								
			基礎運動学	1前			2		○			1								
			コミュニケーション論	1前			2		○										1	
		心身の健康	心理学	1後			2		○										1	
			ヘルスプロモーション論	1後			1		○			1								
			栄養学	2後			2		○			1								
			発育発達学	2後			2		○				1							
			社会福祉概論	3後			2		○			1								

[illegible]

専 門 科 目	ス ポ ー ツ 科 学 関 連 科 目	ス ポ ー ツ 方 法	スポーツ方法実習（器械運動）	1前			1				○																	
			スポーツ方法実習（ベースボール型球技）	1前			1				○							1										
			スポーツ方法実習（ネット型球技1）	1後			1				○							1										
			スポーツ方法実習（陸上競技）	1後			1				○							1										
			野外活動	2前			2				○	1						1										
			スポーツ方法実習（ネット型球技2）	2前			1				○							1										
			スポーツ方法実習（武道）	2前			1				○							1										
			スポーツ方法実習（eスポーツ）	2前			1				○							1										
			スポーツ方法実習（水泳・水中運動）	2後			1				○							1										
			体づくり運動と運動遊び	2後			1				○							1										
			スポーツ方法実習（ダンス）	2後			1				○							1										
			スポーツ方法実習（海洋スポーツ）	3前			1				○	1		1														
			スポーツ方法実習（バスケットボール）	3前			1				○		1															
			スポーツ方法実習（ニュースポーツ）	3前			1				○	1																
			スポーツ方法実習（冬季スポーツ）	3後			1				○	2	1	1				2										
			スポーツ方法実習（ゴール型球技）	3後			1				○							1										
			小計（213科目）				—	—	13	382	0	—			12	6	5		41									
合計（267科目）				—	—	21	467	0	—			13	6	5		67												
学位又は称号				学士（スポーツ科学）				学位又は学科の分野				工学関係、保健衛生学関係（リハビリテーション関係）、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）、体育関係																
卒業・修了要件及び履修方法																		授業期間等										
・ 共通科目 必修科目8単位、 外国語群英語より1単位以上を含み、 選択科目を合わせて20単位から34単位まで ・ 専門科目 必修13単位、 ヘルスプロモーション論、生涯スポーツ論、スポーツ教育学、スポーツコーチング論より2単位以上、 選択科目を合わせて90単位から104単位まで ・ 卒業要件単位 124単位以上 （履修科目の登録の上限：44単位（年間））																		1 学年の学期区分				2 学期						
																		1 学期の授業期間				13 週						
																		1 時限の授業の標準時間				105 分						

授業科目の概要					
(健康情報学部健康情報学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通科目	人文・社会・自然群	大学の学びリテラシー	総合教養	この授業では、①さまざまな社会問題や研究分野を知り、それらを多角的、総合的に理解することで、専門分野の枠を超えて共通に求められる教養を身につけること、②社会や歴史について広く知ることによって、これから自身が学ぼうとしている専門分野の社会的・歴史的な意義や課題を理解することを目的としている。 (オムニバス方式／全13回) (12 日坂真樹／1回) 臨床工学技士の役割 (12 日坂真樹／1回) 医療における計測技術 (8 田中則子／1回) リハビリテーションと理学療法 (8 田中則子／1回) スポーツにおける理学療法士の活動 (43 村木有也／1回) 競技・障害スポーツの拡大と諸問題 (43 村木有也／1回) 「する・みる・支える」スポーツの関わり方 (45 大村基将／1回) 技術教育視点でみる「技術の見方・考え方」 (42 南津佳宏／1回) わかったつもりのことばのやりとり (39 立本秀洋／1回) 高校英語からの脱却 (35 溝井 浩／1回) 現代物理学入門 (44 森 善龍／1回) ゲーム制作におけるアイデアの出し方・考え方 (44 森 善龍／1回) ゲームと教育 (28 大西克彦／1回) 医療DXについて	オムニバス方式
			総合ゼミナール	この授業は、受講生が「憲法改正問題」について学び、現在議論されていることの問題点を理解し、自分の考えを持つことができるようになることを目的とする。 この授業では、いま議論されている憲法改正の提案内容について学ぶだけでなく、憲法改正論議の起源までさかのぼって、その歴史を理解するとともに、現在の議論の仕方の問題点や、自分なりの憲法改正についての考えができるようになることを目指す。	
			社会生活と法	現代社会ではありとあらゆるところに紛争・トラブルのタネが潜んでおり、仕事上のトラブルのほか、労働条件が切り下げ・解雇、親子、夫婦の間で離婚、遺産相続、詐欺や悪徳商法、地域社会での騒音や悪臭や日照、またマンション管理をめぐるトラブルに巻き込まれるかもしれない。現代社会ではそうした紛争を中立公平に解決するうえで法や裁判が果たす役割がきわめて大きくなっている。講義では断片的知識を詰め込むのではなく、新たに直面した問題に対処できる力、法的な考え方を身につけられるようにすることを目標とする。	
			OECU概論Ⅰ	本授業の目的は、学生自身が大阪電気通信大学（OECU）で学ぶ意義や目的を明確にし、それを具現化するために身につけておくべき素養を備えることにある。本授業では、本学の基本理念である「人間力」と「技術力」を育み、自らの力で人生を切り開いていける実践的な実学教育」及び学部の教育・研究内容について理解を深め、本学での学びにおける目標を設定する。そして、それを実現するために必要な、大学での学びの作法・技法の修得を目指す。	
			エレクトロニクス入門	神経活動電位、心電図、脳波などの生体電気及びその計測システムは、電磁気現象に基づいている。生体の電気・電子的側面やさまざまな生理現象の測定原理を理解するためにも、電気の基礎知識は必要不可欠である。電気工学・電磁気学の基礎知識を医療領域で応用することを目指し、ウェアラブル、ワイヤレス技術など進化する健康・医療機器の原理となる電気基礎知識の理解を深め、高校レベル（基礎）から、ME技術者、臨床工学技士として活用できるレベル（医療領域での応用）まで到達することができる盛りだくさんの内容としている。本講義では、電気の基礎を理解するように、特に基礎的な電磁気学から直流回路までを重点的に学び、ME技術実力検定試験、臨床工学技士国家試験（電気電子工学）の問題ができるようになることを目指す。	

共通科目	人文・社会・自然群	視野を広げる	異文化の理解		人・物・情報の移動が国を越えて日常的になされている時代において、文化の違いから様々な摩擦も起きている。異文化接触に伴って生じる問題点を想定して、それに具体的な検討を加えることにより、単に異文化に関する知見を得るだけでなく、国際的な視野と国際人としての視点を養う。	
			政治学		この講義では政治に関する基礎的な知識を身に着けるとともに、学問的観点から政治と向き合うことができるようになることを目的としている。私たちが欲しい時に欲しいものをすべて手に入れることができたならば、政治は存在しないであろう。政治とは、人間が集団で生きるなかで生じる力の関係をめぐる問題でもあり、利害関係の妥協点を見つける、あるいは何らかの理想を追求していく作業でもある。なぜ民主主義がふさわしい政治体制だとされているのか、民主主義は実際にどのように運用されているのか、政策はどのように作られるのか、といった点に加えて、これまでの政治学そのものに疑問を投げかける視点や国際政治について学ぶなかで、自分自身の政治志向についても客観視できるようになることを目指す。	
			発達心理学		本科目では、胎生期、乳幼児期、児童期、思春期に至る子どもの心身の発達と学習の過程、自己認識、仲間関係等について、心理学な観点から理解することである。	
			現代社会と青年の心理		本講義は、次のことを目的としている。 1. 現代社会の特徴や課題を考察できる。 2. 青年期の発達やその特徴について心理学の理論・知識と概念を習得し理解できる。 3. 習得した理論・知識や概念をもとに、現代社会に生きる青年の心理を考察し、諸問題の解決に向けた方法を理解できる。 この授業は、現代社会のニーズを把握し問題点を抽出しながら、これからの社会を生き抜くうえで青年の抱える課題を、心理学的に把握するために必要といえる。	
			アジアの言語と文化		アジアには多種多様な語族や語系に属する言語が分布しているが、本講義は漢字・漢字語を中心に日本語・中国語・韓国語を比較しながら、言語や文化の同質性と異質性を様々な角度から見ることによって、考える力と複合的な視点を養うことを目的としている。更に日本語・中国語・韓国語の三言語で東アジアの古典を読むことをチャレンジし、古典を通して人間のあり方、生きる知恵と学習の意義を学ぶ。	
			ヨーロッパの言語と文化		この授業は、ヨーロッパの言語と文化について受講生が一定の理解を得ること、異文化、別の生活、暮らし方の理解を通して人間と社会に関して考える力を身に着けることを目的とする。そのため、現代ヨーロッパ文化の源流となった古代ギリシアとキリスト教を考察する。	
			大阪の文化と歴史		大阪の文化と歴史をより深く知り、大阪の豊かな世界を味わうことを目的とする。 哲学・文学・歴史学を専門とする複数の教員によるオムニバス形式の講義により、様々な角度から大阪を見つめ直すことで、広く社会の多様性を理解する力をも身につける。 (68 向村九音／1回) 大阪にまつわる神話―住吉の神の物語 (68 向村九音／1回) 商売繁盛の神さま―大阪のえびす振興 (68 向村九音／1回) 和歌に詠まれた大阪―「小倉百人一首」を中心に (68 向村九音／1回) 遊女と大阪―江口の遊女伝書にみる聖と俗の往還 (68 向村九音／1回) 近世の色恋―井原西鶴が描いた大坂の男女 (93 吉村智博／1回) 近代都市大阪の誕生―商都から工都へ／街道から鉄道へ (93 吉村智博／1回) 描かれた大阪の相貌―絵図・地図のコスモロジー (93 吉村智博／1回) 盛り場の近代と文化―道頓堀・千日前のあゆみ (93 吉村智博／1回) 被差別民の”大大阪”―都市下層社会の諸相 (93 吉村智博／1回) 都市社会生活と市民―大阪市社会部の100年 (56 小田直寿／1回) 大阪文化の基本構図―趣味の楽しみから広がる世界 (56 小田直寿／1回) 日本最大の経済都市―大大阪の理想と展望 (56 小田直寿／1回) 戦争と大阪―戦争の経験を考える	オムニバス方式

共通科目	人文・社会・自然群	視野を広げる	高齢者社会と医療福祉	超高齢社会を迎えた現在、高齢者が健康で活躍できる社会の実現が望まれている。そのために、高齢者の生理的状況を理解し、医療と福祉を支援する技術の現状を理解できるようになることを目的とする。具体的には、老化にともなう生理機能の変化を理解する。また、高齢者の心理状態を理解する。さらに、超高齢社会について知識として理解するとともに、これらに対しての自分の考えをまとめられるようにする。	
			からだの科学	本講義は、自分のからだに興味を持ち健康な生活をおくるために、人間の身体の構造や仕組みや働きについて学習し、その基本的な機能について理解することを目的にしている。そこで、トピック的に日常生活の中で感じる色々な自分の事象について着目し、それぞれの臓器がどのように動いているのか、身体の事象を例に解説する。	
		社会とつながる	現代社会を考える	文明が高度に発展するなかで、交通・情報等によるグローバル化が進展し、様々な問題が多様化・複雑化する現代社会において、より高度な専門性と共に、より広い視野に立った多角的・総合的なものの見方、考え方が求められている。本科目では、総合科目を担当する専任教員がオムニバス形式で授業を行い、各教員が、それぞれの教員の専門領域あるいは関心を持つ事柄、学生諸君にぜひ伝えたい事柄を取り上げ、この科目を通じて現代社会についての多角的、総合的な理解を促す。 (オムニバス方式／全13回) (34 平沼博将／3回) 保育施設での事故・安全を考える (29 金田啓稔／3回) 日本社会とスポーツ (43 村木有也／3回) 運動を科学する (36 安達未来／2回) 人間の「心」から現代社会を見つめ直す (33 中里見博／2回) 現代社会と原発	オムニバス方式
			歴史学の世界	歴史学とは、どのような学問かを知ることが目的である。高校までの日本史や世界史といった基礎的知識を学ぶカリキュラムと違って、学問としての歴史学は、史料の発見・発掘などをもとに、あらゆる事物を対象に日々新たな知見が付け加えられていくものである。現行の技術や制度といった一見すると歴史と関係がないような事物であっても、全ては歴史的経緯の中で形作られたものであって、そこには人間的な営為との相互作用があった。歴史学はそうした相互作用を明らかにするのである。講義を通して歴史学研究の一端を知ること、受講者は物事の歴史性を批判的に捉える観点を会得することができる。	
			経済学の世界	この講義は、現在おこっている経済問題に触れながら、経済学の基本知識と近年の日本経済の動きについて学生諸君に理解を深めるためおこなう。就職活動や就職し会社で働くためには経済学の基本的理解と、近年の日本経済の動きについての理解は不可欠である。毎回作成したプリントを基本に新聞の切抜きなどを使って具体的に身近な問題と関連づけてわかりやすく解説する。	
			哲学の世界	目的は(1)哲学することを学ぶこと、(2)哲学の面白さを感じることを学ぶこと、(3)明晰に思考することを学ぶこと、である。本講義では、最初の哲学者たちを取り上げ、古代ギリシアの初期思想家たちの哲学を考察することで、哲学の問題のあり方・成り立ちを知り、哲学の二つの柱であるヴィジョン(ものの見方・考え方)とアーギュメント(議論)について学び、世界と自分について少しでも理解を深めることができるようになることを目的としている。	
			文学の世界	本講義では、主として中世から現代までの日本文学作品の中から数点を選び(内1～2回は外国作品(翻訳)も併用する予定)、その読解を通して、文学が読者に語るメッセージを読み解いていく。その中で、①文学とはどのような芸術か、②文学の本質、③人間と社会に対する文学の価値とはたらし、④自分にとっての文学の価値を考えたい。そして、講義を終えた後には、これらのことを「自分の言葉」で説明できるようにする。	
			日本国憲法	この授業は、「日本国憲法」の基礎的な知識を学ぶことを目的とする。「憲法」は一般の「法律」と違い、国民を縛るためのものではなく、政府を縛るものである。政府は憲法の範囲内でしか法律を作ることができず、その意味で、憲法は社会的法的なOSであると同時に、市民生活を支え、政府による戦争や人権侵害などから市民を守っている。しかし、どんなに素晴らしい内容の憲法を持っていても、その実現を政府に押しつけるのは、いつでも市民の力にかかっている。だから、憲法について学ぶことは、この国の「主権者」たる市民として生きる上での基礎的な知識を得ることでもある。この授業では、最初に日本国憲法制定の歴史から学び、次に国民の基本的な人権、この憲法の特徴である「平和主義」について学ぶ。最後に司法の独立や、民主主義の現状と問題点について学ぶ。	

共通科目	人文・社会・自然群	社会とつながる	教育制度論		現代学校教育に関する社会的及び制度的事項についての基礎的知識を習得し、内外の教育課題とその解決のための諸政策・制度の有効性を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識を習得する。	
			ジェンダー論		ジェンダーやセクシュアリティという言葉を見たり聞いたりしたことがある人は多いと思われる。生物学的な性別（オスとメス）であるセックスと、ジェンダー、セクシュアリティといった「性」に関連する概念は、私たち一人ひとりの「生」と深く関わりを持っている。なぜなら、それらは私たちを取り囲む「ルール」として、日常生活に深く組み込まれているからである。講義では、「当たり前」「常識」とみなされがちなこの「ルール」が、私たちにどのような影響を与えているのかを考えるために、「性」をめぐる社会通念・制度・規範を取り上げる。そして、現代の暮らしや社会問題をジェンダーの視点で学ぶことによって、社会を多角的に見る視点を身につけることを目的とする。	
			国際コミュニケーション		諸言語圏における言語行動の比較を通して、異言語文化間で発生するコミュニケーションギャップの実態を考察するとともに、そのギャップを越えてコミュニケーションが成り立っていく過程ならびに要因を追究し、異なる文化の間におけるコミュニケーションのあり方を探る。それにより世界や日本の社会・文化の多様性に対する理解を深め、グローバル化した現代の日本と世界の関係がどうあるべきかを考え、真の「国際人」への足がかりを築くことを目指す。	
		世界を知る	平和学		この授業は、学生が「平和学(Peace Studies)」の基本的な事柄について理解でき、差別や暴力、戦争のない、より自由で平等な社会を希求し、自ら行動できるようになることを目的とする。平和学は新しい学問であり、すそ野は広く、ますます発展している。この講義では、3人の担当教員の専門に応じて、法学、哲学、心理学からのアプローチを中心に、平和学に関わる様々なトピックや、概念、思想について学ぶ。 (オムニバス方式全13回) (33 中里見博／1回) 平和学とは何か (33 中里見博／4回) 戦後憲法と日本の平和 (29 金田啓稔／4回) ホップズ、ロック、ルソーについて (34 平沼博将／4回) 平和を創る心理学	オムニバス方式
			日本の近代史		明治維新以降の近代日本のあゆみのなかで出現してきた諸問題と日本人がそれにどう対応してきたか、またその過程で人々が形成してきた意識のありようを知り、それを通して近代日本の特徴を理解する。あわせて解決してきた事項といま抱えている課題についても知る。また、近代日本の歴史を動かしてきた多くの人々と彼らを支えてきた社会的・歴史的基盤についても知る。具体的な事例としては、明治以降、世界の中でもっとも激的な体験を重ねた公害問題、そして国民生活に密接な関わりをもった制度改革（身分制度・暦・貨幣経済制度・徴兵制度）についてである。公害・環境問題や社会制度の歴史的な経緯を知ること、さらにそれを通して見えてくる日本の科学技術や社会構造・社会意識の歴史的ありようを理解することを目指す。	
		日本を知る	企業社会と労働		産業社会においては、産業社会に特徴的な技術システムの高度化や、制度の大規模化・複雑化などから、特有の人間関係が発達し、労働疎外等も問題になることが多い。こうした産業における人間関係、労働疎外の問題、これらと関係して重要な意味をもつ組織の動態など、産業社会の諸制度について考察する。	
			文字の文化と歴史		日本の文化と歴史を学ぶ上で、文字は最も重要な要素と言える。日本語の文章表現は漢字とかな及びカタカナを用いるが、漢字やかなの歴史を知るとは、日本文化を知ることと直結する。また、近年、コンピュータの利用に伴い、文字を書くことが少なくなったため、文字を意識して書くこと、美しく書くことなどはとても困難な状況になっていることが窺える。ここでは、日本の文字の歴史を理解し、美しい文字の臨書なども体験し、現代における文字の芸術性なども含め、幅広く文字の文化を理解する。	
	外国語群	英語	Core English 1		比較的平易な英文教材を用いて、基本的な語彙を増強し、英文の構造や文法事項を確認する実習を通して、読解に必要な基礎を固める。多読学習を導入し、英語を英語のまま理解する力を併せて涵養する。	
			Core English 2		Core English 1 で習得したことを基に、比較的平易な英文教材を用いて、基本的な語彙をさらに増強し、英文の構造や文法事項を確認する実習を通して、読解に必要な基礎を固める。多読学習を継続し、速読力の涵養につなげる。	

共通科目	外国語群	英語	Core English 3		主にリスニングの演習を通して、英語による平易な会話などを理解できる力を涵養する。英語らしいリズムを構成するイントネーションや強勢などを意識した発音ができるようになる。	
			Core English 4		Core English 3 で習得したことを基に、主にリスニングの実習を通して、比較的平易な会話などを理解できる力をさらに伸ばす。英語らしいリズムを意識しながら、自分の考えを平易な英語で表現できる力を涵養する。	
			Practical English 1		語彙を増強し、英語による比較的平易な会話などを理解できる力を涵養する。さらにさまざまなトピックについて英語で自分の意見や考えを述べることができるようにコミュニケーションの技能を高める。	
			Practical English 2		Practical English 1 で習得したことを基に、さらに語彙を増強し、英語による比較的平易な会話などを理解できる力を涵養する。さらにさまざまなトピックについて英語で自分の意見や考えを述べることができるようにコミュニケーションの技能を高める。	
		日本語	日本語 1		外国人留学生を対象とした認定科目であり、日本語能力検定 N2 級相当の日本語の読解力ならびに会話能力があると認められた場合に認定授与される。	
			日本語 2		外国人留学生を対象とした認定科目であり、日本語能力検定 N2 級相当の日本語の読解力ならびに会話能力があると認められた場合に認定授与される。	
			日本語 3		外国人留学生を対象とした認定科目であり、日本語能力検定 N1 級相当の日本語の読解力ならびに会話能力があると認められた場合に認定授与される。	
			日本語 4		外国人留学生を対象とした認定科目であり、日本語能力検定 N1 級相当の日本語の読解力ならびに会話能力があると認められた場合に認定授与される。	
	中国語		中国語 1		初修学生を対象とし、発音から基礎的な表現、文法、作文を習得することにより、平易な中国語を聞き、話すことができること。また、中国語を学ぶ楽しさを知り、言葉の文化的背景（歴史・地理・社会・生活等）などにも触れて理解する。	
			中国語 2		中国語の基本単語 500 語、ピンイン（表音ローマ字）の読み方と綴り方、単文の基本文型、文法を理解し、日常挨拶語約 50～80 を理解その基本的な運用を行うことができる。また、中国語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。	
			中国語 3		中国語の常用語 800～1,000 の発音（ピンイン表記）及び単語の意味を習得し、中国語の簡単な文章を読み、書くことができる。簡単な日常会話ができる。また、中国語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。	
			中国語 4		中国語の常用語 1,000～1,500 の発音（ピンイン表記）及び単語の意味を習得し、中国語の簡単な文章を読み、書くことができる。簡単な日常会話ができる。そして、中国語を学ぶ楽しさを知り、言葉の文化的背景（歴史・地理・社会・生活等）などにも触れて理解する。	
	プロジェクトスキル形成群	日本語活用	日本語上達法 1		大学での学びに必要な文章力の基礎を身につけることを主目的とする。そのために、長文の読解、小論文や自己 PR 文、レポートの書き方を扱っていく。	
			日本語上達法 2		この授業は、受講生が大学で必要な（アカデミックな）レポートや卒業研究を、よりよく書けるようになることを目的とする。そのために必要な、アカデミックな日本語の「読む・書く」能力を向上する課題に取り組む。	
			アカデミックライティング	○	学科の実習・演習科目ではレポート作成による課題提出が求められる。また、学位取得のために最終学年において卒業論文を作成することが義務付けられてもいる。専門分野における卒業論文やレポート課題等の作成のために文章や図表作成のための技術を身につけておくことは、レポート課題や卒業論文作成のみならず社会に出てからも他者とのコミュニケーションを図るには必要不可欠である。具体的には、学会発表では研究内容にもとづきプレゼンテーションすることが要求され、一般社会においても文書や口頭でのコミュニケーションを技能として身に着けることはどのような分野であっても望まれる。 本講義の目的は、受講者が「書く」技能にとどまらず、「話す」「聞く」技術も含めた総合的なコミュニケーション能力を高めることである。	

共通科目	プロジェクトスキル形成群	地域プロジェクト活動		学外で実施されている地域のさまざまな行事やイベントに参加したり、企画・立案を行う授業である。スポーツ・レクリエーション指導者の資格取得希望者は、これまでの学びをふりかえり、実際の支援・指導現場でコミュニケーションワークやホスピタリティ・トレーニングを行うとともに、支援対象者のアセスメントを行ってプログラムを企画・立案して指導実践する。スポーツ・ボランティア希望者は、スポーツボランティアとしてさまざまなスポーツイベントを支える経験を積むとともに、イベントの企画・立案・運営のサポートの基本的な考え方やそれらに主体的に取り組むことのできる力を身につける。スクール・ボランティア希望者は、教育機関でのボランティア活動に参加し、その活動による教育的効果や地域社会と学校の繋がりについて考える。	
		グローバル研修		近年のグローバルな人材の育成のニーズに対応し、国際交流センターが認める留学プログラムに参加することで世界の多様性を認識する。交換留学やプログラムにおける各種活動を通して、視野を広げ、教養・見識を高めることを目的とする。	
		グローバル研修（英語）		英語圏を主として一定期間滞在し、単に英語の技能を磨くのみならず、その国に暮らす人びとに接し、歴史や文化、社会への理解を深め、多様な視点を内面化していくことによって、グローバルな視座を獲得する。	
		キャリアデザイン	○	キャリアは大学卒業時の就職に特化したものだけでなく、人生の各段階で求められる能力・態度・意識なども含み、徐々に積み重ね築いていくものである。これは4年間の大学教育だけで築き上げられるものではないが、自己理解を深め、将来についての構想や展望（ビジョン）を持つことは重要である。大学入学時に自らの将来について明確なビジョンを持ち積極的に活動する学生もいれば、大学での勉強が進むにつれて「これでよいのかなあ」と悩み立ち止まり、次の一步を踏み出せないこともある。キャリア教育では、明確なビジョンを持ち自ら進もうとしている学生に対してはさらに視野が広がるように支援する。一方、進路などのビジョンで悩んでいる学生にはいろいろな角度から自らの力で生き生きと人生を歩んでいくことができるように支援する。キャリアデザインでは、仕事を含めた人生という観点から「生き方」、「進路・職業選択」ならびに各学生のビジョンを描くことを目指す。	
		キャリア形成論		社会で活躍するために、自分の適性について知り、就職活動に向けての基本的マナーを身につけることを目的とする。本科目は、計画的な就職活動の設定方法、自己理解・進路適性の理解を深める方法や職業についての理解が深まるように工夫している講義である。具体的には、医療系学部学科として就職進路に向けた医療業界の業界研究について学び、会社採用説明会等に参加することで業界に即したエントリーシート・履歴書の書き方や筆記試験の現状について把握する。業界研究の講義を通して希望する業界、職種のインターンシップの参加を促進し、就職試験本番に備えたオンライン形式を含む模擬面接を実施して自己PR等を確認する。また、内定者が就職活動時の施策や重要ポイントをコミュニケーションすることで就職活動する学生だけでなく、社会人となる学生のプレゼンテーション能力等も養う。	
		インターンシップ		インターンシップとは、「社会に出る前に仕事の場を体験してみる」ということである。本科目では、企業や公共団体等で就業体験する学外実習を通じて、現在の社会や産業構造、職業に対する理解を深めるほか、社会人として必要とされる勤労観を身につけ、人間的な成長を図ることを目指す。さらに、これまでの学びと実社会との関わりを感じ、将来のキャリア形成につながる気付きを得ることを目的とする。	

共通科目	情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門		情報通信技術(ICT)の急速な進歩に伴い、目まぐるしく変化する現代社会において高度な情報のデジタル化が進展している。その中で数理・データサイエンス・AIを含めたICTを適切かつ効果的に活用して、主体的な問題の発見とスピーディな解決能力が求められている。本授業では、社会における様々な分野における実問題を概観し、それらの問題解決の考え方と方法論について、数理・データサイエンス・AI、情報及びコンピュータを含めたICTの果たす役割やその影響などを理解し、これらを活用した問題発見、解決能力を身につけるために、実践事例を中心とした講義及び演習を行う。また、本授業を履修することで数理・データサイエンス・AIのリテラシーレベルを習得する。 (オムニバス方式/全13回) (27 江原康生/8回) 問題解決のための情報、データ活用とコンピュータ (16 中村英夫/1回) データ・AI 利活用の事例 (1) 生体信号処理の応用事例 (18 水野裕志/1回) データ・AI 利活用の事例 (2) 医療安全における応用事例 (31 上善恒雄/1回) データ・AI 利活用の事例 (3) 社会を支えるデータ (28 大西克彦/1回) データ・AI 利活用の事例 (4) 医療・福祉・VRにおける応用事例 (40 沼田哲史/1回) データ・AI 利活用の事例 (5) ゲーム開発におけるAI技術	オムニバス方式
			コンピュータリテラシー1	○	初心者にはコンピュータの使用法を習得させ、現代社会における情報の役割を述べ、情報セキュリティ・情報倫理の重要性、コンピュータリテラシー、メディアリテラシーに関して学ぶ。インターネットの基礎技能、英文、和文のワープロの利用技能を習得させる。Windowsシステム上で利用する種々のユーティリティを組み合わせることで表現力のある統合化文書を作成する技法を身に付けさせる。使用するインターネットブラウザはMozilla Firefox、応用ソフトウェアは主にMicrosoft Wordである。	
			コンピュータリテラシー2	○	「コンピュータリテラシー1」に続いて表計算の利用に関する技能を習得する。特にワープロと連携したレポートの作成や、データベースを扱い実践的な情報演習を実施する。次いでプレゼンテーションに関する基礎と作成ツールの利用を習得後、発表会を行わせる。使用する応用ソフトウェアは主に、Microsoft WordとExcel及びPower Pointである。	
			プログラミング基礎演習		StudyCというC言語学習用教育ソフトを用いて各コンピュータ言語に共通する初級レベルの逐次型プログラミングを学ぶ。まず、定数、変数、書式などを学び、1ビットで表される「スイッチ」の有限集合体からどのようにしてデータを表現し、モニタに表示するかについて学ぶ。次に流れ制御文としてif文、while文、for文を学ぶ。逐次型プログラムが前から順番に処理されることを体得するために、演習を多用し毎回小テストにより達成度を確認する。さらに、関数による高次機能化について学ぶ。	
専門科目	学科共通科目	健康分野	健康科学基礎1		医療やスポーツの領域において数理科学的な知識は、その現象を定量的、かつ、客観的に評価するためには必要不可欠なツールになる。本講義では医療やスポーツの現場において、身体の構造や機能、運動について数理的に分析、評価、記述ができるようになるために、人の身体やその運動に着目してこれを分析するための基礎的な数学や物理を学習する。	
			健康科学基礎2		健康情報学部専門科目には、機能解剖学や運動生理学といった人体の構造や機能の知識が不可欠なものがある。本講義は、これらの専門科目につながる生物と化学の基礎的な知識を提供する。また、生物や化学に関連するニュースや身近なトピックを紹介し、高校までにこれらの科目を履修してこなかった学生であっても、人のからだのしくみに興味をもち、基礎を理解することを目的とする。 (オムニバス方式/全13回) (1 太田暁美/7回) 生体を構成する物質、細胞、遺伝 (7 武田ひとみ/6回) エネルギー産生、ホメオスタシス	オムニバス方式

専 門 科 目	学 科 共 通 科 目	健康分野	基礎科学	健康情報学概論	○	大学生生活及び将来の目標を提示し、その将来像に対して意欲的にロードマップを設定できるようになることを目的とする。また、リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援等を含む）、地域包括ケアシステムについて学ぶ。さらに、スポーツ情報、健康スポーツ、スポーツ教育、スポーツコーチング、生涯スポーツの各分野において、最新のトピックや知見を提供し、それらの理解に必要な基礎的な知識や、大学における学び方やについても取り扱い、学びを活かした将来のキャリア形成を図る。	共同
				OECEU概論2		本授業の目的は、OECEU概論Ⅰの内容に加えて、所属する学部、学科の基本理念を基盤に教育研究内容をより詳細に言及し、自身が切り開く将来を見据えて、学ぶ意義や目的を明確にすることにある。具体的には、学部就学期間において展開される科目履修に必要な基礎知識の習得に始まり、応用分野の現状や将来展望に関する理解を深め、社会に貢献できる資質を養う。	
			医学	医学概論		将来、医療分野、あるいは、その関連分野に従事することをめざす学生を主な対象として、今日の医療や医学の特徴を理解し、それらの課題について問題意識を持てるようになることを目的とする。また、医療従事者・医療施設・医療保険などについて理解し、そして医療医学の分野で話題になっているテーマについて理解できるようにする。さらに、様々な医学の学問を学んで行く上で必要な基礎知識を習得する。	
				医療関係法規		医療関連業務に従事する者にとって必要な関連法規について学び、医療関連法規の基本的な考え方や知識を身につけることを目的とする。具体的には、社会福祉における法律（社会保険法、労働基準法など）を理解し、説明できるようにする。また、薬物規制に関する法律を理解し、薬物4法で規制されている薬物に関する知識をもち、自分自身で制御する意識を持つようにする。さらに、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律を理解し、医療機器の分類について説明できるようにする。また、医療施設、医療職の法律に基づいて病院の区分や業務独占についての理解を深め、臨床工学技士法ならびに業務指針を理解し、説明できるようにする。	
				公衆衛生学		公衆衛生学は人間の生命現象と生活歴との関係を重視し、健康の維持増進、疾病予防及び治療、生活機能の回復と社会復帰を目的とした学問である。公衆衛生学の講義では、健康の保持、予防医学の重要性を理解し、疾病予防など公衆衛生学分野の基礎について理解することを目的とする。将来、健康管理、医療分野に従事する者にとって、公衆衛生学の基本的な考え方や知識を身につけることは重要である。	
				スポーツ コンディショニング		スポーツコンディショニングとは、スポーツ活動を行う上で最高の能力を発揮出来るように精神面・肉体面・健康面などから状態を整えることを指す。コンディションとは、「状態」「体調」「条件」と表され、「体力」「精神」「技術」「医療」「栄養」「環境」といった要因から影響を受けている。講義ではスポーツ活動における体調管理の実例を示し、ストレッチングやテーピングなどの演習を行う。	
				スポーツ リハビリテーション		スポーツ障害、スポーツ外傷による競技パフォーマンスの低下や競技からの離脱に対するリハビリテーションでは、医学的理解のもと適切に患部を保護して回復を促しながら、関節可動域及び柔軟性、筋力、バランス及び衝撃を制御する身体機能や運動能力を再建する必要がある。講義では、スポーツ障害及び外傷の代表例とリハビリテーションの科学を学び、これらの技術について演習を行う。	
				解剖生理学Ⅰ	○	本講義は、人体を構成する各要素（細胞や組織、器官など）がどのように構成されるのか、また、正常な生体の持つ本来の機能とそれを調整するメカニズムを学習する。講義では人体を構成する各器官系の中で植物性機能（循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器官系、内分泌系など）の構造と機能について学び、専門用語を用いて説明できるようにすることを目的とする。本講義は、解剖生理学Ⅱと連動して進められる。	
				解剖生理学Ⅱ	○	本講義は、人体を構成する各要素（細胞や組織、器官など）がどのように構成されるのか、また、正常な生体の持つ本来の機能とそれを調整するメカニズムを学習する。講義では人体を構成する各器官系の中で動物性機能（神経系、骨格系、感覚器系など）の構造と機能について学び、専門用語を用いて説明できるようにすることを目的とする。本講義は、解剖生理学Ⅰと連動して進められる。	

専 門 科 目	学 科 共 通 科 目	健康分野	身体機能	基礎運動学	人の運動を科学的にとらえる運動学を学ぶ上で必要な、基本的な知識を教授する。運動を生じる三次元的な面と軸、並びに運動（方向）の用語を理解する。さらに運動器の構造と機能とともに、重力や床反力などの外力や筋収縮により発生する内力などの運動力学に関する基礎を学ぶ。また、歩行や立ち上がり動作などの身近な運動を実例として取り上げ、理解を深める。	
			心身の健康	コミュニケーション論	対人援助職である理学療法では、患者やその家族との関係の持ち方や、チームを構成する他職種との連携のあり方が重要となる。本講義では、コミュニケーションの基本について学ぶことを通じて、対人援助のために必要な基礎的なコミュニケーション能力を培う。また、患者やその家族と信頼関係を構築するために必要なコミュニケーションスキルを身に付け、臨床実習等で役立てることを目的とする。	
				心理学	現代社会において、心の健康が身体の健康に及ぼす影響が大きいことは明らかであり、健康維持増進に関わる知識を習得するための一分野として、心理学を学ぶことは意義深い。心理学には様々な分野があり、扱う範囲も幅広く、興味を持つ人は多いものの、個人ごとに捉え方が違っていることも多い。この科目は初めて心理学を学ぶ人が、心理学とはどのような学問であるかを知り、心理学の基本的な考え方や研究方法、学問成立の背景などを学ぶことで健康増進分野で心身両面からのアプローチを考案、活用できる基礎力を培うことを目的としている。	
				ヘルスプロモーション論	ヘルスプロモーションとは、人々が自らの健康をコントロールし改善できるようにするプロセスのことである。ここでは健康とはなにか、日本における健康づくり運動の変遷を学び、健康増進の基本的要素である運動・栄養・休養と健康との関連について理解する。さらに、社会で取り組まれている様々なヘルスプロモーション活動を調べ、自らのヘルスプロモーターを考える。	
				栄養学	栄養とはどういうことか、私たちの体を作るのは自らが摂取する栄養素であり、それを選択するのは自分自身である。まずは五大栄養素の働きについて知り、体内でのそれらの代謝について理解する。エネルギー代謝や血糖調節等は生理学や運動生理学とも共通する重要事項であるのでこの科目においても取り上げ、人間の身体機能と栄養素の関連について多面的に理解できるようにする。この科目では、栄養学を学ぶために必要な基礎知識の修得や、特に生理学から栄養学への知識（特に消化吸収過程）のつながりを理解することを主な目的とする、栄養を利用する側の人体の消化吸収機能について理解する。	
				発育発達学	胎児期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期までのライフステージを通じた人間の発達について、運動器の発達を中心に認知能力や社会性、言語・嚥下機能の発達など、発達という現象を多面的に学修する。また、これらの知識をもとに子どもの多様な疾病や障害に対応できるようになることを目的とする。さらに、子どもの発達の理解だけでなく、人としての成り立ちの理解を得て、他者理解ひいては自己理解に発展させる。	
				社会福祉概論	社会福祉という言葉は児童福祉や障害者福祉等の具体的な制度や法律、それらにもとづく活動、実践をあらわす場合と制度やサービスが目指すべき目的あるいは理念や信念をあらわす場合があり、前者を実態概念としての社会福祉、後者を目的概念としての社会福祉とよぶ。社会福祉を学ぶにあたっては2つの社会福祉の意味の違いに注意しながらその両方を学ぶ必要がある。 歴史的には慈善、博愛、救済の流れをもちながら発展してきたものであり、現代社会においては社会生活を営む上で直面する生活上の困難な問題に対応する社会的施策の総体として理解することが出来る。 私たちは自分が生活するにあたって病気、低所得、保育、身体障害、高齢化等に関連して様々な不都合に直面するときに、社会福祉の恩恵を受けるのであるが、現実的には必要に迫られるまで関心を持たないことも多く、自らの問題として社会福祉に関する知識や問題意識を持つことは生活を送る上で誰にとっても非常に大切なことである。	
			生涯スポーツ	生涯スポーツ実習 A	本科目では、様々なスポーツの中でも個人で取り組むことに特徴がある種目をいくつか選択して取り上げ、実践を通して必要な知識やスキルを身に付ける。自身で楽しむことはもちろん、互いに教えあい、改善しあうことによって競技力向上を目指しながら、コミュニケーション能力を養い、それと同時に生涯に渡ってスポーツに参加でき、スポーツを楽しめる姿勢を育み、自分だけでなく他者に対して指導やサポートができるようになることを目的とする。	

専 門 科 目	学 科 共 通 科 目	健 康 分 野	生 涯 ス ポ ー ツ	身体・スポーツ文化論	スポーツは、心身の健康、豊かで充実した生活、教育などに必要不可欠なものであり、地域コミュニティ醸成、経済発展、国際友好・親善にも貢献するものと認識されている。本授業では、様々な事項とスポーツとの関係から、文化としてのスポーツについて（特に自身とスポーツとの関わりについて）考えを深めていくことを目的とする。	
				生涯スポーツ実習B	本科目では、様々なスポーツの中でも集団で取り組むことに特徴がある種目をいくつか選択して取り上げ、実践を通して必要な知識やスキルを身に付ける。自身で楽しむことはもちろん、互いに教えあい、改善しあうことによって競技力向上を目指しながら、コミュニケーション能力を養い、それと同時に生涯に渡ってスポーツに参加でき、スポーツを楽しめる姿勢を育み、自分だけでなく他者に対して指導やサポートができるようになることを目的とする。	
				生涯スポーツ論	生涯スポーツとは、自分の楽しみや健康のために、「いつでも、誰でも、どこでも」気軽にスポーツに取り組むことである。自分のライフスタイルや興味に応じてスポーツに取り組むことは、健康の維持・増進に加え、毎日の充実や生きがいに繋がる。本科目では、生涯スポーツの意義と役割を理解し、自らが生涯にわたって運動・スポーツに取り組む姿勢を身につけることに加え、生涯スポーツに取り組む人々を支えるために必要な知識を身につける授業とする。	
	情 報 分 野	デ ー タ サイ エ ン ス	人工知能	データサイエンス基礎	ほとんどの社会活動において、データに基づく意思決定が行われている。その背景にはデータを蓄積し分析できるの情報化社会の進展に依るところが大きい。しかしながら、間違ったデータ収集、データ蓄積、データ加工、またはデータ分析は意思決定の誤りを招く。本講義では、データに基づいて意思決定や課題解決を行っていくデータサイエンスの入門編として、人文科学、社会科学、自然科学、いずれの分野においても必要とされる記述統計、推測統計学の基礎をベースとして重要な統計学の考え方と統計解析の手法を演習形式も含めて習得することを目的とする。 内閣府AI戦略2021における数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）のデータサイエンス基礎及びデータエンジニアリング基礎に基づいて、基本的な概念と手法、応用例を学ぶ。	
					人工知能（AI: Artificial Intelligence）とは、人間が持つ学習・推論・理解・創造といった知能（知的活動）を、コンピュータを用いて人工的に実現しようとする学問である。人工知能技術は、知識型AIとデータ駆動型AIの2つのアプローチに大別される。知識型AIは、計算機上に表現された知識に基づいて必要な解答や知識を導出する。一方、データ駆動型AIは、大量のデータから、数理モデルやアルゴリズム等に基づいて、法則性や関係性を導出する。AI技術を現実世界の諸問題に適用するためには、これら双方のアプローチから適切な技術を選択することが重要となる。本講義では、このような課題に応じたAI技術を適切に選択・適用できる実践力を養成することを目指し、人工知能の基本的な技術要素について講義する。具体的には、探索、知識表現、論理・推論、知識処理といった知識型AIの技術を中心に講義を行う。一部の学修内容については、「知識をコンピュータでどのように扱うか？」という知識モデリングに関するエンジニアリングデザイン能力を習得することを目指し、演習をまじえた形式で行う。その後、データ駆動型AIの基本的な技術である機械学習、ニューラルネットワーク・深層学習について講義したのち、最後に総括として、今後の人工知能技術の展望について論じる。	
				プログラミング応用実習	プログラミングは技術者の基礎となる知識であり、特に、マイコンを制御するための重要な技術である。ここでは、医療機器などに用いられるマイコンを制御するための必要な基礎知識とプログラミング言語のC言語を用いたプログラミングができるようになることを目的とする。また、医療機器などの機器には必ずマイコンが装備されているため、その原理を理解するための基礎としても重要な内容である。これらの実習を通じて、マイコンの制御に必要なプログラムの構築の基礎素養の重要性を理解する。	

専 門 科 目	学 科 共 通 科 目	情 報 分 野	データサイエンス	データ処理プログラミング	現在、GUIを用いた様々なアプリケーションの普及により、プログラミングの上級者でなくとも、シミュレーション、計測、制御などを効率よく実現することが可能となっている。この演習では、世界中の何百万人もの科学者が使用している技術計算ソフトMATLABを使って、プログラミングの基礎、数値計算、データ処理・解析などのデータサイエンスを実践的に学び、理解できるようになることを目的とする。	
				医療健康統計入門	近年の深層学習やビッグ・データ分析の流行にともない統計学への社会的注目度はより一層高まっている。健康分野とスポーツ分野でもその動きは顕著であり、健康関連食品の機能評価における統計分析は科学的根拠を示すことが重視されるようになってきた。スポーツ分野においても単にスポーツ競技能力の向上のためのデータ分析というだけでなく、プロスポーツのテレビ中継においてもさまざまなデータがリアルタイムに画面上に表示されゲーム展開を視聴者にも理解しやすい形で情報提供されることが多くなりわれわれのより身近なところに統計学の利用が展開されるようになっている。 (オムニバス方式／全13回) (5 越野八重美／ 7回) 基本統計手法 (16 中村英夫／6回) 検定・推定手法	オムニバス方式
				医療健康統計演習	統計学は、さまざまな分野において現象についての背景や意味を理解するために利用される。健康スポーツ関連分野においても、運動や食事調査などでは昔から統計データによる指導が実施されたり、近年ではプロスポーツを中心にデータ分析による競技力向上のためのトレーニングやゲーム・マネジメントが実施される。本演習は、主に医学及び健康スポーツ分野におけるデータを取り扱う上で必要不可欠な統計学的手法の概念と計算方法について演習を通して学修すること目的とする。また、近年の調査データの統計学解析法は、コンピュータ・ソフトウェアシステムを利用したものが一般的である。統計解析ソフトウェアがインターネットから簡単に入手できるようになり、それらを学習しておくことで各分野において科学的な調査を実践できるようになることが社会的に求められている。	
				医療データサイエンス演習	近年、医療現場においても情報通信技術ICTによって膨大な診断・診察データ（ビッグデータ）の収集が容易になり、デジタル化された根拠データ（エビデンス）に基づいた医療EBMが浸透して発展している。EBMを実施するためには、ICTだけでなく診断・診察データなどの解析や人工知能AIのスキルを持ったエンジニア（医療系データサイエンティスト）が必要である。本演習では、医療で活用されているICT、AIやデータサイエンスの概念、知識について活用事例を知ることによって学ぶことを目的とする。具体的には、医療系データサイエンティストとしての基礎スキル習得を目標に、前半では、データサイエンスの基本および生体情報などの実データを使用した応用ソフトウェアによるデータ分析方法、医療健康データの管理・マネジメント方法などについて学習する。後半では、AIの基本および手法などについて応用ソフトウェアを用いて学習する。	
			情報工学・システム	情報工学基礎演習	現在、あらゆる環境においてコンピュータが用いられており、医療現場においても例外なく様々な場所でコンピュータが活躍している。そのため、情報技術のエンジニアはもちろん、臨床工学技士においてもコンピュータ内における基礎的な情報の取り扱いからその応用手段にいたるまでを正しく理解することは必要不可欠である。この講義では、情報理論に始まり、コンピュータがそれをどのように扱い、処理するのかを基本にハードウェア構成（デジタル回路）について知り、理解できるようになることを目的とする。	
				情報システム工学	生体の一つのシステムと考え、その機能を解析し、理解することは、臨床医工学、医療機器・生体センシング、健康機器、知能情報システムの開発において必要である。この授業では、システム解析の基礎数学であるラプラス変換について説明し、入出力、静的システムと動的システム、システムの伝達関数とインパルス応答、ステップ応答、周波数応答、システムの安定性、医療分野への応用に関する知識について学び、理解できるようになることを目的とする。システム工学は臨床工学技士国家試験出題基準にある（毎年出題される）項目であり、脳の働きをモデル化する知能情報学の基礎的な分野である。 システム工学の応用例として、外科手術ロボット、中枢神経系のモデルと人工知能、心電計の雑音除去、観血式血圧トラスンデューサの特性改善、除細動器の通電電流の制御などを説明し、医用治療機器におけるシステム工学的アプローチ（解析法、システム設計）の基礎を修得し、臨床医工学のシステム工学的アプローチについて知り、基本的な考え方を学ぶ。	

専門科目	学科共通科目	情報分野	情報工学・システム	医療情報システム	近年、医療を取り巻く情報技術は充実の一途をたどり、単なる院内ペーパーレス化だけでなく情報の共有、分析、処理に至る一連の自動化にも寄与している。そのシステムに関する理解、操作及び開発に必要な技能は、その専門に携わる者以外にも求められるのが現状である。本講義では、医療情報システムの理解に必要な医学的知識及び情報技術に関する基本的な事項について、事例を含んで学修することを目的とする。特に情報技術については、コンピュータネットワークの基礎から十分に学ぶ。 (オムニバス方式／全13回) (11 新川拓也／7回) 情報技術について (71 岡崎浩也／6回) 医療情報学について	オムニバス方式
			スポーツと情報	スポーツ情報学	普段の私たちの便利な暮らしは、コンピュータ、スマートフォンやタブレット、インターネットなど、さまざまなICTによって実現されている。本科目では、ICT、その基盤となる情報システムやネットワークの基本的な仕組みや活用方法について、最新のニュースやトピックを交えて学ぶ。そして、ICTの暮らしへの活用、運動やスポーツの計測や分析、指導やトレーニングへの応用の仕方について考える授業とする。	
				スポーツ情報学演習	本科目は、演習を通して運動・スポーツにおける各種データとそれを取り扱うための基礎的スキルを身に付ける授業とする。前半は、各スポーツ種目を取り上げ、それらに含まれるデータに人文科学、社会科学、自然科学の3観点からアプローチし、その特徴を理解するグループワークを行う。後半は、それらを収集・処理して解釈する効果的な方法について演習を通して学ぶ。 (オムニバス方式／全13回) (9 中井 聖／7回) 各スポーツ種目に含まれるデータへの科学的アプローチ (16 中村英夫／6回) 各スポーツ種目に含まれるデータの収集・処理・解釈の方法の理解	オムニバス方式
				ゲーム分析実習	野球、バスケットボール、バレーボール、サッカー等の各球技種目を取り上げ、ゲーム中に含まれるプレイを細分化して理解し、それらをコーディングシステムを用いて分析する基礎的知識及びスキルを身に付ける。また、得られたデータを解析し、戦術・戦略に活用するためのデータの処理方法やその解釈、選手やコーチに対するコミュニケーションの仕方について学習する。	
				スポーツ計測システム実習	近年、スポーツ分野におけるICTの活用が目覚ましい。野球やサッカーなどでは、ほぼリアルタイムで選手の動作やスタッツを分析する技術が導入され、エンターテインメント性の向上に寄与している。また、ドローン、GPS、加速度計や心拍計といったウェアラブル機器が、サッカーやラグビーなどのフォーメーションスポーツのパフォーマンス向上のために利用されている。ICTは今後さらに発展し、スポーツ分野への導入はますます加速することが期待される。本科目では、各種計測システムを用いてスポーツ時の生体情報や動作の解析を実践するとともに、得られたデータを処理してスポーツパフォーマンス向上に繋げるための一連の流れを理解する授業とする。 (オムニバス方式／全13回) (9 中井 聖／5回) モーションキャプチャーと動作解析の基本 (1 太田暁美／4回) 心電図による心拍解析、超音波装置による筋腱のふるまいの分析 (16 中村英夫／4回) ドローンやウェアラブル機器を用いた解析	オムニバス方式
				スポーツ工学	スポーツ工学は、運動・スポーツ時の身体や用具の動きに工学的にアプローチしてそのしくみを明らかにし、新しい技術を開発する試みである。本科目では、基礎運動学やスポーツバイオメカニクスといったこれまでの学びをベースに、身体やスポーツ用具の動きとしくみへの理解を深化させ、運動・スポーツ実施者の身体特性や技能レベルに応じて効果的なスキルや用具を提供できるようになるための知識を身に付ける。	

専門科目	学科共通科目	情報分野	スポーツと情報	スポーツ計測システム開発実習	本科目では、「スポーツ計測システム実習」で学んだ運動・スポーツ時の生体情報や動作の基本的な分析方法の知識をベースに、Matlab、LabView、Pythonのような数値計算・プログラミング言語やツールを用いて、研究目的に合わせて計測システムを新規で作成したり、既存システムをカスタマイズしたり、データ処理を簡易化したりする実習を行う。 (オムニバス方式／全13回) (9 中井 聖／4回) Matlabを用いた計測システム開発 (16 中村英夫／5回) LabViewを用いた時系列信号処理システム開発 (21 松長大祐／4回) Pythonを用いた計測システム開発	オムニバス方式
				スポーツシミュレーション	これまでの学びの中では、運動・スポーツ中のからだやスポーツ用具の動きを、モーション・キャプチャーや加速度計等のセンサーを使用した「動作計測手法によるアプローチ」によって観察・評価してきた。本科目では、運動・スポーツ時の動きを解釈してモデルを作成し、最適化シミュレーションを行う「最適化モデル・シミュレーションによるアプローチ」に必要な基本的な知識と技能を身に付ける演習を展開する。	
	アカデミックス	スキル	プレゼミ	○	本科目では、研究における倫理や研究室における基本的ルール、卒業研究のテーマや仮説の設定の仕方、それらを明らかにするための実験や調査によるデータ収集、その後のデータ分析や統計処理の仕方、成果のまとめ方、プレゼンテーション方法など、研究に関する基礎的知識や技術を身につける。本科目の学習を通じて、学部4年生の卒業研究の遂行に必要な、各自がテーマを設定して仮説を立て、それを検証するために相応する実験や調査によってデータを収集・処理・分析し、それに基づいた考察を行って卒業論文にまとめるための基礎を修得する。	
			ゼミナール	○	本科目では、これまでに学んだ卒業研究のテーマやリサーチクエスチョン、仮説の設定の仕方、それらを明らかにするための実験や調査によるデータ収集、その後のデータ分析や統計処理の仕方、成果のまとめ方についての基礎的知識及び技術をもとに、自ら興味・関心のあるテーマを選択し、研究計画を作成する。本科目の学習を通じて、学部4年生の卒業研究で行う、各自がテーマを設定して仮説を立て、それを検証するために相応する実験や調査によってデータを収集・処理・分析し、それに基づいた考察を行って卒業論文にまとめるためのスキルを深めることを目的とする。また、これまでの学びを振り返り、それらを活かしたキャリア形成を実際的に図る。	
			卒業研究	○	卒業研究は学部教育の集大成となる。各自に設定されたテーマについてデータを収集・処理・分析し、あるいはシステム設計や製作を行い、それに基づいた考察を行って卒業論文にまとめる。卒業研究の成果は、卒業研究発表会において発表し、口頭試問と卒業論文の審査に合格する必要がある。卒業研究の取り組みは、これまでに専攻で学んだ知識を実際に応用する機会となる。教員や研究室の仲間とのディスカッションを通じて理解を深めることができ、新たな問題を探し出す探求心の育成に働く。これらは、社会人として資質能力の向上につながるとともに、将来役立つ人間関係を築くことが期待される。	
	医療工学関連科目	数学	基礎解析学Ⅰ演習		工学系・情報系のどの分野においても数学の基礎知識は必要不可欠である。特に、微分・積分を中心とした解析系分野に習熟していることがさまざまな場面で必要となる。その基本となるのは初等関数であり、これらを使いこなすことができることが肝要である。この科目は、本学で専門的な勉強を行うために基礎となる解析学の導入部分である初等的な関数を学ぶことを目的とする。具体的には、これまでに学んできた数学とのつながりを考慮しながら、講義と演習を通じて1次・2次関数、指数・対数関数、三角関数、複素数、微分の初歩などを扱う。	

専門科目	医療工学関連科目	数学	基礎解析学 2 演習	微分積分学は17世紀にニュートン、ライプニッツによって創始されたものであるが、18世紀に至りオイラー、ラグランジュの研究により、ほぼ今日の形をとるに至った。それ以降、微分積分学は自然科学、工学の諸分野で広く用いられ、逆にこれらの分野の諸問題が微分積分学の内容を豊かにした。微分積分学は、微分方程式さらにベクトル解析と呼ばれる高等微分積分学 (advanced calculus) あるいはもっと広く数理科学と呼ばれる分野につながるものであり、本学の専門科目を履修・理解するのに必要な基礎知識、工学の基礎知識となるものである。この授業では、理工系学部・学科に共通な基礎数学の修得を目的とする。具体的には、1変数関数の微分積分法について、基本的な関数の扱いに重点を置き、またそれぞれのテーマについてもポイントを絞り、平易な解説と演習を行う。まず、ネイピアの数eを底とする指数・対数関数や三角関数・逆三角関数の定義と基本的な性質からスタートし、関数の極限を通して微分係数及び導関数の定義を学ぶ。次に、与えられた関数の微分計算がどのような公式にもとづいてなされるのかを系統的に学ぶ。特に、微分計算において重要な合成関数の微分法を、繰り返し演習を行うことによってその計算法を習得する。微分の応用においては、関数の変化の様子をとらえる手法と、テイラーの定理に力点を置き演習を交えながら学ぶ。積分法においては、微分の逆演算としての不定積分のさまざまな計算手法(置換積分、部分積分、有理関数の積分)を、繰り返し練習することによって習得する。つづいて、定積分の概念と計算法を学ぶ。積分の応用においては、図形の面積や回転体の体積などテーマを絞って演習を交えながら学ぶ。	
			線形代数	線形代数は、情報科学、データサイエンス、工学の諸分野においては、理論体系とモデルを構築する際に広く応用され、重要な科目である。特に、コンピュータを用いて数値計算を行ったり、データ解析を行う時には、ほとんど全ての計算が、線形代数、具体的にはベクトルと行列の計算に帰着されるといっても過言ではない。この科目では、ベクトルと行列の計算及び、連立方程式の解法を学び、さらに、行列式の計算、ベクトル空間、線形写像、固有値と固有ベクトルについて学ぶ。その知識を活用することにより最先端の技術革新に対応できる力を身につけることができ、また、授業のなかで演習問題を解くことにより基礎的な知識と計算力を体得できる。	
			微分方程式	微分方程式は自然科学、工学及び社会科学などの諸分野で不可欠の数学的道具である。これらの分野に現れる諸現象の多くは微分方程式を用いた数理モデルとして表され、その方程式を解くことにより、過去のデータから将来に起こりうる現象結果を予測することも可能となる。この授業では、1階線形微分方程式、変数分離形の微分方程式、2階線形微分方程式それぞれについて、解法とその応用を学ぶ。また後半では、ラプラス変換とその応用を学ぶ。ラプラス変換は、パルス波など不連続な外力の取り扱いに有効である。これらの知識を組み合わせることで活用することにより、与えられた理工学の課題に着手して問題解決まで到達できる。	
			解析学	主に数学の教員免許(中学・高校)の取得を目指す学生向けの科目であり、通常の数学系科目ではあまり扱われない理論的に深い部分や、数学を教えるために必要な深い理解を目指す。中学や高等学校の数学は、多項式関数、指数関数、三角関数の微分積分へと至る道を大きな目標としている。これらの関数は解析学の基礎であり、数理科学やその応用を理解する上で必須であるといえる。またこれら関数の基本を支えているのは実数概念である。実数概念はその精密な理論はかなり難しく、中学・高校では深く立ち入ることなく直感に訴えて導入されているが、教員はより深く理解している必要がある。多項式関数、指数関数、三角関数から、四則演算と逆関数により得られる関数を初等関数というが、これらは、多項式近似あるいはテイラー展開(整級数展開)を用いることにより、統一的に理解されて来た。また、三角関数はオイラーの公式を通して指数関数と同様に扱うことが出来る。これらのことを踏まえて、この科目では、中学・高校で深く掘り下げないで済ませてきた部分に着目しながら、論理について、数(特に実数)について、関数について、初等関数について、微積分の基本についてなどを学んでいく。これにより中学・高校の数学の教員免許取得を希望する学生にとって、基盤となる知識と応用力を習得する。	

専門科目	医療工学関連科目	数学	確率・統計		ある調査や実験を行った場合には何らかのデータを得ることが出来る。これらのデータを用いて”新しい事実”や”新しい知見”さらに”これまで分からなかった傾向”などを見出すためには、データ分析をする必要がある。データ分析の手法は数多くあるが、”統計学”はデータの比較や推測あるいはデータ集団の特性などを考えるうえで極めて重要な学問である。本講義では、特に卒業研究で使用する場合を想定した基礎的な統計手法とその理論を取り扱い、演習問題などを交えながら理解できるようにする。さらに、統計学的品質管理の概念を取り上げ、品質管理の7つ道具を用いた分析と医療技術への応用について学び理解できるようにする。	
			医用数学		臨床工学に関連する電気や物理の講義で必要となる複素数、微分方程式の基礎について理解することを目的とする。講義では基本的な内容及び解法について説明する。また、講義内では多くの問題を実際に解くことで、複素数に関連する問題を解く、微分や積分に関連する問題を解く、変数分離を用いた微分方程式に関連する応用問題を解くことができる力を身につける。	
			応用数学と臨床医工学		臨床医学の中で起こる事象が、数学モデルを用いると容易に理解できることがある。数理的モデルを生物や物理に適用して生体で起こる現象も、治療原理も偶発事象ではなく規則や法則に裏付けられることを理解することを目的とする。具体的には、身近な現象を理解するため微分方程式などから数理モデルへの当てはめ方を学び、実際の医療にどのように応用されているのか、その応用の理由を数学的に理解する。	
		物理	基礎力学演習		物理学は広く自然界の物理的現象を扱うが、力学はその一つ分野、特に運動に関連した物理法則をまとめて学ぶもので、理工学はもちろん医療の分野でも非常に大切な基礎的学問である。「力学演習」は、物体の運動を中心とした質点の力学を基礎から学ぶのに適した科目である。力学的な法則や公式は、微分・積分を用いた数学的表現で表されることも多いが、この法則の理解は単に公式としてではなく、具体的な物理的イメージと関連して理解しておくことが何よりも大切である。身近な運動の現象を取り上げて、演示実験も交えながらその法則性を確かめていくとともに、実際に数値を伴った簡単な演習によって理解を深めることを目的とする。	
			基礎物理学		健康情報学科ではヒトを対象とした解析または医療機器などの操作や保守の技術を修得することを目指している。ヒトを対象とした解析や医療機器の保守に不可欠な基礎知識のひとつが物理学であり、その知識と物理学に基づく考え方の理解が必要になる。また臨床工学技士の国家資格においても物理学の知識と理解は重要であり、必ず習得すべきものとなっている。本講義では、物理学を学ぶための基礎知識である、単位と有効数字、直線運動における位置・速度・加速度、ベクトル、平面運動、さらにニュートンの運動の法則を演示実験も交えながら学び、物理学の基本的な考え方を身に付けることを目的とする。	
			物理学入門		医療分野で使用される医療機器は、様々な物理の法則に従って動作している。医療と物理との深い結びつきを知り、医療で使われている物理法則について学ぶ。本講義では、超音波診断装置で使用する音波の性質や内視鏡で使用するレンズの性質などを理解することを目的に、単振動や波の伝搬、音波の反射やドップラー効果などの諸性質を学び、物理学の基本的な考え方を習得する。	
		医学	免疫学		免疫学の核になる液性免疫と細胞性免疫について解説し、抗体と白血球の働きについて基本的な概念について理解する。講義内容は免疫学の基本とそれに関係する疾患について、特に临床上重要な感染症、ワクチン、アレルギー、腫瘍、輸血、移植免疫、自己免疫性疾患を例に学習する。そして、これらを説明できるようにすることと、我が身を守る知識と技術を身につけることが最終目的である。	
			生化学		生化学は生命現象を物質レベルの変化で説明しようとする学問である。生化学の知識ならびにその思考法は生命現象の理解のみならず疾病を理解するうえで重要であり、医療を学ぶ者にとっては不可欠な科目である。生体のエネルギー生成過程を細胞レベルで説明できるようにすることを目的とする。	

専門科目	医療工学関連科目	医学	臨床生化学		生物学はDNAの発見以降、生命は神秘的な存在から物質と細胞活動の反応によってなされていることは明白となり、単一細胞の増殖や分化などが明らかにされ、それらが作るネットワークシステムこそが生命活動や、人体である。そのシステムでサイトカインなどの伝達物質や、それによる遺伝子の発現・活性の変化などが疾病を引き起こしている。さらに、これらから自然が作らなかったiPS細胞に代表されるバイオテクノロジーが移植医療・再生医療に応用され、また10年以上かかったヒューマンゲノムプロジェクトも逆に応用されて今や1日以内で可能な時代になっている。検査や治療の領域に、これらの知識が頻繁に使用されるのも遠い将来ではないので、基本的知識を理解すること臨床応用へ繋がろうとしている研究を紹介することを目的とする。	
			病理学		疾病の成り立ち（病因と病態）について、細胞・組織の変化から学ぶことで、疾患の三大病理学的変化すなわち、炎症、腫瘍及び循環障害（虚血）で各臓器を横断的に理解できるようになり、また、疾患の形態学的な異常（病変）を病理生化学的に考察し、ミクロ及びマクロの観点から理解し基本的な知識を理解できるようになることを目的とする。 （オムニバス方式／全7回） （15 橋 克典／2回）病理学の概論及び演習 （55 奥野高裕／5回）病理学の各論	オムニバス方式
			薬理学		薬理学は薬物の効果や有害作用のメカニズムを解明し臨床に応用できるようになることを目的とする。本授業では、その基礎的知識として薬物の作用機序、体内動態、薬効、有害作用について理解を深め、臨床で常用されている薬剤の主作用、副作用について説明できるようになる。具体的には、自分自身がくすりを服用する際に、くすりの情報（作用、有害作用など）を確認できる。また、くすりの作用機序を生理学、生化学を踏まえて正しく理解し説明できる。さらに、くすりの有害作用を理解できるようになることを目的とする。	
			基礎医学特別演習		内科学を中心に循環器・呼吸器・腎疾患、内分泌、消化器、臨床検査に関する概念とDIC・MOFなどの病態を理解する。講義内容は基本と特に臨床上重要疾患を例にしながら学習する。そして、それらを臨床の現場で、第三者に説明できるようになり知識と正しい実践も併せてできるようにする。到達目標は体の仕組みと、その異常が理解できるようになることである。	
			臨床内科学総論		臨床医学における病態生理を主に呼吸器疾患、循環器疾患、腎疾患、消化器疾患、脳血管疾患について述べると共に、その検査方法や治療方法について学び、理解できるようになることを目的とする。またこれらの疾患に利用されている機器の原理構造や治療技術について学ぶ。さらに医用画像装置や治療・手術について概説し、インターベンションについても学ぶ。	
			臨床外科学総論		外科学の概要及び手術室、手術器具、麻酔・集中治療学について学び、手術室での清潔・不潔について知り、理解できるようになることを目的とする。具体的には、手術時の清潔・不潔の概念を理解し、外科手術時の機器操作や管理を説明できること。また、外科学の概要が理解できること、さらに、麻酔の概要が理解できること、また、講義を通して先端外科医療機器についての知識を身につけることを目的とする。 （オムニバス方式／全13回） （15 橋 克典／2回）臨床外科学の概論及び演習 （76 得丸智弘／11回）臨床外科学の各論	オムニバス方式
			チーム医療概論		現代の医療現場において高度化する医療ニーズに対応するため、各医療専門職種が連携し総合的にサービスを提供することが求められている。そのためには、専門職種の理解、疾病と医療チームの関係、医療チームによる患者対応について実践例を展開し解説、患者の心理を考え、どう働くべきかという視点から、それぞれの医療専門職の役割と連携について理解することを目的とする。	
			応用医学総論		これまでの臨床医学だけではなく、これまでに取り扱うことのなかった認知症、退行性変成疾患、遺伝的疾患などや新しい薬物治療などについても教授する。また近年開発された最先端治療についても教授するとともに、従来の救急医療、心肺蘇生方法、呼吸管理、循環管理、ICU管理、移植医療などについても教授する。またパンデミック対策などや減菌のバリデーションなどについても教授する。	

専門科目	医療工学関連科目	医学	臨床医学特別演習		臨床工学技士の国家試験における「臨床医学とその関連分野」の過去問を中心とする演習を行い、「臨床医学とその関連分野」に対する理解を深める。具体的には、内科疾患について理解する。また、外科学疾患・麻酔学・集中治療学疾患について理解する。さらに、臨床医学・基礎医学・社会医学の関連分野について理解する。臨床工学技士の国家試験問題の過去問の演習に関して、60%以上の正答率を得ることを目的とする。	
		電気・電子工学	基礎電気工学		心電計、筋電計をはじめ、種々のME(Medical Electronics)機器には、さまざまな電気回路が組み込まれている。また、人間の生体機能を理解するために、生体組織をしばしば電氣的に等価な回路に置き換えることがある。したがって、電気回路の知識は、将来医療技術者を志すものにとって必要不可欠なものといえる。本講義では、電気回路の基礎的な知識について学び、理解できるようになることを目的とする。特に、回路素子の説明を交えて直流・交流回路、磁界、電磁誘導について、基本的な事項を重点的に学ぶ。さらに、十分な問題演習を加える。	
			応用電気工学		電気回路の知識は、将来医療技術者を志すものにとって必要不可欠なものである。電気機器の設計は言うに及ばず、それを取り扱う際の知識としても必須であり、トラブルの対処には危険防止の観点からも重要である。本講義では、電気回路の過渡現象及び微分積分回路などの電気回路について学び、理解できるようになることを目的とする。また、電気回路に関する問題演習を中心に学習を進める。	
			電気電子工学実験	○	電気回路学及び電子回路学に関連する基礎的な知識と実践力を養成するために、ブリッジ回路、ダイオード、交流回路などの電気電子に関連する基礎実験を行い、さらに過渡応答、オペアンプ、フィルタ回路などの実験を進める。本実験を通じて、測定機器の取り扱いや理科系文章の書き方とグラフの描き方、各実験内容における理論と実験との対応関係の理解、実験に対する定量的考察などの基礎力を養成する。	
			基礎電子工学		生体情報計測学、医用治療機器、医用機器安全管理学、人間を支援する知的情報システムの基礎となる医用電子工学の内容、具体的には心電図、脳波、筋電図などの生体電気信号や生体情報を計測する電子回路の構成、動作原理について学ぶ。 電子回路シミュレータによる電子回路の動作、心電図や筋電図、光電脈波を計測する仕組みに関する実験動画を視聴し、生体情報計測に関する電子回路の基本設計ができるようになることを目的としている。また、臨床工学技士国家試験出題基準にある医用電子工学分野に関する知識・問題解法について学ぶ。医療機器の動作の理解、開発・設計の基礎知識を修得すると共に新しいアイディアの知能情報システム開発を目指す知識を身につける。	
			応用電子工学		応用電子回路学では、生体計測学、臨床検査機器、医用治療機器、医用機器安全管理学の基礎となる医用電子工学の内容、具体的には心電図、脳波、筋電図などの生体電気信号や生体情報を計測する電子回路の構成・動作原理、無線テレメータ・遠隔医療に関わる情報通信工学について学ぶ。 主体的に学習できるように電子回路シミュレータによる電子回路の動作、実験動画を視聴し、生体情報計測に関する電子回路の基本設計ができるようになることを目的とする。また、臨床工学技士国家試験出題基準にある医用電子工学分野に関する知識・問題解法について学ぶ。医療機器の動作の理解、開発・設計の基礎知識を修得すると共に新しいアイディアの知能情報システム開発を目指す知識を身につける。	
			医用電気電子工学演習		臨床医工分野では、電子技術や情報技術の革新により新しい医療機器が開発され、医療現場で使用されており、医学的・工学的な専門知識を有した人材が求められている。特に、工学と医学の専門知識を有した医療従事者である臨床工学技士は、医療機関ならびに医療関連企業では欠かせない存在であり、近年、非接触モニタリングや遠隔医療への対応も強く求められる。 このようなニーズに応えるために、本演習では、電気電子工学の基礎知識を応用し、生体計測や医療機器制御分野にも活用できる能力を養成することを目的とする。具体的には最新の臨床工学技士国家試験出題基準に準拠した医用電気工学・医用電子工学に関する演習を行い、記憶に頼るだけの問題だけでなく、幅広く複数の領域にまたがる問題、考え方を問う問題にも対応できる力を養う。	

専門科目	医療工学関連科目	電気・電子工学	医用情報工学演習		現在、あらゆる環境においてコンピュータが用いられており、その生活密着度は極めて高く、それを取り扱う役目を担う技術者の社会的役割は非常に重要である。医療の分野においても例外ではなく、電子カルテやオーダーリングシステムに加え、医療機器そのものに内蔵されるコンピュータについて、基礎的な情報の取り扱いからその応用手段にいたるまでを正しく理解することは、必要不可欠であることは言うまでもない。本講義では、臨床工学技士国家試験に出題される分野を中心に、情報を如何に処理するのかを基本にハードウェアとソフトウェアの構成、計測、制御分野におけるコンピュータの扱いからコンピュータネットワーク構成及びその運用について学び、理解できるようにすることを目的とする。なお、その内容に関する演習も行う。	
			医用工学特別演習		医用工学に関連する総合力を養成するために、生体計測装置学、医用機械工学、医用電気工学、医用電子工学、情報通信工学、生体物性、材料工学を集中して講義する。また、総合演習では、臨床工学技士国家試験対策として実践的な演習を実施し、基礎力を確認することを目的とする。 (オムニバス方式／全13回) (13 藤川智彦／2回) 医用機械工学に関連する講義・演習及び理解度の評価 (74 辻竜之介／3回) 医用電子工学・生体物性に関連する講義・演習及び理解度の評価 (12 日坂真樹／3回) 生体計測装置学に関連する講義・演習及び理解度の評価 (18 水野裕志／3回) 情報通信工学・材料工学に関連する講義・演習及び理解度の評価 (19 小出卓哉／2回) 医用電気工学に関連する講義・演習及び理解度の評価	オムニバス方式
	機械工学		医用機械工学演習		臨床工学技士は機械や機器の特性に関する知識である医用機械工学の修得が必要である。この医用機械工学は基礎力学、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学、波動から構成されており、それぞれの分野を融合した知識が必要となる。ここでは、臨床工学技士の国家試験問題に沿った演習をおこない、国家試験に対応できる基礎学力を身につけることを目的とする。	
			医用材料工学		医療機器や人工臓器で使用される材料を医用材料という。医用材料は、生体組織や血液に接触もしくは生体内に埋め込んで初めて生体への効果が発揮できる材料である。医用材料を理解するには、材料の構造や特性を理解するための化学・物理だけでなく、生体に対しては血液凝固や毒性・異物反応などを理解するための医学的知識も必要であると同時に、各医療分野で使用されている医療機器に「どのような材料が使われているか?」「この材料は、どのような目的で用いられているか?」「どのような性質を持った材料か?」などを知っておく必要がある。この講義では、実際に使用されている医用材料である高分子系・金属系・セラミックス系、さらにタンパク質などの天然高分子系などを取り上げて医用材料の基礎について演習を交えて学び、理解できるようになることを目的とする。	
			生体物性工学		生体組織に力が加わるとどうなるか(変形、破壊?)、電流を流すとどうなるか(ビリビリ感じる?)、光を照射するとどうなるか(日焼け)?など生体組織の特性や反応について学習する。この生体物性工学で学ぶ内容は、生体計測、治療機器、医用安全管理、デジタルヘルスケア技術に応用できる。生体物性には、生体が外部から物理エネルギーを加えられたとき、細胞や組織に表れる受動的特性と、生体が反応して細胞や組織が種々のエネルギーを生じる能動的特性がある。この授業の目的は、生体の電気特性、生体の磁場に対する特性、生体の光学的特性、放射線の人体への影響、生体の力学的特性、生体の振動及び超音波に対する特性、人体の産熱と放熱などの生体物性(能動的特性と受動的特性)に関する知識と考える力を修得することである。	
			医用機械工学		臨床工学技士は医療機器の使用や保守をおこなうため、その機械や構造の特性、すなわち、その機器にどのような力が作用しているかを論理的にわかる必要がある。ここでは、臨床工学技士として必要な力学である熱力学、流体力学、材料力学、機械力学の基礎知識と波動に関する基礎知識を修得することを目的とする。特に、この講義は臨床工学技士の国家資格の内容に沿った機械工学の講義であるため、臨床工学技士に必要な医用機械工学の知識を身につけることが重要である。	

専門科目	機械工学	メカトロニクス	メカトロニクスの知識はものづくりの技術の根底を形成する知識であり、臨床工学技士及び医療健康機器のエンジニアを目指すための知識としても必要不可欠である。ここでは、そのメカトロニクスの幅広い知識の中で、電気電子工学における抵抗やコンデンサ、半導体などの電気電子部品の特性、モータの選定方法、機械工学におけるネジやキーなどの固定方法やそれに使用する工具の特徴、ギアなどの動力伝達方法やその選定方法、制御工学におけるブロック線図やPID制御などを理解する。これらの内容は技術に直結する知識であるため、実例と共に理解することを目的とする。	
		基礎製図演習	本演習は、ものづくりの基準となる材料や構造及びその作り方を明示する方法を学ぶものである。製図は一通りの決まりに従って図面を描くこと、その図面の内容を読み取り理解することが重要である。ここでは、製図の基礎知識を理解し、それに準じた演習をおこなう。これらの演習を通して、製図の基礎を身につけることを目的とする。	
		製図・CAD実習	本実習は、ものづくりの基準となる製図を実際におこなう実習である。製図の対象は病院などで用いる配管端末器（アウトレット）である。機械製図は一通りの決まりに従って図面を描くこと、その図面の内容を読み取り理解することが重要である。ここでは、配管端末器（アウトレット）の分解・組立を通して、各部品の機械製図をおこない、製図を基本を体験する。これらの実習を通して、機械製図の基本について学び、理解することを目的とする。	
	医療工学関連科目	計測工学	この講義では、生体情報に基づいて診断や治療を行う医療機器に使われる計測技術の基本的な原理や計測対象を学ぶために、計測誤差や雑音、単位、接頭語、生体情報計測、デジタル信号処理、物理量（力、光、熱、磁場など）を電気量に変換するセンサーなどを中心に基本的な計測工学について理解できるようにすることを目的とする。	
		医用機器学概論	今から50年前には想像もしなかった医用機器が現実運用され、医療の発展に大きく貢献し、多くの疾患を克服している。今後も医用機器は発展しその重要性はますます増していくと考えられる。本講義では、各種医用機器の概要について知り、それらを理解できるようになることを目的とする。具体的には、医用機器の動作を考察することにより、その原理・構造について理解できるようになる。更に、理解した知識をレポートとしてまとめることにより、ドキュメント作成ができるようになる。	
		医用計測学	生体計測装置における計測原理を物理的な観点で理解するために、波の伝搬とドップラー効果、超音波を用いた速度計測、光の屈折やレンズの公式、磁場計測、原子核の崩壊、温度と熱の移動、機体の状態方程式などの物理的な考え方や導出方法を中心に学び、超音波や光、熱、磁場、原子核の崩壊に関連する問題を解ける力を養成する。	
		生体計測装置学	医療現場で使用される生体計測機器の基本的な原理や計測対象を学ぶために、心電計や脳波計、生体磁気計測、血圧計測、血流計測、流量計測、呼吸計測装置、超音波診断装置、X線CT、PETなどを中心に、生体電気・磁気計測、生体の物理・化学現象の計測法、画像診断装置の原理と特徴について理解できるようになることを目的とする。	
		医用生体計測学演習	臨床工学技士国家試験問題における生体計測装置学分野の問題を解けるようになるために、単位、雑音と誤差、生体計測用増幅器、医用センサ、心電計、脳波計、筋電計、生体磁気計測、血圧計、血流計測、流量計測、呼吸計測、血液ガス分析、体温測定、超音波診断装置、X線診断装置、MRI、PET、内視鏡装置について概説し、関連する過去問題を理解して解けるようになることを目的とする。	
		生体計測装置学実習	生体計測装置学に関連する基礎知識と実践力とを養成するために、X線CTやMRI、超音波診断層値などの医療画像装置に関連する講義や、心電図、血圧モニタリング、光電脈波、超音波を用いた人体内部の構造観察、ランベルト・ベール則を用いた溶液濃度計測、各種医用センサーの特性評価、デジタル波形処理などについて学び、生体計測の基礎を理解できるようになることを目的とする。	
		医用治療機器学	近年、医用工学を応用した医用治療機器の高度化はめざましく、それを取り扱う医療関係者・技術者には専門的な基礎知識が求められる。本講義においては、各種医用治療機器の使用目的、原理、構造・構成、使用方法、保守点検等の知識を学び、医療現場で種々の物理的エネルギーを生体に作用させ治療を行う医療機器を理解できるようになることを目的とする。	

専門科目	医療工学関連科目	医療安全管理学		医療機器が高度になればなるほど、それらの機器・設備を適正かつ安全に使いこなすことが要求される。医療施設において医療機器の安全性・信頼性を確保しながら使用していくためには、機器の安全管理を行うことが重要である。安全管理を行うためには、生体の特性、機器で使用するエネルギーの特性、エネルギーの生体作用と安全限界、医療機器の安全基準、安全・性能点検方法及び安全管理の手法を知り、理解する必要がある。この講義では、医療機器設備の安全管理として、電撃事故と安全管理、電気設備と安全基準、医療ガス設備と安全基準、システム安全、安全管理技術及び電磁環境について学び、理解できるようになることを目的とする。	
		医用機器安全管理学実習		臨床における生命維持管理装置の運用について学ぶため、人工呼吸装置・人工心肺装置・人工透析装置の基本的知識を踏まえて、それらの操作技術を習得できるようになることを目的とする。また、臨床における医療機器の安全管理について学ぶため、輸液ポンプ・シリンジポンプ・電気メス・心臓ペースメーカーの基礎的知識を踏まえて、それらの操作やメンテナンス技術を習得できるようになることを目的とする。さらに、臨床における循環動態モニタについて学ぶため、心電図や各種カテーテルの基礎知識を踏まえて、心電図読解やモニタデバイスの使用法を習得できるようになることを目的とする。	
		医用機器学・安全管理学特別演習		臨床工学技士の国家試験を合格するために、医用機器学・安全管理学分野全般にわたる専門知識を理解できるようになることを目的とする。この実習は臨床工学技士国家試験・ME技術実力検定試験の問題を中心に分野別問題について系統的に演習することにより、国家試験問題の正解率が合格ライン（6割）を超えることができるようになる。 （オムニバス方式／全13回） （15 橋 克典／6回）医用機器学に関連する講義・演習及び理解度の評価 （18 水野裕志／7回）安全管理学に関連する講義・演習及び理解度の評価	オムニバス方式
		臨床支援技術学		医療現場で使用される治療方法と医用機器について解説を行う。そのためには臓器の構造・機能と機械の原理と治療応用を学習する。特に生体の構造や機能などの特徴を利用したデバイスは工学だけを学んだだけでは理解できないが、本学のように医学と工学の双方を学んだものだけが理解できるものが多い。さらに外来レベルでかつ低侵襲で早期胃癌を治療できるESDなどの内視鏡治療や、PCIでひととめにされている心・血管カテーテル関連治療のデバイスと操作運用を学び、今後使用されるであろうデバイス技術についてもについても学習することを目的とする。	
	生体機能代行技術学	呼吸療法装置学		呼吸療法は、救急医療から慢性期医療さらに在宅医療と幅広い分野に必要な治療法であることを知り、呼吸生理、呼吸不全の病態から呼吸療法の目的や原理について理解できるようになることを目的とする。慢性期・急性期に発症する呼吸不全や重篤な低酸素症に対して用いられる酸素療法と人工呼吸器の原理や構成、それらの機能について習得するとともに非侵襲的な換気様式と高気圧酸素下で行われる特殊な酸素療法である高気圧酸素治療について解説する。	
		血液浄化療法装置学		生体機能代行技術学の代謝系では、血液浄化法の現況について学ぶ。血液浄化法の基本である血液透析療法では腎不全患者の病態、透析装置の構造、医療材料であるダイアライザの膜構造、その機能である透析原理の拡散と濾過について学ぶ。また、血液透析中の患者管理、安全対策、保守点検技術について理解する。さらに、血液濾過、腹膜透析、アフエレーシスを学び、血液浄化全般についての知識を習得し理解できるようになることを目的とする。	
		体外循環装置学		体外循環装置学では、循環系の疾患により外科的治療が必要となった場合に使用される人工心肺装置（CPB）について学ぶ。また、補助循環（IABP・PCPS・ECMO）や補助人工心臓についても学ぶ。具体的には、CPBの臨床的意義や循環系の生理と病態について学び、CPBの構成や操作法や安全対策、保守管理について理解できるようになることを目的とする。	
		生体機能代行装置学実習		生体機能を代行する装置として座学の呼吸療法装置学、体外循環装置学、血液浄化療法装置学に基づき、個々の学問の重要性を再認識し、医用工学の知識体系化を図るための機会とする。また、呼吸療法装置、体外循環装置、血液浄化装置の適切な操作及び保守管理を理解し、その基本的知識を踏まえた技術について習得できるようになることを目的とする。	

専門科目	医療工学関連科目	生体機能代行技術学	臨床工学技士総合演習	臨床工学技士の国家試験を合格するために、臨床工学分野全般にわたる専門知識を理解できるようになることを目的とする。この実習は臨床工学技士国家試験・ME技術実力検定試験の問題を中心に分野別問題について系統的に演習することにより、国家試験問題の正解率が合格ライン（6割）を超えることができるようになる。 （オムニバス方式／全13回） （15 橋 克典／4回）医用治療機器学、体外循環装置学に関連する講義・演習及び理解度の評価 （19 小出卓哉／3回）呼吸療法装置学に関連する講義・演習及び理解度の評価 （18 水野裕志／3回）医療安全管理学に関連する講義・演習及び理解度の評価 （25 吉田めぐみ／3回）血液浄化療法装置学に関連する講義・演習及び理解度の評価	オムニバス方式
		健康福祉工学	認知科学とデザイン	人間は自らの生活を便利にするために、様々な機器（モノ）やしくみ（コト）を開発し、普及させてきた。文化が進むに連れ、それらは高機能化を果たしている。ただし、真に使いやすいものを追求する際、それに備わるデザインの有り様は極めて重要である。そのためには、今一度人間の持つ機能、それに即したデザインの有り方を知る必要がある。本講義では、人間の認知科学的特性をふまえて、生活にかかわるモノやコトの開発について、その背景や設計手順に関する基礎的知識を習得することを目的とする。	
			ヒト型ロボット製作実習	この実習は技術者の基礎となるものづくりの体験及び習得を目指す実習である。ここでは、二足歩行ロボットを製作することで、ものづくりの基礎的な技術を理解することを目的とする。特に、二足歩行ロボットの設計・加工・組立におけるものづくりの工程を体験し、ものづくりの技術修得だけでなく、ものづくりに必要な考え方を理解することを目指している。また、このロボットはヒト型ロボット制御実習で使用するロボットであり、ヒトの運動を再現できるような二足歩行ロボットとなっている。そのため、このロボットの機能や機構を理解することも大切である。	
			ヒト型ロボット制御実習	この実習は技術者の基礎となるものづくりの体験及び習得を目指す実習である。ここでは、マイコンによるモータ制御技術を理解することを目的とする。各自の考えたアルゴリズムにより、ヒト型ロボット製作実習で製作した二足歩行ロボットを歩行させることを目標としている。この実習ではマイコンを制御するためにC言語を用い、二足歩行ロボットを動かす応用プログラムを作成できるようにしている。これにより、ロボットの運動制御の基本を習得し、ヒトの運動を再現することの難しさだけでなく、ヒトの運動制御の素晴らしさを理解する。	
			創造製作実習	ものづくりは知識と技術だけでなく、それらを融合した経験が非常に重要である。ここでは、学んできた知識と技術を用いて、自身で製作したいものを決め、設計、製図、加工、電気回路製作、制御の一連のものづくりの工程をおこない、自身で考えたものを完成させる。この経験により、一連のものづくりの工程を理解し、ものづくりのノウハウを身につけることを目的とする。	
		臨床実習	臨床実習（臨床工学）	医療現場において実際の業務を学ぶことは医療技術者を目指す者にとって重要である。この実習では臨床工学技士としての基礎的な実践能力を身につけ、医療における臨床工学の重要性を理解し、かつ、患者への対応について臨床現場で学習し、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚できるようになる。また、臨床実習に必要な技能や態度を備えていること及び臨床実習の効果を実技試験などで確認する。	

専門科目	医療工学関連科目	臨床実習	医療工学特別講義	臨床工学技士国家試験受験に向けて出題範囲を網羅し、各分野における知識と問題解答への正しい思考を身につけることを目的とする。受験者全員の合格を目指し、基礎科目から応用科目まで幅広く理解し、苦手科目は克服できることを目的とする。 (オムニバス方式/全13回) (13 藤川智彦/2回) 医用機械工学に関連する演習と問題解説 (10 長倉俊明/2回) 基礎医学、臨床医学に関連する演習と問題解説 (12 日坂真樹/2回) 生体計測装置学に関連する演習と問題解説 (18 水野裕志/2回) 医療安全管理学に関連する演習と問題解説 (19 小出卓哉/2回) 呼吸療法装置学、電気・電子工学に関連する演習と問題解説 (15 橘 克典/2回) 医用治療機器学、体外循環装置学に関連する演習と問題解説 (25 吉田めぐみ/1回) 血液浄化療法装置学に関連する演習と問題解説	オムニバス方式
		健康情報学演習		健康情報学の基礎となる基礎医学と医療工学の基本事項を体験し、医学と工学の融合した学問分野を理解できるようになることを目的とする。また、医療工学専攻の教員、及び新入生と実習を通して密にコミュニケーションを図り、今後の学習における基礎概念を構築し、新しい環境下における学生生活が円滑に開始できるようにする。	
		医療工学キャリア形成	生体医工学実習	日本生体医工学会の第2種ME技術実力検定試験は、「ME機器・システムの安全管理を中心とした医用生体工学に関する知識を持ち、適切な指導のもとで、それを実際に医療に応用しうる資質」を検定する試験である。この検定試験は、医療機関、医療機器メーカ、医療情報会社などで働く場合、有利な資格である。この実習は、この第2種ME技術実力検定試験に合格しうるME機器の基礎と応用力を育成することを目的とし、本試験に出題される分野の内容について授業を行い、理工学的基礎の演習問題と医療機器に関する実習により理解できるようになることを目的とする。 (オムニバス方式/全13回) (10 長倉俊明/2回) 人体の構造・機能、疾患に関連する講義・演習と問題解説 (12 日坂真樹/2回) 生体計測装置に関連する講義・演習と問題解説 (15 橘 克典/2回) 医用治療機器に関連する講義・演習と問題解説 (18 水野裕志/3回) 医用機器安全管理学、情報処理工学に関連する講義・演習と問題解説 (19 小出卓哉/2回) 電気工学、電子工学に関連する講義・演習と問題解説 (25 吉田めぐみ/2回) 生体機能代行装置に関連する講義・演習と問題解説	オムニバス方式
			医療工学基礎実習	この講義では、工学系における基礎的なレポートの書き方を学ぶことを目的とする。具体的には、電気回路や物理の基礎的な実験を学生自身でおこない、それらから得られたデータを活用してパソコンによる図や表の描き方、レポートの書き方について指導を受けて理解できるようになることを目的とする。	
			医療工学実習	学士として卒業する学生に応じた知識を医療工学専攻の研究室から説明を受けること、さらに、工学の知識を次世代に伝える体験を経験することを目的とする。医療工学専攻の分野は多分野に及ぶため、社会的及び職業的に自立するための知識を各研究室から学ぶ。学生は医学・医療技術、電気電子・計測、機械・医療機器の様々な研究室のテーマの中から1つを選択し、後輩への技術及び知識の教育を体験する。	

専門科目	理学療法学関連科目	基礎医学	機能解剖学	○	機能解剖学は、身体とその運動を理解していくための基礎として非常に重要である。本講義においては、人体の構造と機能のうち理学療法に特に密接にかかわる運動器（運動に関係する器官）について、人体を構成する骨や関節、靱帯、筋について、その基本的な部位、名称、機能の概略について理解できるようにすることを目的とする。	
			機能解剖学演習		先に学んだ機能解剖学の末梢神経系を含む運動器の構造と機能に関する知識を、演習を通じて深めることを目的とする。生体情報に基づいて作成された精度の高い3Dの解剖学アプリケーションを操作することにより、3次的に体表から深層に至る構造と相互の位置関係を理解する。機能解剖学はもとより、全身の運動学を理解することにも通じる演習科目である。	
			運動学	○	本講義では、理学療法の学問的基盤を構成する運動学の基礎を学習する。各関節の動きはもとより、寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行といった基本動作の運動学も、基本的な運動力学的解釈を含めて学習する。本講義の目的は、これらの学習を通じて物理学、解剖学、生理学の知識を統合しながらヒトの動きを科学的に分析するための基礎知識を習得することとする。	
			運動学実習		運動学は、理学療法における運動療法や介助法、日常生活活動指導において、対象者の関節運動及び身体運動を操作する技術の基盤となる。本講義では、基本的な運動学の理解から発展して、関節運動や身体運動を操作する実技練習を通じて実践的な運動学の知識へと深めるとともに、根拠に基づいた基本的な身体操作を修得することを目的とする。	
			生理学演習	○	生理学とは生体機能（生命現象）の機序を解明しようとする自然科学である。生体機能の異常を対象とするリハビリテーション医学を学ぶ上で正常な生体機能の機序を学習することは極めて重要である。正常な生体機能に関する知識を獲得するために、本講義では先行して学習した生理学の講義をもとに、人体を構成する各要素の基本的な構造と機能についてより臨床で役立つ知識と技術を習得することを目的とする。	
			解剖学演習	○	ヒトの身体を理解するために解剖学は必要不可欠な学問である。先行する解剖生理学ⅠとⅡの基礎知識をさらに深く理解するために、人体模型や解剖モデル、3Dモデルを用いて3次的に観察し、リハビリテーション医学を学ぶ上で不可欠な正常な身体の構造について学習する。また、明らかにした解剖学的構造と生理学的な知識を融合させ、からだの構造と機能の関連性について考察できるようになることを目的とする。	
			基礎医学実習		基礎医学実習では、生理学演習、解剖学演習で培った知識を基に、実際にその解剖や生理学的な現象について観察、計測、分析を行い、身体の機能についてより深い知識を身に付けることを目的とする。本実習ではグループ単位で実習を実施し、学修成果をレポートにまとめる力、プレゼンテーションする力も合わせて習得することを目的とする。	
		臨床医学	一般臨床内科学	○	本講義は臨床実習で内科疾患症例に対応できるようになるために、医療専門職として必要な臨床医学の学問体系の概要と、生活習慣病をはじめとする内科の各種疾患（栄養性疾患を含む）の概念と病態について知り、理解できるようになることを目的とする。それぞれの疾患に対しては病気の原因とメカニズムを知り、対応する生化学検査、さらに薬物による人体の反応について講義を通して理解する。	
			神経内科学	○	神経・筋疾患でみられる主用な疾患とそれにともなう障害の特性について、その疾患概念、病態、発症機構、神経学的検査などの基礎知識を学習する。対象となるのは、脳血管障害、感染・炎症性疾患、変性・脱髄疾患、末梢神経・筋疾患などで、それらの疫学、診断、治療法、経過、予後などについて説明できるようになること、さらにそれらの知識を臨床現場で活用できるようにすることを目的とする。	
			リハビリテーション医学	○	本講義においては、リハビリテーション医療に関わる総論、健康と生活機能の評価、リハビリテーション計画、リハビリテーションチームと多職種連携について、その基礎的事項を福祉の側面も含め広範囲について、その概要を理解できるようになることを目的とする。あわせて、患者急変に対応するための救急救命医学の基礎についても学ぶ。	
			整形外科学	○	本科目では、理学療法の対象となることが多い整形外科的疾患に関する基礎と臨床を理解する。診断と治療を体系的に学ぶとともに、疾患ごとにその病態と診断、治療内容を教授し、画像診断の基礎、臨床薬学の基礎についても学ぶ。教科書は初学者向けに作成された図説を中心としたものを用い、国家試験と臨床実習に対応できる知識を獲得することを目的とする。	

専門科目	理学療法学関連科目	障害学演習		臨床場面で臨床推論を展開できるようになるために、症例提示から問診やカルテからの情報収集、検査・測定を含めた理学療法評価、統合と解釈、問題点の抽出及び目標設定を模擬的に経験し、模擬症例からレジュメと関連図を作成する。症例報告会を経験し、模擬症例を通じて、理学療法の思考過程を理解できるようになることを目的とする。	
		臨床精神医学	○	身体と精神は相互に関係しており、どちらの方向にも作用することから、近年、精神科領域における理学療法士の介入が求められている。本講義では、臨床において遭遇することの多い代表的な精神疾患について、概念、病因、症状、経過、治療、臨床薬学などの基本的な知識を理解し、身につけることを目的とする。さらに、脳の局所障害で出現する神経心理学的症状についても学修する。	
		臨床医学探究	○	理学療法を進めていくうえで、疾患の診断と治療に関する知識は非常に重要である。本講義では、整形外科学や神経内科学でこれまでに学んだ疾患の基礎知識について改めて振り返って理解を深めるとともに、医師による講義を通して疾患の病態、診断と治療の実際や臨床現場におけるトピックスについて理解できることを目的とする。	
	基礎理学療法学	接遇マナーとコミュニケーション	○	医療現場において理学療法士は対象となる患者の情報をチームで共有し、意見交換をしたうえで治療やケアを進めることが重要である。このため、患者のみならずその家族、医師や看護師などの隣接専門職など多くの人と円滑な人間関係を築ける能力が必要となる。本講義では、医療現場において人との接し方を身につけるために、臨機応変に対応できる基本的な考え方と必要な知識、それを表現する態度や基本的な技術を理解することを目的とする。	
		日常生活活動学実習	○	本科目の目的は、1) 日常生活活動の概念を理解し、様々な障害をもつ人々の日常生活活動の問題に対応するための基本動作や介助、身の回り動作について理解すること、2) 日常生活活動の評価法を理解すること、3) 障害を持つ患者の身体機能と動作の関係性を解釈し、動作指導や介助、補助具や環境整備などの対応が想起でき、これらの基本的な実技ができるようになることである。	
		物理療法学実習	○	物理療法学実習では、(1) 物理的エネルギー(熱、光、水、電気、超音波、力、振動など)の性質や生体への影響と、適応と禁忌について理解できるようになる。(2) 物理療法機器を用いてその特性を学び、臨床場面を想定した上で各種機器の安全かつ効果的な使用方法を習得し、臨床で応用できるようになることを目的とする。	
		運動療法学実習	○	運動療法の総論ならびに関節可動域改善、筋力増強、筋再教育、筋持久力向上、廃用症候群、協調性運動に関わる運動療法の基礎的事項について、理解できるようになることを目的とする。また、その科学性を理解し、運動療法機器を用いてグループ実習を行う。さらに、グループで調査、発表することにより、理解と表現力を身につけることができるようになることを目的とする。	
		理学療法管理学	○	理学療法の知識や技術を習得するだけでなく、これらをスムーズに提供していくためには理学療法部門の管理、マネジメントが重要となる。本講義では、医療保険制度・介護保険制度を理解し、診療報酬などのしくみや職場管理、安全管理、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養うことを目的とする。	
		理学療法関係法規		「理学療法士及び作業療法士法」を中心として、関係の深い医療法、医師法、保健師助産師看護師法あるいは個人情報保護法、福祉法規等に関して、判例や具体的事例を解り易く説明する。さらに近年、関連の深い介護保険制度や地域包括システムにも言及する。それらによって、個々の法や制度の理念や内容を理解できるようになることを目的とする。また、法律または患者の立場から医療事故、医療過誤の実例を知り、インフォームド・コンセント、安全な医療を提供する意義と必要性を認識できるようになることを目的とする。 (オムニバス方式/全13回) (20 成 俊弼/1回) 理学療法士及び作業療法士法について (54 岡村和明/12回) 医療法、医師法、保健師助産師看護師法について	オムニバス方式
		理学療法評価学	○	理学療法評価に関する知識は理学療法を実施していくうえで非常に重要である。本講義では、理学療法評価の基本的考え方、情報収集から検査・測定、統合と解釈、問題点抽出、理学療法プログラム立案につながる臨床推論の流れ、記録法及び画像情報の利用(動作等の動画を含む)について、その基本的な事項を理解できるようになることを目的とする。	

専 門 科 目	理 学 療 法 学 関 連 科 目	基 礎 理 学 療 法 学	理学療法評価学実習Ⅰ	○	理学療法評価学実習Ⅰでは、理学療法の基本的評価技術を習得するために、主として形態計測、関節可動域測定、感覚検査、伸長反射、病的反射、脳神経機能などの検査・測定の基本的知識、評価内容の意義を理解し、実習を通して評価技術を習得を目指す。実習を繰り返し行うことにより、臨床実習場面において正確で、対象者へ過剰な負荷を強いしない検査を実施できる技術を身につけることを目的とする。	
			理学療法評価学実習Ⅱ	○	理学療法の基本的検査・測定技術を習得するために、主として筋力、姿勢・動作、疼痛、などの基本的知識と計測技術を演習を通じて修得することを目的とする。各種評価法を習得するとともに、症例に対して実際に評価を実施する手順や注意点も学習する。また、臨床実習に向けて、症例の病態及び活動制限の把握に必要な評価の列挙や評価の意義を説明する実技体験を通じて、実践的評価学としての理解を深める。	
			生体動作探究		日常生活の基本動作（寝返り、起きあがり、ベッド上の移動、座位、立ち上がり、移乗、歩行）やスポーツ動作（走る、跳ぶ、打つ、滑る、投げる、泳ぐ、蹴る、回る）を「身体」を動かし、「頭」で理解しながら、ヒトが行う動きを多角的に捉える視点を身につけることを目的とする。また、どのような身体の使い方が適切なのか。身体動作の仕組みを理解し、基礎的な知識を身につけることを目的とする。	
			姿勢・動作解析学演習		姿勢や動作の観察及び解析は、理学療法評価の根幹をなすものであり、疾患を問わず必ず実施されるものである。また、観察による姿勢や動作の解析は、臨床での実務の省力化に寄与するものであり、臨床での問題解決のための最善のプロセスである。本講義では、姿勢や動作の観察及び解析の手順を体系的に学修するとともに、正常姿勢及び正常動作のメカニズムの理解を通して、異常動作、代償動作のメカニズムを理解することを目的とする。	
			義肢装具学実習	○	義肢装具学実習では、（１）義足や義手などの義肢についての基礎知識を学び、義肢の処方の考え方を理解し、適合判定、装着練習ができるようになること。（２）装具の種類と機能、各種疾患の障害と装具の選択、その適合判定ができるようになることを目的とする。また、実際の義肢・装具に触れることで、義肢・装具の基本構造や機能、適合判定を理解し、理学療法において義肢・装具を用いた治療を行うための技術を身につけることを目的とする。	
			チームマネジメント		キャリアとは、「職業・技能上の経験及び経歴」を示し、対人援助職として協働できるようになるために、各種行事の企画・運営を通じ、社会人としての態度や考え方を身につけるとともに、理学療法士に必要とされる他者（対象者やその家族など）へ伝える・教える能力の向上し、キャリア形成の基礎を固めることを目的とする。	
	理 学 療 法 治 療 学	神経系理学療法学演習 A		２年生前期で学修した解剖学や神経系疾患の基礎知識を基に、本演習では脊髄損傷、パーキンソン病、小脳失調、変性疾患、脱髄疾患等を対象とし、各疾患の病態や薬物療法を含む治療法の理解を目指す。さらに、臨床実習においてこれら中枢神経系疾患の対象者に対する理学療法評価、治療、ADL指導を行えるような基礎知識と基本的技術を修得できることを目的とする。		
		内部障害系理学療法学演習 A		一般臨床内科学で学修した内部障害疾患の中で、理学療法対象として経験することの多い呼吸器疾患について学習する。各呼吸器疾患の病態と検査法、薬物療法を含む治療法等を理解し、理学療法評価、治療、生活指導等を学習し、呼吸器疾患の理学療法を理解、実践できるようになることを目的とする。さらに吸引療法についてモデルを用いて演習を行い、吸引技術の習得を行う。		
		小児系理学療法学演習		本演習では、２年次に学修した発達の原則や反射・反応、運動発達の知識を基に異常姿勢反射と異常運動発達に関する理解を深めることを目的とする。ついで、脳性麻痺や二分脊椎症などの代表的な小児疾患について、グループワーク演習によって疾患と障害の基本的理解から理学療法の実際までを包括的に学習し、理解できるようになることを目的とする。		
		運動系理学療法学演習 A		２年生前期で学修した解剖学や整形外科疾患の基礎知識を基に、上下肢及び脊柱の運動器疾患に対する基本的な評価と運動療法の技術を修得することを目的とする。代表的な運動器疾患の症例を提示し、医学的な治療計画の理解の基に、典型的な病態や症状に対する評価を根拠とともに列挙すること、基本的な運動療法の実技を健常者を模倣レベルで体験する。また、評価から運動療法実施までのプロセスを関連図として記載する経験も積み、症例の統合と解釈から問題点を抽出するプロセスの理解を深める。		

専門科目	理学療法関連科目	理学療法治療学	神経系理学療法学演習 B		脳血管障害による脳卒中片麻痺は理学療法の対象疾患として最もポピュラーな疾患のひとつである。本演習では、脳画像の診かたを理解・体得するとともに、脳卒中片麻痺に対する理学療法全般について学習・体得することを目的とする。まず、各種脳画像の特徴と脳画像における各種病変のとらえ方を理解する。次いで、運動障害や高次脳機能障害の検査測定技術を実習を通して体得する。さらに基本的な運動療法について理解したうえで、paperpatientsをもとに治療方法を思考・実施するグループ・ワークを行う。	
			内部障害系理学療法学演習 B		内部障害疾患の中で、理学療法対象となることの多い循環器疾患、代謝疾患、腎疾患について学習する。各疾患の病態と検査、薬物療法を含めた治療法を理解し、それらの疾患の理学療法評価方法、治療法、生活指導等を理解できるようになることを目的とする。また、心電図波形や透析療法、運動負荷試験についても臨床実習で対応できるような技術の習得を目的とする。	
			老年系理学療法学演習		超高齢社会の到来により、理学療法の対象も高齢障害者が大部分を占めるようになってきている。本演習では、老年期にみられる障害の特徴を適切に理解するために、老化のメカニズムをはじめ様々な身体生理機能の加齢変化を学習すること、あわせて、老化に伴って特徴的に出現する身体障害や病態のみでなく精神障害も含め、包括的に理解できるようになることを目的とする。	
			運動系理学療法学演習 B		臨床実習での整形外科症例に対応するために、評価、治療、生活指導等を学習・体得し、整形外科疾患の理学療法を理解できるようになることを目的とする。また、超音波診断装置を使用できるようになるために、画像の描出方法と描出した画像を理解することができるようになることを目的とする。さらに、国家試験問題を解説するために、知識を整理することができるようになることを目的とする。	
			神経系理学療法学演習 C		脳血管障害による脳卒中片麻痺は理学療法の対象疾患として最もポピュラーな疾患のひとつである。本演習では、脳血管障害によってもたらされる種々多様な障害のうち、理学療法士にとって重要となる運動障害や高次脳機能障害の基本的知識を学習し理解すること、また、これらの知識を身につけることで、脳卒中片麻痺に対する理学療法の評価、治療の展開の一助とすることを目的とする。	
			予防理学療法学演習		疾病及び障害の予防、第1次予防から第3次予防に架けての基礎を学ぶ。学校保健や産業領域において実践されている予防理学療法の実践を学ぶ。演習として、学校保健における予防活動の現場で実習を行って理解を深める。競技大会における予防的な健康支援活動の実践についても知識を深める。	
			地域理学療法学演習	○	地域理学療法学演習では、地域包括ケアシステムの構築に理学療法がどのように関わり得るかを考える。また、地域包括ケアシステムに対する理学療法士の役割や対象者を把握し、事例検討を通じて、高齢者の日常生活における課題やニーズを分析し、生活支援方法や問題解決能力を養うと共に、医療・介護・福祉・予防における適切な理学療法を提供・理解できるようになることを目的とする。	
			運動系理学療法学基礎演習		「運動系理学療法」の理解と実践のためには、その基盤となる運動器（上肢・下肢や脊柱）の機能解剖学的知識を十分に理解することが重要である。本講義では、これまで学習してきた運動器に関する基礎的知識を振り返って理解を深めることを目的とする。さらに医学的用語を用いてお互いにわかりやすく説明できるようになることを目指す。	
			運動系理学療法学発展演習		超音波診断装置を使用できるようになるために、画像の描出方法と描出した画像を理解することができるようになることを目的とする。整形外科疾患に対する理学療法の国家試験問題を解説するために、知識を整理することができるようになることを目的とする。	
			神経系理学療法学基礎演習		「神経系理学療法」の理解と実践のためには、その基盤となる神経系を中心とした解剖学的知識を十分に理解することが重要である。本講義では、これまで学習してきた神経系に関する基礎的知識を振り返って理解を深めることを目的とする。さらに医学的用語を用いてお互いにわかりやすく説明できるようになることを目指す。	

専門科目	理学療法治療学	神経理学療法学発展演習		神経系理学療法学演習A、B、Cで習得した知識をもとに、画像所見や検査測定結果から患者の障害像を把握し、予後が予測できるようにすることを目的とする。また、与えられた問題点を解決するための治療手段を考案し、実践できるようになることも目的とする。具体的には、ペーパーペイシエントについてアクティブラーニングし、治療技手段を考案するとともに、それら技術を体得できるまで模擬患者に対して繰り返しトレーニングする。	
		スポーツ理学療法特修A		投球障害をはじめ、上肢や体幹に発生するスポーツ損傷に対する理学療法を中心に学ぶ。その発生機序、診断と評価、再発予防を含めた理学療法の立案を学習する。運動療法や物理療法、補装具などの適応と臨床効果を理解することを目標とする。現場での実習を通じて競技大会における投球障害の予防活動を経験し、理解を深める。	
		スポーツ理学療法特修B		膝関節オーバーユースや足関節捻挫をはじめ、下肢に発生するスポーツ損傷に対する理学療法を中心に学習する。その発生機序、診断と評価、再発予防を含めた理学療法の立案を学習する。さらに、外傷発生時の対応、競技活動前後のケアとしての応用的な運動療法、テーピングなどの実際を理解するとともに、これらが行われる現場見学の体験を通じて理解を深める。	
	理学療法学関連科目	実践理学療法学演習A		生体動作探求、姿勢・動作解析学で習得した知識をより定着させることを目的とする。姿勢・動作と解剖学、生理学、運動学及び運動力学を紐づけながら改めて学習し、これらの知識を統合した思考能力の習得を目指す。特に、心身機能と身体構造及び身体活動の関係性を解釈する力を養うため、症例検討を通じた学習を主体として理解を深める。	
		実践理学療法学演習B		生体動作探究、姿勢・動作解析学で習得した知識をもとに、より臨床的な推論を深め、臨床判断能力の習得を目的とする。また、臨床推論を実証するための検査測定を想起し、患者に合った適切な方法で実施できるようになることも目的とする。具体的には、運動器系及び神経系の代表的疾患の動画の観察から、問題点抽出までの思考過程をトレーニングするとともに、問題点を実証するための適切な検査測定技術の向上を図る。さらに問題解決のための治療手段を考察する。	
		臨床理学療法学演習A		臨床実習で学んだことを定着させるとともに深めるために、臨床実習で体験した症例について、症例提示から問診やカルテからの情報収集、検査・測定を含めた理学療法評価、統合と解釈、問題点の抽出及び目標設定を検討するとともに作成したレジュメと関連図を再考し、理学療法における臨床推論の能力を身につけられることを目的とする。	
		地域健康支援実習		理学療法士がかかわる地域健康支援活動や事業の在り方とその実際を理解できるように、地域健康支援事業である健康教室などの予防事業などの事業内容を計画し、実行できるよう学内で資料作成なども含めた実習を行う。まとめとして、地域でおこなわれている健康支援・予防事業に参加し修得した知識や技術が整理できるようになることを目的とする。	
		チームリハビリテーション	○	総合的なリハビリテーションの進め方を理解する。リハビリテーションにかかわる他職種の内容及び理学療法との関わりについて知り、さらに取り巻く法律等について理解できるようになることを目的とする。多職種連携の視点から、医師や作業療法士、義肢装具士やケアマネージャーなどの専門職に業務の実際を紹介してもらうことで、総合的なリハビリテーションの進め方を理解する。リハビリテーションにかかわる他職種の内容及び理学療法との関わりについて知り、さらに取り巻く法律等について理解できるようになることを目的とする。	
		総合理学療法学演習A	○	4年間の集大成としての国家試験に合格するために知識の総復習を行う。講義前半は国家試験出題範囲の中の臨床医学に焦点を当て、後半は理学療法専門知識に焦点を当てる。それぞれ各分野ごとに復習と演習を実施し、未習熟な部分については学習を繰り返し、国家試験に合格できるレベルの内容を理解できるようにすることを目的とする。	
		総合理学療法学演習B	○	4年間の集大成として国家試験に合格するために知識の総復習を行い、講義前半は国家試験出題範囲の中の臨床医学に焦点を当て、各分野ごとに復習と演習を実施し、国家試験に合格できるレベルの内容を理解できるようになることを目的とする。後半は国家試験模擬試験とその解説を繰り返し、合格できる知識を身につけることを目的とする。	

専門科目	理学療法学関連科目	応用理学療法学	総合理学療法学演習 C		最終学年では、これまで学習してきた知識・技術の集大成として国家試験合格を目指し、知識の総復習を行い、知識間の関連付けが必要となる。本演習では、解剖学、生理学、各疾患の病態、理学療法評価を各分野ごとに関連付けて理解できるようになることを目的とする。そのために少人数のチームでも学びあいを通して知識のアウトプットを行い、各知識の整理を行う。	
			臨床理学療法学演習 B		総合臨床実習に向けて、模擬的に症例提示から問診やカルテからの情報収集、検査・測定を含めた理学療法評価、統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、治療プログラム立案・実施及び理学療法再評価のすべての理学療法プロセスを体験するとともに、模擬症例からレジュメと関連図を作成し、総合的な理学療法技術及び臨床推論能力の向上を目的とする。	
			臨床理学療法学探究		本演習は3部から構成される。第1部では、熱傷の理学療法の基礎的知識から実際までを最新のトピックを交えて学習することを目的とする。第2部では本邦の理学療法においては比較的新しい分野であるウイメンズヘルスの理学療法の概要を学ぶ。特に、ウイメンズヘルスを専門としない臨床現場においても考慮すべき女性特有の身体的問題を理解することを目的とする。第3部でも本邦の理学療法においては比較的新しい分野である癌リハビリテーションの医用を学部。特に、ターミナルケアにおける緩和ケアチームの重要性を理解することを目的とする。 (オムニバス方式／全13回) (17 羽崎 完／9回) 熱傷、ウイメンズヘルス (49 池田耕二／4回) 癌リハビリテーション	オムニバス方式
	学外実習		臨床実習（理学療法）1	○	医療機関・保健福祉機関で、1週間の見学実習を行うことにより、理学療法士の役割や多職種とのかかわり、病院の役割を理解するとともに、医療職に必要な資質を身に付けるために、以下の項目ができるようになることを目的とする。 ①実習指導者の指導のもと、対象者に関する医学的情報や社会的情報を、他職種や問診などから収集する能力。 ②対象者との積極的な対話を通して、医療者としての感性及び態度を養う。 ③対象者・臨床実習指導者・スタッフとのコミュニケーション能力。	
			臨床実習（理学療法）2	○	模擬患者を対象とした接遇・コミュニケーション・検査・測定についてのロールプレイによる学内実習を経て、臨床現場において臨床実習指導者の指導のもとで情報収集、医療面接、学内で体得した基本的な検査・測定を試行・実践できるようになることを目的とする。さらに、実習終了後のレポート提出と学習成果発表を実施して、臨床現場での実践を振り返り、理解を深めることを目的とする。	
			臨床実習（理学療法）3	○	医療機関・保健福祉機関で、5週間の評価実習を行うことにより、下記の能力及び態度等を身に付けるために、以下の項目ができるようになることを目的とする。 ①実習指導者の指導のもと、対象者に対し、学内で体得した基本的な検査測定技術を試行する能力 ②実習指導者の対象者に対する検査・治療場面の見学を通し、観察力を養う能力 ③医療従事者として必要な感性及び態度 ④自身の問題点を把握し、修正・改善する能力	
			臨床実習（理学療法）4	○	通所あるいは訪問リハビリテーション施設で1週間の実習を行うことにより、下記の能力及び態度等を身に付けるために、以下の項目ができるようになることを目的とする。 ①実習指導者の指導のもと、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を説明し理解する ②施設の特徴（社会的機能、地域社会における役割等）を理解し、対象者の症状の合わせて学内で体得した基本的な検査測定技術を試行する ③地域包括ケアシステムにおける他職種連携（チーム医療、チームワーク等）を説明し理解する ④社会資源の活用方法とマネジメントプランの立案過程を見学し理解する	

専門科目	理学療法学関連科目	学外実習	臨床実習（理学療法） 5	○	医療機関・保健福祉機関で、9週間の評価治療実習を行うことにより、下記の能力及び態度等を身に付けるために、以下の項目ができるようになることを目的とする。 ①実習指導者の指導のもと、「臨床実習3」の実習内容の検査測定を再度体験することにより、自己の課題を克服し自己の目標を達成する能力 ②医療従事者として必要な感性及び態度 ③自己の問題点を把握し、自己修正・改善する能力 ④リハチームの一員として、多職種と協働・連携しながら、対象者に適した理学療法を実践する能力	
	スポーツ科学関連科目	ひと・社会とスポーツ	体育・スポーツ原理		体育・スポーツが、人間の生活や発達について、どのような意義をもつのかを概観し、現代社会における体育・スポーツの諸問題について理解を深め、これからの体育・スポーツが果たす役割について考える。体育・スポーツの本質や理念及び歴史や思想を理解するとともに、現代における体育・スポーツの諸問題について考える。自身の経験を振り返ったり、これからの学校体育について考える過程で出る考えや意見は積極的に授業で紹介し、多角的な視点を意識しながら「体育・スポーツとは何か？」について学んでいく。	
			体育・スポーツ社会学		現在、日本における社会問題として少子高齢化問題などがある一方で、スポーツにおけるニーズがますます高まり、スポーツへの関わり方が多様性を増している。スポーツを通じた社会との関わりが各ライフステージに影響を及ぼす重要なツールとなっている現代社会において、ジェンダー、障がい者スポーツ、ハラスメント、ドーピング問題などの理解を深めることは必須である。さらに、スポーツにおけるメディアをどのように捉えるかなどはスポーツを知る上で重要になってくる。明確な正解がないテーマを取り扱うことが多いため、授業中や課題で受講生から出された意見も紹介しながら幅広い考え方を学び、基礎的なスポーツの現状を体育・スポーツの社会学観点から学習する。	
			スポーツマネジメント論		ビジネスの対象としてスポーツを扱うスポーツビジネスは、スポーツ組織が組織目標を達成しながら、将来に向けて存続し拡大するために、人材、資金、資源、情報を効果的に配分、管理するために工夫するものである。スポーツビジネスは消費者のニーズに応えながらも、スポーツ組織、施設、イベントのマネジメントには、総合的な経営的素養を備えた人材の育成が欠かせない。本授業では、スポーツをプロダクトとして捉え、ビジネスマネジメントの主要領域、トピック、ケースに焦点を合わせながら、体育経営管理（スポーツマネジメント）の基礎を総合的に学習する。	
			スポーツビジネス論		スポーツに関わる全ての業務、例えば「組織として関わるプロスポーツ」、「オリンピックやワールドカップといった大規模なスポーツイベント」、「メディアに関連するスポーツ情報」、「用具・用品の開発・製造に関連するスポーツメーカー」、また、選手の権利や雇用問題などに取り組む「スポーツ法律」、コンディショニングの重要な一分野を担う「スポーツ栄養」など、あらゆる分野がスポーツとのかかわりを持つことで「スポーツビジネス」としてとらえることができる。この授業では、スポーツと社会との関係から「スポーツビジネス」を理解し、これからのスポーツビジネスの方向性を考えていく。	
		スポーツとからだ	スポーツバイオメカニクス		バイオメカニクスとは、力学（物理学）や解剖学、生理学などの基礎知識を活用して、身体運動の仕組みを客観的に理解するための応用科学である。この講義では、バイオメカニクスの基礎となる力学や身体の構造や機能を学ぶとともに、身近な運動やスポーツ場面、日常生活でみられる動作に着目し、効率の良い動きをするための方法や、高いパフォーマンスを発揮するためのポイントなどについて解説していく。 目的（１）「力学＝メカニクス」の法則と「生体＝バイオ」の構造や機能に関する知識を身につける。 目的（２）物体や身体の運動をバイオメカニクスの観点から観察し、考察できるようになる。	

専門科目	スポーツ科学関連科目	スポーツとからだ	運動生理学		安静時の身体機能について学ぶ解剖学や生理学に対し、運動時の種々生理機能について学ぶのが運動生理学である。また、この科目は応用生理学の一つであり、解剖学、生理学、栄養学、生化学、生物学、高校理科、保健などを基礎としているので代謝や身体機能に関する学生の知識レベルに応じて他の科目と重複する内容を復習しながら新しい知識を加えて組み立てていく。 (オムニバス方式／全13回) (1 太田暁美／5回) 筋生理 (7 武田ひとみ／ 8回) 呼吸循環応答、代謝	オムニバス方式
			体力測定評価演習		生活を良好な状態で送るために必要な体力と、疾病予防に有益な体力について理解し、健康に関連する体力の測定及びその評価法、身体組成の計測法及び評価方法について学習する。また、体力診断や体力テストの実施方法や評価法、また各種測定機器の正しい操作によるデータ収集の方法等について学び、体力の科学的な知識の修得と正しい体力測定法による信頼あるデータの収集、それに基づく正しい体力診断を行う技術を得る。	
			健康スポーツ科学実習	○	本科目は、スポーツ科学分野において用いられる計測法や、調査によって収集したデータ分析の方法を習得することを目的とする。計測機器が高度になるほど、機器を適切かつ正確に使用することが要求される。また、計測や調査によって得られたデータは、分析し、検討することによって、スポーツに関する技術の向上や健康増進に応用することが可能となる。本科目はスポーツ科専攻の全教員が担当し、各専門分野におけるテーマで実習を行う。この科目で学びは4年生で行う卒業研究に必須となる。	
			スポーツ栄養学演習		健康維持増進やパフォーマンス向上のためには運動、休養、栄養の管理が大切である。生理学では人体の機能についての、基礎栄養学で食品や栄養素についての基礎知識を学び、運動生理学で運動時の生体反応や、運動習慣が健康に及ぼす影響について学ぶが、これらの科目の知識を基礎として、運動時や運動をする人に特に必要な食生活上の注意や運動能力に関連する栄養素について中心に学ぶのがこの応用栄養学演習である。座学による知識の習得と、実際に身体活動量の把握や栄養摂取状態の調査を体験し、適切な栄養摂取のための栄養摂取計画や、指導について学生が体験しながら考え、理解を深めることを目的とする。	
			運動生理学実習		各回のテーマに関する理論について学び、続く実習で測定の一連の流れと結果の判定の仕方を習得する。運動にともなう、筋、呼吸系、循環系などに生じる生理的機能の変化を観察することにより、運動・スポーツを科学的に捉える視点を養う。また、負荷心電図や呼吸代謝計測は潜在性疾患や運動誘発性不整脈の検出、運動耐容能を評価するために行われ、その結果は運動の可否、適切な運動強度の設定、運動耐容能の評価に用いられる。健康づくりの運動を開始する際には運動負荷試験を実施することが望ましい。測定の一連の流れと結果の判定の仕方を習得する。	
		こころとスポーツ	体育・スポーツ心理学		体育授業では、運動やスポーツ活動を題材として展開されるが、その活動において心と体は一体として捉え（密接に関係し）ていると言われている。本講義では、体育授業場面を中心として「運動やスポーツ活動が及ぼす心理的影響」や「さまざまな心理特性が運動やスポーツ活動に及ぼす影響」について基礎理解を深め、心理学的理論をもとに主体的な学びを促す体育の授業づくりについて基礎知識の習得を目指す。	
			健康心理学		健康維持増進には運動、栄養、休養が大切なことは周知の事実であり、これらのバランスが崩れれば疲労、疾病の原因となる。心身の健康増進や疾病予防には心の健康が重要なことは、ストレスフルな現代社会ではますます明らかとなっており、職場でのメンタルヘルスマネジメントやストレスチェックの重要性が認識されてきている。スポーツ指導者や教育者においても心の健康に関する知識は必要不可欠であり、また、知識を得るだけでなく、それぞれが状況に応じて応用できるように十分考えていることが大切である。	

専門科目	スポーツ科学関連科目	スポーツ医学	スポーツ医学と救急救命演習	スポーツや身体運動により、生体に生ずる変化を理解し、運動、トレーニング、スポーツ並びに運動不足が健康者と患者に対して与える影響を分析し、その所見を心身の健康や体力、競技力の向上、運動器官の慢性傷害や特定のスポーツ種目に多発するスポーツ障害の予防、治療、リハビリテーションに役立てる臨床生理学、臨床生化学的教育を基にする実践的スポーツ医学について学ぶ。また、運動指導時に万が一発生した事故に対処し、参加者の安全をいかにはかるかの救急救置法について臨床医より学び、講義と実習を通じて身体運動による傷害を可能な限り避け、アスリートの健康の保持・増進する知識と技術を習得する。	
			精神医学	精神医学は全ての人にとって身近な学問である。その対象は乳児から高齢者まで、そして医療・福祉・教育・産業・家庭など全ての年齢・対象に及ぶ。また、スポーツを精神医学的支援に応用したり、反対に精神医学的・臨床心理学的知見をスポーツに応用しようとする研究も活発になっている。本講義では、精神医学の基礎的な知識や視点を身につけ、スポーツや日常生活の活動に応用できるようになること、精神的健康を守り促進する行動や考え方を実践できるようになることを目的とする。	
		スポーツ教育	スポーツ教育学	スポーツに関する指導及びその目的と内容を問題とする教授学と具体的な指導方法の問題について概観し、健康・体育・スポーツにおける教育的実践と教育の科学的理論について理解する。また、現代の学校体育やスポーツ界において問題視されている課題について様々な視点から考察、議論する力を養い、問題解決に向けた自分自身の考えについて理論的に説明できるようになることを目標とする。	
			スポーツ教育学基礎演習Ⅰ	スポーツや体育において、教育的な観点から指導計画を作成できるよう人文科学、社会科学、自然科学など幅広い教養を身につけるための学習を展開する。学習者の主体性を引き出し、健康と教育について教授する能力を身につけることを目的とし、授業を通して指導的立場から適切な教育と評価ができるようになることを目標とする。	
			スポーツ教育学基礎演習Ⅱ	スポーツや体育の指導において、安全かつ適切な実技指導ができるよう様々なスポーツ種目の規則や指導理論及び体育理論について学習する。授業を通じて、生涯にわたって運動に親しむ資質と能力の基礎を育てることができるようになることを目的とする。また、保健体育科の専門教養にあたる領域について学習し、学校体育で取り扱われるような運動種目の基礎的な運動理論の理解とカリキュラムマネジメントが行えるようになることを目標とする。	
			スポーツ教育学応用演習	スポーツ方法実習で実践力を身に付けた各種目について、前年度のスポーツ教育学基礎演習で学んだ各種目の実技指導の基礎理論やルールの理解をもとに、インターンシップや教育実習中の実技指導において適切なかつ効果的な指導ができる実践的能力や自らのふりかえりによって改善することができるようになることを目的とする。また、教員採用試験に向け、それぞれの実技示範能力を高める取り組みも行う。 (オムニバス方式／全13回) (1 太田暁美／3回) ネット型球技 (9 中井聖／3回) 水泳 (14 市谷浩一郎／3回) ゴール型球技 (21 松長大祐／2回) 器械運動 (51 浦田達也／2回) 陸上競技	オムニバス方式
			学校保健	「青少年の健康教育においてその知識や技術のみならず、常識的な態度や生活習慣を指導することができる」ための基本的な力を養う。 「知識や技術を用いて、人々の健康維持・増進のために貢献できる」よう、健康の成り立ちや阻害要因について理解する。 1. 成長・発達段階に応じた健康課題の特徴を説明できる。 2. 健康の課題に対する組織的な対応や環境への働きかけについて基本的な知識を習得する。 3. 健康を社会、心理、生物学的モデルにより捉えることができる。 4. 多様性と共生に関する課題を捉えその解決方法を主体的に考えることができる。 5. 基本的な生活習慣の確立とセルフケア能力を高める支援方法について説明できる。	

専門科目	スポーツ科学関連科目	スポーツコーチング	トレーニング論	現代社会は、ライフスタイルの変化によって身体活動量の低下と栄養の過剰摂取が生じ、エネルギー摂取バランスが大きく崩れている。その結果、肥満や生活習慣病を招き、人々の健康維持・増進に大きな影響を与えている。そこで本講義では、健康づくりの施策、運動基準、運動指針について学習し、トレーニングの原理を理解し、からだの機能を維持・改善するための効果的なトレーニング手法を学ぶ。その上で、性・年齢・体力水準・疾病の有無等を考慮に入れた個々の目的に応じた運動プログラムの作成と、それに基づく運動の指導・助言ができる指導者となることを目標とする。	
			スポーツコーチング論	コーチングと似た手法にティーチングが挙げられるが、コーチングとティーチングとは対象者に与える効果が異なるため、「コーチングとは何か」や「コーチングを通して何を教えるか」などのコーチングについての基礎的な内容の理解を深め、コーチングの現場での事例を用いた実践法などの紹介より、自分自身のコーチング哲学を構築しながら、色々な場面や状況に応じた対応ができる優れた指導者として、スポーツにおけるコーチング能力を養うことを目標とする。	
			スポーツトレーニング実習	体力トレーニングは、競技力向上のみならず健康の保持増進にも大いに関係するものである。本講義では、3つの原理（過負荷、特異性、可逆性）と5つの原則（全面性、個別性、意識性、漸進性、反復性）を理解し、骨格やエネルギー供給機構など人体に関する基礎的な知識を学び、それらの知識に基づき筋力や持久力等を高めるための代表的なトレーニング法を実践し、トレーニングに関する知識をより深め、適切で効果的な指導ができる能力を養うことを目的とする。	
			スポーツコーチング実習	「コーチングとは何か」や「コーチングを通して何を教えるか」などのコーチングに求められる基礎的な内容についての理解を深め、コーチングの現場での事例を用いた実践法などを紹介しながら、コーチが指導対象者の能力や可能性を引き出しながら、対象者の目標達成に向けてのモチベーションを高めるコミュニケーション法や自発性を高めるテクニックを身につけ、競技をはじめとするスポーツ場面において、優れた指導者としてコーチングを実践できる能力を養うことを目標とする。	
			スポーツ指導実習	スポーツ指導演習は、地域におけるスポーツサークルやグループなど多様なスポーツ活動に対応できる指導者やリーダーを育成するための科目である。講義では、生涯スポーツ社会における乳幼児期・児童期・青年期・中高年期におけるスポーツや女性・障害者におけるスポーツなど、各スポーツそれぞれの特性や競技志向などを学び、競技者と指導者の望ましい関係や競技の育成プログラムに関する知識を習得し、多種多様なスポーツに対応した指導法を身につけることを目標とする。なお授業外において、小学生を対象に運動あそびやスポーツ活動における指導を実施する。	
	ヘルスプロモーション		生活習慣病と介護予防	生活習慣病は予防がきわめて重要であるゆえ、早期対応のための適切な指導ができるようにする。まずは各種生活習慣病の病態についての基礎的な知識の習得学習をする。次いで同疾患の予防や、健康増進のため、健康の概念、疫学的統計、関連法規、食事、身体運動の役割についても学習する。健康管理と生活習慣病を理解するためには、医学生理学的な基礎知識の習得が必須であるが、実際にこの分野を学習されるのははじめての学生諸君も多いと思われるため、まずは疾患等の理解に最小限必要な解剖生理学的知識の習得から始め、順次難解な内容へと知識を積み上げていく。講義の合間に、医学の時事トピックスにもふれ、最近の話題についても知識を身につける。 （オムニバス方式／全13回） （10 長倉俊明／4回）健康管理論、生活習慣病 （1 太田暁美／9回）健康づくり施策、介護予防	オムニバス方式
			健康運動指導基礎演習	人々が安全かつ効果的な運動を行うためには運動の目的や対象者に応じた運動プログラムが必要となる。ここでは検診における主な検査項目の意味を理解し、結果の正常値と異常値を判別できるようになる。また、特に生活習慣病患者及び服薬者の運動に対する身体応答の特徴を学び、検診結果や個人の身体状況にあわせた運動プログラム作成するための知識や技術を習得する。	
			健康トレーニング実習	健康の維持・増進を目的とした運動の実施を希望する人は多く、適切な指導ができる人材が必要とされている。しかし、若年成人と中高年者、高齢者、さらに介護が必要な高齢者では運動を実施する場合に異なる配慮・技術が必要となる。本演習では、さまざまな健康運動の特徴を理解し、対象者の特性に応じて安全で効果的な指導を行うための方法の基礎を学ぶ。	

専門科目	スポーツ科学関連科目	ヘルスプロモーション	健康運動指導応用演習	健康づくりのための運動を指導するには、参加者の体力、環境、好み等を把握して、それぞれに適した運動の種類、強度を提供していく必要がある。また運動をわかりやすく実践し、言葉かけを工夫したりする能力が必要とされる。本演習では、これまでの講義で修得してきた知識を実際の運動指導と関連づけ、応用する力を身に着ける。また、基本的なレジスタンス運動と有酸素性運動の指導法を習得する。 (オムニバス方式／全13回) (1 太田暁美／4回) 健康づくり施策、運動プログラム、運動障害と予防 (7 武田ひとみ／3回) 運動生理学、栄養摂取と運動、運動指導の心理学 (9 中井 聖／2回) 機能解剖とバイオメカニクス、水泳・水中運動 (14 市谷浩一郎／2回) 体力測定と評価運動、レジスタンス運動 (21 松長大祐／2回) 陸上運動指導法	オムニバス方式
			スポーツ・レクリエーション論	スポーツ・レクリエーションは、スポーツを手段として活用し、心の元気づくりや健康づくりを図る取り組みである。本科目では、スポーツ・レクリエーションの定義や意義、目的を理解し、スポーツ未実施者の特徴や課題について知り、それらの課題をスポーツ・レクリエーションを活用して解決する方策について学ぶ授業とする。レクリエーション・コーディネーター及びスポーツ・レクリエーション指導者の資格を有する教員が、地域におけるレクリエーション指導の実務経験を活かして、指導現場で求められる考え方や力を養う実践的な授業展開する。	
		生涯スポーツ	スポーツ・レクリエーション実習	スポーツ・レクリエーションは、スポーツを手段として活用して心身の健康づくりを図る取り組みである。本科目では、支援対象者との信頼関係を築くためのコミュニケーション、良好な集団を作るためのアイスブレイキングの手法などについて、スポーツ・レクリエーションの実際の活動を通じて具体的に学ぶ。また、スポーツ・レクリエーションの支援を安全かつ効果的に行うために必要とされる基礎的知識、支援手法及び技能を身につける授業とする。	
			アダプテッドスポーツ	アダプテッド（適合する）スポーツを理解する上で、障がい者の実情を把握することは必須となる。加えて超少子高齢社会・先端医療・障がい者人口増などの社会情勢などにも関連し、特に「医療・福祉・教育・スポーツ」分野における国際基準のインクルーシブの理解は急務であり、これからの時代の潮流に適應するためには重要なキーワードになる。そのためアダプテッドスポーツの根幹に当たる「人体のしくみ・障害の原因と配慮・障害者差別解消法」などの知識を習得し、人それぞれにある特性を総合的に理解することで、インクルーシブ社会を推進するインクルーシブアウェイカーとしての立場からアダプテッドスポーツの理解につなげることを目的とする。	
		eスポーツ	eスポーツ科学概論	本科目は、eスポーツの成り立ち、競技スポーツとしての位置づけと価値、プレイのパフォーマンス・スキル・戦略、トッププレイヤーから見たeスポーツ、eスポーツに関わるビジネス、ハードウェアやプレイ環境、eスポーツとこころ・からだの問題など、コンピュータゲーム等を使った対戦型のスポーツであるeスポーツを取り巻くさまざまなトピックを取り挙げて講義し、eスポーツを科学的に捉えて考えていく上での基礎的知識を身に付ける授業とする。 (オムニバス方式全7回) (26 石関秀行／1回) eスポーツの成り立ち、競技スポーツとしての位置づけと価値 (26 石関秀行／2回) プレイのパフォーマンス・スキル・戦略、コーチング、チームマネジメント (47 森田浩司／1回) トッププレイヤーから見たeスポーツ (26 石関秀行／1回) eスポーツに関わるビジネス (47 森田浩司／1回) ハードウェアやプレイ環境 (47 森田浩司／1回) eスポーツとこころ・からだの問題	オムニバス方式

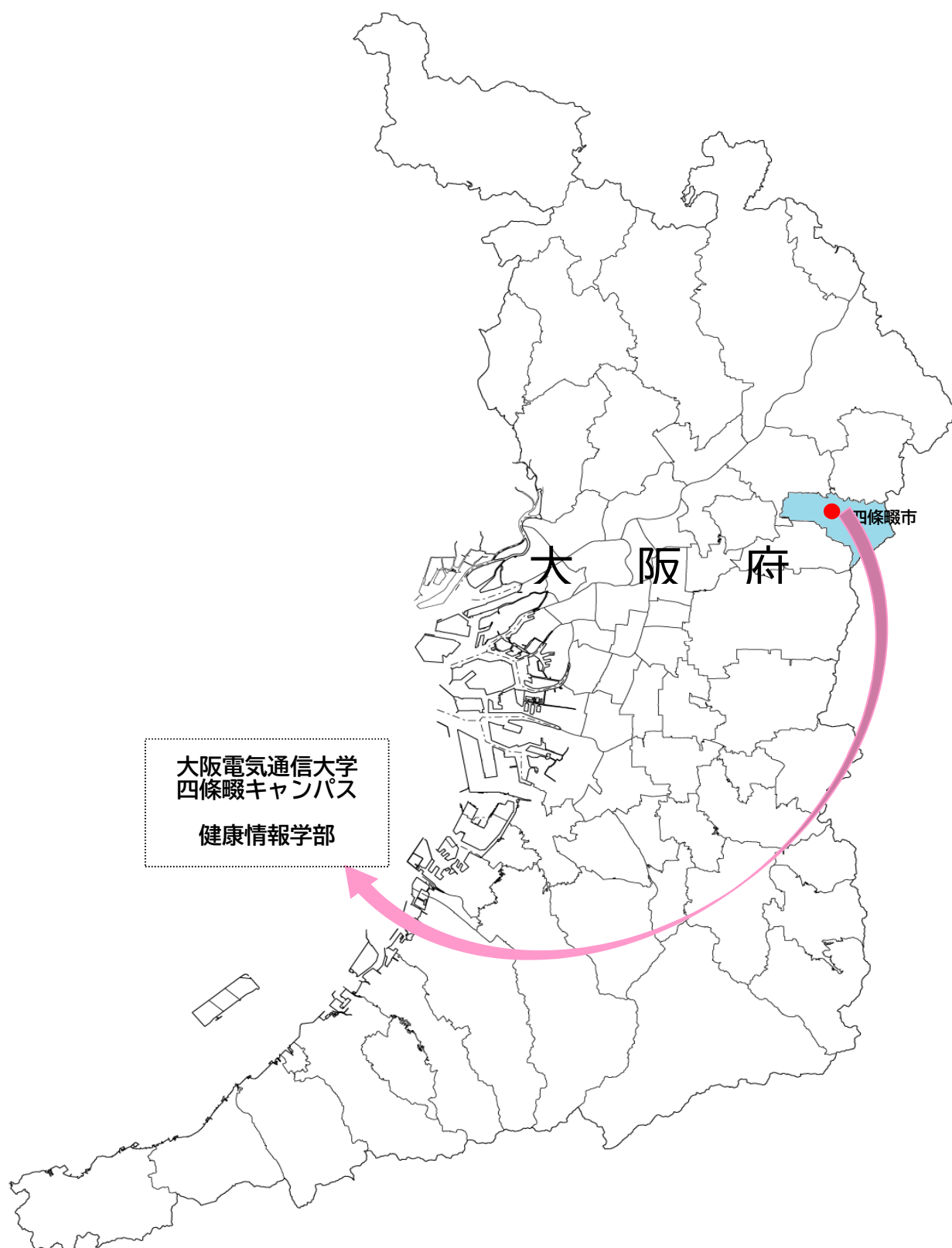
専門科目	スポーツ科学関連科目	eスポーツ	eスポーツ科学演習	コンピュータゲーム等を使った対戦型のスポーツであるeスポーツの各タイトルをプレイしている際のプレイヤーを心拍計や筋電計、疲労ストレス計等を用いて計測し、プレイ中の生体反応の特徴を理解する。また、モーションキャプチャやハンドトラッキングデバイスを用いたプレイ中の全身動作やコントロールの操作の分析や、コーディングシステムを用いたゲーム分析による戦術・戦略解析によって、プレイを科学的に分析するための基礎的な分析技術を身に付ける演習を行う。 (オムニバス方式全7回) (47 森田浩司／1回) eスポーツに関する生体計測の基礎、プレイ中の心拍応答 (47 森田浩司／1回) プレイ中の筋活動 (47 森田浩司／1回) プレイ中のストレス反応 (47 森田浩司／2回) プレイ中の全身動作、プレイ中のコントロール操作 (26 石関秀行／2回) コーディングシステムを用いたプレイの戦術・戦略解析	オムニバス方式
			スポーツ方法実習 (器械運動)	器械運動で習得する運動は、日常生活において経験することの少ない非日常性と驚異性を特徴としている。授業を通して器械運動の基礎となる動きや種目の特性を理解し、マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動の技術を体得することを目的とする。 また、器械運動は危険な動作も多く含まれるため、運動技術の体得と同時に指導者として必要な理論や留意点を理解し、補助等の指導能力を身につけることを目指す。	
			スポーツ方法実習 (ベースボール型球技)	ベースボール型ゲームのうち、主にソフトボールを取り上げ、そのルールや競技の歴史を学ぶとともに、ベースボール型ゲームの特性について考察する。さらに、実技を通して投球・捕球・打撃・走塁の個人技能の理解と獲得を目指す。同時に、ゲームを通して獲得された個人的技能を生かした組織的なプレー、審判法について考察する。	
			スポーツ方法実習 (ネット型球技Ⅰ)	バレーボールの楽しさはラリーの継続とラリーを切ること(スパイクを決めること)で実感することが出来る。そのためには個人技能を伸ばすことを最優先に考え、並行して集団技能を高めていくことが大切である。習得した技術をチームプレーに生かし、三段攻撃(レシーブ・トス・スパイク)を実践し、指導できるようになることが目標である。	
			スポーツ方法実習 (陸上競技)	陸上競技には走(歩)・跳・投種目が含まれ、どれだけ速く走れ(歩け)たか、高く・遠く跳べたか、遠くへ飛ばせたかをそれぞれの記録(時間や高さ、距離)によって勝敗を競う。陸上競技における走・跳・投種目への挑戦(実践、体験)を通して、記録の向上を目指すとともに、種目特性やルールなどの基礎知識、指導方法を身に付けることが目的となる。	
			野外活動	キャンプは自然の中で誰もが楽しめ、多くの体験や学びのある活動である。楽しく安全に充実した活動を行うためには、キャンプの正しい知識や技術が欠かせない。本科目では、キャンプの意義や効果、安全についての知識を学ぶとともに、実際にキャンプのアクティビティを体験しながら、キャンパー個人やグループに対してプログラムの指導を実際に行える力を身につける授業とする。	
			スポーツ方法実習 (ネット型球技Ⅱ)	生涯スポーツとして幅広い年代層に人気のあるテニスの基礎的技術～応用技術を獲得し、習得した技術で楽しみながらルールやマナーを学ぶ。テニスは跳んでくるボールを打ち返すだけではなく、相手の位置や自分の状況を踏まえた上でどこにどのように打てばよいのかを瞬時に判断し実行するという、身体のような機能を用いるスポーツである。そのような特色を持つテニスを通じて、自身の経験してきた競技と比較し、創造性を磨くことや新たな気づきの獲得を目指すと共に学生が指導現場で活用できる指導法の学習をすることを目的とする。	
			スポーツ方法実習 (武道)	武道領域のうち、柔道に焦点を当て、その技能や知識を受講生同士のコミュニケーション能力の涵養を図りながら行い、武道(運動・スポーツ)実践者に適切な態度の育成を図る。また、柔道の技能を習得することに加え、指導内容や方法について検討し、指導者としての資質や能力、指導力向上に資することができるようになることを目的に授業展開する。	

専 門 科 目	ス ポ ー ツ 科 学 関 連 科 目	ス ポ ー ツ 方 法	スポーツ方法実習 (eスポーツ)	eスポーツは、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指し、コンピュータゲーム等を使った対戦をスポーツ競技として捉えている。本科目では、eスポーツのタイトルのプレイ体験を通して、プレイヤーとしての実践力を高めるだけでなく、eスポーツのプレイの特徴やコミュニケーション上の効果、他の競技スポーツとの違いを理解し、eスポーツを競技スポーツの1つとして実践していく態度を身に付ける。	
			スポーツ方法実習 (水泳・水中運動)	健康づくりや体力づくり、生涯スポーツのために広く行われている水泳及び水中運動の各種目について基礎的な知識を学修する。また、保健体育科教員や運動・スポーツ指導者として、水泳の4泳法ならびに水中ウォーキング、水中レジスタンス運動について適切な見本を示して指導ができる能力を実践を通して修得する授業とする。	
			体づくり運動と運動遊び	各種スポーツ種目に代表されるような発展的な動作を身につけるための体づくり及び動きづくり運動について、その理論と運動方法について学習する。また、その学習内容や運動自体が持つ本質的な楽しさについて理解することを目的とする。授業を通して、ライフステージや目的に応じた安全かつ楽しい運動の指導計画が構築できるようになることを目標とする。	
			スポーツ方法実習 (ダンス)	ダンスの構成と特性及び学校におけるダンス教育を理解し、指導者に必要なダンスの基本的技術と知識、表現力、創作力、鑑賞力を学習しつつ、自分自身の技能育成や仲間との活動よりコミュニケーション能力を高め、伝承されてきた踊りやリズムにのって全身で踊る楽しさや自己表現力を養う。また、グループの創作活動、作品発表を通して他者の感性を尊重し、課題解決を目指す協調性、実践力、教育現場における指導力を習得することを目的とする。	
			スポーツ方法実習 (海洋スポーツ)	ウォータースポーツは、湖海 of 自然の中で誰もが楽しめ、多くの体験や学びのある活動である。楽しく安全に充実した活動を行うためには、ウォータースポーツの正しい知識や技術が欠かせない。本科目では、ウォータースポーツの意義や効果、安全についての知識を学ぶとともに、実際にさまざまなアクティビティを体験して実践できる力、環境や自然を大切に思う心を身につける授業とする。	
			スポーツ方法実習 (バスケットボール)	バスケットボールは、アメリカで考案され全世界に普及した攻防相乱型の競技である。本授業では、バスケットボールにおける歴史やルールを学び技術体系などの競技特性を把握し、バスケットボールに必要な基本技術を身につけ、個人技能に加え、少人数から段階を上げながら集団における技能を養い、オフフェンス対ディフェンスにおける状況判断などの基礎的な戦術を学び、競技や教育現場において適切に指導できる力を習得することを目標とする。	
			スポーツ方法実習 (ニュースポーツ)	ニュースポーツは、1980年以降に考案されたスポーツの総称である。競い合うことよりも、からだを動かすこと自体を楽しむことが重視される。本科目では、数多くのニュースポーツ種目を取り挙げて実践することで、ルールが簡単である、年齢や体力にかかわらず自分のペースで楽しめる、健康づくりやコミュニケーションを目的としている、運動量を参加者自身が調節できる、激しい運動を要求しないといったニュースポーツの特徴について理解し、ニュースポーツの指導や支援に関わる基礎的な技能及び態度を身に付ける授業とする。	
			スポーツ方法実習 (冬季スポーツ)	団体生活・団体行動を通じて、公共の精神を養いながら、シーズンスポーツのひとつであるスキー・スノーボードについて、その運動特性、技術、指導法を修得し、生涯スポーツとして在り方を習得する。また、冬期の自然環境に対する知識や事故の防止策等を学び、指導者として適切な安全配慮のもと必要な計画の立案と運営する能力を身につける。	
			スポーツ方法実習 (ゴール型球技)	本科目では、屋外でのゴール型球技であるサッカー、室内でのゴール型球技であるフラッグフットボールとユニホックを取り挙げ、実践によってプレイに必要な基本的なスキルと戦術を身につける。そして、相互コーチングによるより深い学びによって、これらの球技を指導する資質能力の向上を図る。また、チームメンバーの互いの強みを活かしてチームで協力して勝つための工夫をすることで、パフォーマンスアップにおけるチーム協働の重要性を理解する授業とする。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、類を作成する必要はない。

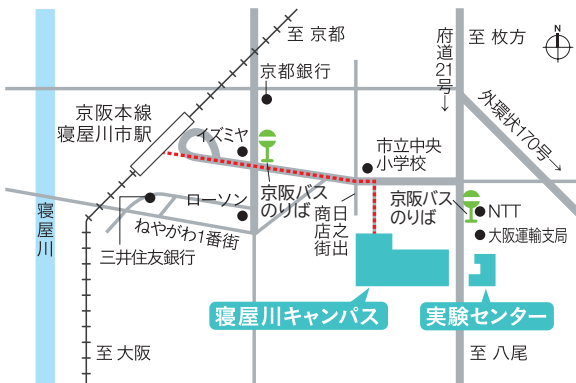
大阪府内における学舎の位置



アクセス

キャンパスの最寄り駅は、関西エリアの幅広い地域が通学圏内の好立地。
授業やクラブ活動が終わったあとのお出かけもスムーズです。

寝屋川キャンパス (工学部・情報通信工学部)



寝屋川キャンパス

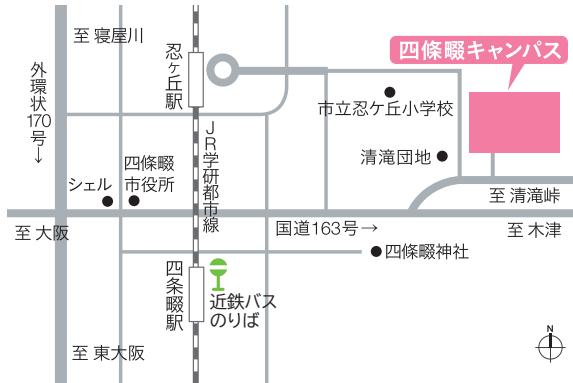
〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8
Tel.072-824-1131(代) Fax.072-824-0014



京阪本線「寝屋川市」駅までの所要時間(目安)

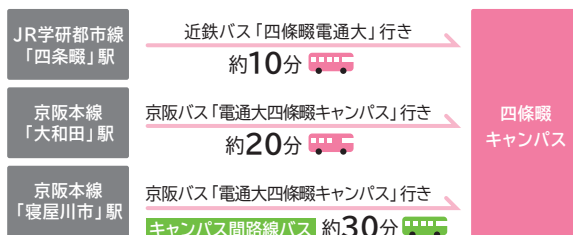
枚方市駅から	約 8分	祇園四条駅から	約41分
京橋駅から	約13分	千里中央駅から	約42分
大阪(梅田)駅から	約28分	堺東駅から	約53分
天王寺駅から	約32分	三ノ宮駅から	約65分

四條畷キャンパス (医療健康科学部・総合情報学部)



四條畷キャンパス

〒575-0063 大阪府四條畷市清滝1130-70
Tel.072-876-3317(代) Fax.072-876-3321



Topics!!

JRおおさか東線全線開業により、JRおおさか東線、阪急京都線沿線からJR四條畷駅へのアクセスがますます便利に！

キャンパスを結ぶ 路線バス

キャンパスをラクラク移動！キャンパス間をバスが運行しています。

Point.01 クラブ学生の味方！

クラブ活動でバスに乗る必要がある場合は、1日1往復まで乗車が無料に。活動の幅が広がります。

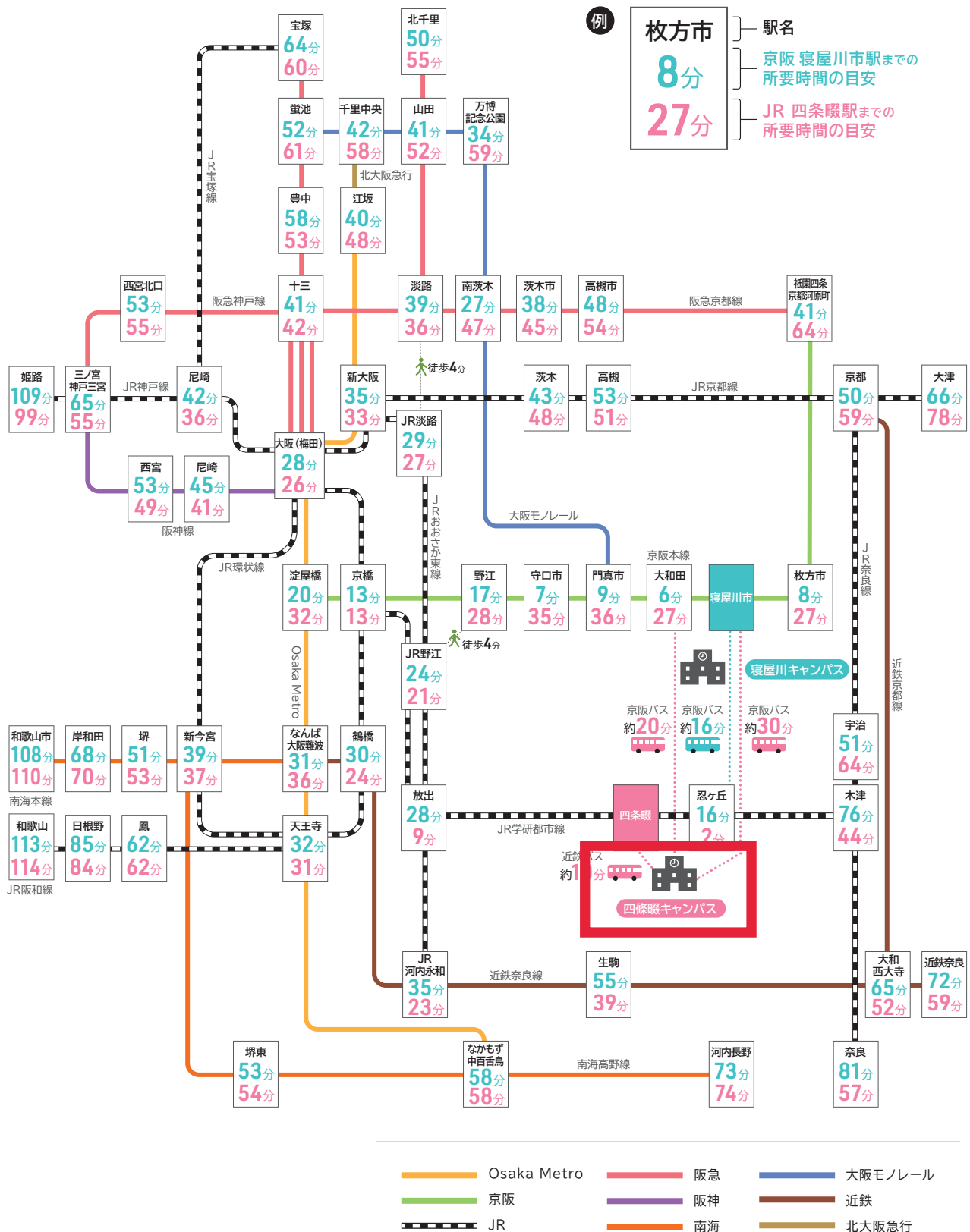
Point.02 キャンパスを直結！

寝屋川・四條畷のキャンパスを乗り換えなしで行き来可能。通学や授業での移動を手助けします。
(寝屋川から四條畷 所要時間約30分)

Point.03 30分間隔で運行！

30分間隔で運行しています。また、スムーズな運行を行うため、混雑する時間帯は直行便を配車しています。

「JRおおさか東線」全線開業により、アクセスがますます便利に！



○大阪電気通信大学学則

昭和36年4月1日
制定

第1章 総則

(名称)

第1条 本大学は、大阪電気通信大学(以下「本学」という。)と称する。

(目的)

第2条 本学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき専門の学術を教授研究し、知的並びに道德的な完成を期し、更に応用能力を展開させ得る人材の育成を目的とする。

(自己点検評価等)

第2条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

(学部及び学科)

第3条 本学に次の学部及び学科をおく。

学部	学科
工学部	電気電子工学科 電子機械工学科 機械工学科 基礎理工学科
健康情報学部	健康情報学科
情報通信工学部	情報工学科 通信工学科
総合情報学部	デジタルゲーム学科 ゲーム&メディア学科 情報学科
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科

2 前項各学部及び学科の人材の養成に関する目的は、大阪電気通信大学学部規則(以下「学部規則」という。)に定める。
(機構)

第3条の2 本学に各学部学科と連携し専門力及び社会人基礎力教育の検討及び実施のため共通教育機構をおく。
(大学院)

第3条の3 本学に大学院をおく。

2 大学院の学則は、別に定める。

(附属施設及び機関)

第3条の4 本学に図書館、国際交流センター、メディアコミュニケーションセンター、エレクトロニクス基礎研究所、メカトロニクス基礎研究所、情報学研究所、先端マルチメディア合同研究所、衛星通信研究施設、研究連携推進センター、地域連携・リカレント推進センター、ICT社会教育センター、教育開発推進センター、総合学生支援センター、実験センター、課外活動支援センター、医務室その他の附属施設及び機関を置く。

2 附属施設及び機関に関する事項は、各規則に定める。

(収容定員)

第4条 学部及び学科の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80名	—	320名
	電子機械工学科	80名	—	320名
	機械工学科	90名	—	360名
	基礎理工学科	86名	—	344名
	小計	336名	—	1,344名
健康情報学部	健康情報学科	165名	2名	664名
情報通信工学部	情報工学科	160名	—	640名
	通信工学科	80名	—	320名
	小計	240名	—	960名
総合情報学部	デジタルゲーム学科	153名	1名	614名
	ゲーム&メディア学科	122名	—	488名
	情報学科	90名	—	360名
	小計	365名	1名	1,462名
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	150名	—	600名
合計		1,256名	3名	5,030名

(修業年限及び在学年限)

第5条 学部の修業年限は4年とする。

2 学生は8年を超えて在学することはできない。

3 前2項の規定にかかわらず、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する学生(以下「長期履修学生」という。)がその旨を申し出たときは、その計画的

な履修を認めることができる。

- 4 長期履修学生の申し出は、入学時に行うものとする。

第2章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は4月1日に始まり翌年の3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

- 2 学長は、前項に定める前期の終期及び後期の始期を変更することができる。

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(3) 本学の創立記念日 10月1日

(4) 夏期休業日 8月1日から9月30日まで

(5) 冬期休業日 12月24日から翌年1月7日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合には休業日に授業を行うことがある。

- 3 学長は必要な場合、学部教授会の議を経て、休業日を臨時に変更し、又は第1項に定めるもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 入学、退学、休学、転部及び転科

(入学の時期)

第9条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学資格)

第10条 本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

(8) 本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学の出願)

第11条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて指定の期日までに提出しなければならない。

- 2 入学検定料については、別に定める。

(入学者の選考)

第12条 前条の入学志願者については、選考により入学を許可すべき者を決定する。

- 2 前項の選考の方法及び基準は、運営会議の議を経て学長が定める。

(入学手続及び入学許可)

第13条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定の期日までに、誓約書その他本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学金及び学費を納付しなければならない。

- 2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

- 3 前項により入学を許可された者は、入学式に出席し、かつ入学の宣誓をしなければならない。

(編入学、再入学)

第14条 本学に編入学を志願する者があるときは、編入学定員の範囲において、又は、編入学定員のない学科においては欠員のある場合に限り、選考のうえ入学を許可する。

- 2 本学に再入学を志願する者があるときは、選考のうえ入学を許可する。

- 3 編入学及び再入学について必要な事項は、別に定める。

(退学)

第15条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(休学)

第16条 疾病その他やむを得ない事情により、3か月以上にわたって修学することのできない者は、学長が許可した場合休学することができる。

(休学の期間)

第17条 休学期間は学年末を超えることはできない。ただし、特別の理由がある場合は、学長が許可した場合、休学期間を延長することができる。

- 2 休学期間は通算して2年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、更に2年以内に限って延長することができる。

3 休学期間は在学年数に算入しない。

(復学)

第18条 休学の理由が消滅した場合は、学長が許可した場合、復学することができる。ただし、休学期間が3か月未満となる場合は、休学許可を取り消す。

(除籍)

第19条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者を除籍する。

- (1) 第5条第2項に定める在学年数を越えた者
- (2) 学費の納入を怠り、督促してもなお納入しない者
- (3) 死亡した者
- (4) 第13条第3項に定める入学式に正当な理由なく欠席した者又は宣誓しない者

(転部)

第20条 転部を願い出た者については、志望する学部欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。

(転科)

第20条の2 転科を願い出た者については、志望する学科欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。

(二重学籍の禁止)

第20条の3 本学の学生は、本学が認めた場合を除いて、他の学部、研究科又は他の大学（短期大学を含む。）に在籍することはできない。

第4章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第21条 教育課程は、授業科目を4年間に配当し、これを編成する。

2 授業科目を、共通科目及び専門教育科目に区分し、区分ごとに修得すべき単位数を定める。

3 専門教育科目については、学科ごとに必修科目を定める。

4 開設する授業科目の名称、単位数、配当年次等については、学部規則に定める。

5 授業科目の履修について必要な事項は、別に定める。

6 授業科目は、その授業の方法、内容及び年間の計画並びに成績評価の基準をあらかじめ学生に明示するものとする。

(授業の方法)

第21条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 前項の授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第21条の3 本学は、本学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(教職課程)

第22条 第21条に定めるもののほか、教職に関する授業科目をおく。

2 前項の授業科目の名称、単位数、配当年次等は、学部規則に定める。

(単位の計算方法)

第23条 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間の授業をもって1単位とし、詳細は学部規則に定める。

2 前項の規定に関わらず、卒業研究、卒業制作及び卒業設計の授業科目については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合、これに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(授業期間)

第23条の2 各授業科目の授業は、13週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上の特別の必要があると認められる場合は、13週より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(単位の授与等)

第24条 授業科目を履修し、試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果を評価し、合格した者には、所定の単位を与える。

2 試験等の成績は、S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)、D(不可)をもって表し、S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)を合格とする。

3 前項の規定にかかわらず、特に定める授業科目の成績は、G(合格)、D(不合格)をもって表す。

4 授業科目の成績評価は、学部規則第23条に従って適切に行うものとする。

5 試験について必要な事項は、別に定める。

(他の大学等における授業科目の履修又は学修)

第24条の2 教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。

2 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。

3 学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合には、第1項の規定を準用する。

4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、合わせて60単位を超えないものとする。

5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第24条の3 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第2項に規定する学修を、本学における授業科目

の履修とみなし、単位を与える。

- 3 学生が外国の大学又は短期大学において修得した単位については、第1項の規定を準用する。
- 4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、編入学及び再入学の場合を除き、前条第1項から第3項までにより本学において修得したものとみなし、又は与える単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。

(特別の課程)

第24条の4 本学は、教育研究の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するため、文部科学大臣が別に定めるところにより、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

- 2 特別の課程の編成等に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 卒業及び学士の学位等

(卒業の要件)

第25条 本学を卒業するためには、4年(編入学又は再入学した者については、第14条第3項によって定める年数)以上在学し、学部規則に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。

- 2 学長は、前項の規定にかかわらず、本学の学生として3年以上在学し、大学院への進学を希望している者で、学部の定める卒業要件を満たし、かつ、優秀な成績を修めたと認めた場合、学部長が推薦し教授会の意見を参酌し、卒業を認めることができる。

(卒業)

第26条 学長は、前条の規定による卒業の要件を備えた者には、教授会の意見を参酌し、卒業を認め、学士の学位を授与する。

- 2 学士の学位は、卒業した学部に応じて、次のとおり定める。

工学部 学士(工学)

健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻 学士(工学)

健康情報学科 理学療法学専攻 学士(理学療法学)

健康情報学科 スポーツ科学専攻 学士(スポーツ科学)

情報通信工学部 情報工学科 学士(情報工学)

通信工学科 学士(工学)

総合情報学部 学士(情報学)

建築・デザイン学部 学士(工学)

(資格の取得)

第27条 本学において取得することができる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類
工学部	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
	電子機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(技術) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	基礎理工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(理科) 高等学校教諭一種免許状(数学)(理科)
健康情報学部	健康情報学科 医療工学専攻	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	健康情報学科 スポーツ科学専攻	中学校教諭一種免許状(保健体育) 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
情報通信工学部	情報工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
	通信工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
総合情報学部	情報学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(情報)

- 2 前項の教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、第25条に定める卒業の要件を満たすほか、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び同法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

- 3 前項に定める資格を得るための履修方法は、別に定める。

第6章 科目履修生、研究生及び外国人留学生等

(科目履修生)

第28条 本学において特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、科目履修生として入学を許可することがある。

- 2 科目履修生について必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第28条の2 本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、聴講生として入学を許可することがある。

- 2 聴講生について必要な事項は、別に定める。
(研究生)

第29条 本学において特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、研究生として入学を許可することがある。

- 2 研究生について必要な事項は、別に定める。
(外国人留学生)

第30条 外国人で本学に入学を志願する者があるときは、運営会議で選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することがある。

- 2 外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

第7章 学費及びその他の費用

(学費)

第31条 入学金及び学費の金額は別表第4のとおりとする。

(その他の費用)

第32条 学費の他学習等に必要の費用は、別にこれを徴収することがある。

(学費等の納入)

第33条 学費及びその他の費用の納入については、別に定める。

(休学の場合の学費)

第34条 休学期間中の者については学費を免除し、在籍料を徴収する。

- 2 在籍料については、別に定める。

(既納の学費等)

第35条 既納の学費等は原則としてこれを返付しない。

第8章 賞罰

(表彰)

第36条 次の各号のいずれかに該当する者に対し、学部長は学部教授会の議を経て、これを賞することがある。

- (1) 成績特に優秀なる者
- (2) 品行方正にして他学生の模範となる者

(懲戒)

第37条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、学部教授会の議を十分に考慮した上で、学長が懲戒する。

- 2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者についてこれを行う。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当の理由なくして、出席常でない者
 - (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者
- 4 懲戒の手続きについては、別に定める学生の懲戒処分に関する規則による。

第9章 教育研究実施組織等

(教育研究実施組織等)

第37条の2 本学は、教育研究上の目的を達成するため、必要な教員及び事務職員からなる教育研究実施組織を編成する。

- 2 本学は、教育研究実施組織を編成するに当たり、教育研究活動等の運営が組織的かつ効果的に行われるよう、教員及び事務職員等相互の適切な役割分担の下での協働や組織的な連携体制を確保しつつ、教育研究に係る責任の所在を明確にする。
- 3 本学は、学生に対し、課外活動、修学、進路選択及び心身の健康に関する指導及び援助等の厚生補導を組織的に行うため、専属の職員を置く組織を編成する。
- 4 本学は、教育研究実施組織及び前項の組織の円滑かつ効果的な業務の遂行のための支援、大学運営に係る企画立案、本学以外の者との連携、人事、総務、財務、広報、情報システム並びに施設及び設備の整備その他の大学運営に必要な業務を行うため、専属の職員を置く組織を編成する。
- 5 本学は、大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織の有機的な連携を図り、適切な体制を整える。

(職員)

第38条 本学の職員の種類は次のとおりとする。

学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員

- 2 学長は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学運営に関し識見を有する者であって、校務をつかさどり所属職員を統督する。
- 3 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 4 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 5 講師は、教授又は准教授に準ずる。
- 6 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有し、かつ、大学における教育を担当する

にふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であつて、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

7 助手は、その所属する組織における教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。

8 事務職員に関する事項は、学校法人大阪電気通信大学事務組織規則に規定するほか、必要に応じ別に定める。

第38条の2 本学に必要な応じて副学長を置くことができる。

2 副学長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の管理運営に関する重要な事項についての企画及び各部門間の調整を行う。

第38条の3 学部に学部長をおき、教授をもって充てる。

2 学部長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の教学運営業務を遂行し、各学部内の業務を処理するとともに、各学部に所属する職員を指揮監督する。

第38条の4

第38条の5 本学は、各授業科目について、当該授業科目を担当する教員以外の教員、学生その他の大学が定める者（以下、「指導補助者」という。）に補助させることができ、また、十分な教育効果を上げることができると認められる場合は、当該授業科目を担当する教員の指導計画に基づき、指導補助者に授業の一部を分担させることができる。

第39条 削除

第10章 運営組織

（運営会議）

第40条 本学に、運営会議をおく。

2 運営会議は、大学及び大学院の運営に関する全学的事項を審議し、学長の意思決定の円滑化を図る。

3 運営会議に関する事項は、別に定める。

（学部教授会）

第41条 本学の各学部及び共通教育機構に、学部教授会をおく。

2 学部教授会に関する事項は、別に定める。

第42条 削除

第42条の2 削除

第43条 削除

第11章 その他

（施行細則）

第44条 本学則の施行に必要な細則は、別に定める。

（学則の改正）

第45条 本学則の改正は、学部教授会での意見を参酌し、運営会議の審議を経て学長が理事長に上程し、常任理事会での審議を経て理事会で決定する。

附 則 1

本学則は昭和36年4月1日からこれを施行する。

昭和40年3月20日改正

昭和40年4月1日施行

昭和49年3月4日改正

昭和49年4月1日施行

昭和50年4月1日改正・施行

昭和52年4月1日改正・施行

昭和53年4月1日改正・施行

昭和54年4月1日改正・施行

昭和55年4月1日改正・施行

昭和55年10月31日改正・施行

昭和56年4月1日改正・施行

昭和57年4月1日改正・施行

昭和58年4月1日改正・施行

昭和59年4月1日改正・施行

昭和60年4月1日改正・施行

昭和60年6月13日改正・施行

昭和61年4月1日改正・施行

昭和62年4月1日改正・施行

昭和63年4月1日改正・施行

平成元年4月1日改正・施行

平成2年4月1日改正・施行

平成3年4月1日改正・施行

平成4年4月1日改正・施行

平成5年4月1日改正・施行

平成6年4月1日改正・施行

平成7年4月1日改正・施行

平成8年4月1日改正・施行

平成9年4月1日改正・施行

平成10年4月1日改正・施行

平成10年11月1日改正・施行
 平成11年4月1日改正・施行
 平成12年4月1日改正・施行
 平成13年4月1日改正・施行
 平成14年4月1日改正・施行

附 則 2

- 第21条、第25条および第26条については、昭和54年度以前に入学した者、昭和55年度2年次以上に編入学または再入学した者、昭和56年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに昭和57年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 第21条、第25条および第26条については、昭和59年度以前に入学した者、昭和60年度2年次以上に編入学または再入学した者、昭和61年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに昭和62年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 第31条については、昭和60年度以前に入学、編入学または再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 第19条第2号については、昭和59年度以前に入学した者、昭和60年度以前に2年次以上に編入学または再入学した者、昭和61年度以前に3年次以上に編入学または再入学した者ならびに昭和62年度以前に4年次に再入学した者には適用しない。
- 第4条に規定する収容定員は、昭和62年度から平成元年度までの間は、次のとおりとする。

年度		昭和62年度		昭和63年度		平成元年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	通信工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	電子物性工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	電子機械工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	経営工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	精密工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	応用電子工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名

- 第21条、第25条および第26条については、昭和61年度以前に入学した者、昭和62年度2年次以上に編入学または再入学した者、昭和63年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに平成元年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 昭和63年度以前の入学者については、学費のうち維持・拡充費を次のとおりとする。
 - 昭和61～63年度入学者 288,400円
 - 昭和59、60年度入学者 257,500円
 - 昭和57、58年度入学者 216,300円
- 第21条、第22条、第25条、第26条および第27条については、平成元年度以前に入学した者、平成2年度2年次以上に編入学または再入学した者、平成3年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに平成4年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成2年度から平成13年度までの間は、次のとおりとする。

年度		平成2年度		平成3年度		平成4年度		平成5年度～平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	通信工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	電子物性工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	電子機械工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	経営工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	精密工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	応用電子工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490

- 第21条、第25条、第26条については、平成2年度以前に入学した者、平成3年度2年次以上に編入学または再入学した者、平成4年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに平成5年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 第21条、第25条、第26条については、平成3年度以前に入学した者、平成4年度2年次以上に編入学または再入学した者、平成5年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに平成6年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 第21条、第23条、第25条、第26条については、平成6年度2年次以上に在学する者、平成7年度3年次以上に在学する者ならびに平成8年度4年次に在学する者は従前の当該規定を適用する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成7年度から平成13年度までの間は、次のとおりとする。

年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度

学部・学科		年度		年度		年度		年度		年度		年度		年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	通信工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	電子物性工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	電子機械工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	精密工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	応用電子工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	小計	720	3450	720	3260	720	3070	720	2880	660	2820	660	2760	660	2700
情報工学部	情報工学科	190	190	190	380	190	570	190	760	180	750	180	740	180	730
合計		910	3640	910	3640	910	3640	910	3640	840	3570	840	3500	840	3430

14 経営工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成7年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

15 第4条に規定する収容定員は、平成8年度から平成13年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科		年度		年度		年度		年度		年度		年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	通信工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	電子物性工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	電子機械工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	知能機械工学科	120	120	120	240	120	360	110	470	110	460	110	450
	応用電子工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	小計	720	3260	720	3070	720	2880	660	2820	660	2760	660	2700
情報工学部	情報工学科	190	380	190	570	190	760	180	750	180	740	180	730
合計		910	3640	910	3640	910	3640	840	3570	840	3500	840	3430

16 精密工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成8年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

17 第4条に規定する収容定員は、平成9年度から平成14年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科		年度		年度		年度		年度		年度		年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450	110	440
	通信工学科	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450	110	440
	電子材料工学科	120	120	120	240	110	350	110	460	110	450	110	440
	電子機械工学科	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450	110	440
	知能機械工学科	120	240	120	360	110	470	110	460	110	450	110	440
	光システム工学科	120	120	120	240	110	350	110	460	110	450	110	440
	小計	720	3070	720	2880	660	2820	660	2760	660	2700	660	2640
情報工学部	情報工学科	190	570	190	760	180	750	180	740	180	730	180	720
合計		910	3640	910	3640	840	3570	840	3500	840	3430	840	3360

18 電子物性工学科および応用電子工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成9年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

19 工学部については、改正後の第3条にかかわらず、平成10年3月31日に当該学部 に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

20 第4条に規定する収容定員は、平成11年度は次のとおりとする。

学部・学科		年度	平成11年度	
学部	学科		入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	120		480
	通信工学科	120		480

	電子材料工学科	120	480
	電子機械工学科	120	480
	知能機械工学科	120	480
	光システム工学科	120	480
	小計	720	2880
情報工学部	情報工学科	190	760
合計		910	3640

21 第4条に規定する収容定員は、平成12年度から平成18年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
学部・学科		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部 第1部	電子工学科	118	478	116	474	114	468	112	460	110	452	110	446	110	442
	通信工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子材料工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子機械工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	知能機械工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	光システム工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	小計	668	2828	666	2774	664	2718	662	2660	660	2652	660	2646	660	2642
工学部 第2部	電子工学科	60	180	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	知能機械工学科	60	180	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	360	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合情報学部	情報工学科	188	758	186	754	184	748	182	740	180	732	180	726	180	722
	メディア情報文化学科	130	130	130	260	130	420	130	580	130	580	130	580	130	580
	小計	318	888	316	1014	314	1168	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302
合計		1106	4076	1102	4268	1098	4366	1094	4460	1090	4444	1090	4432	1090	4424

22 情報工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成12年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

23 第4条に規定する収容定員は、平成13年度から平成19年度までの間は、次のとおりとする。

年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
学部・学科		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部 第1部	電子工学科	116	474	114	468	112	460	110	452	110	446	110	442	110	440
	通信工学科	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子材料工学科	80	430	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	知能機械工学科	90	440	90	410	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	430	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	小計	586	2694	584	2558	582	2420	580	2332	580	2326	580	2322	580	2320
工学部 第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	知能機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合情報学部	情報工学科	186	754	184	748	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報文化学科	130	260	130	420	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	小計	316	1014	314	1168	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302	310	1300
合計		1022	4188	1018	4206	1014	4220	1010	4124	1010	4112	1010	4104	1010	4100

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

24 第4条に規定する収容定員は、平成13年度から平成19年度までの間は、次のとおりとする。

年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
学部・学科		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部 第1部	電子工学科	116	474	114	468	112	460	110	452	110	446	110	442	110	440
	通信工学科	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子材料工学科	80	430	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	知能機械工学科	90	440	90	410	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360

	光システム工学科	80	430	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	医療福祉工学科	80	80	80	160	80	250	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	666	2774	664	2718	662	2670	660	2672	660	2666	660	2662	660	2660
工学部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
第2部	知能機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合情報学部	情報工学科	186	754	184	748	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報文化学科	130	260	130	420	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	小計	316	1014	314	1168	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302	310	1300
合計		1102	4268	1098	4366	1094	4470	1090	4464	1090	4452	1090	4444	1090	4440

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

25 第4条に規定する収容定員は、平成14年度から平成20年度までの間は、次のとおりとする。

年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
学部・学科															
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	114	468	112	460	110	452	110	446	110	442	110	440	110	440
	通信工学科	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子材料工学科	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	機械工学科	90	410	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320	80	320
	医療福祉工学科	80	160	80	250	80	340	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	664	2718	662	2670	660	2672	660	2666	660	2662	660	2660	660	2660
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合情報学部	情報工学科	184	748	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720	180	720
	メディア情報文化学科	130	420	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	小計	314	1168	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302	310	1300	310	1300
合計		1098	4366	1094	4470	1090	4464	1090	4452	1090	4444	1090	4440	1090	4440

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

26 工学部第1部および工学部第2部の知能機械工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成14年3月31日に当該学科に在学する者が在学なくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成15年度から平成19年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
学部・学科											
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	102	450	100	432	100	416	100	402	100	400
	通信工学科	100	430	100	420	100	410	100	400	100	400
	電子材料工学科	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	430	100	420	100	410	100	400	100	400
	機械工学科	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	医療福祉工学科	80	250	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	632	2640	630	2612	630	2576	630	2542	630	2540
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合情報学部	情報工学科	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	小計	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302	310	1300
合計		1064	4440	1060	4404	1060	4362	1060	4324	1060	4320

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

附 則

1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成15年度から平成19年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	102	450	100	432	100	416	100	402	100	400
	通信工学科	100	430	100	420	100	410	100	400	100	400
	電子材料工学科	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	430	100	420	100	410	100	400	100	400
	機械工学科	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	医療福祉工学科	80	250	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	632	2640	630	2612	630	2576	630	2542	630	2540
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合情報学部	情報工学科	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	デジタルゲーム学科	110	110	110	220	110	360	110	500	110	500
	小計	422	1430	420	1532	420	1666	420	1802	420	1800
合計		1174	4550	1170	4624	1170	4722	1170	4824	1170	4820

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年9月16日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

2 平成15年度末に工学部第1部医療福祉工学科に在籍中の学生すべてを平成16年度から医療福祉工学部医療福祉工学科学生とする。

3 第4条に規定する収容定員は、平成16年度から平成19年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	432	100	416	100	402	100	400
	通信工学科	100	420	100	410	100	400	100	400
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	420	100	410	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	小計	550	2272	550	2236	550	2202	550	2200
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	80	340	80	340	80	340	80	340
総合情報学部	情報工学科	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580
	デジタルゲーム学科	110	220	110	360	110	500	110	500
	小計	420	1532	420	1666	420	1802	420	1800
合計		1170	4624	1170	4722	1170	4824	1170	4820

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は、期間付定員を含む。

附 則

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

2 改正後の別表第1—5については、平成15年度以前に入学した者、平成16年度に2年次以上に編入学または再入学した者、平成17年度に3年次以上に編入学または再入学した者および平成18年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成17年度から平成20年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
学部・学科		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	416	100	402	100	400	100	400
	通信工学科	100	410	100	400	100	400	100	400
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	410	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	小計	550	2236	550	2202	550	2200	550	2200
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	380	120	420	120	460	120	500
	小計	120	380	120	420	120	460	120	500
総合情報学部	情報工学科	180	726	180	722	180	720	180	720
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580
	デジタルゲーム学科	110	360	110	500	110	500	110	500
	小計	420	1666	420	1802	420	1800	420	1800
合計		1210	4762	1210	4904	1210	4940	1210	4980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は、期間付定員を含む。

附 則

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成17年度から平成20年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
学部・学科		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	416	100	402	100	400	100	400
	通信工学科	—	310	—	200	—	100	—	—
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	410	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	240	—	160	—	80	—	—
	小計	370	2,056	370	1,842	370	1,660	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	80	340	80	340	80	340	80	340
情報通信工学部	情報工学科	180	180	180	360	180	540	180	720
	通信工学科	100	100	100	200	100	300	100	400
	光システム工学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	小計	360	360	360	720	360	1,080	360	1,440
総合情報学部	情報工学科	—	546	—	362	—	180	—	—
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580
	デジタルゲーム学科	110	360	110	500	110	500	110	500
	小計	240	1,486	240	1,442	240	1,260	240	1,080
合計		1,170	4,722	1,170	4,824	1,170	4,820	1,170	4,820

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は、期間付定員を含む。

- 工学部第1部通信工学科および光システム工学科ならびに総合情報学部情報工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成17年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成17年度から平成20年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
学部・学科		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	416	100	402	100	400	100	400
	通信工学科	—	310	—	200	—	100	—	—
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320

	電子機械工学科	100	410	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	240	—	160	—	80	—	—
	小計	370	2,056	370	1,842	370	1,660	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	40	220	40	200	40	180	40	160
	機械工学科	40	220	40	200	40	180	40	160
	小計	80	440	80	400	80	360	80	320
医療福祉工 学部	医療福祉工学科	120	380	120	420	120	460	120	500
	小計	120	380	120	420	120	460	120	500
情報通信工 学部	情報工学科	180	180	180	360	180	540	180	720
	通信工学科	100	100	100	200	100	300	100	400
	光システム工学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	小計	360	360	360	720	360	1,080	360	1,440
総合情報学 部	情報工学科	—	546	—	362	—	180	—	—
	メディア情報文化学科	100	550	100	520	100	490	100	460
	デジタルゲーム学科	110	360	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータ システム学科	70	70	70	140	70	210	70	280
	小計	280	1,526	280	1,522	280	1,380	280	1,240
合計		1,210	4,762	1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は、期間付定員を含む。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年5月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
学部・学科		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	小計	370	1,842	370	1,660	370	1,480	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	機械工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	小計	80	400	80	360	80	320	80	320
医療福祉工 学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500
	小計	120	420	120	460	120	500	120	500
情報通信工 学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720
	通信工学科	100	200	100	300	100	400	100	400
	光システム工学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	360	720	360	1,080	360	1,440	360	1,440
総合情報学 部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	—	420	—	290	—	130	—	—
	デジタルアート・アニメ ーション学科	100	100	100	200	100	330	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータ システム学科	70	140	70	210	70	280	70	280
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240
	合計	1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

3 総合情報学部メディア情報文化学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が在学なくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
学部・学科									
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—
	電子材料工学科	—	240	—	160	—	80	—	—
	応用化学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	小計	370	1,842	370	1,660	370	1,480	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	機械工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	小計	80	400	80	360	80	320	80	320
医療福祉工 学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500
	小計	120	420	120	460	120	500	120	500
情報通信工 学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720
	通信工学科	100	200	100	300	100	400	100	400
	光システム工学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	360	720	360	1,080	360	1,440	360	1,440
総合情報学 部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	100	520	100	490	100	460	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータ システム学科	70	140	70	210	70	280	70	280
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240
合計		1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

3 工学部第1部電子材料工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
学部・学科									
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	小計	370	1,842	370	1,660	370	1,480	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	20	180	20	140	20	100	20	80
	機械工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	小計	60	380	60	320	60	260	60	240
医療福祉工 学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500
	理学療法学科	40	40	40	80	40	120	40	160
	小計	160	460	160	540	160	620	160	660
情報通信工 学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720
	通信工学科	80	180	80	260	80	340	80	320
	光システム工学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	340	700	340	1,040	340	1,380	340	1,360
総合情報学 部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	100	520	100	490	100	460	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータ システム学科	70	140	70	210	70	280	70	280
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240

合計	1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

附 則

- この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
学部・学科		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—
	電子材料工学科	—	240	—	160	—	80	—	—
	応用化学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	小計	370	1,842	370	1,660	370	1,480	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	20	180	20	140	20	100	20	80
	機械工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	小計	60	380	60	320	60	260	60	240
医療福祉工 学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500
	理学療法学科	40	40	40	80	40	120	40	160
	小計	160	460	160	540	160	620	160	660
情報通信工 学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720
	通信工学科	80	180	80	260	80	340	80	320
	光システム工学科	—	80	—	80	—	80	—	—
	光・エレクトロニクス学 科	80	80	80	160	80	240	80	320
	小計	340	700	340	1,040	340	1,380	340	1,360
総合情報学 部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	—	420	—	290	—	130	—	—
	デジタルアート・アニメ ーション学科	100	100	100	200	100	330	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータ システム学科	70	140	70	210	70	280	70	280
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240
	合計	1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

- 情報通信工学部光システム工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
学部・学科		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—
	電子材料工学科	—	240	—	160	—	80	—	—
	応用化学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	環境技術学科	60	60	60	120	60	180	60	240
	小計	430	1,902	430	1,780	430	1,660	430	1,720
工学部第2部	電子工学科	—	160	—	100	—	40	—	—
	機械工学科	—	160	—	100	—	40	—	—
	小計	—	320	—	200	—	80	—	—
医療福祉工 学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500
	理学療法学科	40	40	40	80	40	120	40	160

	小計	160	460	160	540	160	620	160	660
情報通信工 学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720
	通信工学科	80	180	80	260	80	340	80	320
	光システム工学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	340	700	340	1,040	340	1,380	340	1,360
総合情報学 部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	—	420	—	290	—	130	—	—
	デジタルアート・アニメ ーション学科	100	100	100	200	100	330	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータ システム学科	70	140	70	210	70	280	70	280
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240
	合計	1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

- 3 工学部第2部電子工学科および機械工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が、存在なくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規定にかかわらず、平成17年度以前に入学した者、平成18年度に2年次以上に編入学、再入学、転部または転科した者、平成19年度に3年次以上に編入学、再入学、転部または転科した者および平成20年度に4年次に編入学または再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成19年度から平成22年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
学部・学科		入学定員		入学定員		入学定員		入学定員	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	90	390	90	380	90	370	90	360
	通信工学科	—	100	—	—	—	—	—	—
	電子材料工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	応用化学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	電子機械工学科	90	390	90	380	90	370	90	360
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	80	—	—	—	—	—	—
	環境技術学科	60	120	60	180	60	240	60	240
	基礎理工学科	40	40	40	80	40	120	40	160
	小計	450	1,800	450	1,700	450	1,780	450	1,800
工学部第2部	電子工学科	—	100	—	40	—	—	—	—
	機械工学科	—	100	—	40	—	—	—	—
	小計	—	200	—	80	—	—	—	—
医療福祉工学 部	医療福祉工学科	120	460	120	500	120	500	120	500
	理学療法学科	40	80	40	120	40	160	40	160
	小計	160	540	160	620	160	660	160	660
情報通信工学 部	情報工学科	160	520	160	680	160	660	160	640
	通信工学科	80	260	80	340	80	320	80	320
	光システム工学科	—	80	—	80	—	—	—	—
	光・エレクトロニクス学 科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	320	1,020	320	1,340	320	1,300	320	1,280
総合情報学部	情報工学科	—	180	—	—	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	—	290	—	130	—	—	—	—
	デジタルアート・アニメ ーション学科	100	200	100	330	100	460	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータシ ステム学科	70	210	70	280	70	280	70	280
	小計	280	1,380	280	1,240	280	1,240	280	1,240
合計		1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980	1,210	4,980

附 則

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成19年度から平成22年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
学部・学科		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	90	90	90	180	90	270	90	360
	応用化学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	電子機械工学科	90	90	90	180	90	270	90	360
	機械工学科	90	90	90	180	90	270	90	360
	環境技術学科	60	60	60	120	60	180	60	240
	基礎理工学科	40	40	40	80	40	120	40	160
	小計	450	450	450	900	450	1350	450	1800
工学部第1部	電子工学科	—	300	—	200	—	100	—	—
	通信工学科	—	100	—	—	—	—	—	—
	電子材料工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	応用化学科	—	80	—	80	—	80	—	—
	電子機械工学科	—	300	—	200	—	100	—	—
	機械工学科	—	270	—	180	—	90	—	—
	光システム工学科	—	80	—	—	—	—	—	—
	環境技術学科	—	60	—	60	—	60	—	—
	小計	—	1350	—	800	—	430	—	—
工学部第2部	電子工学科	—	100	—	40	—	—	—	—
	機械工学科	—	100	—	40	—	—	—	—
	小計	—	200	—	80	—	—	—	—
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	460	120	500	120	500	120	500
	理学療法学科	40	80	40	120	40	160	40	160
	小計	160	540	160	620	160	660	160	660
情報通信工学部	情報工学科	160	520	160	680	160	660	160	640
	通信工学科	80	260	80	340	80	320	80	320
	光システム工学科	—	80	—	80	—	—	—	—
	光・エレクトロニクス学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	320	1020	320	1340	320	1300	320	1280
総合情報学部	情報工学科	—	180	—	—	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	—	290	—	130	—	—	—	—
	デジタルアート・アニメーション学科	100	200	100	330	100	460	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータシステム学科	70	210	70	280	70	280	70	280
	小計	280	1380	280	1240	280	1240	280	1240
合計		1210	4940	1210	4980	1210	4980	1210	4980

3 工学部第1部については、改正後の規定にかかわらず、平成19年3月31日に当該学部 に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を適用する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成20年度から平成22年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成20年度			平成21年度			平成22年度		
学部・学科		入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	90	—	180	90	—	270	90	—	360
	応用化学科	80	—	160	80	—	240	80	—	320
	電子機械工学科	90	—	180	90	—	270	90	—	360
	機械工学科	90	—	180	90	—	270	90	—	360
	環境技術学科	60	—	120	60	—	180	60	—	240
	基礎理工学科	40	—	80	40	—	120	40	—	160

	小計	450	—	900	450	—	1,350	450	—	1,800
工学部第1部	電子工学科	—	—	200	—	—	100	—	—	—
	電子材料工学科	—	—	80	—	—	—	—	—	—
	応用化学科	—	—	80	—	—	80	—	—	—
	電子機械工学科	—	—	200	—	—	100	—	—	—
	機械工学科	—	—	180	—	—	90	—	—	—
	環境技術学科	—	—	60	—	—	60	—	—	—
	小計	—	—	800	—	—	430	—	—	—
工学部第2部	電子工学科	—	—	40	—	—	—	—	—	—
	機械工学科	—	—	40	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	80	—	—	—	—	—	—
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	10	460	80	10	420	80	5	375
	理学療法学科	40	—	120	40	—	160	40	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	70	70	—	140	70	5	215
	小計	190	10	650	190	10	720	190	10	750
情報通信工学部	情報工学科	160	—	680	160	—	660	160	—	640
	通信工学科	80	—	340	80	—	320	80	—	320
	光システム工学科	—	—	80	—	—	—	—	—	—
	光・エレクトロニクス学科	—	—	160	—	—	160	—	—	80
	小計	240	—	1,260	240	—	1,140	240	—	1,040
総合情報学部	メディア情報文化学科	—	—	130	—	—	—	—	—	—
	デジタルアート・アニメーション学科	100	30	330	100	30	460	100	30	460
	デジタルゲーム学科	130	30	520	130	30	540	130	30	560
	メディアコンピュータシステム学科	100	—	310	100	—	340	100	—	370
	小計	330	60	1,290	330	60	1,340	330	60	1,390
合計		1,210	70	4,980	1,210	70	4,980	1,210	70	4,980

3 大阪電気通信大学情報通信工学部光・エレクトロニクス学科は、改正後の規定にかかわらず、平成20年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学なくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。

2 第31条については、平成19年度以前に入学、編入学または再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。

2 改正後の別表第1—2、別表第1—6及び別表第1—7にかかわらず、各学科に平成19年度以前に入学した者、平成20年度に2年次以上に再入学、転部又は転科した者、平成21年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成22年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成21年度から平成23年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科		年度	平成21年度			平成22年度			平成23年度		
			入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	90	—	90	90	—	180	90	—	—	270
	電子工学科	—	—	180	—	—	180	—	—	—	90
	応用化学科	80	—	240	80	—	320	80	—	—	320
	電子機械工学科	90	—	270	90	—	360	90	—	—	360
	機械工学科	90	—	270	90	—	360	90	—	—	360
	環境技術学科	60	—	180	60	—	240	60	—	—	240
	基礎理工学科	40	—	120	40	—	160	40	—	—	160
	小計	450	—	1,350	450	—	1,800	450	—	—	1,800
工学部第1部	電子工学科	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—
	応用化学科	—	—	80	—	—	—	—	—	—	—

	電子機械工学科	—	—	100	—	—	—	—	—	—
	機械工学科	—	—	90	—	—	—	—	—	—
	環境技術学科	—	—	60	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	430	—	—	—	—	—	—
医療福祉工 学部	医療福祉工学科	80	10	420	80	5	375	80	5	330
	理学療法学科	40	—	160	40	—	160	40	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	140	70	5	215	70	5	290
	小計	190	10	720	190	10	750	190	10	780
情報通信工 学部	情報工学科	160	—	660	160	—	640	160	—	640
	通信工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	光・エレクトロニクス学 科	—	—	160	—	—	80	—	—	—
	小計	240	—	1,140	240	—	1,040	240	—	960
総合情報学 部	デジタルアート・アニメ ーション学科	100	30	460	100	30	460	100	30	460
	デジタルゲーム学科	130	30	540	130	30	560	130	30	580
	メディアコンピュータシ ステム学科	100	—	340	100	—	370	100	—	400
	小計	330	60	1,340	330	60	1,390	330	60	1,440
合計		1,210	70	4,980	1,210	70	4,980	1,210	70	4,980

附 則

- この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成21年度から平成23年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成21年度				平成22年度				平成23年度			
学部・学科		入学定 員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容定 員	入学定 員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容定 員	入学定 員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容定 員
工学部	電子工学科	80	—	—	260	80	—	—	340	80	—	—	330
	応用化学科	60	—	—	220	60	—	—	280	60	—	—	260
	電子機械工学科	80	—	—	260	80	—	—	340	80	—	—	330
	機械工学科	80	—	—	260	80	—	—	340	80	—	—	330
	環境技術学科	60	—	—	180	60	—	—	240	60	—	—	240
	基礎理工学科	40	—	—	120	40	—	—	160	40	—	—	160
	小計	400	—	—	1,300	400	—	—	1,700	400	—	—	1,650
工学部第1部	電子工学科	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—
	応用化学科	—	—	—	80	—	—	—	—	—	—	—	—
	電子機械工学科	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—
	機械工学科	—	—	—	90	—	—	—	—	—	—	—	—
	環境技術学科	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	—	430	—	—	—	—	—	—	—	—
医療福祉工 学部	医療福祉工学科	80	—	10	420	80	—	5	375	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ科学 科	70	—	—	140	70	—	5	215	70	—	5	290
	小計	190	—	10	720	190	—	10	750	190	—	10	780
情報通信工 学部	情報工学科	160	—	—	660	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	光・エレクトロニ クス学科	—	—	—	160	—	—	—	80	—	—	—	—
	小計	240	—	—	1,140	240	—	—	1,040	240	—	—	960
総合情報学 部	デジタルアート・ア ニメーション学 科	100	15	5	450	100	15	5	440	100	15	5	455
	デジタルゲーム学 科	110	15	5	510	110	15	5	500	110	15	5	515
	メディアコンピュ ータシステム学科	90	—	—	330	90	—	—	350	90	—	—	370
	小計	300	30	10	1,290	300	30	10	1,290	300	30	10	1,340
金融経済学 部	アセット・マネジ メント学科	80	—	—	80	80	—	—	160	80	—	30	270

合計	1,210	30	20	4,960	1,210	30	20	4,940	1,210	30	50	5,000

附 則

この学則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 医療福祉工学部医療福祉工学科については、改正後の別表第4の規定にかかわらず、平成21年3月31日に当該学科に在学する者には従前の規定を適用する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1—1第3号及び別表第1—8については、平成21年3月31日に当該学科に在学する者、平成21年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成22年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成23年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1—3については、平成22年3月31日に当該学科に在学する者、平成22年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成23年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成24年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 改正後の第27条及び別表第2(2)については、平成22年3月31日に当該学科に在学する者、平成22年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成23年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成24年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。
- 改正後の別表第1—1(2)については、当該学科に平成20年度に1年次に入学、再入学、転部又は転科した者、平成21年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成22年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成23年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成23年度から平成25年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成23年度				平成24年度				平成25年度			
学部・学科		入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80	—	—	330	80	—	—	320	80	—	—	320
	応用化学科	—	—	—	200	—	—	—	120	—	—	—	60
	電子機械工学科	80	—	—	330	80	—	—	320	80	—	—	320
	機械工学科	80	—	—	330	80	—	—	320	80	—	—	320
	環境技術学科	—	—	—	180	—	—	—	120	—	—	—	60
	基礎理工学科	60	—	—	180	60	—	—	200	60	—	—	220
	環境科学科	100	—	—	100	100	—	—	200	100	—	—	300
	小計	400	—	—	1,650	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	—	5	330	80	—	5	330	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	5	290	70	—	5	290	70	—	5	290
	小計	190	—	10	780	190	—	10	780	190	—	10	780
情報通信工学部	情報工学科	160	—	—	640	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	小計	240	—	—	960	240	—	—	960	240	—	—	960
総合情報学部	デジタルアート・アニメーション学科	100	15	5	455	100	15	5	455	100	15	5	455
	デジタルゲーム学科	110	15	5	515	110	15	5	495	110	15	5	495
	メディアコン	90	—	—	370	90	—	—	360	90	—	—	360

	ピュータシス テム学科												
	小計	300	30	10	1,340	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310
金融経済 学部	アセット・マネ ジメント学科	80	—	30	270	80	—	30	380	80	—	30	380
合計		1,210	30	50	5,000	1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030

3 大阪電気通信大学工学部応用化学学科及び工学部環境技術学科は、改正後の規定にかかわらず、平成23年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成22年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年2月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。

2 改正後の別表第1—1、別表第1—6、別表第1—7、別表第1—9及び別表第2にかかわらず、各学科に平成22年度以前に入学した者、平成23年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成24年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成25年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成23年7月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。

2 改正後の別表第1—3及び別表第1—5にかかわらず、各学科に平成23年度以前に入学した者、平成24年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成25年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成26年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。

2 改正後の別表第1—4については、当該学科に平成23年度以前に入学した者、平成24年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成25年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成26年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。

2 改正後の別表第1—7、別表第1—8及び別表第2については、各学科に平成23年度以前に入学した者、平成24年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成25年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成26年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成24年6月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成25年度から平成27年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成25年度				平成26年度				平成27年度			
学部・学科		入学 定員	2年次 編入 学定 員	3年次 編入 学定 員	収容 定員	入学 定員	2年次 編入 学定 員	3年次 編入 学定 員	収容 定員	入学 定員	2年次 編入 学定 員	3年次 編入 学定 員	収容 定員
工学部	電気電子工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	応用化学科	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
	電子機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	環境技術学科	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
	基礎理工学科	60	—	—	220	60	—	—	240	60	—	—	240
	環境科学科	100	—	—	300	100	—	—	400	100	—	—	400
	小計	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600
医療福祉工 学部	医療福祉工学科	80	—	5	330	80	—	5	330	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	5	290	70	—	5	290	70	—	5	290
	小計	190	—	10	780	190	—	10	780	190	—	10	780
情報通信工 学部	情報工学科	160	—	—	640	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	小計	240	—	—	960	240	—	—	960	240	—	—	960
総合情報学部	デジタルアート・アニメーション学科	100	15	5	455	100	15	5	455	100	15	5	455

	デジタルゲーム学科	110	15	5	495	110	15	5	495	110	15	5	495
	メディアコンピュータシステム学科	—	—	—	270	—	—	—	180	—	—	—	90
	情報学科	90	—	—	90	90	—	—	180	90	—	—	270
	小計	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310
金融経済学部	アセット・マネジメント学科	80	—	30	380	80	—	30	380	80	—	30	380
	小計	80	—	30	380	80	—	30	380	80	—	30	380
合計		1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030

3 大阪電気通信大学総合情報学部メディアコンピュータシステム学科は、改正後の規定にかかわらず、平成25年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に存学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。

2 改正後の別表第1—10については、平成24年度以前に入学した者、平成25年度に2年次以上に編入学、再入学又は転部した者、平成26年度に3年次以上に編入学、再入学又は転部した者及び平成27年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成26年度から平成28年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成26年度				平成27年度				平成28年度			
学部・学科		入学 定員	2年次 編入 学定員	3年次 編入 学定員	収容 定員	入学 定員	2年次 編入 学定員	3年次 編入 学定員	収容 定員	入学 定員	2年次 編入 学定員	3年次 編入 学定員	収容 定員
工学部	電気電子工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	応用化学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	電子機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	環境技術学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	基礎理工学科	60	—	—	240	60	—	—	240	60	—	—	240
	環境科学科	100	—	—	400	100	—	—	400	100	—	—	400
	小計	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	—	5	330	80	—	5	330	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	5	290	70	—	5	290	70	—	5	290
	小計	190	—	10	780	190	—	10	780	190	—	10	780
情報通信工学部	情報工学科	160	—	—	640	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	小計	240	—	—	960	240	—	—	960	240	—	—	960
総合情報学部	デジタルアート・アニメーション学科	100	15	5	455	100	15	5	455	100	15	5	455
	—	110	15	5	495	110	15	5	495	110	15	5	495
	デジタルゲーム学科	—	—	—	180	—	—	—	90	—	—	—	—
	メディアコンピュータシステム学科	90	—	—	180	90	—	—	270	90	—	—	360
	情報学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	小計	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310
金融経済学部	アセット・マネジメント学科	—	—	30	300	—	—	30	220	—	—	—	110
	資産運用学科	80	—	—	80	80	—	—	160	80	—	30	270
	小計	80	—	30	380	80	—	30	380	80	—	30	380
合計		1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030

3 大阪電気通信大学金融経済学部アセット・マネジメント学科は、改正後の規定にかかわらず、平成26年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成27年度から平成29年度までの間、次のとおりとする。

- 3 大阪電気通信大学総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科は、改正後の規定にかかわらず、平成27年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学なくなるまでの間、存続するものとする。

年度		平成27年度				平成28年度				平成29年度			
学部・学科		入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員	入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員	入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員
工学部	電気電子工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	電子機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	機械工学科	90	—	—	330	90	—	—	340	90	—	—	350
	基礎理工学科	60	—	—	240	60	—	—	240	60	—	—	240
	環境科学科	90	—	—	390	90	—	—	380	90	—	—	370
	小計	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	—	5	330	80	—	5	330	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	5	290	70	—	5	290	70	—	5	290
	小計	190	—	10	780	190	—	10	780	190	—	10	780
情報通信工学部	情報工学科	160	—	—	640	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	小計	240	—	—	960	240	—	—	960	240	—	—	960
総合情報学部	デジタルアート・アニメーション学科	—	15	5	355	—	—	5	240	—	—	—	120
	デジタルゲーム学科	210	15	5	595	210	30	5	710	210	30	10	830
	メディアコンピュータシステム学科	—	—	—	90	—	—	—	—	—	—	—	—
	情報学科	90	—	—	270	90	—	—	360	90	—	—	360
	小計	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310
金融経済学部	アセット・マネジメント学科	—	—	30	220	—	—	—	110	—	—	—	—
	資産運用学科	80	—	—	160	80	—	30	270	80	—	30	380
	小計	80	—	30	380	80	—	30	380	80	—	30	380
合計		1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030

附 則

- この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1—1、1—2及び1—6については、平成26年度以前に入学した者、平成27年度に2年次以上に編入学、再入学又は転部した者、平成28年度に3年次以上に編入学、再入学又は転部した者及び平成29年度に4年次に編入学、再入学又は転部した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この規則は、平成27年2月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第2については、各学科に平成26年度以前に入学した者、平成27年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成28年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成29年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1—4については、当該学科に平成27年度以前に入学した者、平成28年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成29年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成30年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1—3及び別表第1—5については、当該学科に平成27年度以前に入学した者、平成28年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成29年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成30年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成29年1月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 金融経済学部アセット・マネジメント学科については、改正後の規定にかかわらず、平成29年3月31日に当該学科に

在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1-8については、当該学科に平成28年度以前に入学した者、平成29年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成30年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成31年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第26条及び第27条については、平成29年度以前に入学した者、平成30年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成31年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成32年度に4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 3 第4条に規定する収容定員は、平成30年度から平成32年度までの間、次のとおりとする。

年度		平成30年度			平成31年度			平成32年度		
学部・学科		入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	電子機械工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	機械工学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	基礎理工学科	60	—	240	60	—	240	60	—	240
	環境科学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	建築学科	80	—	80	80	—	160	80	—	240
	小計	480	—	1,680	480	—	1,760	480	—	1,840
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	5	330	80	5	330	80	5	330
	理学療法学科	40	—	160	40	—	160	40	—	160
	健康スポーツ科学科	70	5	290	70	5	290	70	5	290
	小計	190	10	780	190	10	780	190	10	780
情報通信工学部	情報工学科	160	—	640	160	—	640	160	—	640
	通信工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	小計	240	—	960	240	—	960	240	—	960
総合情報学部	デジタルゲーム学科(注1)	—	—	700	—	—	450	—	—	210
	デジタルゲーム学科(注2)	140	—	140	140	—	280	140	5	425
	ゲーム&メディア学科	110	—	110	110	—	220	110	—	330
	情報学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	小計	340	—	1,310	340	—	1,310	340	5	1,325
	金融経済学部 資産運用学科	—	—	270	—	—	160	—	—	80
合計		1,250	10	5,000	1,250	10	4,970	1,250	15	4,985

(注1) 平成29年度廃止分

(注2) 平成30年度開設分

- 4 大阪電気通信大学総合情報学部デジタルゲーム学科及び金融経済学部資産運用学科は、改正後の規定にかかわらず、平成30年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 別表第4に規定する入学金及び学費について、平成31年3月31日に在学する者は、次の表のとおりとする。

学部	項目	金額(円)
工学部	入学金	200,000
情報通信工学部	学費	1,332,000
総合情報学部	(内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 340,000 学生生活活動支援費 7,000	
医療福祉工学部	入学金	200,000
医療福祉工学科	学費	1,382,000

	(内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 340,000 実験実習料 50,000 学生活動支援費 7,000	
医療福祉工学部	入学金	200,000
理学療法学科	学費 (内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 340,000 実験実習料 300,000 学生活動支援費 7,000	1,632,000
医療福祉工学部	入学金	200,000
健康スポーツ科学科	学費 (内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 240,000 実習料 100,000 学生活動支援費 7,000	1,332,000
金融経済学部	入学金	200,000
資産運用学科	学費 (内訳 単位：円) 授業料 800,000 維持拡充費 200,000 学生活動支援費 7,000	1,007,000

附 則

この学則は、平成30年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成30年11月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、2019年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第2の規定にかかわらず、2019年3月31日に在学する者は、在籍の間、従前の規定を適用する。
- 改正後の別表第2の規定にかかわらず、2019年3月31日に他大学及び本学において教職課程を有する学部・学科に在学し、教職課程を有する学部・学科に編入学及び転部・転科する者は、在籍の間、従前の規定を適用する。ただし、本学、他大学及び短期大学を卒業した者は除く。

附 則

この学則は、2019年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 改正後の第26条、第27条、別表第1—4、別表第1—5、別表第1—6、別表第2及び別表第4にかかわらず、各学科に2019年度以前に入学した者、2020年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2021年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2022年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。
- 第4条に規定する収容定員は、2020年度から2022年度までの間、次のとおりとする。

年度		2020年度			2021年度			2022年度		
学部・学科		入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	電子機械工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	機械工学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	基礎理工学科	60	—	240	60	—	240	60	—	240
	環境科学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	建築学科	80	—	240	80	—	320	80	—	320
	小計	480	—	1,840	480	—	1,920	480	—	1,920
医療福祉工学部	医療福祉工学科	—	5	250	—	5	170	—	—	85
	理学療法学科	—	—	120	—	—	80	—	—	40
	健康スポーツ科学科	—	5	220	—	5	150	—	—	75
	小計	—	10	590	—	10	400	—	—	200
医療健康科学	医療科学科	80	—	80	80	—	160	80	5	245

部	理学療法学科	40	—	40	40	—	80	40	—	120
	健康スポーツ科学科	70	—	70	70	—	140	70	5	215
	小計	190	—	190	190	—	380	190	10	580
情報通信工学部	情報工学科	160	—	640	160	—	640	160	—	640
	通信工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	小計	240	—	960	240	—	960	240	—	960
総合情報学部	デジタルゲーム学科(注1)	—	—	210	—	—	—	—	—	—
	デジタルゲーム学科(注2)	140	5	425	140	5	570	140	5	570
	ゲーム&メディア学科	110	—	330	110	—	440	110	—	440
	情報学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	小計	340	5	1,325	340	5	1,370	340	5	1,370
金融経済学部	資産運用学科	—	—	80	—	—	—	—	—	—
合計		1,250	15	4,985	1,250	15	5,030	1,250	15	5,030

(注1) 2017年度廃止分

(注2) 2018年度開設分

- 4 大阪電気通信大学医療福祉工学部医療福祉工学科、理学療法学科及び健康スポーツ科学科は、改正後の規定にかかわらず、2020年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

- 1 この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1—1から別表第1—5、別表第1—10、別表第1—11及び別表第1—13にかかわらず、各学科に2019年度以前に入学した者、2020年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2021年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2022年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、2020年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第2にかかわらず、各学科に2019年度以前に入学した者、2020年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2021年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2022年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、2020年9月1日から施行する。

附 則

この学則は、2021年9月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、2024年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第21条、第25条及び第27条の規定にかかわらず、2023年度以前に入学した者は、従前の当該規定を適用する。
- 3 第4条に規定する収容定員は、2024年度から2026年度までの間、次のとおりとする。

年度		2024年度			2025年度			2026年度		
学部・学科	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	電子機械工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	機械工学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	基礎理工学科	86	—	266	86	—	292	86	—	318
	環境科学科	—	—	270	—	—	180	—	—	90
	建築学科	—	—	240	—	—	160	—	—	80
	小計	336	—	1,776	336	—	1,632	336	—	1,488
医療健康科学部	医療科学科	80	1	326	80	1	322	80	1	322
	理学療法学科	40	—	160	40	—	160	40	—	160
	健康スポーツ科学科	70	1	286	70	1	282	70	1	282
	小計	190	2	772	190	2	764	190	2	764
情報通信工学部	情報工学科	160	—	640	160	—	640	160	—	640
	通信工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	小計	240	—	960	240	—	960	240	—	960
総合情報学部	デジタルゲーム学科	140	1	566	140	1	562	140	1	562
	ゲーム&メディア学科	110	—	440	110	—	440	110	—	440
	情報学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	小計	340	1	1,366	340	1	1,362	340	1	1,362

建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	150	—	150	150	—	300	150	—	450
合計		1,256	3	5,024	1,256	3	5,018	1,256	3	5,024

附 則

- この学則は、2024年4月1日から施行する。
- 医療健康科学部医療科学科については、改正後の別表第4の規定にかかわらず、2024年3月31日に当該学科に在学する者には従前の規定を適用する。

附 則

- この学則は、2024年4月1日から施行する。
- 改正後の第24条第2項の規定にかかわらず、2023年度以前に入学した学生、2024年度に2年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生、2025年度に3年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び2026年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、2024年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、2025年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、2025年度から2027年度までの間、次のとおりとする。

年度		2025年度			2026年度			2027年度		
学部・学科		入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	電子機械工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	機械工学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	基礎理工学科	86	—	292	86	—	318	86	—	344
	環境科学科	—	—	180	—	—	90	—	—	—
	建築学科	—	—	160	—	—	80	—	—	—
	小計	336	—	1,632	336	—	1,488	336	—	1,344
医療健康科学部	医療科学科	—	1	242	—	1	162	—	—	81
	理学療法学科	—	—	120	—	—	80	—	—	40
	健康スポーツ科学科	—	1	212	—	1	142	—	—	71
	小計	—	2	574	—	2	384	—	—	192
健康情報学部	健康情報学科	165	—	165	165	—	330	165	2	497
情報通信工学部	情報工学科	160	—	640	160	—	640	160	—	640
	通信工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	小計	240	—	960	240	—	960	240	—	960
総合情報学部	デジタルゲーム学科	153	1	575	153	1	588	153	1	601
	ゲーム&メディア学科	122	—	452	122	—	464	122	—	476
	情報学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	小計	365	1	1,387	365	1	1,412	365	1	1,437
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	150	—	300	150	—	450	150	—	600

合計	1,256	3	5,018	1,256	3	5,024	1,256	3	5,030

3 改正後の第26条及び第27条の規定にかかわらず、2024年度以前に入学した者、2025年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2026年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び2027年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

4 改正後の別表第4の規定にかかわらず、2024年度以前に入学した者は、従前の当該規定を適用する。

5 改正後の別表第4の規定にかかわらず、2025年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2026年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び2027年度に4年次に編入学又は再入学した者の入学金及び学費は次の通りとする。

学部	入学金	学費		
		項目	1年次	2年次以降
医療健康科学部	250,000	授業料	1,332,000	1,532,000
医療科学科		実験実習料	70,000	70,000
医療健康科学部	250,000	授業料	1,232,000	1,432,000
理学療法学科		実験実習料	300,000	300,000
医療健康科学部	250,000	授業料	1,082,000	1,282,000
健康スポーツ科学科		実習料	100,000	100,000

別表第1 削除

別表第2 削除

別表第3 削除

別表第4 入学金及び学費

単位：円

学部	入学金	学費		
		項目	1年次	2年次以降
工学部	200,000	授業料	1,282,000	1,482,000
情報通信工学部				
総合情報学部				
健康情報学部	250,000	授業料	1,332,000	1,532,000
健康情報学科		実験実習料	70,000	70,000
医療工学専攻				
健康情報学部	250,000	授業料	1,232,000	1,432,000
健康情報学科		実験実習料	300,000	300,000
理学療法学専攻				
健康情報学部	200,000	授業料	1,082,000	1,282,000
健康情報学科		実習料	100,000	100,000
スポーツ科学専攻				
建築・デザイン学部	200,000	授業料	1,382,000	1,482,000

別表第5 削除

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、大阪電気通信大学学則(以下「学則」という。)に基づき、修学に関して必要な事項を定める。

(学部及び学科の人材の養成に関する目的)

第2条 学則第3条の規定に基づき、各学部の人材の養成に関する目的は、次のとおりとする。

- (1) 工学部は、産業社会の基盤である総合的な工学技術を支え発展させるために、工学技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。
- (2) 健康情報学部は、人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基にした、医療科学・工学・スポーツ科学の知識と技術の実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。
- (3) 情報通信工学部は、社会の基盤技術である情報通信工学にかかわる基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、情報通信技術をベースとして広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。
- (4) 総合情報学部は、多様な生活文化の創造を支えるために、情報技術の基礎知識及び応用に関する実学教育並びにコンテンツ制作活動を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。
- (5) 建築・デザイン学部は、人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術の実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。

2 学則第3条の規定に基づき、各学科の人材の養成に関する目的は、次のとおりとする。

- (1) 電気電子工学科は、電気電子情報社会を支える5分野(半導体デバイス、電気電子回路、計測制御、情報技術、電力)について基礎から学び、高度情報化社会を支える基盤技術である電気電子工学に含まれる多くの技術分野のうち、学生自身が適性ある分野を講義・実習を通して見極め、自らの目標を設定したうえで、多彩に配置された実験・演習を通して社会で活躍できる技術力を修得した人材を育成することを目的とする。
- (2) 電子機械工学科は、ロボットやIoT、自動運転に代表される「メカトロニクス」の基礎である機械、電気電子、計測制御、情報の4分野の知識を教授すると共に、学生の適性に即した専門性の高い実験・実習による実践的な深化教育を通して、将来の超スマート社会の実現を担うメカトロニクスエンジニアを育成することを目的とする。
- (3) 機械工学科は、社会活動の基盤を支えるモノづくりに必要不可欠な機械工学の専門知識とそれを活かすための技術を総合的に教授することによって、国内外の産業界で広く活躍できる機械技術者を育成することを目的とする。
- (4) 基礎理工学科は、広範な科学知識、理数系的な思考力、高いコミュニケーション能力を兼ね備えた理数系ジェネラリストとして現代の社会に広く貢献する技術の獲得、また、人の健康維持に関与する食品に関する技術の基礎及び応用力の包括的な教授による「食環境」を守る技術の獲得により、未来に貢献しうる専門的な技術者・研究者や教育者(数学・理科教員等)を育成することを目的とする。
- (5) 健康情報学科は、情報技術を基に医療科学、工学、スポーツ科学の知識と技術を融合させた総合力で、疾病や障害を有する低体力者からアスリートまで、あらゆる人々の健康を支援し、健全な社会の形成と存続に貢献できる専門的人材を育成することを目的とする。
- (6) 情報工学科は、人間の活動に不可欠な「情報」を扱うシステムを作り出すための基盤となるコンピュータハードウェア・ソフトウェア・ネットワークに関わる知識と技術を、数理的な知識体系に基づいて、基礎から応用に至るまで実学教育を通して教授することにより、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材の育成を目的とする。
- (7) 通信工学科は、情報通信社会を支える3要素(ブロードバンド・マルチメディア・インターネット)の技術について基礎から教授することにより、情報化社会の発展に貢献する通信のスペシャリストの育成を目的とする。
- (8) デジタルゲーム学科は、デジタルゲームを軸とする主に対話的なエンタテインメントコンテンツ分野の学際的研究や制作を通して、幅広い意味でのエンタテインメント

に関する高度な知識と技術の修得を支援し、協調性とコミュニケーション能力を持って、広く社会及び産業界で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(9) ゲーム&メディア学科は、エンタテインメントコンテンツの企画・制作・教育を軸とするデジタル分野の学際的研究や制作を行い、関連するメディアの幅広い知識と高度な制作技術を修得し、それらのコンテンツの意義や魅力を広く社会に発信することでビジネスにつなげ、社会で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(10) 情報学科は、進化し続けるICTやIoT技術の基盤となる知識の修得、即戦力となり得る実践力の獲得、コミュニケーション能力等を中心とした社会性の向上の3項目を教育目標とし、情報のスペシャリストとして社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

(11) 建築・デザイン学科は、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない、人間を取り巻くありとあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術を講義する実学教育を通じて、学生の人間的成長を支援し、広く社会及び産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材の育成を目的とする。

(教育課程の編成方法)

第3条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択必修科目及び選択科目に分け、これを4年間に配当し、編成する。

2 前項に規定する必修科目、選択必修科目及び選択科目の区分は次のとおりとする。

(1) 必修科目とは、卒業までに必ず単位を修得しなければならない授業科目をいう。

(2) 選択必修科目とは、指定された授業科目の中から一定の単位を修得しなければならない授業科目をいう。

(3) 選択科目とは、科目の区分ごとに所定の単位数を修得しなければならない授業科目をいう。

(授業科目)

第4条 学則第21条に基づく授業科目の名称、単位数、必修科目・選択必修科目・選択科目の別及び配当年次(以下「教育課程」という。)は別表第1のとおりとする。

2 入学時に適用された教育課程は、原則として卒業時まで適用する。ただし、転部・転科及び再入学にあたっては、転部・転科及び再入学先の教育課程を適用する。

(教職課程)

第5条 学則第22条に基づく教職に関する授業科目の名称、単位数、必修科目・選択必修科目・選択科目の別及び配当年次は別表第2のとおりとする。

(授業科目の開講期間)

第6条 第4条第1項に定める授業科目は、学則第7条に定める前期若しくは後期又はその双方の学期に亘って配置し開講する。

- 2 前項の授業科目の中には、特定期間に集中して授業を行うことがある。
- 3 一部の授業科目については、年度によってその開講する期間を変更することがある。
- 4 一部の授業科目については、年度によって開講しないことがある。

(授業時間)

第7条 授業時間は、次のとおりとする。

時限	寝屋川キャンパス	四條畷キャンパス
1時限	9：00～10：45	9：30～11：15
2時限	10：55～12：40	11：25～13：10
3時限	13：25～15：10	13：55～15：40
4時限	15：20～17：05	15：50～17：35
5時限	17：15～19：00	17：45～19：30

- 2 原則として、授業時間は、1時限から4時限までとする。

(クラス編成)

第8条 授業科目によっては、クラスに分けて授業を行うことがある。

第2章 授業科目の履修

(履修登録)

第9条 履修する授業科目は、登録しなければならない。

- 2 登録の時期は、前期及び後期の初めとする。
- 3 不合格等により、同じ授業科目を再度履修するときは、改めて登録しなければならない。
- 4 登録をしない授業科目は、単位を与えない。
- 5 一つの授業時間に2科目以上の授業科目を重複して登録することはできない。
- 6 上位年次配当の授業科目は登録することができない。
- 7 単位を取得した授業科目は、再度登録することができない。

(授業出席の義務)

第10条 学生は、授業に出席し、遅刻、欠席等のないように努めなければならない。

- 2 正当な理由がなく出席が常でない者は、科目担当者の判断によりその科目の受験資格を失うことがある。
- 3 欠席証明書は、次の各号のいずれかに該当する事由で授業を欠席した場合に、その理由を証する書類を提出した者に対して学務課又は四條畷学務課で発行する。
 - (1) 病気又は負傷等、医師が就学に耐えられないと判断したもの(医師の診断書が必要)
 - (2) 3親等以内の親族の死亡又は葬儀による忌引(公的証明書の写し又は葬儀日程がわかるものが必要。原則3日間以内)
 - (3) 交通機関による1時間以上の遅延(交通機関の遅延証明書が必要)
 - (4) 学会発表及び本学の教育目的と密接な関係があると認められる重要な資格試験のため(事前に証明できる書類を添付し、申し出が必要)
 - (5) 就職試験(事前に証明できる書類を添付し、申し出が必要)
 - (6) 教育実習及び教員免許状取得に関わる介護等の体験(事前の申し出が必要)
 - (7) 課外活動の公式試合(事前に証明できる書類を添付し、申し出が必要)
 - (8) 裁判員制度等による裁判員又は裁判員候補者等に選任された場合(事前に証明できる書類を添付し、申し出が必要)
 - (9) 大阪府以外の地域の特別警報又は警報等による登学不能
 - (10) その他やむを得ないと認めた場合

第3章 進級・卒業要件

(進級・卒業要件)

第11条 各年次への進級及び卒業の要件は、別表第3のとおりとする。

(進級・卒業判定)

第12条 進級の判定は、各年度の3月に行う。

- 2 卒業の判定は、4年次生及び卒業の見込がある3年次生について行い、当該判定の時期は、第24条第2項及び第3項に定める単位授与の時期とする。
- 3 前項により卒業判定した結果、卒業要件を満たす場合、当該時期をもって卒業とする。ただし、年度途中の場合は、当該学生の願い出により、当該年度の9月又は3月に変更を認めることがある。

(卒業延期)

第13条 4年次生で第11条の要件を満たさず卒業できなかった場合は、卒業延期とする。

- 2 卒業延期となった者は、卒業延期生という。

第4章 成績評価の方法

(成績評価の方法)

第14条 成績評価は、試験、小テスト、課題レポート、その他本学が定める適切な手法により行う。

2 前項の成績評価終了後において、学科が認める授業科目については、一定の補習等を実施することにより成績の再評価を行うことができる。ただし、再評価の実施は授業科目開講の期中に限る。

3 第16条の各号のいずれかに該当する場合、成績評価を受けることはできない。

(試験の区分)

第14条の2 試験は、定期試験、追試験及び卒業再試験とする。

2 定期試験は、学修到達度を確認する試験であり、原則として学期末に行う。ただし、授業の都合により学期末以外に行うことがある。

3 追試験は、病気その他やむを得ない理由により定期試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。

4 卒業再試験は、成績評価の結果、不合格となった授業科目について4年次生に限り再度成績評価を行うことをいう。

5 試験は、面接方式又はオンライン方式によって行う。ただし、卒業再試験については、科目の担当教員が適当と判断した場合、試験以外の方法によって替えることができる。

(試験の時間)

第15条 定期試験の時間は、第7条に定める時間を準用する。

2 試験は定刻までに入室すること。試験時間は60分とする。

(受験の制限)

第16条 次の各号のいずれかに該当する場合は、試験を受験することはできない。

(1) 休学又は停学期間中の場合

(2) 授業科目担当者より出席が常でない等の理由により、受験資格なし(成績評価の対象としない)と認められた場合

(学生証等の提示)

第17条 試験の受験者は、定刻までに指定された試験室に入り、常に学生証を机の上に置かなければならない。

2 卒業再試験の受験者は、学生証及び受験票(以下「学生証等」という。)を机の上に置かなければならない。

3 オンライン試験により実施する場合、第1項の試験室とは周囲に他者の存在が無くオンラインに接続できる環境を指す。

4 受験者は学生証等を、試験監督者の指示がある場合、速やかにカメラで撮影できる状態にしておかなければならない。

(遅刻及び退室)

第18条 試験開始後30分以内の遅刻は、受験を認める。ただし、試験時間は延長しない。

2 受験者の退室は、試験開始後40分を経過してから認める。

(参照・持込許可条件)

第19条 試験時における参照・持込許可物については、次のとおりとする。

記号	参照・持込許可物
A	一切不可
B	すべて可
C	教科書
D	自筆ノート(コピーは一切不可)
E	電卓(機能性能上の限定はしない)
F	<C、D、E以外の指定物>

2 受験中、机の上におくことのできる物品は、学生証等及び前項に規定する物品のほかは次のとおりとする。

(1) 筆記用具(ボールペン、万年筆、鉛筆、消しゴム、小刀等)

(2) 時計(ただし、電子計算機、辞書機能つきは除く。)

(3) 定規、物差し、コンパス(ただし、科目担当者が使用を認めない場合がある。)

(不正行為)

第20条 試験中に不正行為をした者に対する取り扱いは、別に定める。

(追試験)

第21条 追試験を受験できる者は、次の各号のいずれかに該当する事由により定期試験を受験できなかった者とする。

(1) 病気又は負傷等、医師が就学に耐えられないと判断したもの(医師の診断書が必要)

(2) 3親等以内の親族の死亡又は葬儀による忌引(公的証明書の写し又は葬儀日程がわかるものが必要。原則3日間以内)

(3) 交通機関による1時間以上の遅延(交通機関の遅延証明書が必要)

(4) 学会発表及び本学の教育目的と密接な関係があると認められる重要な資格試験のた

め(事前に証明できる書類を添付し、申し出が必要)

(5) 就職試験(事前に証明できる書類を添付し、申し出が必要)

(6) 裁判員制度等による裁判員又は裁判員候補者等に選任された場合(事前に証明できる書類を添付し、申し出が必要)

(7) その他学部長がやむを得ないと認めた場合(原則として学務課又は四條畷学務課が指定する証明書が必要)

2 追試験の受験を希望する場合は、当該科目の試験実施日から数えて3日以内(窓口休止日を除く)に、「追試験受験願」と受験できなかった理由を証する書類を添えて提出しなければならない。

3 追試験を欠席した者については、再度の追試験を行わない。

(卒業再試験)

第22条 卒業再試験を受験できる者は、4年次生で、かつ次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 卒業要件に対する単位不足者

(2) 教育職員免許状取得又は無線従事者免許取得のための必要単位不足者

2 卒業再試験を受験できる科目は、4年次に履修した科目で、成績評価の結果、第23条に規定するD評価を得た科目に限る。

3 第1項第1号の不足単位数のうち、選択必修科目及び選択科目の受験できる単位数は、それぞれの不足単位数の3倍までとする。

4 卒業再試験を実施しない授業科目は、次のとおりとする。

(1) 定期試験を実施しない実験、実習、実技、演習又は製図の授業科目

(2) 教職課程における次の科目

代数学1、代数学2、幾何学1、幾何学2

(3) その他学科が指定する授業科目

5 卒業再試験は、年度末に実施する。ただし、卒業延期生については、6月及び9月に実施することがある。

6 卒業再試験の受験手続きは、指定の期日に卒業再試験受験願を提出し、別に定める卒業再試験料を納入しなければならない。

(成績の再評価)

第22条の2 成績の再評価は、次の各号のいずれも満たす者を対象とする。

(1) 本学に在籍する1年次～3年次生の全員、及び4年次生にあつては前期開講科目を履

修する者

(2) 次条に規定する評価がDであった授業科目のうち、学科が定める基準を満たす者

- 2 成績の再評価を実施する科目は、学期毎に学科が定める。
- 3 成績の再評価は、一定の補習等を行ったうえで実施することとする。
- 4 成績の再評価は、原則として正規の授業時と同じ形式で行う。ただし、科目担当者により同等の評価ができると判断した場合は、この限りではない。
- 5 成績の再評価により合格となった際の成績は、60点の評価又はGの評語とする。

第5章 成績及び単位

(成績の評価)

第23条 成績の評価は、次の基準のとおりとし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。

- 2 成績は、最高を100点とし、60点以上を合格とする。

評語	点数
S	100点～90点
A	89点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点
D	59点～0点

- 3 未受験等により評価不可能の場合は、Eの評語をもって表す。
- 4 休学又は懲戒による停学が含まれる場合は、登録した授業科目の成績を評価しないことがある。
- 5 学則第24条第3項に規定するG(合格)、D(不合格)の評語をもって表す授業科目は、次のとおりとする。
 - (1) 卒業研究、卒業制作又は卒業設計
 - (2) その他学科で定める授業科目
- 6 学則第24条の2、第24条の3及び編入学に関する規則第6条の規定により単位を認定した授業科目については、Nの評語をもって表す。

(単位の授与)

第24条 前条の規定により、合格と判定した授業科目については、所定の単位を与える。

- 2 単位を授与する月は、9月又は3月とする。
- 3 卒業延期生に対しては、卒業再試験等で合格した授業科目について、前項に規定する

ほか、6月に単位を与える場合がある。

(総合成績評価)

第25条 第23条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイントを設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

成績評価(100点満点)	科目グレード・ポイント
(1) 90点以上	4
(2) 80点以上89点以下	3
(3) 70点以上79点以下	2
(4) 60点以上69点以下	1
(5) 59点以下	0
(6) 未受験	0

2 前項のGPAは、科目グレード・ポイントに各科目単位数を乗じ、その総和を履修登録単位数の総和で除して算出する。

3 GPAは、修学指導、学業優秀賞、各種奨学金及び大学院内部進学の対象者選抜等に用いる。

4 GPAの数値により、次の各号の修学指導を行う。

(1) 年間GPAが0.600未満の者には、学科主任又はグループ担任が修学状況に関する面談を行い、改善を促す。

(2) 連続する2学期において、各学期のGPAが共に0.600未満の者には、学科主任又はグループ担任が保護者同席の上で、修学に関する指導を行う。

(3) 1年次後期以降で、連続する3学期において当該期間のGPAが0.600未満の者には、学部長が退学を勧告することができる。

第6章 その他

(編入学等の教育課程適用)

第26条 編入学、再入学、転部及び転科の者の教育課程は、それぞれ在籍する年次の教育課程を適用する。

(交通機関の運行停止又は台風等による授業及び定期試験の取り扱い)

第27条 交通機関の運行停止又は台風等によって次の各号に定めるいずれかの事態が生じたときの授業及び定期試験の取り扱いは、次項及び第3項の定めるところによる。

(1) 特別警報又は暴風警報が大阪府下のいずれかの地域に発令されたとき

(2) 次のいずれかの交通機関が、自然災害又は計画運休等により運行を停止しているとき

ア 京阪電鉄本線の全面運行停止

イ 大阪メトロとJR大阪環状線の同時運行停止

ウ JR学研都市線の全面運行停止(四條畷キャンパスのみ)

エ 四條畷キャンパスに入構する路線バス(京阪バス及び近鉄バス)の同時運行停止(四條畷キャンパスのみ)

2 授業の取り扱いは、次のとおりとする。

(1) 午前7時以降で前項各号の事態となっている場合は、1時限及び2時限の授業を休講とする。

(2) 午前11時の時点で前項各号の事態が解消しているときは、3時限からの授業を行う。

(3) 午前11時以降で前項各号の事態となっている場合は、3時限から5時限までの授業を休講とする。

(4) 学外での実習等の場合は、各実習先又は実習担当教員の指示に従うものとする。

3 定期試験期間中の取り扱いは、次のとおりとする。ただし、第1項第2号ウ又はエに該当する場合、寝屋川キャンパスについても適用することがある。

(1) 午前7時以降で第1項各号の事態となっている場合は、1時限及び2時限の定期試験は行わない。

(2) 午前11時の時点で第1項各号の事態が解消しているときは、3時限からの定期試験を行う。

(3) 午前11時以降で第1項各号の事態となっている場合は、3時限から5時限までの定期試験を行わない。

4 自然災害又は計画運休以外の事由に伴う運行の停止が発生したとき、授業又は定期試験時間中に、特別警報若しくは暴風警報が発令されたとき、又はその他自然災害等が発生したときの授業及び定期試験の取り扱いについては、前2項の規定にかかわらず、学長の指示による。

(改廃)

第28条 この規則の改廃は、教務委員会からの発議に基づき、運営会議での審議を経て学長が決定し、教授会に報告するとともに理事長に報告する。

附 則

1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。

2 履修要綱(昭和36年4月1日制定)は廃止する。

附 則

この規則は、平成10年6月11日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成11年4月1日から施行する。

2 第21条にかかわらず、工学部第1部電子工学科および情報工学部情報工学科に在籍する者のうち平成10年度以前に入学した者、平成11年度2年次以上に編入学または再入学した者には従前の教育課程を適用する。

附 則

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

1 この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

2 第8条の適用については、工学部第1部および第2部に、この要綱の施行の日(以下「施行日」という。)の前日に在籍する者で、施行日以後も引き続き在籍するものには、従前の規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年10月22日から施行する。

附 則

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

1 この要綱は、平成16年4月1日から施行する。

2 改正後の別表第1第5号については、平成15年度以前に入学した者、平成16年度に2年次

以上に編入学または再入学した者、平成17年度に3年次以上に編入学または再入学した者および平成18年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第1号および第3号から第6号までについては平成17年度以前に入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この要綱は、平成18年9月1日から施行する。
- 2 工学部第2部については、施行日以後も引き続き当該学部 に在籍する者には、従前の規定を適用する。
- 3 改正後の第18条第3項第2号の適用については、平成17年までの教育課程適用者には、従前の規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第2号および第7号から第8号までについては平成20年度以前に入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成21年2月3日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第3号については、平成21年度以前に入学した者、平成22年度に2年次以上に再入学した者、平成23年度に3年次以上に再入学した者及び平成24年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第11号については、平成24年度以前に入学した者、平成25年度に2年次以上に編入学、再入学又は転部した者、平成26年度に3年次以上に編入学、再入学又は転部した者及び平成27年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第4号及び第6号については、当該学科に平成27年度以前に入学した者、平成28年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成29年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成30年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。
- 3 改正後の別表第1第11号については、金融経済学部アセット・マネジメント学科に平成25年度に入学した者、平成26年度に2年次に転部した者及び平成27年度に3年次に編入学した者に準用する。

附 則

- 1 この要綱は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第10号については、当該学科に平成28年度以前に入学した者、平成29年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成30年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成31年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この要綱は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第10号については、デジタルゲーム学科に平成29年度以前に入学した者、平成30年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成31年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成32年度に4年次に再入学した者は、従前のデジタルゲーム学科の当該規定を適用する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日より施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第21条については、平成29年度以前に入学した者、平成30年度に2年次以上に編入学又は再入学した者、平成31年度に3年次以上に編入学又は再入学した者、平成32年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。
- 3 別表第1の各年次進級要件における単位及び科目の指定に関する変更については、従前の教育課程適用者についても適用する。また、当該変更に伴う表外注記の改正についても同様に適用する。

附 則

この要綱は、平成30年10月1日より施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1第1号から第11号までについては、平成30年度以前に入学した者、平成31年度に2年次以上に編入学又は再入学した者、平成32年度に3年次以上に編入学又は再入学した者、平成33年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この要綱は、2020年4月1日より施行する。
- 2 改正後の別表第1第5号から第7号までについては、当該学科に2019年度以前に入学した者、2020年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2021年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2022年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この要綱は、2020年4月1日より施行する。

- 2 改正後の別表第1第1号、第6号から第7号及び第9号については、当該学科に2019年度以前に入学した者、2020年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2021年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2022年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この要綱は、2020年10月1日より施行する。

附 則

この規則は、2021年9月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、2022年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第3第8号については、2021年度以前に入学した者、2022年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2023年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2024年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この規則は、2022年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第3第2号については、2021年度以前に入学した者、2022年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2023年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2024年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この規則は、2022年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第2にかかわらず、各学科に2021年度以前に入学、編入学又は再入学した者、2022年度に2年次以上に転部又は転科した者及び2023年度に3年次以上に転部又は転科した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この規則は、2022年9月6日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1―7については、2022年度以前に入学、編入学、再入学、転部又は転科した者、2023年度に2年次以上に再入学、転部又は転科した者、2024年度に3年次以

上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2025年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この規則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第3第3号、第4号、第5号及び第9号にかかわらず、2019年度以前に入学、編入学、再入学、転部又は転科した者、2020年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2021年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2022年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した者は、従前の当該規定を適用する。
- 3 改正後の別表第3第8号にかかわらず、2021年度以前に入学、編入学、再入学、転部又は転科した者、2022年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2023年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2024年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この規則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第3にかかわらず、2018年度以前に入学、編入学、再入学、転部又は転科した者、2019年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2020年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2021年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この規則は、2024年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条、別表第1—1、別表第1—2、別表第1—3、別表第1—4、別表第1—5、別表第1—6、別表第1—10及び別表第1—11の規定にかかわらず、工学部電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科、環境科学科及び建築学科、情報通信工学部情報工学科及び通信工学科に2023年度以前に入学した学生、2024年度に2年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生、2025年度に3年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び2026年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この規則は、2024年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1—12、1—13、1—14については、2023年度以前に入学、編入学、再

入学、転部又は転科した学生、2024年度に2年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生、2025年度に3年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び2026年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この規則は、2024年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第23条及び別表第2にかかわらず、2023年度以前に入学、編入学、再入学、転部又は転科した者、2024年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2025年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び2026年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この規則は、2024年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、2025年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条、別表第1—7、別表第1—8、別表第1—9、別表第2及び別表第3の規定にかかわらず、医療健康科学部に2024年度以前に入学した学生、2025年度に2年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生、2026年度に3年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び2027年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生は、従前の当該規定を適用する。

別表第1—1 工学部 電気電子工学科

(1) 共通科目

(2024年度からの教育課程)

区分			授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件 単位数	
						1年次	2年次	3年次	4年次		
						前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期		
共 通 科 目	人 文 ・ 社 会 ・ 自 然 群	大学の学 びリテラ シー	総合教養	2	△	2・0				8単 位以 上	人 文・ 社 会・ 自 然 群、
			総合ゼミナール	2	△	2・0					
			社会生活と法	2	△	2・0					
			現代社会と青年の 心理	2	△	2・0					
			OECU概論1	1	△	1・0					

		視野を広げる	異文化の理解	2	△	0・2				外国語群、健康・スポーツ群、プロジェクトスキル形成群、情報基礎群をあわせて22単位から42単位まで
			政治学	2	△	0・2				
			発達心理学	2	△	0・2				
			アジアの言語と文化	2	△	0・2				
			ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2				
		社会とつながる	現代社会を考える1	2	△	2・0				
			現代社会を考える2	2	△	0・2				
			歴史学の世界	2	△	2・0				
			経済学の世界	2	△	2・0				
			哲学の世界	2	△	2・0				
			教育制度論	2	△	2・0				
			文学の世界	2	△	0・2				
			日本国憲法	2	△	0・2				
			ジェンダー論	2	△	0・2				
		世界を知る	国際コミュニケーション	2	△	2・0				
			平和学	2	△	2・0				
		日本を知る	企業社会と労働	2	△	2・0				
			日本の近代史	2	△	0・2				
			技術と倫理	2	△	0・2				
		科学と技術	学術横断講座	2	△	2・0				
			研究交流講座	2	△	0・2				
			科学のための教養1	2	△	2・0				
			科学のための教養2	2	△	0・2				
	外国語群	英語	Core English 1	1	□	2・0				選択
			Core English 2	1	□	0・2				必修
			Core English 3	1	□	2・0				科目
			Core English 4	1	□	0・2				4単

		Intermediate Discourse 1	1	□		2・0			位以上を含み4単位以上
		Intermediate Discourse 2	1	□		0・2			
		Intermediate Communication 1	1	□		2・0			
		Intermediate Communication 2	1	□		0・2			
		資格対策英語1	1	□		2・0			
		資格対策英語2	1	□		0・2			
		Advanced Discourse 1	1	□			2・0		
		Advanced Discourse 2	1	□			0・2		
		Advanced Communication 1	1	□			2・0		
		Advanced Communication 2	1	□			0・2		
	中国語	中国語1	1	△	2・0				
		中国語2	1	△	0・2				
		中国語3	1	△		2・0			
		中国語4	1	△		0・2			
	健康・スポーツ群	健康とスポーツ実習1	1	△	2・0				1単位以上
		健康とスポーツ実習2	1	△	0・2				
		健康とスポーツ実習3	1	△			(2・0)(0・2)		
		健康・スポーツ科学論	2	△		2・0			
		スポーツ文化論	2	△		0・2			

プロジェクトスキル形成群	プロジェクト活動	プロジェクト活動 スキル入門	2	○	2・0				必修 科目 2単 位を 含 み、 4単 位以 上
		プロジェクト活動 演習1	1	△		2・0			
		プロジェクト活動 演習2	1	△		0・2			
		キャリア設計プロ ジェクト実践	2	△			2・0		
	日本語活 用	日本語上達法1	2	△	2・0				
		日本語上達法2	2	△	0・2				
		日本語活用法	2	△		(2・ 0)(0・ 2)			
	地域プロ ジェクト 活動	地域プロジェクト 活動1	2	△	1・1				
		地域プロジェクト 活動2	2	△		1・1			
	スキルア ップ	グローバル研修	2	△			2・0		
		グローバル研修(英 語)	2	△			2・0		
	社会を知 る	就業体験実習	2	△		2・2			
		インターンシップ	2	△			2・2		
情報 基礎 群	情報	AI・データサイエ ンス入門	2	△	2・0				必修 科目 4単 位、 選択 科目 をあ わせ
		コンピュータリテ ラシー1	2	○	2・0				
		コンピュータリテ ラシー2	2	△	0・2				
		プログラミング基 礎演習	2	○	0・2				

										て8 単位 まで	

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件単 位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
基礎専門科目	数学	基礎解析学1・演習	3	△	4・0			必修科目8 単位、選択 科目をあわ せて14単位 から30単位 まで
		基礎解析学2・演習	3	△	0・4			
		基礎解析学3・演習	3	△		4・0		
		線形代数	2	△	0・2			
		微分方程式	2	△		0・2		
		確率・統計	2	△		2・0		
		解析学	2	△			2・0	
	物理	物理学1・演習	3	○	4・0			
		物理学・実験	3	○	0・4			
		物理学2	2	△	0・2			
		現代物理学入門	2	△		2・0		
	工学入門	電気電子工学入門	2	○	2・0			
		OECU概論2	1	△	1・0			
専門科目	実験	工学基礎実験	2	○	4・0			必修科目40 単位、選択 必修科目4 単位、選択 科目をあわ せて68単位 から88単位
		電気電子工学実験1	2	○		4・0		
		電気電子工学実験2	2	○		0・4		
		電気電子工学実験3	2	○			4・0	
	電気電子 工学基礎	電気数学・演習	2	○	〈4・ 0〉・ 〈0・			

				0)				まで
	基礎電磁気学・演習	2	○	〈0・4〉・〈0・0〉				
	電磁気学1	2	△		〈0・4〉・〈0・0〉			
	電磁気学2	2	△		〈0・0〉・〈4・0〉			
	電気電子設計製図	2	△			2・0		
電気・電子回路	電気回路1	2	○	〈0・0〉・〈0・4〉				
	電気回路2	2	△		〈0・0〉・〈0・4〉			
	基礎電気回路	2	○	〈4・0〉・〈0・0〉				
	基礎電子回路	2	○		〈4・0〉・〈0・0〉			
	電気回路演習	2	○		〈4・			

				0) ・ 〈0 ・ 0)		
	電子回路演習	2	□		〈0 ・ 0) ・ 〈4 ・ 0)	
	デジタル電子回路	2	△		〈4 ・ 0) ・ 〈0 ・ 0)	
	アナログ電子回路	2	△		2 ・ 0	
エネルギー・電気 応用	画像・映像工学	2	△		〈0 ・ 0) ・ 〈4 ・ 0)	
	電気機器	2	○		〈0 ・ 4) ・ 〈0 ・ 0)	
	パワーエレクトロ ニクス応用	2	△		0 ・ 2	
	パワーエレクトロ ニクス・演習	2	△		〈0 ・ 0) ・ 〈4 ・ 0)	
	音響工学	2	△		2 ・ 0	
	電気法規と施設管 理	2	△			2 ・ 0
	送配電工学	2	△		0 ・ 2	
	発電工学	2	□		2 ・ 0	

	高電圧変電工学	2	△			2・0	
情報	プログラム演習1	2	○		2・0		
	プログラム演習2	2	□		0・2		
	コンピュータ・ハードウェア	2	△		0・2		
	ハードウェア設計演習	2	△			0・2	
	情報工学1	2	○	〈0・0〉・〈0・4〉			
	情報工学2	2	△		〈0・4〉・〈0・0〉		
	情報工学3	2	△			〈0・4〉・〈0・0〉	
	コンピュータ・ソフトウェア・演習	2	△			0・2	
	データサイエンス基礎	2	△		2・0		
	人工知能	2	△			0・2	
計測制御	制御工学・演習	2	○		〈0・4〉・〈0・0〉		
	ロボット制御	2	△			2・0	
	デジタル信号処理	2	△			〈0・	

					0) ・ 〈0 ・ 4〉	
	計測・センサ工学	2	□		0 ・ 2	
	信号システム理論 特論	2	△			0 ・ 2
電子・光 デバイス	固体物理学・演習	2	□		〈0 ・ 0〉 ・ 〈4 ・ 0〉	
	半導体工学・演習	2	○		〈4 ・ 0〉 ・ 〈0 ・ 0〉	
	電気電子材料	2	△		0 ・ 2	
	半導体デバイス	2	△		〈4 ・ 0〉 ・ 〈0 ・ 0〉	
	光エレクトロニク ス	2	△		〈0 ・ 4〉 ・ 〈0 ・ 0〉	
	量子物理学	2	△		2 ・ 0	
	量子物理学	2	△		2 ・ 0	
専門総合	特別ゼミナール1	2	△	2 ・ 0		
	特別ゼミナール2	2	△		0 ・ 2	
	特別ゼミナール3	2	△		2 ・ 0	
	プレゼミナール	2	○		0 ・ 2	
	電気電子工学創成 演習	2	△		0 ・ 2	

	異分野協働エンジニアリング・デザイン演習	2	△			1・1	
	卒業研究	8	○				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

別表第1―2 工学部 電子機械工学科

(1) 共通科目

(2024年度からの教育課程)

区分			授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件 単位数	
						1年次	2年次	3年次	4年次		
						前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期		
共 通 科 目	人 文 ・ 社 会 ・ 自 然 群	大学 の学 びリテ シー	総合教養	2	△	2・0				6 単 位 以 上	人 文・ 社 会・ 自然 群、 外国 語 群、 健康・ スポ ーツ 群、 プロ ジェ クト スキ
			総合ゼミナール	2	△	2・0					
			社会生活と法	2	△	2・0					
			現代社会と青年の心 理	2	△	2・0					
			OECU概論1	1	△	1・0					
	視野を 広げる	異文化 の理解	異文化の理解	2	△	0・2					
			政治学	2	△	0・2					
			発達心理学	2	△	0・2					
			アジアの言語と文化	2	△	0・2					
			ヨーロッパの言語と 文化	2	△	0・2					
	社会と つながる	現代社会 を考える	現代社会を考える1	2	△	2・0					
			現代社会を考える2	2	△	0・2					
			歴史学の世界	2	△	2・0					
			経済学の世界	2	△	2・0					
			哲学の世界	2	△	2・0					
			教育制度論	2	△	2・0					

外国語群	文学の世界	文学の世界	2	△	0・2				ル形成群、情報基礎群をあわせて19単位から40単位まで
		日本国憲法	2	△	0・2				
		ジェンダー論	2	△	0・2				
	世界を知る	国際コミュニケーション	2	△	2・0				
		平和学	2	△	2・0				
	日本を知る	企業社会と労働	2	△	2・0				
		日本の近代史	2	△	0・2				
		技術と倫理	2	△	0・2				
	科学と技術	学術横断講座	2	△	2・0				
		研究交流講座	2	△	0・2				
		科学のための教養1	2	△	2・0				
		科学のための教養2	2	△	0・2				
	英語	Core English 1	1	△	2・0				3単位以上
		Core English 2	1	△	0・2				
		Core English 3	1	△	2・0				
		Core English 4	1	△	0・2				
		Intermediate Discourse 1	1	△		2・0			
		Intermediate Discourse 2	1	△		0・2			
		Intermediate Communication 1	1	△		2・0			
		Intermediate Communication 2	1	△		0・2			
		資格対策英語1	1	△		2・0			
		資格対策英語2	1	△		0・2			
		Advanced Discourse 1	1	△			2・0		
		Advanced	1	△			0・2		

		Discourse 2							
		Advanced Communication 1	1	△			2・0		
		Advanced Communication 2	1	△			0・2		
	中国語	中国語1	1	△	2・0				
		中国語2	1	△	0・2				
		中国語3	1	△		2・0			
		中国語4	1	△		0・2			
健康・スポーツ群	健康とスポーツ	スポーツ実習1	1	△	2・0				2単位以上
		スポーツ実習2	1	△	0・2				
		スポーツ実習3	1	△			(2・0)(0・2)		
		健康・スポーツ科学論	2	△		2・0			
		スポーツ文化論	2	△		0・2			
プロジェクトスキル形成群	プロジェクト活動	プロジェクト活動スキル入門	2	○	2・0				必修科目2単位を含む
		プロジェクト活動演習1	1	△		2・0			
		プロジェクト活動演習2	1	△		0・2			
		キャリア設計プロジェクト実践	2	△			2・0		
	日本語活用	日本語上達法1	2	△	2・0				
		日本語上達法2	2	△	0・2				
		日本語活用法	2	△		(2・0)(0・2)			4単位以上

	地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動1	2	△	1・1				上
		地域プロジェクト活動2	2	△		1・1			
		スキルアップ	グローバル研修	2	△			2・0	
			グローバル研修(英語)	2	△			2・0	
		社会を知る	就業体験実習	2	△		2・2		
			インターンシップ	2	△			2・2	
	情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0			必修科目4単位を 含み、4単位以上
			コンピュータリテラシー1	2	○	2・0			
			コンピュータリテラシー2	2	△	0・2			
			プログラミング基礎演習	2	○	0・2			

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
基 数学	基礎解析学1・演習	3	△	4・0				必修科目3

専 門 科 目	基礎	基礎解析学2・演習	3	△	0・4				単位、選 択科目を あわせ て、14単 位から30 単位まで
		基礎解析学3・演習	3	△		4・0			
		線形代数	2	△	2・0				
		微分方程式	2	△		0・2			
		確率・統計	2	△		2・0			
		解析学	2	△			2・0		
	物理／ 化学	力学1・演習	3	△	0・4				
		力学2	2	△		2・0			
		基礎物理学	2	△	2・0				
		物理学・実験	3	○	4・0				
		基礎化学	2	△		2・0			
	工学入 門	基礎電気回路	2	△	2・0				
		OECU概論2	1	△	1・0				
専 門 科 目	数理基 礎	電磁気学1	2	△		2・0			必修科目 24単位、 選択科目 をあわせ て64単位 から88単 位まで
		電磁気学2	2	△		0・2			
		力学3	2	△		0・2			
		メカトロニクス応用 数学	2	△			〈0・ 4〉・ 〈0・ 0〉		
	機械基 礎力学	材料力学1	2	△		2・0			
		材料力学2	2	△		0・2			
		機械要素設計	2	△			2・0		
		機械運動学	2	△			〈4・ 0〉・ 〈0・ 0〉		
		熱工学	2	△				2・0	
		流体力学	2	△				2・0	
		機械モデル論	2	△			2・0		

生産・加工	基礎製図1	1	△	0・2			
	基礎製図2	2	△		2・0		
	CAD基礎	1	△		0・2		
	CAD応用	2	△			2・0	
	工作法1	2	△			2・0	
	工作法2	2	△			0・2	
	材料工学	2	△			0・2	
電気・電子	電気回路1	2	△	0・2			
	電気回路2	2	△		2・0		
	基礎電子回路	2	△	0・2			
	高電圧変電工学	2	△			2・0	
	電子回路	2	△			0・2	
	デジタル回路	2	△				2・0
情報・制御	コンピュータ演習1	2	△		〈4・0〉・〈0・0〉		
	コンピュータ演習2	2	△		〈0・4〉・〈0・0〉		
	コンピュータ工学1	2	△		0・2		
	コンピュータ工学2	2	△			2・0	
	センシング論	2	△		0・2		
	制御基礎論	2	△		0・2		
	システム制御工学	2	△			2・0	
	データサイエンス基礎	2	△		2・0		
	人工知能	2	△			0・2	
メカト	メカトロニクス基礎	2	○	0・2			

ロニク ス総合	演習						
	メカトロニクス実践 演習1	2	△		2・0		
	メカトロニクス実践 演習2	2	△		0・2		
	メカトロニクス創成 演習	2	△			〈4・ 0〉・ 〈0・ 0〉	
	メカトロニクス1	2	△		〈0・ 0〉・ 〈4・ 0〉		
	メカトロニクス2	2	△			2・0	
	ロボット工学	2	△			0・2	
	電子機械演習1	3	○			4・0	
	電子機械演習2	3	○			0・4	
	電子機械実験1	3	○			4・0	
	電子機械実験2	3	○			0・4	
	その他						
	異分野協働エンジニ アリング・デザイン 演習	2	△			1・1	
	特別ゼミナール1	2	△	2・0			
	特別ゼミナール2	2	△		0・2		
	特別ゼミナール3	2	△			2・0	
	プレゼミナール	2	○			0・2	
	卒業研究	8	○				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

別表第1―3 工学部 機械工学科

(1) 共通科目

(2024年度からの教育課程)

区分			授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件 単位数	
						1年次	2年次	3年次	4年次		
						前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期		
共通科目	人文・社会・自然群	大学の学びを深める	総合教養	2	△	2・0				6単位以上	人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、プロジェクトスキル形成群、情報基礎群をあわ
			総合ゼミナール	2	△	2・0					
			社会生活と法	2	△	2・0					
			現代社会と青年の心理	2	△	2・0					
			OECU概論1	1	△	1・0					
		視野を広げる	異文化の理解	2	△	0・2					
			政治学	2	△	0・2					
			発達心理学	2	△	0・2					
			アジアの言語と文化	2	△	0・2					
			ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2					
		社会とつながる	現代社会を考える1	2	△	2・0					
			現代社会を考える2	2	△	0・2					
			歴史学の世界	2	△	2・0					
			経済学の世界	2	△	2・0					
			哲学の世界	2	△	2・0					
			教育制度論	2	△	2・0					
			文学の世界	2	△	0・2					
			日本国憲法	2	△	0・2					
			ジェンダー論	2	△	0・2					
		世界を知る	国際コミュニケーション	2	△	2・0					
			平和学	2	△	2・0					
		日本を知る	企業社会と労働	2	△	2・0					

	る	日本の近代史	2	△	0・2				せて 22単 位か ら34 単位 まで
		技術と倫理	2	△	0・2				
	科学と技 術	学術横断講座	2	△	2・0				
		研究交流講座	2	△	0・2				
		科学のための教養1	2	△	2・0				
		科学のための教養2	2	△	0・2				
	外国 語群	英語	Core English 1	1	△	2・0			
			Core English 2	1	△	0・2			
			Core English 3	1	△	2・0			
			Core English 4	1	△	0・2			
			Intermediate Discourse 1	1	△		2・0		
			Intermediate Discourse 2	1	△		0・2		
			Intermediate Communication 1	1	△		2・0		
			Intermediate Communication 2	1	△		0・2		
			資格対策英語1	1	△		2・0		
			資格対策英語2	1	△		0・2		
			Advanced Discourse 1	1	△			2・0	
			Advanced Discourse 2	1	△			0・2	
			Advanced Communication 1	1	△			2・0	
			Advanced Communication 2	1	△			0・2	
	中国語	中国語1	1	△	2・0				
		中国語2	1	△	0・2				

		中国語3	1	△		2・0			
		中国語4	1	△		0・2			
健康・スポーツ群	健康とスポーツ	スポーツ実習1	1	△	2・0				2単位以上
		スポーツ実習2	1	△	0・2				
		スポーツ実習3	1	△			(2・0)(0・2)		
		健康・スポーツ科学論	2	△		2・0			
		スポーツ文化論	2	△		0・2			
プロジェクトスキル形成群	プロジェクト活動	プロジェクト活動スキル入門	2	△	2・0				2単位以上
		プロジェクト活動演習1	1	△		2・0			
		プロジェクト活動演習2	1	△		0・2			
		キャリア設計プロジェクト実践	2	△			2・0		
	日本語活用	日本語上達法1	2	△	2・0				
		日本語上達法2	2	△	0・2				
		日本語活用法	2	△		(2・0)(0・2)			
	地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動1	2	△	1・1				
		地域プロジェクト活動2	2	△		1・1			
	スキルアップ	グローバル研修	2	△			2・0		
		グローバル研修(英語)	2	△			2・0		

		社会を知る	就業体験実習	2	△	2・2			
			インターンシップ	2	△		2・2		
情報 基礎 群	情報		AI・データサイエンス入門	2	△	2・0			必修科目4
			コンピュータリテラシー1	2	○	2・0			単位
			コンピュータリテラシー2	2	△	0・2			、
			プログラミング基礎演習	2	○	0・2			選択
			プログラミング演習1	2	△		2・0		科目
			プログラミング演習2	2	△		0・2		目をあわせて12単位まで

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
基	数学	基礎解析学1演習	2	△	4・0			必修科目6

基礎専門科目	基礎解析学2演習		2	△	0・4				単位、選択科目をあわせて14単位から23単位まで
	基礎解析学3演習		2	△		4・0			
	微分方程式		2	△		0・2			
	線形代数		2	△	2・0				
	確率・統計		2	△		[2・0] [0・2]			
	解析学		2	△			2・0		
	物理／化学	基礎力学演習	2	○	4・0				
		基礎物理学	2	△	0・2				
		物理学実験	2	○	4・0				
	工学入門	機械工学入門	2	○	2・0				
		OECU概論2	1	△	1・0				
専門科目	機械・基礎運動学 材料力学 熱力学	工業力学及び演習1	3	○	0・4				必修科目33単位、選択必修科目30単位以上(□Aから4単位以上、□Bから4単位以上、□Cから14単位以上、□Dから8単位以上)、選択科目をあわせて
		工業力学及び演習2	2	□C		2・0			
		機械運動学	2	□C		2・0			
		機械力学1	2	○		0・2			
		機械力学演習	1	□A		0・2			
		機械力学2	2	□C			2・0		
		材料力学1	2	○		2・0			
		材料力学演習	1	□A		2・0			
		材料力学2	2	□C		0・2			
		材料力学3	2	□D			2・0		
		流体力学1	2	○		0・2			
		流体力学演習	1	□A		0・2			
		流体力学2	2	□C			2・0		
		熱力学1	2	○		2・0			
		熱力学演習	1	□A		2・0			
		熱力学2	2	□C		0・2			

		伝熱工学	2	□C		2・0		68単位か ら82単位 まで
計 測 ・ 制 御 工 学		計測工学	2	□D		2・0		
		制御工学1	2	○	0・2			
		制御工学演習	1	□A	0・2			
		制御工学2	2	□D		2・0		
機 械 材 料 ・ 設 計		機械材料学	2	□C		0・2		
		機械工作法1	2	○		2・0		
		機械工作法演習	1	□A		2・0		
		機械工作法2	2	□D		0・2		
		機械要素設計1	2	○		2・0		
		機械要素設計演習	1	□A		2・0		
		機械要素設計2	2	□D		0・2		
機 械 創 成		機械創成工学実習	2	□C		0・4		
		発展創成実習	2	□B			4・0	
設 計 ・ 製 図		図学基礎	2	□D	2・0			
		機械製図基礎	2	○	0・2			
		CAD実習	1	□D		2・0		
		3次元CAD実習	1	□D		0・2		
		機械設計製図1	2	○		4・0		
		機械設計製図2	2	□B		0・4		
機 械 工 学 実 験		機械工学実験1	2	○		4・0		
		機械工学実験2	2	○		0・4		
電 気 ・ 電 子		電気電子工学	2	□C	0・2			
		電気機器学	2	□D		2・0		
機 械 応		ロボット工学	2	□B			2・0	

用	(前川製作所講座)機 械設備装置工学	2	□B		2・0	
	異分野協働エンジニ アリング・デザイン 演習	2	□B		1・1	
	情報	データサイエンス基 礎	2	△	2・0	
		人工知能	2	△	0・2	
	その他	特別ゼミナール1	2	□B	2・0	
		特別ゼミナール2	2	□B	0・2	
		特別ゼミナール3	2	□B	2・0	
		プレゼミナール	2	□D	0・2	
		卒業研究	8	○		◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □A、□B、□C、□D：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—4 工学部 基礎理工学科

(1) 共通科目

(2024年度からの教育課程)

区分			授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件単位数	
						1年次	2年次	3年次	4年次		
						前期・後 期	前期・後 期	前期・後 期	前期・後 期		
共 通 科 目	人 文・ 社 会・ 自然 群	大学	総合教養	2	△	2・0				6単 位か ら26 単位 まで	人文・社 会・自然 群、外国語 群、健康・ スポーツ 群、プロジ ェクトスキ ル形成群、 情報基礎群
		の学	総合ゼミナ ール	2	△	2・0					
		びリ									
		テラ	社会生活と	2	△	2・0					
		シー	法								
			現代社会と 青年の心理	2	△	2・0					
			OECU概論1	1	△	1・0					
		視野	異文化の理	2	△	0・2					

	を 広 げ る	解							を あ わ せ て 24単位から 36単位まで
		政治学	2	△	0・2				
		発達心理学	2	△	0・2				
		アジアの言 語と文化	2	△	0・2				
		ヨーロッパ の言語と文 化	2	△	0・2				
	社 会 と つ な が る	現代社会を 考える1	2	△	2・0				
		現代社会を 考える2	2	△	0・2				
		歴史学の世 界	2	△	2・0				
		経済学の世 界	2	△	2・0				
		哲学の世界	2	△	2・0				
		教育制度論	2	△	2・0				
		文学の世界	2	△	0・2				
		日本国憲法	2	△	0・2				
		ジェンダー 論	2	△	0・2				
	世 界 を 知 る	国際コミュ ニケーショ ン	2	△	2・0				
		平和学	2	△	2・0				
	日 本 を 知 る	企業社会と 労働	2	△	2・0				
		日本の近代 史	2	△	0・2				

		技術と倫理	2	△	0・2				
	科学	学術横断講	2	△	2・0				
	と技	座							
	術	研究交流講	2	△	0・2				
		座							
		科学のため	2	△	2・0				
		の教養1							
		科学のため	2	△	0・2				
		の教養2							
外国	英語	Core	1	□	2・0				選択 必修 科目 2単 位を 含 み、 3単 位か ら16 単位 まで
語群		English 1							
		Core	1	□	0・2				
		English 2							
		Core	1	□	2・0				
		English 3							
		Core	1	□	0・2				
		English 4							
		Intermediate Discourse 1	1	□		2・0			
		Intermediate Discourse 2	1	□		0・2			
		Intermediate Communication 1	1	□		2・0			
		Intermediate Communication 2	1	□		0・2			

		資格対策英語1	1	□		2・0			
		資格対策英語2	1	□		0・2			
		Advanced Discourse 1	1	□			2・0		
		Advanced Discourse 2	1	□			0・2		
		Advanced Communication 1	1	□			2・0		
		Advanced Communication 2	1	□			0・2		
	中国語	中国語1	1	△	2・0				
		中国語2	1	△	0・2				
		中国語3	1	△		2・0			
		中国語4	1	△		0・2			
健康・スポーツ群	健康・スポーツ	スポーツ実習1	1	△	2・0				2単位から6単位まで
		スポーツ実習2	1	△	0・2				
		スポーツ実習3	1	△			(2・0) (0・2)		
		健康・スポーツ科学論	2	△		2・0			
		スポーツ文化論	2	△		0・2			
プロジェクト	プロジェクト	プロジェクト活動スキ	1	△	2・0				2単位か

クト スキ ル形 成群	活動	ル入門							ら10 単位 まで
		プロジェクト活動演習1	1	△		2・0			
		プロジェクト活動演習2	1	△		0・2			
		キャリア設計プロジェクト実践	1	△			2・0		
		日本語活用	2	△	2・0				
		日本語活用	2	△	0・2				
		日本語活用	2	△		(2・0) (0・2)			
		地域プロジェクト活動1	2	△	1・1				
		地域プロジェクト活動2	2	△		1・1			
		グローバル研修	2	△			2・0		
		グローバル研修(英語)	2	△			2・0		
		社会を知る	2	△			2・2		
情報 基礎 群	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0				必修 科目 2単 位を 含
		コンピュータリテラシ	2	○	2・0				

		ー1							み、
		コンピューター2	2	△	0・2				2単位から8
		プログラミング基礎演習	2	△		2・0			単位まで

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	必選		週時間数				卒業要件単位 数
			数	環	1年次	2年次	3年次	4年次	
					前期・後 期	前期・後 期	前期・後 期	前期・後 期	
基礎専門科目	数学	基礎解析学1・演習	2	△	△	4・0			必修科目2単位、選択科目をあわせて12単位から22単位まで
		基礎解析学2・演習	2	△	△	0・4			
		基礎解析学3・演習	2	△	△		4・0		
		線形代数	2	△	△	2・0			
	理科基礎	物理学1・演習	2	△	△	4・0			
		物理学実験	2	○	○	0・4			
		物理学2	2	△	△	0・2			
		物理学3	2	△	△		2・0		

		化学1	2	△	△	2・0				
		化学2	2	△	△	0・2				
		生物化学	2	△	△	2・0				
専 門 科 目	数学 系	幾何学1	2	□a	△		2・0			数理科学専 攻：必修科目 14単位、選 択必修科目 14単位以上 (□aから4単 位以上、□b から4単位以 上、□cから4 単位以上、□
		幾何学2	2	□a	△			0・2		
		代数学1	2	□a	△		0・2			
		代数学2	2	□a	△			2・0		
		常微分方程式	2	□a	△		0・2			
		解析学	2	□a	△			2・0		
		応用解析	2	□a	△			0・2		
		確率・統計	2	□a	△		0・2			
		コンピュータと 確率・統計	2	□a	△			2・0		
	物理 系	地球科学	2	□b	△		2・0			dから2単位 以上)、選択 科目あわせ て、66単位 から88単位 まで 環境化学専 攻：必修科目 12単位、選 択必修科目4 単位以上(□e から4単位以 上)、選択科 目あわせて、 66単位から 88単位まで
		一般力学	2	□b	△		0・2			
		熱力学	2	□b	△		0・2			
		電磁気学	2	□b	△		0・2			
		量子力学	2	□b	△			2・0		
		電気回路・演習	2	□b	△			2・0		
		物性科学	2	□b	△			0・2		
		宇宙科学	2	□b	△			0・2		
	化学 系	物理化学1	2	□c	△		2・0			
		物理化学2	2	□c	△		0・2			
		有機化学1	2	□c	△		2・0			
		有機化学2	2	□c	△		0・2			
		無機化学	2	□c	△		0・2			
		高分子化学	2	□c	△			2・0		
		放射線化学	2	□c	△			2・0		
		電気化学	2	□c	△			2・0		
		ナノ科学	2	□c	△			0・2		

	有機機器分析	2	□c	△			0・2	
生物系	生化学	2	△	△	0・2			
	微生物学	2	△	△		2・0		
	食品微生物学実験	2	△	□e		0・8		
	生物学実験	2	△	△		2・0		
食品衛生系	分析化学	2	△	△	0・2			
	食品化学	2	△	△		2・0		
	食品工学	2	△	△		0・2		
	空気調和・冷凍工学	2	△	△			2・0	
	食品衛生学	2	△	△			2・0	
	食品製造学	2	△	△			0・2	
	公衆衛生学	2	△	△			0・2	
	食品化学実験	2	△	□e			4・0	
実験・演習	工学基礎実験	2	○	○	4・0			
	サイエンス実験	2	○	□e		4・0		
	化学実験	2	□d	□e		0・8		
	応用数理演習	2	□d	△		0・4		
	工学基礎製図	1	△	△		0・2		
	CAD基礎	2	△	△			2・0	
情報・計測・シミュレーション	コンピュータ・シミュレーション	2	△	△		0・2		
	機械学習入門	2	△	△			0・2	
	データサイエンス基礎	2	△	△		2・0		
	人工知能	2	△	△			0・2	
融	OECU概論2	1	△	△	1・0			

合・ その 他	基礎理工学入門	2	△	△	2・0			
	アクティブサイ エンスゼミナ ール	2	△	△			0・2	
	基礎理工学特別 ゼミナール	2	△	△				0・2
	特別ゼミナール1	2	△	△	2・0			
	特別ゼミナール2	2	△	△		0・2		
	特別ゼミナール3	2	△	△			2・0	
	自然科学特別講 義	2	△	△			2・0	
	数理科学特別講 義	2	△	△				2・0
	異分野協働エン 지니어リング・ デザイン演習	2	△	△			1・1	
	プレゼミナール	2	○	○			0・2	
	卒業研究	8	○	○				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □a、□b、□c、□d、□e：選択必修科目 △：選択科目
別表第1—5 削除
別表第1—6 削除
別表第1—7 健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻

(1) 共通科目

(2025年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件単位数
				1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
人文・ 社会・ 自然 群	大学の総合教養	2	△	2・0				必修科目2単
	学びの総合ゼミナール	2	△	2・0				位、選択必修科
	テラシ社会生活と法	2	△	2・0				目1単位以上
	OECU概論1	1	△	1・0				(□aから1単位

		エレクトロニクス入門	2	△	2・0				以上)、選択科目をあわせて20単位から34単位まで
	視野を広げる	異文化の理解	2	△	0・2				
		政治学	2	△	0・2				
		発達心理学	2	△	0・2				
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0				
		アジアの言語と文化	2	△	0・2				
		ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2				
		大阪の文化と歴史	2	△	0・2				
		高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2				
		からだの科学	2	△	2・0				
	社会とつながる	現代社会を考える	2	△	2・0				
		歴史学の世界	2	△	2・0				
		経済学の世界	2	△	2・0				
		哲学の世界	2	△	2・0				
		文学の世界	2	△	0・2				
		日本国憲法	2	△	0・2				
		教育制度論	2	△	2・0				
		ジェンダー論	2	△	0・2				
	世界を知る	国際コミュニケーション	2	△	2・0				
		平和学	2	△	2・0				
	日本を知る	日本の近代史	2	△	0・2				
		企業社会と労働	2	△	0・2				
		文字の文化と歴史	2	△		0・2			
外国語群	英語	Core English 1	1	□a	2・0				
		Core English 2	1	□a	0・2				
		Core English 3	1	□a	2・0				
		Core English 4	1	□a	0・2				
		Practical English 1	1	□a		2・0			

		Practical English 2	1	□a		0・2		
	日本語	日本語 1	1	△		2・0		
		日本語 2	1	△		0・2		
		日本語 3	1	△			2・0	
		日本語 4	1	△			0・2	
	中国語	中国語 1	1	△		2・0		
		中国語 2	1	△		0・2		
		中国語 3	1	△			2・0	
		中国語 4	1	△			0・2	
プロジェクトスキル形成群	日本語	日本語上達法 1	2	△	2・0			
		日本語上達法 2	2	△		2・0		
	活用	アカデミック・ライティング	2	△	0・2			
	地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動	2	△		0・2		
	スキルアップ	グローバル研修	2	△			2・0	
		グローバル研修（英語）	2	△			2・0	
	社会を知る	キャリアデザイン	2	△			0・2	
		キャリア形成論	2	△			1・1	
		インターンシップ	2	△			2・2	
情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0			
		コンピュータリテラシー 1	2	○	2・0			
		コンピュータリテラシー 2	2	△	0・2			
		プログラミング基礎演習	2	△	0・2			

(注) 必選欄 □a：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2025年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数
				1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
学科共通科目	基礎科学	健康科学基礎 1	2	△	2・0			必修科目14単位、選択必修科目12単位以上(□bから6単位以上、□cから6単位以上、□cから4単位)、選択科目あわせて、90単位から104単位まで
		健康科学基礎 2	2	△	2・0			
		健康情報学概論	2	□c	2・0			
		OECU 概論 2	1	△	1・0			
	医学	医学概論	2	△	2・0			
		医療関係法規	1	△	0・1			
		公衆衛生学	1	△	0・1			
		スポーツコンディショニング	2	△		2・0		
		スポーツリハビリテーション	2	△			2・0	
	身体機能	解剖生理学 1	2	○	2・0			
		解剖生理学 2	2	○	0・2			
		基礎運動学	2	△	2・0			
	心身の健康	コミュニケーション論	2	△	2・0			
		心理学	2	△	0・2			
		ヘルスプロモーション論	1	△	0・1			
		栄養学	2	△		0・2		
		発育発達学	2	△		0・2		
		社会福祉概論	2	△			0・2	
	生涯スポーツ	生涯スポーツ実習 A	1	△	2・0			
		身体・スポーツ文化論	2	△	0・2			
		生涯スポーツ実習 B	1	△	0・2			
		生涯スポーツ論	1	△	0・1			

情報分野	データサイエンス (または情報処理)	データサイエンス基礎	2	△		2・0		
		人工知能	2	△			0・2	
		プログラミング応用実習	2	□b		4・0		
		データ処理プログラミング	2	□b		0・4		
		医療健康統計入門	2	△		0・2		
		医療健康統計演習	2	△			2・0	
		医療データサイエンス演習	2	△			0・2	
		情報工学基礎演習	2	△		0・2		
		情報システム工学	2	△			2・0	
		医療情報システム	2	△			2・0	
	スポーツと情報	スポーツ情報学	2	△	0・2			
		スポーツ情報学演習	2	△		2・0		
		ゲーム分析実習	1	△		0・2		
		スポーツ計測システム実習	1	△			0・2	
		スポーツ工学	2	△			0・2	
		スポーツ計測システム開発実習	1	△				2・0
		スポーツシミュレーション	2	△				2・0
		プレゼミ	2	□c			2・0	
		ゼミナール	2	□c			0・2	

	アカデミックスキル		卒業研究	8	○				◎・◎
医療工学関連科目	数学	基礎解析学 1 演習	2	△	4・0				
		基礎解析学 2 演習	2	△	0・4				
		線形代数	2	△	0・2				
		微分方程式	2	△		0・2			
		解析学	2	△			2・0		
		確率・統計	2	△		0・2			
		医用数学	2	△		2・0			
		応用数学と臨床医工学	2	△			0・2		
	物理	基礎力学演習	2	△	4・0				
		基礎物理学	2	△	0・2				
		物理学入門	2	△	0・2				
	医学	免疫学	1	△		0・1			
		生化学	2	△		2・0			
		臨床生化学	1	△		0・1			
		病理学	1	△		0・1			
		薬理学	1	△			1・0		
		基礎医学特別演習	1	△				1・0	
		臨床内科学総論	2	△			2・0		
		臨床外科学総論	2	△			0・2		
		チーム医療概論	1	△			1・0		
		応用医学総論	2	△				2・0	
		臨床医学特別演習	1	△				1・0	
	電気・電子工学	基礎電気工学	2	△	0・2				
		応用電気工学	2	△		2・0			
		電気電子工学実験	2	○		4・0			
		基礎電子工学	2	△		2・0			
		応用電子工学	2	△		0・2			

		医用電気電子工学演習	1	△		0・1		
		医用情報工学演習	1	△			0・1	
		医用工学特別演習	2	△				0・2
	機械工学	医用機械工学演習	1	△		0・1		
		医用材料工学	2	△	0・2			
		生体物性工学	2	△		0・2		
		医用機械工学	2	△		0・2		
		メカトロニクス	2	△			2・0	
		基礎製図演習	2	△			2・0	
		製図・CAD 実習	1	△			2・0	
	医用機器学	計測工学	2	△		2・0		
		医用機器学概論	2	△	0・2			
		医用計測学	2	△			2・0	
		生体計測装置学	2	△		0・2		
		医用生体計測学演習	1	△			0・1	
		生体計測装置学実習	2	□b		0・4		
		医用治療機器学	2	△		2・0		
		医療安全管理学	2	△			2・0	
		医用機器安全管理学実習	2	□b			4・0	
		医用機器学・安全管理学特別演習	2	△				2・0
		臨床支援技術学	2	△			0・2	
	生体機能代行技術学	呼吸療法装置学	2	△		2・0		
		血液浄化療法装置学	2	△		0・2		
		体外循環装置学	2	△			2・0	
		生体機能代行装置学実習	2	△			0・4	
		臨床工学技士総合演習	2	△				0・2
		認知科学とデザイン	2	△			2・0	

理学療法学科 関連科目	健康福祉工学	ヒト型ロボット製作実習	2	□b			4・0	
		ヒト型ロボット制御実習	2	□b			0・4	
		創造製作実習	2	□b			0・4	
	臨床実習	臨床実習（臨床工学）	7	△			0・14	
		医療工学特別講義	2	△				0・2
	医療工学キャリア形成	健康情報学演習	2	□c	2・0			
		生体医工学実習	2	□b		4・0		
		医療工学基礎実習	2	□c	0・4			
		医療工学実習	2	□c			4・0	
	基礎医学	機能解剖学	2	△	2・0			
		機能解剖学演習	2	△	0・2			
		運動学	2	△	0・2			
		運動学実習	2	△		4・0		
		生理学演習	2	△		2・0		
		解剖学演習	2	△		2・0		
		基礎医学実習	2	△		0・4		
	臨床医学	一般臨床内科学	2	△		2・0		
		神経内科学	2	△		2・0		
		リハビリテーション医学	2	△	0・2			
		整形外科	2	△		2・0		
		障害学演習	2	△		0・2		
		臨床精神医学	2	△			2・0	
		臨床医学探究	2	△				2・0
	基礎理学	接遇マナーとコミュニケーション	1	△	0・1			
		日常生活活動学実習	2	△		0・4		

	療法学	物理療法学実習	2	△		4・0		
		運動療法学実習	2	△		4・0		
		理学療法管理学	2	△			0・2	
		理学療法関係法規	2	△		2・0		
		理学療法評価学	2	△		2・0		
		理学療法評価学実習 1	2	△		4・0		
		理学療法評価学実習 2	2	△		0・4		
		生体動作探究	2	△	0・2			
		姿勢・動作解析学演習	2	△		0・2		
		義肢装具学実習	2	△			4・0	
		チームマネジメント	2	△		0・2		
	理学療法 治療学	神経系理学療法学演習 A	2	△		0・2		
		内部障害系理学療法学演習 A	2	△		0・2		
		小児系理学療法学演習	2	△			2・0	
		運動系理学療法学演習 A	2	△		0・2		
		神経系理学療法学演習 B	2	△		0・2		
		内部障害系理学療法学演習 B	2	△			2・0	
		老年系理学療法学演習	2	△			0・2	
		運動系理学療法学演習 B	2	△			2・0	
		神経系理学療法学演習 C	2	△			2・0	
		予防理学療法学演習	2	△			0・2	
		地域理学療法学演習	2	△			0・2	

		運動系理学療法学基礎演習	2	△			0・2	
		運動系理学療法学発展演習	2	△			0・2	
		神経系理学療法学基礎演習	2	△			0・2	
		神経系理学療法学発展演習	2	△			0・2	
		スポーツ理学療法特修A	1	△			1・0	
		スポーツ理学療法特修B	1	△			0・1	
	応用 理学 療法 学	実践理学療法学演習A	2	△			2・0	
		実践理学療法学演習B	2	△			2・0	
		臨床理学療法学演習A	2	△			0・2	
		地域健康支援実習	2	△		2・2		
		チームリハビリテーション	2	△			0・2	
		総合理学療法学演習A	2	△				0・2
		総合理学療法学演習B	2	△				0・2
		総合理学療法学演習C	2	△				0・2
		臨床理学療法学演習B	2	△				2・0
		臨床理学療法学探究	2	△				2・0
	学外 実習	臨床実習（理学療法） 1	1	△		0・2		
		臨床実習（理学療法） 2	3	△			6・0	
		臨床実習（理学療法） 3	6	△			0・12	

		臨床実習（理学療法） 4	1	△				0・2
		臨床実習（理学療法） 5	10	△				0・20
スポーツ科学関連科目	ひと社会とスポーツ	体育・スポーツ原理	2	△		2・0		
		体育・スポーツ社会学	2	△		0・2		
		スポーツマネジメント 論	2	△			2・0	
		スポーツビジネス論	2	△				2・0
	スポーツとからだ	スポーツバイオメカニ クス	2	△		2・0		
		運動生理学	2	△		2・0		
		体力測定評価演習	2	△		2・0		
		健康スポーツ科学実習	1	△		0・2		
		スポーツ栄養学演習	2	△			2・0	
		運動生理学実習	1	△			0・2	
	こころとスポーツ	体育・スポーツ心理学	2	△		2・0		
		健康心理学	2	△			2・0	
		スポーツ医学と救急救 命演習	2	△		0・2		
	医学	精神医学	2	△			0・2	
	スポーツ教育	スポーツ教育学	1	△	0・1			
		スポーツ教育学基礎演 習 1	1	△		0・1		
		スポーツ教育学基礎演 習 2	1	△			1・0	

		スポーツ教育学応用演習	2	△			1・1	
		学校保健	2	△			0・2	
	スポーツ コーチング 実習	トレーニング論	2	△	2・0			
		スポーツコーチング論	1	△	0・1			
		スポーツトレーニング 実習	1	△		2・0		
		スポーツコーチング実 習	1	△			2・0	
		スポーツ指導実習	1	△			0・2	
	ヘルス プロモ ーション	生活習慣病と介護予防	2	△		0・2		
		健康運動指導基礎演習	2	△		0・2		
		健康トレーニング実習	1	△			2・0	
		健康運動指導応用演習	2	△			0・2	
	生涯 スポーツ	スポーツ・レクリエー ション論	2	△		2・0		
		スポーツ・レクリエー ション実習	1	△		0・2		
		アダプテッドスポーツ	2	△				2・0
	eス ポ ー ツ	eスポーツ科学概論	1	△			1・0	
		eスポーツ科学演習	1	△			1・0	
	スポ ーツ 方法	スポーツ方法実習（器 械運動）	1	△	2・0			
		スポーツ方法実習（ベ ースボール型球技）	1	△	2・0			
		スポーツ方法実習（ネ ット型球技 1）	1	△	0・2			

	スポーツ方法実習（陸上競技）	1	△	0・2			
	野外活動	2	△		2・0		
	スポーツ方法実習（ネット型球技 2）	1	△		2・0		
	スポーツ方法実習（武道）	1	△		2・0		
	スポーツ方法実習（eスポーツ）	1	△		2・0		
	スポーツ方法実習（水泳・水中運動）	1	△		0・2		
	体づくり運動と運動遊び	1	△		0・2		
	スポーツ方法実習（ダンス）	1	△		0・2		
	スポーツ方法実習（海洋スポーツ）	1	△			2・0	
	スポーツ方法実習（バスケットボール）	1	△			2・0	
	スポーツ方法実習（ユーススポーツ）	1	△			2・0	
	スポーツ方法実習（冬季スポーツ）	1	△			0・2	
	スポーツ方法実習（ゴール型球技）	1	△			0・2	

（注） 必選欄 ○：必修科目 □b・□c・□d：選択必修科目 △：選択科目

別表第1―8 健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻

（1） 共通科目

（2025年度からの教育課程）

区分	授業科目	単位数	選 必	週時間数				卒業要件 単位数
				1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	

				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
人文・社会・自然群	大学の学びリテラシー	総合教養	2	△	2・0			必修科目 2 単位、選択必修科目 1 単位以上 (□a から 1 単位以上)、選択科目をあわせて 20 単位から 34 単位まで
		総合ゼミナール	2	△	2・0			
		社会生活と法	2	△	2・0			
		OECU概論 1	1	△	1・0			
		エレクトロニクス入門	2	△	2・0			
	視野を広げる	異文化の理解	2	△	0・2			
		政治学	2	△	0・2			
		発達心理学	2	△	0・2			
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0			
		アジアの言語と文化	2	△	0・2			
		ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2			
		大阪の文化と歴史	2	△	0・2			
		高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2			
		からだの科学	2	△	2・0			
	社会とつながる	現代社会を考える	2	△	2・0			
		歴史学の世界	2	△	2・0			
		経済学の世界	2	△	2・0			
		哲学の世界	2	△	2・0			
		文学の世界	2	△	0・2			
		日本国憲法	2	△	0・2			
		教育制度論	2	△	2・0			
		ジェンダー論	2	△	0・2			
	世界を知る	国際コミュニケーション	2	△	2・0			
		平和学	2	△	2・0			
	日本を知る	日本の近代史	2	△	0・2			
		企業社会と労働	2	△	0・2			
		文字の文化と歴史	2	△		0・2		

外国語群	英語	Core English 1	1	□a	2・0			
		Core English 2	1	□a	0・2			
		Core English 3	1	□a	2・0			
		Core English 4	1	□a	0・2			
		Practical English 1	1	□a		2・0		
		Practical English 2	1	□a		0・2		
	日本語	日本語 1	1	△		2・0		
		日本語 2	1	△		0・2		
		日本語 3	1	△			2・0	
		日本語 4	1	△			0・2	
	中国語	中国語 1	1	△		2・0		
		中国語 2	1	△		0・2		
		中国語 3	1	△			2・0	
		中国語 4	1	△			0・2	
プロジェクトスキル形成群	日本語	日本語上達法 1	2	△	2・0			
		日本語上達法 2	2	△		2・0		
	活用	アカデミック・ライティング	2	△	0・2			
		地域プロジェクト活動	2	△		0・2		
	スキルアップ	グローバル研修	2	△			2・0	
		グローバル研修（英語）	2	△			2・0	
	社会を知る	キャリアデザイン	2	△			0・2	
		キャリア形成論	2	△			1・1	
		インターンシップ	2	△			2・2	
情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0			
		コンピュータリテラシー1	2	○	2・0			

		コンピュータリテラシー2	2	△	0・2				
		プログラミング基礎演習	2	△	0・2				

(注) 必選欄 □a：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2025年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
学科共通科目	基礎科学	健康科学基礎1	2	△	2・0			必修科目80単位、選択必修科目20単位以上(□bから20単位以上)、選択科目あわせて、100単位から104単位まで
		健康科学基礎2	2	△	2・0			
		健康情報学概論	2	○	2・0			
		OECU 概論2	1	△	1・0			
	医学	医学概論	2	△	2・0			
		医療関係法規	1	△	0・1			
		公衆衛生学	1	△	0・1			
		スポーツコンディショニング	2	△		2・0		
		スポーツリハビリテーション	2	△			2・0	
	身体機能	解剖生理学1	2	○	2・0			
		解剖生理学2	2	○	0・2			
		基礎運動学	2	△	2・0			
	心身の健康	コミュニケーション論	2	△	2・0			
		心理学	2	△	0・2			
		ヘルスプロモーション論	1	△	0・1			
		栄養学	2	△		0・2		
		発育発達学	2	△		0・2		

		社会福祉概論	2	△			0・2	
	生涯スポーツ	生涯スポーツ実習 A	1	△	2・0			
		身体・スポーツ文化論	2	△	0・2			
		生涯スポーツ実習 B	1	△	0・2			
		生涯スポーツ論	1	△	0・1			
	情報分野	データサイエンス基礎	2	△		2・0		
		人工知能	2	△			0・2	
		プログラミング応用実習	2	△		4・0		
		データ処理プログラミング	2	△		0・4		
		医療健康統計入門	2	△		0・2		
		医療健康統計演習	2	△			2・0	
		医療データサイエンス演習	2	△			0・2	
		情報工学基礎演習	2	△		0・2		
		情報システム工学	2	△			2・0	
		医療情報システム	2	△			2・0	
		スポーツ情報学	2	△	0・2			
		スポーツ情報学演習	2	△		2・0		
		ゲーム分析実習	1	△		0・2		
		スポーツ計測システム実習	1	△			0・2	
		スポーツ工学	2	△			0・2	
		スポーツ計測システム開発実習	1	△				2・0
		スポーツシミュレーション	2	△				2・0

医療工学関連科目	アカデミックスキル	プレゼミ	2	△			2・0	
		ゼミナール	2	△			0・2	
		卒業研究	8	○				◎・◎
	数学	基礎解析学 1 演習	2	△	4・0			
		基礎解析学 2 演習	2	△	0・4			
		線形代数	2	△	0・2			
		微分方程式	2	△		0・2		
		解析学	2	△			2・0	
		確率・統計	2	△		0・2		
		医用数学	2	△		2・0		
		応用数学と臨床医工学	2	△			0・2	
	物理	基礎力学演習	2	△	4・0			
		基礎物理学	2	△	0・2			
		物理学入門	2	△	0・2			
	医学	免疫学	1	△		0・1		
		生化学	2	△		2・0		
		臨床生化学	1	△		0・1		
		病理学	1	△		0・1		
		薬理学	1	△			1・0	
		基礎医学特別演習	1	△				1・0
		臨床内科学総論	2	△			2・0	
		臨床外科学総論	2	△			0・2	
		チーム医療概論	1	△			1・0	
		応用医学総論	2	△				2・0
		臨床医学特別演習	1	△				1・0
	電気・電子工学	基礎電気工学	2	△	0・2			
		応用電気工学	2	△		2・0		
		電気電子工学実験	2	△		4・0		
		基礎電子工学	2	△		2・0		
		応用電子工学	2	△		0・2		

		医用電気電子工学演習	1	△		0・1		
		医用情報工学演習	1	△			0・1	
		医用工学特別演習	2	△				0・2
	機械工学	医用機械工学演習	1	△		0・1		
		医用材料工学	2	△	0・2			
		生体物性工学	2	△		0・2		
		医用機械工学	2	△		0・2		
		メカトロニクス	2	△			2・0	
		基礎製図演習	2	△			2・0	
		製図・CAD 実習	1	△			2・0	
	医用機器学	計測工学	2	△		2・0		
		医用機器学概論	2	△	0・2			
		医用計測学	2	△			2・0	
		生体計測装置学	2	△		0・2		
		医用生体計測学演習	1	△			0・1	
		生体計測装置学実習	2	△		0・4		
		医用治療機器学	2	△		2・0		
		医療安全管理学	2	△			2・0	
		医用機器安全管理学実習	2	△			4・0	
		医用機器学・安全管理学特別演習	2	△				2・0
		臨床支援技術学	2	△			0・2	
	生体機能代行技術学	呼吸療法装置学	2	△		2・0		
		血液浄化療法装置学	2	△		0・2		
		体外循環装置学	2	△			2・0	
		生体機能代行装置学実習	2	△			0・4	
		臨床工学技士総合演習	2	△				0・2
		認知科学とデザイン	2	△			2・0	

理学療法学科関連科目	健康福祉工学	ヒト型ロボット製作実習	2	△			4・0	
		ヒト型ロボット制御実習	2	△			0・4	
		創造製作実習	2	△			0・4	
	臨床実習	臨床実習（臨床工学）	7	△			0・14	
		医療工学特別講義	2	△				0・2
	医療工学キャリア形成	健康情報学演習	2	△	2・0			
		生体医工学実習	2	△		4・0		
		医療工学基礎実習	2	△	0・4			
		医療工学実習	2	△			4・0	
	基礎医学	機能解剖学	2	○	2・0			
		機能解剖学演習	2	△	0・2			
		運動学	2	○	0・2			
		運動学実習	2	△		4・0		
		生理学演習	2	○		2・0		
		解剖学演習	2	○		2・0		
		基礎医学実習	2	△		0・4		
	臨床医学	一般臨床内科学	2	○		2・0		
		神経内科学	2	○		2・0		
		リハビリテーション医学	2	○	0・2			
		整形外科学	2	○		2・0		
		障害学演習	2	△		0・2		
		臨床精神医学	2	○			2・0	
		臨床医学探究	2	○				2・0
	基礎理学	接遇マナーとコミュニケーション	1	○	0・1			
		日常生活活動学実習	2	○		0・4		

	療 法 学	物理療法学実習	2	○		4・0		
		運動療法学実習	2	○		4・0		
		理学療法管理学	2	○			0・2	
		理学療法関係法規	2	△		2・0		
		理学療法評価学	2	○		2・0		
		理学療法評価学実習 1	2	○		4・0		
		理学療法評価学実習 2	2	○		0・4		
		生体動作探究	2	△	0・2			
		姿勢・動作解析学演習	2	△		0・2		
		義肢装具学実習	2	○			4・0	
		チームマネジメント	2	△		0・2		
	理 学 療 法 治 療 学	神経系理学療法学演習 A	2	□b		0・2		
		内部障害系理学療法学 演習 A	2	□b		0・2		
		小児系理学療法学演習	2	□b			2・0	
		運動系理学療法学演習 A	2	□b		0・2		
		神経系理学療法学演習 B	2	□b		0・2		
		内部障害系理学療法学 演習 B	2	□b			2・0	
		老年系理学療法学演習	2	□b			0・2	
		運動系理学療法学演習 B	2	□b			2・0	
		神経系理学療法学演習 C	2	□b			2・0	
		予防理学療法学演習	2	□b			0・2	
		地域理学療法学演習	2	○			0・2	

		運動系理学療法学基礎演習	2	□b			0・2	
		運動系理学療法学発展演習	2	□b			0・2	
		神経系理学療法学基礎演習	2	□b			0・2	
		神経系理学療法学発展演習	2	□b			0・2	
		スポーツ理学療法特修A	1	□b			1・0	
		スポーツ理学療法特修B	1	□b			0・1	
	応用 理学 療法 学	実践理学療法学演習A	2	△			2・0	
		実践理学療法学演習B	2	△			2・0	
		臨床理学療法学演習A	2	△			0・2	
		地域健康支援実習	2	△		2・2		
		チームリハビリテーション	2	○			0・2	
		総合理学療法学演習A	2	○				0・2
		総合理学療法学演習B	2	○				0・2
		総合理学療法学演習C	2	△				0・2
		臨床理学療法学演習B	2	△				2・0
		臨床理学療法学探究	2	□b				2・0
	学外 実習	臨床実習（理学療法） 1	1	○		0・2		
		臨床実習（理学療法） 2	3	○			6・0	
		臨床実習（理学療法） 3	6	○			0・12	

		臨床実習（理学療法） 4	1	○				0・2
		臨床実習（理学療法） 5	10	○				0・20
スポーツ科学関連科目	ひと・社会とスポーツ	体育・スポーツ原理	2	△		2・0		
		体育・スポーツ社会学	2	△		0・2		
		スポーツマネジメント論	2	△			2・0	
		スポーツビジネス論	2	△				2・0
	スポーツとからだ	スポーツバイオメカニクス	2	△		2・0		
		運動生理学	2	△		2・0		
		体力測定評価演習	2	△		2・0		
		健康スポーツ科学実習	1	△		0・2		
		スポーツ栄養学演習	2	△			2・0	
		運動生理学実習	1	△			0・2	
	こころとスポーツ	体育・スポーツ心理学	2	△		2・0		
		健康心理学	2	△			2・0	
	スポーツ医学	スポーツ医学と救急救命演習	2	△		0・2		
		精神医学	2	△			0・2	
	スポーツ教育	スポーツ教育学	1	△	0・1			
		スポーツ教育学基礎演習 1	1	△		0・1		
		スポーツ教育学基礎演習 2	1	△			1・0	

		スポーツ教育学応用演習	2	△			1・1	
		学校保健	2	△			0・2	
	スポーツ コーチ ング	トレーニング論	2	△	2・0			
		スポーツコーチング論	1	△	0・1			
		スポーツトレーニング 実習	1	△		2・0		
		スポーツコーチング実 習	1	△			2・0	
		スポーツ指導実習	1	△			0・2	
	ヘル ス プロ モー ショ ン	生活習慣病と介護予防	2	△		0・2		
		健康運動指導基礎演習	2	△		0・2		
		健康トレーニング実習	1	△			2・0	
		健康運動指導応用演習	2	△			0・2	
	生涯 スポ ーツ	スポーツ・レクリエー ション論	2	△		2・0		
		スポーツ・レクリエー ション実習	1	△		0・2		
		アダプテッドスポーツ	2	△				2・0
	e スポ ーツ	e スポーツ科学概論	1	△			1・0	
		e スポーツ科学演習	1	△			1・0	
	スポ ーツ 方法	スポーツ方法実習（器 械運動）	1	△	2・0			
		スポーツ方法実習（ベ ースボール型球技）	1	△	2・0			
		スポーツ方法実習（ネ ット型球技 1）	1	△	0・2			

	スポーツ方法実習（陸上競技）	1	△	0・2			
	野外活動	2	△		2・0		
	スポーツ方法実習（ネット型球技2）	1	△		2・0		
	スポーツ方法実習（武道）	1	△		2・0		
	スポーツ方法実習（eスポーツ）	1	△		2・0		
	スポーツ方法実習（水泳・水中運動）	1	△		0・2		
	体づくり運動と運動遊び	1	△		0・2		
	スポーツ方法実習（ダンス）	1	△		0・2		
	スポーツ方法実習（海洋スポーツ）	1	△			2・0	
	スポーツ方法実習（バスケットボール）	1	△			2・0	
	スポーツ方法実習（ユーススポーツ）	1	△			2・0	
	スポーツ方法実習（冬季スポーツ）	1	△			0・2	
	スポーツ方法実習（ゴール型球技）	1	△			0・2	

（注） 必選欄 ○：必修科目 □b：選択必修科目 △：選択科目

別表第1―9 健康情報学部 健康情報学科 健康スポーツ科学専攻

（1） 共通科目

（2025年度からの教育課程）

区分	授業科目	単位数	選 必	週時間数				卒業要件 単位
				1年次	2年次	3年次	4年次	

					前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
人文・社会・自然群	大学の 学び テラシ ー	総合教養	2	△	2・0				必修科目 8 単 位、選択必修科 目 1 単位以上 (□a から 1 単位 以上)、選択科目 をあわせて 20 単位から 34 単 位まで
		総合ゼミナール	2	△	2・0				
		社会生活と法	2	△	2・0				
		OECU概論 1	1	△	1・0				
		エレクトロニクス入門	2	△	2・0				
	視野を 広げる	異文化の理解	2	△	0・2				
		政治学	2	△	0・2				
		発達心理学	2	△	0・2				
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0				
		アジアの言語と文化	2	△	0・2				
		ヨーロッパの言語と文 化	2	△	0・2				
		大阪の文化と歴史	2	△	0・2				
		高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2				
		からだの科学	2	△	2・0				
	社会と つなが る	現代社会を考える	2	△	2・0				
		歴史学の世界	2	△	2・0				
		経済学の世界	2	△	2・0				
		哲学の世界	2	△	2・0				
		文学の世界	2	△	0・2				
		日本国憲法	2	△	0・2				
		教育制度論	2	△	2・0				
		ジェンダー論	2	△	0・2				
	世界を 知る	国際コミュニケーション	2	△	2・0				
		平和学	2	△	2・0				
	日本を 知る	日本の近代史	2	△	0・2				
		企業社会と労働	2	△	0・2				
		文字の文化と歴史	2	△		0・2			

外国語群	英語	Core English 1	1	□a	2・0			
		Core English 2	1	□a	0・2			
		Core English 3	1	□a	2・0			
		Core English 4	1	□a	0・2			
		Practical English 1	1	□a		2・0		
		Practical English 2	1	□a		0・2		
	日本語	日本語 1	1	△		2・0		
		日本語 2	1	△		0・2		
		日本語 3	1	△			2・0	
		日本語 4	1	△			0・2	
	中国語	中国語 1	1	△		2・0		
		中国語 2	1	△		0・2		
		中国語 3	1	△			2・0	
		中国語 4	1	△			0・2	
プロジェクトスキル形成群	日本語	日本語上達法 1	2	△	2・0			
		日本語上達法 2	2	△		2・0		
	活用	アカデミック・ライティング	2	○	0・2			
		地域プロジェクト活動	2	△		0・2		
	スキルアップ	グローバル研修	2	△			2・0	
		グローバル研修（英語）	2	△			2・0	
	社会を知る	キャリアデザイン	2	○			0・2	
		キャリア形成論	2	△			1・1	
		インターンシップ	2	△			2・2	
情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0			
		コンピュータリテラシー1	2	○	2・0			

		コンピュータリテラシー2	2	○	0・2				
		プログラミング基礎演習	2	△	0・2				

(注) 必選欄 □a: 選択必修科目 △: 選択科目

(2) 専門教育科目

(2025年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位
				1年次 前期・ 後期	2年次 前期・ 後期	3年次 前期・ 後期	4年次 前期・ 後期	
人文・社会・自然群	大学の 学びリ テラシ ー	総合教養	2	△	2・0			必修科目 8 単位、選択必修科目 1 単位以上(□a から 1 単位以上)、選択科目をあわせて 20 単位から 34 単位まで
		総合ゼミナール	2	△	2・0			
		社会生活と法	2	△	2・0			
		OECU概論1	1	△	1・0			
		エレクトロニクス入門	2	△	2・0			
	視野を 広げる	異文化の理解	2	△	0・2			
		政治学	2	△	0・2			
		発達心理学	2	△	0・2			
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0			
		アジアの言語と文化	2	△	0・2			
		ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2			
		大阪の文化と歴史	2	△	0・2			
		高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2			
		からだの科学	2	△	2・0			
	社会と つなが る	現代社会を考える	2	△	2・0			
		歴史学の世界	2	△	2・0			
		経済学の世界	2	△	2・0			
		哲学の世界	2	△	2・0			
		文学の世界	2	△	0・2			
		日本国憲法	2	△	0・2			

		教育制度論	2	△	2・0			
		ジェンダー論	2	△	0・2			
	世界を知る	国際コミュニケーション	2	△	2・0			
		平和学	2	△	2・0			
	日本を知る	日本の近代史	2	△	0・2			
		企業社会と労働	2	△	0・2			
		文字の文化と歴史	2	△		0・2		
	外国語群	英語	Core English 1	1	□a	2・0		
		英語	Core English 2	1	□a	0・2		
		英語	Core English 3	1	□a	2・0		
		英語	Core English 4	1	□a	0・2		
		英語	Practical English 1	1	□a		2・0	
		英語	Practical English 2	1	□a		0・2	
		日本語	日本語 1	1	△		2・0	
			日本語 2	1	△		0・2	
			日本語 3	1	△			2・0
			日本語 4	1	△			0・2
		中国語	中国語 1	1	△		2・0	
			中国語 2	1	△		0・2	
			中国語 3	1	△			2・0
			中国語 4	1	△			0・2
プロジェクトスキル形成群	日本語	日本語上達法 1	2	△	2・0			
		日本語上達法 2	2	△		2・0		
	活用	アカデミック・ライティング	2	○	0・2			
	地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動	2	△		0・2		
		グローバル研修	2	△			2・0	

	スキルアップ	グローバル研修（英語）	2	△			2・0	
	社会を知る	キャリアデザイン	2	○			0・2	
		キャリア形成論	2	△			1・1	
		インターンシップ	2	△			2・2	
情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0			
		コンピュータリテラシー1	2	○	2・0			
		コンピュータリテラシー2	2	○	0・2			
		プログラミング基礎演習	2	△	0・2			

（注） 必選欄 □b：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—10 情報通信工学部 情報工学科

（1） 共通科目

（2024年度からの教育課程）

区分		授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件 単位数	
					1年次	2年次	3年次	4年次		
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
共通科目	人文学・社会科学・自然群	大学の学び	総合教養	2	△	2・0				4単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、
		大学・びリテラシー	総合ゼミナール	2	△	2・0				
		社会・自然群	社会生活と法	2	△	2・0				
			現代社会と青年の心	2	△	2・0				
			理							
	視野を広げる	OECU概論1	1	△	1・0					
		異文化の理解	2	△	0・2					
		政治学	2	△	0・2					
		発達心理学	2	△	0・2					

			アジアの言語と文化	2	△	0・2				健康・スポーツ群、プロジェクトスキル形成群をあわせて22単位から30単位まで
			ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2				
		社会とつながる	現代社会を考える1	2	△	2・0				
			現代社会を考える2	2	△	0・2				
			歴史学の世界	2	△	2・0				
			経済学の世界	2	△	2・0				
			哲学の世界	2	△	2・0				
			教育制度論	2	△	2・0				
			文学の世界	2	△	0・2				
			日本国憲法	2	△	0・2				
			ジェンダー論	2	△	0・2				
		世界を知る	国際コミュニケーション	2	△	2・0				
			平和学	2	△	2・0				
		日本を知る	企業社会と労働	2	△	2・0				
			日本の近代史	2	△	0・2				
			技術と倫理	2	△	0・2				
		科学と技術	学術横断講座	2	△	2・0				
			研究交流講座	2	△	0・2				
			科学のための教養1	2	△	2・0				
			科学のための教養2	2	△	0・2				
外国語群	英語		Core English 1	1	□	2・0				選択必修科目4単位
			Core English 2	1	□	0・2				
			Core English 3	1	□	2・0				
			Core English 4	1	□	0・2				
			Intermediate Discourse 1	1	□		2・0			
			Intermediate Discourse 2	1	□		0・2			

		Intermediate Communication 1	1	□		2・0			以上を含み4単位以上
		Intermediate Communication 2	1	□		0・2			
		資格対策英語1	1	□		2・0			
		資格対策英語2	1	□		0・2			
		Advanced Discourse 1	1	□			2・0		
		Advanced Discourse 2	1	□			0・2		
		Advanced Communication 1	1	□			2・0		
		Advanced Communication 2	1	□			0・2		
	中国語	中国語1	1	△	2・0				3単位以上
		中国語2	1	△	0・2				
		中国語3	1	△		2・0			
		中国語4	1	△		0・2			
	健康・スポーツ群	健康とスポーツ	スポーツ実習1	1	△	2・0			
		スポーツ実習2	1	△	0・2				
		スポーツ実習3	1	△			(2・0)(0・2)		
		健康・スポーツ科学論	2	△		2・0			
		スポーツ文化論	2	△		0・2			
	プロジェクトスキ	プロジェクト活動	プロジェクト活動スキル入門	2	△	2・0			
		プロジェクト活動演習1	1	△		2・0			

ル形 成群		プロジェクト活動演習2	1	△		0・2			
		キャリア設計プロジェクト実践	2	△			2・0		
	日本語活用	日本語上達法1	2	△	2・0				
		日本語上達法2	2	△	0・2				
		日本語活用法	2	△		(2・0)(0・2)			
	地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動1	2	△	1・1				
		地域プロジェクト活動2	2	△		1・1			
	スキルアップ	グローバル研修	2	△			2・0		
		グローバル研修(英語)	2	△			2・0		
	社会を知る	就業体験実習	2	△		2・2			
		インターンシップ	2	△			2・2		
	情報基礎群	情報 AI・データサイエンス入門	2	△	2・0				必修科目2
		コンピュータ基礎演習	2	○	2・0				
		コンピュータで文化を測る	2	△	0・2				単位、選択科目を

										わ せ て6 単 位 ま で	

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位 数	必選	週時間数				卒業要件単 位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
基礎 専門 科目	基礎解析学1演習	2	△	4・0				必修科目18 単位、選択 科目をあわ せて22単位 から40単位 まで
	基礎解析学2演習	2	△	0・4				
	基礎解析学3演習	2	△		4・0			
	線形代数	2	△	2・0				
	解析学	2	△			2・0		
	確率・統計1	2	△	0・2				
	確率・統計2	2	△		2・0			
	応用数学	2	△		2・0			
	離散数学	2	△			2・0		
理科	基礎力学	2	△	2・0				
	基礎物理学	2	△	0・2				
情報	OECU概論2	1	△	1・0				
	情報工学入門	2	△	2・0				
	情報工学概論	2	△	0・2				
	コンピュータ工学1	2	○	2・0				
	コンピュータ工学2	2	○	0・2				

	データベース基礎演習	2	△	0・2			
	プログラミング入門演習1	2	○	〈4・0〉・〈0・0〉			
	プログラミング入門演習2	2	○	〈0・4〉・〈0・0〉			
	プログラミング基礎演習1	2	○	〈0・0〉・〈4・0〉			
	プログラミング基礎演習2	2	○	〈0・0〉・〈0・4〉			
	基礎電気回路	2	△		2・0		
	基礎電子回路	2	△		0・2		
	情報工学基礎実験1	3	○		[4・0] [0・4]		
	情報工学基礎実験2	3	○		[4・0] [0・4]		
専門科目	情報理論1	2	△		2・0		区分「情報工学」から必修科目6単
	情報理論2	2	△		0・2		
	論理回路1	2	△		2・0		

目	論理回路2	2	△		0・2		位、選択科目8単位以上、区分「コンピュータネットワーク」「知能情報科学」「データサイエンス」「情報システム」「メディア情報処理」「その他」から必修科目10単位、選択科目30単位以上あわせて54単位から80単位まで
	数値計算論	2	△			0・2	
	プログラミング応用演習1	2	△		〈4・0〉・〈0・0〉		
	プログラミング応用演習2	2	△		〈0・4〉・〈0・0〉		
	プログラミング発展演習1	2	△		〈0・0〉・〈4・0〉		
	プログラミング発展演習2	2	△		〈0・0〉・〈0・4〉		
	知能情報科学演習	2	△			2・0	
	メディア情報処理演習	2	△			2・0	
	情報システム設計演習	2	△			2・0	
	データサイエンス演習	2	△			2・0	
	情報工学実験1	3	○			[4・0] [0・4]	
	情報工学実験2	3	○			[4・0]	

						[0・4]	
コンピュータネットワーク	コンピュータネットワーク基礎	2	△		2・0		
	コンピュータアーキテクチャ	2	△		0・2		
	ネットワーク工学	2	△		0・2		
	オペレーティングシステム	2	△			2・0	
	ネットワークプログラミング論	2	△			2・0	
	クラウドコンピューティング	2	△			0・2	
知能情報科学	知能情報科学基礎	2	△		2・0		
	知能情報科学応用	2	△		0・2		
	データベース工学	2	△			2・0	
	アルゴリズム設計論	2	△			2・0	
	人工知能	2	△			0・2	
	ソフトコンピューティング	2	△			0・2	
データサイエンス	データサイエンス基礎	2	△		2・0		
	データサイエンス応用	2	△		0・2		
	ビッグデータサイエンス	2	△			2・0	
	オペレーションズリサーチ	2	△			2・0	
	認知科学	2	△			2・0	
	データマイニング	2	△			0・2	

	データマネジメント	2	△		0・2	
情報システム	情報システム学基礎	2	△	2・0		
	情報システム学応用	2	△	0・2		
	情報特許論	2	△	0・2		
	集積回路学	2	△		2・0	
	組み込みシステム論	2	△		0・2	
	ヒューマンインタフェース	2	△		0・2	
	情報セキュリティ工学	2	△		0・2	
メディア情報処理	メディア情報処理学基礎	2	△	2・0		
	メディア情報処理学応用	2	△	0・2		
	カラービジョン	2	△		2・0	
	音声・言語情報処理	2	△		2・0	
	コンピュータグラフィックス	2	△		0・2	
	画像情報処理	2	△		0・2	
	ロボット工学	2	△		0・2	
その他	特別ゼミナール1	2	△	2・0		
	特別ゼミナール2	2	△	0・2		
	先端情報工学1	2	△	2・0		
	先端情報工学2	2	△	0・2		
	プレゼミナール	2	○		0・2	
	卒業研究	8	○			◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

別表第1―11 情報通信工学部 通信工学科

(1) 共通科目

(2024年度からの教育課程)

区分			授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件単位 数	
						1年次	2年次	3年次	4年次		
						前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期		
共通 科目	人文・社会・自然 群	大学の学び びりテラ シー	総合教養	2	△	2・0				2単 位 以 上	人文・社会・自然 群、外国 語群、健康・スポーツ群、 プロジェクトスキル形成 群、情報基礎群をあわせて 22単位から40単位まで
			総合ゼミナール	2	△	2・0					
			社会生活と法	2	△	2・0					
			現代社会と青年の心理	2	△	2・0					
			OECU概論1	1	△	1・0					
		視野を広 げる	異文化の理解	2	△	0・2					
			政治学	2	△	0・2					
			発達心理学	2	△	0・2					
			アジアの言語と文化	2	△	0・2					
			ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2					
		社会とつ ながる	コンピュータで文化を測る	2	△	0・2					
			現代社会を考える1	2	△	2・0					
			現代社会を考える2	2	△	0・2					
			歴史学の世界	2	△	2・0					
			経済学の世界	2	△	2・0					
			哲学の世界	2	△	2・0					
			教育制度論	2	△	2・0					
			文学の世界	2	△	0・2					
			日本国憲法	2	△	0・2					
			ジェンダー論	2	△	0・2					

		世界を知る	国際コミュニケーション	2	△	2・0				
			平和学	2	△	2・0				
		日本を知る	企業社会と労働	2	△	2・0				
			日本の近代史	2	△	0・2				
			技術と倫理	2	△	0・2				
		科学と技術	学術横断講座	2	△	2・0				
			研究交流講座	2	△	0・2				
			科学のための教養1	2	△	2・0				
			科学のための教養2	2	△	0・2				
		外国語群	英語	Core English 1	1	□	2・0			選択必修科目4単位以上を含み4単位以上
				Core English 2	1	□	0・2			
				Core English 3	1	□	2・0			
				Core English 4	1	□	0・2			
				Intermediate Discourse 1	1	□		2・0		
				Intermediate Discourse 2	1	□		0・2		
				Intermediate Communication 1	1	□		2・0		
				Intermediate Communication 2	1	□		0・2		
				資格対策英語1	1	□		2・0		
				資格対策英語2	1	□		0・2		
				Advanced Discourse 1	1	□			2・0	

		Advanced Discourse 2	1	□			0・2	
		Advanced Communication 1	1	□			2・0	
		Advanced Communication 2	1	□			0・2	
		中国語	中国語1	1	△	2・0		
			中国語2	1	△	0・2		
			中国語3	1	△		2・0	
			中国語4	1	△		0・2	
	健康・スポーツ群	健康とスポーツ	スポーツ実習1	1	△	2・0		
			スポーツ実習2	1	△	0・2		
			スポーツ実習3	1	△		(2・0)(0・2)	
		健康・スポーツ科学論	2	△		2・0		
			スポーツ文化論	2	△		0・2	
	プロジェクトスキル形成群	プロジェクト活動	プロジェクト活動スキル入門	2	○	2・0		
			プロジェクト活動演習1	1	△		2・0	
			プロジェクト活動演習2	1	△		0・2	
			キャリア設計プロジェクト実践	2	△		2・0	
	日本語活用	日本語上達法1	2	△	2・0			
		日本語上達法2	2	△	0・2			

1単位以上

必修科目2単位を含み4単位

		日本語活用法	2	△		(2・0)(0・2)			位以上
	地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動1	2	△	1・1				
	活動	地域プロジェクト活動2	2	△		1・1			
	スキルアップ	グローバル研修	2	△			2・0		
		グローバル研修(英語)	2	△			2・0		
	社会を知る	就業体験実習	2	△		2・2			
		インターンシップ	2	△			2・2		
情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0				必修科目4単位、選択科目をあわせて6単位
		コンピュータリテラシー	2	○	2・0				
		プログラミング基礎演習	2	○	0・2				

[illegible]

(注) 必選欄 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 專門教育科目

(2024年度からの教育課程)

区分		授業科目	単位 数	必選	週時間数				卒業要件 単位数
					1年次	2年次	3年次	4年次	
					前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
基礎専門科目	数学	基礎解析学1演習	2	△	4・0				必修科目6 単位、選 択科目を あわせ て、12単 位から22 単位まで
		基礎解析学2演習	2	△	0・4				
		基礎解析学3演習	2	△		4・0			
		微分方程式	2	△		0・2			
		線形代数	2	△	2・0				
		確率・統計	2	△		2・0			
		解析学	2	△			2・0		
	物理	物理学1演習	2	△	4・0				
		物理学実験	2	○	4・0				
		物理学2	2	△	0・2				
工学入門	情報通信工学入門	2	○	2・0					
	基礎電気回路	2	○	2・0					
	OECU概論2	1	△	1・0					
専門科目	通信方式	電気回路1a・演習	2	○	〈0・ 0〉・ 〈4・ 0〉				必修科目 28単位、 選択必修 科目10単 位以上、 選択科目 をあわせ て62単位 から90単
		電気回路1b・演習	2	○	〈0・ 0〉・ 〈0・ 4〉				
		基礎電磁気学1・演習	2	○	〈0・				

				0) ・ 〈4 ・ 0)			位まで
		基礎電磁気学2・演習2	2	○	〈0 ・ 0) ・ 〈0 ・ 4)		
		電気回路2	2	□		2 ・ 0	
		電子回路1	2	□		2 ・ 0	
		電磁気学1	2	□		2 ・ 0	
		計測工学	2	△		0 ・ 2	
		電子回路2	2	□		0 ・ 2	
		電磁気学2	2	□		0 ・ 2	
		パルス回路	2	△			2 ・ 0
		アンテナ工学	2	□			2 ・ 0
		伝送線路工学	2	△			0 ・ 2
		ワイヤレス通信	2	△			0 ・ 2
情報通信 ネットワ ーク	通信工学基礎	2	△	0 ・ 2			
	情報伝送工学	2	□			2 ・ 0	
	ネットワーク工学	2	△			2 ・ 0	
	光通信工学	2	△			2 ・ 0	
	デジタル伝送工学	2	△			0 ・ 2	
	ネットワーク設計	2	△			0 ・ 2	
	モバイル通信	2	△			0 ・ 2	
	光エレクトロニクス	2	△			0 ・ 2	
	電波法規	2	△				2 ・ 0
情報工学	基礎情報工学	2	□	0 ・ 2			
	コンピュータ工学	2	□		2 ・ 0		
	ソフトウェア工学	2	□		2 ・ 0		
	情報通信理論	2	△		0 ・ 2		

	コンピュータシステム	2	□		0・2		
	マルチメディア情報処理	2	△			2・0	
	符号理論	2	△			2・0	
	情報セキュリティ	2	△			0・2	
	プログラミング演習1	2	□		2・0		
	プログラミング演習2	2	□		0・2		
	プログラミング応用演習	2	□			2・0	
	Webプログラミング	2	△			0・2	
	データサイエンス基礎	2	△		2・0		
	人工知能	2	△			0・2	
実験	工学基礎実験	2	○	0・4			
	電気実験1	2	○		4・0		
	電気実験2	2	○		0・4		
	情報通信工学実験1	2	○			4・0	
	情報通信工学実験2	2	○			0・4	
その他	特別ゼミナール1	2	△	2・0			
	特別ゼミナール2	2	△		0・2		
	特別ゼミナール3	2	△			2・0	
	プレゼミナール	2	○			0・2	
	異分野協働エンジニアリング・デザイン演習	2	△			1・1	
	IoT実習	1	△				2・0
	卒業研究	8	○				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—12 総合情報学部 デジタルゲーム学科

(1) 共通科目

(2024年度からの教育課程)

区分		授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件単位 数	
					1年次	2年次	3年次	4年次		
					前 期・ 後期	前 期・ 後期	前 期・ 後期	前 期・ 後期		
人 文 ・ 社 会 ・ 自 然 群	大学の学びリ テラシー	総合教養	2	△	2・0				8単位 から 28単 位ま で 人文・ 社会・ 自然 群、外 国語 群、健 康・ス ポーツ 群、情 報基礎 群をあ わせて 14単位 から34 単位ま で	
		総合ゼミナール	2	△	2・0					
		日本語上達法1	2	△	2・0					
		社会生活と法	2	△	2・0					
		OECU概論1	1	△	1・0					
	視野を広げる	異文化の理解	2	△	0・2					
		政治学	2	△	0・2					
		発達心理学	2	△	0・2					
		現代社会と青年の 心理	2	△	2・0					
		アジアの言語と文 化	2	△	0・2					
		ヨーロッパの言語 と文化	2	△	0・2					
		大阪の文化と歴史	2	△	0・2					
		高齢者社会と医療 福祉	2	△	0・2					
		からだの科学	2	△	2・0					
	社会とつなが る	現代社会を考える	2	△	2・0					
		歴史学の世界	2	△	2・0					
		経済学の世界	2	△	2・0					
		哲学の世界	2	△	2・0					
		文学の世界	2	△	0・2					

		日本国憲法	2	△	0・2			
		教育制度論	2	△	2・0			
		ジェンダー論	2	△	0・2			
		国際コミュニケーション	2	△	2・0			
		平和学	2	△	2・0			
		日本の近代史	2	△	0・2			
		企業社会と労働	2	△	0・2			
		日本語上達法2	2	△	0・2			
		文字の文化と歴史	2	△	0・2			
	科学と技術	学術横断講座	2	△	2・0			
		研究交流講座	2	△	0・2			
外国語群	英語	Core English 1	1	△	2・0			4単位
		Core English 2	1	△	0・2			から
		Core English 3	1	△	2・0			18単
		Core English 4	1	△	0・2			位ま
		Applied English 1	1	△		2・0		で
		Applied English 2	1	△		0・2		
		Practical English 1	1	△		2・0		
		Practical English 2	1	△		0・2		
		Advanced English 1	1	△			2・0	
		Advanced English 2	1	△			0・2	
	中国語	中国語1	1	△		2・0		
		中国語2	1	△		0・2		
		中国語3	1	△			2・0	
		中国語4	1	△			0・2	
	日本語	日本語1	1	△	2・0			
		日本語2	1	△	0・2			

		日本語3	1	△	2・0				
		日本語4	1	△	0・2				
	グローバル	グローバル研修(英語)	2	△			2・0		
		グローバル研修	2	△			2・0		
健康・スポーツ群	健康とスポーツ	健康・スポーツ科学論	2	△		2・0			2単位から6単位まで
		スポーツ文化論	2	△		0・2			
		スポーツ実習1	1	△	2・0				
		スポーツ実習2	1	△	0・2				
		スポーツ実習3	1	△			[2・0] [0・2]		
情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0				0単位から2単位まで

(注) 必選欄 △：選択科目

(2) 専門教育科目 デジタルゲーム学科

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必修	週時間数				卒業要件単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
専門教育	グラフィックス3Dグラフィックス演習1	2	△	0・4				卒業研究以外必修科目20単位、卒業研究8単位、選択科
	3Dグラフィックス演習2	2	△		4・0			

科 目	クリエイション	Webデザイン演習	2	△			2・0		目をあわせて 90単位から110 単位まで
		デザイン基礎演習	2	△	2・0				
		デッサンの基礎演習	2	△	0・4				
		映像制作基礎演習	2	△		2・0			
		デッサン演習	2	△		4・0			
		表現演習1	2	△		0・4			
		映像制作演習	2	△			2・0		
		UI・UXデザイン	2	△			2・0		
		表現演習2	2	△			0・4		
		イラストレーション 演習	2	△			0・2		
		視覚表現論	2	△	0・2				
	アニメーション	アニメーション概論	2	△	2・0				
		2DCGアニメーション 演習	2	△		0・2			
		3DCGアニメーション 演習1	2	△		0・4			
		3DCGアニメーション 演習2	2	△			2・0		
		モーションデザイン 演習	2	△			4・0		
	ゲーム制作	ゲーム学	2	○	2・0				
		ゲーム制作入門演習	2	△	2・0				
		知的財産権	2	○	0・2				
		インタラクティブメ ディア概論	2	△	0・2				
		ゲーム史	2	△		2・0			
		ゲームデザイン	2	△		0・2			
		シリアスゲーム論	2	△			0・2		
		ゲームの心理学	2	△	2・0				

	ゲームの数学1	2	△	2・0			
	ゲームの数学2	2	△		2・0		
	基礎物理	2	△	2・0			
	確率・統計入門	2	△		0・2		
	ゲームと人工知能	2	△			2・0	
情報工学	コンピュータリテラシー	2	○	2・0			
	人間工学	2	△		2・0		
	プログラミングシステム論	2	△			2・0	
	ゲームセンサー論	2	△			2・0	
	情報ネットワーク	2	△		0・2		
	データサイエンス基礎	2	△		2・0		
	人工知能	2	△			0・2	
プログラミング	アルゴリズム基礎論	2	△	0・2			
	スクリプトプログラミング演習1	2	△	2・0			
	プログラミング演習1	2	△	0・2			
	プログラミング演習2	2	△		2・0		
	プログラミング演習3	2	△		0・2		
	データ構造とアルゴリズム	2	△		2・0		
	オブジェクト指向ソフトウェア開発	2	△		0・2		
	スクリプトプログラミング演習2	2	△		2・0		
	プログラミング演習4	2	△			2・0	
	ネットワークシステム	2	△			0・2	

	Webプログラミング	2	△			0・2	
	スクリプトプログラミング演習3	2	△			2・0	
マネジメント	ゲームプランニング	2	△	0・2			
	アクティブシンキング演習	2	△	2・0			
	コンテンツマーケティング	2	△		2・0		
	コンテンツマネジメント	2	△		0・2		
	ビジネスマネジメント論	2	△			2・0	
キャリア形成	大学とその学び	2	○	2・0			
	キャリアと学び	2	△	0・2			
	キャリア実践	2	○		1・1		
	インターンシップ	2	△			2・2	
	問題解決の基礎	2	△	2・0			
	ゲーム・メディア制作特論	2	△	0・2			
	コミュニケーション技法	2	△	0・2			
	キャリアプランニング	2	○		2・0		
	キャリア実践上級	2	○			1・1	
	OECU概論2	1	△	1・0			
プロジェクト	プロジェクト入門演習	2	○	0・2			
	プロジェクト演習1	2	△		2・0		
	プロジェクト演習2	2	△		0・2		
	プロジェクト演習3	2	△			2・2	

ゼミナール	特別活動A	2	△		◎・◎		
	特別活動B	2	△		◎・◎		
	プレゼミ	2	○			2・0	
	ゼミナール	2	○			0・2	
	卒業研究	8	○				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

別表第1—13 総合情報学部 ゲーム&メディア学科

(1) 共通科目

(2024年度からの教育課程)

区分		授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件単位 数	
					1年次	2年次	3年次	4年次		
					前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期		
人文・ 社会・ 自然 群	大学の学びリ テラシー	総合教養	2	△	2・0				8単位 から28 単位ま で	人文・ 社会・ 自然 群、外 国語 群、健 康・ス ポーツ 群、情 報基礎 群をあ わせて 14単位 から34 単位ま で
		総合ゼミナール	2	△	2・0					
		日本語上達法1	2	△	2・0					
		社会生活と法	2	△	2・0					
		OECU概論1	1	△	1・0					
	視野を広げる	異文化の理解	2	△	0・2					
		政治学	2	△	0・2					
		発達心理学	2	△	0・2					
		現代社会と青年の 心理	2	△	2・0					
		アジアの言語と文 化	2	△	0・2					
		ヨーロッパの言語 と文化	2	△	0・2					
		大阪の文化と歴史	2	△	0・2					
		高齢者社会と医療 福祉	2	△	0・2					

		からだの科学	2	△	2・0				
社会とつながる		現代社会を考える	2	△	2・0				
		歴史学の世界	2	△	2・0				
		経済学の世界	2	△	2・0				
		哲学の世界	2	△	2・0				
		文学の世界	2	△	0・2				
		日本国憲法	2	△	0・2				
		教育制度論	2	△	2・0				
		ジェンダー論	2	△	0・2				
		国際コミュニケーション	2	△	2・0				
		平和学	2	△	2・0				
		日本の近代史	2	△	0・2				
		企業社会と労働	2	△	0・2				
		日本語上達法2	2	△	0・2				
		文字の文化と歴史	2	△	0・2				
外国語群	英語	Core English 1	1	△	2・0				4単位から18単位まで
		Core English 2	1	△	0・2				
		Core English 3	1	△	2・0				
		Core English 4	1	△	0・2				
		Applied English 1	1	△		2・0			
		Applied English 2	1	△		0・2			
		Practical English 1	1	△		2・0			
		Practical English 2	1	△		0・2			
		Advanced English 1	1	△			2・0		
		Advanced English 2	1	△			0・2		
	中国語	中国語1	1	△		2・0			
		中国語2	1	△		0・2			

		中国語3	1	△			2・0		
		中国語4	1	△			0・2		
	日本語	日本語1	1	△	2・0				
		日本語2	1	△	0・2				
		日本語3	1	△	2・0				
		日本語4	1	△	0・2				
	グローバル	グローバル研修(英語)	2	△			2・0		
		グローバル研修	2	△			2・0		
健康・スポーツ群	健康とスポーツ	健康・スポーツ科学論	2	△		2・0			2単位から6単位まで
		スポーツ文化論	2	△		0・2			
		スポーツ実習1	1	△	2・0				
		スポーツ実習2	1	△	0・2				
		スポーツ実習3	1	△			[2・0] [0・2]		
情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0				0単位から2単位まで

(注) 必選欄 △：選択科目

(2) 専門教育科目 ゲーム&メディア学科

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位 数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・	前期・	前期・	前期・	

						後期	後期	後期	後期	
専門科目	ゲーム	ゲーム学	ゲーム学	2	△	2・0				卒業制作・研究以外必修科目18単位、卒業制作・研究8単位、選択科目をあわせて90単位から110単位まで
			ゲームの心理学	2	△	2・0				
			インタラクティブメディア概論	2	△	0・2				
			遊戯の歴史	2	△		2・0			
			知的財産権	2	○		0・2			
			ゲーム評価法演習	2	△		0・2			
			ゲームと学び・演習	2	△			2・0		
		ゲーム制作	ゲーム・メディア制作特論	2	△	0・2				
			ゲーム制作入門演習	2	△	0・2				
			ゲーム・映像シナリオ	2	△		2・0			
			ゲームビジネス	2	△		0・2			
			ゲーム制作演習	2	△			2・0		
			キャラクターデザイン演習	2	△			0・2		
			ゲームミュージック演習	2	△			0・2		
		プロデュース	プランニング入門演習	2	△	2・0				
			コンセプトメイキング	2	△		0・2			
			イベント制作概論	2	△		0・2			
			メディア論	2	△			0・2		
		マーケティング	コンテンツマーケティング演習	2	△			2・0		

		マーケティング論	2	△			2・0	
		広告デザイン	2	△			2・0	
	ライブ	ライブ配信演習1	2	△	0・2			
		ライブ配信演習2	2	△		2・0		
		ゲーム・メディア ライブ演習	2	△		0・2		
	メディアCG	3Dグラフィックス 演習1	2	△	2・0			
		3Dグラフィックス 演習2	2	△	0・2			
		2DCGアニメーショ ン演習1	2	△		2・0		
		2DCGアニメーショ ン演習2	2	△		0・2		
		3DCGアニメーショ ン演習1	2	△		0・2		
		3DCGアニメーショ ン演習2	2	△			2・0	
		モーションデザイ ン演習	2	△			4・0	
		メタバース特論	2	△			0・2	
	サウンド	音楽理論	2	△	2・0			
		サウンドデザイン 演習	2	△	0・2			
		音楽制作演習	2	△		2・0		
		映像音響演習	2	△		0・2		
	メディア表現	メディアコミュニ ケーションデザイ ン演習1	2	△	2・0			
		メディアコミュニ	2	△	0・2			

		ケーショントデザイン演習2						
		メディア表現演習	2	△		2・0		
		メディアアート演習	2	△		2・0		
		デジタルファブリケーション演習	2	△		0・2		
		先端メディア表現演習	2	△			4・0	
	映像	映像・映画概論	2	△	2・0			
		映像制作基礎演習	2	△	2・0			
		アニメーション概論	2	△	2・0			
		アニメーション技法	2	△	0・2			
		映像設計	2	△	0・2			
		映像制作演習	2	△		2・0		
	デザイン	デザイン表現デザイン基礎演習	2	△	2・0			
		グラフィックデザイン演習1	2	△	0・2			
		グラフィックデザイン演習2	2	△		2・0		
		イラストレーション演習	2	△		0・2		
		プロダクトデザイン演習	2	△			2・0	
		エディトリアルデザイン演習	2	△			2・0	
		UI・UXデザイン	2	△			0・2	
	情報デザイン	スクリプトプログ	2	△	2・0			

		ラミング入門演習						
		プログラミング演習1	2	△	0・2			
		スクリプトプログラミング演習	2	△		2・0		
		Webデザイン演習1	2	△		4・0		
		Webデザイン演習2	2	△		0・2		
		プログラミング演習2	2	△		0・2		
		アルゴリズム基礎論	2	△			2・0	
リテラシー	アートリテラシー	芸術概論	2	△	2・0			
		メディア芸術文化論	2	△	2・0			
		演劇概論	2	△	0・2			
		デッサンの基礎演習	2	△	0・4			
		クリエイティブライティング	2	△	0・2			
		物語のデザイン	2	△		2・0		
		デッサン演習	2	△		4・0		
	コミュニケーション	問題解決の基礎	2	△	2・0			
		文書処理リテラシー	2	△	0・2			
		ビジネスコミュニケーション演習	2	△		0・2		
	プロジェクト	プロジェクト演習1	2	△	0・2			
		プロジェクト演習2	2	△		0・2		
		社会プロジェクト演習	2	△			0・2	

	情報リテラシー	社会学概論	2	△		2・0		
		情報通信論	2	△		2・0		
		認知科学	2	△		0・2		
	キャリア	キャリア形成基礎	コンピュータリテラシー	2	○	2・0		
			学びとキャリア	2	○	2・0		
			仕事とキャリア	2	○	0・2		
			メディアリテラシー	2	△	0・2		
			キャリアプランニング	2	○		2・0	
			キャリア実践	2	○		0・2	
			キャリア実践上級	2	○			1・1
			インターンシップ	2	△			2・2
	ゼミナール	ゼミナール	プレゼミ	2	○			2・0
			制作・研究	2	○			0・2
			卒業制作・研究	8	○			◎・◎
	全学共通	全学共通	OECU概論2	1	△	1・0		
			データサイエンス基礎	2	△		2・0	
			人工知能	2	△			0・2
	その他	その他	特別活動	2	△		◎・◎	

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

別表第1—14 総合情報学部 情報学科

(1) 共通科目

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	コース別 必選	週時間数	卒業要件単位数

				CSコ	DM	1年次	2年次	3年次	4年次				
				ース	コー	前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	CSコ	DMコ		
				ース	ス					ース	ース		
人 文・ 社 会・ 自然 群	大学 の学 びリ テラ シー 視野 を広 げる	総合教養	2	△	△	2・0				8単	人	8単	人
		総合ゼミナール	2	△	△	2・0				位	文	位	文
		日本語上達法1	2	△	△	2・0				か	・	か	・
		社会生活と法	2	△	△	2・0				ら	社	ら	社
		OECU概論1	1	△	△	1・0				12	会	28	会
		異文化の理解	2	△	△	0・2				単	・	単	・
		発達心理学	2	△	△	0・2				位	自	位	自
		アジアの言語と文 化	2	△	△	0・2				ま	然	ま	然
		ヨーロッパの言語 と文化	2	△	△	0・2				で	群	で	群
		大阪の文化と歴史	2	△	△	0・2				、 外 国 語 群 、 健 康 ・ ス ポ ー ツ 群 、 情 報 基	、 外 国 語 群 、 健 康 ・ ス ポ ー ツ 群 、 情 報 基		
		高齢者社会と医療 福祉	2	△	△	0・2							
		からだの科学	2	△	△	2・0							
		現代社会と青年の 心理	2	△	△	2・0							
		政治学	2	△	△	0・2							
	社会 とつ なが る	現代社会を考える	2	△	△	2・0							
		歴史学の世界	2	△	△	2・0							
		経済学の世界	2	△	△	2・0							
		哲学の世界	2	△	△	2・0							
		文学の世界	2	△	△	0・2							
		日本国憲法	2	△	△	0・2							
		教育制度論	2	△	△	2・0							
		ジェンダー論	2	△	△	0・2							
		国際コミュニケー	2	△	△	2・0							

		ション									礎	礎
		平和学	2	△	△	2・0					群	群
		日本の近代史	2	△	△	0・2					を	を
		企業社会と労働	2	△	△	0・2					合	合
		日本語上達法2	2	△	△	0・2					わ	わ
		文字の文化と歴史	2	△	△	0・2					せ	せ
外国語群	英語	Core English 1	1	□a	△	2・0				選	て	4単
		Core English 2	1	□a	△	0・2				択	14	位
		Core English 3	1	□a	△	2・0				必	単	か
		Core English 4	1	□a	△	0・2				修	位	ら
		Applied English 1	1	□a	△		2・0			科	か	18
		Applied English 2	1	□a	△		0・2			□	18	単
		Practical English 1	1	□a	△		2・0			a4	単	ま
		Practical English 2	1	□a	△		0・2			単位	ま	で
	中国語	Advanced English 1	1	□a	△			2・0		、	選	
		Advanced English 2	1	□a	△			0・2		択	科	
		中国語1	1	△	△		2・0			目	を	
		中国語2	1	△	△		0・2			合	わ	
	グローバル	中国語3	1	△	△			2・0		せ	て	8
		中国語4	1	△	△			0・2		単	位	
		グローバル研修(英語)	2	△	△			2・0		ま		
		グローバル研修	2	△	△			2・0				

										で	
健康・スポーツ群	健康とスポーツ	健康・スポーツ科学論	2	△	△		2・0			2単位	2単位
		スポーツ文化論	2	△	△		0・2			から6単位	から6単位
		スポーツ実習1	1	△	△	2・0				まで	まで
		スポーツ実習2	1	△	△	0・2				まで	まで
		スポーツ実習3	1	△	△			[2・0] [0・2]		まで	まで
情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	△	2・0				0単位から2単位まで	0単位から2単位まで

(注) 必選欄 △：選択科目 □a：選択必修科目

CSコース：コンピュータサイエンスコース、DMコース：デジタルメディアコース

(2) 専門教育科目

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	コース別		週時間数				卒業要件単位数	
			必選		1年次	2年次	3年次	4年次	CSコース	DMコース
			CSコース	DMコース	前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
基礎専門	基礎解析学1演習	2	○	△	4・0				必修科目 16単位、	必修科目 2単位、
	基礎解析学2演習	2	△	△	0・4				選択必修	選択科目

門 科 目		習							科目(□	をあわせ て20～36 単位 以上、選 択科目を あわせて 20～30単 位まで
		情報数学1	2	○	△	2・0			b)4単位	
		情報数学2	2	○	△	0・2			以上、選	
		ベクトルと行列	2	○	△	2・0			択科目を	
		空間幾何	2	△	△		2・0		あわせて	
		確率・統計演習	2	○	△		2・0		20～30単	
		解析学	2	△	△			2・0	位まで	
	理科	基礎化学	2	□b	△	0・2				
		力学	2	□b	△		2・0			
		電気・電子回路	2	□b	△		0・2			
	情報	情報リテラシ演 習1	2	○	○	2・0				
		情報リテラシ演 習2	2	△	△	0・2				
		コンピュータ活 用演習	2	○	△	0・2				
		コンピュータと 社会	2	○	△	2・0				
		Linux演習	2	△	△		2・0			
		CGデザイン演 習	2	△	△	0・2				
		ウェブデザイン 演習	2	△	△		0・2			
	専情報科 門学 科 目	アルゴリズムと データ構造1	2	○	△		0・2		必修科目	
		アルゴリズムと データ構造2	2	□c	△			2・0	必修科目(□	
		プログラミング 言語論	2	○	△		0・2		c)12単位	
		情報理論	2	○	△		0・2		以上、選	
									択科目を	

	データベース	2	□c	△			2・0		あわせて	あわせて
	数値計算演習	2	△	△			0・2		80～94単	56～94単
	人工知能	2	△	△			0・2		位まで	位まで
ソフトウェア科学	C++プログラミング実習1	2	○	□d	4・0					
	C++プログラミング実習2	2	○	□d	0・4					
	C++プログラミング実習3	2	○	□d		4・0				
	C++プログラミング実習4	2	□c	△		0・4				
	プログラミング総合演習1	2	□c	□d		2・0				
	プログラミング総合演習2	2	□c	△		0・2				
	プログラミング総合演習3	2	□c	△			2・0			
	グループプログラミング演習	2	○	△		0・2				
	オブジェクト指向設計論	2	△	△				2・0		
コンピュータ工学	コンピュータアーキテクチャ1	2	○	△	0・2					
	コンピュータアーキテクチャ2	2	□c	△		2・0				
	論理回路	2	○	△		2・0				
	論理設計演習	4	□c	△		0・4				
	組み込みシステム論	2	□c	△			2・0			
	コンピュータ計	2	△	△				2・0		

	測と制御							
情報システム	情報システム実験	2	○	○		4・0		
	情報ネットワーク	2	○	△		2・0		
	ウェブプログラミング演習	2	△	△		0・2		
	オペレーティングシステム	2	○	△			2・0	
	情報セキュリティマネジメント	2	△	△			2・0	
	情報システム設計論	2	○	△			2・0	
	並列分散システム	2	△	△			0・2	
	情報システム管理理論	2	△	△			0・2	
情報メディア	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	△	△	0・2			
	CGプログラミング演習	2	△	△		0・2		
	画像情報処理	2	△	△			2・0	
	GUIデザイン演習	2	△	△			0・2	
	コンピュータモデリング手法	2	△	△			0・2	
	情報メディア論	2	△	△				2・0
	データ解析手法	2	△	△				0・2

ITキャリア形成	スタディスキル	2	○	○	1・1			
	情報学入門	2	△	△	2・0			
	テクニカルプレゼンテーション	2	○	△	0・2			
	問題解決法	2	△	△		2・0		
	ITマネジメント	2	△	△		0・2		
	エンジニアリングデザイン演習	2	○	△			2・0	
	テクニカルコミュニケーション	2	○	△			0・2	
	キャリアプランニング	2	○	○			0・2	
	IT産業論	2	○	○				2・0
	インターンシップ	2	△	△			2・2	
	OECU概論2	1	△	△	1・0			
	データサイエンス基礎	2	△	△		2・0		
ゼミ及び研究	プレゼミ	2	○	○		1・1		
	卒業研究	8	○	○			◎・◎	
	特別研究	4	△	△				◎・◎

(注) コース別必選欄 ○：必修科目 □b、□c、□d：選択必修科目 △：選択科目
総合情報学部他学科の指定された科目を専門科目の選択科目として10単位まで認定する。

CSコース：コンピュータサイエンスコース

DMコース：デジタルメディアコース

別表第1—15 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科

(1) 共通科目

(2024年度からの教育課程)

区分			授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件単位数	
						1年次	2年次	3年次	4年次		
						前期・後 期	前期・後 期	前期・後 期	前期・後 期		
共通 科目	人文・社 会・自然 群	大学 の学 びリ テラ シー	総合教養	2	△	2・0				8単 位以 上	人文・社 会・自然 群、外国語 群、健康・ スポーツ 群、プロジ ェクトスキ ル形成群、 情報基礎群 をあわせて 24単位から 36単位まで
			総合ゼミナ ール	2	△	2・0					
			社会生活と 法	2	△	2・0					
			現代社会と 青年の心理	2	△	2・0					
			OECU概論1	1	△	1・0					
		視野 を広 げる	異文化の理 解	2	△	0・2					
			政治学	2	△	0・2					
			発達心理学	2	△	0・2					
			アジアの言 語と文化	2	△	0・2					
			ヨーロッパ の言語と文 化	2	△	0・2					
		社会 とつ なが る	現代社会を 考える1	2	△	2・0					
			現代社会を 考える2	2	△	0・2					
			歴史学の世 界	2	△	2・0					
			経済学の世 界	2	△	2・0					
			哲学の世界	2	△	2・0					

			教育制度論	2	△	2・0				
			文学の世界	2	△	0・2				
			日本国憲法	2	△	0・2				
			ジェンダー論	2	△	0・2				
		世界を知る	国際コミュニケーション	2	△	2・0				
			平和学	2	△	2・0				
		日本を知る	企業社会と労働	2	△	2・0				
			日本の近代史	2	△	0・2				
			技術と倫理	2	△	0・2				
	外国語群	英語	Core English 1	1	□	2・0				選択必修科目4単位を含み、4単位以上
			Core English 2	1	□	0・2				
			Core English 3	1	□	2・0				
			Core English 4	1	□	0・2				
			Intermediate Discourse 1	1	□		2・0			
			Intermediate Discourse 2	1	□		0・2			
			Intermediate Discourse 3	1	□		2・0			

		Communication 1							
		Intermediate Communication 2	1	□		0・2			
		資格対策英語1	1	□		2・0			
		資格対策英語2	1	□		0・2			
		Advanced Discourse 1	1	□			2・0		
		Advanced Discourse 2	1	□			0・2		
		Advanced Communication 1	1	□			2・0		
		Advanced Communication 2	1	□			0・2		
	中国語	中国語1	1	△	2・0				
		中国語2	1	△	0・2				
		中国語3	1	△		2・0			
		中国語4	1	△		0・2			
健康・スポーツ群	健康・スポーツ	スポーツ実習1	1	△	2・0				1単位以上
		スポーツ実習2	1	△	0・2				
		スポーツ実習3	1	△			0・2		

		健康・スポーツ科学論	2	△	2・0			
		スポーツ文化論	2	△	0・2			
プロジェクトスキル形成群	プロジェクト	プロジェクト活動スキル入門	1	△	2・0			3単位以上
	活動	プロジェクト活動演習1	1	△	2・0			
		プロジェクト活動演習2	1	△	0・2			
		キャリア設計プロジェクト実践	1	△		2・0		
	日本語活用	日本語上達法1	2	△	2・0			
		日本語上達法2	2	△	0・2			
		日本語活用法	2	△	2・0			
	地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動1	2	△	1・1			
		地域プロジェクト活動2	2	△	1・1			
	スキルアップ	グローバル研修	2	△		2・0		
		グローバル研修(英語)	2	△		2・0		
	社会を知	インターンシップ	2	△		2・2		

	る								
情報 基礎 群	情報	AI・データ サイエンス 入門	2	△	2・0				必修 科目 2単 位を 含 み、 2単 位以 上
		コンピュー タリテラシ ー1	2	○	2・0				
		コンピュー タリテラシ ー2	2	△	0・2				
		プログラミ ング基礎演 習	2	△	0・2				

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(2024年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	必選		週時間数				卒業要件単位 数
			建 築 専 攻	空 間 デ ザ イ ン 専 攻	1年次	2年次	3年次	4年次	
					前期・後 期	前期・後 期	前期・後 期	前期・後 期	
基 礎 専 門 科 目	数学	基礎数学	2	△	△	2・0			4単位から11 単位まで
	物理	力学	2	△	△	2・0			
		物理学	2	△	△	0・2			
	建築・ デザイ ン入門	建築学入門	2	△	△	2・0			
		空間デザイン 学入門	2	△	△	2・0			

		建築構造入門	2	△	△	2・0				
		OECU概論2	1	△	△	1・0				
専 門 科 目	建築設 計実習 科 目	建築・デザイ ン設計基礎実 習	2	○	○	0・4				建築専攻：必 修科目50単 位、選択科目 あわせて、77 単位から96単 位まで 空間・デザイ ン専攻：必修 科目26単位、 選択科目あわ せて、77単位 から96単位ま で
		建築設計実習 1	4	○	○		8・0			
		建築設計実習 2	4	○	△		0・8			
		建築設計実習 3	4	△	△			8・0		
		建築・デザイ ン総合演習	4	△	△			0・4		
		建築史・都市 史1	2	△	△		2・0			
	建築計 画	建築史・都市 史2	2	△	△		0・2			
		建築史・都市 史3	2	△	△			2・0		
		建築史実習	2	△	△				4・0	
		建築計画1	2	○	△		2・0			
		建築計画2	2	○	△		0・2			
		住環境計画	2	△	△			0・2		
		都市・街並み 計画	2	△	△			2・0		
		環境デザイン 論	2	△	△			0・2		
	建築環 境	建築環境工学 1	2	○	△	0・2				
		建築環境工学	2	△	△		2・0			

	2						
	建築環境工学 実習	2	△	△		0・4	
建築設 備	建築設備1	2	○	△		0・2	
	建築設備2	2	△	△		2・0	
建築構 造	建築構造力学 1	2	○	△	0・2		
	建築構造力学 2	2	○	△		2・0	
	建築構造力学 3	2	△	△		0・2	
	建築構造力学 4	2	△	△		2・0	
建築一 般構造	建築構造1	2	○	△		0・2	
	建築構造2	2	○	△		2・0	
	建築構造3	2	○	△		0・2	
建築材 料	建築材料・構 成概論	2	○	△	2・0		
	建築材料・構 造実験	2	△	△		4・0	
建築生 産	建築生産1	2	○	△		2・0	
	建築生産2	2	△	△		0・2	
	建築経済	2	△	△		0・2	
建築法 規	建築法規	2	○	△		2・0	
建築実 務	建築技術者倫 理	2	△	△		0・2	
空間デ ザイン	空間デザイン 概論	2	△	○	2・0		
	建築都市デザ	2	△	△		0・2	

	イン						
	インテリアデザイン概論	2	△	△		2・0	
	インテリアデザイン実践	2	△	△		0・2	
	ランドスケープデザイン	2	△	△			2・0
	建築プロジェクトデザイン	2	△	△			0・2
アート & デザイン	基礎造形	2	△	○	2・0		
	空間芸術表現論	2	△	△		0・2	
	デッサン実習	2	△	○	4・0		
	デザイン概論	2	△	△	2・0		
	デザイン基礎演習	2	△	△	0・2		
機能デザイン	自然災害概論	2	△	△	0・2		
	都市環境の設備1	2	△	△		0・2	
	都市環境の設備2	2	△	△			2・0
	住環境設備実験	2	△	△			0・4
	空間環境デザイン1	2	△	△	0・2		
	空間環境デザイン2	2	△	△		2・0	
	構造デザイン総論	2	△	△		2・0	
デジタ	デジタル空間	2	△	△		2・0	

デザイン	の表現							
	コンピュータ製図実習	1	△	△		2・0		
	コンピュータショナルデザイン	2	△	△		2・0		
	サイバー空間創成	2	△	△		0・2		
	行動シミュレーション	2	△	△			0・2	
	Building Information Modeling	2	△	△			2・0	
	データ空間表現の情報技術	2	△	△	0・2			
	デザイン社会データ分析	2	△	△		2・0		
	空間シミュレーション	2	△	△			0・2	
	建築空間DX	2	△	△			2・0	
	都市空間DX	2	△	△			2・0	
	構造シミュレーション	2	△	△				2・0
	空間情報数理	2	△	△				2・0
データサイエンス その他	データサイエンス基礎	2	△	△		2・0		
	人工知能	2	△	△			0・2	
	特別ゼミナール1	2	△	△		2・0		
	特別ゼミナール	2	△	△		0・2		

	ル2						
	建築・デザイン ンプレゼミナ ール1	2	○	○		0・2	
	建築・デザイン ンプレゼミナ ール2	2	○	○		2・0	
	建築・デザイン ンプレゼミナ ール3	2	○	○		0・2	
	卒業研究	8	○	○			◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

別表第2 教職課程

(1) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部電気電子工学科

(2024年度からの教育課程)

免許教 科	免許法施行規則に定 める科目区分等		授業科目	単 位 数	必 選	週時間数			
						1年次	2年次	3年次	4年次
						前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期
数学	教科に関 する専門 的事項	代数学	代数学1	2	○		0・2		
			代数学2	2	△			2・0	
		幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
			幾何学2	2	△			0・2	
	各教科の指導法(情 報通信技術の活用を 含む。)		数学科教育法1	2	○		2・0		
			数学科教育法2	2	○		0・2		
			数学科教育法3　＊	2	△			2・0	
			数学科教育法4　＊	2	△			0・2	
工業	教科に関 する専門 的事項	職業指導	職業指導	2	○		2・0		

	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		工業科教育法1	2	○		2・0		
			工業科教育法2	2	○		0・2		
情報	教科に関する専門的事項	情報社会(職業に関する内容を含む。）・情報倫理	情報と職業	2	○		0・2		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		情報科教育法1	2	○		2・0		
			情報科教育法2	2	○		0・2		

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(2) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部電子機械工学科

(2022年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
						1年次	2年次	3年次	4年次
						前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	教科に関する専門的事項	代数学	代数学1	2	○		0・2		
			代数学2	2	△			2・0	
		幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
			幾何学2	2	△			0・2	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法1		2	○		2・0		
		数学科教育法2		2	○		0・2		
		数学科教育法3 *		2	△			2・0	
		数学科教育法4 *		2	△			0・2	
工業	教科に関する専門的事項	職業指導	職業指導	2	○		2・0		

	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法1	2	○		2・0		
		工業科教育法2	2	○		0・2		

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) ＊印の授業科目は、中一種必修とする。

(3) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部機械工学科

(2024年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
						1年次	2年次	3年次	4年次
						前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	教科に関する専門的事項	代数学	代数学1	2	○		0・2		
			代数学2	2	△			2・0	
		幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
			幾何学2	2	△			0・2	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		数学科教育法1	2	○		2・0		
			数学科教育法2	2	○		0・2		
			数学科教育法3 ＊	2	△			2・0	
			数学科教育法4 ＊	2	△			0・2	
工業	教科に関する専門的事項	職業指導	職業指導	2	○		2・0		
		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		工業科教育法1	2	○		2・0	
	工業科教育法2			2	○		0・2		
技術	教科に関する専門的事項	材料加工(実習を含む。)	木材加工	2	△		2・0		
			生物育成	栽培	2	○		2・0	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		技術科教育法1	2	○		2・0		

	報通信技術の活用を含む。)	技術科教育法2	2	○		0・2		
		技術科教育法3	2	○		2・0		
		技術科教育法4	2	○		0・2		

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(4) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部基礎理工学科

(2024年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定める科目区分等	授業科目	単位数	必選	週時間数			
					1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法1	2	○		2・0		
		数学科教育法2	2	○		0・2		
		数学科教育法3 *	2	△			2・0	
		数学科教育法4 *	2	△			0・2	
理科	教科に関する専門的事項「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」	地学実験 *	1	△		2・0		
		理科教育法1	2	○		2・0		
		理科教育法2 *	2	△		0・2		
		理科教育法3	2	○		0・2		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	理科教育法4 *	2	△			0・2	

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(注3) 「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」は、中一種においては、物理学実験・化学実験・生物実験・地学実験に読み替える。

(5) 削除

(6) 教科及び教科の指導法に関する科目 健康情報学部健康情報学科

(2025年度からの教育課程)

免許教科 科	免許法施行規則に定 める科目区分等		授業科目	必選	週時間数			
					1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後 期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・後 期
数学	教科に 関する 専門的 事項	代数学	代数学Ⅰ	○		0・2		
			代数学Ⅱ	△			2・0	
		幾何学	幾何学Ⅰ	○		2・0		
			幾何学Ⅱ	△			0・2	
	各教科の指導法(情報 通信技術の活用を含 む。)		数学科教育法Ⅰ	○		2・0		
			数学科教育法Ⅱ	○		0・2		
			数学科教育法Ⅲ＊	△			2・0	
			数学科教育法Ⅳ＊	△			0・2	
工業	教科に 関する 専門的 事項	職業指導	職業指導	○		2・0		
	各教科の指導法(情報 通信技術の活用を含 む。)		工業科教育法Ⅰ	○		2・0		
			工業科教育法Ⅱ	○		0・2		
保健 体育	各教科の指導法(情報 通信技術の活用を含 む。)		保健体育科教育法Ⅰ	○		2・0		
保健体育科教育法Ⅱ			○		0・2			
保健体育科教育法Ⅲ＊			△			2・0		
保健体育科教育法Ⅳ＊			△			0・2		

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(7) 削除

(8) 教科及び教科の指導法に関する科目 情報通信工学部情報工学科

(2024年度からの教育課程)

免許教科	免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
						1年次	2年次	3年次	4年次
						前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	教科に関	代数学	代数学1	2	○		0・2		

	する専門 的事項		代数学2	2	△		2・0	
		幾何学	幾何学1	2	○	2・0		
			幾何学2	2	△		0・2	
	各教科の指導法(情 報通信技術の活用を 含む。)		数学科教育法1	2	○	2・0		
			数学科教育法2	2	○	0・2		
			数学科教育法3 *	2	△		2・0	
			数学科教育法4 *	2	△		0・2	
工業	教科に関 する専門 的事項	職業指導	職業指導	2	○	2・0		
	各教科の指導法(情 報通信技術の活用を 含む。)		工業科教育法1	2	○	2・0		
			工業科教育法2	2	○	0・2		
情報	教科に関 する専門 的事項	情報社会 (職業に関 する内容を 含む。)・ 情報倫理	情報と職業	2	○	0・2		
	各教科の指導法(情 報通信技術の活用を 含む。)		情報科教育法1	2	○	2・0		
			情報科教育法2	2	○	0・2		

(注1) 必修欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(9) 教科及び教科の指導法に関する科目 情報通信工学部通信工学科

(2024年度からの教育課程)

免許教 科	免許法施行規則に定 める科目区分等	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数			
					1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期
数学	教科に関	代数学	代数学1	2	○	0・2		

	する専門 的事項		代数学2	2	△		2・0	
		幾何学	幾何学1	2	○		2・0	
			幾何学2	2	△		0・2	
	各教科の指導法(情 報通信技術の活用を 含む。)		数学科教育法1	2	○		2・0	
			数学科教育法2	2	○		0・2	
			数学科教育法3　＊	2	△		2・0	
			数学科教育法4　＊	2	△		0・2	
工業	教科に関 する専門 的事項	職業指導	職業指導	2	○		2・0	
	各教科の指導法(情 報通信技術の活用を 含む。)		工業科教育法1	2	○		2・0	
		工業科教育法2	2	○		0・2		
情報	教科に関 する専門 的事項	情報社会 (職業に関 する内容を 含む。)・ 情報倫理	情報と職業	2	○		0・2	
	各教科の指導法(情 報通信技術の活用を 含む。)		情報科教育法1	2	○		2・0	
			情報科教育法2	2	○		0・2	

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(10) 削除

(11) 教科及び教科の指導法に関する科目 総合情報学部情報学科

(2024年度からの教育課程)

免許教 科	免許法施行規則に定 める科目区分等	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数			
					1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期

数学	教科に関する事項	代数学	代数学1	2	○		0・2		
			代数学2	2	△			2・0	
		幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
			幾何学2	2	△			0・2	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法1	2	○		2・0			
		数学科教育法2	2	○		0・2			
		数学科教育法3 *	2	△			2・0		
		数学科教育法4 *	2	△			0・2		
情報	教科に関する事項	情報社会(職業に関する内容を含む。) 情報倫理	情報と職業	2	○		0・2		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	情報科教育法1	2	○		2・0			
		情報科教育法2	2	○		0・2			

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(12) 教育の基礎的理解に関する科目等

工学部、情報通信工学部、医療健康科学部、総合情報学部

(2024年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
科目	各科目に含めることが必要な事項				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2	○		2・0		
	教職の意義及び	教職論	2	○		0・2		

	教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)						
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2	○		0・2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○		2・0	
		発達心理学	2	△	0・2		
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別ニーズ教育の基礎と方法	2	○		2・0	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	○			0・2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法 *	2	△		2・0	
	総合的な探究の時間の指導法	教育方法技術論と総合的な学習の時間の指導法	2	○		2・0	
	教育の方法及び技術						
	情報通信技術を	情報通信技術活用論	2	○			2・0

等に関する科目	活用した教育の理論及び方法						
	特別活動の指導法	特別活動指導法	2	○		0・2	
	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論	2	○		0・2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2	○		0・2	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習1	2	○			2・2
		教育実習2 *	2	△			2・2
		事前・事後指導	1	○			1・1
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	○			0・2

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(注3) 総合的な探究の時間の指導法は、中一種においては、総合的な学習の時間の指導法に読み替える。

健康情報学部

(2025年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
科目	各科目に含めることが必要な事項				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2	○		2・0		
	教職の意義及び教員の役割・職	教職論	2	○		0・2		

	務内容(チーム学校運営への対応を含む。)						
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論	2	○		0・2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	○		2・0	
		発達心理学	2	△	0・2		
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別ニーズ教育の基礎と方法	2	○		2・0	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	○			0・2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法 *	2	△		2・0	
	総合的な学習の時間の指導法	教育方法技術論と総合的な学習の時間の指導法	2	○		2・0	
	教育の方法及び技術						
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	情報通信技術活用論	2	○			2・0
	特別活動の指導法	特別活動指導法	2	○		0・2	
	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論	2	○			0・2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識	教育相談	2	○			0・2

	を含む。)の理論及び方法						
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習1	2	○			2・2
		教育実習2 *	2	△			2・2
		事前・事後指導	1	○			1・1
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	○			0・2

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(13) 大学が独自に設定する科目

(2019年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等	授業科目	単位数	必選	週時間数			
				1年次	2年次	3年次	4年次
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
大学が独自に設定する科目	介護等体験指導*	1	△			2・0	

(注1) 必選欄 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

別表第3 進級・卒業要件一覧表

(1) 工学部 電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科

(2024年度からの教育課程)

区分	卒業要件単位数			
	学科	電気電子工学科	電子機械工学科	機械工学科
共通科目	人文・社会・自然群	8～14単位	6～16単位	6～16単位
	外国語群	選択必修科目	4～8単位	—
		選択科目	0～4単位	3～12単位
		計	4～12単位	3～12単位
	健康・スポーツ群	1～5単位	2～5単位	2～7単位

		プロジェクトスキル形成群	必修科目	2単位	2単位	—
			選択科目	2～15単位	2～14単位	2～14単位
			計	4～17単位	4～16単位	2～14単位
			情報基礎群	必修科目	4単位	4単位
			選択科目	0～4単位	0～4単位	0～8単位
			計	4～8単位	4～8単位	4～12単位
		計			22～42単位	19～40単位
専門教育科目	基礎専門科目	必修科目		8単位	3単位	6単位
		選択科目		6～22単位	11～29単位	8～17単位
		計		14～30単位	14～30単位	14～23単位
	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位		
			卒業研究以外	32単位	16単位	25単位
		選択必修科目		4～10単位	—	□A 4～7単位 □B 4～16単位 □C 14～20単位 □D 8～18単位
		選択科目		16～40単位	40～64単位	0～4単位
		特別選択科目		0～10単位	0～10単位	0～10単位
		計		68～88単位	64～88単位	68～82単位
		合計		124単位		

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。

	2 卒業要件単位数のうち、94単位以上を修得していること。 3 次の授業科目の単位を修得していること。 電気電子工学科：工学基礎実験 2単位、電気電子工学実験1 2単位、プレゼミナール 2単位 電子機械工学科：(授業科目、単位の指定はない。) 機械工学科：(授業科目、単位の指定はない。)
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

グローバル研修

グローバル研修(英語)

就業体験実習

インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習及びゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

(2) 工学部 基礎理工学科

(2024年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数		
			数理科学専攻	環境化学専攻	
共通科目	人文・社会・自然群		6～26単位		
	外国語群	選択必修科目	2～14単位		
		選択科目	0～4単位		
		計	3～16単位		
	健康・スポーツ群		2～6単位		
	プロジェクトスキル形成群		2～10単位		
	情報基礎群	必修科目	2単位		
		選択科目	0～6単位		
		計	2～8単位		
	計		24～36単位		
専門科目	基礎専門科目	必修科目	2単位		
		選択科目	10～20単位		
		計	12～22単位		
	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位	8単位
			卒業研究以外	6単位	4単位
		選択必修科目		☐ a 4～18単位 ☐ b 4～16単位 ☐ c 4～20単位 ☐ d 2～4単位	☐ e 4～8単位
		選択科目		8～50単位	36～72単位
		特別選択科目		0～10単位	0～10単位
		計		66～88単位	
		合計	124単位		

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。

	2 卒業要件単位数のうち、94単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習及びゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

(3) 健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻

(2025年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数
共通科目	必修科目		2単位
	選択必修科目a		1～ 6単位
	選択科目		17～31単位
	計		20～34単位
専門教育科目	必修科目	卒業研究	8単位
		卒業研究以外	6単位
	選択必修科目b		6～16単位

	選択必修科目c	6～12単位
	選択科目	64～78単位
	計	90～104単位
合計		124単位

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち94単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

国家試験受験資格取得に必要な指定科目

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教職に関する科目のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、専門教育科目の実習科目の履修は認めない。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、専門教育科目で実習科目の履修は認めない。な

お、プレゼミは履修登録すること。

③ 上記①、②とも、低学年配当の必修科目を優先して履修する。

(4) 健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻

(2025年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数
共通科目	必修科目		2単位
	選択必修科目a		1～ 6単位
	選択科目		17～21単位
	計		20～24単位
専門教育科目	必修科目	卒業研究	8単位
		卒業研究以外	72単位
	選択必修科目b		20～24単位
	選択科目		0～ 4単位
	計		100～104単位
	合計		124単位

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	休学・停学期間を除き3年以上在学していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

国家試験受験資格取得に必要な指定科目

(注2) 留年生に対する特例措置

① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

③ 上記①、②とも、低学年配当の必修科目を優先して履修する。

(5) 健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻

(2025年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数
共通科目	必修科目		8単位
	選択必修科目a		1～ 6単位
	選択科目		11～25単位
	計		20～34単位
専門教育科目	必修科目	卒業研究	8単位
		卒業研究以外	5単位
	選択必修科目b		2～ 4単位
	選択科目		75～89単位
	計		90～104単位
	合計		124単位

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち94単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単

位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。
 なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教職に関する科目のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ③ 上記①②とも、低学年配当の必修科目を優先に履修する。

(6) 情報通信工学部 情報工学科

(2024年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数
共通科目	人文・社会・自然群		4～16単位
	外国語群	選択必修科目	4～8単位
		選択科目	0～4単位
		計	4～12単位
	健康・スポーツ群		3～5単位
	プロジェクトスキル形成群		2～10単位
	情報基礎群	必修科目	2単位
		選択科目	0～4単位
		計	2～6単位
	計		22～30単位
専門教	基礎専門科目	必修科目	18単位

育科目			選択科目	4～22単位
			計	22～40単位
	専門科目	情報工学	必修科目	6単位
			選択科目	8～20単位
		情報工学以外	必修科目	2単位
			選択科目	30～54単位
		卒業研究	必修科目	8単位
		特別選択科目		0～10単位
		計		54～80単位
合計			124単位	

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち、94単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

グローバル研修

グローバル研修(英語)

就業体験実習

インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習、ゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

(7) 情報通信工学部 通信工学科

(2024年度からの教育課程)

区分				卒業要件単位数
共通科目		人文・社会・自然群		2～14単位
		外国語群	選択必修科目	4～8単位
			選択科目	0～4単位
			計	4～12単位
		健康・スポーツ群		1～5単位
		プロジェクトスキル形成群	必修科目	2単位
			選択科目	2～12単位
			計	4～12単位
		情報基礎群	必修科目	4単位
			選択科目	0～2単位
			計	4～6単位
		計		22～40単位
		専門教育科目	基礎専門科目	必修科目
選択科目				6～16単位
計				12～22単位
専門科目	必修科目		卒業研究	8単位
			卒業研究以外	20単位
	選択必修科目		10～28単位	

	選択科目	14～41単位
	特別選択科目	0～10単位
	計	62～90単位
合計		124単位

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 各履修プログラムの卒業要件単位数のうち94単位以上を修得していること。
卒業要件	1 休学・停学期間を除き4年以上在学していること。 2 各履修プログラムの卒業要件単位数124単位以上をいずれかの履修プログラムにおいて修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

グローバル研修

グローバル研修(英語)

就業体験実習

インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習、ゼ

ミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、自学科主任の許可及び科目担当教員の受講許可を必要とする。

(8) 総合情報学部 デジタルゲーム学科

(2024年度からの教育課程)

区分	卒業要件単位数		
共通科目	人文・社会・自然群		8～28単位
	外国語群		4～18単位
	健康・スポーツ群		2～6単位
	情報基礎群		0～2単位
	計		14～34単位
専門教育科目	必修科目	卒業研究	8単位
		卒業研究以外	20単位
	選択科目		62～82単位
	計		90～110単位
	合計		

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	休学・停学期間を除き2年以上在学していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位94単位以上を修得していること。
卒業要件	1 休学・停学期間を除き4年以上在学していること。 2 卒業要件単位数 124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

インターンシップ

(注2) 他学科履修

総合情報学部他学科専門科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として10単位まで履修することができる。

(9) 総合情報学部 ゲーム&メディア学科

(2024年度からの教育課程)

区分	卒業要件単位数		
共通科目	人文・社会・自然群		8～28単位
	外国語群		4～18単位
	健康・スポーツ群		2～6単位
	情報基礎群		0～2単位
	計		14～34単位
専門教育科目	必修科目	卒業制作・研究	8単位
		卒業制作・研究以外	18単位
	選択科目		64～84単位
	計		90～110単位
	合計		

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	休学・停学期間を除き2年以上在学していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位94単位以上を修得していること。
卒業要件	1 休学・停学期間を除き4年以上在学していること。 2 卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

インターンシップ

(注2) 他学科履修

総合情報学部他学科専門科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として10単位まで履修することができる。

(10) 総合情報学部 情報学科

(2024年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数	
		CSコース (コンピュータサイエンスコース)	DMコース (デジタルメディアコース)
共通科目	人文・社会・自然群	8～12単位	8～28単位
	外国語群	選択必修科目 □a 4～8単位	—
		選択科目 0～4単位	—
		合計 4～8単位	4～18単位
	健康・スポーツ群	2～6単位	2～6単位
	情報基礎群	0～2単位	0～2単位
	計	14～18単位	14～34単位
基礎専門科目	必修科目	16単位	2単位
	選択必修科目	□b 4～6単位	—
	選択科目	0～12単位	18～34単位
	計	20～30単位	20～36単位
専門科目	必修科目	48単位	18単位
	選択必修科目	□c 12～20単位	□d 4～8単位
	選択科目	12～34単位	30～72単位
	計	80～94単位	56～94単位
合計		124単位	124単位

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 CSコース又はDMコースのいずれかの卒業要件単位数が90単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業時に所属コースの卒業要件単位数124単位以上を修得していること。(なお4年次途中でのコース変更は認めない。)

(注1) 履修制限

- ① 一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
インターンシップ

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教育の基礎的理解に関する科目等のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

- ② 卒業研究に着手している期間、3年次の授業時間割に編成された卒業研究の時間において、次の科目を除き授業を履修することはできない。

(a) スタディスキル、C++プログラミング実習1、C++プログラミング実習2、情報システム実験、キャリアプランニング、IT産業論

(b) 教職課程における免許取得上の必修科目

(注2) 留年生に対する特例措置

留年したことのある3年次生は、4年次配当科目を履修することができる。また、卒業要件を満たした場合、卒業することができる。

(注3) 卒研着手条件

3年次生以上で、かつ「プレゼミ」の科目に合格していること。

(注4) 他学科履修

4年次生は、総合情報学部他学科の開講科目の中で、学科で指定された科目を同一年度に10単位まで履修することができる。なお、合格した場合は専門科目の選択科目(△)として単位認定する。

(11) 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科

(2024年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数	
			建築専攻	空間デザイン専攻
共通科目	人文・社会・自然群		8～24単位	
	外国語群	選択必修科目	4～8単位	
		選択科目	0～4単位	
		計	4～12単位	
	健康・スポーツ群		1～5単位	
	プロジェクトスキル形成群		3～14単位	
	情報基礎群	必修科目	2単位	
		選択科目	0～6単位	
		計	2～8単位	
	計		24～36単位	
専門教育科目	基礎科目	選択科目	4～11単位	
	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位
			卒業研究以外	18単位
	専門科目	選択科目		23～49単位
		特別選択科目		0～10単位
		計		77～96単位
	合計		124単位	

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。

3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち、94単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
インターンシップ

(注2) 特別選択科目による他学科専門科目の履修について

自身の所属する学科に無い、他学科の学科専門科目のうち、実験、実習、演習、ゼミナール関連科目を除く授業科目について履修することができ、特別選択科目として10単位まで単位認定される。ただし、2年次生以上でかつ在籍年次より下の年次に配当されている授業科目を履修できることとする。また、科目担当教員の受講許可を必要とする。

学則 変更事項を記載した書類

この法人は、この度、健康情報学部健康情報学科を新たに設置することとなったので、これに伴い、同時期に廃止及び収容定員変更する学科に関連する内容と併せて、学則を次のとおり変更する。

1. 第3条第1項において、「医療健康科学部、医療科学科、理学療法学科、健康スポーツ科学科」から「健康情報学部、健康情報学科」へ変更する。

（事由）2025年4月から健康情報学部、健康情報学科を設置し、同時に医療健康科学部を募集停止するため。

2. 第4条において、設置、募集停止及び入学定員・3年次編入定員・収容定員変更を行う学科の定員を次のとおり改める。

学部学科名	改正対象	改正前	改正後
医療健康科学部医療科学科	入学定員	80名	0名
	3年次編入学定員	1名	0名
	収容定員	322名	0名
医療健康科学部理学療法学科	入学定員	40名	0名
	収容定員	160名	0名
医療健康科学部健康スポーツ科学科	入学定員	70名	0名
	3年次編入学定員	1名	0名
	収容定員	282名	0名
健康情報学部健康情報学科	入学定員	0名	165名
	3年次編入学定員	0名	2名
	収容定員	0名	664名
総合情報学部デジタルゲーム学科	入学定員	140名	153名
	3年次編入学定員	1名	1名
	収容定員	562名	614名
総合情報学部ゲーム＆メディア学科	入学定員	110名	122名
	収容定員	440名	488名

（事由）2025年4月から健康情報学部、健康情報学科を設置し、同時に医療健康科学部を募集停止するため。

3. 第26条第2項において、「医療健康科学部、医療科学科 学士（工学）、理学療法学

科 学士(理学療法学)、健康スポーツ科学科 学士(健康科学)」を削除し、「健康情報学部健康情報学科、医療工学専攻 学士(工学)、理学療法学専攻 学士(理学療法学)、スポーツ科学専攻 学士(スポーツ科学)」を加える。

(事由) 2025 年 4 月より、健康情報学部健康情報学科を設置するため。

4. 第 27 条において、本学において取得することができる教育職員免許状の種類から、「医療健康科学部医療科学科」を「健康情報学部健康情報学科 医療工学専攻」へ、「医療健康科学部健康スポーツ科学科」を「健康情報学部健康情報学科 スポーツ科学専攻」へ改める。

(事由) 2025 年 4 月より、健康情報学部健康情報学科を設置するため。

5. 附則として、次の附則を加える。

- 1 この学則は、2025 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 4 条に規定する収容定員は、2025 年度から 2027 年度までの間、次のとおりとする。
(定員の一覧 略)
- 3 改正後の第 26 条及び第 27 条の規定にかかわらず、2024 年度以前に入学した者、2025 年度に 2 年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2026 年度に 3 年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び 2027 年度に 4 年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。
- 4 改正後の別表第 4 の規定にかかわらず、2024 年度以前に入学した者は、従前の当該規定を適用する。
- 5 改正後の別表第 4 の規定にかかわらず、2025 年度に 2 年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2026 年度に 3 年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び 2027 年度に 4 年次に編入学又は再入学した者の入学金及び学費は次の通りとする。
(入学金及び学費の一覧 略)

(事由) 施行日及び完成年度までの移行措置を、明確にするため。

6. 別表第4（入学金及び学費）の医療健康科学部学部の入学金、学費等を削除し、健康情報学部健康情報学科の入学金、学費等の内容を加える。

（事由）2025年4月より、健康情報学部健康情報学科を設置するため。

以上

大阪電気通信大学学則の一部改正

【改正の趣旨】

・健康情報学部設置

改正案	現行
○大阪電気通信大学学則 昭和36年4月1日 制定 第1章 総則 (名称) 第1条 本大学は、大阪電気通信大学(以下「本学」という。)と称する。 (目的) 第2条 本学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき専門の学術を教授研究し、知的並びに道徳的な完成を期し、更に応用能力を展開させ得る人材の育成を目的とする。 (自己点検評価等) 第2条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。	○大阪電気通信大学学則 昭和36年4月1日 制定 第1章 総則 (名称) 第1条 本大学は、大阪電気通信大学(以下「本学」という。)と称する。 (目的) 第2条 本学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき専門の学術を教授研究し、知的並びに道徳的な完成を期し、更に応用能力を展開させ得る人材の育成を目的とする。 (自己点検評価等) 第2条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

大阪電気通信大学学則の一部改正（案）について

(学部及び学科)

第3条 本学に次の学部及び学科をおく。

学部	学科
工学部	電気電子工学科 電子機械工学科 機械工学科 基礎理工学科
健康情報学部	健康情報学科
情報通信工学部	情報工学科 通信工学科
総合情報学部	デジタルゲーム学科 ゲーム&メディア学科 情報学科
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科

2 前項各学部及び学科の人材の養成に関する目的は、大阪電気通信大学学部規則(以下「学部規則」という。)に定める。

(機構)

第3条の2 本学に各学部学科と連携し専門力及び社会人基礎力教育の検討及び実施のため共通教育機構をおく。

(大学院)

(学部及び学科)

第3条 本学に次の学部及び学科をおく。

学部	学科
工学部	電気電子工学科 電子機械工学科 機械工学科 基礎理工学科
医療健康科学部	医療科学科 理学療法学科 健康スポーツ科学科
情報通信工学部	情報工学科 通信工学科
総合情報学部	デジタルゲーム学科 ゲーム&メディア学科 情報学科
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科

2 前項各学部及び学科の人材の養成に関する目的は、大阪電気通信大学学部規則(以下「学部規則」という。)に定める。

(機構)

第3条の2 本学に各学部学科と連携し専門力及び社会人基礎力教育の検討及び実施のため共通教育機構をおく。

(大学院)

第3条の3 本学に大学院をおく。

2 大学院の学則は、別に定める。

(附属施設及び機関)

第3条の4 本学に図書館、国際交流センター、メディアコミュニケーションセンター、エレクトロニクス基礎研究所、メカトロニクス基礎研究所、情報学研究所、先端マルチメディア合同研究所、衛星通信研究施設、研究連携推進センター、地域連携推進センター、ICT社会教育センター、教育開発推進センター、総合学生支援センター、実験センター、課外活動支援センター、医務室その他の附属施設及び機関を置く。

2 附属施設及び機関に関する事項は、各規則に定める。

(収容定員)

第4条 学部及び学科の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80名	—	320名
	電子機械工学科	80名	—	320名
	機械工学科	90名	—	360名
	基礎理工学科	86名	—	344名
	小計	336名	—	1,344名
健康情報学部	健康情報学科	165名	2名	664名

第3条の3 本学に大学院をおく。

2 大学院の学則は、別に定める。

(附属施設及び機関)

第3条の4 本学に図書館、国際交流センター、メディアコミュニケーションセンター、エレクトロニクス基礎研究所、メカトロニクス基礎研究所、情報学研究所、先端マルチメディア合同研究所、衛星通信研究施設、研究連携推進センター、地域連携推進センター、ICT社会教育センター、教育開発推進センター、総合学生支援センター、実験センター、課外活動支援センター、医務室その他の附属施設及び機関を置く。

2 附属施設及び機関に関する事項は、各規則に定める。

(収容定員)

第4条 学部及び学科の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80名	—	320名
	電子機械工学科	80名	—	320名
	機械工学科	90名	—	360名
	基礎理工学科	86名	—	344名
	小計	336名	—	1,344名
医療健康科学部	医療科学科	80名	1名	322名
	理学療法学科	40名	—	160名

情報通信工学部	情報工学科	160名	—	640名
	通信工学科	80名	—	320名
	小計	240名	—	960名
総合情報学部	デジタルゲーム学科	<u>153名</u>	1名	<u>614名</u>
	ゲーム&メディア学科	<u>122名</u>	—	<u>488名</u>
	情報学科	90名	—	360名
	小計	<u>365名</u>	1名	<u>1,462名</u>
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	150名	—	600名
合計		1,256名	3名	5,030名

(修業年限及び在学年限)

第5条 学部の修業年限は4年とする。

2 学生は8年を超えて在学することはできない。

3 前2項の規定にかかわらず、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する学生(以下「長期履修学生」という。)がその旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

4 長期履修学生の申し出は、入学時に行うものとする。

第2章 学年、学期及び休業日

(学年)

	健康スポーツ科学科	<u>70名</u>	<u>1名</u>	<u>282名</u>
	小計	<u>190名</u>	<u>2名</u>	<u>764名</u>
情報通信工学部	情報工学科	160名	—	640名
	通信工学科	80名	—	320名
	小計	240名	—	960名
総合情報学部	デジタルゲーム学科	<u>140名</u>	1名	<u>562名</u>
	ゲーム&メディア学科	<u>110名</u>	—	<u>440名</u>
	情報学科	90名	—	360名
	小計	<u>340名</u>	1名	<u>1,362名</u>
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	150名	—	600名
合計		1,256名	3名	5,030名

(修業年限及び在学年限)

第5条 学部の修業年限は4年とする。

2 学生は8年を超えて在学することはできない。

3 前2項の規定にかかわらず、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する学生(以下「長期履修学生」という。)がその旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

4 長期履修学生の申し出は、入学時に行うものとする。

第2章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は4月1日に始まり翌年の3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

2 学長は、前項に定める前期の終期及び後期の始期を変更することができる。

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(3) 本学の創立記念日 10月1日

(4) 夏期休業日 8月1日から9月30日まで

(5) 冬期休業日 12月24日から翌年1月7日まで

2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合には休業日に授業を行うことがある。

3 学長は必要な場合、学部教授会の議を経て、休業日を臨時に変更し、又は第1項に定めるもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 入学、退学、休学、転部及び転科

(入学の時期)

第6条 学年は4月1日に始まり翌年の3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

2 学長は、前項に定める前期の終期及び後期の始期を変更することができる。

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(3) 本学の創立記念日 10月1日

(4) 夏期休業日 8月1日から9月30日まで

(5) 冬期休業日 12月24日から翌年1月7日まで

2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合には休業日に授業を行うことがある。

3 学長は必要な場合、学部教授会の議を経て、休業日を臨時に変更し、又は第1項に定めるもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 入学、退学、休学、転部及び転科

(入学の時期)

第9条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学資格)

第10条 本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (8) 本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学の出願)

第9条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学資格)

第10条 本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (8) 本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学の出願)

第11条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて指定の期日までに提出しなければならない。

2 入学検定料については、別に定める。

(入学者の選考)

第12条 前条の入学志願者については、選考により入学を許可すべき者を決定する。

2 前項の選考の方法及び基準は、運営会議の議を経て学長が定める。

(入学手続及び入学許可)

第13条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定の期日までに、誓約書その他本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学金及び学費を納付しなければならない。

2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

3 前項により入学を許可された者は、入学式に出席し、かつ入学の宣誓をしなければならない。

(編入学、再入学)

第14条 本学に編入学を志願する者があるときは、編入学定員の範囲において、又は、編入学定員のない学科においては欠員のある場合に限る、選考のうえ入学を許可する。

2 本学に再入学を志願する者があるときは、選考のうえ入学を許可する。

3 編入学及び再入学について必要な事項は、別に定める。

第11条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて指定の期日までに提出しなければならない。

2 入学検定料については、別に定める。

(入学者の選考)

第12条 前条の入学志願者については、選考により入学を許可すべき者を決定する。

2 前項の選考の方法及び基準は、運営会議の議を経て学長が定める。

(入学手続及び入学許可)

第13条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定の期日までに、誓約書その他本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学金及び学費を納付しなければならない。

2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

3 前項により入学を許可された者は、入学式に出席し、かつ入学の宣誓をしなければならない。

(編入学、再入学)

第14条 本学に編入学を志願する者があるときは、編入学定員の範囲において、又は、編入学定員のない学科においては欠員のある場合に限る、選考のうえ入学を許可する。

2 本学に再入学を志願する者があるときは、選考のうえ入学を許可する。

3 編入学及び再入学について必要な事項は、別に定める。

(退学)

第15条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(休学)

第16条 疾病その他やむを得ない事情により、3か月以上にわたって修学することのできない者は、学長が許可した場合休学することができる。

(休学の期間)

第17条 休学期間は学年末を超えることはできない。ただし、特別の理由がある場合は、学長が許可した場合、休学期間を延長することができる。

2 休学期間は通算して2年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、更に2年以内に限って延長することができる。

3 休学期間は在学年数に算入しない。

(復学)

第18条 休学の理由が消滅した場合は、学長が許可した場合、復学することができる。ただし、休学期間が3か月未満となる場合は、休学許可を取り消す。

(除籍)

第19条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者を除籍する。

(1) 第5条第2項に定める在学年限を超えた者

(2) 学費の納入を怠り、督促してもなお納入しない者

(退学)

第15条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(休学)

第16条 疾病その他やむを得ない事情により、3か月以上にわたって修学することのできない者は、学長が許可した場合休学することができる。

(休学の期間)

第17条 休学期間は学年末を超えることはできない。ただし、特別の理由がある場合は、学長が許可した場合、休学期間を延長することができる。

2 休学期間は通算して2年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、更に2年以内に限って延長することができる。

3 休学期間は在学年数に算入しない。

(復学)

第18条 休学の理由が消滅した場合は、学長が許可した場合、復学することができる。ただし、休学期間が3か月未満となる場合は、休学許可を取り消す。

(除籍)

第19条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者を除籍する。

(1) 第5条第2項に定める在学年限を超えた者

(2) 学費の納入を怠り、督促してもなお納入しない者

(3) 死亡した者 (4) 第13条第3項に定める入学式に正当な理由なく欠席した者又は宣誓しない者 (転部) 第20条 転部を願い出た者については、志望する学部欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。 (転科) 第20条の2 転科を願い出た者については、志望する学科欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。 (二重学籍の禁止) 第20条の3 本学の学生は、本学が認めた場合を除いて、他の学部、研究科又は他の大学（短期大学を含む。）に在籍することはできない。 第4章 教育課程及び履修方法等 (授業科目) 第21条 教育課程は、授業科目を4年間に配当し、これを編成する。 2 授業科目を、共通科目及び専門教育科目に区分し、区分ごとに修得すべき単位数を定める。 3 専門教育科目については、学科ごとに必修科目を定める。 4 開設する授業科目の名称、単位数、配当年次等については、学部規則に定める。 5 授業科目の履修について必要な事項は、別に定める。	(3) 死亡した者 (4) 第13条第3項に定める入学式に正当な理由なく欠席した者又は宣誓しない者 (転部) 第20条 転部を願い出た者については、志望する学部欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。 (転科) 第20条の2 転科を願い出た者については、志望する学科欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。 (二重学籍の禁止) 第20条の3 本学の学生は、本学が認めた場合を除いて、他の学部、研究科又は他の大学（短期大学を含む。）に在籍することはできない。 第4章 教育課程及び履修方法等 (授業科目) 第21条 教育課程は、授業科目を4年間に配当し、これを編成する。 2 授業科目を、共通科目及び専門教育科目に区分し、区分ごとに修得すべき単位数を定める。 3 専門教育科目については、学科ごとに必修科目を定める。 4 開設する授業科目の名称、単位数、配当年次等については、学部規則に定める。 5 授業科目の履修について必要な事項は、別に定める。

6 授業科目は、その授業の方法、内容及び年間の計画並びに成績評価の基準をあらかじめ学生に明示するものとする。

(授業の方法)

第21条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 前項の授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第21条の3 本学は、本学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(教職課程)

第22条 第21条に定めるもののほか、教職に関する授業科目をおく。

2 前項の授業科目の名称、単位数、配当年次等は、学部規則に定める。

(単位の計算方法)

第23条 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間の授業をもって1

6 授業科目は、その授業の方法、内容及び年間の計画並びに成績評価の基準をあらかじめ学生に明示するものとする。

(授業の方法)

第21条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 前項の授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第21条の3 本学は、本学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(教職課程)

第22条 第21条に定めるもののほか、教職に関する授業科目をおく。

2 前項の授業科目の名称、単位数、配当年次等は、学部規則に定める。

(単位の計算方法)

第23条 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間の授業をもって1

単位とし、詳細は学部規則に定める。

- 2 前項の規定に関わらず、卒業研究、卒業制作及び卒業設計の授業科目については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合、これに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(授業期間)

第23条の2 各授業科目の授業は、13週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上の特別の必要があると認められる場合は、13週より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(単位の授与等)

第24条 授業科目を履修し、試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果を評価し、合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 試験等の成績は、S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)、D(不可)をもって表し、S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)を合格とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、特に定める授業科目の成績は、G(合格)、D(不合格)をもって表す。
- 4 授業科目の成績評価は、学部規則第23条に従って適切に行うものとする。
- 5 試験について必要な事項は、別に定める。

(他の大学等における授業科目の履修又は学修)

第24条の2 教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得し

単位とし、詳細は学部規則に定める。

- 2 前項の規定に関わらず、卒業研究、卒業制作及び卒業設計の授業科目については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合、これに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(授業期間)

第23条の2 各授業科目の授業は、13週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上の特別の必要があると認められる場合は、13週より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(単位の授与等)

第24条 授業科目を履修し、試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果を評価し、合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 試験等の成績は、S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)、D(不可)をもって表し、S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)を合格とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、特に定める授業科目の成績は、G(合格)、D(不合格)をもって表す。
- 4 授業科目の成績評価は、学部規則第23条に従って適切に行うものとする。
- 5 試験について必要な事項は、別に定める。

(他の大学等における授業科目の履修又は学修)

第24条の2 教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得し

た単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。
- 3 学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合には、第1項の規定を準用する。
- 4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、合わせて60単位を超えないものとする。
- 5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第24条の3 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第2項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。
- 3 学生が外国の大学又は短期大学において修得した単位については、第1項の規定を準用する。
- 4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、編入学及び再入学の場合を除き、前条第1項から第3項までにより本学において

た単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。
- 3 学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合には、第1項の規定を準用する。
- 4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、合わせて60単位を超えないものとする。
- 5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第24条の3 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第2項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。
- 3 学生が外国の大学又は短期大学において修得した単位については、第1項の規定を準用する。
- 4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、編入学及び再入学の場合を除き、前条第1項から第3項までにより本学において

修得したものとみなし、又は与える単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。

(特別の課程)

第24条の4 本学は、教育研究の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するため、文部科学大臣が別に定めるところにより、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

2 特別の課程の編成等に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 卒業及び学士の学位等

(卒業の要件)

第25条 本学を卒業するためには、4年(編入学又は再入学した者については、第14条第3項によって定める年数)以上在学し、学部規則に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。

2 学長は、前項の規定にかかわらず、本学の学生として3年以上在学し、大学院への進学を希望している者で、学部の定める卒業要件を満たし、かつ、優秀な成績を修めたと認めた場合、学部長が推薦し教授会の意見を参酌し、卒業を認めることができる。

(卒業)

第26条 学長は、前条の規定による卒業の要件を備えた者には、教授会の意見を参酌し、卒業を認め、学士の学位を授与する。

修得したものとみなし、又は与える単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。

(特別の課程)

第24条の4 本学は、教育研究の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するため、文部科学大臣が別に定めるところにより、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

2 特別の課程の編成等に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 卒業及び学士の学位等

(卒業の要件)

第25条 本学を卒業するためには、4年(編入学又は再入学した者については、第14条第3項によって定める年数)以上在学し、学部規則に定めるところにより、124単位以上を修得しなければならない。

2 学長は、前項の規定にかかわらず、本学の学生として3年以上在学し、大学院への進学を希望している者で、学部の定める卒業要件を満たし、かつ、優秀な成績を修めたと認めた場合、学部長が推薦し教授会の意見を参酌し、卒業を認めることができる。

(卒業)

第26条 学長は、前条の規定による卒業の要件を備えた者には、教授会の意見を参酌し、卒業を認め、学士の学位を授与する。

2 学士の学位は、卒業した学部に応じて、次のとおり定める。

工学部 学士(工学)

健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻 学士(工学)

健康情報学科 理学療法学専攻 学士(理学療法学)

健康情報学科 スポーツ科学専攻 学士(スポーツ科学)

情報通信工学部 情報工学科 学士(情報工学)

通信工学科 学士(工学)

総合情報学部 学士(情報学)

建築・デザイン学部 学士(工学)

(資格の取得)

第27条 本学において取得することができる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類
工学部	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
	電子機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(技術) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	基礎理工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(理科)

2 学士の学位は、卒業した学部に応じて、次のとおり定める。

工学部 学士(工学)

医療健康科学部 医療科学科 学士(工学)

理学療法学科 学士(理学療法学)

健康スポーツ科学科 学士(健康科学)

情報通信工学部 情報工学科 学士(情報工学)

通信工学科 学士(工学)

総合情報学部 学士(情報学)

建築・デザイン学部 学士(工学)

(資格の取得)

第27条 本学において取得することができる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類
工学部	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
	電子機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(技術) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	基礎理工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(理科)

		高等学校教諭一種免許状(数学)(理科)
健康情報 学部	健康情報学科 医 療工学専攻	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	健康情報学科 ス ポーツ科学専攻	中学校教諭一種免許状(保健体育) 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
情報通信 工学部	情報工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
	通信工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
総合情報 学部	情報学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(情報)

2 前項の教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、第25条に定める卒業の要件を満たすほか、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び同法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

3 前項に定める資格を得るための履修方法は、別に定める。

第6章 科目履修生、研究生及び外国人留学生等
(科目履修生)

第28条 本学において特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、科目履修生として入学を許可することがある。

2 科目履修生について必要な事項は、別に定める。

		高等学校教諭一種免許状(数学)(理科)
医療健康 科学部	医療科学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	健康スポーツ科学 科	中学校教諭一種免許状(保健体育) 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
情報通信 工学部	情報工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
	通信工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
総合情報 学部	情報学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(情報)

2 前項の教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、第25条に定める卒業の要件を満たすほか、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び同法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

3 前項に定める資格を得るための履修方法は、別に定める。

第6章 科目履修生、研究生及び外国人留学生等
(科目履修生)

第28条 本学において特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、科目履修生として入学を許可することがある。

2 科目履修生について必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第28条の2 本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生について必要な事項は、別に定める。

(研究生)

第29条 本学において特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生について必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第30条 外国人で本学に入学を志願する者があるときは、運営会議で選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

第7章 学費及びその他の費用

(学費)

第31条 入学金及び学費の金額は別表第4のとおりとする。

(その他の費用)

第32条 学費の他学習等に必要な費用は、別にこれを徴収することがある。

(学費等の納入)

(聴講生)

第28条の2 本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生について必要な事項は、別に定める。

(研究生)

第29条 本学において特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生について必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第30条 外国人で本学に入学を志願する者があるときは、運営会議で選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

第7章 学費及びその他の費用

(学費)

第31条 入学金及び学費の金額は別表第4のとおりとする。

(その他の費用)

第32条 学費の他学習等に必要な費用は、別にこれを徴収することがある。

(学費等の納入)

第33条 学費及びその他の費用の納入については、別に定める。

(休学の場合の学費)

第34条 休学期間中の者については学費を免除し、在籍料を徴収する。

2 在籍料については、別に定める。

(既納の学費等)

第35条 既納の学費等は原則としてこれを返付しない。

第8章 賞罰

(表彰)

第36条 次の各号のいずれかに該当する者に対し、学部長は学部教授会の議を経て、これを賞することがある。

(1) 成績特に優秀なる者

(2) 品行方正にして他学生の模範となる者

(懲戒)

第37条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、学部教授会の議を十分に考慮した上で、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者についてこれを行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由なくして、出席常でない者

第33条 学費及びその他の費用の納入については、別に定める。

(休学の場合の学費)

第34条 休学期間中の者については学費を免除し、在籍料を徴収する。

2 在籍料については、別に定める。

(既納の学費等)

第35条 既納の学費等は原則としてこれを返付しない。

第8章 賞罰

(表彰)

第36条 次の各号のいずれかに該当する者に対し、学部長は学部教授会の議を経て、これを賞することがある。

(1) 成績特に優秀なる者

(2) 品行方正にして他学生の模範となる者

(懲戒)

第37条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、学部教授会の議を十分に考慮した上で、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者についてこれを行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由なくして、出席常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 懲戒の手続きについては、別に定める学生の懲戒処分に関する規則による。

第9章 教育研究実施組織等

(教育研究実施組織等)

第37条の2 本学は、教育研究上の目的を達成するため、必要な教員及び事務職員からなる教育研究実施組織を編成する。

2 本学は、教育研究実施組織を編成するに当たり、教育研究活動等の運営が組織的かつ効果的に行われるよう、教員及び事務職員等相互の適切な役割分担の下での協働や組織的な連携体制を確保しつつ、教育研究に係る責任の所在を明確にする。

3 本学は、学生に対し、課外活動、修学、進路選択及び心身の健康に関する指導及び援助等の厚生補導を組織的に行うため、専属の職員を置く組織を編成する。

4 本学は、教育研究実施組織及び前項の組織の円滑かつ効果的な業務の遂行のための支援、大学運営に係る企画立案、本学以外の者との連携、人事、総務、財務、広報、情報システム並びに施設及び設備の整備その他の大学運営に必要な業務を行うため、専属の職員を置く組織を編成する。

5 本学は、大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 懲戒の手続きについては、別に定める学生の懲戒処分に関する規則による。

第9章 教育研究実施組織等

(教育研究実施組織等)

第37条の2 本学は、教育研究上の目的を達成するため、必要な教員及び事務職員からなる教育研究実施組織を編成する。

2 本学は、教育研究実施組織を編成するに当たり、教育研究活動等の運営が組織的かつ効果的に行われるよう、教員及び事務職員等相互の適切な役割分担の下での協働や組織的な連携体制を確保しつつ、教育研究に係る責任の所在を明確にする。

3 本学は、学生に対し、課外活動、修学、進路選択及び心身の健康に関する指導及び援助等の厚生補導を組織的に行うため、専属の職員を置く組織を編成する。

4 本学は、教育研究実施組織及び前項の組織の円滑かつ効果的な業務の遂行のための支援、大学運営に係る企画立案、本学以外の者との連携、人事、総務、財務、広報、情報システム並びに施設及び設備の整備その他の大学運営に必要な業務を行うため、専属の職員を置く組織を編成する。

5 本学は、大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大

織の有機的な連携を図り、適切な体制を整える。

(職員)

第38条 本学の職員の種類は次のとおりとする。

学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員

- 2 学長は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学運営に関し識見を有する者であって、校務をつかさどり所属職員を統督する。
- 3 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 4 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 5 講師は、教授又は准教授に準ずる。
- 6 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 7 助手は、その所属する組織における教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。
- 8 事務職員に関する事項は、学校法人大阪電気通信大学事務組織規則

学内の組織の有機的な連携を図り、適切な体制を整える。

(職員)

第38条 本学の職員の種類は次のとおりとする。

学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員

- 2 学長は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学運営に関し識見を有する者であって、校務をつかさどり所属職員を統督する。
- 3 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 4 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 5 講師は、教授又は准教授に準ずる。
- 6 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- 7 助手は、その所属する組織における教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。
- 8 事務職員に関する事項は、学校法人大阪電気通信大学事務組織規則

に規定するほか、必要に応じ別に定める。

第38条の2 本学に必要な応じて副学長を置くことができる。

2 副学長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の管理運営に関する重要な事項についての企画及び各部門間の調整を行う。

第38条の3 学部に学部長をおき、教授をもって充てる。

2 学部長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の教学運営業務を遂行し、各学部内の業務を処理するとともに、各学部に所属する職員を指揮監督する。

第38条の4 削除

第38条の5 本学は、各授業科目について、当該授業科目を担当する教員以外の教員、学生その他の大学が定める者（以下、「指導補助者」という。）に補助させることができ、また、十分な教育効果を上げることができると思われる場合は、当該授業科目を担当する教員の指導計画に基づき、指導補助者に授業の一部を分担させることができる。

第39条 削除

第10章 運営組織

（運営会議）

第40条 本学に、運営会議をおく。

2 運営会議は、大学及び大学院の運営に関する全学的事項を審議し、学長 の意思決定の円滑化を図る。

に規定するほか、必要に応じ別に定める。

第38条の2 本学に必要な応じて副学長を置くことができる。

2 副学長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の管理運営に関する重要な事項についての企画及び各部門間の調整を行う。

第38条の3 学部に学部長をおき、教授をもって充てる。

2 学部長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の教学運営業務を遂行し、各学部内の業務を処理するとともに、各学部に所属する職員を指揮監督する。

第38条の4 削除

第38条の5 本学は、各授業科目について、当該授業科目を担当する教員以外の教員、学生その他の大学が定める者（以下、「指導補助者」という。）に補助させることができ、また、十分な教育効果を上げることができると思われる場合は、当該授業科目を担当する教員の指導計画に基づき、指導補助者に授業の一部を分担させることができる。

第39条 削除

第10章 運営組織

（運営会議）

第40条 本学に、運営会議をおく。

2 運営会議は、大学及び大学院の運営に関する全学的事項を審議し、学長 の意思決定の円滑化を図る。

3 運営会議に関する事項は、別に定める。
(学部教授会)

第41条 本学の各学部及び共通教育機構に、学部教授会をおく。

2 学部教授会に関する事項は、別に定める。

第42条 削除

第42条の2 削除

第43条 削除

第11章 その他

(施行細則)

第44条 本学則の施行に必要な細則は、別に定める。

(学則の改正)

第45条 本学則の改正は、学部教授会での意見を参酌し、運営会議の審議を経て学長が理事長に上程し、常任理事会での審議を経て理事会で決定する。

附 則

1 この学則は、2025年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、2025年度から2027年度までの間、次のとおりとする。

年度		2025年度			2026年度			2027年度		
学部・学科										
学部	学科	入学	3年	収容	入学	3年	収容	入学	3年	収容

3 運営会議に関する事項は、別に定める。
(学部教授会)

第41条 本学の各学部及び共通教育機構に、学部教授会をおく。

2 学部教授会に関する事項は、別に定める。

第42条 削除

第42条の2 削除

第43条 削除

第11章 その他

(施行細則)

第44条 本学則の施行に必要な細則は、別に定める。

(学則の改正)

第45条 本学則の改正は、学部教授会での意見を参酌し、運営会議の審議を経て学長が理事長に上程し、常任理事会での審議を経て理事会で決定する。

		定員	次編	定員	定員	次編	定員	定員	次編	定員
		入学	定員	入学	定員	入学	定員	入学	定員	定員
工学部	電気電子工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	電子機械工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	機械工学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	基礎理工学科	86	—	292	86	—	318	86	—	344
	環境科学科	—	—	180	—	—	90	—	—	—
	建築学科	—	—	160	—	—	80	—	—	—
	小計	336	—	1,632	336	—	1,488	336	—	1,344
医療健康 科学部	医療科学科	—	1	242	—	1	162	—	—	81
	理学療法学科	—	—	120	—	—	80	—	—	40
	健康スポーツ科 学科	—	1	212	—	1	142	—	—	71
	小計	—	2	574	—	2	384	—	—	192
健康情報 学部	健康情報学科	165	—	165	165	—	330	165	2	497
情報通信	情報工学科	160	—	640	160	—	640	160	—	640
工学部	通信工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	小計	240	—	960	240	—	960	240	—	960
総合情報 学部	デジタルゲーム 学科	153	1	575	153	1	588	153	1	601

	ゲーム&メディア学科	122	—	452	122	—	464	122	—	476
	情報学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	小計	365	1	1,387	365	1	1,412	365	1	1,437
建築・デザイン学部	建築・デザイン学科	150	—	300	150	—	450	150	—	600
合計		1,256	3	5,018	1,256	3	5,024	1,256	3	5,030

3 改正後の第26条及び第27条の規定にかかわらず、2024年度以前に入学した者、2025年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2026年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び2027年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

4 改正後の別表第4の規定にかかわらず、2024年度以前に入学した者は、従前の当該規定を適用する。

5 改正後の別表第4の規定にかかわらず、2025年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、2026年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び2027年度に4年次に編入学又は再入学した者の入学金及び学費は次の通りとする。

学部	入学金	学費		
		項目	1年次	2年次以降
医療健康科学部	250,000	授業料	1,332,000	1,532,000
医療科学科		実験実習料	70,000	70,000

医療健康科学部	250,000	授業料	1,232,000	1,432,000
理学療法学科		実験実習料	300,000	300,000
医療健康科学部	250,000	授業料	1,082,000	1,282,000
健康スポーツ科		実習料	100,000	100,000
学科				

別表第1 削除

別表第2 削除

別表第3 削除

別表第4 入学金及び学費

単位：円

学部	入学金	学費		
		項目	1年次	2年次以降
工学部	200,000	授業料	1,282,000	1,482,000
情報通信工学部				
総合情報学部				
健康情報学部	250,000	授業料	1,332,000	1,532,000
健康情報学科		実験実習料	70,000	70,000
医療工学専攻				
健康情報学部	250,000	授業料	1,232,000	1,432,000
健康情報学科		実験実習料	300,000	300,000

別表第1 削除

別表第2 削除

別表第3 削除

別表第4 入学金及び学費

単位：円

学部	入学金	学費		
		項目	1年次	2年次以降
工学部	200,000	授業料	1,282,000	1,482,000
情報通信工学部				
総合情報学部				
医療健康科学部	200,000	授業料	1,282,000	1,482,000
医療科学科		実験実習料	70,000	70,000
医療健康科学部	200,000	授業料	1,182,000	1,382,000
部		実験実習料	300,000	300,000

大阪電気通信大学学則の一部改正（案）について

理学療法学専攻					理学療法学科				
健康情報学部	250,000	授業料	1,082,000	1,282,000	医療健康科学部	200,000	授業料	1,082,000	1,282,000
健康情報学科		実習料	100,000	100,000	健康スポーツ科学科		実習料	100,000	100,000
スポーツ科学専攻									
建築・デザイン学部	200,000	授業料	1,382,000	1,482,000	建築・デザイン学部	200,000	授業料	1,382,000	1,482,000
別表第5 削除					別表第5 削除				

学部規則 変更事項を記載した書類

この法人は、この度、医療健康科学部を改組転換し、健康情報学部を新たに設置することとなったので、学部規則を次のとおり変更する。

1. 第2条第1項において、第2号を改める。

第2条第1項第2号

健康情報学部は、人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基にした、医療科学・工学・スポーツ科学の知識と技術の実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。

(事由) 2025年4月より、医療健康科学部を改組転換し、健康情報学部を設置するため、当該学部の人材の養成に関する目的を改める。

2. 第2条第2項第5号を「健康情報学科は、情報技術を基に医療科学、工学、スポーツ科学の知識と技術を融合させた総合力で、疾病や障害を有する低体力者からアスリートまで、あらゆる人々の健康を支援し、健全な社会の形成と存続に貢献できる専門的人材を育成することを目的とする。」に改める。

(事由) 2025年4月より、医療健康科学部3学科から健康情報学部1学科へ改組転換し、新しく学科の人材の養成に関する目的を定めるため。

3. 第2条第2項第6号(理学療法学科)及び第6号(健康スポーツ科学科)を削る。

(事由) 2025年4月より、医療健康科学部3学科から健康情報学部1学科へ改組転換するため。

5. 附則として、次の附則を加える。

1 この規則は、2025年4月1日から施行する。

2 改正後の第2条、別表第1—7、別表第1—8、別表第1—9、別表第2及び別表第3の規定にかかわらず、医療健康科学部に2024年度以前に入学した学生、2025年度

に2年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生、2026年度に3年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び2027年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生は、従前の当該規定を適用する。

(事由) 施行日及び完成年度までの移行措置を、明確にするため。

6. 別表第1-7(医療健康科学部 医療科学科)の内容を改める。

(事由) 2025年4月より、医療健康科学部3学科から健康情報学部1学科3専攻制へ改組転換し、健康情報学部健康情報学科医療工学専攻として、教育課程を新しく定めるため。

7. 別表第1-7(医療健康科学部 理学療法学科)の内容を改める。

(事由) 2025年4月より、医療健康科学部3学科から健康情報学部1学科3専攻制へ改組転換し、健康情報学部健康情報学科理学療法専攻として、教育課程を新しく定めるため。

8. 別表第1-8(医療健康科学部 健康スポーツ科学科)の内容を改める。

(事由) 2025年4月より、医療健康科学部3学科から健康情報学部1学科3専攻制へ改組転換し、健康情報学部健康情報学科健康スポーツ科学専攻として、教育課程を新しく定めるため。

9. 別表第2において、「(6) 健康情報学部健康情報学科」に改める。

(事由) 2025年4月より、医療健康科学部3学科から健康情報学部1学科3専攻制へ改組転換し、健康情報学部健康情報学科として、教育課程を新しく定めるため。

10. 別表第2において、「(7) 医療健康科学部 健康スポーツ科学科」を削除する。

(事由) 2025 年 4 月より、医療健康科学部 3 学科から健康情報学部 1 学科 3 専攻制へ改組転換し、別表第 2 (6) と統合したため。

11. 別表第 2 において、「(12) 健康情報学部」を加える。

(事由) 2025 年 4 月より、医療健康科学部 3 学科から健康情報学部 1 学科 3 専攻制へ改組転換し、別表第 2 (6) と統合したため。

12. 別表第 3 において、「(3)健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」に改める。

(事由) 2025 年 4 月より、医療健康科学部 3 学科から健康情報学部 1 学科 3 専攻制へ改組転換し、教育課程表を改めたため。

13. 別表第 3 において、「(4)健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」に改める。

(事由) 2025 年 4 月より、医療健康科学部 3 学科から健康情報学部 1 学科 3 専攻制へ改組転換し、教育課程表を改めたため。

14. 別表第 3 において、「(5)健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」に改める。

(事由) 2025 年 4 月より、医療健康科学部 3 学科から健康情報学部 1 学科 3 専攻制へ改組転換し、教育課程表を改めたため。

以上

大阪電気通信大学学部規則の一部改正

【改正の趣旨】2025年4月開設健康情報学部健康情報学科設置に伴う改正

改正案	現行
○大阪電気通信大学学部規則 第1章 総則 (趣旨) 第1条 この規則は、大阪電気通信大学学則(以下「学則」という。)に基づき、修学に関して必要な事項を定める。 (学部及び学科の人材の養成に関する目的) 第2条 学則第3条の規定に基づき、各学部の人材の養成に関する目的は、次のとおりとする。 (1) 工学部は、産業社会の基盤である総合的な工学技術を支え発展させるために、工学技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。 (2) <u>健康情報学部は、人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基にした、医療科学・工学・スポーツ科学の知識と技術の実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成並びに技能の向</u>	○大阪電気通信大学学部規則 第1章 総則 (趣旨) 第1条 この規則は、大阪電気通信大学学則(以下「学則」という。)に基づき、修学に関して必要な事項を定める。 (学部及び学科の人材の養成に関する目的) 第2条 学則第3条の規定に基づき、各学部の人材の養成に関する目的は、次のとおりとする。 (1) 工学部は、産業社会の基盤である総合的な工学技術を支え発展させるために、工学技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。 (2) <u>医療健康科学部は、人々の生活の質の向上をめざし、医療、健康、福祉及びリハビリテーションに活用可能な技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目</u>

上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。

(3) 情報通信工学部は、社会の基盤技術である情報通信工学にかかわる基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、情報通信技術をベースとして広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。

(4) 総合情報学部は、多様な生活文化の創造を支えるために、情報技術の基礎知識及び応用に関する実学教育並びにコンテンツ制作活動を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。

(5) 建築・デザイン学部は、人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術の実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。

2 学則第3条の規定に基づき、各学科の人材の養成に関する目的は、次のとおりとする。

(1) 電気電子工学科は、電気電子情報社会を支える5分野(半導体デバイス、電気電子回路、計測制御、情報技術、電力)について基礎から学び、高度情報化社会を支える基盤技術である電気電子工学に含まれる多くの技術分野のうち、学生自身が適性ある分野を講義・

標の達成を支援し、広く社会で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。

(3) 情報通信工学部は、社会の基盤技術である情報通信工学にかかわる基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成を支援し、情報通信技術をベースとして広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。

(4) 総合情報学部は、多様な生活文化の創造を支えるために、情報技術の基礎知識及び応用に関する実学教育並びにコンテンツ制作活動を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。

(5) 建築・デザイン学部は、人間を取り巻くあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術の実学教育を通じて、学生の学修成果の向上及び学修目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。

2 学則第3条の規定に基づき、各学科の人材の養成に関する目的は、次のとおりとする。

(1) 電気電子工学科は、電気電子情報社会を支える5分野(半導体デバイス、電気電子回路、計測制御、情報技術、電力)について基礎から学び、高度情報化社会を支える基盤技術である電気電子工学に含まれる多くの技術分野のうち、学生自身が適性ある分野を講義・

実習を通して見極め、自らの目標を設定したうえで、多彩に配置された実験・演習を通して社会で活躍できる技術力を修得した人材を育成することを目的とする。

- (2) 電子機械工学科は、ロボットやIoT、自動運転に代表される「メカトロニクス」の基礎である機械、電気電子、計測制御、情報の4分野の知識を教授すると共に、学生の適性に即した専門性の高い実験・実習による実践的な深化教育を通して、将来の超スマート社会の実現を担うメカトロニクスエンジニアを育成することを目的とする。
- (3) 機械工学科は、社会活動の基盤を支えるモノづくりに必要不可欠な機械工学の専門知識とそれを活かすための技術を総合的に教授することによって、国内外の産業界で広く活躍できる機械技術者を育成することを目的とする。
- (4) 基礎理工学科は、広範な科学知識、理数系的な思考力、高いコミュニケーション能力を兼ね備えた理数系ジェネラリストとして現代の社会に広く貢献する技術の獲得、また、人の健康維持に関与する食品に関する技術の基礎及び応用力の包括的な教授による「食環境」を守る技術の獲得により、未来に貢献しうる専門的な技術者・研究者や教育者(数学・理科教員等)を育成することを目的とする。
- (5) 健康情報学科は、情報技術を基に医療科学、工学、スポーツ科学の知識と技術を融合させた総合力で、疾病や障害を有する低体力者からアスリートまで、あらゆる人々の健康を支援し、健全

実習を通して見極め、自らの目標を設定したうえで、多彩に配置された実験・演習を通して社会で活躍できる技術力を修得した人材を育成することを目的とする。

- (2) 電子機械工学科は、ロボットやIoT、自動運転に代表される「メカトロニクス」の基礎である機械、電気電子、計測制御、情報の4分野の知識を教授すると共に、学生の適性に即した専門性の高い実験・実習による実践的な深化教育を通して、将来の超スマート社会の実現を担うメカトロニクスエンジニアを育成することを目的とする。
- (3) 機械工学科は、社会活動の基盤を支えるモノづくりに必要不可欠な機械工学の専門知識とそれを活かすための技術を総合的に教授することによって、国内外の産業界で広く活躍できる機械技術者を育成することを目的とする。
- (4) 基礎理工学科は、広範な科学知識、理数系的な思考力、高いコミュニケーション能力を兼ね備えた理数系ジェネラリストとして現代の社会に広く貢献する技術の獲得、また、人の健康維持に関与する食品に関する技術の基礎及び応用力の包括的な教授による「食環境」を守る技術の獲得により、未来に貢献しうる専門的な技術者・研究者や教育者(数学・理科教員等)を育成することを目的とする。
- (5) 医療科学科は、安心・安全な医療・健康を実現するために、医学及び工学を基盤とした医療健康科学について教授研究し、生体計測とデータ処理技術に精通した知能情報エンジニア、医療健康機器

な社会の形成と存続に貢献できる専門的人材を育成することを目的とする。

(6) 情報工学科は、人間の活動に不可欠な「情報」を扱うシステムを作り出すための基盤となるコンピュータハードウェア・ソフトウェア・ネットワークに関わる知識と技術を、数理的な知識体系に基づいて、基礎から応用に至るまで実学教育を通して教授することにより、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材の育成を目的とする。

(7) 通信工学科は、情報通信社会を支える3要素(ブロードバンド・マルチメディア・インターネット)の技術について基礎から教授することにより、情報化社会の発展に貢献する通信のスペシャリストの育成を目的とする。

(8) デジタルゲーム学科は、デジタルゲームを軸とする主に対話的

の開発や医療安全管理技術に深い理解を有する医療機器のスペシャリスト、臨床現場に貢献できる人間力・応用力を有した臨床工学技士を育成することを目的とする。

(6) 理学療法学科は、責任感と豊かな人間性、論理的思考の基礎となる科学的素養とともに、最新の医療知識と技術を備えた人材を育成することを目的とする。

(7) 健康スポーツ科学科は、科学的な視点を持ち、基礎医学やスポーツ科学・健康科学および情報処理技術の知識や技術を修得する。これにより、健康のためのライフスタイルの提言と実践的な指導ができる健康づくり運動や生涯スポーツの指導者の育成、および保健体育科教員や競技スポーツ指導者の育成を目的とする。

(8) 情報工学科は、人間の活動に不可欠な「情報」を扱うシステムを作り出すための基盤となるコンピュータハードウェア・ソフトウェア・ネットワークに関わる知識と技術を、数理的な知識体系に基づいて、基礎から応用に至るまで実学教育を通して教授することにより、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材の育成を目的とする。

(9) 通信工学科は、情報通信社会を支える3要素(ブロードバンド・マルチメディア・インターネット)の技術について基礎から教授することにより、情報化社会の発展に貢献する通信のスペシャリストの育成を目的とする。

(10) デジタルゲーム学科は、デジタルゲームを軸とする主に対話的

なエンタテインメントコンテンツ分野の学際的研究や制作を通して、幅広い意味でのエンタテインメントに関する高度な知識と技術の修得を支援し、協調性とコミュニケーション能力を持って、広く社会及び産業界で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(9) ゲーム&メディア学科は、エンタテインメントコンテンツの企画・制作・教育を軸とするデジタル分野の学際的研究や制作を行い、関連するメディアの幅広い知識と高度な制作技術を修得し、それらのコンテンツの意義や魅力を広く社会に発信することでビジネスにつなげ、社会で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(10) 情報学科は、進化し続けるICTやIoT技術の基盤となる知識の修得、即戦力となり得る実践力の獲得、コミュニケーション能力等を中心とした社会性の向上の3項目を教育目標とし、情報のスペシャリストとして社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

(11) 建築・デザイン学科は、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない、人間を取り巻くありとあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術を講義する実学教育を通じて、学生の人間的成長を支援し、広く社会及び産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材の育成を目的とする。

なエンタテインメントコンテンツ分野の学際的研究や制作を通して、幅広い意味でのエンタテインメントに関する高度な知識と技術の修得を支援し、協調性とコミュニケーション能力を持って、広く社会及び産業界で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(11) ゲーム&メディア学科は、エンタテインメントコンテンツの企画・制作・教育を軸とするデジタル分野の学際的研究や制作を行い、関連するメディアの幅広い知識と高度な制作技術を修得し、それらのコンテンツの意義や魅力を広く社会に発信することでビジネスにつなげ、社会で継続的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(12) 情報学科は、進化し続けるICTやIoT技術の基盤となる知識の修得、即戦力となり得る実践力の獲得、コミュニケーション能力等を中心とした社会性の向上の3項目を教育目標とし、情報のスペシャリストとして社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

(13) 建築・デザイン学科は、すべての人々が安全で快適に生活できる社会を支える都市と建築、インテリアにいたる幅広いスケールの実空間や、デジタル技術により構築された情報空間など、現実と仮想を問わない、人間を取り巻くありとあらゆる空間の設計・造形と構築に関する知識と技術を講義する実学教育を通じて、学生の人間的成長を支援し、広く社会及び産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献することができる専門的人材の育成を目的とする。

第3条～第28条

(略)

附 則

1 この規則は、2025年4月1日から施行する。

2 改正後の第2条、別表第1—7、別表第1—8、別表第1—9、別表第2及び別表第3の規定にかかわらず、医療健康科学部に2024年度以前に入学した学生、2025年度に2年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生、2026年度に3年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生及び2027年度に4年次に編入学、再入学、転部又は転科した学生は、従前の当該規定を適用する。

別表第1—1 工学部 電気電子工学科

(略)

別表第1—2 工学部 電子機械工学科

(略)

別表第1—3 工学部 機械工学科

(略)

別表第1—4 工学部 基礎理工学科

(略)

第3条～第28条

(略)

別表第1—1 工学部 電気電子工学科

(略)

別表第1—2 工学部 電子機械工学科

(略)

別表第1—3 工学部 機械工学科

(略)

別表第1—4 工学部 基礎理工学科

(略)

別表第1—5 削除

別表第1—6 削除

別表第1—7 健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻

(I) 共通科目

(2025年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
人文・社会・自然群	大学の総合教養	2	△	2・0	—	—	—	必修科目2
	の学総合ゼミナール	2	△	2・0	—	—	—	単位、選
	びり社会生活と法	2	△	2・0	—	—	—	択必修科
	テラOECU概論Ⅰ	1	△	1・0	—	—	—	目1単位以
	シーエレクトロニクス入門	2	△	2・0	—	—	—	上(□aか
	異文化の理解	2	△	0・2	—	—	—	ら1単位以
	視野政治学	2	△	0・2	—	—	—	上)、選択
	を広発達心理学	2	△	0・2	—	—	—	科目をあ
	げる現代社会と青年の心理	2	△	2・0	—	—	—	わせて20
	アジアの言語と文化	2	△	0・2	—	—	—	単位から

別表第1—5 削除

別表第1—6 削除

別表第1—7 医療健康科学部 医療科学科

(I) 総合科目

(2023年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
人文・社会・自然群	大学の総合教養	2	△	2・0	—	—	—	選択必修
	学びり総合ゼミナール	2	△	2・0	—	—	—	科目1単
	テラシ日本語上達法Ⅰ	2	△	2・0	—	—	—	位以上
	二政治学	2	△	2・0	—	—	—	(□aから
	現代社会と青年	2	△	2・0	—	—	—	1単位以
	の心理	—	—	—	—	—	—	上)、選
	情報活用リテラ	2	△	2・0	—	—	—	択科目を
	シー	—	—	—	—	—	—	あわせて
	エレクトロニク	2	△	2・0	—	—	—	14単位か
	ス入門	—	—	—	—	—	—	ら40単位
視野を広げる	異文化の理解	2	△	0・2	—	—	—	まで
	社会生活と法	2	△	0・2	—	—	—	—

		ヨーロッパの言語と文 化	2	△	0・2	—	—	—	34単位ま で
		大阪の文化と歴史	2	△	0・2	—	—	—	
		高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2	—	—	—	
		からだの科学	2	△	2・0	—	—	—	
	社会 とつ なが る	現代社会を考える	2	△	2・0	—	—	—	
		歴史学の世界	2	△	2・0	—	—	—	
		経済学の世界	2	△	2・0	—	—	—	
		哲学の世界	2	△	2・0	—	—	—	
		文学の世界	2	△	0・2	—	—	—	
		日本国憲法	2	△	0・2	—	—	—	
		教育制度論	2	△	2・0	—	—	—	
		ジェンダー論	2	△	0・2	—	—	—	
	世界 を知 る	国際コミュニケーション	2	△	2・0	—	—	—	
		平和学	2	△	2・0	—	—	—	
	日本 を知 る	日本の近代史	2	△	0・2	—	—	—	
		企業社会と労働	2	△	0・2	—	—	—	
		文字の文化と歴史	2	△	—	0・2	—	—	

		発達心理学	2	△	0・2				
		アジアの言語と 文化	2	△	0・2				
		ヨーロッパの言 語と文化	2	△	0・2				
		大阪の文化と歴 史	2	△	0・2				
		高齢者社会と医 療福祉	2	△	0・2				
		からだの科学	2	△	0・2				
	社会と つなが る	現代社会を考え る	2	△		2・0			
		歴史学の世界	2	△		2・0			
		経済学の世界	2	△		2・0			
		哲学の世界	2	△		2・0			
		日本語上達法2	2	△		[2・ 0] [0・ 2]			
		文学の世界	2	△		0・2			
		日本国憲法	2	△		0・2			
		教育制度論	2	△		0・2			

外国語群	英語	Core English 1	I	☐ a	2・0	—	—	—
		Core English 2	I	☐ a	0・2	—	—	—
		Core English 3	I	☐ a	2・0	—	—	—
		Core English 4	I	☐ a	0・2	—	—	—
		Practical English 1	I	☐ a	—	2・0	—	—
		Practical English 2	I	☐ a	—	0・2	—	—
	日本語	日本語 1	I	☐ △	—	2・0	—	—
		日本語 2	I	☐ △	—	0・2	—	—
		日本語 3	I	☐ △	—	—	2・0	—
		日本語 4	I	☐ △	—	—	0・2	—
	中国語	中国語 1	I	☐ △	—	2・0	—	—
		中国語 2	I	☐ △	—	0・2	—	—
		中国語 3	I	☐ △	—	—	2・0	—

外国語群		ジェンダー論	2	☐ △	—	0・2	—	—
		情報社会と情報倫理	2	☐ △	—	0・2	—	—
		文字の文化と歴史	2	☐ △	—	0・2	—	—
		世界を知る	国際交流論	2	☐ △	—	2・0	—
	日本を知る	平和学	2	☐ △	—	2・0	—	—
		日本の近代史	2	☐ △	—	0・2	—	—
	英語	企業社会と労働	2	☐ △	—	0・2	—	—
		Core English 1	I	☐ a	2・0	—	—	—
		Core English 2	I	☐ a	0・2	—	—	—
		Core English 3	I	☐ a	2・0	—	—	—
		Core English 4	I	☐ a	0・2	—	—	—
		Intermediate English 1	I	☐ a	—	2・0	—	—
		Intermediate English 2	I	☐ a	—	0・2	—	—
		医学英語1	I	☐ a	—	2・0	—	—
		医学英語2	I	☐ a	—	0・2	—	—
	中国語	中国語1	I	☐ △	—	2・0	—	—
		中国語2	I	☐ △	—	0・2	—	—
		中国語3	I	☐ △	—	2・0	—	—

		中国語 4	1	△	—	—	0・2	—
プロジェクトスキル形成群	日本語活用	日本語上達法 1	2	△	2・0	—	—	—
		日本語上達法 2	2	△	—	2・0	—	—
		アカデミック・ライティング	2	△	0・2	—	—	—
	地域プロジェクト活動							
		地域プロジェクト活動	2	△	—	0・2	—	—
	スキラップ	グローバル研修	2	△	—	—	2・0	—
		グローバル研修（英語）	2	△	—	—	2・0	—
		キャリアデザイン	2	△	—	—	0・2	—
	社会を知る	キャリア形成論	2	△	—	—	1・1	—
		インターンシップ	2	△	—	—	2・2	—
情報基礎群	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0	—	—	—
		コンピュータリテラシー 1	2	○	2・0	—	—	—

		中国語4	1	△	—	—	0・2	—
健康・スポーツコミュニティ群	健康とスポーツ	スポーツの科学	2	△	—	—	0・2	—
		スポーツ文化論	2	△	—	—	2・0	—
		スポーツ実習1	1	△	2・0	—	—	—
		スポーツ実習2	1	△	0・2	—	—	—
		スポーツ実習3	1	△	—	—	[2・0]	—
							[0・2]	—

（注） 必選欄 □a：選択必修科目 △：選択科目

コンピュータリテラン ー2	2	△	0・2	—	—	—
プログラミング基礎演 習	2	△	0・2	—	—	—

(注) 必選欄 □a: 選択必修科目 △: 選択科目

(2) 専門教育科目

(2025年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業 要件 単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
学科共通科目	健康分野 基礎科学	健康科学基礎 1	2	△	2・0			必修科
		健康科学基礎 2	2	△	2・0			目14単
		健康情報学概論	2	□ c	2・0			位、選
		OECU 概論 2	1	△	1・0			択必修
	医学	医学概論	2	△	2・0			科目12
		医療関係法規	1	△	0・1			単位以
		公衆衛生学	1	△	0・1			上(□b
								から6単

(2) 専門教育科目

(2023年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件単 位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
専門科目	数学	数学基礎演習	2	△	4・0			必修科目15
		基礎解析演習	2	△	[4・ 0]			単位、選択
					[0・ 4]			必修科目6
								単位以上
		微分積分演習	2	△	0・4			(□bから6
		線形代数演習	2	△	4・0			単位以
		微分方程式	2	△		2・0		上)、選択
		確率・統計	2	△		0・2		科目をあわ
								せて73単位

情報	健康	身体機能	スポーツコンディショニング	2	△		2・0			位以上、□c
			スポーツリハビリテーション	2	△		2・0			から6単位以上
			解剖生理学Ⅰ	2	○	2・0				位以上、□c
			解剖生理学Ⅱ	2	○	0・2				から4単位以上
		基礎運動学	2	△	2・0				単)、選	
		心身の健康	コミュニケーション論	2	△	2・0				択科目
			心理学	2	△	0・2				あわせ
			ヘルスプロモーション	1	△	0・1				て、90
			論							単位か
			栄養学	2	△		0・2			ら104
	発育発達学		2	△		0・2			単位ま	
	生涯スポーツ	社会福祉概論	2	△		0・2			で	
		生涯スポーツ実習A	1	△	2・0					
		身体・スポーツ文化論	2	△	0・2					
		生涯スポーツ実習B	1	△	0・2					
		生涯スポーツ論	1	△	0・1					
	情報		データサイエンス基礎	2	△		2・0			

理 科

デー	人工知能	2	△		0・2	
タサ	プログラミング応用実	2	□		4・0	
イエ	習	2	b			
ンス	データ処理プログラミ	2	□		0・4	
(ま	ング	2	b			
たは	医療健康統計入門	2	△		0・2	
情報	医療健康統計演習	2	△		2・0	
処	医療データサイエンス	2	△		0・2	
理)	演習	2	△			
情報	情報工学基礎演習	2	△		0・2	
エ	情報システム工学	2	△		2・0	
学・						
(情						
報)						
シス	医療情報システム	2	△		2・0	
テム						
※2						
スポ	スポーツ情報学	2	△	0・2		
ーツ	スポーツ情報学演習	2	△		2・0	

医学	生理学	2	○	0・2		
	解剖学	2	○	2・0		
	機能解剖学	2	△		2・0	
	公衆衛生学	1	△	0・1		
	医療関係法規	1	△	0・1		
	免疫学	1	△		0・1	
	看護学概論	1	△			1・0
	生化学	2	△		2・0	
	病理学	1	△		0・1	
	薬理学	1	△			1・0
	医学概論	2	△	2・0		
	基礎医学特別演習	1	△			0・1
	臨床内科学総論	2	△			0・2
	臨床外科学総論	2	△			0・2
	臨床検査学	2	△			2・0
	応用医学総論	2	△			2・0
	臨床医学特別演習	1	△			0・1
情報工	ディジタル回路	2	△		0・2	
学	計測工学	2	△		2・0	
	生体医工学基礎	2	□b		4・0	

	情報	と情	ゲーム分析実習	1	△		0・2		
		報	スポーツ計測システム	1	△		0・2		
			実習	1	△				
			スポーツ工学	2	△		0・2		
			スポーツ計測システム	1	△				2・0
			開発実習	1	△				
			スポーツシミュレーション	2	△				2・0
	アカデミ	ック	プレゼミ	2	□ c			2・0	
		スキル	ゼミナール	2	□ c		0・2		
			卒業研究	8	○				◎・◎
医療工学関連科目	数学		基礎解析学Ⅰ演習	2	△	4・0			
			基礎解析学Ⅱ演習	2	△	0・4			
			線形代数	2	△	0・2			
			微分方程式	2	△		0・2		
			解析学	2	△			2・0	
			確率・統計	2	△		0・2		

	電気・電子工学	実習							
		システム工学	2	△			2・0		
		医療情報システム	2	△			2・0		
		医療とICT	2	△			0・2		
		医用情報工学演習	1	△			0・1		
		電気回路学	2	△	0・2				
		応用電気回路学	2	△		2・0			
		電気電子工学実験	3	○		0・6			
		電子回路学	2	△		2・0			
		医用電子工学実験	3	□b			6・0		
	機械工学	応用電子回路学	2	△		0・2			
		医用電気電子工学演習	1	△			0・1		
		医用工学特別演習	2	△				2・0	
		医用機械工学演習	1	△		0・1			
		生体材料工学	2	△		2・0			

	医用数学	2	△		2・0		
	応用数学と臨床医工学	2	△			0・2	
物理	基礎力学演習	2	△	4・0			
	基礎物理学	2	△	0・2			
	物理学入門	2	△	0・2			
医学	免疫学	1	△		0・1		
	生化学	2	△		2・0		
	臨床生化学	1	△		0・1		
	病理学	1	△		0・1		
	薬理学	1	△			1・0	
	基礎医学特別演習	1	△				1・0
	臨床内科学総論	2	△			2・0	
	臨床外科学総論	2	△			0・2	
	チーム医療概論	1	△			1・0	
	応用医学総論	2	△				2・0
	臨床医学特別演習	1	△				1・0
電気・	基礎電気工学	2	△	0・2			
	応用電気工学	2	△		2・0		

	生体物性工学	2	△		0・2		
	材料力学	2	△		2・0		
	流体力学	2	△		0・2		
	機械力学	2	△			2・0	
	メカトロニクス	2	△			0・2	
	基礎製図演習	2	△			0・2	
	製図・CAD実習	1	△			0・2	
医用機器学	医用機器学概論	2	△	0・2			
	医用計測学	2	△		0・2		
	生体計測装置学	2	△			2・0	
	医用生体計測学	1	△			1・0	
	演習						
	生体計測装置学	3	□b			0・6	
	実習						
	医用治療機器学	2	△			2・0	
	医用機器安全制御学	2	△			2・0	
	医用機器安全管理学	2	△			0・2	
	医用機器学・安全管理学特別演習	2	△				2・0

電子工学	電気電子工学実験	2	○		4・0		
	基礎電子工学	2	△		2・0		
	応用電子工学	2	△		0・2		
	医用電気電子工学演習	1	△		0・1		
	医用情報工学演習	1	△			0・1	
	医用工学特別演習	2	△				0・2
	医用機械工学演習	1	△		0・1		
	医用材料工学	2	△	0・2			
機械工学	生体物性工学	2	△		0・2		
	医用機械工学	2	△		0・2		
	メカトロニクス	2	△			2・0	
	基礎製図演習	2	△			2・0	
学	製図・CAD 実習	1	△			2・0	
	計測工学	2	△		2・0		
	医用機器学概論	2	△	0・2			
	医用計測学	2	△			2・0	
	生体計測装置学	2	△		0・2		
	医用生体計測学演習	1	△			0・1	

生体機能代行技術学	先端医工学特論	2	△				2・0
	生体機能代行装置学1	2	△			2・0	
	生体機能代行装置学2	2	△			2・0	
	生体機能代行装置学3	2	△			0・2	
	生体機能代行医用機器学実習	3	□b			0・6	
	生体機能代行装置学実習	3	△				6・0
	臨床工学技士総合演習	2	△				0・2
健康福祉工学	ヒト型ロボット創造製作実習	3	□b			6・0	
	ヒト型ロボット歩行制御実習	3	□b			0・6	
	健康スポーツ統計演習	2	△			2・0	
	生活支援工学	2	△			2・0	
	福祉環境デザイン論	2	△	2・0			

	生体計測装置学実習	2	<u>□ b</u>		<u>0・4</u>		
	医用治療機器学	2	<u>△</u>		<u>2・0</u>		
	医療安全管理学	2	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
	医用機器安全管理学実習	2	<u>□ b</u>			<u>4・0</u>	
	医用機器学・安全管理学特別演習	2	<u>△</u>				<u>2・0</u>
	臨床支援技術学	2	<u>△</u>			<u>0・2</u>	
生体機能代行技術学	呼吸療法装置学	2	<u>△</u>		<u>2・0</u>		
	血液浄化療法装置学	2	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
	体外循環装置学	2	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
	生体機能代行装置学実習	2	<u>△</u>			<u>0・4</u>	
	臨床工学技士総合演習	2	<u>△</u>				<u>0・2</u>
健康	認知科学とデザイン	2	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
福祉工学	ヒト型ロボット製作実習	2	<u>□ b</u>			<u>4・0</u>	

	リハビリテーション工学	2	<u>△</u>	<u>0・2</u>			
卒業研究・臨床実習	臨床実習	7	<u>△</u>				<u>14・0</u>
	特別講義	2	<u>△</u>				<u>2・0</u>
	卒業研究	8	<u>○</u>				<u>◎・◎</u>
キャリア形成科目	医療科学入門実習	2	<u>□c</u>	<u>4・0</u>			選択必修科目4単位以上(□cから2単位以上、□dから2単位以上)、選択科目をあわせて5単位から15単位まで
	医療科学基礎実習	2	<u>□c</u>		<u>4・0</u>		
	就職適性論	2	<u>□d</u>			<u>1・1</u>	
	特別キャリア演習	2	<u>△</u>				<u>2・0</u>
	医療科学実習	2	<u>□c</u>			<u>4・0</u>	
	プレゼミ	2	<u>□d</u>			<u>0・4</u>	
	総合医療工学実習	3	<u>□d</u>			<u>0・6</u>	

(注) 必選欄 ○：必修科目 □b・□c・□d：選択必修科目 △：選択科目

理学療法学科 関連科目		ヒト型ロボット制御実 習	<u>2</u>	<u>□</u> <u>b</u>			<u>0・4</u>	
		創造製作実習	<u>2</u>	<u>□</u> <u>b</u>			<u>0・4</u>	
	臨床 実習	臨床実習（臨床工学）	<u>7</u>	<u>△</u>			<u>0・14</u>	
		医療工学特別講義	<u>2</u>	<u>△</u>				<u>0・2</u>
	医療 工学 キャ リア 形成	健康情報学演習	<u>2</u>	<u>□</u> <u>c</u>	<u>2・0</u>			
		生体医工学実習	<u>2</u>	<u>□</u> <u>b</u>		<u>4・0</u>		
		医療工学基礎実習	<u>2</u>	<u>□</u> <u>c</u>	<u>0・4</u>			
		医療工学実習	<u>2</u>	<u>□</u> <u>c</u>		<u>4・0</u>		
	基礎 医学	機能解剖学	<u>2</u>	<u>△</u>	<u>2・0</u>			
		機能解剖学演習	<u>2</u>	<u>△</u>	<u>0・2</u>			
		運動学	<u>2</u>	<u>△</u>	<u>0・2</u>			
		運動学実習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>4・0</u>		
		生理学演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>		

		解剖学演習	2	△		2・0		
		基礎医学実習	2	△		0・4		
	臨床 医学	一般臨床内科学	2	△		2・0		
		神経内科学	2	△		2・0		
		リハビリテーション医 学	2	△	0・2			
		整形外科学	2	△		2・0		
		障害学演習	2	△		0・2		
		臨床精神医学	2	△			2・0	
		臨床医学探究	2	△				2・0
	基礎 理学 療法 学	接遇マナーとコミュニ ケーション	1	△	0・1			
		日常生活活動学実習	2	△		0・4		
		物理療法学実習	2	△		4・0		
		運動療法学実習	2	△		4・0		
		理学療法管理学	2	△			0・2	
		理学療法関係法規	2	△		2・0		
		理学療法評価学	2	△		2・0		
		理学療法評価学実習Ⅰ	2	△		4・0		

		理学療法評価学実習 2	2	<u>△</u>		<u>0・4</u>		
		生体動作探究	2	<u>△</u>	0・2			
		姿勢・動作解析学演習	2	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		義肢装具学実習	2	<u>△</u>			<u>4・0</u>	
		チームマネジメント	2	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
	理学療法 治療学	神経系理学療法学演習 A	2	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		内部障害系理学療法学 演習 A	2	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		小児系理学療法学演習	2	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
		運動系理学療法学演習 A	2	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		神経系理学療法学演習 B	2	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		内部障害系理学療法学 演習 B	2	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
		老年系理学療法学演習	2	<u>△</u>			<u>0・2</u>	
		運動系理学療法学演習 B	2	<u>△</u>			<u>2・0</u>	

		神経系理学療法学演習					
		C	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
		予防理学療法学演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		地域理学療法学演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		運動系理学療法学基礎					
		演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		運動系理学療法学発展					
		演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		神経系理学療法学基礎					
		演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		神経系理学療法学発展					
		演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
応用 理学		スポーツ理学療法特修					
		A	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>1・0</u>	
		スポーツ理学療法特修					
		B	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・1</u>	
		実践理学療法学演習 A	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
		実践理学療法学演習 B	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
		臨床理学療法学演習 A	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	

	療 学	療法	地域健康支援実習	2	Δ		$2 \cdot 2$		
			チームリハビリテーシ ョン	2	Δ		$0 \cdot 2$		
			総合理学療法学演習 A	2	Δ			$0 \cdot 2$	
			総合理学療法学演習 B	2	Δ			$0 \cdot 2$	
			総合理学療法学演習 C	2	Δ			$0 \cdot 2$	
			臨床理学療法学演習 B	2	Δ			$2 \cdot 0$	
			臨床理学療法学探究	2	Δ			$2 \cdot 0$	
		学 外 実 習	臨床実習（理学療法） 1	1	Δ		$0 \cdot 2$		
			臨床実習（理学療法） 2	3	Δ		$6 \cdot 0$		
			臨床実習（理学療法） 3	6	Δ		$0 \cdot 12$		
			臨床実習（理学療法） 4	1	Δ			$0 \cdot 2$	
			臨床実習（理学療法） 5	10	Δ			$0 \cdot 20$	
	ス ポ ー ツ		体育・スポーツ原理	2	Δ		$2 \cdot 0$		

ひ と・ 社会 と スポ ーツ スポ ーツ と から だ ここ ろと スポ ーツ スポーツ医学と救急救 命演習	体育・スポーツ社会学	2	△		0・2		
	スポーツマネジメント	2	△			2・0	
	論						
	スポーツビジネス論	2	△				2・0
	スポーツバイオメカニ クス	2	△		2・0		
	運動生理学	2	△		2・0		
	体力測定評価演習	2	△		2・0		
	健康スポーツ科学実習	1	△		0・2		
	スポーツ栄養学演習	2	△			2・0	
	運動生理学実習	1	△			0・2	
	体育・スポーツ心理学	2	△		2・0		
	健康心理学	2	△			2・0	
	スポーツ医学と救急救 命演習	2	△		0・2		

	スポ						
	ーツ	精神医学	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
	医学						
	スポ ーツ 教育	スポーツ教育学	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>0・1</u>		
		スポーツ教育学基礎演					
		習 1	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>0・1</u>		
		スポーツ教育学基礎演					
		習 2	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>1・0</u>	
		スポーツ教育学応用演					
		習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>1・1</u>	
		学校保健	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
	スポ ーツ コー チン グ	トレーニング論	<u>2</u>	<u>△</u>	<u>2・0</u>		
		スポーツコーチング論	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>0・1</u>		
		スポーツトレーニング					
		実習	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>2・0</u>		
		スポーツコーチング実					
		習	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
		スポーツ指導実習	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		生活習慣病と介護予防	<u>2</u>	<u>△</u>	<u>0・2</u>		

	ヘル	健康運動指導基礎演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
	ス	健康トレーニング実習	<u>1</u>	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
	プロ							
	モー	健康運動指導応用演習	<u>2</u>	<u>△</u>			<u>0・2</u>	
	ショ							
	ン							
	生涯	スポーツ・レクリエー ション論	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>		
	スポ	スポーツ・レクリエー						
	ーツ	ション実習	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		アダプテッドスポーツ	<u>2</u>	<u>△</u>				<u>2・0</u>
	eス	eスポーツ科学概論	<u>1</u>	<u>△</u>			<u>1・0</u>	
	ポー							
	ツ	eスポーツ科学演習	<u>1</u>	<u>△</u>			<u>1・0</u>	
	スポ	スポーツ方法実習（器	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>2・0</u>			
	ーツ	械運動）						
	方法	スポーツ方法実習（ベ	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>2・0</u>			
		ースボール型球技）						

スポーツ方法実習（ネット型球技 1）	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>0・2</u>			
スポーツ方法実習（陸上競技）	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>0・2</u>			
野外活動	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>		
スポーツ方法実習（ネット型球技 2）	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>		
スポーツ方法実習（武道）	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>		
スポーツ方法実習（eスポーツ）	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>		
スポーツ方法実習（水泳・水中運動）	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
体づくり運動と運動遊び	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
スポーツ方法実習（ダンス）	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
スポーツ方法実習（海洋スポーツ）	<u>1</u>	<u>△</u>			<u>2・0</u>	

	スポーツ方法実習（バスケットボール）	Ⅰ	△			2・0	
	スポーツ方法実習（ニユースポーツ）	Ⅰ	△			2・0	
	スポーツ方法実習（冬季スポーツ）	Ⅰ	△			0・2	
	スポーツ方法実習（ゴール型球技）	Ⅰ	△			0・2	

（注） 必選欄 ○：必修科目 □b・□c・□d：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—8 健康情報学部 健康情報学科 理学療法専攻

（Ⅰ） 共通科目

（2025年度からの教育課程）

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
人文・社会・自	大学の総合教養	2	△	2・0	—	—	—	必修科目
	の学総合ゼミナール	2	△	2・0	—	—	—	2単位、選
	びり社会生活と法	2	△	2・0	—	—	—	択必修科

別表第1—8 医療健康科学部 理学療法学科

（Ⅰ） 総合科目

（2020年度からの教育課程）

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
人文・学	大学の総合教養	2	△	2・0	—	—	—	選択必修
	の学総合ゼミナール	2	△	2・0	—	—	—	科目1単

	テラシー	OECD 概論 I	1	△	1・0	—	—	—	目 1 単位
		エレクトロニクス入門	2	△	2・0	—	—	—	以上 (□a から 1 単位以上)、選
	視野を 広げ る 化	異文化の理解	2	△	0・2	—	—	—	択科目を
		政治学	2	△	0・2	—	—	—	あわせて
		発達心理学	2	△	0・2	—	—	—	14 単位か
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0	—	—	—	ら 26 単位
		アジアの言語と文化	2	△	0・2	—	—	—	まで
		ヨーロッパの言語と文	2	△	0・2	—	—	—	視野を 広げ る 化
		大阪の文化と歴史	2	△	0・2	—	—	—	
		高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2	—	—	—	
		からだの科学	2	△	2・0	—	—	—	
		現代社会を考える	2	△	2・0	—	—	—	
		歴史学の世界	2	△	2・0	—	—	—	
		経済学の世界	2	△	2・0	—	—	—	
		哲学の世界	2	△	2・0	—	—	—	
		文学の世界	2	△	0・2	—	—	—	
		日本国憲法	2	△	0・2	—	—	—	
		教育制度論	2	△	2・0	—	—	—	
社 会・ 自然 群	テラシー	日本語上達法 I	2	△	2・0	—	—	—	位以上
		政治学	2	△	2・0	—	—	—	(□a から
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0	—	—	—	1 単位以
		情報活用リテラシー	2	△	2・0	—	—	—	上)、選
		エレクトロニクス入門	2	△	2・0	—	—	—	択科目を
	視野を 広げ る	異文化の理解	2	△	0・2	—	—	—	あわせて
		社会生活と法	2	△	0・2	—	—	—	14 単位か
		発達心理学	2	△	0・2	—	—	—	ら 26 単位
		アジアの言語と文化	2	△	0・2	—	—	—	まで
		ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2	—	—	—	視野を 広げ る
		大阪の文化と歴史	2	△	0・2	—	—	—	
		高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2	—	—	—	
		からだの科学	2	△	0・2	—	—	—	
		今日の医療医学の課題	2	△	0・2	—	—	—	

外国語群	世界を知る	ジェンダー論	2	△	0・2	—	—	—
		国際コミュニケーション	2	△	2・0	—	—	—
		平和学	2	△	2・0	—	—	—
		日本の近代史	2	△	0・2	—	—	—
		企業社会と労働	2	△	0・2	—	—	—
		文字の文化と歴史	2	△	—	0・2	—	—
	英語	Core English 1	1	□ a	2・0	—	—	—
		Core English 2	1	□ a	0・2	—	—	—
		Core English 3	1	□ a	2・0	—	—	—
		Core English 4	1	□ a	0・2	—	—	—
		Practical English 1	1	□ a	—	2・0	—	—
		Practical English 2	1	□ a	—	0・2	—	—

外国語	社会とつながる	現代社会を考え	2	△	2・0	—	—	—
		歴史学の世界	2	△	2・0	—	—	—
		経済学の世界	2	△	2・0	—	—	—
		哲学の世界	2	△	2・0	—	—	—
		日本語上達法2	2	△	[2・0]	—	—	—
					[0・2]	—	—	—
		文学の世界	2	△	0・2	—	—	—
		日本国憲法	2	△	0・2	—	—	—
		教育制度論	2	△	0・2	—	—	—
		ジェンダー論	2	△	0・2	—	—	—
		情報社会と情報倫理	2	△	0・2	—	—	—
		文字の文化と歴史	2	△	0・2	—	—	—
		世界を知る	2	△	2・0	—	—	—
		日本を知る	2	△	0・2	—	—	—
		企業社会と労働	2	△	0・2	—	—	—
		Core English 1	1	□a	2・0	—	—	—

プロジェクトスキル形成群	日本語	日本語 1	1	△	—	2・0	—	—
		日本語 2	1	△	—	0・2	—	—
		日本語 3	1	△	—	—	2・0	—
		日本語 4	1	△	—	—	0・2	—
	中国語	中国語 1	1	△	—	2・0	—	—
		中国語 2	1	△	—	0・2	—	—
		中国語 3	1	△	—	—	2・0	—
		中国語 4	1	△	—	—	0・2	—
	地域プロジェクト活動	日本語上達法 1	2	△	2・0	—	—	—
		日本語上達法 2	2	△	—	2・0	—	—
		アカデミック・ライティング	2	△	0・2	—	—	—
		地域プロジェクト活動	2	△	—	0・2	—	—
		グローバル研修	2	△	—	—	2・0	—
		グローバル研修（英語）	2	△	—	—	2・0	—

語群	英語	Core English 2	1	□a	0・2	—	—	—
		Core English 3	1	□a	2・0	—	—	—
		Core English 4	1	□a	0・2	—	—	—
		Intermediate English 1	1	□a	—	2・0	—	—
		Intermediate English 2	1	□a	—	0・2	—	—
		医学英語 1	1	□a	—	—	2・0	—
		医学英語 2	1	□a	—	—	0・2	—
	中国語	中国語 1	1	△	—	2・0	—	—
		中国語 2	1	△	—	0・2	—	—
		中国語 3	1	△	—	—	2・0	—
		中国語 4	1	△	—	—	0・2	—
	健康とスポーツ	スポーツ文化論	2	△	—	2・0	—	—
		スポーツ実習 1	1	△	2・0	—	—	—
		スポーツ実習 2	1	△	0・2	—	—	—
		スポーツ実習 3	1	△	—	[2・0]	—	—
	健康とスポーツ					[0・2]	—	—

（注） 必選欄 □a：選択必修科目 △：選択科目

情報基礎群	社会を知る	キャリアデザイン	2	△	—	—	0・2	—
		キャリア形成論	2	△	—	—	1・1	—
		インターンシップ	2	△	—	—	2・2	—
	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0	—	—	—
		コンピュータリテラシー 1	2	○	2・0	—	—	—
		コンピュータリテラシー 2	2	△	0・2	—	—	—
		プログラミング基礎演習	2	△	0・2	—	—	—

(注) 必選欄 □a: 選択必修科目 △: 選択科目

(2) 専門教育科目

(2025年度からの教育課程)

区分			単位 数	必 選	週時間数				卒業 要件 単位数
					1年次 前期・ 後期	2年次 前期・ 後期	3年次 前期・ 後期	4年次 前期・ 後期	
学科 共通	健康 分野	基礎	2	△	2・0				必修科 目 80 単
		科学			2・0				

(2) 専門教育科目

(2020年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次 前期・ 後期	2年次 前期・ 後期	3年次 前期・ 後期	4年次 前期・ 後期	
専	数学	2	△	2・0				必修科目 ⁹

			健康情報学概論	2	○	2・0				位、選択
			OECU 概論 2	1	△	1・0				必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
医学			医学概論	2	△	2・0				必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
			医療関係法規	1	△	0・1				必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
			公衆衛生学	1	△	0・1				必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
			スポーツコンディショニング	2	△		2・0			必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
身体機能			スポーツリハビリテーション	2	△			2・0		必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
			解剖生理学 1	2	○	2・0				必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
			解剖生理学 2	2	○	0・2				必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
			基礎運動学	2	△	2・0				必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
心身の健康			コミュニケーション論	2	△	2・0				必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
			心理学	2	△	0・2				必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
			ヘルスプロモーション論	1	△	0・1				必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
			栄養学	2	△		0・2			必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
			発育発達学	2	△		0・2			必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
			社会福祉概論	2	△			0・2		必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
										必修科目 20 単位以上 (□b から 20 単位以上)、選択科目
			確率・統計	2	△		2・0			8単位、選択科目を
			物理学基礎演習	2	△	2・0				あわせて9
情報			基礎解析演習	2	△	2・0				8単位から
			コンピュータリテラシー実習1	1	△	2・0				110単位まで
			コンピュータリテラシー実習2	1	△	0・2				
			プログラミング基礎実習1	1	△	2・0				
支援工学			バイオメカニクス	2	△	2・0				
			福祉環境デザイン論	2	△	2・0				
			リハビリテーション工学	2	△	0・2				
			プログラミング基礎実習2	1	△	0・2				
基礎医学			スポーツトレーニング学	2	△		2・0			
			運動発達学	2	△		0・2			
			運動生理学	2	△		2・0			
			コミュニケーション	2	△	2・0				

情報分野	生涯スポーツ	生涯スポーツ実習 A	1	△	2・0			
		身体・スポーツ文化論	2	△	0・2			
		生涯スポーツ実習 B	1	△	0・2			
		生涯スポーツ論	1	△	0・1			
	データサイエンス	データサイエンス基礎	2	△		2・0		
		人工知能	2	△			0・2	
		プログラミング応用実習	2	△		4・0		
		データ処理プログラミング	2	△		0・4		
		医療健康統計入門	2	△		0・2		
		医療健康統計演習	2	△			2・0	
		医療データサイエンス演習	2	△			0・2	
	情報工学・システム	情報工学基礎演習	2	△		0・2		
		情報システム工学	2	△			2・0	
		医療情報システム	2	△			2・0	

臨床医学	ヨ ン 論							
	生理学	2	○	2・0				
	生理学演習	2	○	0・2				
	解剖学	2	○	2・0				
	解剖学演習	2	○	0・2				
	基礎医学実習	2	△	0・4				
	機能解剖学	2	○	0・2				
	機能解剖学演習	2	△		2・0			
	運動学実習	2	○	0・4				
	医療関係法規	2	△		2・0			
	介護予防学	2	○		0・2			
	一般臨床内科学	2	○		2・0			
	整形外科科学	2	○		0・2			
	神経内科学	2	○			2・0		
	リハビリテーション医学	2	○		0・2			
	精神医学	2	○			2・0		
	心の健康増進	2	△			2・0		
	基礎医学特論1	2	○		0・2			
	基礎医学特論2	2	○		0・2			
	神経系理学療法演習B	2	○			2・0		

医療工学関連科目	スポーツ情報学	スポーツ情報学	2	△	0・2			
		スポーツ情報学演習	2	△		2・0		
		ゲーム分析実習	1	△		0・2		
		スポーツ計測システム	1	△			0・2	
		実習	1	△				
		スポーツ工学	2	△			0・2	
		スポーツ計測システム	1	△				2・0
		開発実習	1	△				
	スポーツ情報学	スポーツシミュレーション	2	△				2・0
		演習	2	△				
	アカデミック	プレゼミ	2	△			2・0	
	スキル	ゼミナール	2	△			0・2	
	卒業研究	卒業研究	8	○				◎・◎
	数学	基礎解析学Ⅰ演習	2	△	4・0			
		基礎解析学Ⅱ演習	2	△	0・4			
		線形代数	2	△	0・2			
		微分方程式	2	△		0・2		
		解析学	2	△			2・0	
		確率・統計	2	△		0・2		

基礎理学療法学	臨床医学特論	2	○				2・0	
	障害学演習	2	△			2・0		
	日常生活活動学	2	○		0・4			
	実習							
	理学療法学概論	2	△		2・0			
	理学療法評価学	4	○		4・0			
	演習Ⅰ							
	理学療法評価学	4	△		0・4			
	演習Ⅱ							
	物理療法学実習	2	○		4・0			
	義肢装具学実習	2	○				4・0	
	運動療法学	2	△		2・0			
	運動療法学演習	2	△		0・2			
	理学療法評価学	2	○		2・0			
	運動系理学療法	2	○			2・0		
	学演習A							
理学療法治療学	運動系理学療法	2	○			0・2		
	学演習B							
	内部障害系理学療法	2	○			0・2		
	学演習A							
理学療法治療学	内部障害系理学療法	2	△			0・2		
	学演習B							

	医用数学	2	△		2・0		
	応用数学と臨床医工学	2	△			0・2	
物理	基礎力学演習	2	△	4・0			
	基礎物理学	2	△	0・2			
	物理学入門	2	△	0・2			
医学	免疫学	1	△		0・1		
	生化学	2	△		2・0		
	臨床生化学	1	△		0・1		
	病理学	1	△		0・1		
	薬理学	1	△			1・0	
	基礎医学特別演習	1	△				1・0
	臨床内科学総論	2	△			2・0	
	臨床外科学総論	2	△			0・2	
	チーム医療概論	1	△			1・0	
	応用医学総論	2	△				2・0
	臨床医学特別演習	1	△				1・0
電 気・	基礎電気工学	2	△	0・2			
	応用電気工学	2	△		2・0		

	小児系理学療法 学演習	2	△			2・0	
	神経系理学療法 学演習A	2	△		0・2		
	神経系理学療法 学演習C	2	○			0・2	
	スポーツ障害と リハビリテーシ ョン	2	△			2・0	
	老年系理学療法 学演習	2	○			0・2	
応用理 学療法 学	チームリハビリ テーション学特 論	2	○				2・0
	実践理学療法学 演習B	2	△			2・0	
	実践理学療法学 演習A	2	○			2・0	
	臨床理学療法学 演習A	2	△			0・2	
	総合理学療法学 演習A	2	○				2・0
	臨床理学療法学	2	△				2・0

電子工学	電気電子工学実験	2	△		4・0		
	基礎電子工学	2	△		2・0		
	応用電子工学	2	△		0・2		
	医用電気電子工学演習	1	△		0・1		
	医用情報工学演習	1	△			0・1	
	医用工学特別演習	2	△				0・2
機械工学	医用機械工学演習	1	△		0・1		
	医用材料工学	2	△	0・2			
	生体物性工学	2	△		0・2		
	医用機械工学	2	△		0・2		
	メカトロニクス	2	△			2・0	
	基礎製図演習	2	△			2・0	
	製図・CAD 実習	1	△			2・0	
	計測工学	2	△		2・0		
医用機器学	医用機器学概論	2	△	0・2			
	医用計測学	2	△			2・0	
	生体計測装置学	2	△		0・2		
	医用生体計測学演習	1	△			0・1	

卒業研究・学外実習	演習B						
	総合理学療法学	2	○				0・2
	演習C						
	臨床理学療法学	2	△				0・2
	演習C						
	総合理学療法学	2	○				0・2
	演習B						
	運動障害予防学	2	△		0・2		
	理学療法管理学	2	○			0・2	
	地域理学療法学	2	○			0・2	
	演習						
	臨床理学療法学	2	△				2・0
	特論						
	地域健康支援実習	2	○			2・2	
	臨床実習1	1	○	0・2			
	臨床実習2	3	○			6・0	
	臨床実習3	6	○			0・12	
	臨床実習4	10	○				0・20
	卒業研究	8	○				◎・◎
キャリア	アカデミック・	2	△	2・0			必修科目4

		生体計測装置学実習	2	△		0・4		
		医用治療機器学	2	△		2・0		
		医療安全管理学	2	△		2・0		
		医用機器安全管理学実習	2	△		4・0		
		医用機器学・安全管理学特別演習	2	△			2・0	
		臨床支援技術学	2	△		0・2		
	生体機能代行技術学	呼吸療法装置学	2	△		2・0		
		血液浄化療法装置学	2	△		0・2		
		体外循環装置学	2	△		2・0		
		生体機能代行装置学実習	2	△		0・4		
		臨床工学技士総合演習	2	△			0・2	
	健康福祉工学	認知科学とデザイン	2	△		2・0		
		ヒト型ロボット製作実習	2	△		4・0		
		ヒト型ロボット制御実習	2	△		0・4		

形成科目	ライティング						単位、選
	ベーシックキャリアデザイン	2	△		2・0		択科目を
	医療接遇マナー学	2	○	0・2			あわせて4
	キャリアデザイン	2	△		0・2		単位から1
	スキルアップセミナー	2	○	2・0			0単位まで

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

理学療法 学関連科目		創造製作実習	2	△			0・4	
	臨床	臨床実習（臨床工学）	7	△			0・14	
	実習	医療工学特別講義	2	△				0・2
	医療	健康情報学演習	2	△	2・0			
	工学	生体医工学実習	2	△		4・0		
	キャ	医療工学基礎実習	2	△	0・4			
	リア							
	形成	医療工学実習	2	△		4・0		
	基礎	機能解剖学	2	○	2・0			
		機能解剖学演習	2	△	0・2			
		運動学	2	○	0・2			
		運動学実習	2	△		4・0		
	医学	生理学演習	2	○		2・0		
		解剖学演習	2	○		2・0		
		基礎医学実習	2	△		0・4		
	臨床	一般臨床内科学	2	○		2・0		
		神経内科学	2	○		2・0		
	医学	リハビリテーション医	2	○	0・2			
		学						

		整形外科学	2	○		2・0		
		障害学演習	2	△		0・2		
		臨床精神医学	2	○			2・0	
		臨床医学探究	2	○				2・0
	基礎 理学 療法 学	接遇マナーとコミュニ ケーション	1	○	0・1			
		日常生活活動学実習	2	○		0・4		
		物理療法学実習	2	○		4・0		
		運動療法学実習	2	○		4・0		
		理学療法管理学	2	○			0・2	
		理学療法関係法規	2	△		2・0		
		理学療法評価学	2	○		2・0		
		理学療法評価学実習Ⅰ	2	○		4・0		
		理学療法評価学実習Ⅱ	2	○		0・4		
		生体動作探究	2	△	0・2			
		姿勢・動作解析学演習	2	△		0・2		
		義肢装具学実習	2	○			4・0	
		チームマネジメント	2	△		0・2		

	理学療法 治療学	神経系理学療法学演習	2	☐		<u>0・2</u>		
		A		b				
		内部障害系理学療法学	2	☐		<u>0・2</u>		
		演習 A		b				
		小児系理学療法学演習	2	☐			<u>2・0</u>	
				b				
		運動系理学療法学演習	2	☐		<u>0・2</u>		
		A		b				
		神経系理学療法学演習	2	☐		<u>0・2</u>		
		B		b				
		内部障害系理学療法学	2	☐			<u>2・0</u>	
		演習 B		b				
		老年系理学療法学演習	2	☐		<u>0・2</u>		
				b				
		運動系理学療法学演習	2	☐			<u>2・0</u>	
		B		b				
		神経系理学療法学演習	2	☐			<u>2・0</u>	
		C		b				

		予防理学療法学演習	2	<u>□</u> <u>b</u>			<u>0・2</u>	
		地域理学療法学演習	2	<u>○</u>			<u>0・2</u>	
		運動系理学療法学基礎 演習	2	<u>□</u> <u>b</u>			<u>0・2</u>	
		運動系理学療法学発展 演習	2	<u>□</u> <u>b</u>			<u>0・2</u>	
		神経系理学療法学基礎 演習	2	<u>□</u> <u>b</u>			<u>0・2</u>	
		神経系理学療法学発展 演習	2	<u>□</u> <u>b</u>			<u>0・2</u>	
		スポーツ理学療法特修 A	1	<u>□</u> <u>b</u>			<u>1・0</u>	
		スポーツ理学療法特修 B	1	<u>□</u> <u>b</u>			<u>0・1</u>	
	応用	実践理学療法学演習 A	2	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
	理学	実践理学療法学演習 B	2	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
	療法	臨床理学療法学演習 A	2	<u>△</u>			<u>0・2</u>	
	学	地域健康支援実習	2	<u>△</u>		<u>2・2</u>		

		チームリハビリテーション					
		ョン	<u>2</u>	<u>○</u>		<u>0・2</u>	
		総合理学療法学演習A	<u>2</u>	<u>○</u>			<u>0・2</u>
		総合理学療法学演習B	<u>2</u>	<u>○</u>			<u>0・2</u>
		総合理学療法学演習C	<u>2</u>	<u>△</u>			<u>0・2</u>
		臨床理学療法学演習B	<u>2</u>	<u>△</u>			<u>2・0</u>
	学外 実習	臨床理学療法学探究	<u>2</u>	<u>□</u> <u>b</u>			<u>2・0</u>
		臨床実習（理学療法） 1	<u>1</u>	<u>○</u>		<u>0・2</u>	
		臨床実習（理学療法） 2	<u>3</u>	<u>○</u>		<u>6・0</u>	
		臨床実習（理学療法） 3	<u>6</u>	<u>○</u>		<u>0・12</u>	
		臨床実習（理学療法） 4	<u>1</u>	<u>○</u>			<u>0・2</u>
		臨床実習（理学療法） 5	<u>10</u>	<u>○</u>			<u>0・20</u>
		ス ポ ー ツ ・ 体 育 ・ ス ポ ー ツ 原 理	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	

ひ と・ 社会 と スポ ーツ	体育・スポーツ社会学	2	△		0・2		
	スポーツマネジメント	2	△			2・0	
	論						
	スポーツビジネス論	2	△				2・0
	スポーツバイオメカニ	2	△		2・0		
	クス						
	運動生理学	2	△		2・0		
	体力測定評価演習	2	△		2・0		
	健康スポーツ科学実習	1	△		0・2		
	スポーツ栄養学演習	2	△			2・0	
	運動生理学実習	1	△			0・2	
ここ ろと スポ ーツ	体育・スポーツ心理学	2	△		2・0		
	健康心理学	2	△			2・0	
	スポーツ医学と救急救 命演習	2	△		0・2		

	スポ ーツ 医学						
		精神医学	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
	スポ ーツ 教育	スポーツ教育学	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>0・1</u>		
		スポーツ教育学基礎演 習 1	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・1</u>	
		スポーツ教育学基礎演 習 2	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>1・0</u>	
		スポーツ教育学応用演 習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>1・1</u>	
		学校保健	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		トレーニング論	<u>2</u>	<u>△</u>	<u>2・0</u>		
		スポーツコーチング論	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>0・1</u>		
	スポ ーツ コー チン グ	スポーツトレーニング 実習	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
		スポーツコーチング実 習	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
		スポーツ指導実習	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		生活習慣病と介護予防	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	

ヘル	健康運動指導基礎演習	2	△		0・2		
ス	健康トレーニング実習	1	△			2・0	
プロ							
モー	健康運動指導応用演習	2	△			0・2	
ショ							
ン							
生涯	スポーツ・レクリエー ション論	2	△		2・0		
スポ	スポーツ・レクリエー						
ーツ	ション実習	1	△		0・2		
	アダプテッドスポーツ	2	△				2・0
e スポ	e スポーツ科学概論	1	△			1・0	
ーツ	e スポーツ科学演習	1	△			1・0	
スポ	スポーツ方法実習（器 械運動）	1	△	2・0			
ーツ	スポーツ方法実習（ベ ースボール型球技）	1	△	2・0			
方法	スポーツ方法実習（ネ ット型球技Ⅰ）	1	△	0・2			

スポーツ方法実習（陸上競技）	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>0・2</u>			
野外活動	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>		
スポーツ方法実習（ネット型球技 2）	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>		
スポーツ方法実習（武道）	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>		
スポーツ方法実習（eスポーツ）	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>		
スポーツ方法実習（水泳・水中運動）	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
体づくり運動と運動遊び	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
スポーツ方法実習（ダンス）	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
スポーツ方法実習（海洋スポーツ）	<u>1</u>	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
スポーツ方法実習（バスケットボール）	<u>1</u>	<u>△</u>			<u>2・0</u>	

	スポーツ方法実習（ニ ュースポーツ）	1	△			2・0	
	スポーツ方法実習（冬 季スポーツ）	1	△			0・2	
	スポーツ方法実習（ゴ ール型球技）	1	△			0・2	

（注） 必選欄 ○：必修科目 □b：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—9 健康情報学部 健康情報学科 健康スポーツ科学専攻

（1） 共通科目

（2025年度からの教育課程）

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件 単位
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
人文・社会・自然群	大学の総合教養	2	△	2・0	—	—	—	必修科目
	の学総合ゼミナール	2	△	2・0	—	—	—	8単位、選
	びり社会生活と法	2	△	2・0	—	—	—	択必修科
	テラOECU概論Ⅰ	1	△	1・0	—	—	—	目1単位
	シーエレクトロニクス入門	2	△	2・0	—	—	—	以上(□a
	異文化の理解	2	△	0・2	—	—	—	から1単

別表第1—9 医療健康科学部 健康スポーツ科学科

（1） 総合科目

（2020年度からの教育課程）

区分	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件 単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	
人文・社会・自然群	大学の総合教養	2	△	2・0	—	—	—	選択必修
	の学総合ゼミナール	2	△	2・0	—	—	—	科目1単
	びり社会生活と法	2	△	2・0	—	—	—	位以上
	テラOECU概論Ⅰ	1	△	1・0	—	—	—	(□aから
	シーエレクトロニクス入門	2	△	2・0	—	—	—	1単位以
	異文化の理解	2	△	0・2	—	—	—	上)、選

		政治学	2	△	0・2	—	—	—	位以上)、
		発達心理学	2	△	0・2	—	—	—	選 択 科 目
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0	—	—	—	を あ わ せ
	視野	アジアの言語と文化	2	△	0・2	—	—	—	て 20 単位
	を広	ヨーロッパの言語と文	2	△	0・2	—	—	—	から 34 単
	げる	化	2	△	0・2	—	—	—	位まで
		大阪の文化と歴史	2	△	0・2	—	—	—	
		高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2	—	—	—	
		からだの科学	2	△	2・0	—	—	—	
		現代社会を考える	2	△	2・0	—	—	—	
		歴史学の世界	2	△	2・0	—	—	—	
	社会	経済学の世界	2	△	2・0	—	—	—	
	とつ	哲学の世界	2	△	2・0	—	—	—	
	なが	文学の世界	2	△	0・2	—	—	—	
	る	日本国憲法	2	△	0・2	—	—	—	
		教育制度論	2	△	2・0	—	—	—	
		ジェンダー論	2	△	0・2	—	—	—	
		国際コミュニケーション	2	△	2・0	—	—	—	
自 然 群		情報活用リテラシー	2	△	2・0	—	—	—	択科目を あわせて
		エレクトロニクス入門	2	△	2・0	—	—	—	14単位か ら40単位
	視野を	異文化の理解	2	△	0・2	—	—	—	まで
	広げる	社会生活と法	2	△	0・2	—	—	—	
		発達心理学	2	△	0・2	—	—	—	
		アジアの言語と文化	2	△	0・2	—	—	—	
		ヨーロッパの言語と文化	2	△	0・2	—	—	—	
		大阪の文化と歴史	2	△	0・2	—	—	—	
		高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2	—	—	—	
		からだの科学	2	△	0・2	—	—	—	
		今日の医療医学の課題	2	△	0・2	—	—	—	
	社会と つなが る	現代社会を考える	2	△	—	—	—	2・0	
		歴史学の世界	2	△	—	—	—	2・0	
		経済学の世界	2	△	—	—	—	2・0	

外国語群	世界を知る						
		平和学	2	△	2・0	—	—
	日本を知る	日本の近代史	2	△	0・2	—	—
		企業社会と労働	2	△	0・2	—	—
		文字の文化と歴史	2	△	—	0・2	—
	英語	Core English 1	1	□ a	2・0	—	—
		Core English 2	1	□ a	0・2	—	—
		Core English 3	1	□ a	2・0	—	—
		Core English 4	1	□ a	0・2	—	—
		Practical English 1	1	□ a	—	2・0	—
		Practical English 2	1	□ a	—	0・2	—
		日本語 I	1	△	—	2・0	—

外国語群		哲学の世界	2	△	—	2・0	—
		日本語上達法2	2	△	—	[2・0]	—
						[0・2]	—
		文学の世界	2	△	—	0・2	—
		日本国憲法	2	△	—	0・2	—
		教育制度論	2	△	—	0・2	—
		ジェンダー論	2	△	—	0・2	—
		情報社会と情報倫理	2	△	—	0・2	—
		文字の文化と歴史	2	△	—	0・2	—
		世界を知る					
	英語	国際交流論	2	△	—	2・0	—
		平和学	2	△	—	2・0	—
		日本を知る					
		日本の近代史	2	△	—	0・2	—
		企業社会と労働	2	△	—	0・2	—
		Core English 1	1	□ a	2・0	—	—
		Core English 2	1	□ a	0・2	—	—
		Core English 3	1	□ a	2・0	—	—
		Core English 4	1	□ a	0・2	—	—
		Intermediate E	1	□ a	—	2・0	—

	日本語	日本語 2	1	△	—	0・2	—	—
		日本語 3	1	△	—	—	2・0	—
		日本語 4	1	△	—	—	0・2	—
		中国語 1	1	△	—	2・0	—	—
	中国語	中国語 2	1	△	—	0・2	—	—
		中国語 3	1	△	—	—	2・0	—
		中国語 4	1	△	—	—	0・2	—
		日本語上達法 1	2	△	2・0	—	—	—
	プロジェクトスキル形成群	日本語上達法 2	2	△	—	2・0	—	—
		アカデミック・ライティング	2	○	0・2	—	—	—
		地域プロジェクト活動	2	△	—	0・2	—	—
		グローバル研修	2	△	—	—	2・0	—
		グローバル研修（英語）	2	△	—	—	2・0	—
		キャリアデザイン	2	○	—	—	0・2	—

	英語	English 1						
		Intermediate English 1		□a		0・2		
		English 2						
		医学英語1	1	□a			2・0	
	中国語	医学英語2	1	□a			0・2	
		中国語1	1	△		2・0		
		中国語2	1	△		0・2		
		中国語3	1	△			2・0	
		中国語4	1	△			0・2	

（注） 必選欄 □a：選択必修科目 △：選択科目

情報基礎群	社会を知る	キャリア形成論	2	△	—	—	1・1	—
		インターンシップ	2	△	—	—	2・2	—
	情報	AI・データサイエンス入門	2	△	2・0	—	—	—
		コンピュータリテラシー1	2	○	2・0	—	—	—
		コンピュータリテラシー2	2	○	0・2	—	—	—
		プログラミング基礎演習	2	△	0・2	—	—	—

(注) 必選欄 □a: 選択必修科目 △: 選択科目

(2) 専門教育科目

(2025年度からの教育課程)

区分			単位 数	必 選	週時間数				卒業 要件 単位数
					1年次 前期・ 後期	2年次 前期・ 後期	3年次 前期・ 後期	4年次 前期・ 後期	
学科 共通	健康 分野	基礎	健康科学基礎1	2	△	2・0			必修科
		科学	健康科学基礎2	2	△	2・0			目13単

(2) 専門教育科目

(2020年度からの教育課程)

区分		授業科目	単 位 数	必 選	週時間数				卒業要件	
					1年次 前期・ 後期	2年次 前期・ 後期	3年次 前期・ 後期	4年次 前期・ 後期	単位数	
専	基礎	数学基礎演習	2	△	2・0				必修科目1	

			健康情報学概論	2	△	2・0				位、選択
			OEUC 概論 2	1	△	1・0				必修科目 20 単位以上
医学			医学概論	2	△	2・0				(□ b から 2 単位以上)、
			医療関係法規	1	△	0・1				選択科目 あわせて、90 単位から 104 単位まで
			公衆衛生学	1	△	0・1				
			スポーツコンディショニング	2	△		2・0			
			スポーツリハビリテーション	2	△			2・0		
			解剖生理学 1	2	△	2・0				
			解剖生理学 2	2	△	0・2				
身体機能			基礎運動学	2	△	2・0				
			コミュニケーション論	2	△	2・0				
心身の健康			心理学	2	△	0・2				
			ヘルスプロモーション論	1	□ b	0・1				
			栄養学	2	△		0・2			
			発育発達学	2	△		0・2			
			社会福祉概論	2	△			0・2		
門 科 目	科学		基礎解析演習	2	△	2・0				7 単位、選択科目を あわせて 80 単位から 110 単位まで
			健康スポーツ統計入門	2	△		0・2			
			力学演習	2	△	2・0				
			生物学	2	△	2・0				
			化学	2	△	2・0				
			物理学基礎演習	2	△	0・2				
			コンピュータリテラシー実習 1	1	△	2・0				
			コンピュータリテラシー実習 2	1	△	0・2				
			プログラミング基礎実習 1	1	△	2・0				
			プログラミング基礎実習 2	1	△	0・2				
	身体機能		バイオメカニクス	2	△		0・2			
			解剖学	2	○	2・0				
			生理学	2	△	0・2				
			生化学	2	△	0・2				
			運動生理学	2	○		2・0			
			機能解剖学	2	△		2・0			

情報分野	生涯スポーツ	生涯スポーツ実習 A	1	△	2・0			
		身体・スポーツ文化論	2	△	0・2			
		生涯スポーツ実習 B	1	△	0・2			
		生涯スポーツ論	1	□ b	0・1			
	データサイエンス	データサイエンス基礎	2	△		2・0		
		人工知能	2	△			0・2	
		プログラミング応用実習	2	△		4・0		
		データ処理プログラミング	2	△		0・4		
		医療健康統計入門	2	△		0・2		
		医療健康統計演習	2	△			2・0	
		医療データサイエンス演習	2	△			0・2	
		情報工学基礎演習	2	△		0・2		
	工学・	情報システム工学	2	△			2・0	
		医療情報システム	2	△			2・0	

スポーツ医学	神経筋生理学	2	△	0・2			
	運動生理学・実習	4	△			0・6	
	発育・発達と老化	2	△		0・2		
	栄養学	2	△		0・2		
	スポーツ栄養学演習	2	△			2・0	
	リハビリテーション工学	2	△				0・2
	公衆衛生と医療の法律	2	△		0・2		
	スポーツコンディショニング演習	2	△			2・0	
	スポーツ医学と救急救命演習	2	△		2・0		
	精神医学	2	△			0・2	
	スポーツリハビリテーション演習	2	△				2・0
	運動療法学	2	△		2・0		

医療工学関連科目	システム						
		スポーツ情報学	2	△	0・2		
		スポーツ情報学演習	2	△		2・0	
		ゲーム分析実習	1	△		0・2	
		スポーツ計測システム	1	△		0・2	
		実習					
		スポーツ工学	2	△		0・2	
		スポーツ計測システム	1	△			2・0
		開発実習					
		スポーツシミュレーション	2	△			2・0
		プレゼミ	2	○		2・0	
		ゼミナール	2	○		0・2	
		卒業研究	8	○			◎・◎
	数学	基礎解析学Ⅰ演習	2	△	4・0		
		基礎解析学Ⅱ演習	2	△	0・4		
		線形代数	2	△	0・2		
		微分方程式	2	△		0・2	

スポーツ情報	運動障害と予防	2	△			2・0	
	生体計測学	2	△		2・0		
	生体計測学演習	2	△		0・4		
	スポーツ情報処理入門	2	△			0・2	
	生体電気計測学	2	△			0・2	
	演習						
	健康スポーツ統計演習	2	△			2・0	
	スポーツICT演習	2	△			0・2	
	プログラミング	2	△			0・2	
	応用演習						
	体力測定と評価	2	△		0・2		
	コミュニケーション論	2	△	2・0			
	スポーツ教育学	2	△	0・2			
	器械運動	1	△	2・0			
	ソフトボール	1	△	2・0			
	バレーボール	1	△	0・2			
	スポーツトレーニング	1	○	0・2			

		解析学	2	△			2・0	
		確率・統計	2	△		0・2		
		医用数学	2	△		2・0		
		応用数学と臨床医工学	2	△			0・2	
物理		基礎力学演習	2	△	4・0			
		基礎物理学	2	△	0・2			
		物理学入門	2	△	0・2			
医学		免疫学	1	△		0・1		
		生化学	2	△		2・0		
		臨床生化学	1	△		0・1		
		病理学	1	△		0・1		
		薬理学	1	△			1・0	
		基礎医学特別演習	1	△				1・0
		臨床内科学総論	2	△			2・0	
		臨床外科学総論	2	△			0・2	
		チーム医療概論	1	△			1・0	
		応用医学総論	2	△				2・0
		臨床医学特別演習	1	△				1・0

		エアロビックダンス	1	△	0・2			
		スキー・スノーボード	1	△	0・2			
		バスケットボール	1	△				0・2
		創作ダンス	1	△		2・0		
		水泳・水中運動	1	△		0・2		
		陸上競技	1	△		2・0		
		テニス	1	△		0・2		
		武道	1	△		2・0		
		野外活動・基礎実習	1	△		2・0		
		野外活動・応用実習	1	△			2・0	
		運動学	2	△	2・0			
		スポーツ文化論	2	△	0・2			
		体育原理	2	△	0・2			
		体育心理学	2	△		2・0		
		学校保健	2	△		0・2		
		体育社会学	2	△			2・0	
スポ		パフォーマンス	2	△			0・2	

電 気・ 電子 工学 機 械 工 学 医 用 機 器 学	基礎電気工学	2	△	0・2			
	応用電気工学	2	△		2・0		
	電気電子工学実験	2	△		4・0		
	基礎電子工学	2	△		2・0		
	応用電子工学	2	△		0・2		
	医用電気電子工学演習	1	△		0・1		
	医用情報工学演習	1	△			0・1	
	医用工学特別演習	2	△				0・2
	医用機械工学演習	1	△		0・1		
	医用材料工学	2	△	0・2			
	生体物性工学	2	△		0・2		
	医用機械工学	2	△		0・2		
	メカトロニクス	2	△			2・0	
	基礎製図演習	2	△			2・0	
	製図・CAD 実習	1	△			2・0	
	計測工学	2	△		2・0		
	医用機器学概論	2	△	0・2			
	医用計測学	2	△			2・0	

ー ツ コ ー チ ン グ	分析演習						
	スポーツ指導実 習(評定競技系)	1	△		0・2		
	スポーツ指導実 習(判定競技系)	1	△				2・0
	スポーツ指導実 習(測定競技系)	1	△				0・2
	スポーツコー チング実習	1	△				2・0
	ヘル ス プ ロ モ ー シ ョ ン	2	△			2・0	
	生活習慣病・健 康管理概論	2	△		2・0		
	健康づくり運動 の理論と施策	2	△	0・2			
	運動と心の健康 増進	2	△		2・0		
	運動行動変容の 理論と実際	2	△		0・2		
	健康運動指導演 習	2	△			2・0	
	健康運動指導学 特別演習	2	△			0・2	

	生体計測装置学	2	△		0・2		
	医用生体計測学演習	1	△			0・1	
	生体計測装置学実習	2	△		0・4		
	医用治療機器学	2	△		2・0		
	医療安全管理学	2	△			2・0	
	医用機器安全管理学実習	2	△			4・0	
	医用機器学・安全管理学特別演習	2	△				2・0
	臨床支援技術学	2	△			0・2	
生体機能代行技術学	呼吸療法装置学	2	△		2・0		
	血液浄化療法装置学	2	△		0・2		
	体外循環装置学	2	△			2・0	
	生体機能代行装置学実習	2	△			0・4	
	臨床工学技士総合演習	2	△				0・2
健康	認知科学とデザイン	2	△			2・0	
福祉	ヒト型ロボット製作実習	2	△			4・0	
工学							

	健康運動指導実技	1	△			2・0	
	スポーツ方法実習1	1	△			2・0	
	スポーツ方法実習2	1	△				2・0
	福祉環境デザイン論	2	△				2・0
生涯スポーツ	スポーツビジネス論	2	△				2・0
	アダプテッドスポーツ	2	△				2・0
	スポーツ・レクリエーション論	2	△		2・0		
	生涯スポーツ実習(集団種目)	1	△			2・0	
	生涯スポーツ実習(個人種目)	1	△			2・0	
	スポーツ・レクリエーション実習(個人)	1	△		0・2		
	スポーツ・レクリエーション実	1	△			2・0	

理学療法学科 関連科目	臨床 実習	ヒト型ロボット制御実 習	2	△			0・4	
		創造製作実習	2	△			0・4	
		臨床実習（臨床工学）	7	△			0・14	
		医療工学特別講義	2	△				0・2
		医療 健康情報学演習	2	△	2・0			
		工学 生体医工学実習	2	△		4・0		
		キャ 医療工学基礎実習	2	△	0・4			
		リア 医療工学実習	2	△			4・0	
		形成						
	基礎 医学	機能解剖学	2	△	2・0			
		機能解剖学演習	2	△	0・2			
		運動学	2	△	0・2			
		運動学実習	2	△		4・0		
		生理学演習	2	△		2・0		
		解剖学演習	2	△		2・0		
		基礎医学実習	2	△		0・4		
		臨床 一般臨床内科学	2	△		2・0		
		医学 神経内科学	2	△		2・0		

卒業 研 究・ ゼミ ナー ル	習(集団)						
	スポーツ施設・ 用具論	2	△			0・2	
	フィットネス産 業論	2	△			0・2	
	スポーツ指導演 習	2	△			0・2	
	スポーツマネジ メント論	2	△			2・0	
	スポーツクラブ 実習	1	△			2・0	
	健康スポーツ科 学と医学概論	2	△	2・0			
	プレゼミ	4	○			2・2	
	卒業研究	8	○				◎・ ◎
	キャリア 形成科目						
	キャリアデザイン	2	△		0・2		4単位から 8単位まで
	アカデミック・ ライティング	2	△		2・0		
	地域連携・ボラ ンティア演習	2	△		0・2		

		リハビリテーション医					
		学	<u>2</u>	<u>△</u>	<u>0・2</u>		
		整形外科学	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
		障害学演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		臨床精神医学	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
		臨床医学探究	<u>2</u>	<u>△</u>			<u>2・0</u>
	基礎 理学 療法 学	接遇マナーとコミュニ					
		ケーション	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>0・1</u>		
		日常生活活動学実習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・4</u>	
		物理療法学実習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>4・0</u>	
		運動療法学実習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>4・0</u>	
		理学療法管理学	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		理学療法関係法規	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
		理学療法評価学	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
		理学療法評価学実習Ⅰ	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>4・0</u>	
		理学療法評価学実習Ⅱ	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・4</u>	
		生体動作探究	<u>2</u>	<u>△</u>	<u>0・2</u>		
		姿勢・動作解析学演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		義肢装具学実習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>4・0</u>	

インターンシッ	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>		
プ						

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

		チームマネジメント	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		神経系理学療法学演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		A						
		内部障害系理学療法学	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		演習 A						
		小児系理学療法学演習	<u>2</u>	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
		運動系理学療法学演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		A						
	理学	神経系理学療法学演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
	療法	B						
	治療	内部障害系理学療法学	<u>2</u>	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
	学	演習 B						
		老年系理学療法学演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		運動系理学療法学演習	<u>2</u>	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
		B						
		神経系理学療法学演習	<u>2</u>	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
		C						
		予防理学療法学演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		地域理学療法学演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		

		運動系理学療法学基礎					
		演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		運動系理学療法学発展					
		演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		神経系理学療法学基礎					
		演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		神経系理学療法学発展					
		演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
	応用 理学 療法 学	スポーツ理学療法特修					
		A	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>1・0</u>	
		スポーツ理学療法特修					
		B	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・1</u>	
		実践理学療法学演習 A	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
		実践理学療法学演習 B	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
		臨床理学療法学演習 A	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		地域健康支援実習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・2</u>	
		チームリハビリテーシ					
		ョン	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
		総合理学療法学演習 A	<u>2</u>	<u>△</u>			<u>0・2</u>

		総合理学療法学演習 B	<u>2</u>	<u>△</u>				<u>0・2</u>
		総合理学療法学演習 C	<u>2</u>	<u>△</u>				<u>0・2</u>
		臨床理学療法学演習 B	<u>2</u>	<u>△</u>				<u>2・0</u>
		臨床理学療法学探究	<u>2</u>	<u>△</u>				<u>2・0</u>
	学外 実習	臨床実習（理学療法） <u>1</u>	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		臨床実習（理学療法） <u>2</u>	<u>3</u>	<u>△</u>			<u>6・0</u>	
		臨床実習（理学療法） <u>3</u>	<u>6</u>	<u>△</u>			<u>0・12</u>	
		臨床実習（理学療法） <u>4</u>	<u>1</u>	<u>△</u>				<u>0・2</u>
		臨床実習（理学療法） <u>5</u>	<u>10</u>	<u>△</u>				<u>0・20</u>
	スポーツ科学 関連科目	体育・スポーツ原理	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>		
		体育・スポーツ社会学	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>		
		スポーツマネジメント 論	<u>2</u>	<u>△</u>			<u>2・0</u>	
		スポーツビジネス論	<u>2</u>	<u>△</u>				<u>2・0</u>

ス ポ ー ツ						
ス ポ ー ツ	スポーツバイオメカニクス	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
と	運動生理学	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
から	体力測定評価演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
だ	健康スポーツ科学実習	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
	スポーツ栄養学演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
	運動生理学実習	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
こ こ	体育・スポーツ心理学	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
ろ と						
ス ポ ー ツ	健康心理学	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
ス ポ ー ツ	スポーツ医学と救急救命演習	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
医 学	精神医学	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
	スポーツ教育学	<u>1</u>	<u>□</u> <u>b</u>	<u>0・1</u>		

		スポーツ教育学基礎演習 1	1	△		0・1		
	スポーツ教育	スポーツ教育学基礎演習 2	1	△			1・0	
		スポーツ教育学応用演習	2	△			1・1	
		学校保健	2	△			0・2	
	スポーツコーチング	トレーニング論	2	△	2・0			
		スポーツコーチング論	1	□ b	0・1			
		スポーツトレーニング実習	1	△		2・0		
		スポーツコーチング実習	1	△			2・0	
		スポーツ指導実習	1	△			0・2	
	ヘルス	生活習慣病と介護予防	2	△		0・2		
	ス	健康運動指導基礎演習	2	△		0・2		
	プロ	健康トレーニング実習	1	△			2・0	
	モー	健康運動指導応用演習	2	△			0・2	

シ ョ ン						
生涯	スポーツ・レクリエー ション論	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	
スポ ーツ	スポーツ・レクリエー ション実習	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>0・2</u>	
	アダプテッドスポーツ	<u>2</u>	<u>△</u>			<u>2・0</u>
eスポ ーツ	eスポーツ科学概論	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>1・0</u>	
	eスポーツ科学演習	<u>1</u>	<u>△</u>		<u>1・0</u>	
スポ ーツ 方法	スポーツ方法実習（器 械運動）	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>2・0</u>		
	スポーツ方法実習（ベ ースボール型球技）	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>2・0</u>		
	スポーツ方法実習（ネ ット型球技Ⅰ）	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>0・2</u>		
	スポーツ方法実習（陸 上競技）	<u>1</u>	<u>△</u>	<u>0・2</u>		
	野外活動	<u>2</u>	<u>△</u>		<u>2・0</u>	

スポーツ方法実習（ネット型球技 2）	1	△		2・0		
スポーツ方法実習（武道）	1	△		2・0		
スポーツ方法実習（eスポーツ）	1	△		2・0		
スポーツ方法実習（水泳・水中運動）	1	△		0・2		
体づくり運動と運動遊び	1	△		0・2		
スポーツ方法実習（ダンス）	1	△		0・2		
スポーツ方法実習（海洋スポーツ）	1	△			2・0	
スポーツ方法実習（バスケットボール）	1	△			2・0	
スポーツ方法実習（ニユースポーツ）	1	△			2・0	

	スポーツ方法実習（冬 季スポーツ）	Ⅰ	△			0・2		
	スポーツ方法実習（ゴ ール型球技）	Ⅰ	△			0・2		

（注） 必選欄 □b：選択必修科目 △：選択科目

別表第Ⅰ—10 情報通信工学部 情報工学科

（略）

別表第Ⅰ—11 情報通信工学部 通信工学科

（略）

別表第Ⅰ—12 総合情報学部 デジタルゲーム学科、ゲーム＆メディア学科

（略）

別表第Ⅰ—13 総合情報学部 情報学科

（略）

別表第Ⅰ—14 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科

（略）

別表第2 教職課程

（Ⅰ） 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部電気電子工学科

（略）

別表第Ⅰ—10 情報通信工学部 情報工学科

（略）

別表第Ⅰ—11 情報通信工学部 通信工学科

（略）

別表第Ⅰ—12 総合情報学部 デジタルゲーム学科、ゲーム＆メディア学科

（略）

別表第Ⅰ—13 総合情報学部 情報学科

（略）

別表第Ⅰ—14 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科

（略）

別表第2 教職課程

（Ⅰ） 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部電気電子工学科

（略）

- (2) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部電子機械工学科
(略)
- (3) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部機械工学科
(略)
- (4) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部基礎理工学科
(略)
- (5) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部環境科学科
(略)
- (6) 教科及び教科の指導法に関する科目 健康情報学部健康情報学
科

(2025年度からの教育課程)

免許 教科	免許法施行規則 に定める科目区 分等		授業科目	単 位 数	必 選	週時間数			
						1年次	2年次	3年次	4年次
						前 期・ 後期	前 期・ 後期	前 期・ 後期	前 期・ 後期
数学	教科に 関する 専門的 事項	代数学	代数学Ⅰ	2	○		0・2		
			代数学2	2	△			2・0	
		幾何学	幾何学Ⅰ	2	○		2・0		
			幾何学2	2	△			0・2	
	各教科の指導法		数学科教育法Ⅰ	2	○		2・0		

- (2) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部電子機械工学科
(略)
- (3) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部機械工学科
(略)
- (4) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部基礎理工学科
(略)
- (5) 教科及び教科の指導法に関する科目 工学部環境科学科
(略)
- (6) 教科及び教科の指導法に関する科目 医療健康科学部医療科学
科

(2022年度からの教育課程)

免許 教科	免許法施行規則 に定める科目区 分等		授業科目	単 位 数	必 選	週時間数			
						1年次	2年次	3年次	4年次
						前 期・ 後期	前 期・ 後期	前 期・ 後期	前 期・ 後期
数学	教科に 関する 専門的 事項	代数学	代数学Ⅰ	2	○		0・2		
			代数学2	2	△			2・0	
		幾何学	幾何学Ⅰ	2	○		2・0		
			幾何学2	2	△			0・2	
	各教科の指導法		数学科教育法Ⅰ	2	○		2・0		

		(情報通信技術 の活用を含 む。)	数学科教育法2	2	○	0・2		
			数学科教育法3 ＊	2	△		2・0	
			数学科教育法4 ＊	2	△		0・2	
工業	教科に 関する 専門的 事項	職業指導	職業指導	2	○	2・0		
	各教科の指導法 (情報通信技術 の活用を含 む。)	工業科教育法1	2	○	2・0			
		工業科教育法2	2	○	0・2			
保健 体育	各教科の指導法 (情報通信技術 の活用を含 む。)	保健体育科教育 法1	2	○	2・0			
		保健体育科教育 法2	2	○	0・2			
		保健体育科教育 法3＊	2	△	2・0			
		保健体育科教育 法4＊	2	△	0・2			

		(情報通信技術 の活用を含 む。)	数学科教育法2	2	○	0・2		
			数学科教育法3 ＊	2	△		2・0	
			数学科教育法4 ＊	2	△		0・2	
工業	教科に 関する 専門的 事項	職業指導	職業指導	2	○	2・0		
	各教科の指導法 (情報通信技術 の活用を含 む。)	工業科教育法1	2	○	2・0			
		工業科教育法2	2	○	0・2			
情報	情報と職業	情報と職業	2	○	0・2			

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) ＊印の授業科目は、中一種必修とする。

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(7) 削除

(8) 教科及び教科の指導法に関する科目 情報通信工学部情報工学科

(7) 教科及び教科の指導法に関する科目 医療健康科学部健康スポーツ科学科

(2022年度からの教育課程)

免許 教科	免許法施行規則 に定める科目区 分等	授業科目	単 位 数	必 選	週時間数			
					1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期
保健 体育	各教科の指導法 (情報通信技術 の活用を含む。)	保健体育科教育 法1	2	○		2・0		
		保健体育科教育 法2	2	○		0・2		
		保健体育科教育 法3 *	2	△			2・0	
		保健体育科教育 法4 *	2	△			0・2	

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(8) 教科及び教科の指導法に関する科目 情報通信工学部情報工学科

(略)

(9) 教科及び教科の指導法に関する科目 情報通信工学部通信工学科

(略)

(10) 削除

(11) 教科及び教科の指導法に関する科目 総合情報学部情報学科

(略)

(12) 教育の基礎的理解に関する科目等

工学部、情報通信工学部、医療健康科学部、総合情報学部

(2022年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単 位 数	必 選	週時間数			
					1年次	2年次	3年次	4年次
					前 期・ 後期	前 期・ 後期	前 期・ 後期	前 期・ 後期
教育の 基礎的 理解に 関する 科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役	教育原理 教職論	2 2	○ ○		2・0 0・2		

(略)

(9) 教科及び教科の指導法に関する科目 情報通信工学部通信工学科

(略)

(10) 削除

(11) 教科及び教科の指導法に関する科目 総合情報学部情報学科

(略)

(12) 教育の基礎的理解に関する科目等

工学部、情報通信工学部、医療健康科学部、総合情報学部

(2022年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単 位 数	必 選	週時間数			
					1年次	2年次	3年次	4年次
					前 期・ 後期	前 期・ 後期	前 期・ 後期	前 期・ 後期
教育の 基礎的 理解に 関する 科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役	教育原理 教職論	2 2	○ ○		2・0 0・2		

割・職務内容 (チーム学校 運営への対応 を含む。)						
教育に関する 社会的、制度 的又は経営的 事項(学校と 地域との連携 及び学校安全 への対応を含 む。)	教育制度論	2	○		0・2	
幼児、児童及 び生徒の心身 の発達及び学 習の過程	教育心理学	2	○		2・0	
	発達心理学	2	△	0・2		
	現代社会と青年 の心理	2	△	2・0		
特別の支援を 必要とする幼 児、児童及び 生徒に対する 理解	特別ニーズ教育 の基礎と方法	2	○		2・0	
教育課程の意 義及び編成の	教育課程論	2	○		0・2	

割・職務内容 (チーム学校 運営への対応 を含む。)						
教育に関する 社会的、制度 的又は経営的 事項(学校と 地域との連携 及び学校安全 への対応を含 む。)	教育制度論	2	○		0・2	
幼児、児童及 び生徒の心身 の発達及び学 習の過程	教育心理学	2	○		2・0	
	発達心理学	2	△	0・2		
	現代社会と青年 の心理	2	△	2・0		
特別の支援を 必要とする幼 児、児童及び 生徒に対する 理解	特別ニーズ教育 の基礎と方法	2	○		2・0	
教育課程の意 義及び編成の	教育課程論	2	○		0・2	

	方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)							
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法 *	2	△		2・0		
	総合的な学習の時間の指導法	教育方法技術論と総合的な学習の時間の指導法	2	○		2・0		
	教育の方法及び技術							
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	情報通信技術活用論	2	○		2・0		
	特別活動の指導法	特別活動指導法	2	○		0・2		
	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論	2	○		0・2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							

	方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)							
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法 *	2	△		2・0		
	総合的な学習の時間の指導法	教育方法技術論と総合的な学習の時間の指導法	2	○		2・0		
	教育の方法及び技術							
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	情報通信技術活用論	2	○		2・0		
	特別活動の指導法	特別活動指導法	2	○		0・2		
	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論	2	○		0・2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							

	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2	○			0・2	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習Ⅰ	2	○				2・2
		教育実習2 *	2	△				2・2
		事前・事後指導	1	○				1・1
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	○				0・2

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

健康情報学部

(2025年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
科目	各科目に含めることが必要な事項				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
教育の基礎的	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2	○		2・0		

	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2	○			0・2	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習Ⅰ	2	○				2・2
		教育実習2 *	2	△				2・2
		事前・事後指導	1	○				1・1
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	○				0・2

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

理解 に関 する 科目	教職の意義及び 教員の役割・職 務内容(チーム学 校運営への対応 を含む。)	教職論	2	○	0・2		
	教育に関する社 会的、制度的又 は経営的事項(学 校と地域との連 携及び学校安全 への対応を含 む。)	教育制度論	2	○	0・2		
	幼児、児童及び 生徒の心身の発 達及び学習の過 程	教育心理学	2	○	2・0		
		発達心理学	2	△	0・2		
		現代社会と青年の心理	2	△	2・0		
	特別の支援を必 要とする幼児、 児童及び生徒に 対する理解	特別ニーズ教育の基礎 と方法	2	○	2・0		
		教育課程の意義 及び編成の方法 (カリキュラム・ マネジメントを 含む。)	2	○	0・2		
	道 徳、 総合 的な	道徳の理論及び 指導法	2	△	2・0		
		*					
		総合的な学習の					

学習 の時間等 の指導法 及び生徒 指導、 教育相談 等に関する 科目	時間の指導法	教育方法技術論と総合	2	○	2・0		
	教育の方法及び 技術	的な学習の時間の指導 法					
	情報通信技術を 活用した教育の 理論及び方法	情報通信技術活用論	2	○	2・0		
	特別活動の指導 法	特別活動指導法	2	○	0・2		
	生徒指導の理論 及び方法	生徒・進路指導論	2	○	0・2		
	進路指導及びキ ャリア教育の理 論及び方法						
	教育相談(カウン セリングに關す る基礎的な知識 を含む。)の理論 及び方法	教育相談	2	○	0・2		
	教育実習	教育実習Ⅰ	2	○			2・2
		教育実習Ⅱ *	2	△			2・2
		事前・事後指導	1	○			1・1
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	○			0・2

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(13) 大学が独自に設定する科目

(略)

別表第3 進級・卒業要件一覧表

(1) 工学部 電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科

(略)

(2) 工学部 基礎理工学科

(略)

(3) 健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻

(2025年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数
共通科目	必修科目		2単位
	選択必修科目a		1～6単位
	選択科目		17～31単位
	計		20～34単位
専門教育科目	必修科目	卒業研究	8単位
		卒業研究以外	6単位
	選択必修科目b		6～16単位
	選択必修科目c		6～12単位

(13) 大学が独自に設定する科目

(略)

別表第3 進級・卒業要件一覧表

(1) 工学部 電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科

(略)

(2) 工学部 基礎理工学科

(略)

(3) 医療健康科学部 医療科学科

(2020年度からの教育課程)

区分				卒業要件単位数
総合科目	人文・社会・自	選択必修科目a		1～8単位
	然群、外国語	選択科目		13～39単位
	群、健康・スポ	計		14～40単位
	ーツ群			
専門教育科目	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位
			卒業研究以外	7単位
		選択必修科目b		6～21単位
		選択科目		52～88単位
		計		73～109単位
		キャリア形成科目		選択必修科目c

	選択科目	64～78単位
	計	90～104単位
合計		124単位

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち94単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
国家試験受験資格取得に必要な指定科目

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教職に関する科目のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

	選択必修科目d	2～7単位
	選択科目	0～2単位
	計	5～15単位
合計		128単位

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち100単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
国家試験受験資格取得に必要な指定科目

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教職に関する科目のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、専門教育科目の実習科目の履修は認めない。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、専門教育科目で実習科目の履修は認めない。なお、プレゼミは履修登録すること。
- ③ 上記①、②とも、低学年配当の必修科目を優先して履修する。

(4) 健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻

(2025年度からの教育課程)

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、専門教育科目の実習科目の履修は認めない。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、専門教育科目で実習科目の履修は認めない。なお、プレゼミは履修登録すること。
- ③ 上記①、②とも、低学年配当の必修科目を優先して履修する。

(注3) 他学科履修について

医療健康科学部の他学科専門科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として30単位まで履修することができる。ただし、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目については履修できない。また、受講人数が多い場合は、履修制限を行う。

(4) 医療健康科学部 理学療法学科

(2020年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数
共通科目	必修科目		2単位
	選択必修科目a		1～ 6単位
	選択科目		17～21単位
	計		20～24単位
専門教育科目	必修科目	卒業研究	8単位
		卒業研究以外	72単位
	選択必修科目b		20～24単位
	選択科目		0～ 4単位
	計		100～104単位
	合計		
2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。		
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。		
4年次進級要件	休学・停学期間を除き3年以上在学していること。		
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。		

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。
ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単

区分			卒業要件単位数	
総合科目	人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群	選択必修科目a	1～8単位	
		選択科目	13～25単位	
		計	14～26単位	
専門教育科目	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位
			卒業研究以外	90単位
		選択科目		0～12単位
		計		98～110単位
キャリア形成科目		必修科目		4単位
		選択科目		0～6単位
		計		4～10単位
合計			128単位	

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	休学・停学期間を除き3年以上在学していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。
ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単

位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
国家試験受験資格取得に必要な指定科目

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ③ 上記①、②とも、低学年配当の必修科目を優先して履修する。

(5) 健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻

(2025年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数
共通科目	必修科目	8単位
	選択必修科目a	1～6単位
	選択科目	11～25単位
	計	20～34単位

位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目
国家試験受験資格取得に必要な指定科目

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ③ 上記①、②とも、低学年配当の必修科目を優先して履修する。

(5) 医療健康科学部 健康スポーツ科学科

(2020年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数
総合科目	人文・社会・自然群、外国語群	選択必修科目a	1～8単位
		選択科目	13～39単位
		計	14～40単位
専門教育科目	専門科目	必修科目	卒業研究
			卒業研究以外
		選択科目	63～93単位

専門教育科目	必修科目	卒業研究	8単位
		卒業研究以外	5単位
	選択必修科目b		2～ 4単位
	選択科目		75～89単位
	計		90～104単位
合計			124単位

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち94単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、44単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

	計	80～110単位
キャリア形成科目	選択科目	4～8単位
	計	4～8単位
合計		128単位

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位50単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち100単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、48単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者に、年間4単位の緩和措置を設けることがある。なお、緩和措置については当該年度内で有効とし、緩和措置の累積は行わない。また、次の科目の単位数については履修制限単位数に含めない。

履修登録する時点で夏期及び春期集中科目として開講予定の科目

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教職に関する科目のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。

- ③ 上記①②とも、低学年配当の必修科目を優先に履修する。

別表第2に定める教職課程の科目 ただし、教職に関する科目のうち次の科目は履修制限単位数に算入する。

発達心理学

現代社会と青年の心理

教育制度論

(注2) 留年生に対する特例措置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、次の学科で指定する授業科目の履修は認めない。

生体電気計測学演習、プログラミング応用演習、健康スポーツ統計演習、スポーツICT演習、スポーツ医学と救急救命演習、スポーツコンディショニング演習、スポーツ情報処理入門

- ③ 上記①②とも、低学年配当の必修科目を優先に履修する。

(注3) 他学科履修について

医療健康科学部の他学科専門科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として30単位まで履修することができる。ただし、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目については履修できない。また、受講人数が多い場合は、履修制限を行

(6) 情報通信工学部 情報工学科 (略) (7) 情報通信工学部 通信工学科 (略) (8) 総合情報学部 デジタルゲーム学科 (略) (9) 総合情報学部 ゲーム&メディア学科 (略) (10) 総合情報学部 情報学科 (略) (11) 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 (略)	<u>う。</u> (6) 情報通信工学部 情報工学科 (略) (7) 情報通信工学部 通信工学科 (略) (8) 総合情報学部 デジタルゲーム学科 (略) (9) 総合情報学部 ゲーム&メディア学科 (略) (10) 総合情報学部 情報学科 (略) (11) 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 (略)

○学部教授会規則

平成17年4月19日

制定

(趣旨)

第1条 この規則は、大阪電気通信大学学則(以下「学則」という。)第41条第3項の規定に基づき、学部教授会(以下「教授会」という。)の構成と運営に関し必要な事項を定める。

(構成)

第2条 教授会は、当該学部等所属の専任の教員をもって組織する。

- 2 この規則において「教員」とは、学則第38条に規定する教授、准教授及び講師をいう。
- 3 複数の学部等が合同で教授会を開催することができる。

(審議事項等)

第3条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
- (2) 学位の授与
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める次の事項
 - ア 教育課程に関する事項
 - イ 学生の身分の取扱いに関する事項
 - ウ 学生の学修指導及び評価に関する事項
 - エ 学生の厚生補導、賞罰に関する事項
 - オ 教育の改善及び研究に関する事項
 - カ 教員の人事選考に関する事項
 - キ 学部長等の選考に関する事項
 - ク 学部等に関する学則及び規則に関する事項
 - ケ 主任会から提起された事項
 - コ その他学部等の運営に関する事項
- 2 前項第1号の入学に関する事項については、合否判定会議の審議をもって代えることができる。
- 3 教授会は、第1項に規定するもののほか、学長、学部長及び機構長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の

求めに応じ、意見を述べることができる。

(主任会)

第4条 教授会は、教授会の構成員のうちの一部をもって構成される主任会を置くことができる。

2 主任会に関する事項は、別に定める。

(教員選考委員会)

第5条 第3条第1項第3号カの人事選考に関する事項を審議するため、教員選考委員会をおく。

2 教員選考委員会に関する規則は、別に定める。

(教授会の招集)

第6条 教授会は、あらかじめ議案を通知して、学部長等がこれを招集し、その議長となる。複数の学部等が合同で教授会を開催する場合には、議長は当該学部長等の間で定める。

2 学部長等が職務を遂行できないときは、学部長等の指名した者が、学部長等の職務を代行する。

(教授会の運営)

第7条 教授会の運営は、次のとおりとする。

(1) 教授会は、構成員の過半数の出席によって成立し、その議決は、構成員である出席者の過半数によって行う。ただし、可否同数の場合は、議長が決する。

(2) 前号の構成員数には休職中の者、在外研究員及び国内研究員の数は含めない。

(3) 教授会の議事は、議長の指名する書記によって記録し、次回教授会の冒頭に確認した後、議事録として構成員に公開するものとする。

(4) 教授会が必要と認めた場合、構成員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(改廃)

第8条 この規則の改廃は、教授会での意見を参酌し、運営会議の審議を経て学長が決定し、理事長へ報告する。

附 則

1 この規則は、平成17年5月1日から施行する。

2 学部教授会規則(平成7年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、2021年9月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

目次

① 設置の趣旨及び必要性	p. 2
② 学部・学科等の特色	p. 10
③ 学部・学科等の名称及び学位の名称	p. 12
④ 教育課程の編成の考え方及び特色	p. 13
⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p. 27
⑥ 編入学定員を設定する場合の具体的計画	p. 29
⑦ 実習の具体的計画	p. 29
⑧ 企業実習（インターンシップを含む）や 海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	p. 38
⑨ 取得可能な資格	p. 43
⑩ 入学者選抜の概要	p. 44
⑪ 教育研究実施組織等の編成の考え方及び特色	p. 50
⑫ 研究の実施についての考え方、体制、取組	p. 50
⑬ 施設、設備等の整備計画	p. 50
⑭ 管理運営	p. 53
⑮ 自己点検・評価	p. 55
⑯ 情報の公表	p. 56
⑰ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	p. 59
⑱ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p. 59

設置の趣旨等を記載した書類

① 設置の趣旨及び必要性

ア 健康情報学部健康情報学科を設置する社会的背景及び必要性

学校法人大阪電気通信大学は、昭和 36(1960)年 4 月に大阪電気通信大学を開設、全国の私立大学で初めて工学部電子工学科を設置し、以来、時代の要請と向き合い、学部学科の設置を継続しつつ現代の情報社会を担う人材を 60 年以上に及んで輩出してきた。その教育研究基盤を柱として、平成 13 年には高度医療、先端福祉機器に関わる技術者を養成するために工学部に医療福祉工学科を設置し、人々の健康の維持増進を技術で支える体制を作り出した。さらに、本学科に加え、「病気にかからないように予防する」、いわゆる予防医学の観点から一次予防(健康増進)の科学を担う健康スポーツ科学科、三次予防(リハビリテーション)を担う理学療法学科を擁した医療福祉工学部を関西の情報科学の拠点たる関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)にある四條畷キャンパスに設置し、総合的な健康づくりの科学を学ぶ枠組みを完成させた。その後、さらなる医療科学の探究を目的として医療健康科学部に学部名称変更して現在に至っている。

現在の社会は、高齢化の進行、慢性疾患の増加、感染症の蔓延といった未曾有の健康課題に直面している。これらの課題に対処するためには、情報技術を駆使した医療科学・工学・スポーツ科学の知識と技術が結集された革新的な健康技術の開発が不可欠であり、それにかかわる人材は国際的にも求められている。現代のトピックである AI、ビッグデータの活用も医療分野において例外ではなく、情報の集約、分析、活用の一貫したシステムを高度医療に適用する仕組みも積極的に提案されているが、それを活用できるエンジニアは圧倒的に不足している。また、リハビリテーションやスポーツなど、人々の健康づくりにおいてもデジタル化が盛んであり、それに関する技術的理解や効果の測定など、新しい知識の展開は極めて重要である。

このような背景から、新しく設置する学部では、医療健康科学部の体制を基盤に、日々進化する情報技術を積極的に展開して健康技術に応用し、激変する社会に柔軟な思考で対応できる人材輩出を行うことを目的とすることから、名称を「健康情報学部」とした。具体的には、人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基盤とした医療科学・工学・スポーツ科学の融合による実学教育を通じて新しい健康技術の創造と実行に必要な、広範な知識と実践的能力を身につけさせ、医療業界、健康ビジネス業界及び産業界で広く活躍できる専門的人材の育成を目指す。さらには、学部に展開された基礎医学、健康技術養成のための科目、最新の情報技術を横断的に学修できる体制を構築し、技術革新著しい社会の要請に応え得る学修体系を確立することから、1 学科(健康情報学科)3 専攻(医療工学専攻、理学療法学専攻、スポーツ科学専攻)とした。

また、昨今デジタルコンテンツを医療福祉、健康づくりに利用する動きが一般化しつつある。さらには、新しいスポーツ競技の分野として電子機器を利用した対戦を行う e スポーツが世界中で広がっている。本学は四條畷キャンパスに情報学を技術、文化両面から支える総合情報学部を擁しており、デジタルコンテンツの開発に関する人材、設備の双方においてリソースがそろっている。健康情報学部では総合情報学部と協働し、このようなデジタルコンテンツの医療・健康分野における利用の仕方、その効果について科学的にアプローチするほか、e スポーツのデジタル技術に関する特徴のみならず、その誕生の社会的背景から現在の発展までを俯瞰するとともに、健康づくりの観点から e スポーツを学術として教授研究する。

イ 健康情報学部健康情報学科において養成する人材像

人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基にした、医療科学・工学・スポーツ科学の知識と技術の実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成する。

ウ 健康情報学部健康情報学科における3つのポリシー

(ア) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

健康情報学部健康情報学科は、人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基にした、医療科学・工学・スポーツ科学の知識と技術の実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としている。

そのため、本学の基本理念を理解し、次の能力を有すると認められた学生に各専攻に応じて学位を授与する。

[医療工学専攻]（学士（工学））

(1) 専門知識・技能を修得し、実践する力（手＋頭）

医療工学の基盤となる知識を修得し、情報技術を活用して各専門分野のみならず融合領域においても科学的な視点から新しい技術の創造に取り組み実行できる。

(2) コミュニケーション力（心）

知識や技術の伝達に必要な論理的な思考力、記述力、プレゼンテーション力を有し、他者との適切なコミュニケーションをとることができる。

(3) 課題を発見し、問題を解決する力（手＋頭）

科学的知見をもとに社会的・学術的課題を発見し、その課題解決に粘り強く取り組むことができる。

(4) 他者と協力して目的を達成する力（手＋頭＋心）

自らの知識・技能を活かし、人々の生きがいづくりや健康の維持・増進のために他者と協調し、自らの役割を責任をもって果たせる。

(5) 自らを律し、学び続ける力（手＋心）

社会的な公正性と倫理観を有し、高度な専門技術の獲得とその応用のための研鑽を続けることができる。

(6) 総合力（手＋頭＋心）

自らを律し、新たな社会的・学術的課題に進んで挑み、修得した知識・技能を活用して解決できる。

[理学療法学専攻]（学士（理学療法学））

(1) 専門知識・技能を修得し、実践する力（手＋頭）

理学療法士国家試験に合格できるレベルの総合的知識と、保健・医療・福祉の各領域の業務に従事できる専門知識、技能を有し、情報技術を活用して各専門分野のみならず融合領域においても科学的な視点から新しい技術の創造に取り組み実行できる。

(2) コミュニケーション力（心）

知識や技術の伝達に必要な論理的な思考力、記述力、プレゼンテーション力を有し、他者との適切なコミュニケーションをとることができる。

(3) 課題を発見し、問題を解決する力（手＋頭）

科学的知見をもとに社会的・学術的課題を発見し、その課題解決に粘り強く取り組むことができる。

(4) 他者と協力して目的を達成する力(手+頭+心)

自らの知識・技能を活かし、人々の生きがいづくりや健康の維持・増進のために他者と協調し、自らの役割を責任をもって果たせる。

(5) 自らを律し、学び続ける力(手+心)

社会的な公正性と倫理観を有し、高度な専門技術の獲得とその応用のための研鑽を続けることができる。

(6) 総合力(手+頭+心)

自らを律し、新たな社会的・学術的課題に進んで挑み、修得した知識・技能を活用して解決できる。

[スポーツ科学専攻](学士(スポーツ科学))

(1) 専門知識・技能を修得し、実践する力(手+頭)

スポーツ科学や健康科学の専門知識及び技術を修得し、さらに情報技術を活用して科学的な視点からスポーツ指導や健康維持増進に取り組み実行できる。

(2) コミュニケーション力(心)

知識や技術の伝達に必要となる論理的な思考力、記述力、プレゼンテーション力を有し、他者との適切なコミュニケーションをとることができる。

(3) 課題を発見し、問題を解決する力(手+頭)

科学的知見をもとに社会的・学術的課題を発見し、その課題解決に粘り強く取り組むことができる。

(4) 他者と協力して目的を達成する力(手+頭+心)

自らの知識・技能を活かし、人々の生きがいづくりや健康の維持・増進のために他者と協調し、自らの役割を責任をもって果たせる。

(5) 自らを律し、学び続ける力(手+心)

社会的な公正性と倫理観を有し、高度な専門技術の獲得とその応用のための研鑽を続けることができる。

(6) 総合力(手+頭+心)

自らを律し、新たな社会的・学術的課題に進んで挑み、修得した知識・技能を活用して解決できる。

(イ) 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

健康情報学部健康情報学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる要件を修得するために、医療科学・工学・スポーツ科学の幅広い専門知識と基礎力を育成する。そのために、各専攻において以下の教育方針の下でカリキュラムを編成する。

[医療工学専攻]

1. 学修課程

(1) 専門知識・技能を修得し、実践する力

専門科目の学科共通科目及び医療工学関連科目に座学、実験・実習、演習科目を配置し、医療業務に従事できる基礎的な知識と医学に精通した技術者の基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成する。医療工学の導入教育としては「健康情報学概論」、「解剖生理学」、「医学概論」に重点をおいた教育を行う。さらには、臨床工学技士の受験資格に必要な医用機器学、電気電子工学、生体機能代行技術学などについての授業分野を提供する。

(2) コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群、学科共通科目に「コミュニケーション論」を配置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力・コミュニケーション力を修得する課程を編成する。また、専門科目の実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供する。

(3) 課題を発見し、問題を解決する力

共通科目のプロジェクトスキル形成群や情報基礎群、学科共通科目(情報分野)を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指す。また、専門科目の医療工学関連科目に医用機器安全管理学やものづくりに関する実習、医療工学全域にわたる実習を配置し、医療機器の保守及びものづくりの技術を学ぶことができる実習を実施する。これらの授業科目を通じて、課題発見力・問題解決力のさらなる修得を目指す。

(4) 他者と協力して目的を達成する力

共通科目のプロジェクトスキル形成群、情報基礎群、学科共通科目の情報分野や実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供する。

(5) 自らを律し、学び続ける力

卒業研究や臨床実習(臨床工学)を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供する。

(6) 総合力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、専門科目で修得した様々な内容を組み合わせ、さらに卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供する。また、安心・安全な医療と健康を実現する医学及び工学を基盤とした医療健康科学の知識と技術を備えた高度医療・チーム医療の要となる臨床工学技士、健康医療機器を開発するエンジニア、人工知能(AI)技術の医療応用及びエンターテインメント性の高いデジタルヘルスケア分野を発展させるスペシャリストの養成を目指す。

2. 学修方法

- ・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、学生が自ら主体的かつ長期的に学修状況を振り返り学修する。また、半期ごとに、修得した成績についての論評を受け、学修方法などの助言を得ると同時に、学修目標を設定し、学修成果の向上を目指す。
- ・臨床工学・健康科学・生活支援工学の技術者としての素養を身に付けるためにe-learningシステムを利用可能とする。
- ・実験・実習・演習科目においては、きめ細かい指導が受けられるように、TA(Teaching Assistant)からも助言を得ることができる。
- ・座学及び実習などの時間だけでなく、各科目で提示したオフィスアワーで、教員から助言を得ることができる。

3. 学修成果の評価

- ・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価する。
- ・学部規則に定めるGPAを用いて、修学指導を行う。

- ・学修成果を具体的に把握するため、GPA 評価に基づく順位付けを実施します。また、GPA 評価と S(秀)及び A(優)の取得数は、学業優秀賞の対象者選抜等に用いる。
- ・各学期末に、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位取得状況も学修支援ツール上で提示する。
- ・臨床工学技士や医療機器エンジニアまたは情報エンジニアとしての基礎知識を確認するため、実力テストを実施する。

[理学療法学専攻]

1. 学修課程

(1) 専門知識・技能を修得し、実践する力

専門科目の学科共通科目及び理学療法学関連科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、保健・医療・福祉の各領域の業務に従事できる理学療法士の基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成する。理学療法学の導入教育としては「健康情報学概論」、「解剖生理学」、「基礎運動学」に重点をおいた教育を行う。さらには、理学療法士の受験資格に必要な基礎医学、臨床医学、基礎理学療法学、理学療法治療学、応用理学療法学についての授業分野を提供する。

(2) コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群、学科共通科目に「コミュニケーション論」を配置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力・コミュニケーション力を修得する課程を編成する。また、専門科目の実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供する。

(3) 課題を発見し、問題を解決する力

共通科目のプロジェクトスキル形成群や情報基礎群、学科共通科目(情報分野)を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指す。また、専門科目の理学療法学関連科目に加えて運動系や神経系の理学療法の発展的な演習や、理学療法の技術や知識を統合して臨床力を深化させる科目を配置し、理学療法士としての総合的な技術を学ぶことができる座学と演習を実施する。これらの授業科目を通じて、課題発見力・問題解決力のさらなる修得を目指す。

(4) 他者と協力して目的を達成する力

共通科目のプロジェクトスキル形成群や情報基礎群、学科共通科目(情報分野)、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供する。

(5) 自らを律し、学び続ける力

卒業研究や臨床実習(理学療法学)を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供する。

(6) 総合力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、専門科目で修得した様々な内容を組み合わせ、さらに臨床実習と卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供する。また、最新の医療知識と技術、情報技術を備えた科学的素養と責任感及び豊かな人間性を有する理学療法士の養成を目指す。

2. 学修方法

- ・学修支援ツールを利用して4年間の学修体系を確認しながら学修する。
- ・e-learning により、国家試験対策などの効率的な学修を行う。
- ・低学年次からゼミ配属され、きめ細やかな指導を受けることができる。
- ・オフィスアワーの時間を利用することにより、個別の学修相談を受けることができる。

3. 学修成果の評価

- ・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用い

て評価する。

- ・学部規則に定める GPA を用いて、各期に修学指導を行う。
- ・各期ごとに、学修効果測定グラフを学修支援ツール上に提示する。
- ・理学療法士としての基礎知識を確認する基礎領域の実力テストを実施する。
- ・理学療法士国家試験の模擬試験を実施し、総合的な実力を把握する。

[スポーツ科学専攻]

1. 学修課程

(1) 専門知識・技能を修得し、実践する力

専門科目の学科共通科目及びスポーツ科学関連科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、スポーツ科学や健康科学の幅広い知識や技能を有したスポーツ活動や健康づくり運動の指導者の基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成する。スポーツ科学の導入教育としては基礎科学や身体機能に重点をおいた教育を行う。さらには、保健体育科教員及び競技スポーツや生涯スポーツの指導者に必要なスポーツ教育、スポーツコーチング、ヘルスプロモーション、生涯スポーツ、スポーツ方法についての授業分野を提供する。

(2) コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群、学科共通科目にコミュニケーション論を配置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力・コミュニケーション力を修得する課程を編成する。また、専門科目の実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供する。

(3) 課題を発見し、問題を解決する力

共通科目のプロジェクトスキル形成群や情報基礎群、学科共通科目(情報分野)を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指す。また、専門科目のスポーツ科学関連科目に、健康運動指導およびスポーツ教育の演習やスポーツ計測に関する実習を配置し、スポーツ科学や健康科学の知識・技術に基づいた多様な対象者への指導法ならびに ICT の活用技術を学ぶ機会を提供する。これらの授業科目を通じて、課題発見力・問題解決力のさらなる修得を目指す。

(4) 他者と協力して目的を達成する力

共通科目のプロジェクトスキル形成群や情報基礎群、学科共通科目(情報分野)、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供する。

(5) 自らを律し、学び続ける力

卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供する。

(6) 総合力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、専門科目で修得した様々な内容を組み合わせ、さらに卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供する。また、人々の一生にわたる心身の健康に寄与する科学的素養と情報技術を備えた保健体育科教員及び生涯にわたるスポーツ活動や健康づくりを支援する者の養成を目指す。

2. 学修方法

- ・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、学生が主体的かつ長期的に学修状況を振り返り学修します。また、記載内容に対してグループ担任からコメントを受ける。
- ・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身に付けることができる。
- ・修得した成績についての論評を受け、学修方法などの助言を得ると同時に半期ごとの目標設定の助言を受け、学修成果の向上を目指す。

3. 学修成果の評価

- ・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価する。
- ・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用いる。
- ・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また学科が定めるスキル分野の単位修得状況も学修支援ツール上で提示する。
- ・学修効果を具体的に把握するため、GPA 評点に基づく順位付けを実施する。

(ウ) 入学者受入れの方針(アドミSSION・ポリシー)

健康情報学部健康情報学科は、人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基にした、医療科学・工学・スポーツ科学の知識と技術の実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としている。

このため、次のような学生を求める。

- (1) 自ら考え行動しようとする意欲の高い者
- (2) 医療あるいは福祉の分野で人の役に立ちたいと考えている者
- (3) スポーツや科学技術を通して健康社会をつくる意欲をもった者

上記のアドミSSION・ポリシーに加えて、各専攻の教育方針に合わせて、専攻のアドミSSION・ポリシーを定めている。

[医療工学専攻]

医療工学専攻は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めている。

(知識・技能)

- (1) 高等学校までの履修教科のうち国語を学び、コミュニケーションの基本的な知識・技能を身に付けている者
- (2) 高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識・技能を身に付けている者
- (3) 事象を数学的に考え、表現する能力を育成するために、数学について基礎知識を身に付けている者
- (4) 自然の事物・現象について、科学的に探求する能力を育成するために、物理、化学の中で1科目以上について基礎知識を身に付けている者
- (5) 医療技術及び情報技術に関する科学的な考え方を育成するために、理科または工業系科目の基礎知識を身につけている者

(思考力・判断力・表現力)

- (6) 知的的好奇心があり、自由な発想によって新しいものを創造することができる者、または取組む意欲がある者
- (7) 人々の健康、福利、権利を守る意識があり、プライバシー及び個人情報などを正しく取扱いができる者

(主体性・多様性・協調性)

- (8) 医療・健康及び情報に関する学修や研究に、主体的かつ積極的に取組むことができる者

- (9) 人の尊厳と権利を尊重し、人のために行動できる意思と人の気持ちを理解する努力を続けることができる者

[理学療法学専攻]

理学療法学専攻は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めている。

(知識・技能)

- (1) 高等学校までの履修教科のうち国語を学び、コミュニケーションの基本的な知識・技能を身に付けている者
- (2) 高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識・技能を身に付けている者
- (3) 事象を数学的に考え、表現する能力を育成するために、数学について基礎知識を身に付けている者
- (4) 自然の事物・現象について、科学的に探求する能力を育成するために、物理、化学の中で1科目以上について基礎知識を身に付けている者
- (5) 情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を育成するために、情報の科学、社会と情報について基礎知識を身に付けている者

(思考力・判断力・表現力)

- (6) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取組む意欲がある者
- (7) 空間認知力、身体認知力、及び対人認知力を基礎として、科学的に思考、判断、表現が出来る者、または取組む意欲がある者

(主体性・多様性・協調性)

- (8) 自身のやりがいについて、主体的に考え、積極的に取組むことができる者
- (9) 多様な価値観を受け入れられる者
- (10) 人の役に立ちたいと考えている者、協調性を有する者
- (11) 健康に関連する情報に関心を持ち、これを追求する者
- (12) 医療人を目指す者の心得として、身だしなみや喫煙の影響など健康維持の模範を意識し、自覚的に行動できる者

[スポーツ科学専攻]

スポーツ科学専攻は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めている。

(知識・技能)

- (1) 高等学校までの履修科目のうち、国語を学び、日本語でのコミュニケーションの十分な知識と技能を身に付けている者
- (2) 高等学校までの履修科目のうち、外国語(英語)を学び、外国語でのコミュニケーションの基本的知識・技能を身に付けている者
- (3) 高等学校までの履修科目のうち、数学を学び、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者
- (4) 高等学校までの履修科目のうち、理科を学び、自然の事物・現象について科学的に探求する能力を身に付けている者
- (5) 高等学校までの履修科目のうち、情報を学び、情報科学、情報リテラシー、社会と情報についての基礎的知識・技能を身に付けている者

(思考力・判断力・表現力)

(6) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取り組む意欲がある者

(7) 表現力あるいは創造力、論理的思考能力を有する者、またはそれらを用いた活動に取り組む意欲がある者

(主体性・多様性・協調性)

(8) スポーツ科学や健康科学の各分野の専門知識や技能を学びたいと強く望み、主体的に学ぶことができる者

(9) 社会や周囲の多様な価値観を受け入れ、相互理解し、他者と協調して物事に取り組むことができる者

養成する人材像をもとに、学科のディプロマ・ポリシーを定め、さらに各専攻ごとに 6 項目からなるディプロマ・ポリシーを設定している。学科のディプロマ・ポリシーを受けて、学科のカリキュラム・ポリシーを定め、各専攻ではディプロマ・ポリシーの 6 項目に1対1で対応したカリキュラム・ポリシーを設定している。そのカリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程を編成しているが、教育課程とディプロマ・ポリシーとの整合性や偏りがないようにカリキュラムマップにおいて、確認して編成している。

【資料1】健康情報学部健康情報学科 カリキュラムマップ

エ 組織として研究対象とする中心的な学問分野

健康情報学部では、基礎医学、臨床医学、電気電子工学や機械工学を基盤とした生体計測及び評価に関する技術等の中核的学問分野を中心に、情報学をベースにしたデジタルコンテンツ制作に用いられる最新の表現技術と連携し、本学独自の色彩を強調できる教育・研究を目的としている。具体的には、医療技術者の養成を目的とした医療現場の XR (Extended Reality) システムの構築、大規模データベースに基づく AI を用いた診断支援システムの開発、生体情報や競技情報を用いた競技スポーツ強化システムの構築等を目指す。

②学部・学科等の特色

健康情報学部健康情報学科では、情報技術を積極的に展開して健康技術に応用し、激変する社会に柔軟な思考で対応できる人材輩出を行うことを目的とする。この目的を達成するために、各専攻の人材育成目標を達成するために必要な教育課程に加えて、各専攻に関連する先進的課題をテーマとする「特修」コースを設ける。具体的には、人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基盤とした医療科学、工学、理学療法学、スポーツ科学の融合による実学教育を通じて新しい健康技術の創造と実行に必要な、広範な知識と実践的能力を身につけさせるために、基礎数理科学、健康科学及び情報学の知識並びにデータの収集・処理・分析手法を教示する科目を横断的に履修できるしくみを設置するほか、「特修」コースでは各専攻に現代社会において変化の著しい最新の情報を提供する。専攻別の具体的な特色を次に示す。

[医療工学専攻]

世界最長寿国である我が国では、健康長寿を達成させ、「人生 100 年時代」をリードするためのイノベーションが求められている。この「人生 100 年時代」を実現させるテクノロジーとして「デジタルヘルスケア（ヘルスケア家電）」が注目され、本専攻では、医工連携による新たな医療工学、情報の価値を創出する教育研

究を推進して、活躍できる人材を育成することが特色である。

本専攻が目指すデジタルヘルスケア分野は健康情報デバイスやデジタル医療機器を主に範疇とした分野であり、大手 ICT 企業が事業化参入し、市場規模を成長させている。このような背景から「ヘルスケア」を重要戦略領域として研究開発する企業が増加しているため、「デジタルヘルスケア（ヘルスケア家電）」時代に強い人材を育成することが必要となっている。その活躍の場を①医療現場、②企業、③研究開発（企業・大学院）に焦点を定め、専攻教育を充実させる。

このような背景から、本専攻の特修では、AI 医療を焦点としたカリキュラムをおく。特に、医療機関では、AI を活用することにより医療現場の効率化と医療スタッフの抜本的な負担軽減の実現を目指している。例えば、運動機能、血圧、心電図、体温などのバイタルデータを収めるデータベースを構築して、AI による解析で画像・病理診断の補助、危険な徴候を検知する患者モニタリングシステムの構築などが挙げられる。これらが実現すると、これまで行っていた医療現場の業務は減り、患者とのコミュニケーションが増えることで、結果的に安全・安心な医療を提供できることは容易に想像できる。このように AI 技術を駆使した医療現場のシステム構築は、「デジタルヘルスケア」市場の成長に伴い、急速に加速しており、医療工学専攻においても「デジタルヘルスケア時代」に強い人材として医療現場で活躍できる臨床工学技士の養成カリキュラムを軸に、ものづくり・AI・VR・データサイエンス・ロボット技術に強い人材を育成する。

大きな専攻目標は以下の2点である。

- ・医療機器のデジタル化及び高度化に対応できる臨床工学技士の育成のために AI 技術の基礎を修得させる。
- ・医療の現状を知り、生体情報を扱うことができる健康情報機器のエンジニア及び医療従事者を支えることができる医療機器のエンジニアを育成する。

[理学療法士専攻]

理学療法士は、患者の運動機能や身体機能の回復を支援する重要な役割を果たす。疾患や怪我により身体的な制限を持つ人々を対象に、運動療法や手技療法を通じて、痛みを和らげ、機能を向上させることを目指す。理学療法士は、個々の患者の状態に応じた治療計画を立て、一人一人のニーズに合わせた治療を提供するため、その専門知識と技術は医療チームにおいて不可欠であり、予防医療においても、健康増進や生活の質の向上を図るための教育や指導を行うことで、長期的な健康維持に寄与する。このように、医療と福祉の両面で患者の自立を支え、生活の質を高めるために中心的な役割を担っている。

本専攻で養成を目指す理学療法士像は、ICT を活用した科学的根拠に基づく効果的な理学療法を提供できる力を持ち、スポーツ損傷の予防やリハビリテーションの知識、トレーニング器具を開発できる能力を期待している。

このような背景から、本専攻の特修では、スポーツリハビリテーションを焦点としたカリキュラムをおく。具体的には、動作解析装置などを用いてスポーツ時のパフォーマンスを解析し、スキルアップや、日常生活の動きに活かす方法を学ぶことによってスポーツにおける健康支援を実践できる ICT に強い理学療法士を育成する。

大きな専攻目標は以下の2点である。

- ・ICT 機器を活用し、データを読み解くことで、症状の軽減や予防に向けたリハビリテーションを実現できる理学療法士を養成する。
- ・スポーツ時の動作計測からパフォーマンスを解析し、技術向上や日常生活に活かす方法を学ぶ体制を充実させる。

[スポーツ科学専攻]

近年、スポーツにおける ICT 活用は目覚ましい。GPS による移動軌跡や身体活動強度、動画による動作分析など、プロスポーツのみならず、ジュニア選手育成や健康づくり運動と様々な場面で活用されている。このような ICT の適切な活用が、運動パフォーマンスやトレーニング効果の改善、運動参加の促進に貢献していることは明らかである。また、小中学校の GIGA スクール構想や、高校において生徒用 PC 端末の導入が 7 割を超えるなど、ICT 教育の充実化が進む中、教員の ICT 活用スキルが課題となっており、ICT を有効に活用することができる教員が求められている。本専攻では、スポーツ活動や健康づくりの場において ICT を効果的に活用できる指導者及び支援者を育成することを特色とする。

また、ICT を活用したスポーツである e スポーツは、国体やオリンピック競技である一方で、年齢や性別、障害の有無を問わず取り組める。論理的思考や問題解決力、コミュニケーション能力を高めると言われ、学校教育や高齢者施設などでの実施が拡大しつつある。本学は e スポーツを学ぶための最適な設備を有しており、この利点を活かして、本専攻では e スポーツを包括的に学び、健康づくりや人材育成に役立てることを目指すものとする。

スポーツへの ICT 活用によって競技者から得られたデータをパフォーマンス改善やコンディショニングに用いられている。これらのデータは競技者らのみではなく、審判の判定補助や、観客がスポーツを楽しむためにも利用されている。一方、観客から得られたデータはスポーツイベントを活性化に用いられている。しかし、これら多種多様なデータを有効に活用するためにはその意味を知り、解釈できる能力が必要となる。

これらを背景として、本専攻の特修では、スポーツ情報を焦点としたカリキュラムをおく。具体的には運動・スポーツにおける人文科学、社会科学、自然科学的データをそれぞれ収集、分析し、適切に解釈する方法を学ぶことによって、健康づくりやスポーツ活動に ICT を活かし、人々の心と身体を支える人材を育成する。

大きな専攻目標は以下の 2 点である。

- ・スポーツ活動や健康づくりにおいて ICT を効果的に活用できる指導者及び支援者を育成する。
- ・スポーツ活動における多様なデータを取得、分析し、解釈する方法学び、スポーツ活動や健康づくりに貢献する能力を修得する。

③学部・学科等の名称及び学位の名称

人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基にした、医療科学・工学・スポーツ科学の知識と技術の実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的として、その学問分野としては基礎医学、臨床医学、電気電子工学、機械工学、生体計測学、生体代行装置学、治療機器学、理学療法学、スポーツ科学の学術領域を基盤としながら、最新の情報学の知識を備えた現代情報社会を健康科学の側面から支える人材養成のために設置

することから、名称を健康情報学部健康情報学科とした。

また、医療工学専攻では、博士（工学）の学位を持つ電気電子工学、機械工学、応用物理学の分野を専門とする教員を4名、医療機器の設計と管理経験豊かな医師、臨床工学技士4名を擁しており、学生は医学、臨床医工学、情報工学を学び、AI技術やICTに強い人材輩出を狙う教育課程を経ることから、学位を学士（工学）とした。理学療法学専攻では、筋機能の専門家たる博士の学位を持つ教員1名ほか、8名の臨床経験豊かな理学療法士を擁し、ICTを活用した科学的根拠に基づく効果的な理学療法を提供できる力を育む教育課程を経ることから学位を学士（理学療法学）とした。スポーツ科学専攻では、運動生理学、健康科学、スポーツ科学の専門家たる教員6名を擁し、健康科学や医学を学び、ICTを活用して運動やスポーツを科学的に提供し、子どもや高齢者からアスリートまで、人々の心と身体を支える技術を身に付けさせる教育課程を経ることから学位を学士（スポーツ科学）とした。

学部学科、専攻の名称及び学位の名称

健康情報学部「Faculty of Health Informatics」

健康情報学科「Department of Health Informatics」

医療工学専攻「Course of Biomedical Engineering」

学士（工学）「Bachelor of Engineering」

理学療法学専攻「Course of Physiotherapy」

学士（理学療法学）「Bachelor of Physiotherapy」

スポーツ科学専攻「Course of Sport Sciences」

学士（スポーツ科学）「Bachelor of Sport Sciences」

④教育課程の編成の考え方及び特色

健康情報学部健康情報学科は、人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基にした、医療科学・工学・スポーツ科学の知識と技術の実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成する。そのために、学科に医療工学専攻、理学療法学専攻及びスポーツ科学専攻の3つの専攻を置くこととし、各専攻において以下の教育方針の下でカリキュラムを編成する。

健康情報学部健康情報学科のカリキュラム・ポリシーを以下に示す。

◇カリキュラム・ポリシー

健康情報学部健康情報学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる要件を修得するために、医療科学・工学・スポーツ科学の幅広い専門知識と基礎力を育成する。そのために、各専攻において以下の教育方針の下でカリキュラムを編成する。

[医療工学専攻]

Ⅰ. 学修課程

(Ⅰ) 専門知識・技能を修得し、実践する力

専門科目の学科共通科目及び医療工学関連科目に座学、実験・実習、演習科目を配置し、医療業務に従事できる基礎的な知識と医学に精通した技術者の基礎から応用までの知識・

技能を修得できる課程を編成する。医療工学の導入教育としては健康情報学概論、解剖生理学、医学概論に重点をおいた教育を行う。さらには、臨床工学技士の受験資格に必要な医用機器学、電気電子工学、生体機能代行技術学などについての授業分野を提供する。

(2) コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群、学科共通科目にコミュニケーション論を配置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力・コミュニケーション力を修得する課程を編成する。また、専門科目の実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供する。

(3) 課題を発見し、問題を解決する力

共通科目のプロジェクトスキル形成群や情報基礎群、学科共通科目(情報分野)を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指す。また、専門科目の医療工学関連科目に医用機器安全管理学やものづくりに関する実習、医療工学全域にわたる実習を配置し、医療機器の保守及びものづくりの技術を学ぶことができる実習を実施する。これらの授業科目を通じて、課題発見力・問題解決力のさらなる修得を目指す。

(4) 他者と協力して目的を達成する力

共通科目のプロジェクトスキル形成群や情報基礎群、学科共通科目(情報分野)を活用して、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供する。

(5) 自らを律し、学び続ける力

卒業研究や臨床実習(臨床工学)を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供する。

(6) 総合力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、専門科目で修得した様々な内容を組み合わせ、さらに卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供する。また、安心・安全な医療と健康を実現する医学及び工学を基盤とした医療健康科学の知識と技術を備えた高度医療・チーム医療の要となる臨床工学技士、健康医療機器を開発するエンジニア、人工知能(AI)技術の医療応用及びエンターテインメント性の高いデジタルヘルスケア分野を発展させるスペシャリストの養成を目指す。

2. 学修方法

- ・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、学生が自ら主体的かつ長期的に学修状況を振り返り学修する。また、半期ごとに、修得した成績についての論評を受け、学修方法などの助言を得ると同時に、学修目標を設定し、学修成果の向上を目指す。
- ・臨床工学・健康科学・生活支援工学の技術者としての素養を身に付けるためにe-learningシステムを利用可能とする。
- ・実験・実習・演習科目においては、きめ細かい指導が受けられるように、TA(Teaching Assistant)からも助言を得ることができる。
- ・座学及び実習などの時間だけでなく、各科目で提示したオフィスアワーで、教員から助言を得ることができる。

3. 学修成果の評価

- ・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価する。
- ・学部規則に定めるGPAを用いて、修学指導を行う。
- ・学修成果を具体的に把握するため、GPA評価に基づく順位付けを実施します。また、GPA評価とS(秀)及びA(優)の取得数は、学業優秀賞の対象者選抜等に用いる。
- ・各学期末に、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また、学科が定めるスキル分野の単位取得状況も学修支援ツール上で提示する。

- ・臨床工学技士や医療機器エンジニアまたは知能情報エンジニアとしての基礎知識を確認するため、実力テストを実施する。

[理学療法学専攻]

1. 学修課程

(1) 専門知識・技能を修得し、実践する力

専門科目の学科共通科目及び理学療法学関連科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、保健・医療・福祉の各領域の業務に従事できる理学療法士の基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成する。理学療法学の導入教育としては健康情報学概論、解剖生理学、基礎運動学に重点をおいた教育を行う。さらには、理学療法士の受験資格に必要な基礎医学、臨床医学、基礎理学療法学、理学療法治療学、応用理学療法学についての授業分野を提供する。

(2) コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群、学科共通科目にコミュニケーション論を配置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力・コミュニケーション力を修得する課程を編成する。また、専門科目の実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供する。

(3) 課題を発見し、問題を解決する力

共通科目のプロジェクトスキル形成群や情報基礎群、学科共通科目(情報分野)を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指す。また、専門科目の理学療法学関連科目に加えて運動系や神経系の理学療法の発展的な演習や、理学療法の技術や知識を統合して臨床力を深化させる科目を配置し、理学療法士としての総合的な技術を学ぶことができる座学と演習を実施する。これらの授業科目を通じて、課題発見力・問題解決力のさらなる修得を目指す。

(4) 他者と協力して目的を達成する力

共通科目のプロジェクトスキル形成群や情報基礎群、学科共通科目(情報分野)を活用して、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供する。

(5) 自らを律し、学び続ける力

卒業研究や臨床実習(理学療法)を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供する。

(6) 総合力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、専門科目で修得した様々な内容を組み合わせ、さらに卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供する。また、最新の医療知識と技術、情報技術を備えた科学的素養と責任感及び豊かな人間性を有する理学療法士の養成を目指す。

2. 学修方法

- ・学修支援ツールを利用して4年間の学修体系を確認しながら学修する。
- ・e-learningにより、国家試験対策などの効率的な学修を行う。
- ・低学年次からゼミ配属され、きめ細やかな指導を受けることができる。
- ・オフィスアワーの時間を利用することにより、個別の学修相談を受けることができる。

3. 学修成果の評価

- ・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価する。
- ・学部規則に定めるGPAを用いて、各期に修学指導を行う。
- ・各期ごとに、学修効果測定グラフを学修支援ツール上に提示する。
- ・理学療法士としての基礎知識を確認する基礎領域の実力テストを実施する。

- ・理学療法士国家試験の模擬試験を実施し、総合的な実力を把握する。

[スポーツ科学専攻]

1. 学修課程

(1) 専門知識・技能を修得し、実践する力

専門科目の学科共通科目及びスポーツ科学関連科目に座学と実験・実習、演習科目を配置し、スポーツ科学や健康科学の幅広い知識や技能を有したスポーツ活動や健康づくり運動の指導者の基礎から応用までの知識・技能を修得できる課程を編成する。スポーツ科学の導入教育としては基礎科学や身体機能に重点をおいた教育を行う。さらには、保健体育科教員及び競技スポーツや生涯スポーツの指導者に必要なスポーツ教育、スポーツコーチング、ヘルスプロモーション、生涯スポーツ及びスポーツ方法などについての授業分野を提供する。

(2) コミュニケーション力

共通科目に外国語群やプロジェクトスキル形成群、学科共通科目に「コミュニケーション論」を配置し、低年次から上位年次まで常に主体性・実行力・コミュニケーション力を修得する課程を編成する。また、専門科目の実験・実習科目を通じ、同様の力を培う機会を提供する。

(3) 課題を発見し、問題を解決する力

共通科目のプロジェクトスキル形成群や情報基礎群、学科共通科目(情報分野)を活用して、課題発見力・問題解決力の修得を目指す。また、専門科目のスポーツ科学関連科目に、健康運動指導およびスポーツ教育の演習やスポーツ計測に関する実習を配置し、スポーツ科学や健康科学の知識・技術に基づいた多様な対象者への指導法ならびに ICT の活用技術を学ぶ機会を提供する。これらの授業科目を通じて、課題発見力・問題解決力のさらなる修得を目指す。

(4) 他者と協力して目的を達成する力

共通科目のプロジェクトスキル形成群や情報基礎群、学科共通科目(情報分野)を活用して、実験・実習科目を通じ、他者との協働力を修得できる機会を提供する。

(5) 自らを律し、学び続ける力

卒業研究を通して、倫理観と共に主体的に新しい知識・技能を修得する機会を提供する。

(6) 総合力

共通科目の人文・社会・自然群において幅広い教養を身につけるとともに、専門科目で修得した様々な内容を組み合わせ、さらに卒業研究を必修として学修することで、総合力を修得する機会を提供する。また、人々の一生にわたる心身の健康に寄与する科学的素養と情報技術を備えた保健体育科教員及び生涯にわたるスポーツ活動や健康づくりを支援する者の養成を目指す。

2. 学修方法

- ・学修支援ツールに自らの目標や大学での活動内容を記載していくことで、学生が主体的かつ長期的に学修状況を振り返り学修します。また、記載内容に対してグループ担任からコメントを受ける。
- ・オフィスアワーなどの講義外個別学修支援を利用することで、基礎を確実に身に付けることができる。
- ・修得した成績についての論評を受け、学修方法などの助言を得ると同時に半期ごとの目標設定の助言を受け、学修成果の向上を目指す。

3. 学修成果の評価

- ・試験やレポート、課題提出等に基づき、科目ごとに設定された到達目標に対する到達度を用いて評価する。

- ・学部規則に定める GPA を用いて、修学指導を行います。また、GPA は学業優秀賞、各種奨学金および大学院内部進学の対象者選抜等に用いる。
- ・各学期末に、各科目の成績を評価観点の割合で積算し、他の履修学生と比較した学修効果測定グラフを学修支援ツール上で提示します。また学科が定めるスキル分野の単位修得状況も学修支援ツール上で提示する。
- ・学修効果を具体的に把握するため、GPA 評点に基づく順位付けを実施する。

以上のカリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程の編成の考え方及び特色について具体的に説明を行う。

ア 共通科目

健康情報学部健康情報学科の教育課程は、全学の教育課程の体系に準じて、共通科目（人文・社会・自然群、外国語群、プロジェクトスキル形成群及び情報基礎群）と専門科目からなる。

共通科目は、本学の教養教育として位置づけられ、「社会人基礎力を醸成する」を目的として各科目（群）の編成を行っている。特に、プロジェクトスキル形成群は中心的な科目群であり、学部学生としての基礎的な能力の育成から社会人基礎力の醸成に至る本学の特色たる実学教育の根幹をなすものである。

（ア）人文・社会・自然群

人間のありようと教育の重要性、個人の自由と平等、社会において担うべき責任を理解し、公正に判断する能力を養うことや、文化・科学の成り立ちと、現代社会における様々な課題の認識を理解する。

（イ）外国語群

国際社会に対応できる英語能力をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養うとともに、日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養う。

（ウ）プロジェクトスキル形成群

社会人としての基礎力である「学び」のあり方について、まず本学、大阪電気通信大学の学生としての学びから始めて、社会人の学びや、学部・学科の卒業生としての基本的な教養、及び関連する社会情勢とその問題点に関する知識を身につける。グループディスカッションなどを行い、「自分を知る」・「大学を知る」・「社会を知る」ことから自分の将来を真剣に考え、人間形成を行う。

（エ）情報基礎群

情報社会に対応できる情報活用能力を養うとともに、主体的にコンピュータを活用するためのプログラミング能力を身につけ、データサイエンスの基礎知識と適切な情報技術を活用することで実社会の多様な情報を分析するための基礎力を身につける。

イ 専門科目

健康情報学部健康情報学科では、医療工学専攻、理学療法学専攻及びスポーツ科学専攻が共通して学ぶ、健康分野（基礎科学、医学、身体機能、心身の健康、生涯スポーツ）、情報分野（データサイエンス、情報工学・システム、スポーツと情報）及びアカデミックスキル（プレゼミ、ゼミナール、卒業研究）の学科共通科目、医療工学専攻の学生が主に学ぶ、臨床工学技士、健康医療機器開発、デジタルヘルスケアを念頭にした科目群からなる専門科目、理学療法専攻の学生が主に学ぶ、理学療法士の養成に必要な基礎理学療法学、理学療法評価学、理学療法治療学、応用理学療法学、臨床実習からなる専門科目と、スポーツ科学専攻の学生が主に学ぶ、社会とスポーツの関わり、スポーツ医学、スポーツの教育やコーチング、e スポーツへの科

学的アプローチを念頭にした科目群からなる専門科目を配置している。

〔学科共通科目〕

（健康分野）

a 基礎科学

数理科学的な知識、人体の構造や機能の知識、最新のトピックや知見の理解のためには基礎的な知識が必要不可欠である。ここでは、学部就学期間において展開される科目履修に医療科学・工学・スポーツ科学の基礎的な知識の修得に始まり、応用分野の現状や将来展望に関する理解を深め、社会に貢献できる資質を養う。

b 医学

今日の医学の特徴を理解し、それらの課題について問題意識を持たなければならない。医学の分野で話題になっているテーマについて理解するには、様々な医学の基礎知識の修得が必要不可欠である。ここでは、医療関連業務に従事する者にとって必要な関連法規及び健康の保持や予防医学の重要性について理解する公衆衛生学について学ぶ。さらに、スポーツ科学関連ではスポーツコンディショニングやスポーツ障害及び外傷の代表例とリハビリテーションの科学を学び、これらの技術について演習を行う。

c 身体機能

人体を構成する各要素や正常な生体の持つ本来の機能とそれを調整するメカニズムの修得が必要不可欠である。ここでは、人体を構成する要素や器官系の構造と機能について学ぶ。また、運動器の構造と機能とともに、人の運動を科学的にとらえる運動学を学ぶ上で必要な基本的な知識も学ぶ。

d 心身の健康

健康増進の基本的要素である運動・栄養・休養と健康との関連について理解することが必要不可欠である。ここでは、健康指導を含め、対人援助等のために必要な基礎的なコミュニケーションスキルを身に付け、健康維持増進に関わる知識を修得するための一分野である心理学を学ぶ。また、ヘルスプロモーション活動を調べ、自らのヘルスプロモーターを考える。特に栄養学を学ぶために必要な基礎知識の修得や、特に生理学から栄養学への知識のつながりを理解する。一方で、胎児期からのライフステージを通じた人間の発達という現象を多面的に学修し、自らの問題として社会福祉に関する知識を学ぶ。

e 生涯スポーツ

生涯スポーツとは、自分の楽しみや健康のために、「いつでも、誰でも、どこでも」気軽にスポーツに取り組むことである。スポーツは、心身の健康、豊かで充実した生活、教育などに必要不可欠なものである。ここでは、生涯スポーツの意義と役割を理解するために、様々なスポーツの中でも個人・集団で取り組むことに特徴がある種目をいくつか選択して取り上げ、実践を通して必要な知識やスキルを身に付ける。また、文化としてのスポーツについて考えを深めていく。さらに、コミュニケーション能力を養い、自分だけでなく他者に対して指導やサポートができるようになり、自らが一生涯にわたって運動・スポーツに取り組む姿勢を身につけることに加え、生涯スポーツに取り組む人々を支えるために必要な知識を学ぶ。

（情報分野）

a データサイエンス

近年、情報通信技術 ICT によって膨大なビッグデータの収集が容易になり、デジタル化されたデータに基づく意思決定が行われている。意思決定や課題解決を行っていくデータサイエンスには ICT だけでなく解析や人工知能 AI のスキルを持った知識が必要不可欠である。ここでは、データサイエンスを理解するために必要な統計学、AI について学ぶ。また、プログラミング、データ処理・解析などデータサイエンスを実践的に学び、理解できるようにする。

b 情報工学・システム

あらゆる環境においてコンピュータが用いられており、医療現場においても医療情報システムとして活躍している。そのため、基礎的な情報技術から応用までを正しく理解することは必要不可欠である。ここでは、情報理論に始まり、コンピュータがそれをどのように扱い処理するのかを基本にハードウェア構成について学ぶ。また、生体を一つのシステムと考え、その機能を解析することは、健康情報機器等の開発において必要であるためシステム工学的アプローチ（解析法、システム設計）の基礎を修得する。

c スポーツと情報

スポーツ分野への情報通信技術 ICT 導入が加速している。リアルタイムで選手の動作やスタツツを分析するシステム、各運動種目のパフォーマンス向上のために用いるウェアラブル端末機器が発展している。そのため、スポーツ時の生体情報や動作の解析のための各種計測システムを理解することは必要不可欠である。ここでは、運動やスポーツの計測や分析、指導やトレーニングへの応用の仕方について考える。また、スポーツ工学から身体やスポーツ用具の動きとしくみへの理解を深化させ、運動・スポーツ時の動きを解釈してモデルを作成し、最適化シミュレーションを行うための基本的な知識と技能を身に付ける。

(アカデミックスキル)

卒業研究では、各自に設定されたテーマについてデータを収集・処理・分析し、あるいはシステム設計や製作を行い、それに基づいた考察を行って卒業論文にまとめる。卒業研究の成果は、卒業研究発表会において発表し、口頭試問と卒業論文の審査に合格する必要がある。研究の基本的ルール、卒業研究のテーマや仮説の設定の仕方、それらを明らかにするための実験や調査によるデータ収集、その後のデータ分析や統計処理の仕方、成果のまとめ方、プレゼンテーション方法などはプレゼミ、ゼミナールで習得できる。

[医療工学専攻]

医療工学専攻に関する専門科目は、「数学」、「物理」、「医学」、「電気・電子工学」、「機械工学」、「医用機器学」、「生体機能代行技術学」、「健康福祉工学」、「臨床実習（臨床工学）」、「医療工学・キャリア形成」の 10 分野からなっている。さらに、これらの分野には臨床工学技士の受験資格に必要となる授業科目や単位数が定められている。

以下、各分野の科目についてその目的と教育概要について述べる。

a 数学

工学系・情報系分野において必要不可欠な微分・積分を中心とした解析系分野を 1 年次の「基礎解析学Ⅰ演習」、「基礎解析学Ⅱ演習」で習熟し、さらにデータサイエンス分野でも重要な「線形代数」を

学ぶ。また、2年次の「微分方程式」では自然科学、工学及び社会科学分野における数理モデルの構築やラプラス変換による応答特性の解析、「確率・統計」での統計的手法を用いたデータ分析や推測、「医用数学」での臨床工学に必要な複素数などの基礎数学を修得する。さらに3年次の「解析学」では教員免許の取得に必要な深い理論的考察や数学を教えるために必要な深い理解力を学び、「応用数学と臨床医工学」では、医療応用を考慮した数理モデルへの適用法について学ぶ。

b 物理

ヒトを対象とした解析や健康医療機器などの操作や保守の技術の不可欠な物理学の基礎を1年次に学ぶ。「基礎力学演習」では、力学を中心とした運動に関連する物理法則を体系的に学び、物理的イメージに関連して理解する。「基礎物理学」では、臨床工学技士の国家資格に必要な物理学の知識や物理学の基本的な考え方を身に付けることを目指す。「物理学入門」では医療分野で使用される医療機器における医療と物理との深い結びつきを知り、医療機器で使われている物理法則の基礎を理解する。

c 医学

健康医療機器技術者や医療系データサイエンス、臨床工学技士を目指す学生に必要な医学系科目について教授する。1年次で基礎を学んできた学生は、2年次の「免疫学」で免疫学の基本とそれに関係する感染症、ワクチン、アレルギー、腫瘍、輸血、移植免疫、自己免疫性疾患について学習する。「生化学」では物質レベルでの生命現象を理解し、「臨床生化学」では物質と細胞活動の反応が作るネットワークシステムを理解する。「病理学」では炎症、腫瘍及び循環障害をミクロ及びマクロの観点から横断的に学ぶ。3年次の「薬理学」では薬物の作用機序、体内動態、薬効、有害作用について理解を深め、臨床で繁用されている薬剤の主作用、副作用を理解する。また、「臨床内科学総論」や「臨床外科学総論」では病態生理を主とした呼吸器疾患、循環器疾患、腎疾患、消化器疾患、脳血管疾患や外科手術時の機器操作や管理、外科学の概要を理解する。また、「チーム医療概論」では現代の医療現場において高度化する医療ニーズに対応するための専門職種との理解と医療チームの関係などを理解する。4年次になると臨床医学だけでなく、認知症、退行性変成疾患、遺伝的疾患について「応用医学総論」で学ぶ。「基礎医学特別演習」や「臨床医学特別演習」では、臨床工学技士国家試験の受験に向けた演習を中心として各分野の理解を深める。

d 電気・電子工学

生体計測学、臨床検査機器、医用治療機器、医用機器安全管理学に多用されている電気工学及び電子工学を体系的に学ぶ。1年次の「基礎電気工学」では将来の医療従事者や技術者にとって不可欠な電気回路学の基礎について学び、2年次には、それらを発展させた過渡現象や微分積分回路を「応用電気工学」で学ぶ。「基礎電子工学」や「応用電子工学」では心電図、脳波、筋電図などの生体電気信号や生体情報を計測する電子回路の構成、動作原理や無線テレメータ・遠隔医療に関わる情報通信工学について学ぶとともに、新しい知能情報システム開発を目指す知識を身につける。また、必修科目である「電気電子工学実験」では、電気や電子関連の実験を通じて、測定機器の取り扱いや理科系文章の書き方を習得する。さらに、「医用電気電子工学演習」では臨床工学技士国家試験の出題基準に準拠した演習を行い、幅広い力を修得する。3年次の「医用情報工学演習」では、コンピュータやコンピュータネットワーク構成について演習を中心に理解を深める。4年次の「医用工学特別演習」では、医用工学に関連する総合力を集中的に身につけさせ、実践的な臨床工学技

士国家試験対策を実施する。

e 機械工学

臨床工学技士及び健康医療機器開発技術者は医療機器の使用や保守のために、その機械や構造の特性を論理的に理解する必要がある。ここでは、熱力学、流体力学、材料力学、機械力学、材料、メカトロニクス基礎知識及び製図に関わる技術を体系的に学ぶ。1 年次の「医用材料工学」では化学・物理の観点からの医用材料の構造や特性の理解及び生体に対する医学的知識について学ぶ。2 年次の「生体物性工学」では、生体が外部から物理エネルギーを加えられたときに表れる細胞や組織の受動的特性と、生体が反応することで細胞や組織がエネルギーを生じる能動的特性について知る。「医用機械工学」及び「医用機械工学演習」では、力学、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学、波動に関連する座学や演習を通じて、臨床工学技士の国家試験問題に対応できる基礎学力を取得させる。3 年次の「メカトロニクス」では、電気電子部品の特性や工具の特徴、制御工学におけるブロック線図などものづくり技術に直結する知識を教授する。また、「基礎製図演習」及び「製図・CAD 実習」では、ものづくりで重要な製図の基礎知識を習得し、機械製図を実践的に学ぶ。

f 医用機器学

健康医療機器を開発するエンジニアなど医療技術を支えるため医学と工学の知識に基づいた科学的な思考力を養い、医療機器や生体情報に関する知識と技能を座学と実験・実習科目を通して修得することを目指す。

1 年次に配当される「医用機器学概論」は医用機器の動作を考察することにより、その原理・構造について理解できるようになる。更に、理解した知識をレポートとしてまとめることによりドキュメント作成ができるようになる。

2 年次に配当される「医用治療機器学」は医療現場で種々の物理的エネルギーを生体に作用させ治療を行う医療機器を理解できるようになることを目的とし、各種医用治療機器の使用目的、原理、構造・構成、使用方法、保守点検等の知識を学ぶ。また、「計測工学」は生体情報に基づいて診断や治療を行う医療機器に使われる計測技術の基本的な原理や計測対象を理解できるようになることを目的とし、計測誤差や雑音、単位、接頭語、生体情報計測、デジタル信号処理、物理量（力、光、熱、磁場など）を電気量に変換するセンサなどについて学ぶ。さらに、「生体計測装置学」は生体電気・磁気計測、生体の物理・化学現象の計測法、画像診断装置の原理と特徴について理解できるようになることを目的とし、医療現場で使用される生体計測機器の基本的な原理や計測対象を学ぶ。また、「生体計測装置学実習」は生体計測装置学に関連する基礎知識と実践力とを養成することを目的とし、各種医用センサの特性評価、デジタル波形処理などについて学ぶ。

3 年次に配当される「医用計測学」は生体計測装置における計測原理を物理的な観点で理解することを目的とし、波の伝搬とドップラー効果、超音波を用いた速度計測、光の屈折やレンズの公式、磁場計測、原子核の崩壊、温度と熱の移動、機体の状態方程式などの物理的な考え方や導出方法を学ぶ。また、「医療安全管理学」は医療機器設備の安全管理を理解することを目的として、電撃事故と安全管理、電気設備と安全基準、医療ガス設備と安全基準、システム安全、安全管理技術及び電磁環境について学ぶ。さらに、「医用機器安全管理学実習」は臨床における生命維持管理装置の運用について理解するため、人工呼吸装置・人工心肺装置・人工透析装置の操作技術、輸液ポンプ・シリンジポンプ・電気メス・心臓ペースメーカの操作やメンテナンス技術や心電図読解・心電図モニタの使用

法などについて学ぶ。また、「臨床支援技術学」は医療現場で使用されるデバイス技術について理解することを目的とし、低侵襲で早期胃癌を治療できるESDなどの内視鏡治療や、PCIでひとまとめにされている心・血管カテーテル関連治療のデバイスと操作運用を学ぶ。資格対策として「医用生体計測学演習」は臨床工学技士国家試験問題における生体計測装置学分野の問題を解けるようになるため、単位、雑音と誤差、生体計測用増幅器、医用センサ、心電計、脳波計、筋電計、生体磁気計測、血圧計、血流計測、流量計測、呼吸計測、血液ガス分析、体温測定、超音波診断装置、X線診断装置、MRI、PET及び内視鏡装置について概説する。

4 年次に配当される「医用機器学・安全管理学特別演習」は臨床工学技士の国家試験を合格するために、医用機器学・安全管理学分野全般にわたる専門知識について概説する。

g 生体機能代行技術学

臨床工学技士など高度医療・チーム医療を支えるため医療業務に従事できる基礎的な知識と医学に精通した技術者の専門的な知識を座学と実験・実習科目を通して修得することを目指す。

2 年次に配当される「呼吸療法装置学」は、呼吸生理、呼吸不全の病態から呼吸療法の目的や原理について理解できるようになることを目的とし、呼吸不全や重篤な低酸素症に対して用いられる酸素療法と人工呼吸器の原理や構成と機能、非侵襲的な換気様式や高気圧酸素治療について学ぶ。また、「血液浄化療法装置学」は血液浄化全般についての知識を習得し理解できるようになることを目的とし、血液浄化法の現況・血液透析療法では腎不全患者の病態、透析装置の構造、医療材料であるダイアライザの膜構造と機能・血液透析中の患者管理、安全対策、保守点検技術・血液濾過、腹膜透析、アフエーシスについて学ぶ。

3 年次に配当される「体外循環装置学」は、人工心肺装置、補助循環装置（IABP・PCPS・ECMO）や補助人工心臓について理解できるようになることを目的とし、それら装置の臨床的意義や循環系の生理と病態、構成や操作法や安全対策、保守管理について学ぶ。また、「生体機能代行装置学実習」は呼吸療法装置・体外循環装置・血液浄化装置の適切な操作及び保守管理を理解し、その基本的知識を踏まえた操作技術について習得する。

4 年次に配当される「臨床工学技士総合演習」は臨床工学技士の国家試験を合格するために、臨床工学分野全般にわたる専門知識について概説する。

h 健康福祉工学

人間工学、情報工学や機械工学の技術を有したエンジニアなど自由な発想によって新しいものを創造できる専門的な知識を座学と実験・実習科目を通して修得することを目指す。

3 年次に配当される「認知科学とデザイン」は人間の持つ機能、それに即したデザインの有り方について理解することを目的とし、人間の認知科学的特性をふまえて生活にかかわるモノやコトの開発について、その背景や設計手順に関する基礎的知識を学ぶ。また、「ヒト型ロボット製作実習」は、二足歩行ロボットを製作することで、ものづくりの基礎的な技術を理解することを目的とし、二足歩行ロボットの設計・加工・組立におけるものづくりの工程を体験し技術修得だけでなく、ものづくりに必要な考え方を学ぶ。さらに、「ヒト型ロボット制御実習」はマイコンによるモータ制御技術を理解することを目的とし、マイコンを制御するためにC言語を用い、二足歩行ロボットを動かす応用プログラムを作成する。また、「創造製作実習」はものづくりの工程を理解し、ものづくりのノウハウを身につけることを目的とし、自身で製作したいものを決め、設計、製図、加工、電気回路製作、制御の一連のものづくり

の工程を行い、自身で考えたものを完成させる。

i 臨床実習

臨床工学技士や健康医療機器を開発するエンジニアなどコミュニケーション力を活かし、多職種連携して医療技術の発展のために貢献できる能力や獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、新たな課題に対して解決できる能力を修得することを目指す。

3 年次に配当される「臨床実習（臨床工学）」は臨床工学技士または、健康医療機器を開発するエンジニアの基礎的な実践能力を身につけて医療における臨床工学の重要性を理解し、患者への対応について臨床現場で学習してチーム医療の一員としての責任と役割を自覚できるようになることを目的とし、医療現場において実際の業務を学ぶ。

4 年次に配当される「医療工学特別講義」は臨床工学技士国家試験受験に向けて出題範囲を網羅し、各分野における知識と問題解答への正しい思考を身につけることを目的とし、臨床工学技士国家試験出題の全分野について概説する。

j 医療工学・キャリア形成

社会的な公正性と倫理観を有し、高度医療技術の獲得とその応用のための研鑽を続ける能力を修得することを目指す。

1 年次に配当される「健康情報学演習」は基礎医学と医療工学の基本事項を体験し、医学と工学の融合した学問分野を理解できるようになることを目的とし、教員及び新入生と実習を通して密にコミュニケーションを図り、今後の学習における基礎概念を構築して新しい環境下における学生生活が円滑に開始できるようにする教育経験について学ぶ。また、「医療工学基礎実習」は工学系における基礎的なレポートの作成法を学ぶことを目的とし、電気回路や物理の基礎的な実験を学生自身でこない、それらから得られたデータを活用してパソコンによる図や表の描き方、レポートの書き方について学ぶ。

2 年次に配当される「生体医工学実習」は ME 機器・システムの安全管理を中心とした医用生体工学に関する知識を持ち、適切な指導のもとでそれを実際に医療に応用する資質を検定する日本生体医工学会の第 2 種 ME 技術実力検定試験に合格すること目的とし、ME 機器の基礎と応用力を育成する。

3 年次に配当される「医療工学実習」は医療工学専攻の研究室から説明を受けること、さらに工学の知識を次世代に伝える体験させることを目的とし、社会的及び職業的に自立するための知識を各研究室から学ぶ。

[理学療法専攻]

理学療法専攻に関する専門科目は理学療法士学校指定規則に対応した「基礎医学」、「臨床医学」、「基礎理学療法学」、「理学療法治療学」、「応用理学療法学」及び「学外実習」の6分野において、それぞれに必要な科目を配置する。

以下、各分野の科目についてその目的と教育概要について述べる。

a 基礎医学

理学療法を実施する上で必要となる基礎医学の知識、すなわち、人体の構造と機能に関する知識を習得するため、「機能解剖学」、「運動学」、「生理学演習」及び「解剖学演習」を必修科目として配置

する。また、これらを系統立てて修得するため、「機能解剖学演習」、「運動学実習」及び「基礎医学実習」を配置する。

b 臨床医学

理学療法を実施する上で必要となる臨床医学の知識、すなわち、疾病及び障害の成り立ちやその予防、回復過程に関する知識を系統立てて習得するため、「一般臨床内科学」、「神経内科学」、「リハビリテーション医学」、「整形外科学」、「臨床精神医学」及び「臨床医学探究」を必修科目として配置する。

c 基礎理学療法学

理学療法を実施するうえで必要となる検査測定や評価に関する理論、知識、思考法を習得するため「理学療法評価学」を配置し、実践的に習得するために「理学療法評価学実習Ⅰ、Ⅱ」を必修科目として配置する。

また、理学療法の中心的治療手段の1つである物理療法と義肢装具についての知識と技術を修得するため、「物理療法学実習」及び「義肢装具学実習」を必修科目として配置する。さらに障害が生活に及ぼす影響を理解するための「日常生活活動学実習」を必修科目として配置するとともに、動作のメカニズムを学ぶために「生体動作探究」及び「姿勢・動作解析学演習」を配置する。

さらに、医療現場での対象者やその家族、他の医療スタッフに対応する基礎を学習する「接遇マナーとコミュニケーション」「チームマネジメント」や、理学療法の定義や業務内容を理解する「理学療法関係法規」及び「理学療法管理学」を配置する。なお「接遇マナーとコミュニケーション」及び「理学療法管理学」は必修科目とする。

d 理学療法治療学

さまざまな疾患に対する理学療法評価や治療手段を学ぶため、「障害別基礎理学療法学」とその実践的な実習や演習を配置している。具体的には「運動系理学療法学基礎演習」、「運動系理学療法学演習 A、B」、「神経系理学療法学基礎演習」、「神経系理学療法学演習 A、B、C」、「内部障害系理学療法学演習 A、B」、「小児系理学療法学演習」、「老年系理学療法学演習」及び「スポーツ理学療法特修 A、B」である。さらに理学療法の対象として多く見られる運動系障害と神経系障害については、超音波診断、画像所見等を用いて予後予測や治療手段を考案実践できるための「運動系理学療法学発展演習」及び「神経系理学療法学発展演習」の 2 科目を配置する。また、上記各種疾患・障害で学修した予防策を世代や領域から総合的に学修するため「予防理学療法学演習」を配置する。これらの科目については習熟程度に応じて履修する選択必修とする。さらに、地域包括ケアシステムに対する理学療法士の役割や高齢者の生活支援方法や問題解決能力を養うために「地域理学療法学演習」を必修科目として配置する。

e 応用理学療法学

理学療法治療学の応用的な位置づけとして各種疾患に対する症例検討から評価、治療を習得するための「実践理学療法学演習 A、B」と、臨床実習で学修した症例検討・治療プログラム考案のための「臨床理学療法学演習 A、B」を配置する。また理学療法の発展の学習としてウィメンズヘルスや緩和ケアを学修する「臨床理学療法学探究」と、長期臨床実習の前にチームリハビリテーションの役割を学ぶ「チームリハビリテーション」を配置する。また、理学療法士国家資格取得のために「総合理学療法学演習 A、B」を必修科目として配置する。

f 学外実習

学内教育で修得した知識、技術、思考及び態度を臨床現場で実践的に統合するため、2 年次から 4 年次まで、段階的に配置する。見学、コミュニケーションを主とする「臨床実習（理学療法）1」、検査測定を主とする「臨床実習（理学療法）2」、理学療法評価を主とする「臨床実習（理学療法）3」、地域ケアシステムを修得する「臨床実習（理学療法）4」、総合的な評価治療を経験する「臨床実習（理学療法）5」をそれぞれ必修科目として配置する。

[スポーツ科学専攻]

スポーツ科学専攻に関する専門科目は、「ひと・社会とスポーツ」、「スポーツとからだ」、「こころとスポーツ」、「スポーツ医学」、「スポーツ教育」、「スポーツコーチング」、「ヘルスプロモーション」、「生涯スポーツ」、「e スポーツ」及び「スポーツ方法」の 10 分野から成り立っている。

以下に、各分野科目の目的と教育概要を述べる。

a ひと・社会とスポーツ

2 年次の「体育・スポーツ原理」では 体育・スポーツの本質や理念を学び、「体育・スポーツ社会学」ではスポーツを通じた社会との関わりや諸問題について理解を深める。さらに、3 年次の「スポーツマネジメント論」と 4 年次の「スポーツビジネス論」において実践的な内容を通じてスポーツビジネスを理解し、スポーツマネジメントの基礎を統合的に学習する。

b スポーツとからだ

スポーツ科学を理解し、実践する上で重要な基礎専門科目として、「スポーツバイオメカニクス」と「運動生理学」を 2 年次に設け、身体の構造と機能、及びその機能の仕組みについて学習する。これにより、運動を科学的視点から総合的に理解する能力を涵養する。同様に、2 年次に提供される「体力測定評価演習」と「健康スポーツ科学実習」では、身体機能を適切に測定し、評価するための技術と知識を習得する。3 年次には、「スポーツ栄養学演習」と「運動生理学実習」を設け、より専門的な測定と評価方法について学習する。以上より、スポーツ活動現場や健康運動指導において、適切な指導を行うための能力の育成を目指す。

c こころとスポーツ

運動やスポーツが心理的に与える影響や、心理的特性が運動やスポーツのパフォーマンスに及ぼす影響について基本的な理解を深め、スポーツ指導などに必要な基礎知識を獲得することを目指す。2 年次の「体育・スポーツ心理学」では主に体育の授業場面を中心に主体的な学びを促す働きかけを学び、3 年次の「健康心理学」ではすべての人を対象とした特性を学ぶ。以上より、児童・学生から高齢者まで、さまざまな年齢層の人々に対して適切な指導やサポートを行うための能力の修得を目指す。

d スポーツ医学

スポーツや運動は心身にさまざまな影響を与える。2 年次の「スポーツ医学と救急救命演習」では、身体活動の健康への影響やスポーツによる運動器官の障害や外傷及び事故に対処し、参加者の安全を守るための救急救命法を学ぶ。3 年次の「精神医学」では、基礎的な知識や視点を身につけ、スポーツや日常生活に実践法を習得する。

e スポーツ教育

スポーツの教育性とその本質を理解し、生涯に亘った豊かなスポーツライフの実現を導くことのできる

人材育成を目指す。Ⅰ年次配当の「スポーツ教育学」では、現代の学校体育やスポーツ界において問題視されている課題について様々な視点から考察させることで、教育者としての資質と能力を養う。2年次及び3年次配当の「スポーツ教育学基礎演習Ⅰ」、「スポーツ教育学基礎演習Ⅱ」、「スポーツ教育学応用演習」及び「学校保健」では、発育・発達段階に応じた体育・スポーツ現場における教授学と実践的かつ具体的な指導方法を修得する。

f スポーツコーチング

スポーツコーチングでは、行われる運動の特性や技能を理解するとともにその実践能力を身につけ、スポーツに取り組む多様な対象者に適した指導実践能力の獲得を目的とする。Ⅰ年次の「トレーニング論」では人体に関する基礎的知識に基づいたトレーニングの理論を学び、「スポーツコーチング論」ではコーチングの意義や基礎知識を修得する。2年次の「スポーツトレーニング実習」では、筋力・持久力等を高めるための代表的なトレーニング法を実践しながら、トレーニングに関する知識をより深める。3年次の「スポーツコーチング実習」及び「スポーツ指導実習」ではコーチングの現場での事例を用いた実践法の体験や自分自身によるコーチングの実践などを通して、コーチの役割やコーチング特性を学びながら、コーチング全般の基本原則を身につけ、コーチとして必要な実践力を習得する。

g ヘルスプロモーション

健康で活力のある生活や健康寿命の延伸の推進に貢献する健康づくり運動の知識や指導方法の修得を目指す。2年次の「生活習慣病と介護予防」では生活習慣病の内容とその予防における身体活動の重要性を学ぶ。「健康運動指導基礎演習」では健康づくり運動の基礎知識を修得し基本的な運動プログラムの作成ができるようになる。3年次の「健康トレーニング実習」では健康づくりに適した各種運動の基礎技術と指導方法を修得する。さらに「健康運動指導応用演習」においては専門的知識を高め、安全かつ効果的な指導方法を修得する。

h 生涯スポーツ

老若男女、障害の有無を問わず、全ての人が生涯に渡ってスポーツに関わる社会に寄与できるよう、生涯スポーツ群として、「スポーツ・レクリエーション論」、「スポーツ・レクリエーション実習」、「アダプテッドスポーツ」の3科目を置く。2年次の「スポーツ・レクリエーション論」では、スポーツを手段として活用してこころやからだの健康づくりを図るスポーツ・レクリエーションの意義や目的、スポーツ未実施者の特徴と課題について知り、それらをスポーツ・レクリエーションを活用して解決する方策について学ぶ。同じく2年次の「スポーツ・レクリエーション実習」では、支援対象者との信頼関係を築くコミュニケーションや良好な集団を作るための手法、安全かつ効果的な支援技法について、実際の活動を通じて具体的に学ぶ。4年次の「アダプテッドスポーツ」では、障害を持った対象者の心身や活動の特徴、適切な配慮方法、それらを取り巻く社会環境について知り、インクルーシブ社会の担い手として必要な知識と支援技法を身につける。

i e スポーツ

コンピュータゲーム等を使った対戦であるeスポーツをスポーツ競技の1つとして捉え、その基礎的な知識や技能を身につけることを目的に、「eスポーツ科学概論」、「eスポーツ科学演習」の2科目を置く。3年次の「eスポーツ科学概論」では、eスポーツの成り立ちや競技スポーツとしての価値、ハードウェアやプレイ環境など、eスポーツを取り巻くさまざまなトピックを取り挙げ、eスポーツを科学的に捉えて考えるための基礎的知識を身につける。同じく3年次の「eスポーツ科学演習」では、eスポー

ツをプレイしている際の心身の応答や動き、戦術・戦略などを科学的に分析するための基礎的な計測・解析技術を身につける演習を行う。

」スポーツ方法

スポーツ方法では、スポーツを実践する人を、ただ単にスポーツを行う人としてでなく、スポーツをする人、スポーツを観る人、スポーツを支える（育てる）人として捉え、対象となるスポーツの基本的な技能や戦術を理解し、実践できる能力を育成する。「運動遊び」や「体づくり運動」といったスポーツの基礎となる運動をはじめ、「水泳・水中運動」、「器械運動」、「球技（ゴール型・ネット型・ベースボール型）」、「陸上競技」、「武道」、「ダンス」、「海洋スポーツ」及び「冬季スポーツ」などのスポーツ種目だけでなく、「ニュースポーツ」及び「e スポーツ」を含めた 16 科目を設定している。各科目において、運動やスポーツを体験しながら、スポーツ活動の目的・内容・方法及び他者との協働の重要性について理解を深め、生涯にわたってスポーツを楽しみ豊かな生活を営む態度を育成する。

【資料2】健康情報学部健康情報学科の時間割

⑤教育方法、履修指導方法及び卒業要件

ア 授業の方法

本学の各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じて、当該授業における教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

講義、演習については 15 時間から 30 時間の学修をもって 1 単位とする。実験、実習については 30 時間から 45 時間の学修をもって 1 単位とする。ただし、卒業研究については、学修の成果を評価して単位を授与する。

健康情報学部健康情報学科における授業方法は、教育内容に応じて、適宜、講義形式、演習形式、実験形式及び実習形式をとる。各分野の知識と理解を目的とする科目については、講義形式を中心とした授業形態をとるが、知識や理論を応用する能力を身につけることを目的とする科目については、演習による授業形態をとることとする。さらには、現象の理解や理論を検証することを目的とする科目については、実験・実習形式を中心とした授業形態をとる。また、実際に人の動作や運動を対象とした検証、使用する機器の操作などの検証をすることを目的とする科目についても、実習形式を中心とした授業形態をとる。

イ 学生数の設定

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、学科共通科目のクラス分割をおこない、実施する。専門教育科目については、受講予定者の状況に応じて、教育効果上の必要があれば、クラス分割をおこない、実施する。また、演習、実験及び実習の各授業形式を中心に、必要に応じて大学院生のティーチングアシスタント(TA)または学部 4 年次生のスチューデントアシスタント(SA)を適切に配置し、教育効果を向上させる。

ウ 配当年次

配当年次は、学科共通科目から各専攻の専門科目へと体系的な学修が可能となるようにするとともに、専門教育においても、各専攻ごとに、基礎から応用または発展、または 1、2、3 などと履修の順位を明確にして、

4 年間で計画的に履修できるように配慮した配当となっている。

エ 履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点から踏まえ、学生の主体的な学修を促し、教室における授業と教室外の学修を合わせた充実した授業を展開することにより学修効果を高めるために、1 年間に履修科目として受講の届出をおこなうことができる単位数の上限は、各年次とも 44 単位とする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者が、履修指導により認められた場合は、この限りではない。また、資格の「認定」科目についてはそれらの制限から除外することとする。

オ 成績評価

成績の評価は、S(秀)、A(優)、B(良)、C(可)、D(不可)及び G(合格)をもって表し、C(可)以上もしくは G を合格とする。成績判定の方法は、各授業科目において試験または課題提出を実施し、その結果により判定する。各授業科目の成績評価基準はシラバスにおいて明示する。また、厳格な成績評価により、学修成果の質を確保するために、GPA(Grade Point Average)制度を導入する。

カ 履修指導方法

健康情報学部健康情報学科における履修指導方法は、1、2 年次では、約 10 人の学生それぞれに対してグループ担任制度を設けて、きめ細やかな教育指導をおこなう。さらには、学生に対して、オフィスアワーを利用して教員が相談に応じる時間を設けて、十分な教育指導を行う。また、前期開始前に、学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて、学生の履修科目の選択に関する個別の履修相談に応じるなど、履修指導の体制を整備する。また、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学修目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるような指導や養成する具体的な人材像、また、学生個人のキャリアデザインに対応した「履修モデル」を提示し指導する。特に、医療工学専攻及びスポーツ科学専攻の資格取得については、その専攻内の多くの学生が志望すると予想できるため、必修科目と資格に関する推奨科目を履修モデルに沿って単位取得すれば、受験資格を得られるようにしている。なお、理学療法学専攻の資格取得については、その専攻内のすべての学生が志望するため、卒業要件の履修モデルに沿って単位取得すれば、受験資格を得られるようにしている。

キ 卒業要件

健康情報学部健康情報学科における卒業要件は、学部で 4 年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、124 単位以上を修得することとする。共通科目では、「外国語群」中の「英語」より 1 単位以上、必修及び選択科目を合わせて 20 単位以上までを修得し、各専攻それぞれの養成する人材像に則するため専攻独自の必修科目を、次のように定めている。

医療工学専攻においては、臨床工学技士資格取得に則した必選を定めており、共通科目の「コンピュータリテラシーⅠ」、学科共通科目の「解剖生理学Ⅰ」、「解剖生理学Ⅱ」、「卒業研究」及び専門科目の「電気電子工学実験」の 5 科目 16 単位を必修としている。

理学療法学専攻においては、理学療法士資格取得に則した必選を定めており、共通科目の「コンピュータリテラシーⅠ」、学科共通科目の「健康情報学概論」、「解剖生理学Ⅰ」、「解剖生理学Ⅱ」、「卒業研究」、専門科目の「機能解剖学」、「運動学」、「生理学演習」、「解剖学演習」、「一般臨床内科学」、「神経内科学」、「リハビリテーション医学」、「整形外科学」、「臨床精神医学」、「臨床医学探究」、「接遇マナーとコミュニケーション」、「日常生活活動学実習」、「物理療法学実習」、「運動療法学実習」、「理学療法管理学」、「理学療法評価学」、「理学療法評価学実習Ⅰ」、「理学療法評価学実習Ⅱ」、「義肢装具学実習」、「地域理学療法学演習」、「チームリハビリテーション」、「総合理学療法学演習 A」、「総合理学療法学演習 B」、「臨床実習(理学療法)Ⅰ」、「臨床実習(理学療法)Ⅱ」、「臨床実習(理学療法)Ⅲ」、「臨床実習(理学療法)Ⅳ」及

び「臨床実習（理学療法）5」の 33 科目 82 単位を必修としている。

スポーツ科学専攻においては、健康運動実践指導者資格取得に則した必選を定めており、共通科目の「アカデミック・ライティング」、「キャリアデザイン」、「コンピュータリテラシー1」、「コンピュータリテラシー2」、学科共通科目の「プレゼミ」、「ゼミナール」、「卒業研究」及び専門科目の「健康スポーツ科学実習」の 8 科目 21 単位を必修としている。

【資料3】健康情報学部健康情報学科の履修モデル

⑥編入学定員を設定する場合の具体的計画

ア 既修得単位の認定方法

健康情報学部健康情報学科では、3 年次編入学の定員を 2 名としている。出身学校で取得した単位については、審査の上、本学で開設している科目と同等のものとして認めた科目は卒業に必要な単位として認定する。出身学校により科目名が異なることから、読替表等は作成せず、随時対応する。

イ 履修指導方法

アで記載のとおり、既修得単位の認定を個別で行っているため、履修指導もグループ担任である学科の教員もしくは四條畷学務課の担当職員が既修得単位の状況を勘案しながら、履修指導を行う。

ウ 教育上の配慮等

編入学した学生は、卒業研究を履修する際、担当教員の選択に制限を設けないなどの配慮を行う。また、グループ担任である学科の教員が教育上の問題に関する相談に応じる体制を構築する。

⑦実習の具体的計画

教育実習は、医療工学専攻と健康スポーツ科学専攻のみ実施、理学療法士の資格養成に係る臨床実習（理学療法）を含む学外実習は、理学療法学専攻のみで実施する。

教育実習〔医療工学専攻〕及び〔健康スポーツ科学専攻〕

ア 実習の目的

教職を志望する学生が、教師の仕事の実際に触れてみて、自らの決意と適性を最終的に確認するとともに、自己の人間的及び学問的未熟さを自覚して、あらたな学習課題を発見するための経験学習の場としてまず位置づけられる。

目的は以下のとおりである。

（ア）学校教育の実際において、体験的・総合的な認識を得ること。

（イ）大学において修得した教科や教職に関する専門的な認識・理解や理論・技術を、生徒の成長発達の促進に適用できる実践的能力の基礎を形成すること。

（ウ）教育実践に関する問題解決や創意工夫に必要な研究的な態度と能力の基礎を形成すること。

（エ）教育者としての愛情と使命感を深め、自己の教員としての能力や適性についての自覚を得ること。

イ 実習先の確保の状況

大きく分けて以下の2つの方法で教育実習校を確保している。

(ア)教育実習を希望する学生自身が、実習を希望する学校に実習内諾依頼を行い、その報告をもとに大学から書面にて実習の依頼をする。これは、最初に学生に実習内諾依頼をさせることで、主体的に実習で学ぶ姿勢を高めることを目的としている。

なお、学生によって実習校が確保できなかった場合、系列校の大阪電気通信大学高等学校又は、四條畷市教育委員会を通じて近隣中学校にて実習ができるよう、大学が学生を支援して実習校を確保する。

(イ) (ア)の方法(学生が実習校へ直接内諾依頼を行う)を認めていない自治体の場合は、大学から教育委員会への実習申し込みを行う。この場合、教育委員会から実習校が割り当てられる。

【資料4】教育実習施設一覧

【資料5】教育実習先の実習受入承諾書

ウ 実習先との契約内容

教育実習先との契約については、事前に学生と実習先との間で受入条件を確認した上で、内諾依頼を行い、最終的には担当窓口である四條畷学務課の担当職員より、教育実習先へ承諾書を依頼するという流れで行っている。

エ 実習水準確保の方策

教育実習の水準を確保するため、原則として、以下の条件を満たすことを受講資格としている。

(ア)3年次までに教育の基礎的理解に関する科目「教育原理」、「教育心理学」、校種毎に指定された各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)(教科教育法)の単位を修得した者

※数学(中及び高)の場合は教科に関する専門的事項「代数学Ⅰ」、「幾何学Ⅰ」の単位修得を受講資格に加える。

(イ)4年次に進級可能な者

オ 実習先との連携体制

教育実習生に対しては、「事前・事後指導」等の教職課程科目を通じての指導に加えて、随時個別面談(教職課程支援室、各教員の研究室等で実施)、メールによる相談を行い、不安の軽減、課題の明確化を行っている。所属学科の教員(または教職課程科目担当教員)が実習生を担当し、担当学生の様子が十分把握できるようにしている。また実習校訪問をほぼ全校に対して実施し、実習校との連携、実習生の指導を密に行える体制にしている。

【資料6】実習先との連携体制図

カ 実習前の準備状況

実習へ参加する際、麻疹の予防接種もしくは罹患歴を確認し、実習先と調整の上、対応している。また、「学生教育研究災害傷害保険付帯学生生活総合保険」に加入した上で、実習を行わせている。実習中に知れた情報に関する守秘義務やSNS利用に関する注意点については、教職課程履修手引に記載すると

ともに、事前指導において担当教員から学生へ指導を行う。

キ 事前・事後における指導計画

教育実習は、教職を志望する学生が、教師の仕事の実際に触れてみて、自らの決意と適性を最終的に確認するとともに、自己の人間的及び学問的未熟さを自覚して、新たな学習課題を発見するための経験学習の場である。この教育実習を有意義なものにするために、事前の準備として、教師の仕事に関する理解を深めた上で、実習生としての心構えを身に付け、学生自身が教育実習を行なう上での目標を持つことが必要である。また、教育実習後では、実習校での体験を振り返ることによって、学生自身が考えた教育実習の目標に対する達成度の確認を行う。

事前・事後指導と教育実習を通して、自らが理想とする教師になるための今後の課題を考える契機とする。事前・事後の指導内容は、以下のとおりである。

(ア) 事前指導

- α 教育実習の意義と形態、教育実習の内容、心得（2時間）
- β 教育実習に向けての心構え（2時間）
- γ 教育実習に関する諸問題の整理（グループディスカッション等）（2時間）
- δ 現役教師（若手、卒業生）による講話（2時間）
- ε 現役教師（中堅、ベテラン）または教育委員会等による講話（2時間）

(イ) 事後指導

- α 課題をもとにレポート作成（2時間）
- β 教育実習報告会（2時間）
- γ 総括講義（2時間）

ク 教員の配置並びに巡回指導計画

教育実習生に対しては、事前・事後指導等の教職課程科目を通じての指導に加えて、随時個別面談（教職課程支援室、各教員の研究室等で実施）、メールによる相談を行い、不安の軽減、課題の明確化を行っている。所属学科の教員（または教職課程科目担当教員）が実習生を担当し、担当学生の様子が十分把握できるようにしている。また実習校訪問をほぼ全校に対して実施し、実習校との連携、実習生の指導を密に行える体制にしている。

ケ 実習施設における指導者の配置計画

教育実習先には、本学の担当教員は配置せず、各教育実習先担当の教員と密接に連絡をとりながら、実習の運営並びに実習の指導を行う。また、実習期間中において、本学の担当教員が教育実習先に訪問し、実習中の学生を巡回指導する。

コ 成績評価体制及び単位認定方法

教職課程の適正な運営を図るために教職課程委員会をおき、教職課程に係わる授業科目及び授業時間の授業計画、教育実習の実施、介護等体験の実施、その他教職課程の運営に関する事項について、審議する。教職課程の授業科目の科目担当者の委員の中から委員会において委員長及び副委員長各1名

を選出する。委員長は、委員会を招集し議長となる。本委員会は概ね3か月に1回程度開催する。

成績評価体制は、上記の教職課程委員会において行う。教職課程委員会は、学部の各学科及び共通教育機構の人間科学教育研究センター及び数理科学教育研究センターから1名ずつ選出された委員、計23名で構成する。単位認定方法は、実習校からの資料に基づき、教職課程委員会で審議し、単位を認定する。

臨床実習（理学療法）を含む学外実習〔理学療法学専攻〕

ア 実習の目的

本専攻のディプロマ・ポリシーにもとづき、学生が臨床実習指導者の指導・教育のもと、学内で修得した知識を深め、技能・技術の熟練を図るとともに、将来、対人援助職に就く者として、患者・家族やほかの医療スタッフ等と良好な関係を構築できる基本的な態度や生涯学び続ける姿勢を養うことを目的とする。具体的には、病院、保健福祉施設、地域等の多様な場における様々な経験を通して、

- (ア) 理学療法士国家試験レベルの総合的知識と理学療法の評価や治療のために必要な専門知識を深化させる。
- (イ) 理学療法の評価や治療のために必要な技能や技術を熟達させる。
- (ウ) 対人援助職・医療専門職に求められるコミュニケーション力を習得するとともに高い倫理観や責任感を醸成させる。
- (エ) 多様な患者や利用者の課題に対して、学内で学修した知識、技能、態度を総合的に活用し、根拠に基づいた個別性のある理学療法プロセスを思考及び体験・理解する。
- (オ) 課題解決のために他職種と協働することや、生涯にわたり研鑽し続けることの重要性を認識することである。

実習計画の概要は、以下のとおりである。

臨床実習は、「臨床実習（理学療法）1」（見学・コミュニケーション実習）、「臨床実習（理学療法）2」（検査測定体験実習）、「臨床実習（理学療法）3」（総合評価実習）、「臨床実習（理学療法）4」（地域実習）、「臨床実習（理学療法）5」（総合評価治療実習）の5つの実習で構成される。各臨床実習は、2年次から4年次までで、学内授業科目と有機的に連結させ学習が段階的に積み重なるよう配置する。

2年次には、理学療法業務の見学を通して、社会における医療提供施設あるいは保健福祉施設の役割や理学療法士の役割、他職種との関わりを理解するとともに、医療職に必要な資質を身に付けること、さらに、臨床実習指導者の指導のもとで情報収集、医療面接を試行・実践できるようになることを目的とする「臨床実習（理学療法）1」（見学・コミュニケーション実習）を後期に配置する。3年次には、学内で体得した基本的な動作介助や検査・測定を臨床現場で試行・実践することを通して、個々の対象者の能力に合わせた技術を研鑽すること及び以降の臨床実習での学習を効果的かつ円滑に進捗させるための経験を蓄積することを目的とする「臨床実習（理学療法）2」（検査測定体験実習）を前期に配置する。さらに、情報収集、検査・測定を実践し、統合と解釈を行い、問題点抽出・ゴール設定までの理学療法プロセスを体験すること、また、その経験を通して検査・測定の技能を向上させるとともに、問題解決のための思考力を涵養することを目的とする「臨床実習（理学療法）3」（総合評価実習）を後期に配置する。4年次には、症例を通して情報収集、検査・測定から、統合と解釈、問題点抽出、ゴール設定までの理学療法プロセスを体

験し、個々の対象者に見合った治療プログラムを立案し、実践すること、また、その体験を通して検査・測定や治療の技能を向上させるとともに、問題解決のための思考力・実践力を涵養することを目的とする「臨床実習（理学療法）5」（総合評価治療実習）を後期に配置する。さらに、4 年次には、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの見学を通して、それぞれの特徴ならびに理学療法士の役割・業務、他職種との連携、地域包括システム、リハビリテーションマネジメントについて理解することを目的とする「臨床実習（理学療法）4」（地域実習）も後期に配置する。

それぞれの臨床実習の概要、主な到達目標、週間計画等を【資料7】に示す。また、臨床実習の実習計画を【資料8】に示す。

【資料7】 臨床実習（理学療法）1～5の概要

【資料8】 臨床実習計画表

イ 実習先の確保の状況

実習施設は、「臨床実習（理学療法）1」、「臨床実習（理学療法）2」、「臨床実習（理学療法）3」、「臨床実習（理学療法）4」、「臨床実習（理学療法）5」の実習ができるように近畿圏内の 17 施設（大阪府 11 施設、奈良県 3 施設、兵庫県 2 施設、滋賀県 1 施設）を確保している。

【資料9】 臨床実習（理学療法）施設一覧

上記 17 施設に対して、事前に本学部の臨床実習の概要を説明し、臨床実習の受け入れについて理解を得た上で、承諾書により同意を得ている。それぞれの科目の受入れ人数は、次の通り。臨床実習 1:46 人、臨床実習 2:46 人、臨床実習 3:42 人、臨床実習 4:45 人、臨床実習 5:46 人

【資料10】 臨床実習（理学療法）先の受入承諾書

ウ 実習先との契約内容

本学と実習施設との間の契約書には、実習期間、実習費、服務、守秘義務、損害賠償等を明記する。個人情報保護や事故防止に関しては、施設担当教員が臨床実習指導者会議時、実習進捗状況確認のための連絡時ならびに巡回指導時等において、それらの防止内容や万一発生した際の連絡経路等を実習指導者と繰り返し確認・共有することを実習施設側と合意形成している。

エ 実習水準確保の方策

臨床実習施設や臨床実習指導者は、厚生労働省医政局長発「理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン」に記されている要件を満たした実習施設及び理学療法士に依頼するとともに、臨床実習調整者が実習施設・実習指導者と連携し臨床実習全体の調整及び管理を行う。また、年 1 回以上「臨床実習指導者会議」をオンライン開催し、事前に郵送した各臨床実習の「てびき」をもとに実習目標や実習内容、指導方法（実習形態、実習時間などを含む）、学生の評価基準及びその責任範囲等について確認及び協議・共有することで、施設によって実習水準に差が生じないよう統一を図る。さらに、各実習施設に配

置した担当教員が実習水準の担保を確認し、水準が満たない場合は実習指導者等と再確認及び協議・再依頼することで実習水準を確保する。一定の水準の確保が困難などなんらかの問題がある場合は、担当教員が専攻内に設置した「臨床実習委員会（構成員：科目担当教員）」へ報告し、委員会において対策等を検討し対応する。また実習終了後、委員会において指導内容の適切性・妥当性を本専攻の教育水準に照らして確認・点検し、問題がある場合は対策等を検討する。さらに、それらの内容を次年度の「臨床実習指導者会議」において報告・協議・共有し、以降の臨床実習に反映させることで実習水準の確保を図る。

オ 実習先との連携体制

「臨床実習指導者会議」において、各臨床実習の「てびき」をもとに各臨床実習の実習目的、実習概要、実習前後の学内での取り組み、実習指導方針、安全管理、関係書類の取り扱い等について確認・協議・共有する。特に各臨床実習の到達目標の理解、実習学生が体験できる理学療法技術の確認、特別な配慮を必要とする学生の情報共有を徹底する。実習指導は、到達目標の達成状況を確認し学生に対して適宜適切な指導を行うこと、学生の能力に合った対象者の協力をいただくこと、学生の能力に応じて無理のない範囲の指導を行うこと等を留意点として確認・徹底する。また、大学教育としての臨床教育の目的、ハラスメントや事故・情報漏洩発生時の対応などについて、大学と実習施設の双方で確認・共有する。さらに、各臨床実習において、臨床実習施設ごとに 1 名の担当教員を配置し、臨床実習指導者と情報共有・連携を緊密に図ることができる体制をとる。各実習施設の担当教員は、実習施設の特徴の把握、実習指導者からの連絡・問い合わせの対応、実習学生の実習進捗状況の確認等、個々の学生の臨床実習が円滑に進行するよう調整を行う。

カ 実習前の準備状況

各臨床実習前に行うオリエンテーション等において、守秘義務や個人情報保護、安全管理や事故発生時の対応、感染防止対策や感染した際の対応等について学習する。

（ア）守秘義務・個人情報保護

1 年次前期の「健康情報学概論」、1 年次後期の「接遇マナーとコミュニケーション」、2 年次前期の「理学療法関係法規」ならびに各実習前のオリエンテーションにおいて、対象者の人格を尊重すること、人の尊厳や権利を守ること、関係法規、個人情報の取り扱いに関することについて指導する。

【資料 11】

特にソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の利用について、情報の流出がないよう注意喚起を徹底する。また各実習開始に際して、学生には「守秘義務・個人情報保護 誓約書」【資料 12】を実習施設に提出することを義務づける。

【資料 11】 守秘義務、個人情報保護に関すること

【資料 12】 守秘義務・個人情報保護 誓約書

（イ）安全管理・事故発生時対応

1 年次前期の「健康情報学概論」、2 年次前期の「理学療法評価学」、2 年次後期から 3 年次後

期に構成されている理学療法治療学に関する各科目ならびに各実習前のオリエンテーションにおいて、各疾患のリスク、発生しやすい事故とその防止策、事故発生時に対応、感染予防について教育・指導する。また、万一事故が発生した場合は、直ちに実習指導者に報告し指示を仰ぐこと、大学へ速やかに連絡し事故報告書【資料 13】を提出することを徹底する。実習施設及び学生からの事故報告にもとづき、実習施設担当教員は直ちに臨床実習委員会に報告し、委員会において対応の協議を行い、速やかに対処する。

なお、実習において学生が対象者の身体に触れるなど理学療法行為の一部を実施する際には、対象者へ口頭もしくは書面「診療参加型臨床実習」に関する説明と同意書【資料 14】で、対象者への説明と同意を得ることを臨床実習指導者に求める。対象者に署名いただいた書面は、実習施設において保管することとする。

また、本専攻の学生は、大学の費用負担により「学生教育研究災害傷害保険付帯学生生活総合保険」に加入させる。

【資料 13】 事故報告書

【資料 14】 診療参加型臨床実習に関する説明と同意書

(ウ) 感染予防対策

入学時の健康診断において、風疹、麻疹、水痘、流行性耳下腺炎（ムンプス）の抗体検査に加え、B 型肝炎抗原・抗体検査を行う。ウイルス抗体価が一般財団法人 日本環境感染学会による「医療関係者のためのワクチンガイドライン」の基準に満たない学生や陰性の学生は、必要回数ワクチン接種し医療機関発行の接種証明書を提出させ、大学が保管する。また、学生のウイルス抗体価やワクチン接種状況を書面【資料 15】に記録し、大学が管理・保管する。

【資料 15】 B 型肝炎・4 種ウイルス疾患（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）抗体価と必要予防接種回数

さらに、学生が取り組む実習前、実習中及び実習後の感染防止対策として、下記の事項を徹底させる。

- ・規則正しい生活を心掛け、手洗い・手指消毒・うがいを励行し、体調管理に努める。
- ・密閉空間かつ人が密集している場所で、人と密接に関わることを回避する。また、そのような場所での集会やイベントへの参加を自粛する。
- ・不特定多数との接触を控える。
- ・ソーシャルディスタンスが確保できない場所ではマスクを着用する。
- ・同居家族以外との会食を控える。
- ・実習開始 1 週間前から実習終了 3 日後まで、毎日起床時に検温するとともに、同居家族の健康状態も把握する。
- ・PCR 検査や抗原検査の実施、感染防護具の使用、行動の指針など実習施設の感染防止対策に従う。

- ・学生本人または同居家族に感染を疑う症状がみられる際は、速やかに実習施設及び大学へ連絡し、実習施設には行かず実習施設あるいは大学の指示に従う。
 - ・実習終了後 3 日以内に感染を疑う症状がみられる際は、速やかに実習施設及び大学へ報告し、大学の指示に従う。
- 万一、実習期間中に学生本人が感染、あるいは実習施設内で感染が発生したことによって、実習が一定期間に中断した場合、不足した期間については実習施設と協議の上、原則として不足分の期間を延長する。

(エ) 臨床実習委員会

専攻内に臨床実習調整者を長とする「臨床実習委員会」を設置する。委員会は、科目担当教員によって構成する。委員会は、臨床実習の水準確保及び実習の円滑な進捗、学生保護に努めるため、また、臨床実習科目の単位認定を行うため下記の事項等を実施する。

- ・各臨床実習の「てびき」の作成及び点検、修正
- ・「臨床実習指導者会議」の企画、議題、内容、共有方法等の検討
- ・大学と臨床実習施設の円滑な連携のための調整
- ・各臨床実習における指導内容の適切性・妥当性を本専攻の教育水準に照らして点検
- ・医療事故など問題が発生した場合の分析、対応及び対処手段の検討
- ・実習前の客観的臨床能力試験（OSCE）、知識試験及び実習後の OSCE、知識試験の内容の検討と成績判定
- ・総括的評価にもとづく、成績判定・単位認定

(オ) 臨床実習参加条件

各臨床実習の参加は、開講年次に在籍し、下表の条件を満たしていることとする。「臨床実習（理学療法）3」と「臨床実習（理学療法）5」では下表に加え実習前の OSCE、「臨床実習（理学療法）5」では知識試験が一定の水準を満たしていることとする。

科目名		条件
臨床実習（理学療法）1	（見学・コミュニケーション実習）	なし
臨床実習（理学療法）2	（検査測定体験実習）	「臨床実習（理学療法）1」の単位を取得していること
臨床実習（理学療法）3	（総合評価実習）	「臨床実習（理学療法）2」の単位を取得していること
臨床実習（理学療法）4	（地域実習）	「臨床実習（理学療法）2」と「地域理学療法学演習」の単位を取得していること
臨床実習（理学療法）5	（総合評価治療実習）	「臨床実習（理学療法）3」の単位を取得していること

キ 事前・事後における指導計画

臨床実習での学習効果を高めるため、各臨床実習の前後に課外学習期間を設ける。実習前の課外学習期間では、主に下記の事項を実施する。

- ・大学が設定した各臨床実習の到達目標を達成することに向けて、ロールプレイ等により必要な知識や技能の復習を行う。
- ・実習前の自己の現状を認識し、課題を明確した上で、各臨床実習における自己目標を設定する。

実習後の課題期間では、臨床実習で学習した臨床的知識や技能が効果的に積み重なるよう、次の臨床実

習や学内学習、将来に向けて、主に下記の事項を実施する。

- ・臨床実習を振り返り、大学が設定した各臨床実習の到達目標及び自己目標の達成度を明確にする。
- ・実習前と比較し、変化した点、成長した点を把握してそれを今後どのように活かすか、これからの行動についてまとめる。
- ・臨床実習において特に反省すべき点や新たに発見した課題を明確にし、改善のための方策をまとめる。
- ・報告会において、臨床実習で体験したこと、学び得た内容、経験した症例等について報告し、他学生と互いに共有することで、理学療法の見識を高める。

「臨床実習（理学療法）3」と「臨床実習（理学療法）5」では、実習前後に OSCE を実施する。実習前の OSCE は、学生が臨床実習に臨むために最低限必要な基本的臨床技能を有しているか確認し、学生の自己課題の発見や臨床実習に向けた学習計画の立案、臨床実習指導者と結果を共有することによる実習指導計画の調整に活用する。実習後の OSCE では、学生の臨床実習における学習成果や大学が設置した到達目標の達成度を確認し、学生や臨床実習指導者に対する教育的なフィードバックに活用する。なお、OSCE における模擬患者は、本学卒業生を中心とした実習指導者とし、成績評価は本専攻教員 4 名の判定にもとづいて臨床実習委員会で討議する。臨床実習委員会は、OSCE の内容、判定方法、判定基準など OSCE 実施にあたり必要な事項についても協議の上決定する。

さらに、「臨床実習（理学療法）5」では、実習前後に基礎医学、臨床医学に関する知識試験を実施する。これは、実習前の知識水準ならびに実習後の知識深化を確認し、実習前の学生の課題発見や実習指導計画立案、実習後の教育等に役立てることを目的としている。知識試験の難易度や内容等は、臨床実習委員会の協議によって決定する。

各臨床実習前に、当該実習に関するオリエンテーションも実施する。オリエンテーションでは各臨床実習の「てびき」をもとに、当該実習の概要（到達目標や課題を含む）、実習前後の課外学習、実習の進め方、実習の心得（身だしなみ、言葉遣い、態度など）、守秘義務と個人情報保護（情報漏洩の防止を含む）、SNS 利用時の注意、ハラスメント、安全管理・事故防止、感染防止対策、交通機関運休や災害時の対応方法、臨床実習指導者にお願いしていること、臨床実習者に対する事前連絡、施設担当教員に対する実習進捗状況の報告義務、単位認定方法、関係書類の取り扱い等について、学生に説明し理解させる。なお、オリエンテーション実施後に説明した事柄について試験を行い、学生の理解度を確認する。理解が不十分な学生に対しては、施設担当教員が繰り返し指導する。また、オリエンテーションを録画し、学生が実習中においても常に関覧できるよう環境を整備する。

ク 教員の配置並びに巡回指導計画

実習施設ごとに配置する担当教員には、理学療法士の資格を有する専任教員 8 名を配置する。その際、各教員の担当科目数、時間割、移動方法等を考慮し、1 人当たり 2～4 施設を担当するよう配置する。なお、すべての教員は週 1 日以上巡回時間が確保されているため、巡回指導を行っても学内の講義等に支障がなく、過度な負担にならない。

実習施設担当教員は、「臨床実習（理学療法）1, 2 及び 4」においては臨床実習前後及び実習期間中に週 1 回程度、電話、e-mail、ビデオミーティングソリューションなどを用いて、実習の進捗状況の確認、学生の問題点の把握、実習内容の調整等を行う。ただし、実習の進捗状況、実習指導者の要請及び学生の要望があれば、随時巡回指導を実施する。「臨床実習（理学療法）3 及び 5」においては、上記に加え実習期間中に

原則として1回以上の巡回指導を実施する(必要に応じて複数回)など実習指導者との意思の疎通を図り、安全管理、実習内容の調整等を行う。巡回指導では、実習の進捗状況を確認し、学生の課題を明確にした上で、学生に対して必要な指導・助言を行うとともに、実習が円滑に進捗するよう実習指導者と学生指導について協議する。

また、学生には実習期間中 e-mail にて毎週末、実習進捗状況等の報告を義務づけ、問題等のある場合は適宜指導・対応するとともに、必要に応じて実習指導者と協議する。なお実習調整者は、実習期間中、専攻専用の緊急電話を常時所持し、実習指導者及び実習学生からの緊急連絡や問い合わせに速やかに対応できるよう備える。緊急度や重要度の高い場合は、直ちに施設担当教員に連絡するとともに、速やかに「臨床実習委員会」を開催し、参加構成員の協議の上遅滞なく対応する。

ケ 実習施設における指導者の配置計画

各臨床実習における実習指導者は、「理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン」を遵守し、下記の要件を満たしている者とする。

- ・免許を受けた後5年以上業務に従事した者
- ・「厚生労働省が指定した臨床実習指導者講習会」または「厚生労働省及び公益財団法人医療研修推進財団が実施する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会」を受講し修了した者

コ 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、前述の「カ 実習前の準備状況」に記載している「(エ)臨床実習委員会」の「臨床実習委員会」において、組織的に実施する。

臨床実習は全日出席を原則とするが、3 親等以内の忌引き、就職試験など正当な理由のある場合は、実習期間の 1/5 までの欠席を認める。この条件を満たしている場合、単位認定の資格を得るものとする。加えて、大学への提出物が遅滞、不足なく提出された場合、単位認定の資格を得るものとする。単位認定及び成績の判定は、実習指導者との連携により収集した学生に対する評価・意見と実習前後に実施する OSCE 及び知識試験の成績、課題や実習後報告会の内容をもとに「臨床実習委員会」の合議による総括的評価に基づいて行う。

科目名		実習前		実習中		実習後			計
		OSCE	知識試験	評価表	課題	報告会	OSCE	知識試験	
臨床実習(理学療法)1	(見学・コミュニケーション実習)			20%	40%	40%			100%
臨床実習(理学療法)2	(検査測定体験実習)			20%	40%	40%			100%
臨床実習(理学療法)3	(総合評価実習)	20%		20%	20%	20%	20%		100%
臨床実習(理学療法)4	(地域実習)			20%	40%	40%			100%
臨床実習(理学療法)5	(総合評価治療実習)	10%	10%	20%	20%	20%	10%	10%	100%

⑧企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

企業実習は、医療工学専攻とスポーツ科学専攻のみ実施する。

[医療工学専攻]

(ア) 実習先の確保の状況

臨床実習施設は下記の要件を満たす臨床実習指導者を 1 名以上配置する施設としている。

- ・各指導内容に対する専門的な知識に優れ、臨床工学技士として 5 年以上の実務経験を有し、十分な指導能力を有するものであること。
- ・厚生労働省が定める基準を満たす臨床実習指導者講習会を修了した者であること。

臨床実習における各実習施設名と各施設での受け入れ可能人数を【資料 16】に示す。また、各実習先の実習受入承諾書を【資料 17】に示す。

【資料 16】 臨床実習（臨床工学）施設一覧

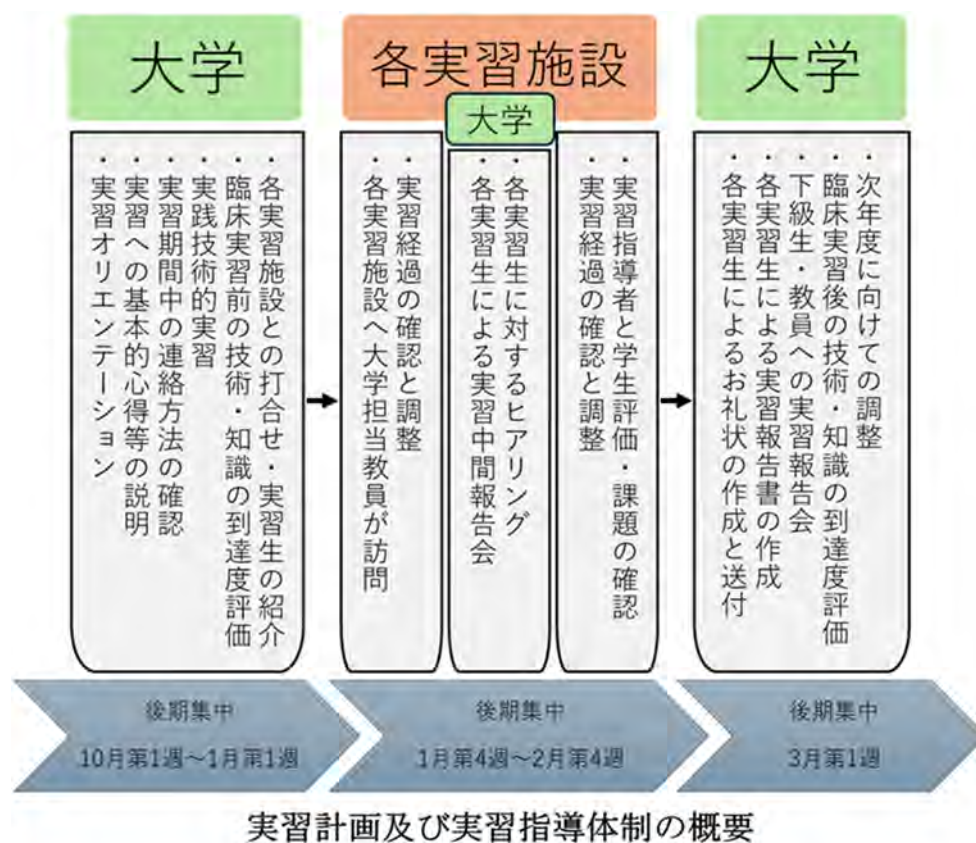
【資料 17】 臨床実習（臨床工学）先の受入承諾書

(イ) 実習先との連携体制

「臨床実習（臨床工学）」の実習先との連携体制と実習計画の概要を図 1 に示す。大学内で実施する実習は医療工学専攻に所属する複数の教員が共同体制で担当する。臨床実習開始前には、学生に対して実習への基本的心得などを指導するオリエンテーションを実施する。また、臨床実習に必要な知識・実践的技術を大学内で実習させ、臨床実習前の技術・知識の到達度評価を実施して学生の臨床実習施設の配属先を決定する。臨床実習施設で実施する実習においては各施設の実習指導者と連携を密にするため、実習施設ごとに担当教員を割り当て、学生が必携する臨床実習日誌【資料 18】の内容を中心に情報交換を行う。具体的には、各施設の実習指導者と各施設の大学担当教員との打合せを実施し、実習生の紹介を行うことで実習指導者・学生・大学担当教員の三者による意思疎通を図る。また、実習期間中には、大学担当教員が実習施設を訪問し実習経過の確認を行う。更に、実習期間中に大学にて実習中間報告会を面接で実施して各学生に対するヒアリングを行うことで学生の様子を確認する。臨床実習終了後には、下級生・大学教員に対する実習報告会を面接にて行う。

【資料 18】 臨床実習日誌

図 1. 「臨床実習（臨床工学）」の実習先との連携体制と実習計画の概要



(ウ) 成績評価体制及び単位認定方法

大学担当教員は各施設の実習指導者と予め下記の評価項目について確認を行う。また、大学担当教員は臨床実習終了日に各実習指導者に対して各学生の臨床実習における評価のヒアリングを行うと共に、今後の課題などについて打合せを行う。更に、各実習施設より各学生の臨床実習報告書（臨床実習日誌内に綴込）を書面で回収する【資料 18】。これらを根拠として「実習施設における評価」を行う。大学内においては「臨床実習前後の技術・知識の到達度評価」を下記の評価項目を範囲として面接実習にて評価を行う。評価者は臨床工学技士の国家資格を有する大学担当教員が行う。「臨床実習（臨床工学）」の成績は「実習施設における評価」と「臨床実習前後の技術・知識の到達度評価」をもって総合的に評価を行う。

「臨床実習（臨床工学）」の単位数は血液浄化療法関連実習1単位、呼吸療法関連実習及び循環器関連実習2単位、治療機器関連実習及び医療機器管理業務実習2単位を含む計7単位となっている。単位認定評価基準を満たした者は、専門科目・医療工学関連科目・臨床実習区分の選択科目「臨床実習（臨床工学）」として単位認定を行う。

【資料 18】 臨床実習日誌

評価項目

【呼吸療法関連】

- ・人工呼吸器等の適応となる疾患等について理解できる。
- ・人工呼吸器等の原理及び操作について理解できるとともに、保守点検について指導者の下に実施

できる。

【人工心肺関連】

- ・人工心肺装置を用いる手術について理解できる。
- ・人工心肺装置の原理及び操作について理解できるとともに、保守点検について指導者の下に実施できる。

【補助循環関連】

- ・PCPS（経皮的心肺補助装置）、ECMO（人工肺とポンプを用いた体外循環による治療）、IABP（大動脈内バルーンパンピング）等の適応となる疾患等について理解できる。
- ・PCPS、ECMO、IABP 等の補助循環装置の原理及び操作について理解できるとともに、保守点検について指導者の下に実施できる。

【血液浄化関連】

- ・血液透析、アフェリシス等の適応となる疾患等について理解できる。
- ・血液透析、アフェリシス等の血液浄化装置の原理及び操作について理解できるとともに、保守点検について指導者の下に実施できる。
- ・バスキュラーアクセスの穿刺等の際に必要な清浄操作及び手技について理解できる。

【ペースメーカ関連】

- ・体外式ペースメーカ、埋込み型不整脈デバイス(IPG、ICD、CRT-P、CRT-D 等)を用いる治療の適応となる疾患等について理解できる。体外式ペースメーカ、埋込み型不整脈デバイス(IPG、ICD、CRT-P、CRT-D 等)の原理及び操作について理解できるとともに、保守点検について指導者の下に実施できる。
- ・清浄野において医師へ医療機器等を手渡す際に必要となる清浄操作について理解できる。

【集中治療関連】

- ・集中治療の適応となる疾患等について理解できる。
- ・集中治療に用いる生命維持管理装置（人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置等）の原理及び操作について理解できるとともに、保守点検について指導者の下に実施できる。

【手術関連（周術期を含む）】

- ・手術の概要について理解できる。
- ・手術に用いる生命維持管理装置（麻酔器、人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置等）の原理及び操作について理解できるとともに、保守点検について指導者の下に実施できる。
- ・手術関連機器の原理及び操作について理解できるとともに、保守点検について指導者の下に実施できる
- ・清浄野において医師へ医療機器等を手渡す際に必要となる手技について理解できる。

【鏡視下手術における視野確保関連】

- ・鏡視下手術の適応となる疾患や術式について理解できる。
- ・鏡視下手術に用いる内視鏡手術システムの原理及び操作について理解できるとともに、保守点検について指導者の下に実施できる。
- ・鏡視下手術における視野確保の際に必要な清浄操作及び手技について理解できる。

【心・血管カテーテル治療関連】

- ・心・血管カテーテル治療の適応となる疾患等について理解できる。
- ・カテーテル関連機器の原理及び操作について理解できるとともに、保守点検について指導者の下に実施できる。
- ・清潔野において医師へ医療機器等を手渡す際に必要となる手技について理解できる。
- ・心・血管カテーテル治療の適応となる疾患等について理解できる。
- ・カテーテル関連機器の原理及び操作について理解できるとともに、保守点検について指導者の下に実施できる
- ・清潔野において医師へ医療機器等を手渡す際に必要となる手技について理解できる。

【保守点検関連】

- ・各種医療機器の原理及び操作について理解できるとともに、保守点検について指導者の下に実施できる。
- ・医療機器の安全確保について理解できる。
- ・病院電気設備、医療ガス設備等の安全確保について理解できる。

(エ) その他特記事項

「臨床実習(臨床工学)」科目における実習の目的と実習概要は、以下の通りである。

・実習の目的

医療現場において実際の業務を学ぶことは医療技術者を目指す者にとって重要である。この実習では臨床工学技士としての基礎的な実践能力を身につけ、医療における臨床工学の重要性を理解し、かつ、患者への対応について臨床現場で学習し、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚できるようになることを目的としている。

・実習概要

医療工学専攻では学外実習である「臨床実習(臨床工学)」を3年次に配当している。本科目は専攻で学んだ臨床工学技士に関連する総合的な知識と技術を、病院で臨床実習指導者の指導のもとに実施又は見学させる。

[スポーツ科学専攻]

(ア) 実習先の確保の状況

本専攻の教員と四條畷就職課の職員との協力体制により、インターンシップの実習先を【資料 19】に記載のとおり、26 社確保している。

【資料 19】 インターンシップ実習先一覧

(イ) 実習先との連携体制

本専攻の教員もしくは四條畷就職課の職員が実習受け入れ先企業を訪問し、インターンシップの実習内容をお互いに確認した上で、契約を締結する。日々の実習で問題があれば、実習受け入れ先企業から本専攻の教員もしくは四條畷就職課に連絡が入る体制を構築している。また、学生は実習中、実習日誌を受け入れ先企業の実習担当者に提出して、確認を受ける手順となっている。学生は、実習開始前には事前

研修を受講し、実習終了後は実習報告書の作成を行い担当教員に提出する。その後、本学から実習受け入れ先企業へ実習報告書を提出する。後日、実習受け入れ先企業の担当者を招待し、学生による成果報告会を開催する。

(ウ) 成績評価体制及び単位認定方法

プレゼミの担当教員が単位認定の条件（実習期間原則実質 40 時間以上、事前研修の参加、実習日誌の提出、成果報告会の参加）を満たしていることの確認を行い、該当者の成績報告書を四條畷学務課に提出する。単位は「インターンシップ」2単位として認定する。

(エ) その他特記事項

「インターンシップ」科目における実習の目的は、以下のとおりである。

- ・本科目では、企業や公共団体等で就業体験する学外実習を通じて、現在の社会や産業構造、職業に対する理解を深めるほか、社会人として必要とされる勤労観を身につけ、人間的な成長を図ることを目指す。さらに、これまでの学びと実社会との関わりを感じ、将来のキャリア形成につながる気付きを得ることを目的とする。

⑨取得可能な資格

新設組織である健康情報学部健康情報学科の医療工学専攻、理学療法学専攻及びスポーツ科学専攻で取得可能な資格は、以下のとおりである。

[医療工学専攻]

ア 臨床工学技士

- ・国家資格
- ・資格取得可能
- ・卒業要件単位に含まれる科目のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

イ 中学・高校教員Ⅰ種(数学)

- ・国家資格
- ・資格取得可能
- ・卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要である。

ウ 高校教員Ⅰ種(工業)

- ・国家資格
- ・資格取得可能
- ・卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要である。

[理学療法学専攻]

ア 理学療法士

- ・国家資格
- ・受験資格取得可能
- ・卒業要件単位に含まれる科目のみで取得可能で、資格取得が卒業の条件である。

[スポーツ科学専攻]

ア 健康運動実践指導者

- ・民間資格
- ・受験資格取得可能
- ・卒業要件単位に含まれる科目のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

イ 中学・高校教員Ⅰ種(保健体育)

- ・国家資格
- ・資格取得可能
- ・卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要である。

⑩入学者選抜の概要

ア アドミッション・ポリシー

健康情報学部健康情報学科のアドミッション・ポリシーは、以下のとおりである。

健康情報学部健康情報学科は、人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基にした、医療科学・工学・スポーツ科学の知識と技術の実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門の人材を育成することを目的としている。このため、次のような学生を求める。

- (1) 自ら考え行動しようとする意欲の高い者
- (2) 医療あるいは福祉の分野で人の役に立ちたいと考えている者
- (3) スポーツや科学技術を通して健康社会をつくる意欲をもった者

上記のアドミッション・ポリシーに加えて、各専攻の教育方針に合わせて、専攻のアドミッション・ポリシーを定めている。

[医療工学専攻]

医療工学専攻は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めている。

(知識・技能)

- (1) 高等学校までの履修教科のうち国語を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている者
- (2) 高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者
- (3) 事象を数学的に考え、表現する能力を育成するために、数学について基礎知識を身に付けている者
- (4) 自然の事物・現象について、科学的に探求する能力を育成するために、物理、化学の中で1科目以上について基礎知識を身に付けている者
- (5) 医療技術及び情報技術に関する科学的な考え方を育成するために、理科または工業系科目の基礎知識を身につけている者

(思考力・判断力・表現力)

- (6) 知的的好奇心があり、自由な発想によって新しいものを創造することができる者、または取組む意欲がある者
- (7) 人々の健康、福利、権利を守る意識があり、プライバシー及び個人情報などを正しく取扱いがで

る者

(主体性・多様性・協調性)

(8) 医療・健康及び情報に関する学修や研究に、主体的かつ積極的に取り組むことができる者

(9) 人の尊厳と権利を尊重し、人のために行動できる意思と人の気持ちを理解する努力を続けることができる者

[理学療法学専攻]

理学療法学専攻は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めている。

(知識・技能)

(1) 高等学校までの履修教科のうち国語を学び、コミュニケーションの基本的な知識技能を身に付けている者

(2) 高等学校までの履修教科のうち外国語(英語)を学び、基本的なコミュニケーションに必要な知識技能を身に付けている者

(3) 事象を数学的に考え、表現する能力を育成するために、数学について基礎知識を身に付けている者

(4) 自然の事物・現象について、科学的に探求する能力を育成するために、物理、化学の中で1科目以上について基礎知識を身に付けている者

(5) 情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方を育成するために、情報の科学、社会と情報について基礎知識を身に付けている者

(思考力・判断力・表現力)

(6) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取り組む意欲がある者

(7) 空間認知力、身体認知力、及び対人認知力を基礎として、科学的に思考、判断、表現が出来る者、または取り組む意欲がある者

(主体性・多様性・協調性)

(8) 自身のやりがいについて、主体的に考え、積極的に取り組むことができる者

(9) 多様な価値観を受け入れられる者

(10) 人の役に立ちたいと考えている者、協調性を有する者

(11) 健康に関連する情報に関心を持ち、これを追求する者

(12) 医療人を目指す者の心得として、身だしなみや喫煙の影響など健康維持の模範を意識し、自覚的に行動できる者

[スポーツ科学専攻]

スポーツ科学専攻は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、次のような学生を求めている。

(知識・技能)

(1) 高等学校で国語を履修し、日本語でのコミュニケーションの十分な知識と技能を身に付けている者

(2) 高等学校で外国語(英語)を履修し、外国語でのコミュニケーションの基本的知識・技能を身に付けている者

(3) 高等学校で数学を履修し、事象を数学的に考察し表現できる能力を身に付けている者

(4) 高等学校で理科を履修し、自然の事物・現象について科学的に探求する能力を身に付けている者

- (5) 高等学校で情報を履修し、情報科学、情報リテラシー、社会と情報についての基礎的知識・技能を身に付けている者
(思考力・判断力・表現力)
- (6) これまでの知識を基に、自由な発想によって新たな価値を創造することができる者、または取り組む意欲がある者
- (7) 表現力あるいは創造力、論理的思考能力を有する者、またはそれらを用いた活動に取り組む意欲がある者
(主体性・多様性・協調性)
- (8) スポーツ科学や健康科学の各分野の専門知識や技能を学びたいと強く望み、主体的に学ぶことができる者
- (9) 社会や周囲の多様な価値観を受け入れ、相互理解し、他者と協調して物事に取り組むことができる者

イ 入学者選抜方法・体制

入学者選抜方法については、アドミッション・ポリシーに沿い、健康情報学部（医療工学専攻・理学療法学専攻・スポーツ科学専攻）の教育を受けるにふさわしい能力・意欲・適性などを多面的・総合的に判定し公正かつ妥当な方法で入学者を選抜するため、主に以下の選抜制度を専攻ごとに実施する。

（ア）【一般選抜】一般入学試験〔募集人員 49 名 約 30%〕

本学独自の学力試験により選抜を行う。理系型・文系型での試験科目を設定しており、高得点重視型、高得点採用型及び均等配点型などの多様な判定方式を設けることで、幅広い対象からアドミッション・ポリシーに定める(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性・多様性・協調性)を持った優秀な人材を選抜することを目的とする。

◇学力試験の内容

・前期

理系型	文系型
外国語（英語）（配点 100）	外国語（英語）（配点 100）
数学（配点 150）	国語（配点 150）
理科（物理、化学、生物より選択）（配点 100）	

高得点重視型	外国語又は理科の高得点教科を 150 点に換算し、判定
高得点採用型	外国語又は理科の高得点教科と数学の合計点で判定
均等配点型	外国語の得点を 150 点に換算し、判定

・中期

理系型	文系型
外国語（英語）（配点 100）	外国語（英語）（配点 100）
数学（配点 150）	国語（配点 150）
理科（物理、化学、生物より選択）（配点 100）	

・後期

理系型		文系型	
外国語(英語)	(配点 100)	外国語(英語)	(配点 100)
数学	(配点 150)	国語	(配点 150)

(イ)【一般選抜】一般入学試験(大学入学共通テストを利用した入学試験)[募集人員 6 名 約 4%]

大学入学共通テストの成績により選抜を行う。本学独自の学力試験を行わないことで、受験生の負担を軽減し、健康情報学部での学びに関心を持つ者に受験の門戸を広げ、広範な地域からよりアドミッション・ポリシーに定める(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性・多様性・協調性)を持った優秀な人材を選抜することを目的とする。

◇指定科目

数学	(「数学Ⅰ」,「数学Ⅰ, 数学A」から1科目)と 「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」の2科目 ＊旧教育課程を選択した場合は, (「旧数学Ⅰ」,「旧数学Ⅰ・旧数学A」から1科目)と (「旧数学Ⅱ」,「旧数学Ⅱ・旧数学B」から1科目)の2科目
外国語	「英語(リスニングを含む)」
理科及び情報	①「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」, 「物理」,「化学」,「生物」から1科目 ②「情報Ⅰ」 ①または②の高得点を採用 ＊旧教育課程を選択した場合は, ①「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 ②「物理」,「化学」,「生物」から1科目 ③「旧情報」 ①、②または③の高得点を採用

・前期

理系型		文系型	
数学	(配点 150)	国語	(配点 150)
外国語	(配点 100)	外国語	(配点 150)
理科及び情報	(配点 100)		

・後期

理系型		文系型	
数学	(配点 200)	国語	(配点 150)
外国語	(配点 100)	外国語	(配点 150)

(ウ)【一般選抜】【総合型選抜】AO入学試験〔募集人員 37 名 約 22%〕

健康情報学部教育内容に強い関心を持ち、学びに対して意欲的で探究心旺盛な者を対象とし、通常の学力試験では評価できない、やる気や適性（センス）を高く評価する。具体的には、調査書等で一定の学力を確認するとともに、医療健康科学に対する関心度を課題小論文（思考や問題解決力）や保有する資格（自己研鑽）、面接（人物像）などにより多面的に評価し、総合的な観点から健康情報学部での学びを熱望し、アドミッション・ポリシーに定める（知識・技能）、（思考力・判断力・表現力）、（主体性・多様性・協調性）を持った人材を選抜することを目的とする。

(エ)【学校推薦型選抜】公募推薦入学試験〔募集人員 36 名 約 22%〕

高校での学習成績・人物が優秀で、出身高等学校長が推薦する者を対象とし、適性検査の結果に加え、調査書の内容や各種資格取得の有無など、総合的な観点から人物を評価することで、アドミッション・ポリシーに定める（知識・技能）、（思考力・判断力・表現力）、（主体性・多様性・協調性）を持った優秀な人材を確保することを目的とする。

◇適性検査の内容

・前期

理系型		文系型	
数学の素養	（配点 150）	国語の素養	（配点 150）
外国語（英語）の素養	（配点 100）	外国語（英語）の素養	（配点 100）

・後期

理系型		文系型	
数学の素養	（配点 150）	国語の素養	（配点 150）
外国語（英語）の素養	（配点 100）	外国語（英語）の素養	（配点 100）

(オ)【学校推薦型選抜】指定校推薦入試〔募集人員 34 名 約 18%〕

本学が指定する学校の学校長が推薦する学業・人物ともに特に優秀な者について、出願書類による審査及び面接により総合的に評価し、アドミッション・ポリシーに定める（知識・技能）、（思考力・判断力・表現力）、（主体性・多様性・協調性）を持った優秀な人材を確保することを目的とする。

(カ)【学校推薦型選抜】専門学科・総合学科特別推薦入学試験〔募集人員 8 名 約 3%〕

適性検査の1科目の結果に加え、調査書の内容を積極的に評価し、専門高校及び総合高校で培った専門性や多様性に優れ、アドミッション・ポリシーに定める（知識・技能）、（思考力・判断力・表現力）、（主体性・多様性・協調性）を持った人材を選抜することを目的とする。

◇適性検査の内容

数学の素養	出願時に選択 （配点 150）
国語の素養	
外国語（英語）の素養	

(キ) 帰国生徒入学試験〔若干名〕

外国での学校教育を2年以上受けた者を対象とし、学力試験と面接により総合的に評価し、海外での

貴重な経験を活かし国際的に活躍したいとする意欲があり、アドミッション・ポリシーに定める(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性・多様性・協調性)を持った人材を選抜することを目的とする。

◇学力試験の内容

理系型		文系型	
数学	(配点 150)	国語	(配点 150)
外国語(英語)	(配点 100)	外国語(英語)	(配点 100)

(ク) 社会人入学試験〔若干名〕

2年以上の就業経験を有する者を対象とし、健康情報学部での学びに関する口頭試問と書類審査により総合的に評価し、自らの教養を高めたいとする意欲があり、アドミッション・ポリシーに定める(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性・多様性・協調性)を持った人材を選抜することを目的とする。

(ケ) 外国人留学生入学試験〔若干名〕

外国籍を有する者を対象とし、学力試験と面接により総合的に評価し、本学への留学経験を活かし日本や自国あるいは国際的に活躍したいとする意欲があり、アドミッション・ポリシーに定める(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性・多様性・協調性)を持った人材を選抜することを目的とする。

◇学力試験の内容

・Ⅰ期

理系型		文系型	
数学	(配点 150)	国語	(配点 150)
外国語(英語)	(配点 100)	外国語(英語)	(配点 100)

・Ⅱ期

理系型		文系型	
外国語(英語)	(配点 100)	外国語(英語)	(配点 100)
数学	(配点 150)	国語	(配点 150)
理科(物理、化学、生物より選択)	(配点 100)		

(コ) 外国人留学生入学試験(日本留学試験方式)〔若干名〕

外国籍を有し、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験(EJU)」を本学の指定する時期に受験し、本学の定める成績基準以上である者を対象とする。書類審査と面接により総合的に評価し、本学への留学経験を活かし日本や自国あるいは国際的に活躍したいとする意欲があり、アドミッション・ポリシーに定める(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力)、(主体性・多様性・協調性)を持った人材を選抜することを目的とする。経費支弁能力については、入学資格として規則に「日本国内に身元保証人のある者。ただし、日本国内に在住する身元保証人がいない場合は、日本国外に在住する保護者又はこれにかわる親族とすることができる。」と規定し、一定程度の支弁能力があることを前提として、入学を許可している。在籍の管理については、入管法に基づき、定期的に四條畷学務課において、留学生に在籍確認を行っている。

⑪教育研究実施組織等の編成の考え方及び特色

健康情報学部健康情報学科は教授 14 名、准教授 6 名、講師 5 名の合計 24 名の基幹教員で教員組織を構成する。教育課程の特色で述べた各専攻の教育方針に沿った専門の教員を配置する。

主に医療工学専攻の授業科目を担当する教員は 8 名で教授 4 名、准教授 2 名、講師 1 名で臨床工学技士受験資格群の構成に対応した教員配置とすることとし、臨床工学技士受験資格における分野である、電気電子工学、機械工学、応用物理学、医学、臨床医工学において、臨床工学技士資格を有する教員や医療工学分野の研究を行っている教員も配置しており、教育・研究だけでなく実務に携わってきた教員を配置している。

主に理学療法専攻の授業科目を担当する教員は 9 名で、教授 5 名、准教授 1 名、講師 3 名となっている。8 名の臨床経験豊かな理学療法士を配置しつつ、理学療法分野の研究を行っている教員を配置している。

主にスポーツ科学専攻の授業科目を担当する教員は 7 名で教授 4 名、准教授 2 名、講師 1 名で、運動生理学、健康科学、スポーツ科学の分野の研究を行っている。

上記に加えて、基幹教員の教授 1 名は、共通科目の情報基礎群の主要授業科目を担当している。

なお、教員の定年については、定年規則に定められており、教授は 68 歳、准教授及び講師は 65 歳である。

【資料 20】 学校法人大阪電気通信大学定年規則

⑫研究の実施についての考え方、体制、取組

健康情報学部健康情報学科では、人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基にした、医療科学・工学・スポーツ科学の知識と技術の実学教育を実施することを使命としており、その実現のために医療工学、理学療法、スポーツ科学の各専攻の専門教育を十分に行うことができる研究者、医療現場における専門家やスポーツコーチングの経験者たる教員を配置している。その研究分野は医療機器の開発や診断支援システムの構築、リハビリテーション、生活科学、スポーツ競技力の向上、健康科学など多岐に及ぶ。教員個々の研究以外にも学内外の共同研究については十分な実績がある。さらには大阪電気通信大学メカトロニクス研究所においてバイオエンジニアリング部門を設け、研究拠点としてその機能を発揮させており、生体計測装置や 3D プリンタ等の研究推進に必要な環境が整備されている。

研究・教育の成果を社会還元する専門部署として、研究連携推進センターを設置しており、新しい科学・技術の可能性を発掘し、これを推進していくためのさまざまな取り組みを行っている。特に研究連携を推進するために、産学官連携コーディネーターを配置しており、本学教員の研究分野や外部資金獲得状況の把握をするとともに、学内研究シーズの発信をすることで、研究連携を進めている。また、国内外の研究動向等の情報収集や科研費や競争的資金等の獲得支援も行っている。

⑬施設、設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

本学は、大阪府の東北部、淀川沿いの寝屋川市に「寝屋川キャンパス」を設置し、寝屋川市に隣接する関西文化学術研究都市のエントランスゾーンに位置する四條畷市清滝に「四條畷キャンパス」がある。

校地面積については、四條畷キャンパス 78,834.00 m²、寝屋川キャンパス 42,188.77 m²、その他(グラウンド) 170,309.72 m²、合計 291,332.49 m²となり大学設置基準を満たしている。

四條畷キャンパスにおいては、既設の医療健康科学部3学科(医療科学科、理学療法学科、健康スポーツ科学科)及び総合情報学部3学科(デジタルゲーム学科、ゲーム&メディア学科、情報学科)が教育研究を行っており、この度の健康情報学部健康情報学科については、既設の医療健康科学部3学科の募集を停止した代わりに設置するので、引き続き四條畷キャンパスで教育研究を行う。なお、他のキャンパスでの状況については、寝屋川キャンパスにおいては、工学部4学科(電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科、基礎理工学科)、情報通信工学部2学科(情報工学科、通信工学科)及び建築・デザイン学部1学科(建築・デザイン学科)が教育研究を行っている。

本学は、1987年に四條畷キャンパスを設置し、教育研究環境の整備と充実にこれまで取り組み続けてきている。これにより、同キャンパスには既設の医療健康科学部3学科及び総合情報学部3学科は、講義室、実験・演習室、研究室などの各教室と運動場などの基本的な教育研究の設備環境は十分に整備されている。まだ十分な余裕を持っている。この度の健康情報学部健康情報学科については、既設の医療健康科学部3学科の募集を停止した代わりに設置するので、既存の校地、講義室、実験・演習室、研究室などの各教室と運動場などを活用することとしている。

イ 校舎等施設の整備計画

健康情報学部健康情報学科教員の研究室は、既設の1号館、5号館、8号館、12号館にある教員室を利用する。四條畷キャンパスにおける講義全般については、主に2号館(延べ床面積 15,281.01 m²)の1階から3階が使用されており、教室数は、90.43 m²から 271.29 m²までの大小 65 教室がある。この度設置する健康情報学部健康情報学科も、これらの教室を使用し、既存の医療健康科学部及び総合情報学部の2学部の共同利用としても十分な広さがある。実験・実習室については、5号館、8号館及び12号館にある部屋を学部専用として使用する。既存の医療健康科学部の各学科で各種実験・実習が行われているが、既に整備されている設備で実験は可能である。

大学全体の校舎敷地面積については、寝屋川キャンパス 42,188.77 m²、四條畷キャンパス 78,834.00 m²、合計 121,022.77 m²となり大学設置基準を上回っている。

以上のように本学における校舎や教育施設については、この度、設置する健康情報学部健康情報学科及び他学部学科も含めた学生が時間・空間的に余裕を持って利用できるよう整備している。

健康情報学部健康情報学科の時間割案を【資料2】として示す。

【資料2】健康情報学部健康情報学科の時間割

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書館は、寝屋川キャンパス及び四條畷キャンパスに設置している。各キャンパスにおいて設置学部が異なり、寝屋川キャンパスの本館は工学・情報通信・建築・ソフトウェア分野、四條畷館は医療系、生物学、スポーツ科学、ソフトウェア分野を重点的に収書している。健康情報学部健康情報学科は、四條畷キャンパスを本拠とするため四條畷館を主に利用することが想定される。本学は、理工系図書を中心に約 283,000 冊の図書と約 3,800 種の雑誌資料を有する図書館を設置している。情報社会に対応して、情報検索システム

の構築及びオンライン化や学術雑誌の電子ジャーナル化など、環境、設備の充実に努めている。特に情報検索システムについては、世界の主要医学系雑誌に掲載された文献を検索可能なデータベースである「ScienceDirect」、「PubMed」、「メディカルオンライン」、「J-Stage」、「JDreamⅢ」を利用し的確な情報収集体制を構築している。

本学は既設組織である医療健康科学部の 3 学科を運営しているため、図書館にはすでに医療系、工学系、健康系、スポーツ系など関連する分野の書籍は十分に保有している。また、学術研究用の雑誌はオンラインの電子ジャーナルで購読できる数を含めると数千誌以上を数える。

既設学部である医療健康科学部で教育研究用として主に購読している学術雑誌（オンラインジャーナルを含む）は、次のとおりである。

IEEE Transactions on Biomedical Engineering、IEEE Transactions on Neural Systems and Rehabilitation Engineering、Advanced Biomedical Engineering、電気学会論文誌、電子情報通信学会論文誌、日本機械学会誌、Clinical Engineering、生体医工学、バイオメカニズム学会誌、日本臨床工学技士会会誌、Sports Health: A Multidisciplinary Approach、International Journal of Sport Psychology、Medical and Biological Engineering and Computing、Archives of Physical Medicine and Rehabilitation、Aging and Health Research、Clinical Biomechanics、Gait & Posture、Journal of Biomechanics、Journal of Clinical Gerontology and Geriatrics、Journal of Electromyography and Kinesiology、The Journal of Pain、Journal of Physiotherapy、Journal of Sport and Health Science、The Knee、PAIN、Physical Therapy in Sport、Physiotherapy、Science & Sports、最新医学、週刊医学のあゆみ、Journal of clinical rehabilitation、総合リハビリテーション、地域リハビリテーション、超音波医学、理学療法学、PAIN REHABILITATION、PAIN RESEARCH、Physical Therapy Research、医学教育、解剖学雑誌、基礎理学療法学、心臓リハビリテーション、日本義肢装具学会誌、日本整形外科学会雑誌、日本生理人類学会誌、日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌、日本糖尿病理学療法学雑誌、日本予防理学療学会雑誌、日本臨床スポーツ医学会誌、保健医療学雑誌、理学療法科学、理学療法学、リハビリテーション医学、リハビリテーション連携科学、臨床バイオメカニクス、American journal of sports medicine、Journal of applied physiology、International journal of sport nutrition and exercise metabolism、European journal of applied physiology、体育科教育、体育の科学、楽しい体育の授業、保健の科学、臨床栄養、臨床スポーツ医学

新設学部を設置する四條畷キャンパスの四條畷館には、個人デスクを含む閲覧席を約 65 席設置しており、自習スペースは十分にあり、ここで自習に励む学生が多い。また、学内 LAN に接続するための無線 LAN を整備しており、個人パソコンを持ち込んでの使用が可能だけでなく、タブレット端末、スマートフォン等を Wi-Fi 接続して利用することができる。

その他、館内で利用できる視聴覚資料（DVD など）を個人パソコンで利用できない学生も利用ができるようポータブルプレイヤーを用意し、希望に応じて貸出を行っている。

図書、視聴覚資料ともに所蔵がないものについては、学生の要望を受け付けており、学生一人ひとりのニーズに添えている。

図書館では、特筆すべき3つの学生支援策を講じている。

第1は、平成 24(2012)年からの取り組みで英語教育センターと連携して英語の習熟度に応じたレベルの本をたくさん読むこと（多読、リーディングシャワー）によって英語に慣れ親しみ、理解力の向上を目指して

いる。多読授業を開始してから年々図書館利用者が増えており、多読図書の所蔵も増えている。

第2は、カリキュラム上の各教育科目において指定された教科書、参考書を各館にてそれぞれ配架し、学生の図書館利用と学修の便宜向上を図っている。

第3は、学生のプレゼンテーション力を養う言語活動—ビブリオバトル。この取組みに参加したことで学会発表や就職活動に役立ったという学生の声が多く寄せられている。また、ビブリオバトルは国際交流センターとのコラボレーション企画でも年2回行っており、留学生の日本語能力の向上に貢献している。また、留学生同士のつながりや日本人学生との交流を深めるイベントにもなっている。

このように図書館を単なる「知識の宝庫」として受動的に整備するだけでなく学内の教員、学生、各部課室と連携して、図書館のより効率的な利用を目指して積極的に取り組んでいる。

⑭管理運営

ア 運営会議

大学全体に係る教育及び研究に関する最高審議機関として、全学教授会に代わるものとして、平成27年度より設置している。構成員は、学長、副学長、各学部長、共通教育機構長、各研究科長、学務部長、学務部事務部長、就職部長、入試部長及び大学事務局長であり、必要に応じて学長が招集して議長となる。また、構成員は、審議内容に応じて、教育開発推進センター長、図書館長、メディアコミュニケーションセンター長が出席している。

運営会議は、(1)教育の基本方針及び教育編成並びに大学の将来計画に関する事項、(2)教育研究予算の編成方針に関する事項、(3)学生の入学、卒業及び課程の修了その他学生の身分の取扱いに関する事項、(4)学位の授与の基本に関する事項、(5)学生の懲戒の決定に関する事項、(6)教員人事の方針、選考基準及び最終選考に関する事項、(7)学部長、共通機構長及び研究科長の選考に関する事項、(8)学則その他の重要な規則の制定改廃に関する事項、(9)自己点検及び外部評価に関する事項、(10)学部及び大学院その他の機関相互の連絡・調整に関する事項、(11)理事会から付議又は諮問された事項及び学部教授会又は大学院研究科委員会から提起された事項、(12)その他大学の運営に関する重要事項、について審議する。

さらに、学部及び大学院に渉る全学的事項について意見を集約し、学長意思決定の円滑化を図っている。運営会議での審議後は、以下の組織での意見参酌又は、報告を行っている。

イ 学部教授会及び主任会

学部教授会は各学部に所属する専任教員で組織し、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べる。

- ① 学生の入学、卒業及び課程の修了
- ② 学位の授与
- ③ その他教育研究に関する重要事項で教授会の意見を聴くものとして学長が定める次の事項
 - ア. 教育課程に関する事項
 - イ. 学生の身分の取扱いに関する事項
 - ウ. 学生の学修指導及び評価に関する事項

- エ. 学生の厚生補導、賞罰に関する事項
- オ. 教育の改善及び研究に関する事項
- カ. 教員の人事選考に関する事項
- キ. 学部長の選考に関する事項
- ク. 学部に関する学則及び規則に関する事項
- ケ. 主任会から提起された事項
- コ. その他学部の運営に関する事項

学部の運営を円滑に行うために各学部主任会を置いている。主任会は、学部長、共通教育機構長と各学科主任で組織する。ここでは、学部運営上の具体的業務の協議・調整を行い、(1)教授会から審議を委ねられた事項、(2)その他学長及び学部長等が必要と認めた事項、について協議している。

ウ 教育課程編成会議

本学では、令和 6 年度から基幹教員制度に移行しており、これに伴い、次の単位で教育課程編成会議を設置し、当該組織における教育課程の編成、運用、改善を審議する。

- ・学部の各学科
- ・学科の各専攻
- ・共通教育機構の各センター
- ・メディアコミュニケーションセンター

各学科教育課程編成会議では、当該学科の専門科目に関する教育課程の編成等について審議を行う。

各専攻教育課程編成会議では、当該専攻の専門科目に関する教育課程の編成等について審議を行い、健康情報学科においては、医療工学専攻教育課程編成会議、理学療法学専攻教育課程編成会議及びスポーツ科学教育課程編成会議を置く。

共通教育機構においては、3 つのセンター（人間科学教育研究センター、数理科学教育研究センター、英語教育研究センター）にそれぞれ教育課程編成会議を置く。人間科学教育研究センター教育課程編成会議では、各学科の教育課程の一部を構成する共通科目の「人文・社会・自然群」、「プロジェクトスキル形成群」及び英語以外の言語の科目群に関する教育課程の編成等について審議を行う。数理科学教育研究センター教育課程編成会議では、各学科の教育課程の専門科目のうち、全学に共通して配置している数学及び物理に関する科目に関する教育課程の編成等について審議を行う。英語教育研究センター教育課程編成会議では、各学科の教育課程の一部を構成する共通科目の「英語」の科目群に関する教育課程の編成等について審議を行う。メディアコミュニケーションセンターでは、情報教育課程編成会議を置き、各学科の教育課程の一部を構成する情報基礎群の科目群に関する教育課程の編成等について審議を行う。

エ 所属施設の運営

教育を担う附属施設としては、図書館、実験センター、メディアコミュニケーションセンター及び教育開発推進センターがあり、主として研究を担う附属施設としては、エレクトロニクス基礎研究所、メカトロニクス基礎研究所、情報学研究所、先端マルチメディア合同研究所及び衛星通信研究施設がある。これらは、大学における教育研究の目的を達成するために、学部や大学院との連携をとりながら、それぞれ適切に運営さ

れている。

オ 各種委員会

教育業務の円滑な運営を図るため、教授会の下に以下の委員会が設置されている。

① 教務委員会

学長を委員長として関係部署長等の委員を召集して開催する委員会であり、教育課程、授業計画及び試験等の教育課程において重要となる事項について審議している。

② 就職対策委員会

各学科ごとに就職対策委員を置き、就職部長の招集により開催する委員会であり、就職に関する市場状況、進路指導状況などを共有し、就職部と連携しながら学生の就職指導を円滑に進められるようにしている。

⑮ 自己点検・評価

本学は使命・目的において、確かな実学の教育とそれをベースにした人間力の養成を掲げており、その教育の実行と効果に対する自己点検・評価のシステムとして自己点検・評価委員会にあたるIRE委員会を設置し、全学における教育・研究の自己点検・評価を行い、改善を図るシステムを構築している。また、財団法人日本高等教育評価機構の機関別認証評価を定期的に受審し、その結果を運営会議、教授会、理事会で共有し、改善の一助としている。機関別認証評価の評価結果及び認証評価受審時の自己点検評価書は、大学ホームページ上に公開している。さらに、学科単位では定期的に外部評価を実施している。

また、これらの教育点検の一部とFD活動を担い、自己点検・評価のPDCAサイクルを円滑に促進するための組織として教育開発推進センターを設置している。

ア IRE委員会

IRE 委員会は、委員長である学長のもと、構成員として副学長、各学部長、共通教育機構長、研究科長、大学事務局長、入試部長、学務部長、学務部事務部長、就職部長、図書館長、メディアコミュニケーションセンター長及び教育開発推進センター長によって構成されており、教学に係る部門の長が適切に状況を判断できる体制になっている。機関別認証評価も本委員会が中心となり、取りまとめを行っている。機関別認証評価の時期以外にも、毎年大学全体の自己点検評価を行い、自己点検評価書を大学ホームページ上で公開している。

また、当該委員会は、IR(Institutional Research)作業部会及びIE(Institutional Evaluation)作業部会で構成されており、前者は本学の教育研究に関する情報の収集と分析を行うのに対し、後者は本学の自己点検・評価に向けて必要な準備作業を行っている。

さらに、自己点検・評価の各種資料は、学長が教授会及び理事会において説明しており、教学部門と経営部門の意思疎通を図っている。

イ 教員及び学科の自己点検評価

全教員に対して、自己点検評価である「活動評価」を実施し、統計処理をした上で、教授会及び理事会で報告している。評価項目について【資料 21】で示す。また、学科ごとの教員の自己点検・評価書は、学

科主任に回付し、学科運営の参考資料として活用している。この評価書は、教員（個人）が継続的な改善策を考慮した（PDCAのサイクルを組み込んだ）FDという位置づけで実施している。一方、各学科においても、外部評価を行っている。

【資料 21】 活動評価シート

⑩情報の公表

本学では、学則、学校教育法施行規則等の趣旨に沿って、大学が公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、教育の質向上の観点から、教育研究に関する情報については、大学ホームページ上に次のとおり公開している。

大学ホームページ URL:<https://www.osakac.ac.jp/>

ア 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること

（ア）大学の教育研究上の目的

大学学部規則第2条に規定されており、大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>教育基本3方針（学部）／学部

（URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/policy/faculty/>）

HOME>大学紹介>教育情報の公表／学部、学科、研究科ごとの名称及び教育研究上の目的

（URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>）

（イ）3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>教育基本3方針（学部）>大阪電気通信大学 教育基本三方針

（URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/policy/faculty/>）

イ 教育研究上の基本組織に関すること

大学学則第3条～第3条の4及び第 39 条に規定されており、その学則を大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>学則・設置認可／届出に関する書類>大阪電気通信大学学則

（URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/document/>）

ウ 教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

（ア）教育研究実施組織

大学学則第 37 条の 2 に規定されており、その学則を大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>学則・設置認可／届出に関する書類>大阪電気通信大学学則

（URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/document/>）

（イ）教員の数

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>教育情報の公表>教職員数等>教職員数

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/faculty/>)

(ウ) 教員組織と各教員が保有する学位及び業績

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>教員情報データベース

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/>)

エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

(ア) 入学者受入れ方針

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>教育情報の公表>入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、

在学者数、卒業(修了)者数、進学者数、就職者数

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

(イ) 入学者の数、在学学生数、卒業生数、進学者数、就職者数

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>教育情報の公表>入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者

数、卒業(修了)者数、進学者数、就職者数>「入学者数、入学者推移」、「在学者数」、「学位授与

(卒業・修了)者数」、「進学・就職者数」

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

(ウ) 収容定員

大学学則第4条に規定されており、その学則を大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>学則・設置認可／届出に関する書類>大阪電気通信大学学則

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/document/>)

(エ) 進学・就職の状況

進学・就職の状況及び主な就職内定先を、次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>教育情報の公表>入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者

数、卒業(修了)者数、進学者数、就職者数>主な内定先及び内定先業種

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>教育情報の公表>授業科目、授業の方法及び内容並びに

年間の授業計画(シラバス又は年間授業計画の概要)

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

大学学則第 24 条及び第 25 条に規定されており、その学則を大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>学則・設置認可／届出に関する書類>大阪電気通信大学学則

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/document/>)

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

寝屋川キャンパス及び四條畷キャンパスと2つのキャンパスがあり、各キャンパスの建物の配置及び施設の情報については、次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>施設・キャンパス>寝屋川キャンパス「キャンパス紹介」、四條畷キャンパス「キャンパス紹介」

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/institution/>)

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>教育情報の公表>授業料、入学料その他の大学等が徴収する費用>学費（大学）

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

(ア) 学生の修学及び心身の健康等に関する支援

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>教育情報の公表>学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援>

修学・心身の健康等に関する支援

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

(イ) 進路選択に関する支援

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>教育情報の公表>学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

>進路選択に関する支援

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/educational-information/>)

コ その他

(ア) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>教育基本3方針（学部）

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/policy/faculty/>)

(イ) 学則等の各規程

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>学則・設置認可／届出に関する書類>学則

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/document/>)

(ウ) 設置認可申請書及び届出書、設置計画履行状況等報告書

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>学則・設置認可/届出に関する書類>設置届出に係る書類

(URL:<https://www.osakac.ac.jp/about/document/>)

(エ) 自己点検・自己評価報告書、認証評価の結果

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

HOME>大学紹介>自己点検・評価>大学機関別認証評価

(URL: <https://www.osakac.ac.jp/about/self-assessment/>)

⑰教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

教育目的の達成状況を測る指標の 1 つとして、各学科で「学修効果の測定方法」を策定し、各学科の特性を活かした評価方法を開発している。評価方法の種類は、学修課題全体と専門的知識に関するレーダーチャート、分野ごとの修得単位数の年次経過、総合的な自己評価シート、科目横断的な記述試験等に分類できる。

また、教育目的の達成状況を見るには、在学生の評価だけでなく、卒業生（大学院修了生を含む）の評価も不可欠であると考え、卒業時（学位授与判定後）に「卒業生満足度調査」を行い、そのアンケート結果を運営会議で共有し、教育改善に役立てている。

一方、組織的な研修としては、教育開発推進センターにおいて、定期的に学内FD研修会を実施し教員の能力向上に努めると同時に、学外のFD研修会についても、開催案内を通知して参加を奨励している。

また、大学職員に必要な知識・技能を修得させるための取組としては、年度毎に「職員の職能開発（SD）」に関する実施方針を作成し、部課長会等を通じて職員に周知するとともに、年に数回、教育開発推進センターが主体となり、教員を含む職員を対象とした研修を実施している。主なテーマとしては、「3つのポリシーに基づく大学の取組の自己点検・評価と内部質保証」「大学運営に関する法律について」「経常費補助金を見据えた大学改革に関するもの」「特性がある学生への支援に関するもの」などである。

【資料 22】FD・SD 実施テーマ

さらに、大学職員として必要な業務スキルの向上を目的として、外部講師を迎えた研修を毎年実施すると共に、外部機関主催の研修について法人契約を締結し参加を奨励するなど、職員が自らの知識・技能を向上させることができる機会を幅広く設けている。

⑱社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

ア 教育課程内における取組について

本学科の、学生に対する社会的・職業的自立に関する取組は、教育課程においてはまず、教養教育である共通科目内でのプロジェクトスキル形成群において、これから4年間の大学生活や健康情報学部健康情報学科で学ぶ意義を明確にすることで、キャリア形成のサポートをしていくこととしており、そのために地域の活性化に繋がる活動やグローバルな活動等を通じて社会人基礎力を高める教育を行い、将来のキャリア設計を具体化し、将来の就職への足掛かりとしている。これらの科目の多くを学部学科の専任教員が担当することで、本学科の卒業生が目指すべき医療・工学・スポーツ業界における基本的な職業的な知識、

技能の教育と、社会人としての応用力(仕事力)を身に付けるようにしている。また、数理・データサイエンス・AI のリテラシーレベルの授業を開講し、数理・データサイエンス・AI を含めた ICT を適切かつ効果的に活用して、主体的な問題の発見とスピーディな解決能力を身につけさせるべく、教育を行う。これにより、社会が求めているデジタル人材を輩出する。

【資料 23】 共通科目プロジェクトスキル形成群 授業科目概要

イ 教育課程外における取組について

就職活動への取組にあたり、全体スケジュールや就職支援講座の内容、学内の就職関連情報や就職支援の利用について理解を深めるよう、3 年生を対象に学科毎にオリエンテーションを実施している。

具体的な取組としては、就職支援講座においては就職活動の基本知識やスキルを体系的に身に付けるよう、業界・企業研究、自己分析、筆記試験対策、応募書類対策、面接対策等の講座を開催し、就職関連情報や就職支援については、学内のシステム利用による求人情報提供や企業セミナー等のイベント案内、「キャリアコンサルタント」資格を有するカウンセラーによる個々の学生の就職相談への対応等を行っている。

また、資格学習支援センターでは、社会で役立つ各種資格取得や試験合格を支援する講座を運営している。

ウ 就職支援の体制について

就職支援の専門部署として就職部を設置し、キャンパス毎に寝屋川就職課、四條畷就職課が学部・学科の体制に応じた就職支援を行っている。

学生の就職・進路選択にあたりきめ細かな指導・支援を行うため、学科毎に就職対策委員の教員を任命し、就職部の学科担当職員と連携のもと、個々の学生の就職活動状況の把握・共有、学科毎の就職活動イベントの企画・実施、求人情報の学科内展開、来校企業への応対、求人企業の開拓等を実施している。

また、個々の学生の就職相談に対応するカウンセラーは、学科担当職員と連携し、学生の志向に見合う求人の紹介や採用選考にあたっての応募書類や面接の対策等を実施している。

健康情報学部新設の際にも同様の体制を構築し、個々の学生への就職支援を行う。

【資料 24】 就職支援体制

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

- 【資料 1】健康情報学部健康情報学科 カリキュラムマップ
- 【資料 2】健康情報学部健康情報学科の時間割
- 【資料 3】健康情報学部健康情報学科の履修モデル
- 【資料 4】教育実習施設一覧
- 【資料 5】教育実習先の実習受入承諾書
- 【資料 6】実習先との連携体制図
- 【資料 7】臨床実習（理学療法）1～5の概要
- 【資料 8】臨床実習計画表
- 【資料 9】臨床実習（理学療法）施設一覧
- 【資料 10】臨床実習（理学療法）先の受入承諾書
- 【資料 11】守秘義務、個人情報保護に関すること
- 【資料 12】守秘義務・個人情報保護 誓約書
- 【資料 13】事故報告書
- 【資料 14】診療参加型臨床実習に関する説明と同意書
- 【資料 15】B 型肝炎・4 種ウイルス疾患（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）抗体価と
必要予防接種回数
- 【資料 16】臨床実習（臨床工学）施設一覧
- 【資料 17】臨床実習（臨床工学）先の受入承諾書
- 【資料 18】臨床実習日誌
- 【資料 19】インターンシップ実習先一覧
- 【資料 20】学校法人大阪電気通信大学定年規則

【資料 21】活動評価シート

【資料 22】F D ・ S D 実施テーマ

【資料 23】共通科目プロジェクトスキル形成群 授業科目概要

【資料 24】就職支援体制

健康情報学部健康情報学科 カリキュラムマップ

DP (1) 専門知識・技能を修得し、実践する力	【手】	【頭】	
DP (2) コミュニケーション力			【心】
DP (3) 課題を発見し、問題を解決する力	【手】	【頭】	
DP (4) 他者と協力して目的を達成する力	【手】	【頭】	【心】
DP (5) 自らを律し、学び続ける力	【手】	【頭】	【心】
DP (6) 総合力	【手】	【頭】	【心】

授業科目	単位数	必選			DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)
		医療工学専攻	理学療法専攻	スポーツ科学専攻						
総合教養	2	△	△	△	◎		○		○	○
総合ゼミナール	2	△	△	△		○	◎		○	
社会生活と法	2	△	△	△			◎	○	○	
OECU概論1	1	△	△	△	◎		○			
エレクトロニクス入門	2	△	△	△	○		◎			
異文化の理解	2	△	△	△		○	○	◎		
政治学	2	△	△	△			○	◎	○	
発達心理学	2	△	△	△			◎	○	○	
現代社会と青年の心理	2	△	△	△			◎		○	
アジアの言語と文化	2	△	△	△		◎	○	○		
ヨーロッパの言語と文化	2	△	△	△		◎	○	○		
大阪の文化と歴史	2	△	△	△			◎		○	
高齢者社会と医療福祉	2	△	△	△	○		◎			
からだの科学	2	△	△	△	◎		○			
現代社会を考える	2	△	△	△			◎	○	○	
歴史学の世界	2	△	△	△			◎	○	○	
経済学の世界	2	△	△	△			◎	○	○	
哲学の世界	2	△	△	△			◎	○	○	
文学の世界	2	△	△	△			◎	○	○	
日本国憲法	2	△	△	△			○	○	◎	
教育制度論	2	△	△	△			◎	○	○	
ジェンダー論	2	△	△	△			◎	○	○	
国際コミュニケーション	2	△	△	△						
平和学	2	△	△	△			○	○	◎	
日本の近代史	2	△	△	△			◎	○	○	
企業社会と労働	2	△	△	△			◎	○	○	
文学の文化と歴史	2	△	△	△	○		◎			
Core English 1	1	□a	□a	□a		◎	○			
Core English 2	1	□a	□a	□a		◎	○			
Core English 3	1	□a	□a	□a		◎		○		
Core English 4	1	□a	□a	□a		◎		○		
Practical English 1	1	□a	□a	□a		◎		○		
Practical English 2	1	□a	□a	□a		◎		○		
日本語1	1	△	△	△						
日本語2	1	△	△	△						
日本語3	1	△	△	△						
日本語4	1	△	△	△						
中国語1	1	△	△	△		◎		○	○	
中国語2	1	△	△	△		◎		○	○	
中国語3	1	△	△	△		◎		○	○	
中国語4	1	△	△	△		◎		○	○	
日本語上達法1	2	△	△	△		○			○	◎
日本語上達法2	2	△	△	△		○			○	◎
アカデミック・ライティング	2	△	△	○	◎	○	○	○		
地域プロジェクト活動	2	△	△	△		◎	○	○		
グローバル研修	2	△	△	△		◎	○	○		
グローバル研修(英語)	2	△	△	△		◎	○	○		
キャリアデザイン	2	△	△	○		◎	○	○		
キャリア形成論	2	△	△	△		○	◎	○		
インターンシップ	2	△	△	△		◎	○	○		○
AI・データサイエンス入門	2	△	△	△	◎		○			
コンピュータリテラシー1	2	○	○	○	◎	○	○		○	
コンピュータリテラシー2	2	△	△	○	◎	○	○	○	○	○

プログラミング基礎演習	2	△	△	△	◎		○		○	
健康科学基礎1	2	△	△	△	◎		○	○	○	
健康科学基礎2	2	△	△	△	◎		○			
健康情報学概論	2	□c	○	△	◎		○			
OECU概論2	1	△	△	△	◎		○			
医学概論	2	△	△	△	◎		○			
医療関係法規	1	△	△	△	◎		○			
公衆衛生学	1	△	△	△	◎		○			
スポーツコンディショニング	2	△	△	△	◎	○				
スポーツリハビリテーション	2	△	△	△	◎	○				
解剖生理学1	2	○	○	△	◎		○			
解剖生理学2	2	○	○	△	◎		○			
基礎運動学	2	△	△	△	◎		○		○	
コミュニケーション論	2	△	△	△	○	◎		○		
心理学	2	△	△	△	◎	○	○			
ヘルスプロモーション論	1	△	△	□	◎		○			
栄養学	2	△	△	△	◎		○			
発育発達学	2	△	△	△	◎				○	
社会福祉概論	2	△	△	△	◎	○	○			
生涯スポーツ実習A	1	△	△	△	◎			○	○	
身体・スポーツ文化論	2	△	△	△	◎		○			
生涯スポーツ実習B	1	△	△	△	◎			○	○	
生涯スポーツ論	1	△	△	□	◎		○		○	
データサイエンス基礎	2	△	△	△			○	◎		
人工知能	2	△	△	△			○	○		
プログラミング応用実習	2	□b	△	△	○		◎	○	○	
データ処理プログラミング	2	□b	△	△	○			○	◎	
医療健康統計入門	2	△	△	△	◎		○	○		
医療健康統計演習	2	△	△	△	◎		○			
医療データサイエンス演習	2	△	△	△	○	○	○	◎		
情報工学基礎演習	2	△	△	△	◎	○			○	
情報システム工学	2	△	△	△	◎	○			○	
医療情報システム	2	△	△	△	◎		○	○		
スポーツ情報学	2	△	△	△	◎		○		○	
スポーツ情報学演習	2	△	△	△	◎		○	○		
ゲーム分析実習	1	△	△	△	◎		○			
スポーツ計測システム実習	1	△	△	△			◎	○		○
スポーツ工学	2	△	△	△	◎			○		○
スポーツ計測システム開発実習	1	△	△	△			◎		○	○
スポーツシミュレーション	2	△	△	△			◎		○	○
プレゼミ	2	△	△	○	○	○		○	◎	
ゼミナール	2	△	△	○			○		○	◎
卒業研究	8	○	○	○		○	○	○	○	◎
基礎解析学1 演習	2	△	△	△			◎	○	○	
基礎解析学2 演習	2	△	△	△			◎	○	○	
線形代数	2	△	△	△			◎	○	○	
微分方程式	2	△	△	△			◎	○	○	
解析学	2	△	△	△			◎	○	○	
確率・統計	2	△	△	△	◎		○			
医用数学	2	△	△	△	◎		○			
応用数学と臨床医工学	2	△	△	△	◎		○			
基礎力学演習	2	△	△	△			◎	○	○	
基礎物理学	2	△	△	△			◎	○	○	
物理学入門	2	△	△	△			◎	○	○	
免疫学	1	△	△	△	◎		○			
生化学	2	△	△	△	◎		○			
臨床生化学	1	△	△	△	◎		○			
病理学	1	△	△	△	◎		○			
薬理学	1	△	△	△	◎		○			
基礎医学特別演習	1	△	△	△	○		◎			
臨床内科学総論	2	△	△	△	◎		○			
臨床外科学総論	2	△	△	△	◎		○			
チーム医療概論	1	△	△	△		○		○		◎
応用医学総論	2	△	△	△	◎		○			
臨床医学特別演習	1	△	△	△	○		◎			
基礎電気工学	2	△	△	△	◎		○			
応用電気工学	2	△	△	△	◎		○			
電気電子工学実験	2	○	△	△	◎	○		○		
基礎電子工学	2	△	△	△	◎		○			
応用電子工学	2	△	△	△	◎		○			
医用電気電子工学演習	1	△	△	△	○		◎			
医用情報工学演習	1	△	△	△	○		◎			

医用工学特別演習	2	△	△	△	○		◎			
医用機械工学演習	1	△	△	△	○		◎			
医用材料工学	2	△	△	△	◎		○			
生体物性工学	2	△	△	△	◎		○			
医用機械工学	2	△	△	△	◎		○			
メカトロニクス	2	△	△	△	◎		○			
基礎製図演習	2	△	△	△	◎		○		○	
製図・CAD実習	1	△	△	△	◎		○		○	
計測工学	2	△	△	△	◎		○			
医用機器学概論	2	△	△	△	◎		○			
医用計測学	2	△	△	△	◎		○			
生体計測装置学	2	△	△	△	◎		○			
医用生体計測学演習	1	△	△	△	○		◎			
生体計測装置学実習	2	□b	△	△	◎	○		○		
医用治療機器学	2	△	△	△	◎		○			
医療安全管理学	2	△	△	△	◎		○			
医用機器安全管理学実習	2	□b	△	△	○	○	◎			
医用機器学・安全管理学特別演習	2	△	△	△	○		◎			
臨床支援技術学	2	△	△	△	◎		○			
呼吸療法装置学	2	△	△	△	◎		○			
血液浄化療法装置学	2	△	△	△	◎		○			
体外循環装置学	2	△	△	△	◎		○			
生体機能代行装置学実習	2	△	△	△	◎	○		○		
臨床工学技士総合演習	2	△	△	△	○		◎			
認知科学とデザイン	2	△	△	△	◎		○			
ヒト型ロボット製作実習	2	□b	△	△			○	○	◎	
ヒト型ロボット制御実習	2	□b	△	△	○		○		◎	
創造製作実習	2	□b			○		◎		○	
臨床実習（臨床工学）	7	△	△	△		○		○		◎
医療工学特別講義	2	△	△	△			○		○	◎
健康情報学演習	2	□c	△	△	◎		○			
生体医工学実習	2	□b	△	△	◎		○			
医療工学基礎実習	2	□c	△	△	◎		○	○		
医療工学実習	2	□c	△	△	○	○	◎	○		
機能解剖学	2	△	○	△	◎		○		○	
機能解剖学演習	2	△	△	△	◎		○		○	
運動学	2	△	○	△	◎		○		○	
運動学実習	2	△	△	△	◎		○		○	
生理学演習	2	△	○	△	◎		○		○	
解剖学演習	2	△	○	△	◎		○		○	
基礎医学実習	2	△	△	△	○		◎			
一般臨床内科学	2	△	○	△	◎		○		○	
神経内科学	2	△	○	△	◎				○	
リハビリテーション医学	2	△	○	△	◎		○		○	
整形外科	2	△	○	△	◎				○	
障害学演習	2	△	△	△	◎		○		○	
臨床精神医学	2	△	○	△	◎				○	
臨床医学探究	2	△	○	△	○		◎		○	
接遇マナーとコミュニケーション	1	△	○	△	○	◎				○
日常生活活動学実習	2	△	○	△	◎		○			○
物理療法学実習	2	△	○	△	◎			○	○	
運動療法学実習	2	△	○	△	◎			○		
理学療法管理学	2	△	○	△		○	◎	○		
理学療法関係法規	2	△	△	△	◎		○		○	
理学療法評価学	2	△	○	△	◎	○	○	○	○	
理学療法評価学実習 1	2	△	○	△	◎		○	○	○	
理学療法評価学実習 2	2	△	○	△	◎		○	○	○	
生体動作探究	2	△	△	△	○		◎	○	○	
姿勢・動作解析学演習	2	△	△	△	◎		○	○	○	
義肢装具学実習	2	△	○	△	◎			○	○	
チームマネジメント	2	△	△	△		◎	○	○		○
神経系理学療法学演習 A	2	△	□b	△	◎			○	○	
内部障害系理学療法学演習 A	2	△	□b	△	◎			○	○	
小児系理学療法学演習	2	△	□b	△	◎			○	○	
運動系理学療法学演習 A	2	△	□b	△	◎		○		○	
神経系理学療法学演習 B	2	△	□b	△	◎		○		○	
内部障害系理学療法学演習 B	2	△	□b	△	◎			○	○	
老年系理学療法学演習	2	△	□b	△	◎		○		○	
運動系理学療法学演習 B	2	△	□b	△	◎		○		○	
神経系理学療法学演習 C	2	△	□b	△	◎		○		○	
予防理学療法学演習	2	△	□b	△	◎			○		
地域理学療法学演習	2	△	○	△	◎		○	○		

運動系理学療法学基礎演習	2	△	□b	△	◎		○		○	
運動系理学療法学発展演習	2	△	□b	△	○		◎	○	○	
神経系理学療法学基礎演習	2	△	□b	△	◎		○		○	
神経系理学療法学発展演習	2	△	□b	△	○		◎	○	○	
スポーツ理学療法特修A	1	△	□b	△	◎	◎	○	○	○	
スポーツ理学療法特修B	1	△	□b	△	◎	◎	○	○	○	
実践理学療法学演習A	2	△	△	△	◎		○		○	
実践理学療法学演習B	2	△	△	△	◎		○		○	
臨床理学療法学演習A	2	△	△	△	◎	○	○	○		
地域健康支援実習	2	△	△	△	◎	○	○	○		
チームリハビリテーション	2	△	○	△	◎		○		○	
総合理学療法学演習A	2	△	○	△		○			○	◎
総合理学療法学演習B	2	△	○	△		○			○	◎
総合理学療法学演習C	2	△	△	△		○			○	◎
臨床理学療法学演習B	2	△	△	△	◎	○	○	○		
臨床理学療法学探究	2	△	□b	△	○		◎		○	
臨床実習（理学療法）1	1	△	○	△	○	○	○		○	◎
臨床実習（理学療法）2	3	△	○	△	○	○	○		○	◎
臨床実習（理学療法）3	6	△	○	△	○	○	○		○	◎
臨床実習（理学療法）4	1	△	○	△	○	○	○		○	◎
臨床実習（理学療法）5	10	△	○	△	○		○			◎
体育・スポーツ原理	2	△	△	△	◎		○		○	
体育・スポーツ社会学	2	△	△	△	◎		○			
スポーツマネジメント論	2	△	△	△	◎		○			
スポーツビジネス論	2	△	△	△	◎		○			○
スポーツバイオメカニクス	2	△	△	△	◎		○			
運動生理学	2	△	△	△	◎		○			
体力測定評価演習	2	△	△	△	◎		○	○		
健康スポーツ科学実習	1	△	△	○	◎		○	○		
スポーツ栄養学演習	2	△	△	△	◎		○	○		
運動生理学実習	1	△	△	△	◎			○		○
体育・スポーツ心理学	2	△	△	△	◎		○			
健康心理学	2	△	△	△	◎		○			
スポーツ医学と救急救命演習	2	△	△	△	◎		○	○		
精神医学	2	△	△	△	◎		○			
スポーツ教育学	1	△	△	□	◎		○		○	
スポーツ教育学基礎演習1	1	△	△	△			◎		○	○
スポーツ教育学基礎演習2	1	△	△	△			◎		○	○
スポーツ教育学応用演習	2	△	△	△			◎		○	○
学校保健	2	△	△	△	◎		○			
トレーニング論	2	△	△	△	◎		○			
スポーツコーチング論	1	△	△	□	◎	○	○			
スポーツトレーニング実習	1	△	△	△	◎		○	○		
スポーツコーチング実習	1	△	△	△	◎	○	○			
スポーツ指導実習	1	△	△	△	◎		○			○
生活習慣病と介護予防	2	△	△	△	◎		○			
健康運動指導基礎演習	2	△	△	△	◎		○			○
健康トレーニング実習	1	△	△	△	◎		○	○		
健康運動指導応用演習	2	△	△	△			◎		○	○
スポーツ・レクリエーション論	2	△	△	△	◎	○	○			
スポーツ・レクリエーション実習	1	△	△	△	◎	○	○			
アダプテッドスポーツ	2	△	△	△	◎	○		○		
eスポーツ科学概論	1	△	△	△	◎		○			
eスポーツ科学演習	1	△	△	△	◎		○	○		
スポーツ方法実習（器械運動）	1	△	△	△	◎		○	○		
スポーツ方法実習（ベースボール型球技）	1	△	△	△	◎		○	○		
スポーツ方法実習（ネット型球技1）	1	△	△	△	◎		○	○		
スポーツ方法実習（陸上競技）	1	△	△	△	◎		○	○		
野外活動	2	△	△	△	◎	○	○			
スポーツ方法実習（ネット型球技2）	1	△	△	△	◎		○	○		
スポーツ方法実習（武道）	1	△	△	△	◎			○	○	
スポーツ方法実習（eスポーツ）	1	△	△	△	◎		○	○		
スポーツ方法実習（水泳・水中運動）	1	△	△	△	◎		○	○		
体づくり運動と運動遊び	1	△	△	△	◎		○	○		
スポーツ方法実習（ダンス）	1	△	△	△	◎		○	○		
スポーツ方法実習（海洋スポーツ）	1	△	△	△	◎		○	○		
スポーツ方法実習（バスケットボール）	1	△	△	△	◎		○	○		
スポーツ方法実習（ニュースポーツ）	1	△	△	△	◎		○	○		
スポーツ方法実習（冬季スポーツ）	1	△	△	△	◎		○	○		
スポーツ方法実習（ゴール型球技）	1	△	△	△	◎		○	○		

健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻 時間割

前期		1年			2年			3年			4年		
		授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室
月	1	OECU概論Ⅰ	太田暁美	2107				ヒト型ロボット製作実習	藤川智彦、平松幹雄	5105、5106			
	2	からだの科学	赤滝久美	2110	応用電気工学	新川拓也	8106	ヒト型ロボット製作実習	藤川智彦、平松幹雄	5105、5106	スポーツ計測システム開発実習	中井 聖、中村英夫、 松長大祐、	6111、体育館、 グラウンド
		現代社会を考える	平沼博将、中里見博、 金田啓稔、村木有也、 安達未来	2210									
	3	医学概論	小出卓哉	2110	電気電子工学実験	日坂真樹、水野裕志、 辻竜之介	5105、5106	解析学	松田真美	6110	応用医学総論	長倉俊明	8106
	4	基礎運動学	小柳磨毅	2210	電気電子工学実験	日坂真樹、水野裕志、 辻竜之介	5105、5106	体外循環装置学	橘 克典	8106			
火	1	Core EnglishⅠ	立本秀洋	2101	医用治療機器学	橘 克典	2205	スポーツリハビリテーション	木村佳記	2210			
		Core EnglishⅠ	原田靖也	2102									
		Core EnglishⅠ	増田純一	2104									
	2	生涯スポーツ実習A	市谷浩一郎	体育館	スポーツコンディショニング	小柳磨毅	2210	医用計測学	日坂真樹	8106	スポーツシミュレーション	鳴尾丈司	6110
		生涯スポーツ実習A	千崎和真	グラウンド									
	3	健康情報学概論	日坂真樹、小柳磨毅、 太田暁美、武田ひとみ、 中井 聖、市谷浩一郎、 中村英夫、松長大祐	2107	プログラミング応用実習	藤川智彦、平松幹雄	5105、5106	医療工学実習	日坂真樹、長倉俊明、 橘 克典、水野裕志、 吉田めぐみ、小出卓哉	8106	臨床医学特別演習	吉田めぐみ	6110、8202、 8203
	4	健康情報学演習	小出卓哉、長倉俊明、 松村雅史、日坂真樹、 橘 克典、水野 裕志	2107	プログラミング応用実習	藤川智彦、平松幹雄	5105、5106	医療工学実習	日坂真樹、長倉俊明、 橘 克典、水野裕志、 吉田めぐみ、小出卓哉	8106			
水	1	社会生活と法	中里見博	2205	Practical EnglishⅠ	立本秀洋	2101	中国語3	金 昌吉	2104			
		現代社会と青年の心理	安達未来	2210									
		哲学の世界	金田啓稔	2204									
		教育制度論	平沼博将	2211									
	2	総合教養	日坂真樹、田中則子、 清井 浩、南津佳宏、 立本秀洋、森 義龍、 大村基将、村木有也、 大西克彦	2111	スポーツ情報学演習	中井 聖、中村英夫	6111、体育館、 グラウンド	臨床内科学総論	長倉俊明	8106			
		国際コミュニケーション	中里見博	2205									
		歴史学の世界	樫本喜一	2110									
		総合ゼミナール	松村一徳	2203									
	3	エレクトロニクス入門	新川拓也	2104	医用数学	日坂真樹	6110	医療安全管理学	水野裕志	8106			
		経済学の世界	牧野泰典	2205									
		平和学	平沼博将、中里見博、 金田啓稔	2105									
		日本語上達法Ⅰ	松村一徳	2203									
	4	日本語上達法Ⅰ	安達未来	2202									
		コンピューターリテラシーⅠ	石塚丈晴	6107、6108	中国語Ⅰ	金 昌吉	2104	情報システム工学	水野裕志	8106			
					日本語上達法2	松村一徳	2203						
					日本語上達法2	安達未来	2202						
木	1	健康科学基礎Ⅰ	赤滝久美	2110	生体医学実習	小出卓哉、長倉俊明、 日坂真樹、橘 克典、 水野裕志、吉田めぐみ	5105、5106	認知科学とデザイン	新川拓也	8106			
	2	健康科学基礎2	太田暁美、武田ひとみ	2110	計測工学	日坂真樹	6110	医療情報システム	新川拓也、岡嶋浩也	8106	医用機器学・安全管理学特別演習	水野裕志、橘 克典	2207
	3	基礎力学演習	山口雅弘	2204	呼吸療法装置学	小出卓哉	8106	医療健康統計演習	中村英夫	2205			
	4	基礎力学演習	山口雅弘	2204				チーム医療概論 （前期前半）	川西秀明	2207			
金	1	基礎解析学Ⅰ演習	松田真美	2104	生化学	吉田めぐみ	8106	基礎製図演習 （前期前半）	藤川智彦、平松幹雄	6110			
		基礎解析学Ⅰ演習	大須賀昇	2105				製図・CAD実習 （前期後半）	藤川智彦、平松幹雄	5105、5106			
	2	基礎解析学Ⅰ演習	松田真美	2104	基礎電子工学	松村雅史	8106	基礎製図演習 （前期前半）	藤川智彦、平松幹雄	6110	基礎医学特別演習	長倉俊明	6111
		基礎解析学Ⅰ演習	大須賀昇	2105				製図・CAD実習 （前期後半）	藤川智彦、平松幹雄	5105、5106			
	3	解剖生理学Ⅰ	赤滝久美	2204				医用機器安全管理学実習	橘 克典、水野裕志、 小出卓哉、吉田めぐみ、 土井昌樹、久保大安、 井口新一、近藤智勇、 川西秀明	8201、8202、 8203、8207			
		解剖生理学Ⅰ	武田ひとみ	2205									
	4	Core English3	立本秀洋	2101				医用機器安全管理学実習	橘 克典、水野裕志、 小出卓哉、吉田めぐみ、 土井昌樹、久保大安、 井口新一、近藤智勇、 川西秀明	8201、8202、 8203、8207			
		Core English3	南津佳宏	2102									
集中授業		AI・データサイエンス入門	上善恒雄、江原康生、 大西克彦、中村英夫、 沼田哲史、水野裕志	2107	日本語Ⅰ	太田暁美	2102	日本語3	太田暁美	2102			
		OECU概論2	太田暁美	2110	データサイエンス基礎	阪口昌彦	2107	グローバル研修	太田暁美	6110			
		コミュニケーション論	富田智成	2104	生体医学実習	小出卓哉、長倉俊明、 日坂真樹、橘 克典、 水野裕志、吉田めぐみ	5105、5106	グローバル研修（英語）	杉村寛子	2101			
								プレゼミ	日坂真樹、長倉俊明、 新川拓也、藤川智彦、 橘 克典、水野裕志、 小出卓哉	各研究室	卒業研究（通）	日坂真樹、長倉俊明、 新川拓也、藤川智彦、 橘 克典、水野裕志、 小出卓哉	各研究室
								メカトロニクス	藤川智彦	8106			
								キャリア形成論（通）	水野裕志	8106			
								インターンシップ（通）	中井 聖、武田ひとみ、 太田暁美、中村英夫	6110			

後期		1年			2年			3年			4年		
		授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室
月	1	医療工学基礎実習	日坂真樹、藤川智彦、 新川拓也、小出卓哉、 吉田めぐみ	5105、5106									
	2	医療工学基礎実習	日坂真樹、藤川智彦、 新川拓也、小出卓哉、 吉田めぐみ	5105、5106	生体物性工学	松村雅史	8106	スポーツ工学	鳴尾丈司	2204			
	3	身体・スポーツ文化論	松長大祐	2110	応用電子工学	松村雅史	8106	ヒト型ロボット制御実習	藤川智彦、平松幹雄	5105、5106			
火	1	Core English 2	立本秀洋	2101	栄養学	武田ひとみ	2211						
		Core English 2	原田靖也	2102									
		Core English 2	増田純一	2104									
	2	生涯スポーツ実習 B	市谷浩一郎	体育館	発達発達学	羽崎 克	2210	医用生体計測学演習 （後期前半）	日坂真樹	8106			
		生涯スポーツ実習 B	千崎和真	グラウンド									
		医用機器学概論	橋 克典	2204				医用情報工学演習 （後期後半）	新川拓也	8106			
	3	心理学	大西理恵子	2210	医用機械工学	藤川智彦	2205						
		線形代数	松田真美	2204									
		公衆衛生学 （後期前半）	小出卓哉	2211	病理学 （後期前半）	橋 克典、奥野高裕	2204						
	4	医療関係法規 （後期後半）	小出卓哉	2211									
	1	政治学	中川洋一	2210	Practical English 2	立本秀洋	2101	中国語 4	金 昌吉	2104			
		アジアの言語と文化	中里見博	2205									
		ヨーロッパの言語と文化	加藤智也	2204									
水	2	ジェンダー論	堀あきこ	2211									
		異文化の理解	中里見博	2205	血液浄化療法装置学	吉田めぐみ	8106	医療データサイエンス演習	水野裕志	6107、6108			
		大阪の文化と歴史	向村九音、吉村智博、 小田直寿	2210									
	3	高齢者社会と医療福祉	長倉俊明	2211									
		文学の世界	富田成美	2204									
		発達心理学	平沼博将	2210	医療健康統計入門	越野八重美、中村英夫	2204						
	4	日本国憲法	中里見博	2205				生体機能代行装置学実習	小出卓哉、橋 克典、 吉田めぐみ、土井昌樹、 久保大安、井口新一、 近藤智勇、川西秀明	8201、8202、 8203、8207			
		日本の近代史	小田直寿	2211									
		企業社会と労働	牧野泰典	2204									
	1	プログラミング基礎演習	大村基将	6107、6108	中国語 2	金 昌吉	2104	生体機能代行装置学実習	小出卓哉、橋 克典、 吉田めぐみ、土井昌樹、 久保大安、井口新一、 近藤智勇、川西秀明	8201、8202、 8203、8207			
木	1	コンピューターリテラシー 2	石塚丈晴	6107、6108	データ処理プログラミング	水野裕志	6108	スポーツ計測システム実習	中井 聖、太田暁美、 中村英夫	体育館、武道場、 エアロビルーム			
	2	解剖生理学 2	赤滝久美	2204	データ処理プログラミング	水野裕志	6108	臨床支援技術学	長倉俊明	8106			
		解剖生理学 2	武田ひとみ	2205									
	3	基礎物理学	山口雅弘	2204	医用電気電子工学演習 （後期後半）	松村雅史、新川拓也	2204	応用数学と臨床医工学	長倉俊明	8106			
		物理学入門	日坂真樹	2205									
	4	ヘルスプロモーション論 （後期前半）	太田暁美	2110	微分方程式	松田真美	2204	臨床外科学総論	橋 克典、得丸智弘	8106			
		生涯スポーツ論 （後期後半）	小寺隆志	2110									
	1	基礎解析学 2 演習	松田真美	2104	生体計測装置学	日坂真樹	8106	創造製作実習	藤川智彦、平松幹夫	5105、5106			
		基礎解析学 2 演習	大須賀昇	2105									
金	2	基礎解析学 2 演習	松田真美	2104	免疫学（後期前半）	長倉俊明	8106	創造製作実習	藤川智彦、平松幹夫	5105、5106			
		基礎解析学 2 演習	大須賀昇	2105	臨床生化学（後期後半）	長倉俊明	8106						
	3	アカデミック・ライティング	森下 聖、中村英夫	2204	生体計測装置学実習	日坂真樹、松村雅史、 水野裕志、長倉俊明	8201、8202、 8203、8207	社会福祉概論	武田ひとみ	2110			
		基礎電気工学	新川拓也	8106									
	4	Core English 4	立本秀洋	2101	生体計測装置学実習	日坂真樹、松村雅史、 水野裕志、長倉俊明	8201、8202、 8203、8207						
		Core English 4	南津佳宏	2102									
	1				日本語 2	太田暁美	2102	日本語 4	太田暁美	2102	卒業研究（通）	日坂真樹、長倉俊明、 新川拓也、藤川智彦、 橋 克典、水野裕志、 小出卓哉	各研究室
					文字の文化と歴史	藤川智彦	2104	キャリアデザイン	赤滝久美、森下 聖、 松本光平	2210	医療工学特別講義	小出卓哉、藤川智彦、 長倉俊明、日坂真樹、 橋 克典、水野裕志、 吉田めぐみ	2107
集中授業	1				地域プロジェクト活動	中井 聖、松長大祐	2107	ゼミナール	日坂真樹、長倉俊明、 新川拓也、藤川智彦、 橋 克典、水野裕志、 小出卓哉	各研究室	臨床工学技士総合演習	橋 克典、水野裕志、 小出卓哉、吉田めぐみ	8106
					ゲーム分析実習	中山雅斗	2110	人工知能	古嶋晃司	2107	医用工学特別演習	日坂真樹、藤川智彦、 水野裕志、小出卓哉、 辻電之介	2111
	2				確率・統計	島本佳昌	2111	臨床実習（臨床工学）	小出卓哉、藤川智彦、 日坂真樹、橋 克典、 水野裕志、吉田めぐみ	8106			
					医用機械工学演習	藤川智彦	8106	キャリア形成論（通）	水野裕志	8106			
	3							インターンシップ（通）	中井 聖、武田ひとみ、 太田暁美、中村英夫	6110			
	4												

健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻 時間割

前期		1年			2年			3年			4年						
		授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室				
月	1	〇 E C U概論Ⅰ	太田暁美	2107	運動療法学実習	成 俊弼	5205、5206										
	2	からだの科学	赤滝久美	2110	物理療法学実習	成 俊弼	6110、8209、8314	神経系理学療法学演習 C	羽崎 完	8414	スポーツ計測システム開発実習	中井 聖、中村英夫、松長大祐、	6111、体育館、グラウンド				
		現代社会を考える	平沼博将、中里見博、金田啓稔、村木有也、安達未来	2210													
	3	医学概論	小出卓哉	2110				スポーツ理学療法特修 A	小柳磨毅、森下 聖	2204	神経系理学療法学演習 C	羽崎 完	8414				
4	基礎運動学	小柳磨毅	2210														
火	1	Core EnglishⅠ	立本秀洋	2101	神経内科学	羽崎 完	2202	スポーツリハビリテーション	木村佳記	2210							
		Core EnglishⅠ	原田靖也	2102													
		Core EnglishⅠ	増田純一	2104													
	2	生涯スポーツ実習 A	市谷浩一郎	体育館	スポーツコンディショニング	小柳磨毅	2210	臨床精神医学	羽崎 完	2204	スポーツシミュレーション	鳴尾丈司	6110				
		生涯スポーツ実習 A	千崎和真	グラウンド													
	3	健康情報学概論	日坂真樹、小柳磨毅、太田暁美、武田ひとみ、中井 聖、市谷浩一郎、中村英夫、松長大祐	2107	理学療法評価学実習Ⅰ	越野八重美	5205、5206	小児系理学療法学演習	羽崎 完	2204							
	4	機能解剖学	田中則子	5205、5206													
	水	1	社会生活と法	中里見博	2205	Practical EnglishⅠ	立本秀洋	2101	中国語 3	金 昌吉	2104						
			現代社会と青年の心理	安達未来	2210												
			哲学の世界	金田啓稔	2204												
教育制度論			平沼博将	2211													
2		総合教養	日坂真樹、田中則子、溝井 浩、南津佳宏、立本秀洋、森 義龍、大村基将、村木有也、大西克彦	2111	スポーツ情報学演習	中井 聖、中村英夫	6111、体育館、グラウンド	実践理学療法学演習 A	木村佳記	8414							
		国際コミュニケーション	中里見博	2205													
		歴史学の世界	樫本喜一	2110													
		総合ゼミナール	松村一徳	2203													
3		エレクトロニクス入門	新川拓也	2104	整形外科学	小柳磨毅	2204	実践理学療法学演習 B	羽崎 完	8414							
		経済学の世界	牧野泰典	2205													
		平和学	平沼博将、中里見博、金田啓稔	2105													
		日本語上達法Ⅰ	松村一徳	2203													
4		日本語上達法Ⅰ	安達未来	2202													
					中国語Ⅰ	金 昌吉	2104	情報システム工学	水野裕志	8106							
木		1	健康科学基礎Ⅰ	赤滝久美	2110	理学療法評価学	田中則子	5205、5206	内部障害系理学療法学演習 B	越野八重美	8414						
	2	健康科学基礎 2	太田暁美、武田ひとみ	2110	解剖学演習	赤滝久美	2204	医療情報システム	新川拓也、岡崎浩也	8106							
	3	コンピューターリテラシーⅠ	石塚丈晴	6107、6108	生理学演習	赤滝久美	2204	医療健康統計演習	中村英夫	2205							
	4																
	金	1				理学療法関係法規	成 俊弼、岡村和明	2204									
		2				一般臨床内科学	赤滝久美	2204	運動系理学療法学演習 B	成俊 弼	5205、5206						
		3	解剖生理学Ⅰ	赤滝久美	2204	運動学実習	木村佳記	8414	義肢装具学実習	成 俊弼	5205、5206						
			解剖生理学Ⅰ	武田ひとみ	2205												
4	Core English3	立本秀洋	2101														
	Core English3	南津佳宏	2102														
集中授業	AI・データサイエンス入門		上善恒雄、江原康生、大西克彦、中村英夫、沼田哲史、水野裕志	2107	日本語Ⅰ	太田暁美	2102	日本語 3	太田暁美	2102	臨床医学探究	田中則子	2201				
	〇 E C U概論 2		太田暁美	2110	データサイエンス基礎	阪口昌彦	2107	グローバル研修	太田暁美	6110	臨床理学療法学演習 B	森下 聖、松本光平	5205、5206				
	コミュニケーション論		富高智成	2104	地域健康支援実習（通年）	成 俊弼、森下 聖、松本光平	2201	グローバル研修（英語）	杉村寛子	2101	臨床理学療法学探究	羽崎 完、池田耕二	2201				
								プレゼミ	赤滝久美、小柳磨毅、木村佳記、田中則子、越野八重美、羽崎 完、成 俊弼、森下 聖、松本光平	各研究室	卒業研究（通）	赤滝久美、小柳磨毅、木村佳記、田中則子、越野八重美、羽崎 完、成 俊弼、森下 聖、松本光平	各研究室				
								臨床実習（理学療法） 2	小柳磨毅、木村佳記、田中則子、越野八重美、羽崎 完、成 俊弼、森下 聖、松本光平	5205、5206							
								インターンシップ（通）	中井聖、武田ひとみ、太田暁美、中村英夫	6110							

後期		1年			2年			3年			4年		
		授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室
月	1	接遇マナーとコミュニケーション	赤滝久美	2104	日常生活活動学実習	小柳磨毅	5205、5206						
	2	生体動作探究	成 俊弼	2104				スポーツ工学	鳴尾丈司	2204			
	3	身体・スポーツ文化論	松長大祐	2110	姿勢・動作解析学演習	羽崎 完	5205、5206	地域理学療法学演習	成 俊弼	6111			
	4	スポーツ情報学	中井 聖	2210	情報工学基礎演習	新川拓也	2207						
火	1	Core English 2	立本秀洋	2101	栄養学	武田ひとみ	2211	臨床理学療法学演習 A	森下 聖、松本光平	5205、5206			
		Core English 2	原田靖也	2102									
		Core English 2	増田純一	2104									
	2	生涯スポーツ実習 B	市谷浩一郎	体育館	発達達学	羽崎 完	2210	老年系理学療法学演習	成 俊弼	5205、5206			
		生涯スポーツ実習 B	千崎和真	グラウンド									
	3	心理学	大西理恵子	2210	理学療法評価学実習 2	木村佳記	5205、5206						
	4	公衆衛生学 （後期前半）	小出卓哉	2211									
		医療関係法規 （後期後半）	小出卓哉	2211									
水	1	政治学	中川洋一	2210	Practical English 2	立本秀洋	2101	中国語 4	金 昌吉	2104			
		アジアの言語と文化	中里見博	2205									
		ヨーロッパの言語と文化	山口雅弘	2204									
		ジェンダー論	堀あきこ	2211									
		異文化の理解	中里見博	2205	障害学演習	森下聖、松本光平	5205、5206	医療データサイエンス演習	水野裕志	6107、6108			
	2	大阪の文化と歴史	向村九音、吉村智博、 小田直寿	2210									
		高齢者社会と医療福祉	長倉俊明	2211									
		文学の世界	富田成美	2204									
	3	発達心理学	平沼博将	2210	医療健康統計入門	越野八重美、中村英夫	2204	チームリハビリテーション	小柳磨毅	8414			
		日本国憲法	中里見博	2205									
		日本の近代史	小田直寿	2211									
		企業社会と労働	牧野泰典	2204									
	4	プログラミング基礎演習	大村基将	6107、6108	中国語 2	金 昌吉	2104	理学療法管理学	田中則子				
木	1	リハビリテーション医学	田中則子	5205	データ処理プログラミング	水野裕志	6108	スポーツ計測システム実習	中井 聖、太田暁美、 中村英夫	体育館、武道場、 エアロビルーム			
	2	解剖生理学 2	赤滝久美	2204	データ処理プログラミング	水野裕志	6108	予防理学療法学演習	小柳磨毅	5205、5206			
		解剖生理学 2	武田ひとみ	2205									
	3	コンピューターリテラシー 2	石塚丈晴	6107、6108	基礎医学演習	赤滝久美、松本光平	8414						
	4	ヘルスプロモーション論 （後期前半）	太田暁美	2110	チームマネジメント	森下 聖、松本光平	8414						
		生涯スポーツ論 （後期後半）	小寺隆志	2110									
金	1	運動学	木村佳記	6110	神経系理学療法学演習 A	越野八重美	2203	運動系理学療法学基礎演習	田中則子	5205			
								運動系理学療法学発展演習	小柳磨毅	5206			
	2	機能解剖学演習	小柳磨毅	6110	神経系理学療法学演習 B	羽崎 完	2204	神経系理学療法学基礎演習	田中則子	5205			
								神経系理学療法学発展演習	羽崎 完	5206			
	3	アカデミック・ライティング	森下 聖、中村英夫	2204	運動系理学療法学演習 A	木村佳記	5205、5206	社会福祉概論	武田ひとみ	2110			
	4	Core English 4	立本秀洋	2101	内部障害系理学療法学演習 A	越野八重美	5205、5206						
		Core English 4	南津佳宏	2102									
集中授業					日本語 2	太田暁美	2102	日本語 4	太田暁美	2102	卒業研究（通）	赤滝久美、小柳磨毅、 木村佳記、田中則子、 越野八重美、羽崎 完、 成 俊弼、森下 聖、 松本光平	各研究室
					文字の文化と歴史	藤川智彦	2104	キャリアデザイン	赤滝久美、森下 聖、 松本光平	2210	総合理学療法学演習 A	越野八重美	2203
					地域プロジェクト活動	中井 聖、松長大祐	2107	ゼミナール	赤滝久美、小柳磨毅、 木村佳記、田中則子、 越野八重美、羽崎 完、 成 俊弼、森下 聖、 松本光平	各研究室	総合理学療法学演習 B	越野八重美	2203
					ゲーム分析実習	非常勤講師	2110	臨床実習（理学療法） 3	小柳磨毅、木村佳記、 田中則子、越野八重美、 羽崎 完、成 俊弼、 森下 聖、松本光平	6111	総合理学療法学演習 C	越野八重美	2203
					臨床実習（理学療法）Ⅰ	小柳磨毅、木村佳記、 田中則子、越野八重美、 羽崎 完、成 俊弼、 森下 聖、松本光平	6111	スポーツ理学療法特修 B	木村佳記、松本光平	5204、5206	臨床実習（理学療法） 4	小柳磨毅、木村佳記、 田中則子、越野八重美、 羽崎 完、成 俊弼、 森下 聖、松本光平	6111
					地域支援実習（通年）	成 俊弼、森下 聖、 松本光平	6111	キャリア形成論（通）	水野裕志	8106	臨床実習（理学療法） 5	小柳磨毅、木村佳記、 田中則子、越野八重美、 羽崎 完、成 俊弼、 森下 聖、松本光平	6111
								インターンシップ（通）	中井 聖、武田ひとみ、 太田暁美、中村英夫	6110			

健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻 時間割

前期		1年			2年			3年			4年		
		授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室
月	1	〇 E C U 概論Ⅰ	太田暁美	2107	体育・スポーツ原理	梶 将徳	6111						
	2	からだの科学	赤滝久美	2110	体力測定評価演習	市谷浩一郎	6111、体育館	スポーツ栄養学演習	武田ひとみ	2211	スポーツ計測システム開発実習	中井 聖、中村英夫、松長大祐、	6111、体育館、グラウンド
		現代社会を考える	平沼博将、中里見博、金田啓稔、村木有也、安達未来	2210									
	3	医学概論	小出卓哉	2110	スポーツ方法実習（ネット型球技2）	川上 諒	テニスコート	健康トレーニング実習	太田暁美	体育館、グラウンド			
	4	基礎運動学	小柳磨毅	2210	スポーツ方法実習（eスポーツ）	森田浩司	6105	スポーツ教育学応用演習（通）	太田暁美、中井 聖、市谷浩一郎、松長大祐、浦田達也	6111、体育館、グラウンド			
火	1	Core EnglishⅠ	立本秀洋	2101	運動生理学	太田暁美、武田ひとみ	2110	スポーツリハビリテーション	木村佳記	2210			
		Core EnglishⅠ	原田靖也	2102									
		Core EnglishⅠ	増田純一	2104									
	2	生涯スポーツ実習A	市谷浩一郎	体育館	スポーツコンディショニング	小柳磨毅	2210	スポーツマネジメント論	小寺隆志	2110	スポーツシミュレーション	鳴尾丈司	6110
		生涯スポーツ実習A	千崎和真	グラウンド									
	3	健康情報学概論	日坂真樹、小柳磨毅、太田暁美、武田ひとみ、中井 聖、市谷浩一郎、中村英夫、松長大祐	2107				スポーツコーチング実習	市谷浩一郎	体育館			
4													
水	1	社会生活と法	中里見博	2205	Practical EnglishⅠ	立本秀洋	2101	中国語3	金 昌吉	2104			
		現代社会と青年の心理	安達未来	2210									
		哲学の世界	金田啓稔	2204									
		教育制度論	平沼博将	2211									
	2	総合教養	日坂真樹、田中則子、溝井 浩、南津佳宏、立本秀洋、森 義龍、大村基将、村木有也、大西克彦	2111	スポーツ情報学演習	中井 聖、中村英夫	6111、体育館、グラウンド	スポーツ教育学基礎演習2	武田ひとみ、松長大祐、浦田達也	6111、体育館、グラウンド			
		国際コミュニケーション	中里見博	2205									
		歴史学の世界	樫本喜一	2110									
		総合ゼミナール	松村一徳	2203									
	3	エレクトロニクス入門	新川拓也	2104	スポーツ・レクリエーション論	中井 聖	6111	スポーツ方法実習（バスケットボール）	市谷浩一郎	体育館			
		経済学の世界	牧野泰典	2205									
		平和学	平沼博将、中里見博、金田啓稔	2105									
		日本語上達法Ⅰ	松村一徳	2203									
4	日本語上達法Ⅰ	安達未来	2202										
				中国語Ⅰ	金 昌吉	2104	情報システム工学	水野裕志	8106				
木	1	健康科学基礎Ⅰ	赤滝久美	2110				eスポーツ科学概論（前期前半）	いしぜきひでゆき、森田浩司	6111			
								eスポーツ科学演習（前期後半）	いしぜきひでゆき、森田浩司	6111			
	2	健康科学基礎2	太田暁美、武田ひとみ	2110	スポーツバイオメカニクス	村木有也	2211	医療情報システム	新川拓也、岡崎浩也	8106			
	3	コンピューターリテラシーⅠ	石塚丈晴	6107、6108	スポーツトレーニング実習	市谷浩一郎、田中邦彦	体育館、グラウンド	医療健康統計演習	中村英夫	2205			
	4	トレーニング論	田中邦彦	2110									
金	1	スポーツ方法実習（ベースボール型球技）	浦田達也	グラウンド									
	2	スポーツ方法実習（器械運動）	松長大祐	体育館				健康心理学	武田ひとみ	6111			
	3	解剖生理学Ⅰ	赤滝久美	2204	体育・スポーツ心理学	山本浩二	6111	スポーツ方法実習（ニュースポーツ）	中井 聖	体育館、グラウンド			
		解剖生理学Ⅰ	武田ひとみ	2205									
4	Core English3	立本秀洋	2101	スポーツ方法実習（武道）	山本浩二	武道場	プレゼミ	太田暁美、武田ひとみ、中井 聖、市谷浩一郎、中村英夫、松長大祐	各研究室				
	Core English3	南津佳宏	2102										
集中授業		AI・データサイエンス入門	上善恒雄、江原康生、大西克彦、中村英夫、沼田哲史、水野裕志	2107	日本語Ⅰ	太田暁美	2102	日本語3	太田暁美	2102	卒業研究（通）	太田暁美、武田ひとみ、中井 聖、市谷浩一郎、中村英夫、松長大祐	各研究室
		〇 E C U 概論2	太田暁美	2110	データサイエンス基礎	阪口昌彦	2107	グローバル研修	太田暁美	6110			
		コミュニケーション論	富高智成	2104	野外活動	中井 聖、佐藤真史	2111	グローバル研修（英語）	杉村寛子	2101			
								スポーツ方法実習（海洋スポーツ）	中井 聖、松長大祐	6111			
								インターンシップ（通）	中井 聖、武田ひとみ、太田暁美、中村英夫	8106			

後期		1年			2年			3年			4年		
		授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室	授業名	担当者	教室
月	1												
	2				体づくり運動と運動遊び	松山尚道	体育館、グラウンド	スポーツ工学	鳴尾丈司	2204			
	3	身体・スポーツ文化論	松長大祐	2110	スポーツ方法実習（ダンス）	権野めぐみ	エアロビルーム	スポーツ方法実習（ゴール型球技）	中山忠彦	グラウンド			
	4	スポーツ情報学	中井 聖	2210	情報工学基礎演習	新川拓也	2207	スポーツ教育学応用演習（通）	太田曉美、中井 聖、市谷浩一郎、松長大祐 浦田達也	6111、体育館、グラウンド			
火	1	Core English 2	立本秀洋	2101	栄養学	武田ひとみ	2211	精神医学	大西理恵子	6111			
		Core English 2	原田靖也	2102									
		Core English 2	増田純一	2104									
	2	生涯スポーツ実習 B	市谷浩一郎	体育館	発達発達学	羽崎 完	2210	健康運動指導応用演習	太田曉美、中井 聖、武田ひとみ、市谷浩一郎、松長大祐	6111、武道場、エアロビルーム			
		生涯スポーツ実習 B	千崎和真	グラウンド									
	3	心理学	大西理恵子	2210	スポーツ医学と救急救命演習	長倉俊明	8106	運動生理学実習	太田曉美、中村英夫	武道場、エアロビルーム			
	4	公衆衛生学（後期前半）	小出卓哉	2211	生活習慣病と介護予防	太田曉美、長倉俊明	8106						
		医療関係法規（後期後半）	小出卓哉	2211									
水	1	政治学	中川洋一	2210	Practical English 2	立本秀洋	2101	中国語 4	金 昌吉	2104			
		アジアの言語と文化	中里見博	2205									
		ヨーロッパの言語と文化	山口雅弘	2204									
		ジェンダー論	堀あきこ	2211									
	2	異文化の理解	中里見博	2205	スポーツ方法実習（水泳・水中運動）	三角さやか	6111	医療データサイエンス演習	水野裕志	6107、6108			
		大阪の文化と歴史	向村九音、吉村智博、小田直寿	2210									
		高齢者社会と医療福祉	長倉俊明	2211									
		文学の世界	富田成美	2204									
	3	発達心理学	平沼博将	2210	医療健康統計入門	越野八重美、中村英夫	2204						
		日本国憲法	中里見博	2205									
		日本の近代史	小田直寿	2211									
		企業社会と労働	牧野泰典	2204									
	4	プログラミング基礎演習	大村基将	6107、6108	中国語 2	金 昌吉	2104						
木	1	スポーツ教育学（後期前半）	松長大祐	2104	データ処理プログラミング	水野裕志	6108	スポーツ計測システム実習	中井 聖、太田曉美、中村英夫	体育館、武道場、エアロビルーム			
		スポーツコーチング論（後期後半）	市谷浩一郎	2104									
	2	解剖生理学 2	赤滝久美	2204	データ処理プログラミング	水野裕志	6108	スポーツ指導実習	市谷浩一郎	体育館	スポーツビジネス論	小寺隆志	6111
		解剖生理学 2	武田ひとみ	2205									
	3	コンピューターリテラシー 2	石塚丈晴	6107、6108	スポーツ教育学基礎演習 I	武田ひとみ、松長大祐、浦田達也	6111、体育館、グラウンド						
金	1	ヘルスプロモーション論（後期前半）	太田曉美	2110	スポーツ・レクリエーション実習	田中真紀	体育館、武道場、エアロビルーム						
		生涯スポーツ論（後期後半）	小寺隆志	2110									
	2	スポーツ方法実習（陸上競技）	村木有也	グラウンド	体育・スポーツ社会学	小寺隆志							
		スポーツ方法実習（ネット型球技 I）	古達 貴	体育館	健康運動指導基礎演習	太田曉美	6111、武道場、エアロビルーム	学校保健	近藤由佳子	6111	アダプテッドスポーツ	市谷浩一郎	体育館、グラウンド
	3	アカデミック・ライティング	森下 聖、中村英夫	2204	健康スポーツ科学実習	太田曉美、武田ひとみ、中井 聖、市谷浩一郎、中村英夫、松長大祐、浦田達也	体育館、グラウンド、武道場、エアロビルーム	社会福祉概論	武田ひとみ	2110			
集中授業	4	Core English 4	立本秀洋	2101				ゼミナール	太田曉美、武田ひとみ、中井 聖、市谷浩一郎、中村英夫、松長大祐	各研究室			
		Core English 4	南津佳宏	2102									
					日本語 2	太田曉美	2102	日本語 4	太田曉美	2102	卒業研究（通）	太田曉美、武田ひとみ、中井 聖、市谷浩一郎、中村英夫、松長大祐	各研究室
					文学の文化と歴史	藤川智彦	2104	キャリアデザイン	赤滝久美、森下 聖、松本光平	2210			

健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻 履修モデル①

安心・安全な医療・健康を実現するために、医学及び工学を基盤とした医療健康科学について教授研究し、医学・臨床医工学・情報工学を学び、高度医療・チーム医療の要となる臨床工学技士として活躍できる専門的人材

科目区分			1年		2年		3年		4年		
共通科目	人文・社会・自然群		総合教養	2	社会生活と法 文字の文化と歴史	2					
			エレクトロニクス入門	2		2					
			アジアの言語と文化	2							
			高齢者社会と医療福祉 からだの科学	2							
	外国語群		Core English 1	1							
			Core English 2	1							
	プロジェクトスキル形成群						キャリア形成論	2			
	情報基礎群		○コンピュータリテラシー1	2							
			コンピュータリテラシー2	2							
専門科目	学科共通 科目	健康分野	健康情報学概論	2							
			○解剖生理学1	2							
			○解剖生理学2	2							
	医学概論		2								
	医療関係法規		1								
	公衆衛生学		1								
	生涯スポーツ実習A		1								
		情報分野			情報工学基礎演習	2	情報システム工学 医療情報システム	2 2			
		アカデミックスキル					ゼミナール	2	○卒業研究	8	
	医療工学関 連専門 科目	数学	基礎解析学1演習	2							
			基礎解析学2演習	2							
		物理	基礎力学演習	2							
			医学			免疫学 生化学 臨床生化学 病理学	1 2 1 1	薬理学 臨床内科学総論 臨床外科学総論 チーム医療概論	1 2 2 1	応用医学総論	2
		電気・電子工学		基礎電気工学	2	○電気電子工学実験 基礎電子工学	2 2	医用情報工学演習	1	医用工学特別演習	2
				機械工学	医用材料工学	2	医用機械工学演習 生体物性工学 医用機械工学	1 2 2			
		医用機器学			医用機器学概論	2	計測工学 生体計測装置学 生体計測装置学実習 医用治療機器学	2 2 2 2	医用生体計測学演習 医療安全管理学 医用機器安全管理学実習 臨床支援技術学	1 2 2 2	
			生体機能代行技術学			呼吸療法装置学 血液浄化療法装置学	2 2	体外循環装置学 生体機能代行装置学実習	2 2	臨床工学技士総合演習	2
		健康福祉工学									
		臨床実習					臨床実習(臨床工学)	7	医療工学特別講義	2	
		医療工学 キャリア形成	医療工学基礎実習	2	生体医工学実習	2					
単位数 計			41		34		33		16		

○：必修科目

単位数 総合計 124

健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻 履修モデル②

医工学、情報分野におけるデジタル技術の導入や活用できる技術者を養成します。医療機関や関連企業において、電子カルテシステムや診療支援システム、テレヘルス、医療ロボット、AIなどの技術の開発、実装、および維持管理するエンジニアが必要とされているため、その基礎から応用まで幅広く知識技能を養う。

科目区分			1年	2年	3年	4年				
共通科目	人文・社会・自然群		総合教養	2	教育制度論	2				
			エレクトロニクス入門	2	国際コミュニケーション	2				
			日本国憲法	2						
	外国語群		Core English 1	1						
			Core English 2	1						
	プロジェクトスキル形成群				キャリア形成論	2				
	情報基礎群		AI・データサイエンス入門	2						
○コンピュータリテラシー1			2							
コンピュータリテラシー2			2							
プログラミング基礎演習			2							
専門科目	学科共通科目	健康分野	健康情報学概論	2						
			医学概論	2						
			公衆衛生学	1						
	○解剖生理学1		2							
	○解剖生理学2		2							
		情報分野		データサイエンス基礎	2	人工知能	2			
			プログラミング応用実習	2	医療健康統計演習	2				
			データ処理プログラミング	2	医療データサイエンス演習	2				
			医療健康統計入門	2	情報システム工学	2				
			情報工学基礎演習	2	医療情報システム	2				
		アカデミックスキル			ゼミナール	2	○卒業研究	8		
	医療工学関連専門科目	数学	基礎解析学1演習	2	微分方程式	2	解析学	2		
			基礎解析学2演習	2	確率・統計	2				
					医用数学	2				
		物理	基礎力学演習	2						
			物理学入門	2						
		医学			免疫学	1				
					病理学	1				
		電気・電子工学	基礎電気工学	2	○電気電子工学実験	2				
					基礎電子工学	2				
		機械工学	医用材料工学	2	生体物性工学	2	メカトロニクス	2		
					医用機械工学	2	基礎製図演習	2		
医用機器学		医用機器学概論	2	計測工学	2	医用機器安全管理学実習	2			
				生体計測装置学	2					
				生体計測装置学実習	2					
				医用治療機器学	2					
	生体機能代行技術学									
	健康福祉工学				認知科学とデザイン	2				
				ヒト型ロボット製作実習	2					
				ヒト型ロボット制御実習	2					
	臨床実習				創造製作実習	2				
	医療工学	健康情報学演習	2	生体医工学実習	2	医療工学実習	2			
	キャリア形成	医療工学基礎実習	2							
単位数 計			43	40		33		8		

○：必修科目

単位数 総合計 124

健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻 履修モデル

理学療法士国家試験に合格できるレベルの総合的知識と、保健・医療・福祉の各領域の業務に従事できる専門知識、技能を有し、情報技術を活用して各専門分野のみならず融合領域においても科学的な視点から新しい技術の創造に取組み実行できる専門的人材

科目区分			1年		2年		3年		4年		
共通科目	人文・社会・自然群		総合教養	2							
			OECU概論Ⅰ	1							
			からだの科学	2							
			現代社会と青年の心理	2							
			発達心理学	2							
	外国語群		Core English Ⅰ	1							
			Core English 2	1							
			Core English 3	1							
			Core English 4	1							
プロジェクトスキル形成群		アカデミック・ライティング	2	地域プロジェクト活動	2	キャリアデザイン	2				
情報基礎群		○コンピューターリテラシーⅠ	2								
		コンピューターリテラシー2	2								
専門科目	学科共通科目	健康分野	○健康情報学概論	2	スポーツコンディショニング	2	スポーツリハビリテーション	2			
			○解剖生理学Ⅰ	2	発育発達学	2					
			○解剖生理学2	2							
		情報分野			医療健康統計入門	2	医療情報システム	2			
			アカデミックスキル					プレゼミ ゼミナール	2 2	○卒業研究	8
				理学療法学関連専門科目	基礎医学	○機能解剖学	2	運動学実習	2		
	機能解剖学演習	2	○生理学演習			2					
	○運動学	2	○解剖学演習			2					
		臨床医学	○リハビリテーション医学		2	○一般臨床内科学	2	○臨床精神医学	2	○臨床医学探究	2
					○神経内科学	2					
			○整形外科学		2						
			障害学演習		2						
		基礎理学療法学	○接遇マナーとコミュニケーション	1	○日常生活活動学実習	2	○理学療法管理学	2			
			○運動療法学実習	2	○義肢装具学実習	2					
			○物理療法学実習	2							
			○理学療法評価学	2							
		○理学療法評価学実習Ⅰ	2								
		○理学療法評価学実習2	2								
	理学療法治療学					○地域理学療法学演習	2				
						スポーツ理学療法特修A	1				
	応用理学療法学					○チームリハビリテーション	2	○総合理学療法学演習A	2		
								○総合理学療法学演習B	2		
	学外実習			○臨床実習(理学療法)Ⅰ	1	○臨床実習(理学療法)2	3	○臨床実習(理学療法)4	1		
						○臨床実習(理学療法)3	6	○臨床実習(理学療法)5	10		
単位数 計				34		35		30		25	

○：必修科目

単位数 総合計

124

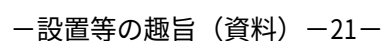
健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻 履修モデル

ICTの知識や技術の学びをベースに、スポーツ科学に加え、健康科学や医学を修得することによって、科学的な視点から社会的・学術的課題を解決し、人や社会を支えることができる人材を育成する。
(保健体育科教員、競技スポーツや生涯スポーツの指導者、健康づくり運動の指導者等)

科目区分			1年		2年		3年		4年			
			科目	単位数	科目	単位数	科目	単位数	科目	単位数		
共通科目	人文・社会・自然群		総合教養	2								
			からだの科学	2								
	外国語群		Core English 1	1	Practical English 1	1						
			Core English 2	1	Practical English 2	1						
	プロジェクトスキル形成群		日本語上達法Ⅰ	2	地域プロジェクト活動	2	○キャリアデザイン	2				
			○アカデミック・ライティング	2			インターンシップ	2				
	情報基礎群		AI・データサイエンス入門	2								
			○コンピュータリテラシーⅠ	2								
			○コンピュータリテラシー2	2								
プログラミング基礎演習			2									
専門科目	学科共通科目	健康分野	健康情報学概論	2	発育発達学	2	スポーツリハビリテーション	2				
			医学概論	2								
			解剖生理学Ⅰ	2								
			基礎運動学	2								
			ヘルスプロモーション論	1								
			身体・スポーツ文化論	2								
			生涯スポーツ論	1								
		情報分野	スポーツ情報学	2	データサイエンス基礎	2	人工知能	2				
					プログラミング応用実習	2	医療健康統計演習	2				
					医療健康統計入門	2	スポーツ計測システム実習	1				
					スポーツ情報学演習	2	スポーツ工学	2				
					ゲーム分析実習	1						
		アカデミックスキル					○プレゼミ	2	○卒業研究	8		
							○ゼミナール	2				
	スポーツ科学関連専門科目	ひと・社会とスポーツ			体育・スポーツ原理	2	スポーツマネジメント論	2	スポーツビジネス論	2		
					体育・スポーツ社会学	2						
		スポーツとからだ			スポーツバイオメカニクス	2	スポーツ栄養学演習	2				
					運動生理学	2	運動生理学実習	1				
				○健康スポーツ科学実習	1							
		こころとスポーツ			体育・スポーツ心理学	2	健康心理学	2				
		スポーツ医学			スポーツ医学と救急救命演習	2						
		スポーツ教育	スポーツ教育学	1								
		スポーツコーチング	トレーニング論	2	スポーツトレーニング実習	1	スポーツコーチング実習	1				
			スポーツコーチング論	1			スポーツ指導実習	1				
		ヘルスプロモーション			生活習慣病と介護予防	2	健康トレーニング実習	1				
		生涯スポーツ			スポーツ・レクリエーション論	2			アダプテッドスポーツ	2		
					スポーツ・レクリエーション実習	1						
		eスポーツ					eスポーツ科学概論	1				
							eスポーツ科学演習	1				
		スポーツ方法	スポーツ方法実習（器械運動）	1	スポーツ方法実習（ネット型球技2）	1	スポーツ方法実習（バスケットボール）	1				
			スポーツ方法実習（ベースボール型球技）	1	スポーツ方法実習（武道）	1	スポーツ方法実習（ニュースポーツ）	1				
			スポーツ方法実習（陸上競技）	1	スポーツ方法実習（eスポーツ）	1	スポーツ方法実習（冬季スポーツ）	1				
					スポーツ方法実習（水泳・水中運動）	1	スポーツ方法実習（ゴール型球技）	1				
					体づくり運動と運動遊び	1						
					スポーツ方法実習（ダンス）	1						
		単位数計				39		40		33		12

○ :必修科目

単位数総合計	124



科 目 臨床実習 1（見学・コミュニケーション実習）

【担当教員名】 小柳磨毅（教授）， 田中則子（教授）， 越野八重美（教授）， 木村佳記(教授)，羽崎 完（准教授）， 成俊弼（講師）， 森下 聖（特任講師）， 松本光平(特任講師)	対象学年	2	必修選択	必修	開講時期	後 期
	単 位 数	1	時 間 数	45	実習期間	1 週間(5 日間)
	実習施設	医療提供施設 あるいは 保健福祉施設				
【目的】 理学療法業務の見学を通して，社会における医療提供施設あるいは保健福祉施設の役割や理学療法士の役割，他職種との関わりを理解するとともに，医療職に必要な資質を身に付けること。さらに，臨床実習指導者の指導のもとで情報収集、医療面接を試行・実践できるようになることを目的とする。						
【概要】 主な内容： 臨床実習指導者の指導・教育のもと、理学療法場面や他職種の見学と対象者やその家族との積極的な対話を中心とした実習を行う。 実習形態： 臨床実習指導者の指導・教育のもとで行われる診療参加型実習（学生数：40名）						
【主な到達目標】 ・前医療人として適切な整容・言葉遣い・態度・行動をとることができる ・共感的態度をもって対象者やその家族との積極的に対話し，良好な人間関係を構築するとともに医療者としての感性を涵養できる。 ・臨床実習指導者やほかの医療スタッフと適切なコミュニケーションをとることができる。 ・実習施設の機能・概要を把握するとともに，理学療法士の役割やチーム医療の重要性を説明できる。 ・対象者に関する医学的情報や社会的情報を，他職種や問診などから適切に収集できる ・収集した情報をもとに対象者の1日の生活を個人因子や環境因子を踏まえ想像できる。 ・対象者との対話から対象者の現在の心情（感情，考えなど）を想像し，その理由を考えることができる。						
【計画】						
	担 当					
学内：	担当全教員	オリエンテーション，自己理解(コミュニケーションの特徴を把握)、自己目標設定				
実習施設（5日間）：	実習指導者	理学療法見学，他部門見学，情報収集，日々の目標設定と自己評価，課題				
学内：	担当全教員	報告会，振り返り，目標到達度確認				
【課題】 ・臨床実習記録表 ・ワークシート （収集した情報の記録とそこから読み取れることの整理） （対象者の1日の生活や現在の心情を想像し，その理由も含め整理）						

科 目 臨床実習2（検査測定体験実習）

【担当教員名】		対象学年	3	必修選択	必修	開講時期	前 期
小柳磨毅（教授），田中則子（教授），越野八重美（教授），木村佳記(教授)，羽崎 完（准教授），成 俊弼（講師），森下 聖（特任講師），松本光平(特任講師)		単 位 数	3	時 間 数	135	実習期間	3 週間(15日間)
		実習施設	医療提供施設あるいは保健福祉施設				
【目的】 学内で体得した基本的な動作介助や検査・測定を臨床現場で試行・実践することを通して，個々の対象者の能力に合わせた技術を研鑽すること。また，以降の臨床実習での学習を効果的かつ円滑に進捗させるための経験を蓄積することを目的とする。							
【概要】 主な内容： 模擬患者を対象とした接遇・検査・測定についてのロールプレイによる学内演習を経て，実習施設において臨床実習指導者の指導・教育のもと，情報収集，医療面接，動作介助，検査測定を試行・実践する。具体的には，実習指導者の対象者に対する評価・治療場面を見学するとともに，学内で体得した基本的な動作介助および検査測定を試行・実践する 実習形態： 臨床実習指導者の指導・教育のもとで行われる診療参加型実習（学生数：40名）							
【主な到達目標】 ・適切な行動と態度によって，対象者やその家族に対し適切に接遇できる。 ・対象者の基本的な動作を観察し，その現象を的確に把握するとともに異常性のおおよその原因を類推できる。 ・学内で体得した基本的な動作介助や検査・測定を，対象者の能力に合わせ適正に実施できる。 ・対象者の医学的リスクについて説明でき，動作介助や検査・測定を実施する際，リスクに対する配慮・管理ができる。 ・実施した検査・測定の結果を記録し，専門用語を用いて説明できる。 ・接遇や動作介助，検査・測定技術に対する自己の課題を明確化できる。							
【計画】							
		担 当					
学内：		担当全教員	オリエンテーション，ロールプレイ，自己目標設定				
1 週目：	1日目	実習指導者	ガイダンス，理学療法見学，医療面接，検査測定				
	2～3日目		理学療法見学，医療面接，検査測定				
	5日目		理学療法見学，医療面接，検査測定，中間評価フィードバック				
2 週目：	6～9日目	実習指導者	理学療法見学，医療面接，検査測定				
	10日目		理学療法見学，医療面接，検査測定，中間評価フィードバック				
3 週目：	11～14日目	実習指導者	理学療法見学，医療面接，検査測定				
	15日目		理学療法見学，医療面接，検査測定，総合評価フィードバック				
学内：		担当全教員	報告会，振り返り，目標到達度確認				
【課題】 ・臨床実習記録表 ・検査・測定結果の記録 ・自己学習シート （個々の対象者のリスクや能力に見合った検査・測定方法の整理） （対象者が現状の能力で以前の生活環境に復帰した場合の生活およびADLの問題点等を類推）							

備考1： 実習施設での具体的な実習の進行は，実習施設によってその時々状況が異なる（例えば，その時期学生が体験することのできる適当な症例が居ないなど）ため，実習施設の現状に即した進行を基本とする。

備考2： 実習開始時，実習期間中週1回及び終了時に，教員から実習指導者に対して連絡を取り，学生に関する情報の交換，実習の進捗状況等の確認などを行う。また，実習期間中に必要に応じて実習施設を訪問するなど意思の疎通を図る。

科 目 臨床実習3（総合評価実習）

【担当教員名】		対象学年	3	必修選択	必修	開講時期	後 期
小柳磨毅（教授）， 田中則子（教授）， 越野八重美（教授）， 木村佳記(教授)， 羽崎 完（准教授）， 成 俊弼（講師）， 森下 聖（特任講師）， 松本光平(特任講師)		単 位 数	6	時 間 数	270	実習期間	6週間(30日間)
		実習施設	病院あるいは診療所				
【目的】							
情報収集，検査・測定を実践し，統合と解釈を行い，問題点抽出・ゴール設定までの理学療法プロセスを体験すること。また，その経験を通して検査・測定の技能を向上させるとともに，問題解決のための思考力を涵養することを目的とする。							
【概要】							
主な内容： 模擬患者を対象とした検査・測定についてのロールプレイによる学内演習および客観的臨床能力試験（OSCE）において自身の課題を明確にする。その上で，臨床現場において臨床実習指導者の指導・教育のもと，対象者の状態に即した検査・測定を実践するとともに，検査測定結果間のつながり（統合と解釈）を臨床推論し，個別性おある問題点を抽出，ゴールを設定するまでの理学療法評価プロセスを体験・理解する。臨床実習終了後，学内でOSCEを実施し，成長を確認するとともに新たな課題を明確にする。							
実習形態： 臨床実習指導者の指導・教育のもとで行われる診療参加型実習（学生数：40名）							
【主な到達目標】							
・対象者の疾患・障害を理解し，説明できる。 ・実習指導者の対象者に対する検査・治療場面の見学を通して観察力を養うことができる。 ・リスクを考慮し，対象者の状態に即した安全な検査測定を実施できる。 ・協同参加によって検査測定結果間のおおまかなつながりを臨床上に推論できる。 ・対象者の個人因子や環境因子に基づいた個別性おある問題点やゴールを考察できる。 ・実施した理学療法評価を適切に記録し，報告できる。 ・理学療法士としての基本的な態度や行動，責任や自覚を培うことができる。 ・地震の問題点を把握し，修正・改善できる。							
【計画】							
		担 当					
学内： （3日間）	1日目	担当全教員	オリエンテーション，ロールプレイ，自己目標設定				
	2日目		preOSCE				
	3日目		preOSCE振り返り，実習前自己課題の明確化				
実習施設 1週目：	4日目	実習指導者	ガイダンス，理学療法見学，情報収集，医療面接，検査測定				
	5～7日目		理学療法見学，情報収集，医療面接，検査測定				
	8日目		理学療法見学，情報収集，医療面接，検査測定，中間評価フィードバック				
2週目：	9～12日目	実習指導者	理学療法見学，情報収集，医療面接，検査測定				
	13日目		理学療法見学，情報収集，医療面接，検査測定，中間評価フィードバック				
3週目：	14～17日目	実習指導者	理学療法見学，検査測定，統合と解釈				
	18日目		理学療法見学，検査測定，統合と解釈，中間評価フィードバック				
4週目：	19～22日目	実習指導者	理学療法見学，検査測定，統合と解釈，問題点抽出，ゴール設定				
	23日目		理学療法見学，検査測定，統合と解釈，問題点抽出，ゴール設定，中間評価フィードバック				
5週目：	24～27日目	実習指導者	理学療法見学，検査測定結果および統合と解釈，問題点抽出，ゴール設定の妥当性検討				
	28日目		理学療法見学，検査測定結果および統合と解釈，問題点抽出，ゴール設定の妥当性検討 総合評価フィードバック				
学内： （2日間）	29日目	担当全教員	報告会，振り返り				
	30日目		postOSCE，目標到達度確認				
【課題】							
・臨床実習記録表 ・検査・測定結果の記録 ・自己学習シート ・担当症例報告のためのレジュメト（問題点抽出およびゴール設定まで） ・統合と解釈をまとめた関連図							

- 備考1： 実習施設での具体的な実習の進行は、実習施設や学生によってその時々状況が異なる（例えば、その時期学生が体験することのできる適当な症例が居ないや学生が設定課題を実施する能力に到達していないなど）ため、実習施設の現状や学生の実習進捗の状況に即した進行を基本とする。
- 備考2： 実習開始及び終了時に、教員から実習指導者に対して連絡を取り、学生に関する情報の交換、実習の進捗状況等の確認などを行う。また、実習期間中に実習施設を訪問する（必要に応じて複数回）など意思の疎通を図る。

科 目 臨床実習 4（地域実習）

【担当教員名】 小柳磨毅（教授），田中則子（教授），越野八重美（教授），木村佳記(教授)，羽崎 完（准教授），成 俊弼（講師），森下 聖（特任講師），松本光平(特任講師)	対象学年	4	必修選択	必修	開講時期	後 期
	単 位 数	1	時 間 数	45	実習期間	1 週間(5 日間)
	実習施設	通所リハビリテーション施設 あるいは 訪問リハビリテーション施設				
【目的】 見学を通してそれぞれのリハビリテーションの特徴ならびに理学療法士の役割・業務，他職種との連携，地域包括システム，リハビリテーションマネジメントについて理解することを目的とする。						
【概要】 主な内容： 通所あるいは訪問リハビリテーションを見学・体験することで，その社会的機能，地域社会における役割等ならびに理学療法士の役割・業務，チーム医療，地域包括システムについて理解する。特に症例を通じてリハビリテーションマネジメントを体験する。 実習形態： 臨床実習指導者の指導・教育のもとで行われる見学を中心とした診療参加型実習（学生数：40名）						
【主な到達目標】 ・ 通所あるいは訪問リハビリテーションの特徴や理学療法士の役割，他職種との連携を対比させながら説明できる。 ・ 地域包括システムにおける理学療法士の役割や他職種連携を説明できる。 ・ 生活機能に視点を置いた基本的な検査・測定を実施できる。 ・ 症例に関して，社会資源の活用方法とリハビリテーションマネジメントを報告できる。 ・ 通所あるいは訪問リハビリテーションにおける在宅生活の継続とQOL向上に向けた支援について説明できる。						
【計画】						
	担 当					
学内：	担当全教員	オリエンテーション，地域リハビリテーションの知識整理，自己目標設定				
実習施設（5日間）:	実習指導者	通所あるいは訪問リハビリテーション見学，検査・測定体験等				
学内：	担当全教員	振り返り，目標到達度確認				
【課題】 ・ 臨床実習記録表 ・ ワークシート （地域包括システムや地域リハビリテーションと理学療法の整理） （担当症例のリハビリテーションマネジメントの整理）						

科 目 臨床実習5（総合評価治療実習）

【担当教員名】		対象学年	4	必修選択	必修	開講時期	後 期
小柳磨毅（教授），田中則子（教授），越野八重美（教授），木村佳記(教授)，羽崎 完（准教授），成 俊弼（講師），森下 聖（特任講師），松本光平(特任講師)		単 位 数	10	時 間 数	450	実習期間	10週間(50日間)
		実習施設	病院あるいは診療所				
【目的】 症例を通して情報収集，検査・測定から，統合と解釈，問題点抽出，ゴール設定までの理学療法プロセスを体験し，個々の対象者に見合った治療プログラムを立案し，実践すること。また，その体験を通して検査・測定や治療の技能を向上させるとともに，問題解決のための思考力・実践力を涵養することを目的とする。							
【概要】 主な内容： 臨床現場を想定し，模擬患者を対象とした検査・測定・治療についてのロールプレイによる学内演習および客観的臨床能力試験（OSCE），理学療法に関する知識試験によって自身の課題を明確にする。その上で，臨床現場において臨床実習指導者の指導・教育のもと，担当対象者に対して理学療法評価および治療を実践するとともに理学療法プロセスを体験・理解する。さらに，治療を模倣レベルで実施する。臨床実習終了後，学内でOSCおよび理学療法に関する知識試験を実施し，成長を確認する。また，理学療法見学を通してリハビリテーションチームの一員として連携の方法を学び，前職業人としての基本的資質や職業倫理を身につける。 実習形態： 臨床実習指導者の指導・教育のもとで行われる診療参加型実習（学生数：40名）							
【主な到達目標】 ・対象者に対し検査測定を実施し，臨床実習3での自己の課題を克服できる。 ・対象者に対し検査測定を実施し，問題点抽出，ゴール設定，治療プログラム立案できる。 ・実習指導者の指導・監督のもと，最低限必要な治療を模倣レベルで実施できる。 ・リスクを考慮し，対象者の状態に即した安全な検査測定および理学療法を実施できる。 ・実習指導者の理学療法を補助できる。 ・対象者やほかの医療スタッフに対する基本的な態度を身につけ，適切な対人関係を構築できる。 ・リハビリテーションチームの一員として，他職種と協働・連携できる。 ・自己の態度や技術について客観的に把握・検討し，修正できる。 ・理学療法士としての責任や自覚を培うことができる。							
【計画】							
		担 当					
学内： （3日間）	1日目	担当全教員	オリエンテーション，ロールプレイ，自己目標設定				
	2日目		preOSCE，知識試験				
	3日目		preOSCE・知識試験の振り返り，実習前自己課題の明確化				
実習施設 1週目：	4日目	実習指導者	ガイダンス，理学療法見学，情報収集，医療面接，検査測定				
	5～7日目		理学療法見学，情報収集，医療面接，検査測定				
	8日目		理学療法見学，情報収集，医療面接，検査測定，中間評価フィードバック				
2週目：	9～12日目	実習指導者	理学療法見学，情報収集，医療面接，検査測定				
	13日目		理学療法見学，情報収集，医療面接，検査測定，中間評価フィードバック				
3週目：	14～17日目	実習指導者	理学療法見学，初期検査測定，統合と解釈				
	18日目		理学療法見学，初期検査測定，統合と解釈，中間評価フィードバック				
4週目：	19～22日目	実習指導者	理学療法見学，初期検査測定，統合と解釈，問題点抽出，ゴール設定				
	23日目		理学療法見学，検査測定，統合と解釈，問題点抽出，ゴール設定，中間評価フィードバック				
5週目：	24～27日目	実習指導者	理学療法見学，検査測定結果および統合と解釈，問題点抽出，ゴール設定の妥当性検討，治療プログラム立案				
	28日目		理学療法見学，検査測定結果および統合と解釈，問題点抽出，ゴール設定の妥当性検討，治療プログラム立案，中間評価フィードバック				
6週目：	29～32日目	実習指導者	理学療法見学，理学療法治療				
	33日目		理学療法見学，理学療法治療，中間評価フィードバック				

7 週目：	34～37日目	実習指導者	理学療法見学，理学療法治療
	38日目		理学療法見学，理学療法治療，中間評価フィードバック
8 週目：	39～42日目	実習指導者	理学療法見学，最終検査測定，統合と解釈，問題点抽出，ゴール設定
	43日目		理学療法見学，最終検査測定，統合と解釈，問題点抽出，ゴール設定， 中間評価フィードバック
9 週目：	44～47日目	実習指導者	理学療法見学，検査測定，統合と解釈，問題点抽出，ゴール設定， 治療プログラム妥当性の検討，新規治療プログラム立案
	48日目		理学療法見学，検査測定，統合と解釈，問題点抽出，ゴール設定， 治療プログラム妥当性の検討，新規治療プログラム立案，総合評価フィードバック
学内： (2日間)	49日目	担当全教員	報告会，振り返り，目標到達度確認
	50日目		postOSCE，知識試験，実習後自己課題の明確化
【課題】			
・ 学習進度管理・実習計画表			
・ 臨床実習記録表			
・ 検査・測定結果の記録			
・ 担当症例報告のためのレジュメ（治療プログラム立案，実施，最終評価まで）			
・ 統合と解釈をまとめた関連図			

備考1： 実習施設での具体的な実習の進行は，実習施設や学生によってその時々状況が異なる（例えば，その時期学生が体験することのできる適当な症例が居ないや学生が設定課題を実施する能力に到達していないなど）ため，実習施設の現状や学生の実習進捗の状況に即した進行を基本とする。

備考2： 実習開始及び終了時に，教員から実習指導者に対して連絡を取り，学生に関する情報の交換，実習の進捗状況等の確認などを行う。また，実習期間中に実習施設を訪問する（必要に応じて複数回）など意思の疎通を図る。

臨床実習計画表

開講 年次	科目名称等	単 位 数	実 習 期 間											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2 年 次	臨床実習1 (見学・コミュニケーション実習)	1						1 週 間						
	学内での取り組み						課外 学習	課外 学習						
3 年 次	臨床実習2 (検査測定体験実習)	3											3週間 (2年次)	
	学内での取り組み											課外 学習		課外 学習
	臨床実習3 (総合評価実習)	6					O S C E	5週間	O S C E					
	学内での取り組み					課外学習			課外学習					
4 年 次	臨床実習4 (地域実習)	1											13 週 年 間 次	
	学内での取り組み											課外 学習		課外 学習
	臨床実習5 (総合評価治療実習)	10	O S C E		9週間	O S C E								
	学内での取り組み			課外学習				課外学習						

: 学外臨床実習期間
 : 学内臨床実習期間
 : 課外学習

知り得たことすべてが当てはまる。また、個人情報はその本人にコントロールする権利があり、この権利を侵すことはどのような事情があっても決して許されない。したがって、学生であってもこの権利を守ることは将来医療職に就くという以前の問題であり、社会を構成する一員としての責任であることを自覚する。

※個人情報の保護は、個人情報を取り扱う事業者の遵守すべき義務であり（個人情報保護法 1 条）、医療従事者を直接的に規制しているものではないが、事業者は個人情報を取り扱う従業者を監督する義務があり（個人情報保護法 21 条）、この従業者には実習学生も含まれる。

4. SNS (Social Networking Service) の利用について

SNS は、不特定多数と交流できる便利なツールである。その一方、身近な人に向けて気軽に発信したつもりでも、システムエラーやフォロワーのミスあるいは悪意によって、意図的・無意図的に内容が漏洩する可能性がある非常に危険なツールである。つまり、友人のみに発信したつもりでも、実際は不特定多数に向けて発信しているのと同じで、しかもいったん発信された内容は、瞬時に全世界にグローバルに拡散し半永久的に消えない（本人が発言等を削除したとしても、アーカイブシステムは情報を保持し続ける）。特に内容（個人情報や誹謗・中傷など）によっては、名誉毀損・精神的損害・風評被害・イメージ失墜など大きな問題につながる可能性があり、何らかの賠償を求められることもある。したがって学生は、SNS 利用にあたり自ら責任を負うのみでなく、第三者に損益をもたらす可能性を十二分に理解し、トラブルを未然に防ぐよう自覚した行動をとらなければならない。

※たとえ匿名であっても、関係者にはその個人や団体が識別できる形で、社会的評価をおとしめる誹謗・中傷は名誉毀損に当たる。従って、実習施設や実習指導者、他のスタッフ、他校の実習生、教員等に対する一方的な不平・不満や暴言・罵詈雑言等は名誉毀損に相当する可能性がある。そのためハラスメントなど本当に問題がある場合は、SNS に訴えるのではなく、まず大学に訴えるべきである。軽率な発言や行動が、自分の将来をつぶす可能性があることを十分認識すること。

臨床実習においては、友人との情報交換が必要になることもある。学生同士であれば問題のないことも、SNS への書き込み等は不特定多数に向かって発信したことになり、守秘義務違反・個人情報の漏洩・名誉毀損等の問題になる可能性がある。最悪の場合、実習施設の社会的評価をおとしめ、実習受け入れの停止となる。さらに、SNS への書き込みが現認された場合、学生個人においては実習単位が認められなくなったり、停学や退学等の処分を受けることがある。

実習中や実習後の情報交換や相談は、SNS の利用を厳に慎み電話等で直接コンタクトする。

守秘義務・個人情報保護 誓約書

年 月 日

様

大阪電気通信大学 医療健康科学部 理学療法学科
住 所：大阪府四條畷市清滝 1130-70

学生氏名： _____ 印

私はこのたび、貴施設 _____ で実習する

にあたり、実習上知り得た施設および患者（利用者）個人の情報に関する事項については、実習中、および実習後においても正当な事由なく第三者に漏らしません。

以上、誠実に遵守することを誓います。

大阪電気通信大学 医療健康科学部 理学療法学科

事故報告書

報告日： 年 月 日

実習施設名： _____

学生番号： _____ 氏名： _____ 印

1. 事故発生日時と事故発生場所

発生日時： 年 月 日（ 午前 ・ 午後 ） 時 分ごろ

場所：（施設内，施設外，その他： _____）

2. 事故の内容 （対人 ・ 対物 ・ 自損 ）

3. 事故発生状況と対応の経過

4. 事故分析と今後の課題

以上の内容を確認しました。

臨床実習指導者： _____ 印

大阪電気通信大学 医療健康科学部 理学療法学科

診療参加型臨床実習に関する説明と同意書

ご説明

理学療法士の養成教育において、臨床実習は重要な柱であります。実習生は、この実習により理学療法士としての技能及び態度を学びます。

実習生は、臨床実習指導者の指導・監督のもと患者の安全に配慮し、臨床実習指導者とともに理学療法を実施します。

実習生が関わることで患者に不利益が生じないように配慮します。

実習中に実習生が知り得た情報は、決して第三者に漏らすことはありません。

この同意書へご署名を頂かなかった場合でも、それによる不利益はありません。

患者は、いかなる時でも、この同意書を撤回することができます。

ご意見やご不明な点がある場合は、いつでも担当者へお尋ねください。

上記の説明をご理解いただき同意頂ける場合は、下記同意書への署名をお願い致します。

ご理解とご協力頂きますよう御願い申し上げます。

私は、臨床実習の説明を受け了承しましたので、本同意書に署名します。

年 月 日

患者氏名： _____

代理人氏名： _____ (続柄 _____)

説明者氏名： _____

B型肝炎・4種ウイルス疾患（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）抗体価と必要予防接種回数

学生番号

氏名

抗体価検査			麻疹	風疹	水痘	流行性耳下腺炎 (おたふく・ムンプス)
	検査日		年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	検査法		EIA法 (IgG)	EIA法 (IgG)	EIA法 (IgG)	EIA法 (IgG)
	検査値					
	検査値 接種 回数	不要	16.0以上	8.0以上	4.0以上	4.0以上
		1回	2.0以上16.0未満	2.0以上8.0未満	2.0以上4.0未満	2.0以上4.0未満
		2回	2.0未満	2.0未満	2.0未満	2.0未満
必要接種回数						

B型肝炎	
年 月 日	
CLIA法	
抗原値	抗体値
0.05未満	2.50未満
ワクチン接種	
不要	3回

母子手帳	1 回目 ワクチン	接種日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
		種類	麻疹単独	風疹単独	水痘単独	ムンプス単独
			MR	MR		MMR
	2 回目 ワクチン	接種日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
		種類	麻疹単独	風疹単独	水痘単独	ムンプス単独
			MR	MR		MMR
接種回数						

1回目B型肝炎ワクチン	
年 月 日	
ワクチンNo.	印
2回目B型肝炎ワクチン	
年 月 日	
ワクチンNo.	印
3回目B型肝炎ワクチン	
年 月 日	
ワクチンNo.	印

学内必要接種 回数	不要 2回 1回	不要 2回 1回	不要 2回 1回	不要 2回 1回
接種日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
ワクチンNo.				
接種者				
接種日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
ワクチンNo.				
接種者				
備考				

1シリーズ接種後 抗体検査	
年 月 日	
CLIA法	
抗原値	抗体値
備考	

2027年度（第25期生）

臨床実習日誌

実習施設名_____

学籍番号_____

氏 名_____



大阪電気通信大学
健康情報学部・医療工学専攻

臨床実習要項

1. 実習期間

2028 年 1 月 24 日～2028 年 3 月 1 日（土・日・祝日を除く）実日数 26 日間予定

2. 実習内容

臨床工学技士の行う業務において、必ず習得しておかなければならない基礎的事項について、実習および見学を行う。

1. 血液浄化療法関連実習	1 単位（30 時間）
2. 呼吸療法関連実習及び循環器関連実習（集中治療室と手術室での実習、人工心肺装置の実習を含む）	2 単位（60 時間）
3. 治療機器関連実習及び医療機器管理業務実習	2 単位（60 時間）
4. その他の実習	1 単位（30 時間）
5. 大学における臨床実習前中後の技術・知識の到達度評価などに関する実習	1 単位（30 時間）
合計	7 単位（210 時間）

3. 実習評価

実習生の教育結果を確認する上で、実習指導担当者に下記のことについて、検印、内容確認をお願い致します。

- 1) 臨床実習出席表（検印）
- 2) 臨床実習日報（検印）およびレポート（内容確認）

4. その他

- 1) 院内服務規程については遵守致します。
- 2) 交通費、昼食等については、実習生負担と致します。
- 3) 災害時の実習については、実習施設における指導担当者の指示に従います。

【参考】①学生が利用する交通機関が運行を停止しているとき

②特別警報または暴風警報が該当する地域に発令されたとき

上記のいずれかに該当するときの実習の取り扱いは次のとおりとする。

- ア) 午前 7 時以前に警報が解除された場合は平常どおりに実習を実施する。
- イ) 午前 7 時を過ぎ午前 10 時以前に解除された場合は、午前中の実習を中止し、午後から実習を実施する。
- ウ) 午前 10 時を過ぎてもなお継続している場合は実習を中止とする。

5. 連絡先

大阪電気通信大学 〒575-0063 四條畷市清滝 1130-70 TEL：072-876-3317（代）

・ご連絡の際は、「臨床実習の件」とお伝えください。

・土、日、祝日および 18：30 以降は守衛が対応する場合がございます。

臨床実習担当者

<教員> 新川 拓也（TEL：072-876-5249（直））taku@osakac.ac.jp

日坂 真樹（TEL：072-876-5501（直））hisaka@osakac.ac.jp

藤川 智彦（TEL：072-876-5608（直））fujikawa@osakac.ac.jp

松村 雅史（TEL：072-876-5361（直））matumura@osakac.ac.jp

橘 克典（TEL：072-876-5038（直））tatibana@osakac.ac.jp

水野 裕志（TEL：072-812-5234（直））y-mizuno@osakac.ac.jp

小出 卓哉（TEL：072-812-5896（直））k-takuya@osakac.ac.jp

吉田 めぐみ（TEL：072-812-5292（直））y-megumi@oecu.jp

<職員> 四條畷学務課 病院実習支援：前田（TEL：072-876-3318 FAX：072-876-3321）

四條畷学務課 病院実習支援：道上（TEL：072-876-3318 FAX：072-876-3321）

四條畷学務科：黒川（TEL：072-876-3318 FAX：072-876-3321）

実習生心得

実習生においては、下記の心得を厳守すること。

1. 実習時間は、実習先の指示に従うこと。業務の延長がある場合にも同様に許可無く帰宅しないこと。朝は少し余裕を持って出勤すること。
2. 朝の「おはようございます」帰りの「お先に失礼します」は大きな声ではっきりと伝えること。
3. やむをえない事情により欠席する場合には、必ず実習先の指導担当者（不在の場合は事務の方でも良いが名前を伺っておくこと）および大学（実習担当者）に電話連絡すること。しかし、欠席数によっては資格取得、実習単位に影響するので体調および成達態度を万全にして臨むこと。
4. 実習期間中はいずれの部署においもて、全ての職員は先輩であり、指導者であると心に銘記し、次の事項に留意すること。
 - ① 言葉遣いは、誰にでも丁寧にし、馴れ馴れしい言葉はいかなる場合でも慎む。
 - ② 分からない事は素直に聞くこと。決して無断では行動しないこと。分からないことは「分からない・出来ない」とはっきり言うことが望ましいが、何でも分からない、出来ないと簡単に処理しては困る。前向きに、仕事に取り組むこと。「やってみます・やらせてください」など向上心が大切。
 - ③ 疑問に感じたことは、その日のうちに実習指導者に聞く。ただし、施設利用者に関することは本人の前では質問せず、後で実習指導者に質問する。
 - ④ 服装は指定された清潔なものを着用する。身だしなみに気を配り、破れたもの、ボタンの無いもの、ネームの無いものは着用しない。
 - ⑤ 携帯電話を実習中は持ち歩かない。

- ⑥ 機器を破損した場合は、速やかに申し出ること。内容によっては弁償しなくてはならないことが生じる。弁償は学生負担の可能性もあるため注意すること。
 - ⑦ 施設利用者やその家族などの個人情報や施設の重要事項についてのプライバシー保護と守秘義務を厳守する。
 - ⑧ 施設内に落ちた血液などに決して手を触れない。もし触れたならば、職員に速やかに申し出て、指示を仰ぐ。注射針、点滴類に注意する。
 - ⑨ 休憩時間、休憩場所は指示を守る。実習中は禁煙。実習施設への行き帰りもマナーを見られている。
 - ⑩ 指輪、イヤリング、ピアスなど装飾品、茶髪などは厳禁。
5. 交通手段としてバイク、車、原付などの使用は禁止。公共交通機関を使用すること。交通費、昼食は実習生負担とする。
6. その他
- ① 実習終了後速やかに「臨床実習出席表」を提出すること。提出期限は全臨床実習終了後1週間以内。
 - ② 実習終了後速やかに「臨床実習報告書」を提出すること。提出期限は全臨床実習終了後1週間以内。
 - ③ 各臨床実習終了後、各施設にお礼状を封書にて郵送すること。

以上

臨床実習日報

月日	20 年 月 日 ()	氏 名	
時間	実 習 内 容		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
指導者コメント			指導者印

臨床実習における自己チェック表

[呼吸治療業務の実習項目]

内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
A 各種人工呼吸器の接続と使用方法			
1. ガス回路の概略、接続方法			
2. ガス回路の構成			
B 人工呼吸器の適応と開始時間			
1. 人工呼吸の開始基準			
2. 人工呼吸の積極的導入と消極的導入			
3. 人工呼吸の選択基準			
・従量式 ・従圧式 ・タイムサイクリング式			
4. 人工呼吸器の初期条件設定			
5. 各種呼吸様式(モード)の設定			
C 呼吸管理中の患者の体位に関する注意点			
D 換気状態の監視			
1. バイタルサイン、動脈血液ガス、循環・体液の監視			
2. 各種警報装置			
・低圧 ・高圧 ・酸素濃度 ・電源 等			
E 呼吸管理中の薬剤投与			
F 人工呼吸器の作動異常の原因と処置			
1. 人工呼吸器の作動異常及び作動停止			
2. ファイティングを生じた場合			
G 呼吸管理上の感染防止対策			
1. 器具の取扱い上の注意点			
2. 患者ラインの管理			
3. 環境の設備			

[呼吸治療業務の実習項目]

内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
H ウィーニングの進め方			
1. ウィーニングの開始時期			
2. ウィーニングの方法			
・ON-OFF法 ・IMV法			
3. ウィーニング時の患者監視事項			
4. ウィーニングを中断して人工呼吸に戻す場合			
I 用手の人工呼吸の手技			
1. アンビューバックの構造及び使用方法			
2. ジャックソソリリース装置の構造及び使用方法			
J その他 人工呼吸装置として使用される機器の機能及び適応について(具体的には人工呼吸器による治療業務内容に準ずる)			
1. 吸入治療装置			
2. 酸素テント			
3. 加湿器			
4. 酸素濃縮機			
5. 気体流量計			
6. 酸素濃度計			
7. 監視機器			

〔呼吸治療業務の実習〕

内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
K 呼吸管理用具の保守・点検			
1. 吸入ガスに関するもの 酸素ボンベと減圧弁、流量計、ガスの配合 (アウトレット)			
2. 酸素療法に関するもの			
3. 理学療法に関するもの			
4. 監視機器類			
〔備考〕			

〔人工心肺業務の実習項目〕

内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
A 人工心肺装置として使用する機器等の確認及び準備			
1. 人工肺の選択基準について			
2. 回路の選択基準について			
3. 適正還流量の決定			
4. カニューレサイズの決定			
B 人工心肺回路の組立及びプライミング			
1. 回路の洗浄			
2. 有血充填または無血充填の選択			
3. プライミング液の組成			
4. 各薬剤の投与目的について			
G 人工心肺装置の各種モニタリング機器の確認			
D 人工心肺回路の先端部(接続部分)の脱血カニューレ及び送血カニューレとの接続、除法の見学			
E 人工心肺装置の運転条件(血液流量送吹ガス等)及び監視条件、またそれらの条件設定及び変更			
F 心筋保護液の組成とその役割			
G 人工心肺装置運転中の各種モニタリング機器の監視			
1. 血液温、体温の変化に対する処置			
2. 心電図変化に対する処置			
3. 血圧変化に対する処置(左房圧、平均動脈圧、CVP等)			
4. 血液動態に対する処置(心拍数、心拍出量等)			

[人工心肺業務の実習項目]

内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
H 人工心肺装置の操作時における採取血液の検査			
1. 動脈血液ガス検査			
2. Ht値検査			
3. 血清電解質検査			
4. 酸塩基平衡検査(BE)			
5. 血液凝固検査時間(AGT)			
I 人工心肺装置の操作時及び監視時に関する記録			
J 体外循環離脱手順の見学及びバランス計算			
K 人工心肺運転中の事故と故障			
1. 人工心肺装置及び回路の事故			
2. 空気塞栓			
3. 血液トラブル			
L 人工心肺回路の消毒、洗浄等の後片付け及び点検			
[備考]			

[血液浄化業務の実習項目]

内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
A 人工透析装置本体とベッドサイドコンソール、及び人工透析に必要な物品について			
B 血液回路について			
1. ダイアライザーの選択			
2. 血液回路の組み立てとプライミング 〈回路の取り扱いを含む〉			
3. ヘパリン化法			
4. 血液回路の洗浄			
C 血液透析における薬剤(透析液を含む)について			
1. 薬剤の選択と投与量			
2. 透析液の濃度調整			
3. 透析液の選択			
D 透析装置の設定について			
1. 各種警報装置の上、下限値の設定			
2. 透析時間、除水量、除水速度それぞれの関係と 設定法			
3. ドライウエイトの設定法			
4. 限外濾過の設定			
5. ヘパリン流量、血液流量の設定			
E 穿刺について			
1. 穿刺方法			
2. ブラッドアクセスについて			
3. 穿刺の実際(見学)			

[血液浄化業務の実習項目]

内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
F 患者動態について			
1. 透析開始前、透析中、透析終了後のそれぞれにおける患者のバイタルサインの確認			
2. 透析中の患者動態の連続記録と異常が発生した場合の患者への対応			
G 透析液中の事故について			
1. 穿刺部出血の有無の確認と出血時の処理方法			
2. 穿刺部以外からの出血(ダイアライザからの漏血や鼻血等)の有無の確認と出血時の処理方法			
3. 出血以外の事故(停電や機器の誤操作等)に対する患者及び機器への対応			
H 透析終了時及び終了後について			
1. 抜刺及び止血法			
2. 人工透析装置の洗浄及び消毒			
3. 汚染血液回路の取り扱いと処分			
4. 透析に関連する排水とその処理(使用薬品を含む)			
I 患者看護について			
1. 透析室における看護助手の役割			
2. 患者との対話			
3. 緊急時の患者への役割			

[血液浄化業務の実習項目]

内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
J 給排水設備について			
1. 水処理装置			
2. 透析液供給装置			
3. 排水装置			
(水処理装置、透析液供給装置、監視装置等)			
K その他			
1. 血液浄化法の選択とその適応			
2. 配電設備及び非常用電源			
3. 透析液準備室、機材倉庫室について			
4. 慢性透析患者の日常的検査の種類と目標とするレベル			
[備考]			

[集中治療室業務の実習項目]

内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
A オリエンテーション			
1. 集中治療室の定義と理念			
2. 集中治療室の管理			
a. 患者の入退院			
b. 医療関係記録の見方			
c. 面会			
d. 室内管理(環境維持装置)			
e. 危機安全管理			
f. 各種警報システム			
g. 薬品管理・物品管理			
B 集中治療室実習の要点			
1. 集中治療室の設置場所の条件			
2. 集中治療室の規模や室内設備			
3. 構造面での配慮			
a. 管理運営の方法			
b. 感染防止・予防への配慮と工夫			
c. 患者への安全維持			
C 集中治療室で使用される機器の操作・保守管理			
1. 人工呼吸器			
2. 補助循環装置			
3. 体外式ペースメーカー			
4. 除細動器			
5. 患者監視装置			

[集中治療室業務の実習項目]

内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
6. 輸液・輸注ポンプ			
7. 観血式血圧計			
8. 超音波ネプライザ			
9. 心電計			
10. 心拍出量計			
11. 酸素濃度系			
12. パルスオキシメータ			
13. その他			
[備考]			

[手術室業務の実習項目]

内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
A 手術室の定義			
B 手術室の管理			
1. 患者入室時の注意			
2. 手術室記録			
3. 室内管理(環境維持装置)			
4. 危機安全管理			
5. 各種警報システム			
6. 薬品管理・物品管理			
C 手術室実習の要点			
1. 手術室の設置場所の条件			
2. 手術室設計計画の基本			
3. 手術室内のレイアウト			
4. 手術室の規模や室内設備			
5. 空気調和設備			
6. 構造面での配慮			
7. 管理運営方法			
8. 感染防止・予防への配慮と工夫			
9. 患者への安全保持			
D 手術室接地線方式			
1. EPRシステム			
2. 保護接地配線			
3. 等電位接地配線			
4. 接地幹線			
5. 接地端子			

[手術室業務の実習項目]

内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
E 手術室配線方式			
1. 絶縁変圧器			
2. 必要電気容量			
3. コンセント			
F 手術室照明設備			
1. 手術野照明			
2. 一般照明			
G 手術室配管			
1. 麻酔用ガス			
2. 窒素			
3. 吸引			
4. 給水・給湯			
5. 排水管			
H 滅菌・消毒設備			
1. 高圧蒸気滅菌器			
2. 洗浄滅菌器			
3. 酸化エチレンガス滅菌器			
4. ホルムアルヒドガス滅菌器			
5. 手洗い用水製造装置			
I 手術室で使用される機器の操作保守管理法			
1. 麻酔器			
1) ガス供給機構			
a. ガス供給源			
b. 流量計			
c. 揮発性麻酔剤の気化器			

[手術室業務の実習項目]

内 容	チェック欄		備考
	目次	実習	
2) 呼吸回路			
3) 余剰ガス排除機構			
2. 輸液装置 原理・臨床応用			
3. 電磁血流計			
4. 自動冷却・加温装置			
5. 電気メス			
切開と凝固			
電気メス使用による事故と障害			
6. レーザーメス			
原理と生体作用			
種類と応用			
利点			
7. 凍結手術			
凍結壊死の条件			
冷却剤			
装置			
適応			
8. マイクロサージェリー			
手術用顕微鏡			
手術用倒像鏡			
9. 術中超音波検査機器			
術中専用探触器			

[手術室業務の実習項目]

内 容	チェック欄		備考
	目次	実習	
10. 超音波メス			
構造			
使用法			
適応			
[備考]			

[その他の関連業務の実習項目]			
内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
A IABP装置			
1. IABPの適応症例			
2. IABPの始業点検及び準備			
3. IABP装置の組み立て			
4. IABPの操作条件(監視条件を含む)の確認と設定及び変更			
5. IABP装置に必要なモニタ類の監視			
6. IABP装置の操作及び監視に関する記録			
7. IABP操作中の事故と対策			
8. 終了時の消毒及び洗浄、終了点検			
B 除細動器			
1. 除細動器の適応症状			
2. 除細動器の始業点検及び準備			
3. 除細動器の操作条件の確認			
4. 操作時におけるモニタリング			
5. 操作時におけるモニタ装着の不可物			
6. 除細動器操作中の事故と対策			
7. 終了時の消毒及び洗浄、終了点検			
C 心臓カテーテルの検査と治療			
1. 検査について			
a. 血行力学的測定			
b. 血液サンプル採取			
c. 電気生理学的検査			
d. 心内膜下心筋生検			
e. 心、大血管及び選択的冠動脈造影			

[その他の関連業務の実習項目]			
内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
2. 治療について			
a. 動脈血行再建術			
b. 弁形成術			
c. 人工ペースメーキング			
d. 血栓除去術			
e. 異物除去術			
D ペースメーカー			
1. 体外式・体内式ペースメーカーの適応症例			
2. 体外式・体内式ペースメーカーの始業点検及び準備 (電池電圧、発振頻度、パルス幅、出力電圧、ディマンド感度等)			
3. 植え込み手術の準備及び見学			
4. 術後の監視及び動作状態の確認			
5. 体外式・体内式ペースメーカーの操作及び監視に関する記録			
6. 体外式・体内式ペースメーカー操作中の事故と対策			
7. 終了時の消毒及び洗浄、終了点検			
F 電気メス・レーザーメス			
1. 術前の機器・用具の準備及び動作確認			
2. 手術における電気メス・レーザーメスの操作状況の見学			
3. 電気メス・レーザーメスの使用によるモニタ装置への影響と対策			
4. 電気メス・レーザーメス使用中の事故と対策			
5. 術後の機器、用具の消毒、終了点検			

[その他の関連業務の実習項目]

内 容	チェック欄		備考
	見学	実習	
F 病院設備			
1. 中央材料室・中央検査室の見学			
2. 中央配置室・空調設備の見学			
3. 病院内の電気設備の見学			
4. 病院内の患者管理システムの見学			
[備考]			

臨床実習報告書

報告日	年 月 日
学生番号・氏名	
実習病院	
臨床実習の感想	
後輩へのアドバイス	

インターンシップ実習先一覧

実習施設名	所在地	受入れ可能人数
特定非営利活動法人ナック（NAC）	大阪府大阪市北区大淀南1丁目9-16	若干名
公益財団法人大阪 YMCA	大阪府大阪市西区土佐堀1-5-6	若干名
一般財団法人大阪府青少年活動財団	大阪府大阪市浪速区幸町2丁目7-3 リそなアルテ桜川ビル4F	若干名
株式会社立成社	大阪府豊中市北条町2-15-1	若干名
特定非営利活動法人FLOW	大阪府箕面市西小路3丁目1-15 2F	若干名
マックススポーツ株式会社 緑地公園	大阪府吹田市江坂町5丁目14-10	若干名
大阪電気通信大学高等学校	大阪府守口市橋波西之町1丁目5-18	25名
寝屋川市	大阪府寝屋川市本町1番1号	若干名
木幸スポーツ企画株式会社	大阪府枚方市朝日丘町2番19号	若干名
吉泉興産有限公司	大阪府枚方市津田山手2-1-1	若干名
公益財団法人枚方市スポーツ協会	大阪府枚方市渚西3丁目26-10 枚方市立渚市民体育館 内	若干名
社会福祉法人ハニコウム	大阪府四條畷市南野2-13-3	若干名
四條畷市立市民総合体育館 四條畷市スポーツコモンズ	大阪府四條畷市西中野一丁目3番6号	若干名
四條畷市教育委員会	大阪府四條畷市中野本町1番1号	20名
美津濃株式会社（和泉市立コミュニティ体育館）	大阪府和泉市光明台1丁目44-8	若干名
特定非営利活動法人京都府レクリエーション協会	京都府京都市南区東九条下殿田町70 京都府スポーツセンター内	若干名
公益財団法人青少年野外活動総合センター	京都府城陽市寺田南中芝80	若干名
奈良文化高等学校	奈良県大和高田市東中127番地	若干名
奈良県立大和広陵高等学校	奈良県北葛城郡広陵町的場401	若干名
公益財団法人神戸 YMCA	兵庫県神戸市中央区加納町2丁目7-11	若干名
株式会社 Hope 体育教室・アウトドアクラブ	兵庫県神戸市兵庫区西多聞通1丁目1-13	若干名
マスターズ甲子園大会事務局	兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11 神戸大学国際人間科学部 マスターズスポーツ振興支援室内	若干名
芦屋ベイコート倶楽部ホテル&スパリゾート	兵庫県芦屋市海洋町14-1	若干名
公益財団法人尼崎市スポーツ振興事業団	兵庫県尼崎市西長洲町1-4-1	若干名
鍼灸整骨すばると	兵庫県西宮市甲子園七番町2-5 丸勝甲子園ビル1F	若干名
社会福祉法人博愛福祉会	兵庫県加古川市平岡町新在家2333-2	若干名

○学校法人大阪電気通信大学定年規則

昭和49年4月1日

制定

第1条 この規則は、学校法人大阪電気通信大学就業規則(以下、「就業規則」という。)第41条の定めに基づき、本法人に勤務する専任職員の定年に関する事項を定める。

第2条 職員の定年は、次のとおりとする。

- (1) 学長 満74歳
- (2) 校長 満68歳
- (3) 教授 満68歳
- (4) その他の職員 満65歳

2 学長、校長については、任期の定めにかかわらず前項の適用を受けるものとする。

第3条 職員は、定年に達した日の属する年度末をもって、当然に雇用契約が終了し、退職するものとする。

第4条 退職一時金支給については、就業規則別表1「退職一時金支給率表」中、定年による支給率を適用する。

第5条 削除

第6条 勤続年数が満20年以上の職員が退職するときは、その受けるべき退職一時金に関し、定年による支給率を適用する。

第7条 法人は、退職期日の60日以前に文書をもって、定年該当者にその旨通知するものとする。

附 則

この規程は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年3月31日から施行する。

附 則

この規程は、昭和62年2月24日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年2月6日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成4年3月27日から施行する。

2 第5条については、平成4年4月1日以降採用者から適用する。

附 則

この規則は、平成7年5月27日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 削除

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年5月23日から施行する。

附 則

この規則は、2019年3月30日から施行する。

2022年度における活動評価シート

- ① 該当する項目（数値を記入できる項目を含む）のチェックボックス□に☑を入れてください。
- ② 該当する項目のうち、F列に単位が入力されているものは、必要に応じて枠内に数値を入力してください。
- ※ 所属・氏名および太枠内のみ編集してください。

所属： ○○学科
氏名： 電通 太郎

○教育

1. 授業担当（学部）

No.		数値	単位
☐	1 授業を担当した（週持時間数の年間合計を記入）		時間
☐	2 卒業研究・制作の指導をした		人

2. 授業担当（大学院）

☐	3 授業を担当した（週持時間数の年間合計を記入）		時間
☐	4 修士論文審査の主査を務めた		人
☐	5 修士論文審査の副査を務めた		人
☐	6 博士論文（課程）審査、（論文）審査の主査を務めた		人
☐	7 博士論文（課程）審査、（論文）審査の副査を務めた		人

※授業や学生指導において、工夫したことがあれば記述してください。

※執筆・開発した教科書や教材があれば記入してください。

3. 正課外活動

☐	8 学内学生団体の部長（顧問）をした		
☐	9 留学生の指導をした（チューター、カウンセラー）		
☐	10 就職に際して推薦状を書いた		
☐	11 資格取得支援のための講座を担当した		回

※正課外活動や学生関連のイベントを開催・担当した場合は記述してください。

※資格取得支援の講座名を記述してください。

○研究

1. 著作物（著書・論文等）

☐	12 単著を刊行した（学術書・注釈書・辞書・学術的翻訳書等）		冊
☐	13 共著を刊行した（学術書・注釈書・辞書・学術的翻訳書等）		冊
☐	14 査読付国際雑誌に論文を発表した		本
☐	15 査読付国内雑誌に論文を発表した（査読付紀要を含む）		本
☐	16 総説・解説・紀要論文等を発表した		本
☐	17 創作活動（建築、美術、音楽等）を行った		点
☐	18 特許を出願した		件
☐	19 特許を取得した		件

2. 学会報告

☐	20 国内学会で研究報告をした（ポスター発表や作品発表などを含む）		回
☐	21 国際学会で研究報告をした（ポスター発表や作品発表などを含む）		回

3. 研究資金等

☐	22 学内の競争的研究資金に応募した		件
☐	23 学内の競争的研究資金を獲得した（継続中も含める）		件
☐	24 学外の競争的研究資金に応募した		件
☐	25 学外の競争的研究資金を獲得した（継続中も含める）		件
☐	26 奨学寄附金を受領した		件
☐	27 受託研究・受託事業・学外共同研究を受け入れた		件

※著作物、学会報告、研究資金等について、具体的に記述してください。

○大学運営

1. 入試・広報

☐	28 入学試験において出題や採点あるいは実施の責任者を務めた		
☐	29 入学試験において出題や採点の委員を務めた		
☐	30 模擬授業、体験授業、学生募集のための高校訪問や見学会で講義等を担当した		回

2. 役職・委員

☐	31 学長、副学長、学部長、研究科長を務めた		回
☐	32 部長、研究所長、センター長等を務めた		回
☐	33 学科主任その他専攻・コース主任を務めた		
☐	34 全学的な委員会の委員長を務めた		回
☐	35 全学的な委員会の委員を務めた		回

※入試、広報などの大学運営について、特記事項等があれば記述してください。

○社会貢献活動

1. 公的機関

※公的機関で役職、役員、委員等を務めていれば記述してください。

例) 政府、地方公共団体の審議会「〇〇委員会」の委員を務めた、大学機関別認証評価の委員を務めた、公開講座「〇〇〇〇」の講師を務めた、国家試験「〇〇〇〇」の試験委員を務めた 等

2. 産学連携、社会貢献活動

※産学連携、学外団体の社会貢献活動について、特記事項等があれば記述してください。

例) 活動名や参加団体名等

○その他

※その他、教育、研究、大学運営、社会貢献活動以外で特記事項等があれば記述してください。

FD・SD 実施テーマ

2024年度テーマ一覧

日程等		テーマ	講師
第1回	2024年5月23日	D予算事業結果報告	2023年度D予算活用者
第2回	2024年6月13日	入学準備教育とプレイスメントテストの実施報告	教育開発推進センター斎藤幸一特任講師ほか2名
第3回	2024年8月8日	調整中	調整中
第4回	2024年9月26日	調整中	調整中
第5回	2024年10月31日	調整中	調整中
第6回	2024年12月5日	調整中	調整中
第7回	2025年2月25日	調整中	調整中

2023年度テーマ一覧

日程等		テーマ	講師
第1回	2023年5月11日	2022年度リメディアル教育実践報告	全学科リメディアル教育担当者
第2回	2023年6月8日	入学準備教育とプレイスメントテストの実施報告	教育開発推進センター斎藤幸一特任講師ほか2名
第3回	2023年7月6日	生成系AIの教育への活用可能性	副学長兼宗進教授ほか1名
第4回	2023年8月24日	メンタルヘルスセルフケア研修	(株)ホリスティックコミュニケーション代表取締役 豊田直子氏
第5回	2023年9月14日	DPに基づく学修成果の可視化について	学務部柴垣部長ほか2名
第6回	2023年10月12日	105分13回授業の実施に向けて	大阪学院大学西田教授ほか2名
第7回	2024年2月29日	合理的配慮の義務化に向けた本学の取り組み	総合学生支援センター

2022年度テーマ一覧

日程等		テーマ	講師
第1回	2022年5月12日	2020年度教育推進費事業実施・成果報告	環境科学科齋藤安貴子教授ほか3名
第2回	2022年6月9日	入学前教育と基礎学力の養成	教育開発推進センター斎藤幸一特任講師ほか4名
第3回	2022年7月7日	SD：安全第一の職場環境の実現を目指して	元北大阪労働基準監督署長伊飼貴明氏
第4回	2022年9月15日	大学初年次における自律的相互学習を通じたコミュニケーション能力の育成	早稲田大学原田康也教授
第5回	2022年12月8日	プロジェクトスキル形成群とキャリア教育	教育開発推進センター斎藤幸一特任講師ほか3名
第6回	2023年1月26日	新しい時代のオンライン授業において	ゲーム&メディア学科ナガタ准教授ほか1名
第7回	2023年3月2日	合理的配慮の義務化に向けた本学の課題	筑波大学佐々木銀河准教授ほか1名

共通科目プロジェクトスキル形成群 授業科目概要

科目区分	授業科目の名称	授業科目の概要
日本語活用	日本語上達法 1	大学での学びに必要な文章力の基礎を身につけることを主目的とする。そのために、長文の読解、小論文や自己PR文、レポートの書き方を扱っていく。
	日本語上達法 2	この授業は、受講生が大学で必要な（アカデミックな）レポートや卒業研究を、よりよく書けるようになることを目的とする。そのために必要な、アカデミックな日本語の「読む・書く」能力を向上する課題に取り組む。
	アカデミックライティング	学科の実習・演習科目ではレポート作成による課題提出が求められる。また、学位取得のために最終学年において卒業論文を作成することが義務付けられてもいる。専門分野における卒業論文やレポート課題等の作成のために文章や図表作成のための技術を身につけておくことは、レポート課題や卒業論文作成のみならず社会に出てからも他者とのコミュニケーションを図るには必要不可欠である。具体的には、学会発表では研究内容にもとづきプレゼンテーションすることが要求され、一般社会においても文書や口頭でのコミュニケーションを技能として身に着けることはどのような分野であっても望まれる。 本講義の目的は、受講者が「書く」技能にとどまらず、「話す」「聞く」技術も含めた総合的なコミュニケーション能力を高めることである。
地域プロジェクト活動	地域プロジェクト活動	学外で実施されている地域のさまざまな行事やイベントに参加したり、企画・立案を行う授業である。スポーツ・レクリエーション指導者の資格取得希望者は、これまでの学びをふりかえり、実際の支援・指導現場でコミュニケーションワークやホスピタリティ・トレーニングを行うとともに、支援対象者のアセスメントを行ってプログラムを企画・立案して指導実践する。スポーツ・ボランティア希望者は、スポーツボランティアとしてさまざまなスポーツイベントを支える経験を積むとともに、イベントの企画・立案・運営のサポートの基本的な考え方やそれらに主体的に取り組むことのできる力を身につける。スクール・ボランティア希望者は、教育機関でのボランティア活動に参加し、その活動による教育的効果や地域社会と学校の繋がりについて考える。
スキルアップ	グローバル研修	近年のグローバルな人材の育成のニーズに対応し、国際交流センターが認める留学プログラムに参加することで世界の多様性を認識する。交換留学やプログラムにおける各種活動を通して、視野を広げ、教養・見識を高めることを目的とする。
	グローバル研修（英語）	英語圏を主として一定期間滞在し、単に英語の技能を磨くのみならず、その国に暮らす人びとに接し、歴史や文化、社会への理解を深め、多様な視点を内面化していくことによって、グローバルな視座を獲得する。
社会を知る	キャリアデザイン	キャリアは大学卒業時の就職に特化したものだけでなく、人生の各段階で求められる能力・態度・意識なども含み、徐々に積み重ね築いていくものである。これは4年間の大学教育だけで築き上げられるものではないが、自己理解を深め、将来についての構想や展望（ビジョン）を持つことは重要である。大学入学時に自らの将来について明確なビジョンを持ち積極的に活動する学生もいれば、大学での勉強が進むにつれて「これでよいのかなあ」と悩み立ち止まり、次の一歩を踏み出せないこともある。キャリア教育では、明確なビジョンを持ち自ら進もうとしている学生に対してはさらに視野が広がるように支援する。一方、進路などのビジョンで悩んでいる学生にはいろいろな角度から自らの力で生き生きと人生を歩んでいくことができるように支援する。キャリアデザインでは、仕事を含めた人生という観点から「生き方」、「進路・職業選択」ならびに各学生のビジョンを描くことを目指す。
	キャリア形成論	社会で活躍するために、自分の適性について知り、就職活動に向けての基本的マナーを身につけることを目的とする。本科目は、計画的な就職活動の設定方法、自己理解・進路適性の理解を深める方法や職業についての理解が深まるように工夫している講義である。具体的には、医療系学部学科として就職進路に向けた医療業界の業界研究について学び、会社採用説明会等に参加することで業界に即したエントリーシート・履歴書の書き方や筆記試験の現状について把握する。業界研究の講義を通して希望する業界、職種のインターンシップの参加を促進し、就職試験本番に備えたオンライン形式を含む模擬面接を実施して自己PR等を確認する。また、内定者が就職活動時の施策や重要ポイントをコミュニケーションすることで就職活動する学生だけでなく、社会人となる学生のプレゼンテーション能力等も養う。
	インターンシップ	インターンシップとは、「社会に出る前に仕事の場を体験してみること」である。本科目では、企業や公共団体等で就業体験する学外実習を通じて、現在の社会や産業構造、職業に対する理解を深めるほか、社会人として必要とされる勤労観を身につけ、人間的な成長を図ることを目指す。さらに、これまでの学びと実社会との関わりを感じ、将来のキャリア形成につながる気付きを得ることを目的とする。

就職支援体制

就職対策委員

学科担当制

就職部 学科担当

工学部	電気電子工学科
	電子機械工学科
	機械工学科
	基礎理工学科
	環境科学科
	建築学科
情報通信工学部	情報工学科
	通信工学科

〇〇	〇〇
〇〇	〇〇
〇〇	〇〇
〇〇	〇〇
〇〇	〇〇
〇〇	〇〇
〇〇	〇〇
〇〇	〇〇

・個々の学生の
就活状況
把握・共有

・学科ごとの
就活イベント
の企画・実施

・求人情報の
学科内展開

・来校企業への
対応、求人
企業の開拓

□□	□□
□□	□□
□□	□□
□□	□□
□□	□□
□□	□□
□□	□□
□□	□□

健康情報学部	健康情報学科
総合情報学部	デジタルゲーム学科
	ゲーム&メディア学科
	情報学科

〇〇	〇〇
〇〇	〇〇
〇〇	〇〇
〇〇	〇〇
〇〇	〇〇
〇〇	〇〇

□□	□□
□□	□□
□□	□□
□□	□□
□□	□□
□□	□□

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 新設組織の概要	・ ・ ・ p. 2
(2) 人材需要の社会的な動向等	・ ・ ・ p. 3
(3) 学生確保の見通し	・ ・ ・ p. 8
(4) 新設組織の定員設定の理由	・ ・ ・ p. 20

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要

新設組織	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	所在地
健康情報学部 健康情報学科 (医療工学専攻) (理学療法学専攻) (スポーツ科学専攻)	165 (40) ()は内数	2	664 (160) ()は内数	大阪府四條畷市 清滝1130-70

②新設組織の特色

健康情報学部健康情報学科では、情報技術を積極的に展開して健康技術に応用し、激変する社会に柔軟な思考で対応できる人材輩出を行うことを目的とする。具体的には、人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基盤とした医療科学、工学、スポーツ科学の融合による実学教育を通じて新しい健康技術の創造と実行に必要な、広範な知識と実践的能力を身につけさせるために、3つの専攻を設け、基礎数理科学、健康科学、情報学の知識、データの収集・処理・分析手法を教示する科目を横断的に履修できるしくみを設置する。各専攻の人材育成目標を達成するために必要な教育課程に加えて、各専攻に関連する先進的課題をテーマとする「特修」コースを設ける。専攻別の具体的な特色を次に示す。

[医療工学専攻]

医工連携による新たな医療工学、情報の価値を創出する教育研究を推進して、活躍できる人材を育成することが特色である。本専攻の特修では、AI医療を焦点としたカリキュラムをおく。特に、医療機関では、AIを活用することにより医療現場の効率化と医療スタッフの抜本的な負担軽減の実現を目指している。「デジタルヘルスケア時代」に強い人材として医療現場で活躍できる臨床工学技士の養成カリキュラムを軸に、モノづくり・AI・VR・データサイエンス・ロボット技術に強い人材を育成する。

[理学療法学専攻]

ICTを活用した科学的根拠に基づく効果的な理学療法を提供できる力を持ち、スポーツ損傷の予防やリハビリテーションの知識、トレーニング器具を開発できる能力を育成することが特色である。本専攻の特修では、スポーツリハビリテーションを焦点としたカリキュラムをおく。具体的には、動作解析装置などを用いてスポーツ時のパフォーマンスを解析し、スキルアップや、日常生活の動きに活かす方法を学ぶことによってスポーツにおける健康支援を実践できるICTに強い

理学療法士を育成する。

[スポーツ科学専攻]

ICTを効果的に活用できる健康づくりやスポーツ活動の指導者および支援者を育成することが特色である。本専攻の特修では、スポーツ情報を焦点としたカリキュラムをおく。具体的には運動・スポーツにおける人文科学、社会科学、自然科学的データを収集、分析し、適切に解釈する方法を学ぶことによって、健康づくりやスポーツ活動に ICT を活かし、人々の心と身体を支える人材を育成する。

新設組織である「健康情報学部健康情報学科」は、既設組織である「医療健康科学部」の 3 学科「医療科学科」、「理学療法学科」、「健康スポーツ科学科」を廃止して設置する。新設組織開設後は、既設組織である「医療健康科学部」の学生募集は停止する。

既設組織である医療健康科学部全体の入学定員よりも、新設する健康情報学部の入学定員の方が 25 名少なく設定していることが特色である。

既設組織		入学 定員	3 年次 編入学定員	収容定員	所在地
医療健康科学部	医療科学科	80	1	322	大阪府四條畷市 清滝 1130-70
	理学療法学科	40		160	
	健康スポーツ科学科	70	1	282	
	計	190	2	764	

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

令和元年6月統合イノベーション戦略推進会議で決定された「AI 戦略 2019 ～人・産業・地域・政府全てにAI～」（抜粋）【資料 1】の戦略目標 1 において、以下の人材の必要性について、記述されている。

「AI時代に対応した人材」とは、単一ではなく、

- ・最先端のAI研究を行う人材
- ・AIを産業に応用する人材
- ・中小の事業所で応用を実現する人材
- ・AIを利用して新たなビジネスやクリエーションを行う人材

などのカテゴリーに分かれるが、いずれにしても、各々のカテゴリーでの層の厚い人材が必要と

なる。

また、優先領域とすべき5つの領域の1つに『健康・医療・介護』が位置付けられている。これは、我が国が置かれた、世界初の本格的少子高齢化とそれによる社会保障費の急激な増加、労働力人口の減少や医療従事者・介護従事者の不足があげられているからであり、特に、健康・医療・介護分野では、国民の健康増進、医療・介護水準の向上、関連従事者の就労環境の改善等の実現とともに、関係する国民負担の削減が同時に達成されることが中長期の目標と記載されている。この中で、＜大目標＞として『健康・医療・介護分野では、どこでも安心して最先端・最適な医療やより質の高い介護を受けられるよう、そのための環境を整備し、医療・介護従事者の負担を軽減』として掲げられ、＜具体目標と取組＞において、＜具体目標1＞、＜具体目標2＞、＜具体目標3＞、＜具体目標5＞として以下の取組みがあげられており、国をあげて養成すべき人材と位置付けられている。

＜大目標＞

産学官の英知を結集し、持続可能な社会実装の仕組みの構築を念頭に、以下の目標を設定：

- ・アーキテクチャ設計に基づくデータ基盤を踏まえた、AI社会実装を、まずは①健康・医療・介護、②農業、③国土強靱化、④交通インフラ・物流、⑤地方創生（スマートシティ）の重点5分野で、世界に先駆けて実現。また、ものづくり、金融等その他の分野についても実現に向けて取り組む。
- ・（略）
- ・健康・医療・介護分野では、どこでも安心して最先端・最適な医療やより質の高い介護を受けられるよう、そのための環境を整備し、医療・介護従事者の負担を軽減以降省略

＜具体目標1＞

健康・医療・介護分野でAIを活用するためのデータ基盤の整備

＜具体目標2＞

日本が強い医療分野におけるAI技術開発の推進と、医療へのAI活用による医療従事者の負担軽減

＜具体目標3＞

予防、介護分野へのAI/IoT技術の導入推進、介護へのAI/IoT活用による介護従事者の負担軽減

<具体目標 5>

医療関係職種の養成施設・養成所におけるAIを活用した教育の実施、医療従事者に対するリカレント教育の実施

【資料1】 令和元年6月11日統合イノベーション戦略推進会議決定

AI戦略 2019 ～人・産業・地域・政府全てにAI～ （抜粋）

その理由としては、健康・医療・介護分野においては、AI 技術の社会実装の実現性が高いものが多くあり、新たな AI 技術開発と利活用が期待できる分野と指摘されているからである。今後、この分野の人材需要は国の主導により加速的に進み、人材不足となることが予想される。上記の人材の必要性及び養成すべき人材は、新設組織である健康情報学部において養成する情報技術を基盤とした医療科学、工学、スポーツ科学の融合による実学教育を通じて新しい健康技術の創造と実行に必要な広範な知識と実践的能力を備えた人材であり、社会の需要に応えるものである。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

令和5年度学校基本調査によると、開設である2025年度の18歳人口は全国で100万人、関西で16.4万人である（調査時の高校1年生の生徒数）。その後、2026年度の18歳人口は全国で108.4万人、関西で17.8万人となりこの年度で全国と関西において人口のピークの年度をむかえる（調査時の中学3年生の生徒数）。このピークを経て、開設後10年を迎える2035年度の18歳人口は全国で97.0万人、関西で15.8万人となり、開設時より若干少ない人口となる（調査時の小学1年生の生徒数で算出）。【資料2】

このたび設置する健康情報学部を立地する大阪地域の動向について、「令和5(2023)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」をみると、「地域別の動向」の本学所在地である「大阪」の入学定員充足率は、令和4年度102.97%、令和5年度101.38%と100%を超えている状況である。【資料3】【資料4】

また、「私立大学 主な学部別の志願者・入学者動向」の健康情報学部健康情報学科医療工学専攻及び理学療法学専攻が含まれる「保健系」の入学定員充足率は、学部によって幅があるものの令和4年度と令和5年度で入学定員の充足率の大きな落ち込みはない。これに加えて、健康情報学部健康情報学科スポーツ科学専攻が含まれる「その他」のスポーツ系学部は3グループともに令和4年度と令和5年度を比較すると入学定員充足率がアップしている。【資料5】【資料6】

また、過去5年間の「私立大学 学部系統別・入学定員充足率の動向」の入学定員充足率は「保健系」で緩やかな落ち込みがあるものの、「その他」は近年横ばいとなっている。【資料7】【資料8】

上記の外部資料を基に検証した上で、既存組織である医療健康科学部の入学者数の推移、国の AI 戦略と新設組織の人材育成方針との相乗効果による志願層の拡大を想定し、新設組織である健康情報学部の入学生定員を充足できるものと考えている。

【資料2】 開設時から 10 年間の全国と関西の 18 歳人口の推移

【資料3】 令和 5(2023)年度私立大学・短期大学等入学志願動向

2. 地域別の動向 (大学・学校別)

(日本私立学校振興・共済事業団)

【資料4】 令和 4(2022)年度私立大学・短期大学等入学志願動向

3. 地域別の動向 (大学・学部別)

(日本私立学校振興・共済事業団)

【資料5】 令和 5(2023)年度私立大学・短期大学等入学志願動向

4. 学部系統別の動向 (大学)

(日本私立学校振興・共済事業団)

【資料6】 令和 4(2022)年度私立大学・短期大学等入学志願動向

4. 学部系統別の動向 (大学)

(日本私立学校振興・共済事業団)

【資料7】 令和 5(2023)年度私立大学・短期大学等入学志願動向

学部系統別の動向 過去5ヵ年の推移 (大学)

(日本私立学校振興・共済事業団)

【資料8】 令和 4(2022)年度私立大学・短期大学等入学志願動向

学部系統別の動向 過去5ヵ年の推移 (大学)

(日本私立学校振興・共済事業団)

③新設組織の主な学生募集地域

①及び②の分析結果及び現在の本学の入学者の出身高校の所在地県別の入学者の構成比が関西圏だけでほぼ 100% (大阪府のみで 53.7%) となっていることを踏まえ、学生募集地域を関西地区に設定した。他大学等の実績については、競合する大学のHPでは出身高校の所在地別の情報を入手することができなかったので、検討していない。外国人留学生については、本学の全学部において、留学生が入学した実績がある中国、韓国などのアジア諸国の地域を中心に募集活動を行っている。中国、韓国などのアジア諸国としている理由は、本学内での留学生サポートの実績があることから、学生募集地域として妥当であると考えている。

【資料 9】 新設組織が置かれる都道府県への入学状況 (別紙 1)

④既設組織の定員充足の状況

既設組織としては、工学部、情報通信工学部、医療健康科学部及び総合情報学部があり(建

築・デザイン学部は令和 6 年 4 月開設)、全学部において収容定員を充足している(令和 5 年 5 月 1 日現在)。また、別紙2-1から2-14(【資料10】から【資料23】)に示すとおり、平成 31 年度入学者から令和5年度入学者までの過去 5 年間に於いて、全学部全学科で入学定員をすべて満たしている状況である。

【資料 10】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

工学部 電気電子工学科 (別紙 2-1)

【資料 11】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

工学部 電子機械工学科 (別紙 2-2)

【資料 12】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

工学部 機械工学科 (別紙 2-3)

【資料 13】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

工学部 基礎理工学科 (別紙 2-4)

【資料 14】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

工学部 環境科学科 (別紙 2-5)

【資料 15】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

工学部 建築学科 (別紙 2-6)

【資料 16】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

情報通信工学部 情報工学科 (別紙 2-7)

【資料 17】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

情報通信工学部 通信工学科 (別紙 2-8)

【資料 18】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

医療健康科学部 医療科学科 (別紙 2-9)

【資料 19】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

医療健康科学部 理学療法学科 (別紙 2-10)

【資料 20】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

医療健康科学部 健康スポーツ科学科 (別紙 2-11)

【資料 21】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

総合情報学部 デジタルゲーム学科 (別紙 2-12)

【資料 22】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

総合情報学部 ゲーム&メディア学科 (別紙 2-13)

【資料 23】 既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)

総合情報学部 情報学科 (別紙 2-14)

(3) 学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

既設組織である 5 学部全学科の PR 活動については、特段の区分をしていないため、対象者は全学部となる。それを前提とした数値は【資料24】及び【資料25】のとおりである。

オープンキャンパスの来場者数： 2,232 人(令和 4 年度入試)

1,971 人(令和 5 年度入試)

大学案内の配付数： 21,630 人(令和 4 年度入試)

23,003 人(令和 5 年度入試)

オープンキャンパスに来場した場合の受験率は、10.6%~38.0%に対し、大学案内のみを配付した場合の受験率は、1.3%~6.4%である。このことから、本学の魅力はオープンキャンパスに来場し、在学生の姿や学ぶ内容や環境を実感することで、受験につながる事が分かる。

また、オープンキャンパスに来場した場合の入学率は、6.8%~17.0%に対し、大学案内のみを配付した場合の入学率は、0.5%~1.5%である。

上記に加えて、新規組織は既存組織である医療健康科学部を改組転換することから、既存組織の数字で比較してみる。オープンキャンパスに来場した参加者総数のうち、受験対象となる率は 12.5%であり、大学案内のみを配付した場合の受験対象となる率は、72.2%と高くなるが、入学率で比較すると、オープンキャンパスに来場した場合が 5.3%、大学案内のみを配付した場合は、0.39%と低くなる。このことから、本学の魅力を伝える場として、オープンキャンパスが重要である事が分かる。

以上のようなことから、オープンキャンパスへの来場者を増やすことに注力することとし、そのためにも、オープンキャンパスにおけるコンテンツの充実を図り、受験対象者にとって魅力あるものにしていく所存である。

【資料24】 既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績 (別紙 3-1)

【資料25】 既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績 (別紙 3-2)

イ 新設組織における取組とその目標

これまでの既設学部である医療健康科学部での取り組みを踏まえ、高校生への直接的な広報と、保護者やビジネスパーソンへの間接的な広報を行い、幅広い認知に向けた広報活動を行う。詳細は以下の通り。

(ア) オープンキャンパス

本学への入学を希望・検討している高校生やその保護者を対象として、施設見学や体験授業等を行い、本学への関心を深めることを目的として行う。6 月から 9 月

にかけて年４回実施し、在校生による学生対談、教員による学科紹介や施設見学、体験授業などを行う。個別相談会では教員が資格取得可能な免許や資格、カリキュラムなどを、入試課員が入学者選抜制度を高校生や保護者に丁寧な説明を行う。

（イ）進学相談会（高校・会場ガイダンス）

業者による高校での大学説明会や分野説明会、主要都市で開催される進学相談会へ参加する。高校での説明会では本学を希望・検討している高校生に対して、直接大学や学部学科等の説明を行う。分野説明会では、医療・健康・スポーツ分野に興味のある高校生に対して、本学の特長や魅力などを直接説明する。進学相談会では高校生、保護者、教員に対して大学や学部学科、施設、カリキュラム、資格、入学者選抜制度などを直接説明し、幅広い情報を提供する。

（ウ）高校へ出張授業

本学教員へ出張講義を依頼できるサイトを用意している。教員の専門分野の講義テーマを掲載しており、高校の教員が目的に合わせて申し込むことができる。本学だけでなく、健康・医療・スポーツ分野への興味喚起を促す。他にも業者による模擬授業にも参加し、本学教員の模擬授業を体験することで入学後の大学生活へのイメージを膨らませる。

（エ）高校教員向け説明会

年に２回、高校教員向け説明会を行っており、対面とオンラインのハイブリッド式を採用しており、後日オンデマンドでも閲覧できるようにしている。６月は大学紹介と入学者選抜制度を中心に、１２月年内入学試験の結果と一般入試の説明を行う。時期に合わせた説明会を行うことで、タイムリーな入学試験の情報を提供する。

（オ）進学情報誌、サイト

進学情報誌や進学情報サイトへの掲出を積極的に行う。発行部数や登録者数の多い進学情報誌や進学情報サイトに優先的に掲出し、認知拡大を目指す。紙面やサイトでは画像を多用し、新設組織を理解しやすい構成を心掛ける。

（カ）高校生へのダイレクトメール

本学へ資料請求した高校生を中心に、定期的にDMを送送する。最新情報を掲載したリーフレットを作成し、認知拡大と理解の促進を図る。

（キ）大学案内、新設学科パンフレット

大学案内では学部学科、教育内容、施設・設備、学生生活サポート、資格取得、就職活動サポートなど紹介。新設学部は通常の学部学科紹介ページ以外にも特集ページを巻頭に掲載し、目につきやすくする。大学全体から新設組織まで多岐にわたる魅力を発信する。新設学科パンフレットでは、画像を多用して学科の特色を紹介する。

(ク) 大学 Web サイト、新設組織紹介特設サイト、SNS

大学 Web サイトに新設学部に関する特設サイトを掲載する。より目立たせることで、高校生やその保護者、高校の教員への認知拡大を目指す。特設サイトでは、動画や写真を多く取り入れ、新設学部や入学後のイメージがつきやすくし、最新情報を掲載する。また、特設サイトと連動して、SNS (X、Instagram、Facebook) も活用する。近年の高校生は SNS から情報収集する傾向が強いため、新設組織に関する情報を積極的に掲載する。

(ケ) マス媒体広報

新設学部の認知度を上げるための新聞広告や雑誌への掲出も積極的に行う。新聞広告では特設サイトと連動したデザインで新設学部のイメージづくりを図り、雑誌ではパンフレットや特設サイトにはない別の角度からの情報を紹介する。幅広い層への認知拡大と多角的な情報発信を行う。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

新設組織である健康情報学部健康情報学科では、改組前の医療健康科学部と同様に学生確保に向けた取組を行う。具体的には、オープンキャンパスを始め、高校、会場ガイダンス、高校への出張授業、高校教員向け説明会、進学情報誌・進学情報サイトへの掲出、高校生へのダイレクトメール、大学案内・新学科パンフレットの発行、大学 Web サイト・SNS への情報の掲出、新聞雑誌等マス媒体広報を積極的に行う。既設組織である医療健康科学部（入学定員 190 名）から改組により入学定員を 25 名減じて健康情報学部（入学定員 165 名）とすることもあり、現在定員充足ができている医療健康科学部の募集の好調さを新設組織の健康情報学部で維持することは十分に可能であり、入学定員 165 名の入学者数の確保を見込んでいる。

②競合校の状況分析(立地条件, 養成人材, 教育内容と方法の類似性と定員充足状況)

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

新設組織である健康情報学部健康情報学科の競合校との優位性は、本学の情報教育を基盤とした教育体制による教育内容と教授陣と設備である。国の政策である「AI 戦略

2019」に応じた教育が他学部と共同で実施できる他、健康、リハビリ、教育分野の中で電子機器を利用した対戦を行う e スポーツが注目を浴びている。本学四條畷キャンパスには、情報学を技術、文化両面から支える総合情報学部を擁しており、デジタルコンテンツの開発に関する人材、設備の双方においてリソースがそろっている。健康情報学部では総合情報学部と協働し、このようなデジタルコンテンツの医療・健康分野における利用の仕方、その効果について科学的にアプローチするほか、e スポーツのデジタル技術に関する特徴のみならず、その誕生の社会的背景から現在の発展までを俯瞰するとともに、健康づくりの観点から e スポーツを学術として教授研究する。この教育研究体制は、競合校にはない特色であり、強みである。

また、4 年間の納付金について、スポーツ科学専攻を除き、競合校よりも下回っている。本学の既存組織である医療健康科学部の健康スポーツ科学科は、理系分野のスポーツ系学科であり、理系の学費体系となっている。改組後の健康情報学部健康情報学科スポーツ科学専攻も改組前と同様に理系分野と位置付け理系の学費体系としている。近隣他大学をはじめ競合校は文系分野のスポーツ系学科であり、学費体系は文系となっている。そのため、単純には学費を比較することはできないことから比較対象から除外した。

さらに、本学では卒業後の進路指導にも力を入れており、既存組織である医療健康科学部の理学療法学科と健康スポーツ科学科の 2 学科において、進路決定率 100%を達成している（2023 年度卒業生）。新設組織においても、これまでの進路指導のノウハウを引き継いでいく。就職先との関係も一層強化し、進路指導を行うことから競合校よりも優位性があると考えている。取得可能な受験資格は、臨床工学技士（医療工学専攻）、理学療法士（理学療法学専攻）、健康運動実践指導者（スポーツ科学専攻）がある。また、教職免許状（中学・高校教員Ⅰ種（数学）、高校教員Ⅰ種（工業）、中学・高校教員Ⅰ種（保健体育））がある。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校の過去 3 年間の入学志願動向を公表されている入試方式でのみ比較した。これらの競合校の定員充足率の推移と本学の情報教育基盤、e スポーツなどの最先端の教育研究環境の強みを活かすことで、新設組織の定員を充足させることができると考えている。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

臨床工学技士の受験資格を取得できる近隣の大学は 6 大学あるが、4 大学は入学定員を満たしていない状況である。この状況下において、既存学部である医療健康科学部及び臨床工学技士の受験資格を取得できる医療科学科は入学定員以上の入学者を確保している。また、令和 5 年度の求人社数は 47,936 件であり、関西地区において人材育成の点

から関係機関からの信頼に基づく実績がある。さらに、新設組織である健康情報学部
 の特色である情報科学との融合により、想定している競合校と比較して現代的課題に挑
 戦する先進性がある。これに加えて、特修コースを設けてさらなる専門性を修得できる
 発展的な学修機会を提供することから、定員を充足することができると分析している。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学健康情報学部健康情報学科の学生納付金については、次のとおりである。

(単位：円)

学部	入学金	学費		
		項目	1年次	2年次以降
健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻	250,000	授業料	1,332,000	1,532,000
		実験実習料	70,000	70,000
健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻	250,000	授業料	1,232,000	1,432,000
		実験実習料	300,000	300,000
健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻	250,000	授業料	1,082,000	1,282,000
		実習料	100,000	100,000

既設の医療健康科学部においては、1年次納入金額の合計が医療科学科で1,372,000円、
 理学療法学科で1,682,000円、健康スポーツ科学科1,382,000円となっているが、この度の
 学部改組にあたって、入学金を学科全体で50,000円増額し、医療科学科及び理学療法学科の
 各年次の学費を50,000円の増額とした。昨今の光熱水費や物価高騰を受け、適切な教育研究環
 境を構築するために必要な額として設定した。

一方で、以下に比較する大阪府近隣他大学の学生納付金を比較すると、本学の学生納付
 金は、健康スポーツ科学科を除き中位程度の位置なることが明らかとなったことから、設
 定額の水準は妥当であると判断した。

③ 先行事例分析

参考となる先行事例はない。

④ 学生確保に関するアンケート調査

健康情報学部健康情報学科の設置にあたり、調査機関として株式会社進研アドに対し、
 現役高校生を対象に健康情報学部健康情報学科設置に関するニーズ調査を依頼した。【資料

26】【資料 27】

調査は、令和 5 年 11 月 21 日から 12 月 22 日まで、高校 2 年生を調査の対象として実施し、11,290 人から有効回答を得た。その中で健康情報学部健康情報学科に第一志望で受験意向があり、入学意向がある人数をクロス集計した結果、262 人となり、予定している入学定員数（165 人）の 1.59 倍の入学意向者がみられた。このことから見ても、入学定員 165 人は十分に確保できる見通しである。

調査の概要は次の通りである。

ア 調査目的

令和 7 年 4 月開設予定の「健康情報学部健康情報学科」の新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

イ 調査概要

調査対象は高校 2 年生とした。（予定通り学科開設が実現すれば、当該生徒たちは本学健康情報学部健康情報学科への進学も視野に入る。）

調査エリアは、既存学部 に在籍している学生の出身校（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）の高校 124 校について、各高校にて留置調査を実施した。【資料 28】

調査時期は、令和 5 年 11 月 21 日から 12 月 22 日で実施した。

調査の回収数は、101 校の生徒 10,767 人であった。（有効回収率 52.8%）

また、本学へ何らかの形で接触した高校 2 年生について、それぞれの自宅へダイレクトメールを郵送して、郵送調査又は Web 回答を実施した。

調査時期は、令和 5 年 11 月 21 日から 12 月 20 日で実施した。

調査の回収数は、523 人であった。（有効回収率 7.7%）

ウ 調査項目

主な調査項目は、高校卒業後の希望進路、興味のある学問系統、本学健康情報学部健康情報学科の特色に対する魅力度、受験意向、本学健康情報学部健康情報学科各専攻への入学意向とした。

エ 調査結果（入学意向）

回答のあった 11,290 人のうち、健康情報学部健康情報学科を受験したいと回答のあったのは 689 人（6.1%）であった。そのうち、健康情報学部健康情報学科に入学したいと回答があったのは 262 人（38.0%）であり、入学定員 150 人の入学希望者があった。

さらに、行ったアンケートを基にして、入学意向者の条件を「Q1：私立学校に進学」と

回答し、且つ、「Q3：医療工学・医療科学、理学療法学、スポーツ科学・健康科学、医療情報工学、健康情報科学のうち少なくとも一つに興味がある。」と精緻に設定したとき、これに該当する回答をした者は、3,948人であった。

【資料 26】 大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」（仮称）設置に関する
ニーズ調査 結果報告書【高校生対象調査】

【資料 27】 調査回答者に提示した「健康情報学部 健康情報学科」（仮称）リーフレット

【資料 28】 調査対象とした高等学校の一覧

⑤人材需要に関するアンケート調査

健康情報学部健康情報学科における教育研究上の目的は、次の通りである。

広く社会及び産業界で活躍でき、持続可能な社会の発展に貢献できる健康情報学の専門的人材となるために必要な以下の能力を習得させる。

- ・ 情報技術を利用した、医療科学、工学、スポーツ科学の融合領域について自ら新しい健康技術の創造に取組み実行する力
- ・ 医療科学、工学、スポーツ科学それぞれの専門分野における幅広い知識と実践的能力を有し、より良いものを追求するために必要な問題点を発見する力とそれを解決する力
- ・ 人間性、科学性、国際性、倫理観を有し、社会に対する責任と貢献を考え、他者と協働し問題解決に取り組むことのできる力

そのために、情報技術を基に医療科学、工学、スポーツ科学の知識と技術を融合させた総合力で、疾病や障害を有する低体力者からアスリートまで、あらゆる人々の健康を支援し、健全な社会の形成と存続に貢献できる専門的人材を育成する。

そして卒業生については、それぞれの専攻において以下の進路を目指す。

[医療工学専攻]

- ・ 医療機関で臨床工学技士として医療業務に従事する
- ・ 医療健康関連企業でエンジニアとして医療健康機器開発・設計業務に従事する
- ・ 医療系情報システム関連企業で AI 技術者、デジタルヘルスケアのスペシャリストとして開発設計業務に従事する
- ・ 一般企業でヘルスケア、機械工学、電気電子工学、情報工学分野の技術職に従事する
- ・ 教員免許(工業、数学)を取得して教職に従事する
- ・ 大学院に進学し、高度な医療健康機器や医療系情報システムの開発に従事する

[理学療法学専攻]

- ・ 医療機関で理学療法士として医学的リハビリテーションに従事する

- ・保健・福祉機関で理学療法士として健康維持増進業務に従事する
- ・医療系機器メーカーでリハビリ機器の開発業務に従事する
- ・プロスポーツやスポーツ関連機関でメディカルスタッフとして従事する
- ・スポーツ関連企業でトレーニング機器やスポーツ障害予防装具の研究開発者として従事する
- ・大学院に進学し、高度な理学療法の研究に従事する

[スポーツ科学専攻]

- ・健康増進施設、社会体育関連団体で運動指導やマネジメント業務に従事する
- ・健康・スポーツ関連の機器やアプリケーションの企画・開発業務に従事する
- ・教員免許(保健体育)を取得して教職に従事する
- ・プロスポーツやスポーツ関連機関でコーチやアナリストとして従事する
- ・大学院に進学し、高度なスポーツ科学の研究に従事する

健康情報学部健康情報学科の設置にあたり、当該学部の卒業生が、就職の受入れ先として社会から需要があるのかを見極めるため、株式会社進研アドに、企業対象のアンケート調査を依頼した。具体的には、大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称)設置に関するニーズ調査【企業対象調査】を行った。【資料 29】

調査の概要は次の通りである。

ア 調査目的

2025 年 4 月開設予定の大阪電気通信大学「健康情報学部健康情報学科」新設構想に関して、企業のニーズを把握する。

イ 調査概要

全国 900 社の企業を対象とし、アンケートを郵送し調査を行った。

調査時期は、2023 年 11 月 21 日から 12 月 15 日で実施した。

調査の回収数は、202 社であった。(回収率 22.4%)

ウ 調査項目

主な調査項目は、採用予定数、本学健康情報学部健康情報学科の特色に対する魅力度、本学健康情報学部健康情報学科の各専攻の社会的必要性、本学健康情報学部健康情報学科各専攻の卒業生に対する採用意向、本学健康情報学部健康情報学科各専攻卒業生の毎年の採用想定人数とした。

エ 調査結果

特色に対する魅力度については、本学健康情報学部健康情報学科各専攻の特色の項目に魅力を感じている企業からの採用意向は、3つの項目のすべてで6割を超えており、それら企業の採用想定人数も医療工学専攻で152名、理学療法学専攻で155名、健康スポーツ科学専攻で125名の合計432名であり、予定している学科全体の入学定員数165名を大きく上回っている。このことから、本学の健康情報学部健康情報学科の特色を多くの企業が魅力的と感じ、これからの社会にとって必要な学部と捉えていることが伺える。

本社所在地別の回答企業は、本学の所在地である「大阪府」が45.5%で最も多く、次いで「東京都」が15.8%であった。このことから、地域的な人材需要を踏まえた学科でもあることが裏付けられた。

また、回答企業の業種としては、「医療・福祉」が39.6%で最も多く、次いで「卸売・小売業」が16.8%、「製造業」が15.3%と続いている。

【資料 29】 大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」（仮称）設置に関する
ニーズ調査 結果報告書【企業対象調査】

また、既存学部である医療健康科学部に対する企業等からの求人社数の推移は以下のとおりである。

医療健康科学部を開設して以降、多くの企業から求人がきており、令和5年度は47,936社とあるように、この度開設する健康情報学部健康情報学科の定員165人の290倍となっていることから、十分な就職先が確保されていることが伺える。

本学医療健康科学部への求人社数（医療健康科学部3学科への求人延べ件数）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
求人社数（件）	43,985	38,308	43,666	47,936

（４）新設組織の定員設定の理由

（１）での既設組織である医療健康科学部全体の入学定員よりも、新設する健康情報学部の入学定員を25名少なくして165名と設定している点、（２）での既存組織である医療健康科学部の入学者数の推移、国のAI戦略と新設組織の人材育成方針との相乗効果による志願層の拡大が見込まれる点、（３）での競合校との4年間の納付金の比較で優位に立っている点、高校生対象のニーズ調査の結果により第1志望で入学する高校生が入学定員の165名を上回る点から、新設組織である健康情報学部の入学定員に合理性があると考えている。さらに、就職の受入れ先企業のニーズ調査の結果から、完成年度後の学生の就職先も入学定員をはる

かに超える求人数が確保されており、就職状況を反映した入学定員の確保という観点からも入学定員に合理性があると考えている。

資料目次

- 【資料 1】 令和元年 6 月 11 日統合イノベーション戦略推進会議決定
A I 戦略 2019 ～人・産業・地域・政府全てに A I ～（抜粋）
- 【資料 2】 開設時から 10 年間の全国と関西の 18 歳人口の推移
- 【資料 3】 令和 5 (2023) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向
2. 地域別の動向（大学・学校別）
(日本私立学校振興・共済事業団)
- 【資料 4】 令和 4 (2022) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向
3. 地域別の動向（大学・学部別）
(日本私立学校振興・共済事業団)
- 【資料 5】 令和 5 (2023) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向
4. 学部系統別の動向（大学）
(日本私立学校振興・共済事業団)
- 【資料 6】 令和 4 (2022) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向
4. 学部系統別の動向（大学）
(日本私立学校振興・共済事業団)
- 【資料 7】 令和 5 (2023) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向
学部系統別の動向 過去 5 か年の推移（大学）
(日本私立学校振興・共済事業団)
- 【資料 8】 令和 4 (2022) 年度私立大学・短期大学等入学志願動向
学部系統別の動向 過去 5 カ年の推移（大学）
(日本私立学校振興・共済事業団)
- 【資料 9】 新設組織が置かれる都道府県への入学状況 (別紙 1) 割愛
- 【資料 10】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）
工学部 電気電子工学科（別紙 2-1）割愛
- 【資料 11】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）
工学部 電子機械工学科（別紙 2-2）割愛
- 【資料 12】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）
工学部 機械工学科（別紙 2-3）割愛
- 【資料 13】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）

- 工学部 基礎理工学科（別紙２－４）割愛
- 【資料 14】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
- 工学部 環境科学科（別紙２－５）割愛
- 【資料 15】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
- 工学部 建築学科（別紙２－６）割愛
- 【資料 16】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
- 情報通信工学部 情報工学科（別紙２－７）割愛
- 【資料 17】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
- 情報通信工学部 通信工学科（別紙２－８）割愛
- 【資料 18】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
- 医療健康科学部 医療科学科（別紙２－９）割愛
- 【資料 19】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
- 医療健康科学部 理学療法学科（別紙２－10）割愛
- 【資料 20】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
- 医療健康科学部 健康スポーツ科学科（別紙２－11）割愛
- 【資料 21】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
- 総合情報学部 デジタルゲーム学科（別紙２－12）割愛
- 【資料 22】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
- 総合情報学部 ゲーム＆メディア学科（別紙２－13）割愛
- 【資料 23】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
- 総合情報学部 情報学科（別紙２－14）割愛
- 【資料 24】 既設学科等の学生募集のためのＰＲ活動の過去の実績（別紙３－１）割愛
- 【資料 25】 既設学科等の学生募集のためのＰＲ活動の過去の実績（別紙３－２）割愛
- 【資料 26】 大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」（仮称）設置に関する
ニーズ調査 結果報告書【高校生対象調査】
- 【資料 27】 調査回答者に提示した「健康情報学部 健康情報学科」（仮称）リーフレット
- 【資料 28】 調査対象とした高等学校名等の一覧
- 【資料 29】 大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」（仮称）設置に関する
ニーズ調査 結果報告書【企業対象調査】

A I 戦略 2019

～人・産業・地域・政府全てにA I～

令和元年 6 月 11 日
統合イノベーション戦略推進会議決定

目 次

<u>はじめに</u>	1
I. 基本的考え方	2
(A) 戦略のスコープ	2
(B) 戦略の目的	2
(C) 戦略の背景となる理念	2
(D) 戦略の推進にあたっての基本的考え方	3
(E) 戦略目標	3
(F) 官民の役割分担	6
II. 未来への基盤作り : 教育改革と研究開発体制の再構築	8
II-1 教育改革	8
(1) リテラシー教育	9
(2) 応用基礎教育	15
(3) エキスパート教育	17
(4) 数理・データサイエンス・A I 教育認定制度	19
II-2 研究開発体制の再構築	21
(1) 研究環境整備	24
(2) 中核研究プログラムの立ち上げ : 基盤的・融合的な研究開発の推進	27
III. 産業・社会の基盤作り	29
III-1 社会実装	29
(1) 健康・医療・介護	32
(2) 農業	35
(3) 国土強靱化 (インフラ、防災)	37
(4) 交通インフラ・物流	39
(5) 地方創生 (スマートシティ)	41
(6) その他	43
III-2 データ関連基盤整備	44
(1) データ基盤	44
(2) トラスト・セキュリティ	46
(3) ネットワーク	48
III-3 A I 時代のデジタル・ガバメント	49
III-4 中小企業・ベンチャー企業への支援	51
(1) 中小企業支援	51
(2) A I 関連創業に関する若手支援	52
IV. 倫理	53
V. その他	54

はじめに

人工知能技術は、近年、加速度的に発展しており、世界の至る所でその応用が進むことにより、広範な産業領域や社会インフラなどに大きな影響を与えている。一方、我が国は、現在、人工知能技術に関しては、必ずしも十分な競争力を有する状態にあるとは言い難い。

他方、我が国は、Society 5.0¹を標榜し、世界規模の課題（SDGs²）の解決に貢献するとともに、SDGsの地域における実践のモデルである「地域循環共生圏」³を創造していくことを目指し、成熟社会が直面する高齢化、人口減少、インフラの老朽化などの社会課題を他国に先駆けて解決しなければならない。これら課題は、人工知能をはじめとしたテクノロジーのみで解決できる問題ではないが、テクノロジーと社会の仕組みを連動して変革し、「多様性を内包した持続可能な社会」を実現することが必要である。

我が国は、人工知能技術戦略会議において、2017年3月に人工知能技術戦略及びその産業化ロードマップを取りまとめ、「生産性」「健康、医療・介護」「空間の移動」「情報セキュリティ」の重点分野を中核に、官民が連携して、人工知能技術の研究開発から社会実装までに取り組むこととし、2018年8月には同戦略を踏まえた政府内の取組をより具体化・強化する観点から、各取組の目標と達成時期を示した実行計画を取りまとめた。しかしながら、ここ数年のビッグデータ等を通じた人工知能技術の利活用に関し、米国や中国の企業等による覇権争いが激しさを増しており、様々な分野で従来の延長線上にない破壊的イノベーションが生み出されてきているが、我が国は、後れを取っている状況である。他方、人工知能技術導入の潜在的分野は広範囲に及ぶもので、現場でのデータ収集や利活用など競争は始まったばかりであり、勝負はまだこれからであるとの意見もある。

¹ 第5期科学技術基本計画では「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細やかに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスが受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会」とし、総合戦略2017では「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させることにより、地域、年齢、性別、言語等による格差なく、多様なニーズ、潜在的なニーズにきめ細やかに対応したモノやサービスを提供することで経済的発展と社会課題の解決を両立し、人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる、人間中心の社会」としている。

² Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）：2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っている。

³ 第5次環境基本計画（平成30年4月17日閣議決定）において、『各地域がその特性を活かした強みを発揮し、地域ごとに異なる資源が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、それぞれの地域の特性に応じて近隣地域等と共生・対流し、より広域的なネットワーク（自然的つながり（森・里・川・海の連関）や経済的つながり（人、資金等））を構築していくことで、新たなバリューチェーンを生み出し、地域資源を補完し支え合いながら農山漁村も都市も活かす「地域循環共生圏」を創造していくことを目指す』とされている。

そこで、我が国が直面する課題を克服しつつ、さらに一步進んで、我が国の強みを活かし、将来を切り拓いていくために、国が主体的に直ちに実行すべき施策に焦点を当て、本戦略のとりまとめを行った。

I. 基本的考え方

(A) 戦略のスコープ

本戦略における「人工知能（以下、A I）」とは、知的とされる機能を実現しているシステムを前提とする⁴。

近年のA Iは、機械学習、特に深層学習（ディープラーニング）に基づくものが中心であるが、A I関連の技術は急速に進展しており、A Iに利用される技術に限定してA Iの定義とすることはしない。

(B) 戦略の目的

本戦略の目的は、Society 5.0の実現を通じて世界規模の課題の解決に貢献するとともに、我が国自身の社会課題も克服するために、今後のA Iの利活用の環境整備・方策を示すことである。

世界への貢献と課題克服、さらには、その先の、我が国の産業競争力の向上に向けて、A Iを取り巻く、教育改革、研究開発、社会実装などを含む、統合的な政策パッケージを策定する。

(C) 戦略の背景となる理念

2019年3月、政府は、「人間中心のA I社会原則」を取りまとめた。

これは、A Iの発展に伴って、我が国が目指すべき社会の姿、多国間の枠組み、国や地方の行政が目指すべき方向を示すものであり、その基本理念として、

① 人間の尊厳が尊重される社会（Dignity）

⁴ A I（artificial intelligence）については、例えば EC ハイレベルエキスパートグループ報告書においては、「環境や入力に対応して知的な動作（一定の自律性を有することもある）を行うシステム」とされているが、「知的な動作」の実体は解釈に依存する側面もある。また、2016年に米国で発表された AI100 報告書では、学問分野としてのA Iを、「知能を持った機械を作る研究であり、知能とは置かれた環境中で適切に、かつ何らかの洞察を持って機能すること」という Nils J. Nilsson の定義を引用しているが、この定義も大きな曖昧性を持ったものである。実際、同報告書では、A Iの定義が曖昧であること自体が、A Iの研究を加速している肯定的な側面があるとしている。これらの状況を鑑みると、何を以て「A I」または「A I技術」と判断するかに関して、一定のコンセンサスはあるものの、それをそこに利用される技術などを基盤にことさらに厳密に定義することは意味があるとは言えない。同時に、このようなシステムは、高度に複雑なシステムに組み込まれることも留意する必要がある。さらに、大規模データを収集・蓄積し、アクセスする基盤、超高速通信網、センサー群、ロボットなどがなければA Iシステムの実装はおぼつかない。サイバーセキュリティやA I倫理など、このようなシステムの安全性や健全性を担保する技術の開発や実装が行われなければ、A Iが広く受容されることも困難となる。A Iは、知的とされる機能を実現する広範なシステムを包含するとともに、今後の社会や産業から日常生活、また、科学研究や技術開発まで、あらゆる領域に展開されることが予想される。よって、本戦略の対象は、これらの領域も統合的に構想する必要がある。

② 多様な背景を持つ人々が多様な幸せを追求できる社会（Diversity & Inclusion）

③ 持続性ある社会（Sustainability）

の3点を定めている。

本戦略は、これらの基本理念を尊重する。

（D）戦略の推進にあたっての基本的考え方

（C）の基本理念を実現するため、すなわち、「多様性を内包した持続可能な社会」に向けて、A Iを含めた新たな技術の導入と、その導入と並行した社会システムの変革が重要である。さらには、A Iの導入によって、国民一人一人が具体的な便益を実感でき、新たな技術や社会システムが広く受け入れられていくことが不可欠である。

加えて、Society 5.0の実現を進める中で、我が国の国際的プレゼンスの向上と、産業競争力の抜本的強化を図っていかなければならない。その際、「人間中心のA I社会原則」を踏まえ、性別、年齢、政治的信条、宗教等の多様なバックグラウンドにかかわらず多様な人材が、幅広い知識、視点、発想等に基づき、貢献できるようにすることが重要である。

国は、以上の観点を念頭におき、総合的なコーディネーターとして、以下の点にも留意しつつ、本戦略に記載される各種施策を着実に推進していく必要がある。

- ① 産業の担い手は民間企業であり、民間企業がその力を発揮するために、基盤の整備（人材の育成と呼び込み、研究開発の促進、産業基盤の整備・事業化支援）、新たな技術の導入を加速する制度の構築と阻害要因の除去、多国間の枠組みの構築など不可欠であること
- ② A Iシステムの実装には、大規模データを収集・蓄積し、アクセスする基盤、超高速通信網、センサー群、ロボット等が必要であること
- ③ A Iの社会受容には、サイバーセキュリティやA I倫理を含む、システムの安全性や健全性を担保する技術の開発や実装、A Iに関わるリテラシーの向上及び開発者・運用者とユーザの間での適切なコミュニケーション、さらにはA Iの具体的な便益が感じられることなどが重要であること

（E）戦略目標

本戦略では、以下の戦略的目標を設定する。

戦略目標 1

我が国が、人口比ベースで、世界で最も A I 時代に対応した人材の育成を行い、世界から人材を呼び込む国となること。さらに、それを持続的に実現するための仕組みが構築されること

「A I 時代に対応した人材」とは、単一ではなく、

- ・最先端の A I 研究を行う人材
- ・ A I を産業に応用する人材
- ・中小の事業所で応用を実現する人材
- ・ A I を利用して新たなビジネスやクリエイションを行う人材

などのカテゴリーに分かれるが、いずれにしても、各々のカテゴリーでの層の厚い人材が必要となる。

人材の増大には、女性も含む多様な人材や、海外から日本を目指す人々も含め、それぞれの層に応じた育成策、呼び込み策が重要である。そのため、今後、先進的な教育プログラムの構築が重要であり、さらに、これを海外にも提供できるレベルにまで充実させることも必要になる。

日常生活では、より有効に A I を利用することで、生活の利便性が向上し、従来ではできなかったことができるようになる。ただし、そのためには、A I に関するリテラシーを高め、各々の人が、不安なく自らの意志で A I の恩恵を享受・活用できるようにならないといけない。

戦略目標 2

我が国が、実世界産業における A I の応用でトップ・ランナーとなり、産業競争力の強化が実現されること

サイバースペース内で完結することがなく、人、自然、ハードウェアなどとの相互作用を通じて初めて価値が生み出される、「実世界産業⁵」領域には、未だに系統的に取得されていない膨大な情報が含まれている。

本領域において、多くの場合には、サービス・プラットフォームを軸とした高付加価値型産業への転換を促進することが極めて重要であるため、それに資する A I 関連の開発支援、制度設計、社会実装に係る基

⁵ 医療、農業、素材、物流、製造設備など、物理的実世界（Physical Real World）において何らかの価値を提供する産業の総称。SNS や検索サービスなど対比して、サイバースペース内で完結することがなく、人、自然、ハードウェアなどとの相互作用を通じて初めて価値が生み出されることを特徴とする。

盤形成を進め、産業競争力の向上と、世界のトップ・ランナーとしての地位の確保・維持を目指す。これは A I 戦略以外の政策も連動した上で実現する目標となるが、A I 戦略が重要な部分を担っていることは間違いない。産業競争力の尺度としては、労働生産性などが考えられる。参考として、今後 10 年程度で、その時点の米国、ドイツ、フランスなどと同等の労働生産性水準⁶に到達するには、我が国は、6%強の名目労働生産性の成長率を 10 年間維持する必要がある、極めて大胆な産業構造の変革が必要であることが明確である。併せて、当該領域を通じた、世界規模での S D G s 達成に貢献する。

加えて、公的サービス分野で A I を応用することにより、サービスの質の更なる向上、就労環境の改善、そして、究極的には財政の負担低減を目指すことも重要である。

なお、e-commerce や S N S などのサイバースペースでほぼ完結するタイプのサービス産業については、今後の検討課題である。

戦略目標 3

我が国で、「多様性を内包した持続可能な社会」を実現するための一連の技術体系が確立され、それらを運用するための仕組みが実現されること

女性、外国人、高齢者など、多様な背景を有する多様な人々が、多様なライフスタイル実現しつつ、社会に十分に参加できるようになることが極めて重要である。A I 関連の多様な技術体系の確立とそれを使うための社会の制度・仕組み作りを進め、国民一人一人が、具体的に便益を受けることができることを目指す。

また、この戦略目標は、日本国内のみを想定したものではなく、地球規模でこれを推進することで、S D G s 達成へ大きく貢献することができるとの前提で実行に向けた計画を策定することが重要である。

戦略目標 4

我が国がリーダーシップを取って、A I 分野の国際的な研究・教育・社会基盤ネットワークを構築し、A I の研究開発、人材育成、SDGs の達成などを加速すること

⁶ 主要国の 2017 年の名目労働生産性（時間当たり）：米国 72.0US ドル、ドイツ 69.8US ドル、フランス 67.8US ドル、日本 47.5US ドル（いずれも購買力平価換算）（出典：公益財団法人日本生産性本部「労働生産性の国際比較 2018」）

経済・社会のグローバル化が急速に進む中、A I 関連の人材育成・確保や産業展開などについては、決して国内で完結することではなく、常に国際的視点を有しなければならない。例えば、人材育成・確保では、海外の研究者・エンジニアが日本国内で活躍できる場を数多く提供するとともに、我が国と海外との共同研究開発・共同事業を増大させる必要がある。

このため、北米・欧州地域の研究・教育機関、企業との連携強化に加え、今後の成長が見込まれる、ASEAN、インド、中東、アフリカ等との連携を本格化する。A I 関連の教育プログラムをこれらの地域に提供し、さらには、T I C A D 7（横浜）の機会を捉え、当該地域のA I 研究・実用化の促進に貢献する。これを実現するには、A I 研究開発ネットワークの中核センターなどが、各々の重点領域において、どの領域で世界一の研究を行うのか、また、創発的研究において、どのように人材やテーマの多様性など国際的に人材をひきつけるかの方策を明確にする必要がある。

また、健康・医療・介護や農業、スマートシティなどの領域においても、人材、データ、市場の面で、相互にメリットを有する規模感の国際的連携・協力を目指す。

（F）官民の役割分担

本戦略の実現には、官民の一体的取組が不可欠である。

このうち国は、以下のような取組を行うことにより、今後の新たな社会（Society 5.0）作りのための環境を整備し、民間が行う、生産性の向上、多様な価値の創造、スタートアップ企業群の創出や、それらを通じた産業構造のたゆみなき刷新をサポートする。

- 戦略の策定と、それを実現するためのロードマップの策定
- 制度的・政策的障害の迅速な除去
- マルチステークホルダー間での課題解決のためのネットワークの構築
- 国内外を包含した人材育成
- 社会構造変革及び国家存続のための社会実装
- 基盤的な研究開発、次世代の基礎研究
- A I 利活用の加速に向けた、共通的な環境整備
- 倫理、国内・国際的なガバナンス体制の形成
- 「グローバル・ネットワーク」のハブ作り

他方、民間セクターは、本戦略の趣旨をしっかりと理解するとともに、A I 社会原則を遵守し、優秀な人材に対する国際的競争力のある報酬体系の導入を図りつつ、他国・地域との国際連携や、多様なステー

クホルダーとの協働を推進する必要がある。そして、未来を共創するために、大きなチャレンジを行う主体としての自覚を持ち、今後の経済・社会の発展に積極的に貢献していくことが求められる。

III. 産業・社会の基盤作り

III - 1 社会実装

これまでも強調してきたとおり、我が国の強い技術と A I 技術を融合することにより、「多様性を内包した持続可能な社会」を実現しつつ、世界規模の課題の解決に貢献し、大きな付加価値の創造と生産性の向上、更には、産業競争力の強化を目指さなければならない。

とりわけ実世界産業領域は、現在、世界の中で日本企業の存在感が大きい領域である。従って、実世界産業領域への A I 技術の応用（AI for Real World）及びインクルージョン（AI for Inclusion）の実現では、我が国が優位性を発揮し、リーダーシップを取ることが可能であると考えられる。

しかしながら、実世界産業領域では、A I システムの開発・実用化において、領域特化型の知識やノウハウ、さらには運用を含めた個別的対応が欠かせない。このため、サービス・プラットフォームに価値の源泉が移行している現在の状況の中で、これまでの単なる延長線上にあるビジネスモデルに終始すれば、ハードウェアなどがサービス・プラットフォームの端末となり、我が国産業は主導権を失う可能性がある。

そこで、まず、分野共通的な取組として、A I 駆動型サービスを中心とする、（GDP per Capita などで評価可能な）高付加価値型サービス産業への構造転換を促進し、生産性の劇的な向上を達成するために、アーキテクチャに基づいた技術開発と社会実装基盤を形成する必要がある。

さらに、各領域の個別最適だけでは十分ではなく、分野横断的に社会実装を促すために、システム・アーキテクチャの設計が必要となる。これには、高度に専門的なシステムエンジニアリングの知識や経験が必要であるが、残念ながら、我が国にはそのような専門家は絶対的に不足している。このため、米国 N I S T²⁵等を参考に、府省横断的な推進体制を構築し、また、諸外国の関係機関とも連携しながら、限られた専門家でより効率的なシステム・アーキテクチャ設計を担い、標準化等を推進する必要がある。

個別の領域としては、健康・医療・介護、農業、国土強靱化、交通インフラ・物流、地方創生の 5 つの領域を優先領域とする。これは、我が国が置かれた、世界初の本格的少子高齢化とそれによる社会保障費の急激な増加、労働力人口の減少や医療従事者・介護従事者の不足、農業従事者の超高齢化、気候変動や極端気象等による災害や農林漁業関連被害の増大、更には、地方等におけるインフラの老

²⁵ National Institute of Standards and Technology：国立標準技術研究所

朽化・劣化とインフラ維持管理の担い手不足といった社会課題の解決が国としての最優先課題であるためである。

健康・医療・介護分野では、国民の健康増進、医療・介護水準の向上、関連従事者の就労環境の改善等の実現とともに、関係する国民負担の削減が同時に達成されることが中長期の目標となる。

地方創生（スマートシティ）分野については、本戦略では、特に地方都市を念頭におく（ただし、大都市部を除外するということではない。）。まずは、地方都市・地域の生活の質の向上と、地域産業の育成が重要となるが、併せて、地方自治体財政の負担軽減の同時達成を目指す。

その際、インフラやサービスの供給側の論理を優先することなく、むしろ、多様な住民や地域事業者の視点を重視する。これは正に、「多様性を内包した持続可能な社会」の理念に基づくものであり、地域における付加価値の高いサービスの実現に資するものと考えられる。

また、我が国における、これら5つの領域の社会実装が実現されれば、それによって生み出された高付加価値サービスが海外にも展開でき、世界のSDGsの解決にも貢献可能であることは論を俟たない。

<大目標>

産学官の英知を結集し、持続可能な社会実装の仕組みの構築を念頭に、以下の目標を設定：

- ・ アーキテクチャ設計に基づくデータ基盤を踏まえた、AI社会実装を、まずは①健康・医療・介護、②農業、③国土強靱化、④交通インフラ・物流、⑤地方創生（スマートシティ）の重点5分野で、世界に先駆けて実現。また、ものづくり、金融等その他の分野についても実現に向けて取り組む。
- ・ 各分野の社会実装モデルに対する民間事業者の参画促進（システム全体の海外展開検討を含む）
- ・ 健康・医療・介護分野では、どこでも安心して最先端・最適な医療やより質の高い介護を受けられるよう、そのための環境を整備し、医療・介護従事者の負担を軽減
- ・ 農業分野では、2025年までに農業の担い手のほぼ全てがデータを活用した農業を実践
- ・ 国土強靱化分野では、低維持補修コストでインフラの安全を担保するための、国家的システムの導入と、それに向けた国土に関連する各種データの管理・連携
- ・ 交通インフラ・物流分野では、物流・商流に関するデータの基盤構築の検討、他分野データ基盤との連携、物流分野の自動化等による、物流の生産性向上・高付加価値化及びサプライ

チェーン全体の効率化と、全ての人が、現在の社会コストを上回ることなく、自由で安全な空間移動を実現

- ・ 地方創生（スマートシティ）分野では、農業及び健康・医療・介護など他領域とも連動し、インクルージョン・テクノロジーを採用し、国際展開が可能なスマートシティを構築

<具体目標と取組>

(1) 健康・医療・介護

<具体目標 1>

健康・医療・介護分野で A I を活用するためのデータ基盤の整備

(取組)

- ・ 諸外国における保健医療分野の A I 開発・利活用の動向調査（2019 年度）【厚】
- ・ 次世代医療基盤法（2018 年 5 月 11 日施行）に基づく、匿名加工医療情報の円滑かつ公正な利活用の仕組みの稼働（2019 年度）【健康医療・文・厚・経】
- ・ 健康・医療・介護分野の分野横断的な情報基盤の設計、各種データの集積と A I データ基盤の構築（2020 年度）【I T・健康医療・厚】
- ・ 生活の中で得られるデータの、地域と連携した収集方策（リビングラボ等）の仕組み作り（2020 年度）【I T・厚】
- ・ データやアノテーションなどの基盤を提携先に提供する枠組みの構築（2020 年度）【厚】
- ・ 画像診断支援のための、持続可能な A I 開発用データ基盤に関する検討（2021 年度）【厚】

<具体目標 2>

日本が強い医療分野における A I 技術開発の推進と、医療への A I 活用による医療従事者の負担軽減

(取組)

- ・ 創薬、毒性評価などへの A I 応用の検討（2020 年度）【厚】
- ・ 上記以外の医薬品開発や医療現場における A I 利活用推進に向けた検討（2020 年度）【厚】
- ・ A I を活用した創薬ターゲット探索に向けたフレームワークの構築（2021 年度）【厚】
- ・ A I を活用した画像診断支援機器の開発、及びその評価等、社会実装に向けた基盤整備（2021 年度）【総・厚・経】
- ・ A I を活用した医療機器やテレメディシン・サービス（D to D）の開発、及びその評価等、社会実装に向けた基盤整備（2021 年度）【厚・経】

- ・ A I を活用した病気の早期発見・診断技術の開発（2024 年度）【文・厚】

＜具体目標 3＞

予防、介護分野への A I / I o T 技術の導入推進、介護への A I / I o T 活用による介護従事者の負担軽減

（取組）

- ・ 健康データ等を活用し、健康な段階からの早期の気づきの機会の提供等、健康維持・増進サービスの民間による提供促進の検討開始（2019 年度）【I T・厚・経】
- ・ A I / I o T を導入する介護施設への導入コンサル体制の整備（2020 年度）【厚・経】
- ・ 予防、介護領域の実証事業の実施と、それを踏まえた同領域での A I スタートアップ支援体制の構築（2020 年度）【厚・経】
- ・ 熟練介護士等の知見の活用も含めた質の高い介護サービスを支援する A I システムの実現と全国展開（2021 年度）【I T・厚】
- ・ 予防、介護領域の実証事業で確立した技術の活用のための、制度面・運用面の見直し着手（2021 年度）【総・厚・経】
- ・ 個人の情報コントロールabilityに基づいた、予防、介護分野における A I / I o T データ利活用の促進（2021 年度）【I T・総・厚・経】

＜具体目標 4＞

世界最先端の医療 A I 市場と医療 A I ハブの形成

（取組）

- ・ 厚生労働省「保健医療分野 A I 開発加速コンソーシアム」で選定したロードブロック解消の工程表、及び作成した俯瞰図²⁶（別紙）に基づく A I 開発促進のための工程表の作成（2019 年度）【厚】
- ・ 企業（外資を含む）と公的機関（公立病院、大学、国研等）との A I 開発等の連携研究の強化（2019 年度）【総・文・厚・経】
- ・ 医療・介護分野でのインクルージョン・テクノロジーの体系化（2020 年度）【総・厚】

²⁶ 厚生労働省「保健医療分野 AI 開発加速コンソーシアム」において、AI の開発・利活用が期待できる領域について、分野全体を整理した俯瞰図

- ・ アジア健康構想等の下、各国のニーズを踏まえた上、データ基盤及びA I 医療等に関する海外（特に、A S E A Nとインド）との連携に向けた以下の例示を含む取組の強化（2019 年度）【I T・健康医療・厚・経】
 - 海外からの就労・留学・渡航者、海外への就労、留学、渡航者への高品位医療の提供（すでに実施されている一連の施策とも連携し、特に、データの蓄積が重要となるA I 医療分野に特化して実現を目指す）
 - 国及び一定の機関における医療系A I・データの活用拡大と、他機関への展開
 - 画像診断やがんゲノム解析などA I 化が先行する分野から、アジアなど海外の医療機関と提携し、より大量のデータへのアクセスを可能とすると同時に、A I 医療システムの海外展開を促進
 - 最終的には、世界的に高品位な医療サービスを、A I を使って実現するというS D G s の目標に貢献（2025 年度）

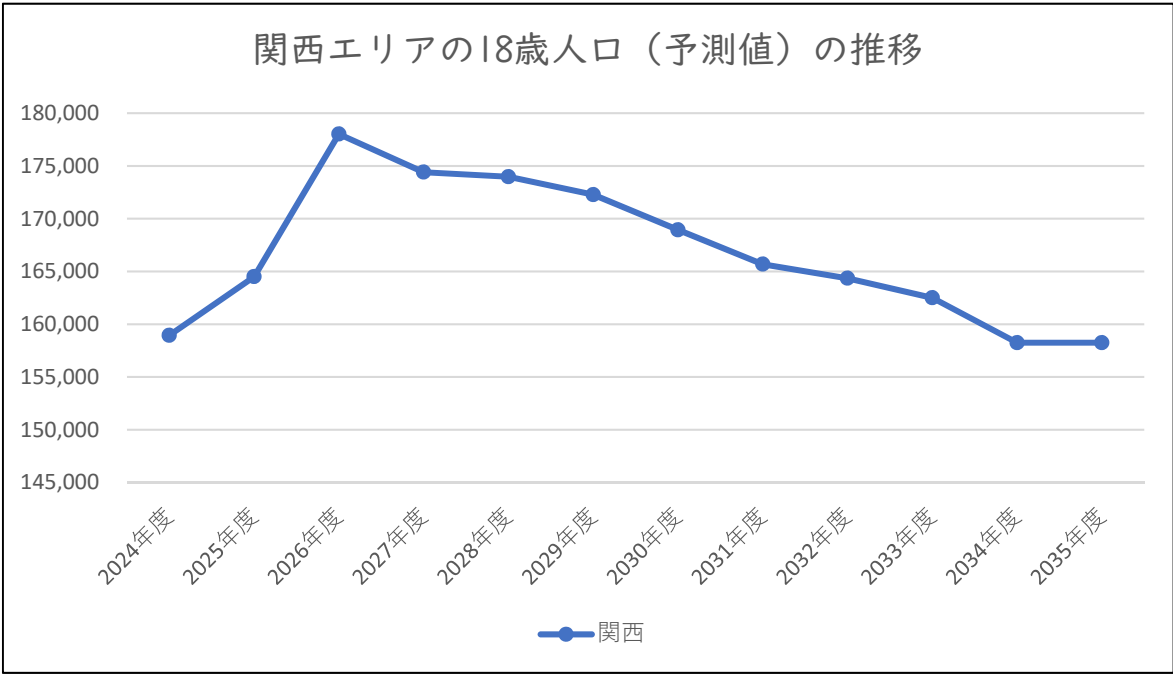
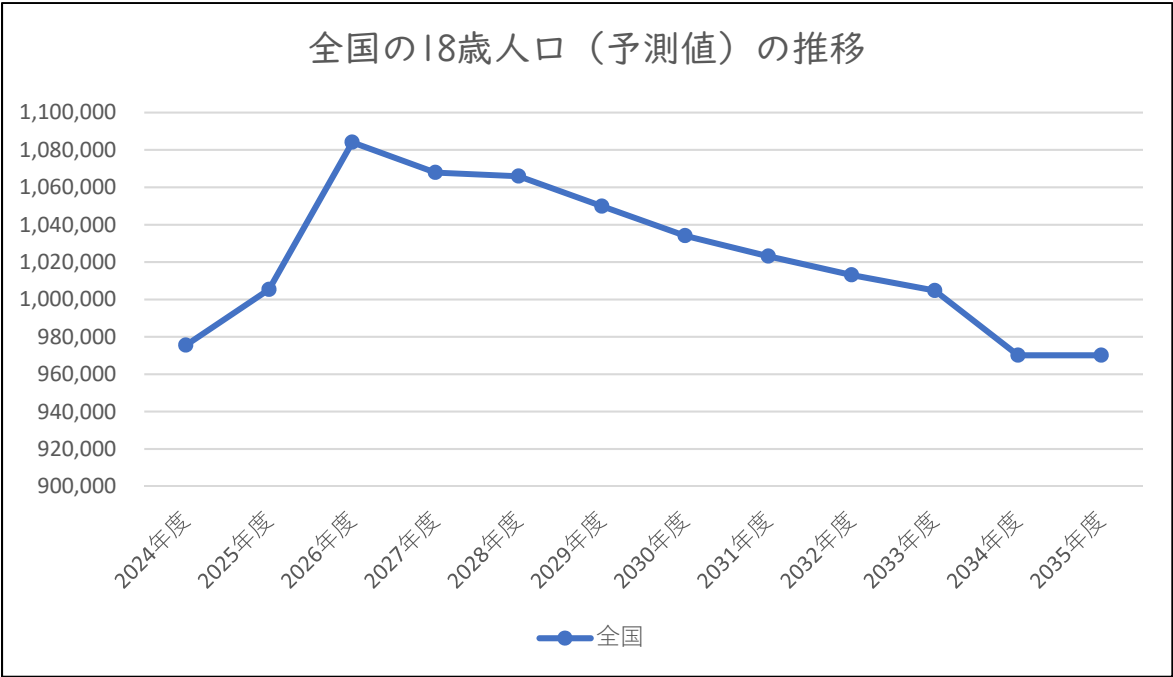
<具体目標 5>

医療関係職種の養成施設・養成所におけるA I を活用した教育の実施、医療従事者に対するリカレント教育の実施

（取組）

- ・ 医療関係職種の養成施設・養成所におけるA I を活用した教育内容の検討（2019 年度）【厚】
- ・ A I の開発・活用ができる医療従事者育成の検討（2019 年度）【文】
- ・ 医療従事者に対する、社会人向けA I 教育プログラムの枠組みの構築（2020 年度）【厚】

開設時から10年間の全国と関西の18歳人口の推移



令和5年度の学校基本調査より、算出加工した。各年度における18歳人口は以下のデータを用いた。

2024年度	高校2年生の生徒数＋中等教育学校前期課程2年生
2025年度	高校1年生＋中等教育学校後期課程1年生
2026年度	中学3年生＋中等教育学校前期課程2年生＋義務教育学校9年生
2027年度	中学2年生＋中等教育学校前期課程1年生＋義務教育学校8年生
2028年度	中学1年生＋義務教育学校7年生
2029年度	小学6年生＋義務教育学校6年生
2030年度	小学5年生＋義務教育学校5年生
2031年度	小学4年生＋義務教育学校4年生
2032年度	小学3年生＋義務教育学校3年生
2033年度	小学2年生＋義務教育学校2年生
2034年度	小学1年生＋義務教育学校1年生
2035年度	就学前については、義務教育ではないため小学1年生の生徒数とした。

2. 地域別の動向（大学・学校別）

全国を21の地域に区分した。集計は学校所在地ごととした。

地 域 区 分	年 度	集 計 学 校 数	入 学 定 員 A	志 願 者 数 B	受 験 者 数 C	合 格 者 数 D	入 学 者 数 E	志 願 倍 率 B/A	合 格 率 D/C	歩 留 率 E/D	入 学 定 員 充 足 率 E/A
		校	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
北海道	R4	24	11,158	40,092	39,128	25,803	11,402	3.59	65.95	44.19	102.19
	R5	23	10,978	35,389	34,472	23,249	10,818	3.22	67.44	46.53	98.54
	増減	△ 1	△ 180	△ 4,703	△ 4,656	△ 2,554	△ 584	△ 0.37	1.49	2.34	△ 3.65
東北 (宮城を除く)	R4	22	4,992	11,760	11,465	7,615	4,578	2.36	66.42	60.12	91.71
	R5	23	5,086	10,690	10,464	7,033	4,272	2.10	67.21	60.74	84.00
	増減	1	94	△ 1,070	△ 1,001	△ 582	△ 306	△ 0.26	0.79	0.62	△ 7.71
宮城	R4	11	8,389	33,887	33,114	19,601	8,558	4.04	59.19	43.66	102.01
	R5	11	8,439	30,572	29,988	18,916	8,299	3.62	63.08	43.87	98.34
	増減	0	50	△ 3,315	△ 3,126	△ 685	△ 259	△ 0.42	3.89	0.21	△ 3.67
関東 (埼玉、千葉、東京、 神奈川を除く)	R4	25	11,638	47,582	45,506	21,727	11,579	4.09	47.75	53.29	99.49
	R5	24	10,408	39,295	38,238	18,866	10,145	3.78	49.34	53.77	97.47
	増減	△ 1	△ 1,230	△ 8,287	△ 7,268	△ 2,861	△ 1,434	△ 0.31	1.59	0.48	△ 2.02
埼玉	R4	26	17,612	80,697	76,933	44,746	17,576	4.58	58.16	39.28	99.80
	R5	26	17,637	73,674	70,329	42,551	17,196	4.18	60.50	40.41	97.50
	増減	0	25	△ 7,023	△ 6,604	△ 2,195	△ 380	△ 0.40	2.34	1.13	△ 2.30
千葉	R4	25	14,644	177,722	169,691	61,944	14,272	12.14	36.50	23.04	97.46
	R5	26	16,199	181,096	172,912	67,202	15,467	11.18	38.86	23.02	95.48
	増減	1	1,555	3,374	3,221	5,258	1,195	△ 0.96	2.36	△ 0.02	△ 1.98
東京	R4	117	183,031	1,652,726	1,564,947	566,376	189,405	9.03	36.19	33.44	103.48
	R5	118	184,186	1,625,399	1,543,334	570,084	190,553	8.82	36.94	33.43	103.46
	増減	1	1,155	△ 27,327	△ 21,613	3,708	1,148	△ 0.21	0.75	△ 0.01	△ 0.02
神奈川	R4	25	22,824	136,026	128,819	65,036	22,899	5.96	50.49	35.21	100.33
	R5	27	23,316	128,821	121,868	65,867	23,048	5.53	54.05	34.99	98.85
	増減	2	492	△ 7,205	△ 6,951	831	149	△ 0.43	3.56	△ 0.22	△ 1.48
甲信越	R4	23	5,759	14,975	14,632	10,096	5,656	2.60	69.00	56.02	98.21
	R5	23	5,874	13,983	13,663	10,195	5,654	2.38	74.62	55.46	96.25
	増減	0	115	△ 992	△ 969	99	△ 2	△ 0.22	5.62	△ 0.56	△ 1.96
北陸	R4	13	5,549	26,755	25,745	15,467	5,429	4.82	60.08	35.10	97.84
	R5	13	5,724	23,354	22,441	15,475	5,302	4.08	68.96	34.26	92.63
	増減	0	175	△ 3,401	△ 3,304	8	△ 127	△ 0.74	8.88	△ 0.84	△ 5.21
東海 (愛知を除く)	R4	21	8,940	38,545	37,444	22,511	8,313	4.31	60.12	36.93	92.99
	R5	21	9,170	31,282	30,344	22,366	8,183	3.41	73.71	36.59	89.24
	増減	0	230	△ 7,263	△ 7,100	△ 145	△ 130	△ 0.90	13.59	△ 0.34	△ 3.75
愛知	R4	45	36,659	279,783	271,716	130,430	37,416	7.63	48.00	28.69	102.06
	R5	45	36,639	264,031	257,066	123,800	37,278	7.21	48.16	30.11	101.74
	増減	0	△ 20	△ 15,752	△ 14,650	△ 6,630	△ 138	△ 0.42	0.16	1.42	△ 0.32
近畿 (京都、大阪、兵庫を除く)	R4	15	4,533	20,007	19,329	9,640	4,100	4.41	49.87	42.53	90.45
	R5	14	4,553	15,718	15,137	9,146	3,875	3.45	60.42	42.37	85.11
	増減	△ 1	20	△ 4,289	△ 4,192	△ 494	△ 225	△ 0.96	10.55	△ 0.16	△ 5.34
京都	R4	26	36,934	364,250	348,114	139,098	37,414	9.86	39.96	26.90	101.30
	R5	26	37,215	376,542	360,319	137,971	37,726	10.12	38.29	27.34	101.37
	増減	0	281	12,292	12,205	△ 1,127	312	0.26	△ 1.67	0.44	0.07
大阪	R4	53	48,515	523,262	495,322	176,774	49,956	10.79	35.69	28.26	102.97
	R5	53	49,585	502,690	478,850	172,045	50,271	10.14	35.93	29.22	101.38
	増減	0	1,070	△ 20,572	△ 16,472	△ 4,729	315	△ 0.65	0.24	0.96	△ 1.59
兵庫	R4	28	23,523	142,177	134,631	66,551	22,791	6.04	49.43	34.25	96.89
	R5	28	23,902	140,774	133,029	65,346	22,461	5.89	49.12	34.37	93.97
	増減	0	379	△ 1,403	△ 1,602	△ 1,205	△ 330	△ 0.15	△ 0.31	0.12	△ 2.92
中国 (広島を除く)	R4	21	8,672	24,864	24,182	16,830	7,577	2.87	69.60	45.02	87.37
	R5	21	8,767	24,205	23,526	16,157	7,146	2.76	68.68	44.23	81.51
	増減	0	95	△ 659	△ 656	△ 673	△ 431	△ 0.11	△ 0.92	△ 0.79	△ 5.86
広島	R4	14	9,013	36,876	36,152	22,773	8,604	4.09	62.99	37.78	95.46
	R5	14	9,013	33,511	32,852	22,292	8,290	3.72	67.86	37.19	91.98
	増減	0	0	△ 3,365	△ 3,300	△ 481	△ 314	△ 0.37	4.87	△ 0.59	△ 3.48
四国	R4	9	4,355	11,796	11,594	9,074	3,912	2.71	78.26	43.11	89.83
	R5	9	4,355	10,073	9,886	8,582	3,677	2.31	86.81	42.85	84.43
	増減	0	0	△ 1,723	△ 1,708	△ 492	△ 235	△ 0.40	8.55	△ 0.26	△ 5.40
九州 (福岡を除く)	R4	28	11,925	31,197	30,662	21,208	11,527	2.62	69.17	54.35	96.66
	R5	28	12,305	29,658	29,249	21,394	11,675	2.41	73.14	54.57	94.88
	増減	0	380	△ 1,539	△ 1,413	186	148	△ 0.21	3.97	0.22	△ 1.78
福岡	R4	27	19,274	127,507	123,869	55,461	19,230	6.62	44.77	34.67	99.77
	R5	27	19,284	123,070	119,341	56,221	19,263	6.38	47.11	34.26	99.89
	増減	0	10	△ 4,437	△ 4,528	760	33	△ 0.24	2.34	△ 0.41	0.12
全国計	R4	598	497,939	3,822,486	3,642,995	1,508,761	502,194	7.68	41.42	33.29	100.85
	R5	600	502,635	3,713,827	3,547,308	1,494,758	500,599	7.39	42.14	33.49	99.59
	増減	2	4,696	△ 108,659	△ 95,687	△ 14,003	△ 1,595	△ 0.29	0.72	0.20	△ 1.26

3. 地域別の動向（大学・学部別）

全国を21の地域に区分した。集計は学部所在地ごととした。

地 域 区 分	年 度	集 計 学 部 数	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
		学部	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
北海道	R3	60	11,741	39,961	38,990	25,461	11,784	3.40	65.30	46.28	100.37
	R4	61	11,861	43,490	42,333	27,909	12,137	3.67	65.93	43.49	102.33
	増減	1	120	3,529	3,343	2,448	353	0.27	0.63	△ 2.79	1.96
東北 (宮城を除く)	R3	43	6,367	19,639	18,844	12,123	5,984	3.08	64.33	49.36	93.98
	R4	43	6,282	19,213	18,478	11,926	5,930	3.06	64.54	49.72	94.40
	増減	0	△ 85	△ 426	△ 366	△ 197	△ 54	△ 0.02	0.21	0.36	0.42
宮城	R3	33	8,399	31,541	30,659	18,024	8,481	3.76	58.79	47.05	100.98
	R4	33	8,389	33,887	33,114	19,601	8,558	4.04	59.19	43.66	102.01
	増減	0	△ 10	2,346	2,455	1,577	77	0.28	0.40	△ 3.39	1.03
関東 (埼玉、千葉、東京、 神奈川を除く)	R3	57	11,039	44,995	42,627	22,749	11,464	4.08	53.37	50.39	103.85
	R4	59	11,159	43,078	40,947	22,052	11,035	3.86	53.85	50.04	98.89
	増減	2	120	△ 1,917	△ 1,680	△ 697	△ 429	△ 0.22	0.48	△ 0.35	△ 4.96
埼玉	R3	84	22,570	141,322	134,463	61,325	22,305	6.26	45.61	36.37	98.83
	R4	84	22,660	137,770	131,032	64,421	22,411	6.08	49.16	34.79	98.90
	増減	0	90	△ 3,552	△ 3,431	3,096	106	△ 0.18	3.55	△ 1.58	0.07
千葉	R3	90	21,548	207,060	198,822	71,015	21,783	9.61	35.72	30.67	101.09
	R4	91	21,818	236,585	225,916	84,663	21,577	10.84	37.48	25.49	98.90
	増減	1	270	29,525	27,094	13,648	△ 206	1.23	1.76	△ 5.18	△ 2.19
東京	R3	409	154,577	1,429,349	1,358,114	445,115	155,887	9.25	32.77	35.02	100.85
	R4	414	155,555	1,402,850	1,328,298	472,191	161,225	9.02	35.55	34.14	103.65
	増減	5	978	△ 26,499	△ 29,816	27,076	5,338	△ 0.23	2.78	△ 0.88	2.80
神奈川	R3	109	34,041	253,169	240,656	99,902	34,384	7.44	41.51	34.42	101.01
	R4	112	33,928	252,029	238,533	104,086	34,789	7.43	43.64	33.42	102.54
	増減	3	△ 113	△ 1,140	△ 2,123	4,184	405	△ 0.01	2.13	△ 1.00	1.53
甲信越	R3	44	5,894	15,929	15,487	10,458	5,719	2.70	67.53	54.69	97.03
	R4	44	5,879	15,294	14,931	10,301	5,723	2.60	68.99	55.56	97.35
	増減	0	△ 15	△ 635	△ 556	△ 157	4	△ 0.10	1.46	0.87	0.32
北陸	R3	33	5,496	27,147	26,108	14,913	5,367	4.94	57.12	35.99	97.65
	R4	34	5,549	26,755	25,745	15,467	5,429	4.82	60.08	35.10	97.84
	増減	1	53	△ 392	△ 363	554	62	△ 0.12	2.96	△ 0.89	0.19
東海 (愛知を除く)	R3	63	10,266	50,280	48,784	26,358	9,968	4.90	54.03	37.82	97.10
	R4	64	10,366	44,640	43,141	25,689	9,699	4.31	59.55	37.76	93.57
	増減	1	100	△ 5,640	△ 5,643	△ 669	△ 269	△ 0.59	5.52	△ 0.06	△ 3.53
愛知	R3	157	36,186	290,512	283,118	128,874	36,497	8.03	45.52	28.32	100.86
	R4	162	36,499	277,920	270,051	129,651	37,252	7.61	48.01	28.73	102.06
	増減	5	313	△ 12,592	△ 13,067	777	755	△ 0.42	2.49	0.41	1.20
近畿 (京都、大阪、兵庫を除く)	R3	41	10,698	102,327	97,417	46,560	10,551	9.57	47.79	22.66	98.63
	R4	41	10,796	108,570	104,298	47,559	10,501	10.06	45.60	22.08	97.27
	増減	0	98	6,243	6,881	999	△ 50	0.49	△ 2.19	△ 0.58	△ 1.36
京都	R3	99	30,371	280,705	267,394	96,696	30,032	9.24	36.16	31.06	98.88
	R4	100	30,421	279,859	265,944	104,714	30,905	9.20	39.37	29.51	101.59
	増減	1	50	△ 846	△ 1,450	8,018	873	△ 0.04	3.21	△ 1.55	2.71
大阪	R3	170	47,449	495,606	471,385	159,260	49,150	10.45	33.79	30.86	103.58
	R4	178	48,070	504,421	479,003	167,012	49,369	10.49	34.87	29.56	102.70
	増減	8	621	8,815	7,618	7,752	219	0.04	1.08	△ 1.30	△ 0.88
兵庫	R3	106	23,153	146,058	138,761	63,723	22,163	6.31	45.92	34.78	95.72
	R4	107	23,303	141,614	134,196	65,660	22,504	6.08	48.93	34.27	96.57
	増減	1	150	△ 4,444	△ 4,565	1,937	341	△ 0.23	3.01	△ 0.51	0.85
中国 (広島を除く)	R3	56	8,590	24,560	23,855	15,943	7,558	2.86	66.83	47.41	87.99
	R4	55	8,382	22,401	21,833	16,099	7,330	2.67	73.74	45.53	87.45
	増減	△ 1	△ 208	△ 2,159	△ 2,022	156	△ 228	△ 0.19	6.91	△ 1.88	△ 0.54
広島	R3	49	9,493	49,651	48,260	28,265	9,242	5.23	58.57	32.70	97.36
	R4	49	9,558	46,871	45,406	27,229	9,157	4.90	59.97	33.63	95.80
	増減	0	65	△ 2,780	△ 2,854	△ 1,036	△ 85	△ 0.33	1.40	0.93	△ 1.56
四国	R3	28	4,635	14,937	14,463	10,316	4,089	3.22	71.33	39.64	88.22
	R4	29	4,715	16,004	15,497	10,487	4,289	3.39	67.67	40.90	90.97
	増減	1	80	1,067	1,034	171	200	0.17	△ 3.66	1.26	2.75
九州 (福岡を除く)	R3	71	12,505	34,209	33,622	22,731	11,560	2.74	67.61	50.86	92.44
	R4	70	12,455	33,260	32,603	22,611	12,054	2.67	69.35	53.31	96.78
	増減	△ 1	△ 50	△ 949	△ 1,019	△ 120	494	△ 0.07	1.74	2.45	4.34
福岡	R3	76	20,144	135,903	132,131	58,098	20,240	6.75	43.97	34.84	100.48
	R4	78	20,374	135,998	131,817	58,873	20,325	6.68	44.66	34.52	99.76
	増減	2	230	95	△ 314	775	85	△ 0.07	0.69	△ 0.32	△ 0.72
全国計	R3	1,878	495,162	3,834,860	3,663,960	1,437,909	494,208	7.74	39.24	34.37	99.81
	R4	1,908	498,019	3,822,509	3,643,116	1,508,201	502,199	7.68	41.40	33.30	100.84
	増減	30	2,857	△ 12,351	△ 20,844	70,292	7,991	△ 0.06	2.16	△ 1.07	1.03

4. 学部系統別の動向（大学）

全学部を『今日の私学財政』の系統区分と同様に区分した（学部系統区分については、27ページを参照）。

系 統 区 分	年 度	集 計 学部数	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
		学部	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
医学	R4	31	4,125	97,957	90,253	9,634	4,146	23.75	10.67	43.04	100.51
	R5	31	4,153	102,448	94,947	9,455	4,171	24.67	9.96	44.11	100.43
	増減	0	28	4,491	4,694	△ 179	25	0.92	△ 0.71	1.07	△ 0.08
歯学	R4	17	2,015	7,773	7,038	3,800	1,534	3.86	53.99	40.37	76.13
	R5	17	1,995	7,423	6,811	3,875	1,566	3.72	56.89	40.41	78.50
	増減	0	△ 20	△ 350	△ 227	75	32	△ 0.14	2.90	0.04	2.37
薬学	R4	60	11,391	76,635	71,916	33,351	10,798	6.73	46.37	32.38	94.79
	R5	60	11,276	74,627	69,940	32,753	10,674	6.62	46.83	32.59	94.66
	増減	0	△ 115	△ 2,008	△ 1,976	△ 598	△ 124	△ 0.11	0.46	0.21	△ 0.13
保健系	R4	266	39,729	184,961	177,173	81,466	39,444	4.66	45.98	48.42	99.28
	R5	272	40,720	171,927	165,001	80,009	39,414	4.22	48.49	49.26	96.79
	増減	6	991	△ 13,034	△ 12,172	△ 1,457	△ 30	△ 0.44	2.51	0.84	△ 2.49
理・工学系	R4	166	62,294	777,971	742,100	296,505	65,001	12.49	39.95	21.92	104.35
	R5	172	60,899	745,078	710,622	293,618	62,044	12.23	41.32	21.13	101.88
	増減	6	△ 1,395	△ 32,893	△ 31,478	△ 2,887	△ 2,957	△ 0.26	1.37	△ 0.79	△ 2.47
農学系	R4	25	8,875	79,742	73,968	33,997	9,110	8.99	45.96	26.80	102.65
	R5	25	8,850	82,069	77,130	32,361	9,144	9.27	41.96	28.26	103.32
	増減	0	△ 25	2,327	3,162	△ 1,636	34	0.28	△ 4.00	1.46	0.67
人文科学系	R4	250	68,634	498,558	477,386	212,472	67,898	7.26	44.51	31.96	98.93
	R5	251	68,526	474,386	455,464	206,138	65,979	6.92	45.26	32.01	96.28
	増減	1	△ 108	△ 24,172	△ 21,922	△ 6,334	△ 1,919	△ 0.34	0.75	0.05	△ 2.65
社会科学系	R4	528	171,944	1,379,714	1,315,956	518,994	176,631	8.02	39.44	34.03	102.73
	R5	541	174,614	1,355,137	1,296,383	519,139	179,337	7.76	40.05	34.55	102.70
	増減	13	2,670	△ 24,577	△ 19,573	145	2,706	△ 0.26	0.61	0.52	△ 0.03
家政学	R4	82	15,758	57,521	54,374	31,209	15,015	3.65	57.40	48.11	95.28
	R5	81	15,113	46,651	44,251	26,088	13,452	3.09	58.95	51.56	89.01
	増減	△ 1	△ 645	△ 10,870	△ 10,123	△ 5,121	△ 1,563	△ 0.56	1.55	3.45	△ 6.27
教育学	R4	108	18,165	97,469	93,061	43,022	16,951	5.37	46.23	39.40	93.32
	R5	113	18,708	87,385	83,473	42,230	17,094	4.67	50.59	40.48	91.37
	増減	5	543	△ 10,084	△ 9,588	△ 792	143	△ 0.70	4.36	1.08	△ 1.95
体育学	R4	11	5,190	12,619	12,271	7,751	5,409	2.43	63.17	69.78	104.22
	R5	11	5,190	10,413	10,184	7,102	5,191	2.01	69.74	73.09	100.02
	増減	0	0	△ 2,206	△ 2,087	△ 649	△ 218	△ 0.42	6.57	3.31	△ 4.20
芸術系	R4	56	14,083	56,788	54,183	23,611	14,858	4.03	43.58	62.93	105.50
	R5	57	14,448	60,391	57,834	24,676	15,217	4.18	42.67	61.67	105.32
	増減	1	365	3,603	3,651	1,065	359	0.15	△ 0.91	△ 1.26	△ 0.18
その他	R4	308	75,736	494,778	473,316	212,949	75,399	6.53	44.99	35.41	99.56
	R5	319	78,143	495,892	475,268	217,314	77,316	6.35	45.72	35.58	98.94
	増減	11	2,407	1,114	1,952	4,365	1,917	△ 0.18	0.73	0.17	△ 0.62
合 計	R4	1,908	497,939	3,822,486	3,642,995	1,508,761	502,194	7.68	41.42	33.29	100.85
	R5	1,950	502,635	3,713,827	3,547,308	1,494,758	500,599	7.39	42.14	33.49	99.59
	増減	42	4,696	△ 108,659	△ 95,687	△ 14,003	△ 1,595	△ 0.29	0.72	0.20	△ 1.26

4. 学部系統別の動向（大学）

全学部を『今日の私学財政』の系統区分と同様に区分した（学部系統区分については、27ページを参照）。

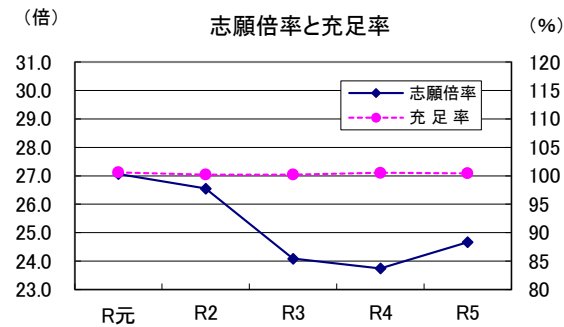
系 統 区 分	年 度	集 計 学部数	入学定員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
		学部	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
医学	R3	31	4,091	98,563	91,218	9,693	4,099	24.09	10.63	42.29	100.20
	R4	31	4,125	97,957	90,253	9,634	4,146	23.75	10.67	43.04	100.51
	増減	0	34	△ 606	△ 965	△ 59	47	△ 0.34	0.04	0.75	0.31
歯学	R3	17	2,015	7,564	6,832	3,563	1,528	3.75	52.15	42.89	75.83
	R4	17	2,015	7,773	7,038	3,800	1,534	3.86	53.99	40.37	76.13
	増減	0	0	209	206	237	6	0.11	1.84	△ 2.52	0.30
薬学	R3	60	11,501	73,580	68,606	32,506	10,191	6.40	47.38	31.35	88.61
	R4	60	11,391	76,635	71,916	33,351	10,798	6.73	46.37	32.38	94.79
	増減	0	△ 110	3,055	3,310	845	607	0.33	△ 1.01	1.03	6.18
保健系	R3	254	38,143	188,155	180,494	80,307	38,130	4.93	44.49	47.48	99.97
	R4	266	39,789	184,961	177,173	81,466	39,444	4.65	45.98	48.42	99.13
	増減	12	1,646	△ 3,194	△ 3,321	1,159	1,314	△ 0.28	1.49	0.94	△ 0.84
理・工学系	R3	162	62,626	751,179	719,116	281,649	63,192	11.99	39.17	22.44	100.90
	R4	166	62,294	777,971	742,101	296,505	65,001	12.49	39.95	21.92	104.35
	増減	4	△ 332	26,792	22,985	14,856	1,809	0.50	0.78	△ 0.52	3.45
農学系	R3	25	9,042	78,039	72,644	34,714	8,717	8.63	47.79	25.11	96.41
	R4	25	8,875	79,742	73,968	33,437	9,110	8.99	45.20	27.25	102.65
	増減	0	△ 167	1,703	1,324	△ 1,277	393	0.36	△ 2.59	2.14	6.24
人文科学系	R3	245	68,184	520,901	501,151	199,642	67,710	7.64	39.84	33.92	99.30
	R4	250	68,634	498,562	477,398	212,472	67,898	7.26	44.51	31.96	98.93
	増減	5	450	△ 22,339	△ 23,753	12,830	188	△ 0.38	4.67	△ 1.96	△ 0.37
社会科学系	R3	526	171,506	1,379,159	1,317,801	490,212	174,183	8.04	37.20	35.53	101.56
	R4	528	171,944	1,379,719	1,316,040	518,999	176,636	8.02	39.44	34.03	102.73
	増減	2	438	560	△ 1,761	28,787	2,453	△ 0.02	2.24	△ 1.50	1.17
家政学	R3	83	16,133	60,407	56,819	33,126	15,183	3.74	58.30	45.83	94.11
	R4	82	15,758	57,535	54,387	31,209	15,015	3.65	57.38	48.11	95.28
	増減	△ 1	△ 375	△ 2,872	△ 2,432	△ 1,917	△ 168	△ 0.09	△ 0.92	2.28	1.17
教育学	R3	104	17,832	100,983	96,453	40,613	16,834	5.66	42.11	41.45	94.40
	R4	108	18,165	97,469	93,063	43,021	16,950	5.37	46.23	39.40	93.31
	増減	4	333	△ 3,514	△ 3,390	2,408	116	△ 0.29	4.12	△ 2.05	△ 1.09
体育学	R3	11	5,040	12,680	12,240	7,480	5,106	2.52	61.11	68.26	101.31
	R4	11	5,190	12,619	12,271	7,751	5,409	2.43	63.17	69.78	104.22
	増減	0	150	△ 61	31	271	303	△ 0.09	2.06	1.52	2.91
芸術系	R3	56	14,069	53,218	51,128	23,318	14,742	3.78	45.61	63.22	104.78
	R4	56	14,083	56,788	54,183	23,611	14,858	4.03	43.58	62.93	105.50
	増減	0	14	3,570	3,055	293	116	0.25	△ 2.03	△ 0.29	0.72
その他	R3	304	74,980	510,432	489,458	201,086	74,593	6.81	41.08	37.10	99.48
	R4	308	75,756	494,778	473,325	212,945	75,400	6.53	44.99	35.41	99.53
	増減	4	776	△ 15,654	△ 16,133	11,859	807	△ 0.28	3.91	△ 1.69	0.05
合 計	R3	1,878	495,162	3,834,860	3,663,960	1,437,909	494,208	7.74	39.24	34.37	99.81
	R4	1,908	498,019	3,822,509	3,643,116	1,508,201	502,199	7.68	41.40	33.30	100.84
	増減	30	2,857	△ 12,351	△ 20,844	70,292	7,991	△ 0.06	2.16	△ 1.07	1.03

学部系統別の動向 過去5カ年の推移（大学）

過去5カ年における学部系統別の学部数、志願倍率、入学定員充足率を下表に示した。

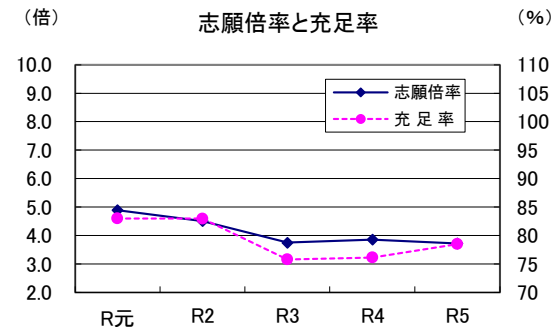
医学

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
学 部 数	31	31	31	31	31
志願倍率	27.07	26.55	24.09	23.75	24.67
充 足 率	100.63	100.20	100.20	100.51	100.43



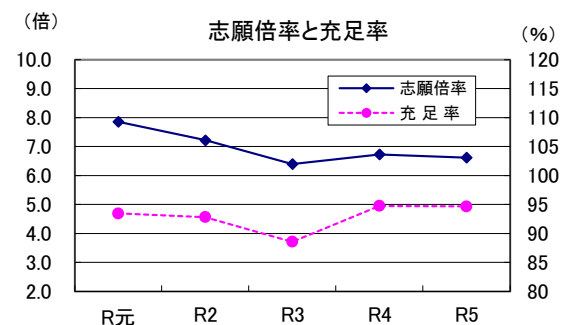
歯学

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
学 部 数	17	17	17	17	17
志願倍率	4.90	4.51	3.75	3.86	3.72
充 足 率	83.03	82.98	75.83	76.13	78.50



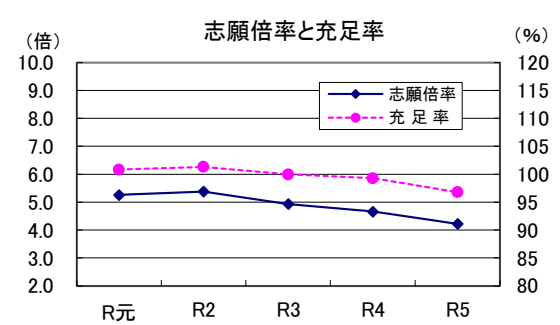
薬学

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
学 部 数	57	59	60	60	60
志願倍率	7.86	7.22	6.40	6.73	6.62
充 足 率	93.46	92.82	88.61	94.79	94.66



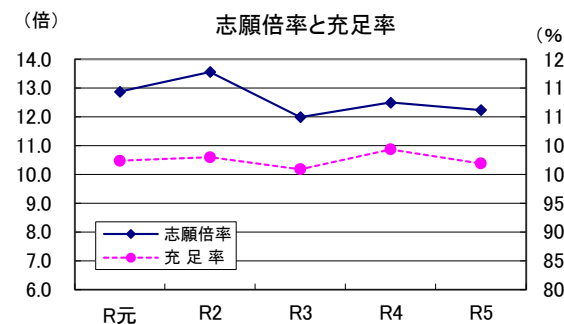
保健系

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
学 部 数	236	244	254	266	272
志願倍率	5.26	5.38	4.93	4.66	4.22
充 足 率	100.81	101.34	99.97	99.28	96.79



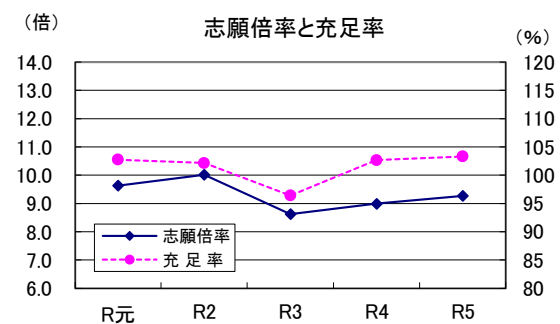
理・工学系

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
学 部 数	151	157	162	166	172
志願倍率	12.87	13.56	11.99	12.49	12.23
充 足 率	102.35	102.97	100.90	104.35	101.88



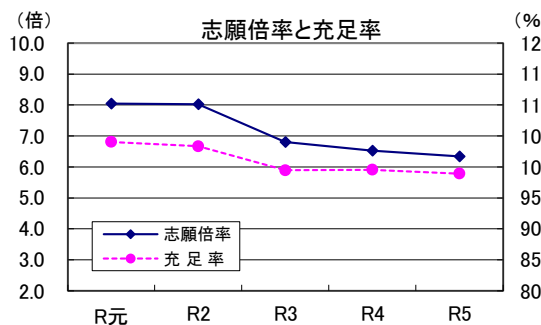
農学系

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
学 部 数	22	23	25	25	25
志願倍率	9.63	10.02	8.63	8.99	9.27
充 足 率	102.76	102.15	96.41	102.65	103.32



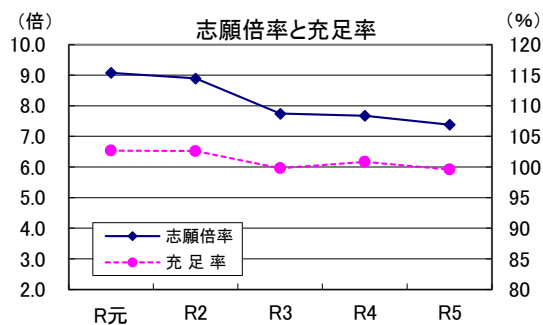
その他

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
学 部 数	288	297	304	308	319
志願倍率	8.05	8.03	6.81	6.53	6.35
充 足 率	104.04	103.34	99.48	99.56	98.94



合計

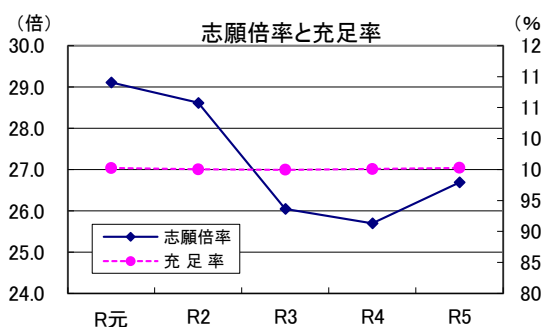
年 度	R元	R2	R3	R4	R5
学 部 数	1,814	1,849	1,878	1,908	1,950
志願倍率	9.08	8.90	7.74	7.68	7.39
充 足 率	102.67	102.61	99.81	100.85	99.59



参 考

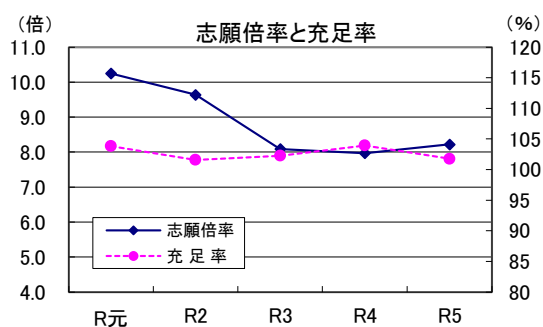
医学部（看護学科を除く）

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
学 部 数	31	31	31	31	31
志願倍率	29.11	28.62	26.05	25.70	26.69
充 足 率	100.25	100.03	99.95	100.08	100.27



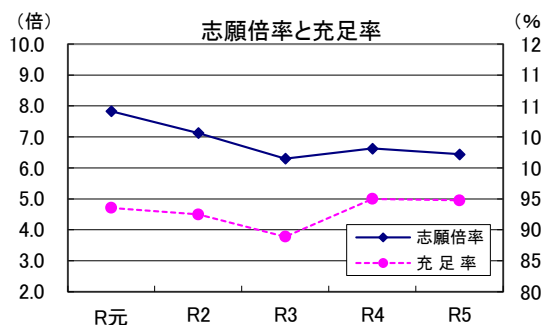
医学部（看護学科）

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
学 部 数	5	5	5	5	5
志願倍率	10.25	9.64	8.09	7.97	8.22
充 足 率	103.82	101.57	102.25	103.96	101.76



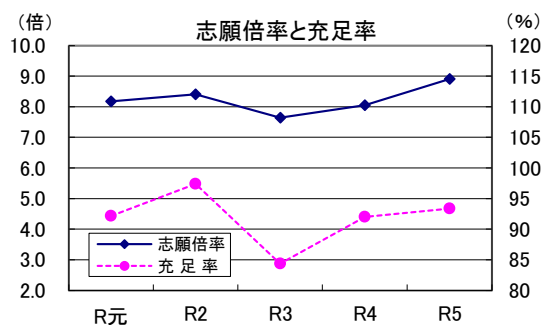
薬学部（6年制）

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
学 部 数	57	59	60	60	60
志願倍率	7.83	7.13	6.30	6.63	6.44
充 足 率	93.55	92.49	88.92	95.01	94.76



薬学部（4年制）

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
学 部 数	13	13	13	14	14
志願倍率	8.18	8.41	7.65	8.05	8.91
充 足 率	92.16	97.39	84.40	92.02	93.37



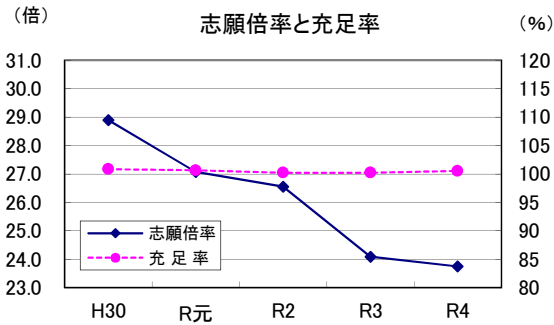
※医学、理・工学系、農学系、医学部の志願倍率目盛、歯学系の充足率目盛は他の系統と異なる。

学部系統別の動向 過去5カ年の推移（大学）

過去5カ年における学部系統別の学部数、志願倍率、入学定員充足率を下表に示した。

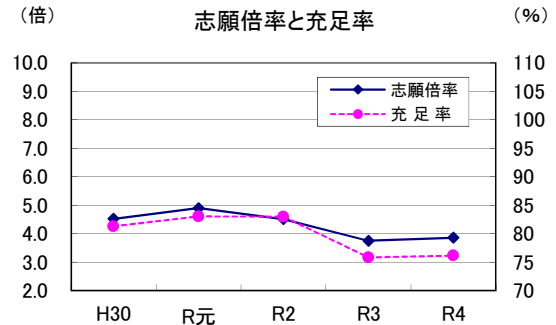
医学

年 度	H30	R元	R2	R3	R4
学 部 数	31	31	31	31	31
志願倍率	28.89	27.07	26.55	24.09	23.75
充 足 率	100.83	100.63	100.20	100.20	100.51



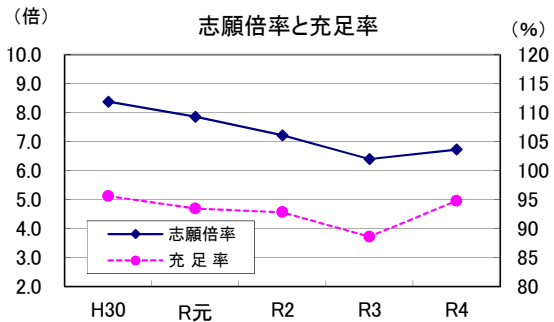
歯学

年 度	H30	R元	R2	R3	R4
学 部 数	17	17	17	17	17
志願倍率	4.52	4.90	4.51	3.75	3.86
充 足 率	81.29	83.03	82.98	75.83	76.13



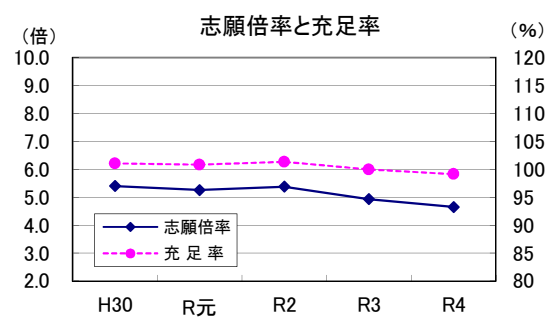
薬学

年 度	H30	R元	R2	R3	R4
学 部 数	57	57	59	60	60
志願倍率	8.38	7.86	7.22	6.40	6.73
充 足 率	95.62	93.46	92.82	88.61	94.79



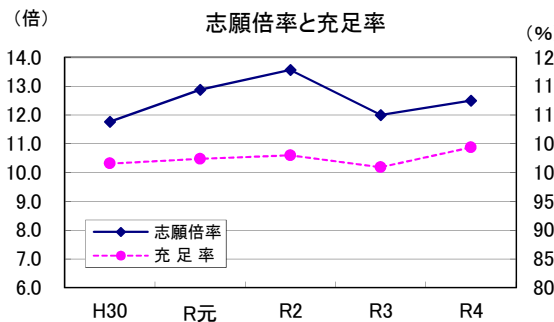
保健系

年 度	H30	R元	R2	R3	R4
学 部 数	220	236	244	254	266
志願倍率	5.40	5.26	5.38	4.93	4.65
充 足 率	101.06	100.81	101.34	99.97	99.13



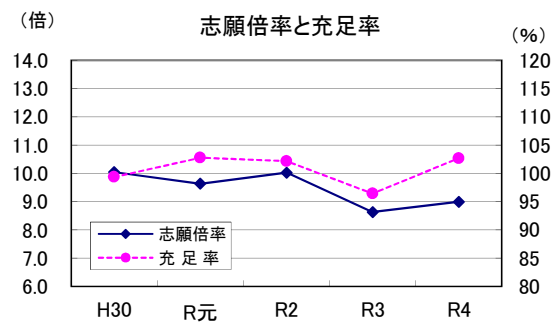
理・工学系

年 度	H30	R元	R2	R3	R4
学 部 数	150	151	157	162	166
志願倍率	11.76	12.87	13.56	11.99	12.49
充 足 率	101.55	102.35	102.97	100.90	104.35



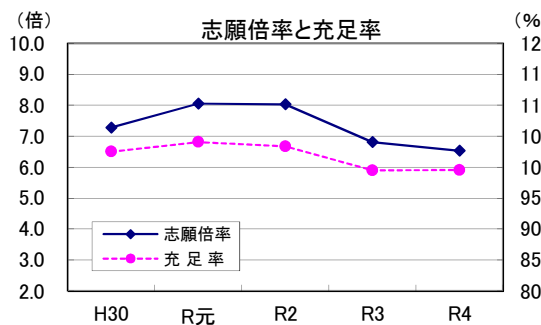
農学系

年 度	H30	R元	R2	R3	R4
学 部 数	21	22	23	25	25
志願倍率	10.04	9.63	10.02	8.63	8.99
充 足 率	99.36	102.76	102.15	96.41	102.65



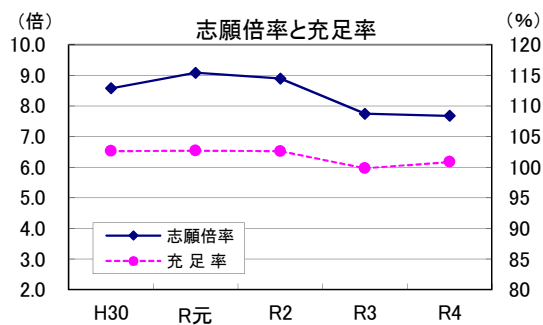
その他

年 度	H30	R元	R2	R3	R4
学 部 数	281	288	297	304	308
志願倍率	7.28	8.05	8.03	6.81	6.53
充 足 率	102.50	104.04	103.34	99.48	99.53



合計

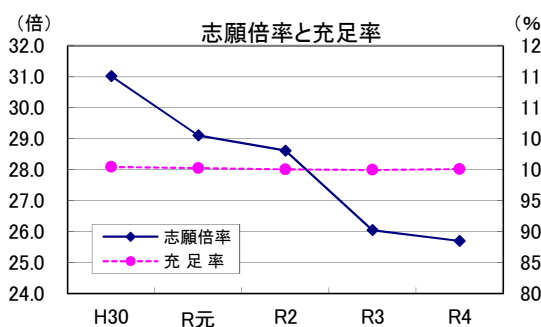
年 度	H30	R元	R2	R3	R4
学 部 数	1,776	1,814	1,849	1,878	1,908
志願倍率	8.57	9.08	8.90	7.74	7.68
充 足 率	102.64	102.67	102.61	99.81	100.84



参 考

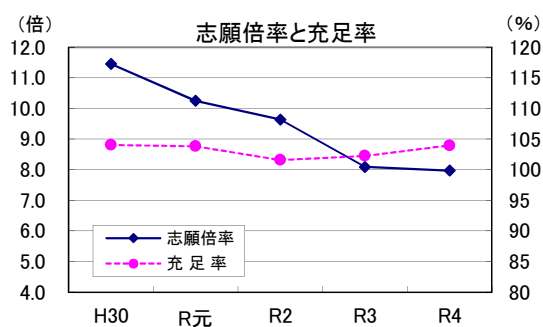
医学部（看護学科を除く）

年 度	H30	R元	R2	R3	R4
学 部 数	31	31	31	31	31
志願倍率	31.02	29.11	28.62	26.05	25.70
充 足 率	100.44	100.25	100.03	99.95	100.08



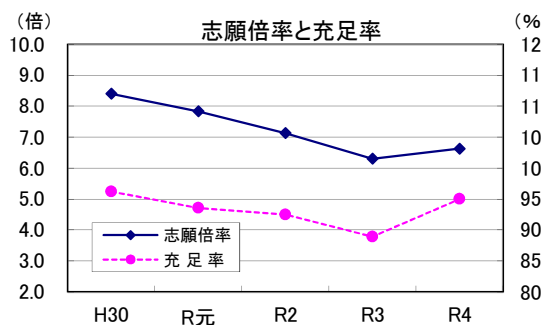
医学部（看護学科）

年 度	H30	R元	R2	R3	R4
学 部 数	5	5	5	5	5
志願倍率	11.46	10.25	9.64	8.09	7.97
充 足 率	104.04	103.82	101.57	102.25	103.96



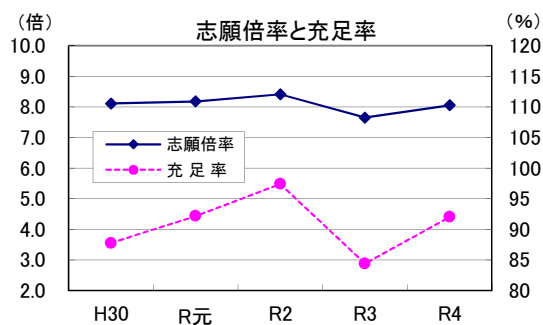
薬学部（6年制）

年 度	H30	R元	R2	R3	R4
学 部 数	57	57	59	60	60
志願倍率	8.40	7.83	7.13	6.30	6.63
充 足 率	96.21	93.55	92.49	88.92	95.01



薬学部（4年制）

年 度	H30	R元	R2	R3	R4
学 部 数	14	13	13	13	14
志願倍率	8.11	8.18	8.41	7.65	8.05
充 足 率	87.75	92.16	97.39	84.40	92.02



※医学、理・工学系、農学系、医学部の志願倍率目盛、歯学系の充足率目盛は他の系統と異なる。

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	大阪府	799人	53.7%
2	兵庫県	245人	16.5%
3	京都府	127人	8.5%
4	奈良県	74人	5.0%
5	滋賀県	53人	3.6%
	全 体	1,488人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	大阪府	103.74%	102.98%	101.38%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	保健系学部(大学)	99.97%	99.28%	96.79%
2	理・工学系(大学)	100.90%	104.35%	101.88%
3	その他(大学)	99.48%	99.56%	98.94%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

大阪電気通信大学
「健康情報学部 健康情報学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和6年3月

株式会社 進研アド

— 学生の確保の見通し等（資料） — 44 —

1. 調査目的

2025年4月開設予定の大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称)の設置構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査	
		調査①	調査②
調査対象		高校2年生	接触者 (高校2年生)
調査エリア		北海道、富山県、石川県、静岡県、 愛知県、三重県、滋賀県、京都府、 大阪府、兵庫県、奈良県、 和歌山県、鳥取県、島根県、 愛媛県、福岡県、熊本県、宮崎県	—
調査方法		高校留め置き調査	郵送調査・Web回答
調査 対象数	依頼数	20,400名(124校)	6,788名
	有効 回収数	10,767名(101校) 有効回収率:52.8%	523名 有効回収率:7.7%
調査時期		2023年11月21日(火)～ 2023年12月22日(金)	2023年11月21日(火)～ 2023年12月20日(水)
調査実施機関		株式会社 進研アド	

3. 調査項目

高校生対象調査
・性別 ・学年 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・志望する設置者 ・興味のある学問分野 ・大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度 ・大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」への受験意向 ・大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」への入学意向
— 学生の確保の見通し等(資料) — 45 —

入学意向調査 調査結果

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答者全体(11,290名)

回答者の属性

※本調査は、大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」に対する需要を確認するための調査として設計。以下2種類の調査を実施して、合計11,290名から有効な回答を得た。

①高校留め置き調査

②接触者調査

※各調査とも、重複してアンケートに回答していないかを聞く質問を設け、「同じアンケートに回答したことがある」と回答した人は集計から除外している。そのため、①高校留め置き調査、②接触者調査で回答した高校生の間に回答者の重複はない。

- 調査対象者別の回答者数は、①高校留め置き調査が10,767名、②接触者調査が523名である。回答者全体に占める割合は、①高校留め置き調査が95.4%、②接触者調査が4.6%である。
- 回答者の性別は「男性」が56.7%、「女性」が40.0%である。
- 回答者の学年は「2年生」が100.0%である。
- 回答者の高校種別は「公立」が30.7%、「私立」が69.3%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、大阪電気通信大学の所在地である「大阪府」が56.3%を占め、最も多い。次いで「兵庫県」が13.5%、「京都府」が12.6%と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が39.2%で最も多い。次いで「理系クラス(理系コース)」が25.6%、「その他」が17.3%と続く。

■調査対象

	標 本 数	調 査 留 め 置 き	接 触 者
上段: % 下段: 件数(名)			
全体	11,290	95.4 10,767	4.6 523

■性別

	標 本 数	男 性	女 性	回 答 し な い	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)					
全体	11,290	56.7 6,396	40.0 4,515	2.4 268	1.0 111

■学年

	標 本 数	1 年 生	2 年 生	3 年 生	そ の 他	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)						
全体	11,290	0.0 0	100.0 11,290	0.0 0	0.0 0	0.0 0

■高校種別

	標 本 数	国 立	公 立	私 立	そ の 他	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)						
全体	11,290	0.0 2	30.7 3,467	69.3 7,821	0.0 0	0.0 0

学生の確保の見通し等（資料）

回答者の属性

■高校所在地

	標 本 数	北 海 道	富 山 県	石 川 県	山 梨 県	静 岡 県	三 重 県	滋 賀 県	京 都 府	大 阪 府	兵 庫 県
上段: % 下段: 件数(名)											
全体	11,290	0.1 16	0.6 68	1.0 117	0.0 1	1.2 133	0.1 15	9.8 1,108	12.6 1,419	56.3 6,357	13.5 1,519

	標 本 数	奈 良 県	和 歌 山 県	鳥 取 県	島 根 県	岡 山 県	愛 媛 県	福 岡 県	長 崎 県	沖 縄 県	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)											
全体	11,290	2.6 293	0.5 57	0.9 102	0.0 1	0.0 2	0.5 60	0.2 19	0.0 1	0.0 2	0.0 0

■所属クラス

	標 本 数	文 系 ク ラ ス (文 系 コ ー ス)	理 系 ク ラ ス (理 系 コ ー ス)	コ ー ス 選 択 は な い	そ の 他	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)						
全体	11,290	39.2 4,431	25.6 2,891	13.8 1,563	17.3 1,948	4.0 457

高校卒業後の希望進路

- ・回答者のうち、今後「大学」に進学することを検討・希望している人は78.4%。
次いで、「専門学校」に進学が19.1%、「就職」が9.1%と続く。「短期大学」に進学は6.4%、「専門職大学」に進学は5.0%、「専門職短期大学」が1.3%である。
- ・高校卒業後の希望進路として「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した人に、設置者ごとの進学希望を複数回答で聴取した。
その結果、大阪電気通信大学の該当する「私立」への進学を希望する人は83.2%、「国立」が23.5%、「公立」が29.6%であった。

■高校卒業後の進路

Q1. あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。現在検討している進路すべてに○をつけてください。(複数選択可)

	標 本 数	大 学	短 期 大 学	専 門 職 大 学	専 門 職 短 期 大 学	専 門 学 校	就 職	そ の 他	無 回 答
上段：% 下段：件数(名)									
全体	11,290	78.4 8,848	6.4 728	5.0 569	1.3 144	19.1 2,156	9.1 1,026	2.5 279	0.4 42



※「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した9,266名を抽出

■希望する大学等の区分(設置者)

Q2. Q1で①～④を選択した方に質問です。(※Q1で①～④を選択しなかった方は、Q3に進んでください。)
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。
現在検討している(希望している)設置者すべてに○をつけてください。(複数選択可)

	標 本 数	私 立	国 立	公 立	無 回 答
上段：% 下段：件数(名)					
全体	9,266	83.2 7,705	23.5 2,181	29.6 2,746	0.9 84

興味のある学問分野

- 回答者の興味のある学問分野を複数回答で聴取したところ、「その他」及び「わからない」を除けば「人文科学, 社会科学(文学, 法学, 経済学など)」が16.3%で最も高い。各専攻の学びと関連する学問分野は以下の通り。

医療工学, 医療科学:8.2% (関連専攻「医療工学専攻」)

理学療法学:6.8% (関連専攻「理学療法学専攻」)

スポーツ科学, 健康科学:13.8% (関連専攻「スポーツ科学専攻」)

医療情報工学(AI技術の医療応用などデジタルヘルスケア分野を発展させるための学び):2.7% (関連専攻「医療工学専攻」)

健康情報科学(理学療法やスポーツの現場でICTを効果的に活用し、健康を支えるための学び):3.4% (関連専攻「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」)

- 回答者のうち、私立大学進学希望者に限定すると、興味のある学問分野は「その他」を除けば「人文科学, 社会科学(文学, 法学, 経済学など)」が20.8%で最も高い。各専攻の学びと関連する学問分野は以下の通り。

医療工学, 医療科学:8.1% (関連専攻「医療工学専攻」)

理学療法学:7.7% (関連専攻「理学療法学専攻」)

スポーツ科学, 健康科学:16.4% (関連専攻「スポーツ科学専攻」)

医療情報工学(AI技術の医療応用などデジタルヘルスケア分野を発展させるための学び):2.5% (関連専攻「医療工学専攻」)

健康情報科学(理学療法やスポーツの現場でICTを効果的に活用し、健康を支えるための学び):3.9% (関連専攻「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」)

<私立大学進学希望者>

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。

■興味のある学問分野

Q3. ここからは**全員**にお聞きします。

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

以下の項目から、興味のある学問分野すべてに○をつけてください。(複数選択可)

※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

	標 本 数	医療工学，医療科学	理学療法学	スポーツ科学，健康科学	医療情報工学（ＡＩ技術の医療応用などデジタルヘルスケア分野を進展させるための学び）	健康情報科学（理学療法やスポーツの現場でＩＣＴを効果的に活用し、健康を支えるための学び）	その他工学（医療（情報）工学，医療科学を除く）	その他保健（理学療法学を除く）
上段：％ 下段：件数(名)								
全体	11,290	8.2 924	6.8 768	13.8 1,561	2.7 307	3.4 388	9.0 1,015	3.3 372

	標 本 数	生 理 学 (数 学 ・ 物 理 学 ・)	農 学 (林 学 ・ 水 産 学 な ど)	人 文 科 学 ・ 法 学 ・ 社 会 科 学 な ど)	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
上段:% 下段:件数(名)							
全体	11,290	8.4 950	3.9 441	16.3 1,843	34.0 3,842	17.5 1,972	0.7 84

<私立大学進学希望者ベース>

	標 本 数	医療工学・医療科学	理学療法学	スポーツ科学・健康科学	医療情報工学（ＡＩ技術の医療応用などデジタルヘルスケア分野を進展させるための学び）	健康情報科学（理学療法やスポーツの現場でＩＣＴを効果的に活用し、健康を支えるための学び）	その他工学（医療（情報）工学・医療科学を除く）	その他保健（理学療法学を除く）
上段：％ 下段：件数(名)								
私立大学 進学希望者	7,393	8.1 598	7.7 570	16.4 1,213	2.5 187	3.9 292	9.2 682	3.3 243

	標 本 数	生 理 学 (数 学 ・ 物 理 学 ・)	農 学 (林 学 ・ 水 産 学 な ど)	人 文 科 学 ・ 法 学 ・ 社 会 科 学 な ど)	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
上段:% 下段:件数(名)							
私立大学 進学希望者	7,393	8.6 635	3.9 291	20.8 1,539	31.0 2,292	16.0 1,186	0.3 21

※%の母数は、私立大学進学希望者(7,393名)

※ここからは、下記の①～③の条件すべてに合致する回答者を、
大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」のターゲット層と
定義し、分析を行う。

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」の学びと関連する学問分野への興味あり
(医療工学、医療科学、医療情報工学(AI技術の医療応用などデジタルヘルスケア分野を発展させるための学び)のいずれかに興味あり)

大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」への受験・入学意向

- 上記の①～③の条件すべてに合致する回答者(健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻のターゲット層該当者)は、689名である。
- ターゲット層該当者の、「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」への受験意向、入学意向をみると、
 - ◇「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は59名
 - ◇「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は5名
 - ◇「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は3名
 上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、67名。

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」への受験・入学意向

Q5. 大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科(仮称、設置構想中)が開設された場合、受験を希望しますか。
上記の学科に設けられる「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)のそれぞれの専攻について、次より1つずつ選択してください。

Q6. Q5で①～③(受験する)を選択した専攻についてお答えください。

大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科(仮称、設置構想中)の「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。それぞれの専攻について、次より1つずつ選択してください。

上段：％ 下段：件数(名)		入学意向		
		入学する	志望順位が上位の他の専攻・志望校が不合格の場合に入学する	入学しない
受験意向	第一志望	0.5 59	0.2 25	0.1 12
	第二志望	0.0 5	0.4 43	0.1 7
	第三志望以降	0.0 3	0.8 95	0.1 15
	受験意向あり・合計	0.5 67	1.4 163	0.3 34
	受験しない	3.5 398		

※％の母数は、回答者全体(11,290名)

大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」: 特色に対する魅力度

【健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻 ターゲット層】
下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 689名（回答者全体の6.1%）

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」の学びと関連する学問分野への興味あり
(医療工学, 医療科学, 医療情報工学(AI技術の医療応用などデジタルヘルスケア分野を発展させるための学び)のいずれかに興味あり)



- ・ターゲット層における「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、最も高いのは「A. AI・データサイエンスについての知識を基礎から磨き、AIやICTの技術を医療現場や一人ひとりの健康に活用する方法を学びます。」(81.1%)。次に高いのは「C. 理学療法への活用、ユニバーサルデザインを取り入れていく等、多分野で発展しているeスポーツについて、実践・体験するだけでなく、指導や運営も含めて健康を支えるためのeスポーツを学びます。」(70.2%)と続く。
- ・ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人（第一志望者）における「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、最も高いのは「A. AI・データサイエンスについての知識を基礎から磨き、AIやICTの技術を医療現場や一人ひとりの健康に活用する方法を学びます。」(91.5%)。次に高いのは「B. 専門科目によって3つの専門分野を設けていますが、「専攻横断型カリキュラム」により他専攻の学びたい科目を柔軟に選ぶことができます。また、「特修コース」を通じて専門の深い学びとキャリアアップをめざすことも可能です。」(88.1%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度

Q4. 大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色A. AI・データサイエンスについての知識を基礎から磨き、AIやICTの技術を医療現場や一人ひとりの健康に活用する方法を学びます。

特色B. 専門科目によって3つの専門分野を設けていますが、「専攻横断型カリキュラム」により他専攻の学びたい科目を柔軟に選ぶことができます。また、「特修コース」を通じて専門の深い学びとキャリアアップをめざすことも可能です。

特色C. 理学療法への活用、ユニバーサルデザインを取り入れていく等、多分野で発展しているeスポーツについて、実践・体験するだけでなく、指導や運営も含めて健康を支えるためのeスポーツを学びます。

上段:% 下段:件数(名)	標本数	特色A	特色B	特色C
ターゲット層	689	81.1 559	70.1 483	70.2 484
第一志望者	59	91.5 54	88.1 52	79.7 47

※第一志望者:

ターゲット層(大学進学希望×私立×関連学問分野興味あり)該当者のうち、
大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」を「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人

※ここからは、下記の①～③の条件すべてに合致する回答者を、
大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」のターゲット
層と定義し、分析を行う。

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」の学びと関連する学
問分野への興味あり
(理学療法学、健康情報科学(理学療法やスポーツの現場でICTを効果的に活
用し、健康を支えるための学び)のいずれかに興味あり)

大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」への受験・入学意向

- 上記の①～③の条件すべてに合致する回答者(健康情報学部 健康情報学科
理学療法学専攻のターゲット層該当者)は、785名である。
- ターゲット層該当者の、「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」への受
験意向、入学意向をみると、
 - ◇「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は67名
 - ◇「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は6名
 - ◇「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は1名
 上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、74名。

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」への 受験・入学意向

Q5. 大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科(仮称、設置構想中)が開設された場合、受験を希望しますか。
上記の学科に設けられる「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)の
それぞれの専攻について、次より1つずつ選択してください。

Q6. Q5で①～③(受験する)を選択した専攻についてお答えください。

大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科(仮称、設置構想中)の「医療工学専攻」「理学療法学専攻」
「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。それぞれの専攻について、
次より1つずつ選択してください。

上段：％ 下段：件数(名)		入学意向		
		入学する	志望順位が上位の 他の専攻・志望校 が不合格の場合に 入学する	入学しない
受験 意 向	第一志望	0.6 67	0.3 31	0.1 16
	第二志望	0.1 6	0.5 61	0.1 8
	第三志望以降	0.0 1	1.0 111	0.2 25
	受験意向あり・合計	0.7 74	1.8 203	0.4 49
受験しない		3.8 426		

※％の母数は、回答者全体(11,290名)

大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」: 特色に対する魅力度

【健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻 ターゲット層】
下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 785名（回答者全体の7.0%）

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」の学びと関連する学問分野への興味あり
(理学療法学、健康情報科学(理学療法やスポーツの現場でICTを効果的に活用し、健康を支えるための学び)のいずれかに興味あり)



- ・ターゲット層における「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、最も高いのは「C. 理学療法への活用、ユニバーサルデザインを取り入れていく等、多分野で発展しているeスポーツについて、実践・体験するだけでなく、指導や運営も含めて健康を支えるためのeスポーツを学びます。」(75.5%)。次に高いのは「A. AI・データサイエンスについての知識を基礎から磨き、AIやICTの技術を医療現場や一人ひとりの健康に活用する方法を学びます。」(75.2%)と続く。
- ・ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人（第一志望者）における「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、最も高いのは「C. 理学療法への活用、ユニバーサルデザインを取り入れていく等、多分野で発展しているeスポーツについて、実践・体験するだけでなく、指導や運営も含めて健康を支えるためのeスポーツを学びます。」(91.0%)。次に高いのは「A. AI・データサイエンスについての知識を基礎から磨き、AIやICTの技術を医療現場や一人ひとりの健康に活用する方法を学びます。」(85.1%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」: 特色に対する魅力度

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度

Q4. 大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色A. AI・データサイエンスについての知識を基礎から磨き、AIやICTの技術を医療現場や一人ひとりの健康に活用する方法を学びます。

特色B. 専門科目によって3つの専門分野を設けていますが、「専攻横断型カリキュラム」により他専攻の学びたい科目を柔軟に選ぶことができます。また、「特修コース」を通じて専門の深い学びとキャリアアップをめざすことも可能です。

特色C. 理学療法への活用、ユニバーサルデザインを取り入れていく等、多分野で発展しているeスポーツについて、実践・体験するだけでなく、指導や運営も含めて健康を支えるためのeスポーツを学びます。

上段:% 下段:件数(名)	標本数	特色A	特色B	特色C
ターゲット層	785	75.2 590	68.5 538	75.5 593
第一志望者	67	85.1 57	73.1 49	91.0 61

※第一志望者:

ターゲット層(大学進学希望×私立×関連学問分野興味あり)該当者のうち、
大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」を「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人

※ここからは、下記の①～③の条件すべてに合致する回答者を、
大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」のターゲット
層と定義し、分析を行う。

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」の学びと関連する学
問分野への興味あり
(スポーツ科学、健康科学、健康情報科学(理学療法やスポーツの現場でICTを
効果的に活用し、健康を支えるための学び)のいずれかに興味あり)

大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」への受験・入学意向

- 上記の①～③の条件すべてに合致する回答者(健康情報学部 健康情報学科
スポーツ科学専攻のターゲット層該当者)は、1,322名である。
- ターゲット層該当者の、「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」への
受験意向、入学意向をみると、
 - ◇「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は136名
 - ◇「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は6名
 - ◇「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は8名
 上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、150名。

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」への 受験・入学意向

Q5. 大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科(仮称、設置構想中)が開設された場合、受験を希望しますか。
上記の学科に設けられる「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)の
それぞれの専攻について、次より1つずつ選択してください。

Q6. Q5で①～③(受験する)を選択した専攻についてお答えください。
大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科(仮称、設置構想中)の「医療工学専攻」「理学療法学専攻」
「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。それぞれの専攻について、
次より1つずつ選択してください。

上段：％ 下段：件数(名)		入学意向		
		入学する	志望順位が上位の 他の専攻・志望校 が不合格の場合に 入学する	入学しない
受 験 意 向	第一志望	1.2 136	0.4 49	0.2 21
	第二志望	0.1 6	0.5 54	0.1 10
	第三志望以降	0.1 8	1.3 149	0.3 29
	受験意向あり・合計	1.4 150	2.2 252	0.6 60
	受験しない	7.1 807		

※％の母数は、回答者全体(11,290名)

大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」: 特色に対する魅力度

【健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻 ターゲット層】
下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 1,322名（回答者全体の11.7%）

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」の学びと関連する学問分野への興味あり
(スポーツ科学、健康科学、健康情報科学(理学療法やスポーツの現場でICTを効果的に活用し、健康を支えるための学び)のいずれかに興味あり)



- ・ターゲット層における「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、最も高いのは「C. 理学療法への活用、ユニバーサルデザインを取り入れていく等、多分野で発展しているeスポーツについて、実践・体験するだけでなく、指導や運営も含めて健康を支えるためのeスポーツを学びます。」(66.6%)。次に高いのは「A. AI・データサイエンスについての知識を基礎から磨き、AIやICTの技術を医療現場や一人ひとりの健康に活用する方法を学びます。」(63.2%)と続く。
- ・ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人(第一志望者)における「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、最も高いのは「C. 理学療法への活用、ユニバーサルデザインを取り入れていく等、多分野で発展しているeスポーツについて、実践・体験するだけでなく、指導や運営も含めて健康を支えるためのeスポーツを学びます。」(66.2%)。次に高いのは「B. 専門科目によって3つの専門分野を設けていますが、「専攻横断型カリキュラム」により他専攻の学びたい科目を柔軟に選ぶことができます。また、「特修コース」を通じて専門の深い学びとキャリアアップをめざすことも可能です。」(65.4%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度

Q4. 大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色A. AI・データサイエンスについての知識を基礎から磨き、AIやICTの技術を医療現場や一人ひとりの健康に活用する方法を学びます。

特色B. 専門科目によって3つの専門分野を設けていますが、「専攻横断型カリキュラム」により他専攻の学びたい科目を柔軟に選ぶことができます。また、「特修コース」を通じて専門の深い学びとキャリアアップをめざすことも可能です。

特色C. 理学療法への活用、ユニバーサルデザインを取り入れていく等、多分野で発展しているeスポーツについて、実践・体験するだけでなく、指導や運営も含めて健康を支えるためのeスポーツを学びます。

上段:% 下段:件数(名)	標本数	特色A	特色B	特色C
ターゲット層	1,322	63.2 835	58.9 778	66.6 880
第一志望者	136	63.2 86	65.4 89	66.2 90

※第一志望者:

ターゲット層(大学進学希望×私立×関連学問分野興味あり)該当者のうち、
大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」を「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人

巻末資料 調査票

大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科 (仮称、設置構想中)に関するアンケート

大阪電気通信大学では2025年(令和7年)4月より、「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻、理学療法学専攻、スポーツ科学専攻」(仮称)を設置することを構想しています。
このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、大阪電気通信大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することはありません。また、回答いただいた内容が、高校生のみなさんの本学への入学に影響を及ぼすことは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。
※ このアンケートや同封した資料に記載されている「健康情報学部 健康情報学科」(仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

記入
要
領

1. 回答は、あてはまる番号に「○」印をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3. 記入は、必ず鉛筆又はシャープペンシルで書くようにしてください。
4. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。
特に、「○」印は、番号丸枠からはみ出さないようにつけてください。

ここに○印をつけてください

10 67



○ 医療工学

良い 記入例	○ 医療工学 理学療法学	悪い 記入例	② 医療工学 理学療法学	① 医療工学 理学療法学	○ 医療工学 理学療法学	○ 医療工学 理学療法学

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (1つに○)	① 男性	② 女性	③ 回答しない
学年 (1つに○)	① 1年生	② 2年生	③ 3年生
在籍している 高校名	高校所在地 [] 都・道・府・県 ① 国立 ② 公立 ③ 私立 (←1つに○) [] 高等学校		
所属クラス (1つに○)	① 文系クラス (文系コース) ② コース選択はない ③ 理系クラス (理系コース) ④ その他		

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1 あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路すべてに○をつけてください。(複数選択可)

① 大学	② 専門職大学	③ 専門学校
④ 短期大学	⑤ 専門職短期大学	⑥ 就職
		⑦ その他

Q2 Q1で①～④を選択した方に質問です。(※Q1で①～④を選択しなかった方は、Q3に進んでください。)
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。

現在検討している(希望している)設置者すべてに○をつけてください。(複数選択可)

- ① 私立 ② 国立 ③ 公立

Q3 ここからは全員にお聞きします。

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
以下の項目から、興味のある学問分野すべてに○をつけてください。(複数選択可)
※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

① 医療工学、医療科学	② 医療情報工学 (AI技術の医療応用など デジタルヘルスケア分野を 発展させるための学び)	③ その他工学 (医療(情報)工学、医療科学を除く)	④ 農学 (林学、水産学など)
⑤ 理学療法学	⑥ その他保健 (理学療法学を除く)	⑦ 人文科学、社会科学 (文学、法学、経済学など)	⑧ その他
⑨ スポーツ科学、健康科学	⑩ 健康情報科学 (理学療法やスポーツの現場で ICTを効果的に活用し、健康を 支えるための学び)	⑪ 理学 (数学、物理学、生物学など)	⑫ わからない

裏面へ続く→

1

◆大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称、設置構想中)についてお聞きします。

大阪電気通信大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2025年(令和7年)4月に、「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻、理学療法学専攻、スポーツ科学専攻」(仮称)を設置することを構想しています。

※ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q4 大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
例.	○○である。	→ ①	○	③	④
A.	AI・データサイエンスについての知識を基礎から磨き、AIやICTの技術を医療現場や一人ひとりの健康に活用する方法を学びます。	→ ①	②	③	④
B.	専門科目によって3つの専門分野を設けていますが、「専攻横断型カリキュラム」により他専攻の学びたい科目を柔軟に選ぶことができます。また、「特修コース」を通じて専門の深い学びとキャリアアップをめざすことも可能です。	→ ①	②	③	④
C.	理学療法への活用、ユニバーサルデザインを取り入れていく等、多分野で発展しているeスポーツについて、実践・体験するだけでなく、指導や運営も含めて健康を支えるためのeスポーツを学びます。	→ ①	②	③	④

Q5 大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科(仮称、設置構想中)が開設された場合、受験を希望しますか。上記の学科に設けられる「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)のそれぞれの専攻について、次より1つずつ選択してください。

		第一志望 として受験する	第二志望 として受験する	第三志望以降 として受験する	受験しない
健康情報学部	医療工学専攻	→ ①	②	③	④
健康情報学科	理学療法学専攻	→ ①	②	③	④
	スポーツ科学専攻	→ ①	②	③	④

※第一志望、第二志望は選択する志望順位が重ならないようにご回答ください。

Q6 Q5で①～③(受験する)を選択した専攻についてお答えください。
大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科(仮称、設置構想中)の「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。それぞれの専攻について、次より1つずつ選択してください。

		入学する	志望順位が上位の他の専攻・志望校が不合格の場合に入学する	入学しない
健康情報学部	医療工学専攻	→ ①	②	③
健康情報学科	理学療法学専攻	→ ①	②	③
	スポーツ科学専攻	→ ①	②	③

※「入学する」を選んだ専攻が、1個または0個になるようにご回答ください。

Q7 最後に全員にお聞きします。
あなたは過去に、自宅に届いたアンケート協力依頼の手紙から、今回の調査と同じ内容(質問)の大阪電気通信大学 健康情報学部 健康情報学科(仮称、設置構想中)に関するアンケート調査にスマートフォンやパソコン・タブレットから回答したことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

① 同じアンケートに回答したことはない

② 同じアンケートに回答したことがある

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

2025年4月 健康情報学部 Re:BORN

医療工学専攻
理学療法学専攻
スポーツ科学専攻

(仮称・構想中)



総合力で、
健康を支える。

設置概要	修 業 年 限：4年 設 置 年 度：2025年4月予定 設 置 場 所：大阪電気通信大学 四條畷キャンパス（大阪府四條畷市清滝1130-70） 入 学 定 員：健康情報学科 165名（3年次編入学定員2名）
医療工学専攻	募 集 定 員：60名 学 位：学士（工学） 主な就職先（過去3年間 医療科学科実績） 富士フイルムメディカル株式会社、ニプロ株式会社、日機装株式会社、GEヘルスケア・ジャパン株式会社、株式会社フィリップス・ジャパン、シスメックス株式会社、島津メディカルシステムズ株式会社、株式会社ソフトウェアサービス、住友林業株式会社、フジテック株式会社、国立循環器病研究センター、京都府立医科大学附属病院、国立病院機構 神戸医療センター、国立病院機構 東近江総合医療センター など 初年度納付金： ￥1,652,000（内訳：入学金 ￥250,000 授業料 ￥1,332,000 実験実習料 ￥70,000） 2 年次納付金： ￥1,602,000（内訳：授業料 ￥1,532,000 実験実習料 ￥70,000） 類似学部・学科（初年度） 藍野大学 医療保健学部 臨床工学科 ￥1,850,000 森ノ宮医療大学 医療技術学部 臨床工学科 ￥1,850,000
理学療法学専攻	募 集 定 員：40名 学 位：学士（理学療法学） 主な就職先（過去3年間 理学療法学科実績） 関西医科大学附属病院、一般社団法人MAP アンドラーススポーツクリニック、医療法人成和会 北大阪ほうせんか病院、社会医療法人愛仁会、医療法人東和会、医療法人社団千春会、医療法人協和会、医療法人医誠会、武田病院グループ、洛和会ヘルスケアシステム、医療法人社団石健会、公益財団法人浅香山病院、パナソニック株式会社 など 初年度納付金： ￥1,782,000（内訳：入学金 ￥250,000 授業料 ￥1,232,000 実験実習料 ￥300,000） 2 年次納付金： ￥1,732,000（内訳：授業料 ￥1,432,000 実験実習料 ￥300,000） 類似学部・学科（初年度） 藍野大学 医療保健学部 理学療法学科 ￥1,850,000 森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 理学療法学科 ￥1,850,000
スポーツ科学専攻	募 集 定 員：65名 学 位：学士（スポーツ科学） 主な就職先（過去3年間 健康スポーツ科学科実績） パナソニック株式会社、株式会社ルネサンス、株式会社カープジャパン、株式会社モンベル、株式会社ヒマラヤ、株式会社あさひ、明治安田生命保険相互会社、大東建託株式会社、三井ホーム株式会社、日本情報産業株式会社、公益財団法人大阪YMCA、一般財団法人近畿健康管理センター、神戸市教育委員会、大阪市役所、大阪府警察本部 など 初年度納付金： ￥1,432,000（内訳：入学金 ￥250,000 授業料 ￥1,082,000 実験実習料 ￥100,000） 2 年次納付金： ￥1,382,000（内訳：授業料 ￥1,282,000 実験実習料 ￥100,000） 類似学部・学科（初年度） 大阪産業大学 スポーツ健康学部 スポーツ健康学科 ￥1,265,000 京都産業大学 現代社会学部 健康スポーツ社会学科 ￥1,136,000



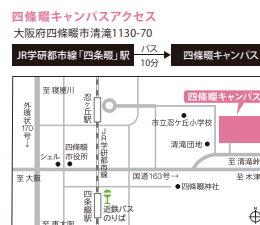
「本当に就職に強い大学ランキング」にて本学が
関西圏私立大学2位に選ばれました！

※出典：大学通信ONLINE（2023年7月19日）「2023年度実就職率ランキング（卒業生1,000人以上）」

つなぐ知 かなえる技
大阪電気通信大学
Osaka Electro-Communication University
<https://www.osakac.ac.jp/>

< お問い合わせ先 >
〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8
TEL：072-824-1131（代）
FAX：072-824-1141

OECU



※本誌掲載内容は原則として2023年10月23日までのものです。
内容は変更になる場合があります。

※記載の内容は、構想中のものであり、変更される可能性があります。

刷新! 2025年4月、健康情報学部 開設予定。

(仮称・構想中)

「人生100年時代」の今、すべての人がより長く元気で活躍できる社会づくりが必要とされています。

また、医療やヘルスケア、さらにスポーツまで、人々の健康づくりに情報技術の活用が期待されています。

そこで、大阪電気通信大学はこれまでの医療健康科学部を刷新し、2025年4月健康情報学部を開設予定。

ICTをベースに、工学・医療・スポーツの総合力であらゆる人々の健康を支えるための学びを展開します。

「人生100年時代」を生きるこれからの人々を支え、あなたが100年を生きる力にもなります。

■ 健康情報学部 3つのポイント

1 AIやデータサイエンスの基礎を磨く

急速なスピードで広がる生成AIに対応するには、AI・データサイエンスの基礎が必要です。文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」で認定された本学の実績をもとにしたカリキュラムを展開。これまでの情報教育のノウハウを活かし、多様な「学びたい」に応えます。

代表的な科目：AI・データサイエンス入門/コンピュータリテラシー1/コンピュータリテラシー2/プログラミング基礎演習/データサイエンス基礎/人工知能



2 「専攻横断型カリキュラム」と「特修」

学部共通科目は健康分野と情報分野から、専門分野は3専攻の専門科目の中から自由に選択が可能。他専攻の科目を選択し、自分が学びたい科目を柔軟に組み合わせることで、多様なスキルの修得が可能です。さらに、「特修」では、専門の深い学びとスキルアップをめざすことができます。

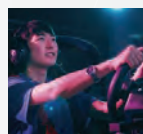
※特修とは…各専攻の特定分野を詳しく学ぶコースのこと



3 eスポーツを科学的・総合的に学べる

世界中で盛り上がっているeスポーツは、今や高校での学びや部活動に取り入れられ、教員にもその知識と指導力が問われる時代になりました。また、理学療法への活用、ユニバーサルデザインを取り入れたeスポーツなど、多分野で発展しています。本学のesports project等を中心としたeスポーツに関するノウハウを活かし、eスポーツを実践・体験だけでなく、指導法や運営まで、eスポーツを科学的に捉えた学びを充実させます。

代表的な科目：eスポーツ科学概論/eスポーツ科学演習/eスポーツ方法実習(eスポーツ)



アドミッション・ポリシー

健康情報学部は、人々の健康維持増進を目指し、情報技術を基にした医療科学・工学・スポーツ科学の知識と技術の実学教育を通じて、学生の学習成果の向上および学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会および産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。そのような人材を育成するにあたり、高等学校等の正課および正課外での学習を通じて基礎的な知識や技能を修得し、次のような意欲と情熱をもった入学者を求めます。

- ① 人々の健康に興味を持ち、積極的にはたらきかける姿勢と意欲のある者。
- ② 自ら考え行動しようとする意欲の高い者。
- ③ 仲間と協働して目標の達成に取り組む姿勢と意欲のある者。

ICTを活用し、
工学・医療・スポーツの
総合力で
人々の健康を支える。



理学療法学専攻

ICTを活用し、一人ひとりに
最適な理学療法を

ICTを活用した科学的根拠に基づいて効果的な理学療法を提供できる力を育みます。また、スポーツ損傷の予防やリハビリテーション、トレーニング器具を開発できる力を身につけます。

取得できる資格*

- 理学療法士(国家試験受験資格)

将来のキャリア

医療機関、スポーツクリニック、高齢者入所・通所施設、障害者福祉施設、国や都道府県・市町村の健康・医療関連部署、訪問事業、教育・研究機関、各種スポーツ業界、企業、大学院進学など

Advanced!

スポーツ
リハビリテーション特修

スポーツにおける
健康支援を実践できる
ICTに強い理学療法士へ

医学、臨床工学、情報工学を学び、AI技術やICTに強い臨床工学技士として、高度医療・チーム医療で活躍できる力を育みます。また、健康医療機器を扱うエンジニアとして、医療技術の安全と品質向上に貢献するスキルを身につけます。

取得できる資格*

- 臨床工学技士(国家試験受験資格)*
- 高等学校教諭一種免許状(数学/工業)
- 中学校教諭一種免許状(数学)

将来のキャリア

国立病院、大学附属病院、総合病院、クリニック、医療関連の総合商社、医療機器設計・製造企業、IT企業、大学院進学など

医療工学専攻

医療×情報・工学を駆使し、
医療や健康社会に貢献



Advanced!

AI医療特修

AI技術の医療応用、
医療×ゲームなど、
デジタルヘルスケア分野を
発展させる
スペシャリストへ

※構想中 ※所定科目の単位修得が必要
※「臨床工学技士養成課程」と「教職課程」とを併修することは難しい場合があります。

スポーツ科学専攻

情報とスポーツの力で
人と社会を元気にする

ICTの学びをベースに、スポーツ科学に加え、健康科学や医学も修得。ICTを活用して運動やスポーツを効果的に提供し、子どもや高齢者からアスリートまで、人々の心と身体を支えるスキルと態度を身につけます。

取得できる資格*

- 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
- 中学校教諭一種免許状(保健体育)
- スポーツ・レクリエーション指導者(公益財団法人日本レクリエーション協会認定資格)

将来のキャリア

保健体育科教員、スポーツインストラクター、健康増進施設や社会体育関連団体の指導者、スポーツコーチ、高齢者・障害者施設、市町村の健康・医療・スポーツ関連部署、企業、大学院進学など

Advanced!

スポーツ情報特修

ICTを活用して
運動・スポーツの
エビデンスを
生み出すことができるプロへ

※構想中 ※所定科目の単位修得が必要

他専攻の科目も
自由選べる
専攻横断型
カリキュラム



大阪電気通信大学
「健康情報学部 健康情報学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【企業対象調査】

令和6年3月

株式会社 進研アド

— 学生の確保の見通し等 (資料) — 72 —

1. 調査目的

2025年4月開設予定の大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称)の設置構想に関して、企業からの採用ニーズを把握する。

2. 調査概要

企業対象調査		
調査対象		企業の採用担当者
調査エリア		北海道、栃木県、群馬県、茨城県、千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、愛媛県、徳島県、香川県、福岡県、宮崎県、長崎県、鹿児島県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	900社
	回収数(回収率)	202社(22.4%)
調査時期		2023年11月21日(火)～2023年12月15日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業対象調査
・ 人事採用への関与度 ・ 本社所在地 ・ 業種 ・ 正規社員の従業員数 ・ 正規社員の平均採用人数 ・ 本年度の採用予定数 ・ 採用したい学問分野 ・ 大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度 ・ 大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」の社会的必要性 ・ 大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」卒業生に対する採用意向 ・ 大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数 — 学生の確保の見通し等（資料） — 73 —

採用意向調査 調査結果

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答企業全体(202企業)

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称)に対する人材需要を確認するための調査として設計。大阪電気通信大学の卒業生就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、202企業から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は25.2%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が65.3%であり、採用や選考にかかわっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社(本部)所在地は、大阪電気通信大学の所在地である「大阪府」が45.5%と最も多く、次いで「東京都」が15.8%、「京都府」が8.9%と続く。
- 回答企業の業種としては「医療・福祉」が39.6%で最も多い。次いで「卸売・小売業」が16.8%、「製造業」が15.3%と続く。
- 回答企業の正規社員の従業員数は、「100名～500名未満」が37.1%と最も多く、次いで「1,000名～5,000名未満」が27.2%と続く。100名以上の比較的規模が大きい企業が8割を上回る。

回答企業の採用状況(過去3か年平均)／ 本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は「10名～20名未満」が21.3%と最も多く、次いで「100名以上」が17.8%、「5名～10名未満」が13.9%と続く。毎年正規社員を採用している企業がほとんどである。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が58.9%と最も多く、次いで「増やす」が31.7%である。回答企業の多くで昨年度以上の採用が予定されている模様である。
- 回答企業の採用したい学問分野を複数回答で聞いたところ、「学んだ学問分野にはこだわらない」が32.7%で最も高い。「健康情報学部 健康情報学科」各専攻の学びと関連する学問分野は以下の通り。

医療工学,医療科学:27.7%(関連専攻「医療工学専攻」)

理学療法学:32.7%(関連専攻「理学療法学専攻」)

スポーツ科学,健康科学:18.8%(関連専攻「スポーツ科学専攻」)

医療情報工学(AI技術の医療応用などデジタルヘルスケア分野を発展させるための学び):19.3%(関連専攻「医療工学専攻」)

健康情報科学(理学療法やスポーツの現場でICTを効果的に活用し、健康を支えるための学び):16.8%(関連専攻「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」)

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	かあ採 かり用の わつの決 つ選て裁 て考に権 いがある	かな採 かい用の わがの決 つ選て裁 い考に権 るには	提意か採 供見かを する収わ する集ら 立ずには 場、直接 にある情 報や	無 回 答
上段: % 下段: 件数(企業)					
全体	202	25.2 51	65.3 132	6.4 13	3.0 6

■本社(本部)所在地

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

	標 本 数	埼 玉 県	東 京 都	神 奈 川 県	富 山 県	石 川 県	長 野 県	岐 阜 県	静 岡 県	愛 知 県	三 重 県
上段: % 下段: 件数(企業)											
全体	202	1.5 3	15.8 32	2.0 4	0.5 1	0.5 1	0.5 1	0.5 1	0.5 1	3.0 6	1.0 2

	標 本 数	滋 賀 県	京 都 府	大 阪 府	兵 庫 県	奈 良 県	和 歌 山 県	岡 山 県	広 島 県	愛 媛 県	無 回 答
上段: % 下段: 件数(企業)											
全体	202	4.0 8	8.9 18	45.5 92	7.9 16	4.0 8	1.5 3	1.0 2	1.0 2	0.5 1	0.0 0

■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	医療・福祉	情報通信業	農・林・漁・ 鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・ 熱供給・ 水道業	運輸業	卸売・小売業
上段: % 下段: 件数(企業)									
全体	202	39.6 80	5.4 11	0.0 0	5.9 12	15.3 31	1.5 3	1.0 2	16.8 34

	標 本 数	金融・保険業	不動産業	飲食店・ 宿泊業	複合サービス 事業	サービス業	公務	その他	無回答
上段: % 下段: 件数(企業)									
全体	202	49.0 100	0.0 0	4.0 8	1.0 2	7.9 16	0.0 0	5.4 11	0.0 0

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■正規社員の従業員数

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	5 0 名 未 満	1 5 0 0 0 名 名 未 満	5 1 0 0 0 0 名 名 未 満	未 1 5 満 , 0 0 0 0 名 0 名 名	5 1 , , 0 0 0 0 0 名 名 未 満	5 , 0 0 0 名 以 上	無 回 答
上段:% 下段:件数(企業)								
全体	202	5.9 12	6.4 13	37.1 75	18.8 38	27.2 55	4.0 8	0.5 1

■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	0 名	5 1 0 名 名 未 満	1 5 0 名 名 未 満	2 1 0 0 0 名 名 未 満	3 2 0 0 0 名 名 未 満	5 3 0 0 0 名 名 未 満	1 5 0 0 0 名 名 未 満	1 0 0 名 以 上	無 回 答
上段:% 下段:件数(企業)										
全体	202	0.0 0	12.9 26	13.9 28	21.3 43	12.9 26	8.9 18	11.9 24	17.8 36	0.5 1

■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	増 や す	昨 年 度 並 み	減 ら す	未 定	無 回 答
上段:% 下段:件数(企業)						
全体	202	31.7 64	58.9 119	2.5 5	6.9 14	0.0 0

■採用したい学問分野

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)

	標 本 数	医 療 工 学 ・ 医 療 科 学	理 学 療 法 学	ス ポ ー ツ 科 学 ・ 健 康 科 学	医 療 情 報 工 学 （ A I 技 術 の 医 療 応 用 な ど デ ジ タ ル ヘル ス ケ ア 分 野 を 発 展 さ せ る た め の 学 び ）	効 果 的 に 活 用 し 、 健 康 を 支 え る た め の 学 び ）	健 康 情 報 科 学 （ 理 学 療 法 や ス ポ ー ツ の 現 場 で I C T を ）	そ の 他 工 学 ・ 医 療 科 学 を 除 く ）	そ の 他 保 健 （ 理 学 療 法 学 を 除 く ）
上段：% 下段：件数（企業） 全体	202	27.7 56	32.7 66	18.8 38	19.3 39	16.8 34	20.8 42	6.4 13	

	標 本 数	生 理 学 （ 数 学 ・ 物 理 学 ・ 生 物 学 な ど ）	農 学 （ 林 学 ・ 水 産 学 な ど ）	人 文 科 学 ・ 法 学 ・ 社 会 科 学 （ 文 学 ・ 法 学 ・ 経 済 学 な ど ）	そ の 他	学 ん だ 学 問 分 野 に は こ だ わ ら な い	無 回 答
上段：％ 下段：件数（企業）							
全体	202	7.4 15	1.0 2	7.4 15	7.4 15	32.7 66	0.0 0

大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度

- 「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度(※)は、3つの項目すべてで6割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「B. 専門科目によって3つの専門分野を設けていますが、「専攻横断型カリキュラム」により他専攻の学びたい科目を柔軟に選ぶことができます。また、「特修コース」を通じて専門の深い学びとキャリアアップをめざすことも可能です。」で88.1%である。次いで、「A. AI・データサイエンスについての知識を基礎から磨き、AIやICTの技術を医療現場や一人ひとりの健康に活用する方法を学びます。」が84.7%、「C. 理学療法への活用、ユニバーサルデザインを取り入れていく等、多分野で発展しているeスポーツについて、実践・体験するだけでなく、指導や運営も含めて健康を支えるためのeスポーツを学びます。」が63.4%と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」の特色に対する魅力度

Q8. 大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色A. AI・データサイエンスについての知識を基礎から磨き、AIやICTの技術を医療現場や一人ひとりの健康に活用する方法を学びます。

特色B. 専門科目によって3つの専門分野を設けていますが、「専攻横断型カリキュラム」により他専攻の学びたい科目を柔軟に選ぶことができます。また、「特修コース」を通じて専門の深い学びとキャリアアップをめざすことも可能です。

特色C. 理学療法への活用、ユニバーサルデザインを取り入れていく等、多分野で発展しているeスポーツについて、実践・体験するだけでなく、指導や運営も含めて健康を支えるためのeスポーツを学びます。

	標 本 数	魅 と も 力 を 感 じ る	魅 あ る 程 度 を 感 じ る	魅 あ ま り を 感 じ な い	魅 ま つ た く を 感 じ な い	魅 力 度 (※)	無 回 答
上段: % 下段: 件数(企業)							
特色A	202	32.2 65	52.5 106	13.9 28	1.0 2	84.7 171	0.5 1
特色B	202	24.3 49	63.9 129	9.9 20	1.0 2	88.1 178	1.0 2
特色C	202	17.3 35	46.0 93	33.2 67	3.0 6	63.4 128	0.5 1

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

**大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科
医療工学専攻」の社会的必要性**

- ・「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」について「必要だと思う」と回答した企業は95.0% (192企業) であり、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学部・学科・専攻と捉えていることがうかがえる。

**大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科
医療工学専攻」卒業生の採用意向／毎年の採用想定人数**

- ・「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は75.2% (152企業) であり、予定している入学定員数60名を上回る数の採用意向企業がみられた。
- ・「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業へ、「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は268名で、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。上記の学科に設けられる「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)のそれぞれの専攻について、お答えください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数(企業)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	202	95.0 192	3.5 7	1.5 3

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。上記の学科に設けられる「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)のそれぞれの専攻について、お答えください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数(企業)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	202	75.2 152	21.3 43	3.5 7



「採用したいと思う」と答えた152企業のみ抽出

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「1. 採用したいと思う」と回答された専攻を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 〜 9 名	1 0 名 以 上	計 (※ 〜) お よ び の 採 用 業 数 ・ 計 人 数 ・ を
全体	152	%	63.2%	15.1%	6.6%	2.6%	2.6%	3.9%	⇒ 143 268
		企業数	96	23	10	4	4	6	
		名	96	46	30	16	20	60	

※%の母数は、「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業(152企業)

— 学生の確保の見通し等 (資料) — 83 —

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名〜9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科
理学療法学専攻」の社会的必要性

- ・「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」について「必要だと思う」と回答した企業は95.0% (192企業) であり、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学部・学科・専攻と捉えていることがうかがえる。

大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科
理学療法学専攻」卒業生の採用意向／毎年の採用想定人数

- ・「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は76.7% (155企業) であり、予定している入学定員数40名を上回る数の採用意向企業がみられた。
- ・「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業へ、「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は327名で、予定している入学定員数を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。上記の学科に設けられる「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)のそれぞれの専攻について、お答えください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	202	95.0 192	5.0 10	0.0 0

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。上記の学科に設けられる「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)のそれぞれの専攻について、お答えください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段:% 下段:件数(企業)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	202	76.7 155	20.8 42	2.5 5



「採用したいと思う」と答えた155企業のみ抽出

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「1. 採用したいと思う」と回答された専攻を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 〜 9 名	1 0 名 以 上	計 (※ 〜) お し 毎 年 の 採 用 業 数 ・ 計 人 数 を
全体	155	%	58.1%	17.4%	7.7%	1.9%	5.8%	5.8%	⇒ 150 327
		企業数	90	27	12	3	9	9	
		名	90	54	36	12	45	90	

※%の母数は、「健康情報学部 健康情報学科 理学療法学専攻」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業(155企業)

― 学生の確保の見通し等(資料) ― 85 ―

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名〜9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科
スポーツ科学専攻」の社会的必要性

- ・「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」について「必要だと思う」と回答した企業は88.1% (178企業)であり、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学部・学科・専攻と捉えていることがうかがえる。

大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科
スポーツ科学専攻」卒業生の採用意向/毎年の採用想定人数

- ・「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は61.9% (125企業)であり、予定している入学定員数65名を上回る数の採用意向企業がみられた。
- ・「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業へ、「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は240名で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。上記の学科に設けられる「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)のそれぞれの専攻について、お答えください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数(企業)	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	202	88.1 178	11.4 23	0.5 1

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。上記の学科に設けられる「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)のそれぞれの専攻について、お答えください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数(企業)	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	202	61.9 125	35.1 71	3.0 6



「採用したいと思う」と答えた125企業のみ抽出

■大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「1. 採用したいと思う」と回答された専攻を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 〜 9 名	1 0 名 以 上		計 (※) おし よび た 採 用 業 数 ・ 人 数 ・ 人 数 を
全体	125	%	60.8%	12.8%	10.4%	1.6%	5.6%	4.0%	⇒	119 240
		企業数	76	16	13	2	7	5		
		名	76	32	39	8	35	50		

※%の母数は、「健康情報学部 健康情報学科 スポーツ科学専攻」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業(125企業)

— 学生の確保の見通し等(資料) — 87 —

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名〜9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

巻末資料 調査票

大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」
(仮称、設置構想中)に関するアンケート

大阪電気通信大学では2025年(令和7年)4月より、「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻、理学療法学専攻、スポーツ科学専攻」(仮称)の設置を構想しています。
このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科・専攻にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「健康情報学部 健康情報学科」(仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かわわず、情報や意見を収集、提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

1. 医療・福祉	6. 電気・ガス・熱供給・水道業	11. 飲食店・宿泊業
2. 情報通信業	7. 運輸業	12. 複合サービス事業
3. 農・林・漁・鉱業	8. 卸売・小売業	13. サービス業
4. 建設業	9. 金融・保険業	14. 公務
5. 製造業	10. 不動産業	15. その他

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

1. 50名未満	3. 100名～500名未満	5. 1,000名～5,000名未満
2. 50名～100名未満	4. 500名～1,000名未満	6. 5,000名以上

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 0名	4. 10名～20名未満	7. 50名～100名未満
2. 1名～5名未満	5. 20名～30名未満	8. 100名以上
3. 5名～10名未満	6. 30名～50名未満	

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

1. 増やす	3. 減らす
2. 昨年度並み	4. 未定

Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 医療工学,医療科学	4. 医療情報工学 (AI技術の医療応用など デジタルヘルスケア分野を 発展させるための学び)	6. その他工学 (医療(情報)工学,医療科学を除く)	9. 農学 (林学,水産学など)
2. 理学療法学		7. その他保健 (理学療法学を除く)	10. 人文科学,社会科学 (文学,法学,経済学など)
3. スポーツ科学,健康科学	5. 健康情報科学 (理学療法やスポーツの現場で ICTを効果的に活用し、健康を 支えるための学び)	8. 理学 (数学,物理学,生物学など)	11. その他
			12. 学んだ学問分野には こだわらない

— 学生の確保の見通し等 (資料) — 89

裏面へ続く→

調査票

大阪電気通信大学では、2025年(令和7年)4月に、
「健康情報学部 健康情報学科 医療工学専攻、理学療法学専攻、スポーツ科学専攻」
(仮称)の設置を構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧くださいの上でお答えください ※

Q8. 大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
例. ○○である。	→	1	②	3	4
A. AI・データサイエンスについての知識を基礎から磨き、AIやICTの技術を医療現場や一人ひとりの健康に活用する方法を学びます。	→	1	2	3	4
B. 専門科目によって3つの専門分野を設けていますが、「専攻横断型カリキュラム」により他専攻の学びたい科目を柔軟に選ぶことができます。また、「特修コース」を通じて専門の深い学びとキャリアアップをめざすことも可能です。	→	1	2	3	4
C. 理学療法への活用、ユニバーサルデザインを取り入れていく等、多分野で発展しているeスポーツについて、実践・体験するだけでなく、指導や運営も含めて健康を支えるためのeスポーツを学びます。	→	1	2	3	4

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われますか。上記の学科に設けられる「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)のそれぞれの専攻について、お答えください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.必要だと思う	2.必要だと思わない
健康情報学部 健康情報学科	医療工学専攻	→	1	2
	理学療法学専攻	→	1	2
	スポーツ科学専攻	→	1	2

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、大阪電気通信大学「健康情報学部 健康情報学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。上記の学科に設けられる「医療工学専攻」「理学療法学専攻」「スポーツ科学専攻」(いずれも仮称)のそれぞれの専攻について、お答えください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1.採用したいと思う	2.採用したいと思わない
健康情報学部 健康情報学科	医療工学専攻	→	1	2
	理学療法学専攻	→	1	2
	スポーツ科学専攻	→	1	2

Q11. Q10でいずれかの専攻の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「1. 採用したいと思う」と回答された専攻を卒業した学生について、採用を考える場合、
毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上
健康情報学部 健康情報学科	医療工学専攻	→	1	2	3	4	5	6
	理学療法学専攻	→	1	2	3	4	5	6
	スポーツ科学専攻	→	1	2	3	4	5	6

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 （千円）	現 職 （就任年月）
-	学長	シオタ クニナリ 塩田 邦成 ＜令和4年4月＞	69	修士 （教育学）		大阪電気通信大学 学長 （令和4.4～令和8.3）

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等																		
(健康情報学部健康情報学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組 織(他の大学等に置かれる 学部等を含む)での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
1	基 (主専)	教授 (学部 長) (主任)	オオタ(マサオカ) アケミ 太田(正岡) 暁美 <令和7年4月>		博士 (医学)		OEUCU概論1		1前	1	1	大阪電気通信大学 医療健康科学部健康 スポーツ科学科 教授 (平19.4)	○	○	○	スポーツ科学専攻 教育課程編成会議	5日	
							日本語1		2前	2	1							
							日本語2		2後	2	1							
							日本語3		3前	2	1							
							日本語4		3後	2	1							
							グローバル研修		3前	2	1							
							インターンシップ		3通	2	1							
							健康科学基礎2※		1前	1.1	1							
							健康情報学概論	○	1前	0.5	1							
							OEUCU概論2		1前	1	1							
							ヘルスプロモーション論		1後	1	1							
							スポーツ計測システム実習※		3後	0.3	1							
							プレゼミ	○	3前	2	1							
							ゼミナール	○	3後	2	1							
							卒業研究	○	4通	8	1							
							運動生理学※		2前	0.8	1							
							健康スポーツ科学実習	○	2後	1	1							
							運動生理学実習		3後	1	1							
							スポーツ教育学応用演習※		3通	0.5	1							
							生活習慣病と介護予防※		2後	1.4	1							
							健康運動指導基礎演習		2後	2	1							
							健康トレーニング実習		3前	1	1							
							健康運動指導応用演習※		3後	0.6	1							
							スポーツ方法実習(冬季スポーツ)		3後	1	1							
2	基 (主専)	教授	アカタキ クミ 赤滝 久美 <令和7年4月>		博士 (学術)		からだの科学	○	1前	2	1	大阪電気通信大学 医療健康科学部理 学療法学科 教授 (平17.4)	○		○	理学療法学専攻 教育課程編成会議	5日	
							キャリアデザイン		3後	2	1							
							健康科学基礎1		1前	2	1							
							解剖生理学1	○	1前	2	1							
							解剖生理学2	○	1後	2	1							
							プレゼミ	○	3前	2	1							
							ゼミナール	○	3後	2	1							
							卒業研究	○	4通	8	1							
							生理学演習	○	2前	2	1							
							解剖学演習	○	2前	2	1							
							基礎医学実習		2後	2	1							
							一般臨床内科学	○	2前	2	1							
							接遇マナーとコミュニケーション	○	1後	1	1							
3	基 (主専)	教授	イシヅカ タケハル 石塚 丈晴 <令和7年4月>		博士 (情報 学)		コンピュータリテラシー1	○	1前	4	2	大阪電気通信大学 メディアコミュニ ケーションセン ター教授 (令5.4)			○	情報教育課程編成会議	5日	
							コンピュータリテラシー2	○	1後	4	2							
4	基 (主専)	教授	キムラ ヨシノリ 木村 佳記 <令和7年4月>		博士 (工学)		スポーツリハビリテーション		3前	2	1	大阪電気通信大学 医療健康科学部理 学療法学科 教授 (令5.4)	○		○	理学療法学専攻 教育課程編成会議	5日	
							プレゼミ	○	3前	2	1							
							ゼミナール	○	3後	2	1							
							卒業研究	○	4通	8	1							
							運動学	○	1後	2	1							
							運動学実習		2前	2	1							
							理学療法評価学実習2	○	2後	2	1							
							運動系理学療法学演習A		2後	2	1							
							スポーツ理学療法特修B		3後	1	1							
							実践理学療法学演習A		3前	2	1							
							臨床実習(理学療法)1	○	2後	1	1							
							臨床実習(理学療法)2	○	3前	3	1							
							臨床実習(理学療法)3	○	3後	6	1							
							臨床実習(理学療法)4	○	4後	1	1							
							臨床実習(理学療法)5	○	4後	10	1							

—教員名簿—3—

—教員名簿—4—

教 員 の 氏 名 等																		
(健康情報学部健康情報学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組 織（他の大学等に置かれる 学部等を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
11	基 （主専）	教授	ニイカワ タクヤ 新川 拓也 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		エレクトロニクス入門 情報工学基礎演習 医療情報システム※ プレゼミ ゼミナール 卒業研究 基礎電気工学 応用電気工学 応用電子工学 医用電気電子工学演習 医用情報工学演習 認知科学とデザイン 医療工学基礎実習	○ ○ ○	1前 2後 3前 3前 3後 4通 1後 2前 2後 2後 2後 3後 3前 1後	2 2 1.1 2 2 8 2 2 2 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学 医療健康科学部医 療科学科 教授 （平13.4）	○		○	医療工学専攻 教育課程編成会議	5日	
12	基 （主専）	教授	ヒサカ マサキ 日坂 真樹 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		総合教養※ 健康情報学概論 プレゼミ ゼミナール 卒業研究 医用数学 物理学入門 電気電子工学実験 基礎電子工学 医用工学特別演習※ 計測工学 医用計測学 生体計測装置学 医用生体計測学演習 生体計測装置学実習 臨床実習（臨床工学） 医療工学特別講義※ 健康情報学演習 生体医学実習※ 医療工学基礎実習 医療工学実習	○ ○ ○ ○ ○	1前 1前 3前 3後 4通 2前 1後 2前 2前 4後 2前 2前 3前 2後 2後 3後 4後 1前 2前 1後 3前	0.3 2 2 2 8 2 2 2 2 0.5 2 2 2 2 1 2 2 7 0.3 2 0.3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学 医療健康科学部医 療科学科 教授 （平13.4）	○		○	医療工学専攻 教育課程編成会議	5日	
13	基 （主専）	教授	フジカワ(ミヤザキ)トモヒコ 藤川(宮崎)智彦 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		文字の文化と歴史 プログラミング応用実習 プレゼミ ゼミナール 卒業研究 医用工学特別演習※ 医用機械工学演習 医用機械工学 メカトロニクス 基礎製図演習 製図・CAD実習 ヒト型ロボット製作実習 ヒト型ロボット制御実習 創造製作実習 臨床実習（臨床工学） 医療工学特別講義※ 医療工学基礎実習	○ ○ ○ ○	1後 2前 3前 3後 4通 4後 2後 2後 3前 3前 3前 3後 3後 3後 3後 7 4後 1後	2 2 2 2 8 0.3 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.3 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学 医療健康科学部医 療科学科 教授 （平19.4）	○		○	医療工学専攻 教育課程編成会議	5日	

教 員 の 氏 名 等																		
(健康情報学部健康情報学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組 織（他の大学等に置かれる 学部等を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
14	基 （主専）	准教授	イチタニコウイチロウ 市谷 浩一郎 ＜令和7年4月＞		修士 （学校教育 学）		健康情報学概論 生涯スポーツ実習A 生涯スポーツ実習B プレゼミ ゼミナール 卒業研究 体力測定評価演習 健康スポーツ科学実習 スポーツ教育学応用演習※ スポーツコーチング論 スポーツトレーニング実習 スポーツコーチング実習 スポーツ指導実習 健康運動指導応用演習※ アダプテッドスポーツ スポーツ方法実習（バスケットボール） スポーツ方法実習（冬季スポーツ）	○ ○ ○ ○ ○	1前 1前 1後 3前 3後 4通 2前 2後 3通 1後 2前 3前 3後 3後 4前 3前 3後	0.3 1 1 2 2 8 2 1 0.5 1 1 1 1 0.3 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学 医療健康科学部健康 スポーツ科学学科 准教授 （平20.4）	○		○	スポーツ科学専攻 教育課程編成会議	5日	
15	基 （主専）	准教授	タチバナ カツノリ 橘 克典 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		プレゼミ ゼミナール 卒業研究 病理学※ 臨床外科学総論※ 医用機器学概論 医用治療機器学 医用機器安全管理学実習 医用機器学・安全管理学特別演習※ 体外循環装置学 生体機能代行装置学実習 臨床工学技士総合演習※ 臨床実習（臨床工学） 医療工学特別講義※ 健康情報学演習 生体医学実習※ 医療工学実習	○ ○ ○ ○	3前 3後 4通 2後 3後 1後 2前 3前 4前 3前 3後 4後 3後 4後 1前 2前 3前	2 2 8 0.3 0.3 2 2 2 0.9 2 2 0.5 7 0.3 2 0.3 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学 医療健康科学部医 療科学学科 准教授 （平20.4）	○	○	○	医療工学専攻 教育課程編成会議	5日	
16	基 （主専）	准教授	ナカムラ ヒデオ 中村 英夫 ＜令和7年4月＞		博士 （人間・ 環境学）		アカデミック・ライティング インターンシップ AI・データサイエンス入門※ 健康情報学概論 医療健康統計入門※ 医療健康統計演習 スポーツ情報学演習※ スポーツ計測システム実習※ スポーツ計測システム開発実習※ プレゼミ ゼミナール 卒業研究 健康スポーツ科学実習 運動生理学実習	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1後 3通 1前 1前 2後 3前 2前 3後 4前 3前 3後 4通 2後 3後 3後	2 2 0.2 0.3 0.9 2 0.9 0.3 0.4 2 2 8 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学 医療健康科学部健康 スポーツ科学学科 准教授 （平17.4）	○	○	○	スポーツ科学専攻 教育課程編成会議	5日	

—教員名簿—7—

—教員名簿—8—

—教員名簿—9—

教 員 の 氏 名 等																		
(健康情報学部健康情報学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組 織（他の大学等に置かれる 学部等を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
30	その他	教授	コザキ コウジ 古崎 晃司 ＜令和9年10月＞		博士 （工学）		人工知能		3後	2	1	大阪電気通信大学 情報通信工学部情 報工学科 教授 （令和元.4）						大阪電気通信大学情報通信 工学部情報工学科 基（主専）
31	その他	教授	ジョウゼン ツネオ 上善 恒雄 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		AI・データサイエンス入門※		1前	0.2	1	大阪電気通信大学 建築・デザイン学 部建築・デザイン 学科 教授 （平16.4）						大阪電気通信大学建築・デ ザイン学部建築・デザイン 学科 基（主専）
32	その他	教授	スギムラ ヒロコ 杉村 寛子 ＜令和9年10月＞		修士 （文学）		グローバル研修（英語）		3前	2	1	大阪電気通信大学 共通教育機構英語 教育研究センター 教授 （平27.4）						大阪電気通信大学工学部電 子機械工学科 基（専）
33	その他	教授	ナカサトミ（ウノ） ヒロシ 中里見（宇野） 博 ＜令和7年4月＞		修士 （法学）		社会生活と法 異文化の理解 アジアの言語と文化 現代社会を考える※ 日本国憲法 国際コミュニケーション 平和学※		1前 1後 1後 1前 1後 1前 1前	2 2 2 0.3 2 2 0.8	1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学 共通教育機構人間 科学教育研究セン ター 教授 （平28.4）						大阪電気通信大学総合情報 学部デジタルゲーム学科 基（専）
34	その他	教授	ヒラヌマ ヒロマサ 平沼 博将 ＜令和7年4月＞		修士 （教育 学）		発達心理学 現代社会を考える※ 教育制度論 平和学※		1後 1前 1前 1前	2 0.5 2 0.6	1 1 1 1	大阪電気通信大学 共通教育機構人間 科学教育研究セン ター 教授 （平19.4）						
35	その他	教授	ミゾイ ユタカ 溝井 浩 ＜令和7年4月＞		博士 （理学）		総合教養※		1前	0.2	1	大阪電気通信大学 共通教育機構数理 科学教育研究セン ター 教授 （平16.4）						大阪電気通信大学工学部電 気電子工学科 基（主専）
36	その他	准教授	アダチ ミキ 安達 未来 ＜令和7年4月＞		博士 （社会 学）		現代社会と青年の心理 現代社会を考える※ 日本語上達法1 日本語上達法2		1前 1前 1前 2前	2 0.3 2 2	1 1 1 1	大阪電気通信大学 共通教育機構人間 科学教育研究セン ター 准教授 （平30.4）						
37	その他	准教授	オオニ（ミヅギ）リコ 大西（宮崎）理恵子 ＜令和7年10月＞		修士 （心理 学）		心理学 精神医学		1後 3後	2 2	1 1	大阪電気通信大学 総合学生支援セン ター 特任准教授 （平30.4）						

教 員 の 氏 名 等																		
（健康情報学部健康情報学科）																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組 織（他の大学等に置かれる 学部等を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
38	その他	准教授	サカグチ マサヒコ 阪口 昌彦 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)		データサイエンス基礎		2前	2	1	大阪電気通信大学 情報通信工学部情 報工学科 准教授 (令2.4)						大阪電気通信大学情報通信 工学部情報工学科 基（主専）
39	その他	准教授	タテモト シュウヨウ 立本 秀洋 ＜令和7年4月＞		修士 (文学)		総合教養※ Core English 1 Core English 2 Core English 3 Core English 4 Practical English 1 Practical English 2		1前 1前 1後 1前 1後 2前 2後	0.2 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学 共通教育機構英語 教育研究センター 准教授 (平18.4)						
40	その他	准教授	ヌマタ サトシ 沼田 哲史 ＜令和7年4月＞		博士 (情報科 学)		AI・データサイエンス入門※		1前	0.2	1	大阪電気通信大学 総合情報学部デジ タルゲーム学科 准教授 (平17.4)						大阪電気通信大学総合情報 学部デジタルゲーム学科 基（主専）
41	その他	准教授	マツダ マミ 松田 真美 ＜令和7年4月＞		博士 (理学)		基礎解析1演習 基礎解析2演習 線形代数 微分方程式 解析学		1前 1後 1後 2後 3前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	大阪電気通信大学 共通教育機構数理 科学教育研究セン ター 特任准教授 (令元.4)						
42	その他	准教授	ミナミツ ヨシヒロ 南津 佳宏 ＜令和7年4月＞		修士 (学術)		総合教養※ Core English 3 Core English 4		1前 1前 1後	0.2 1 1	1 1 1	大阪電気通信大学 共通教育機構英語 教育研究センター 准教授 (平29.4)						大阪電気通信大学総合情報 学部情報学科 基（専）
43	その他	准教授	ムラキ ユウヤ 村木 有也 ＜令和7年4月＞		修士 (体育 学) ※		総合教養※ 現代社会を考える※ スポーツバイオメカニクス スポーツ方法実習（陸上競技） スポーツ方法実習（冬季スポーツ）		1前 1前 2前 1後 3後	0.3 0.5 2 1 1	1 1 1 1 1	大阪電気通信大学 共通教育機構人間 科学教育研究セン ター 准教授 (平22.4)						
44	その他	准教授	モリ ヨシタツ 森 善龍 ＜令和7年4月＞		学士 (情報 学)		総合教養※		1前	0.3	1	大阪電気通信大学 総合情報学部デジ タルゲーム学科 准教授 (令元.4)						大阪電気通信大学総合情報 学部デジタルゲーム学科 基（主専）
45	その他	講師	オオムラ モトマサ 大村 基将 ＜令和7年4月＞		修士 (教育 学)		総合教養※ プログラミング基礎演習		1前 1後	0.2 2	1 1	大阪電気通信大 学共通教育機構人 間科学教育研究セ ンター 特任講師 (平27..4)						大阪電気通信大学工学部機 械工学科 基（主専）

教 員 の 氏 名 等																		
(健康情報学部健康情報学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組 織（他の大学等に置かれる 学部等を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
46	その他	講師	マツムラ カズノリ 松村 一徳 ＜令和7年4月＞		修士 (教育学)		総合ゼミナール 日本語上達法Ⅰ 日本語上達法2		Ⅰ前 Ⅰ前 2前	2 2 2	Ⅰ Ⅰ Ⅰ	大阪電気通信大学 共通教育機構人間 科学教育研究セン ター 特任講師 (令2.9)						大阪電気通信大学工学部電 気電子工学科 基（専）
47	その他	講師	モリタ コウジ 森田 浩司 ＜令和8年4月＞		学士 (情報 学)		eスポーツ科学概論※ eスポーツ科学演習※ スポーツ方法実習（eスポーツ）		3前 3前 2前	0.4 0.7 Ⅰ	Ⅰ Ⅰ Ⅰ	大阪電気通信大学 総合情報学部ゲー ム&メディア学科 特任講師 (令3.3)						大阪電気通信大学総合情報 学部ゲーム&メディア学科 基（主専）
48	その他	講師	イグチ シンイチ 井口 新一 ＜令和9年4月＞		学士 (工学)		医用機器安全管理学実習 生体機能代行装置学実習		3前 3後	2 2	Ⅰ Ⅰ	医療法人匠仁会 武田総合病院 臨床工学科 係長 (平18.4)						
49	その他	講師	イケダ コウジ 池田 耕二 ＜令和10年4月＞		博士 (工学)		臨床理学療法学探究※		4前	0.6	Ⅰ	奈良学園大学 保 健医療学部リハビ リテーション学科 理学療法学専攻 教授 (令元.4)						
50	その他	講師	イトウ リョウ 伊藤 僚 ＜令和9年10月＞		博士 (体育 学)		スポーツ方法実習（冬季スポーツ）		3後	Ⅰ	Ⅰ	大同大学情報学部 総合情報学科 准教授 (平29.4)						
51	その他	講師	ウラタ タツヤ 浦田 達也 ＜令和7年4月＞		修士（ス ポーツ 科学） ※		健康スポーツ科学実習 スポーツ教育学基礎演習Ⅰ スポーツ教育学基礎演習2 スポーツ教育学応用演習※ スポーツ方法実習（ベースボール型球技）	○	2後 2後 3前 3通 Ⅰ前	Ⅰ Ⅰ Ⅰ 0.3 Ⅰ	Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ	関西学院大学 人間福祉学部 准教授 (令和4.4)						
52	その他	講師	オオスガ ノボル 大須賀 昇 ＜令和7年4月＞		博士 (理学)		基礎解析学Ⅰ演習 基礎解析学2演習		Ⅰ前 Ⅰ後	2 2	Ⅰ Ⅰ	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平24.4)						
53	その他	講師	オカザキ ヒロヤ 岡崎 浩也 ＜令和9年4月＞		修士 (工学)		医療情報システム※		3前	0.9	Ⅰ	公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院 (平26.10)						
54	その他	講師	オカムラ カズアキ 岡村 和明 ＜令和8年4月＞		学士 (社会 学)		理学療法関係法規※		2前	1.8	Ⅰ	セオリツ社会保険 労務士事務所 (平29.9)						
55	その他	講師	オクノ タカヒロ 奥野 高裕 ＜令和8年10月＞		博士 (医学)		病理学※		2後	0.7	Ⅰ	社会医療法人景岳 会南大阪病院 病理診断科 医長 (令4.4)						
56	その他	講師	オダ ナオヒサ 小田 直寿 ＜令和7年10月＞		博士 (文学)		大阪の文化と歴史※ 日本の近代史		Ⅰ後 Ⅰ後	0.5 2	Ⅰ Ⅰ	大阪市史料調査会 調査員 (平31.12)						

教 員 の 氏 名 等																		
(健康情報学部健康情報学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組 織（他の大学等に置かれる 学部等を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
57	その他	講師	カジ マサノリ 梶 将徳 ＜令和8年4月＞		博士 (ス ポーツ 科学)		体育・スポーツ原理		2前	2	1	東京女子体育大 学・短期大学 助教 (令5.4)						
58	その他	講師	カシモト ヨシカズ 榎本喜一 ＜令和7年4月＞		博士(人 間科学)		歴史学の世界		1前	2	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (令4.4)						
59	その他	講師	カトウ トモヤ 加藤 智也 ＜令和7年10月＞		博士 (文学)		ヨーロッパの言語と文化		1後	2	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (令4.4)						
60	その他	講師	カワカミ リョウ 川上 諒 ＜令和8年4月＞		修士 (ス ポーツ 科学)		スポーツ方法実習(ネット型球技2)		2前	1	1	国立大学法人大阪 大学大学院医学系 研究科医学専攻 特任研究員 (令3.4)						
61	その他	講師	カワニシ ヒデアキ 川西 秀明 ＜令和9年4月＞		博士 (医 学)		チーム医療概論		3前	1	1	奈良県立医科大学 麻酔科学教室 助教 (令2.10)						
							医用機器安全管理学実習		3前	2	1							
							生体機能代行装置学実習		3後	2	1							
62	その他	講師	キン マサヨシ 金 昌吉 ＜令和8年4月＞		文学博 士(中 国)		中国語1 中国語2 中国語3 中国語4		2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (令4.4)						
63	その他	講師	クボ ヒロヤス 久保 大安 ＜令和9年4月＞		準学士 (能率)		医用機器安全管理学実習 生体機能代行装置学実習		3前 3後	2 2	1 1	京都大学附属病院 (平14.9)						
64	その他	講師	コテラ タカシ 小寺 隆志 ＜令和7年10月＞		学士 (体育科 学)		生涯スポーツ論 体育・スポーツ社会学 スポーツマネジメント論 スポーツビジネス論		1後 2後 3前 4前	1 2 2 2	1 1 1 1	公益財団法人 神戸YMCA (平9.6)						
65	その他	講師	コンドウ トモユウ 近藤 智勇 ＜令和9年4月＞		学士 (工学)		医用機器安全管理学実習 生体機能代行装置学実習		3前 3後	2 2	1 1	国立循環器病研究 センター 臨床工学部 (平29.4)						
66	その他	講師	コンドウ ユカコ 近藤 由佳子 ＜令和9年10月＞		学士 (看護 学)		学校保健		3後	2	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (令6.4)						
67	その他	講師	ゴンノ メグミ 権野めぐみ ＜令和8年10月＞		博士 (学 術)		スポーツ方法実習(ダンス)		2後	1	1	名古屋女子大学 児童教育学部 助教 (令6.4)						
68	その他	講師	サキムラ チカネ 向村 九音 ＜令和7年10月＞		博士 (文学)		大阪の文化と歴史※		1後	0.8	1	日本学術振興会特 別研究員(PD) (令2.4)						
69	その他	講師	サトウ マサフミ 佐藤 真史 ＜令和8年4月＞		修士 (教育 学)		野外活動		2前	2	1	特定非営利活動法 人ナック (平成16.4)						

教 員 の 氏 名 等																		
(健康情報学部健康情報学科)																		
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 （千円）	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 （就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組 織（他の大学等に置かれる 学部等を含む）での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
70	その他	講師	シマモト ヨシマサ 島本 佳昌 ＜令和8年10月＞		博士 （工 学）		確率・統計 薬理学		2後 3前	2 1	1 1	姫路医療専門学校 臨床工学士科 教員 （令5.4）						
71	その他	講師	センザキ カズマ 千崎 和真 ＜令和7年4月＞		修士 （保健 学）		生涯スポーツ実習A 生涯スポーツ実習B		1前 1後	1 1	1 1	合同会社 Thousandedge 代表社員 （令6.1）						
72	その他	講師	タナカ クニヒコ 田中 邦彦 ＜令和7年4月＞		修士 （教育 学）		トレーニング論 スポーツトレーニング実習		1前 2前	2 1	1 1	大阪リゾート&ス ポーツ専門学校 専任講師 （平14.4）						
73	その他	講師	タナカ マキ 田中 真紀 ＜令和8年10月＞		修士 （教育 学）		スポーツ・レクリエーション実習		2後	1	1	京都橋大学 発達教育学部児童 教育学科 特任教授 （令5.4）						
74	その他	講師	ツジ リュウノスケ 辻 竜之介 ＜令和8年4月＞		博士 （工 学）		電気電子工学実験 医用工学特別演習※		2前 4後	2 0.5	1 1	大阪医専 教務部臨床工学科 教員 （平18.4）						
75	その他	講師	ドイ マサキ 土井 昌樹 ＜令和9年4月＞		学士 （工学）		医用機器安全管理学実習 生体機能代行装置学実習		3前 3後	2 2	1 1	独立行政法人地域 医療機能推進機構 星ヶ丘医療セン ター （平26.4）						
76	その他	講師	トクマル トモヒロ 得丸 智弘 ＜令和9年10月＞		博士 （医 学）		臨床外科学総論※		3後	1.7	1	バイオシグナル株 式会社 代表取締役社長 （平24.4）						
77	その他	講師	トミダ ナルミ 富田 成美 ＜令和7年10月＞		修士 （文学）		文学の世界		1後	2	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 （平15.9）						
78	その他	講師	トミタカ トモナリ 富高 智成 ＜令和7年4月＞		修士 （文学）		コミュニケーション論		1前	2	1	京都医療科学大学 医療科学部放射線 技術学科 講師 （平24.4）						
79	その他	講師	ナカガワ ヨウイチ 中川 洋一 ＜令和7年10月＞		Doktor der Philoso phie （Ph.D. ） （独国）		政治学		1後	2	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 （令4.9）						
80	その他	講師	ナカヤマ タダヒコ 中山 忠彦 ＜令和9年10月＞		修士 （体育 学）		スポーツ方法実習（ゴール型球技）		3後	1	1	長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科 教授 （令4.4）						
81	その他	講師	ナカヤマ マサト 中山 雅斗 ＜令和8年10月＞		修士 （スポー ツ科学）		ゲーム分析実習		2後	1	1	大阪学院大学非常 勤嘱託職員 （令5.4）						

教 員 の 氏 名 等																		
(健康情報学部健康情報学科)																		
調書 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組 織(他の大学等に置かれる 学部等を含む)での基幹教 員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
82	その他	講師	ナルオ タケシ 鳴尾 丈司 ＜令和9年10月＞		博士 (工学)		スポーツ工学 スポーツシミュレーション		3後 4前	2 2	1 1	関西大学 先端科 学技術推進機構 特別任命教授 (令2.4)						
83	その他	講師	ハラダ ヤスヤ 原田 靖也 ＜令和7年4月＞		修士 (文学)※		Core English 1 Core English 2		1前 1後	1 1	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平24.4)						
84	その他	講師	ヒラマツ ミキオ 平松 幹雄 ＜令和8年4月＞		修士 (工 学)		プログラミング応用実習 基礎製図演習 製図・CAD実習 ヒト型ロボット製作実習 ヒト型ロボット制御実習 創造製作実習		2前 3前 3前 3前 3後 3後	2 2 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平23.6)						
85	その他	講師	フルタチ タカシ 古達 貴 ＜令和7年10月＞		修士 (教育 学)		スポーツ方法実習(ネット型球技1)		1後	1	1	千里金蘭大学 生活科学部児童教 育学科 助教 (平23.4)						
86	その他	講師	ホリ アキコ 堀 亜紀子 ＜令和7年10月＞		修士 (人間科 学)		ジェンダー論		1後	2	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平29.9)						
87	その他	講師	マキノ ヤスノリ 牧野 泰典 ＜令和7年4月＞		博士 (社会 学)		経済学の世界 企業社会と労働		1前 1後	2 2	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平22.4)						
88	その他	講師	マスダ ジュンイチ 増田 純一 ＜令和7年4月＞		修士(人 文科学) ※		Core English 1 Core English 2		1前 1後	1 1	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平21.4)						
89	その他	講師	マツヤマ ナオミチ 松山 尚道 ＜令和8年10月＞		修士 (体育 学)		体づくり運動と運動遊び		2後	1	1	天理大学 体育学部体育学科 准教授 (平30.4)						
90	その他	講師	ミカド サヤカ 三角 さやか ＜令和8年10月＞		修士 (健康 学)		スポーツ方法実習(水泳・水中運動)		2後	1	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (令5.4)						
91	その他	講師	ヤマグチ マサヒロ 山口 雅弘 ＜令和7年4月＞		博士 (理学)		基礎力学演習 基礎物理学		1前 1後	2 2	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平18.4)						
92	その他	講師	ヤマモト コウジ 山本 浩二 ＜令和8年4月＞		修士(学 校教育 学)		体育・スポーツ心理学 スポーツ方法実習(武道)		2前 2前	2 1	1 1	関西福祉大学 教育学部 保健教育学科 教授 (令5.4)						
93	その他	講師	ヨシムラ トモヒロ 吉村 智博 ＜令和7年10月＞		博士 (創造都 市)		大阪の文化と歴史※		1後	0.8	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (令4.4)						

1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	7 人	2 人	3 人	人	12 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	1 人	人	1 人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	1 人	2 人	人	人	人	3 人	
	修 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	学 士	人	人	1 人	人	1 人	人	人	2 人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	1 人	1 人	人	人	人	人	2 人	
	修 士	人	2 人	人	人	人	人	人	2 人	
	学 士	人	1 人	人	人	人	人	人	1 人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。

2 この書類は、基幹教員についてのみ作成すること。

3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。

4 「基幹教員の年齢構成・学位保有状況」欄の「基幹教員」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合、「専任教員」と読み替えること。

5 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。